

香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第5冊

西末則遺跡 V

—第2分冊—

2015. 3

香川県教育委員会



F 地区 遺構出土の弥生土器



J地区 STj01 出土遺物



J地区 SP115 出土遺物



J地区 SDj74 出土遺物

例 言

1. 本報告書は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告の第5冊で、香川県綾歌郡綾川町に所在する西末則遺跡（にしすえのりいせき）の調査成果を収録した。
2. 発掘調査は、香川県農林水産部（当時）から依頼を受けて、香川県教育委員会事務局文化行政課（現在 生涯学習・文化財課）が調査主体となり、現地調査は平成14・15年度は財団法人香川県埋蔵文化財調査センターが、平成16・17年度は香川県埋蔵文化財センターが調査担当者として実施した。
3. 発掘調査の担当は以下のとおりである。
 - 平成14年度担当 C調査区：木下晴一、石原徹也、武井美和
D調査区：西村尋文、川原和生、角田三保
E調査区：柏 徹哉、小野秀幸、飯間俊行
 - 平成15年度担当 F調査区：蔵本晋司、柏 徹哉、武井美和
 - 平成16年度担当 E調査区：北山健一郎、佐々木和裕、武井美和
J調査区：蔵本晋司、松井和久、平尾勝洋
 - 平成17年度担当 E調査区：福家正人、長井博志、森 麻子
4. 調査にあたっては、下記の関係諸機関の協力を得た。記して謝意を表したい（順不同、敬称略）。
香川県農政水産部農業経営課、地元自治会、地元水利組合
5. 本報告書の作成は、香川県埋蔵文化財センターが実施した。
6. 本書の整理作業及び執筆は以下の分担で実施した。
C調査区：木下晴一 D・E調査区：西村尋文 J・F調査区：小野秀幸
編集は森格也・西村尋文が担当した。
なお、第Ⅷ章第3節では、元香川県埋蔵文化財センターの調査担当で、現在高松市立川添小学校教諭、柏徹哉氏に寄稿していただいた。
7. 本報告書で用いる方位の北は、国土座標第Ⅵ系（世界測地系）の北であり、標高は東京湾平均海面（T. P.）を基準としている。
8. 本書で用いている遺構記号は次のとおりである。
SH：竪穴建物 SB：掘立柱建物 SA：柵列 SP：柱穴 SK：土坑 SF：窯跡 ST：墓 SD：溝状遺構 SX：不整形遺構 SR：自然河川
9. 報告遺構名は、以下の方法で再整理を行った。
発掘調査時は「調査区」単位で、遺構の種別ごとに「01」からはじまる通し番号を付した。報告の際には同じ番号が重複するため、調査区や整理年度で異なる小文字のアルファベットの「整理区画記号」を、遺構記号と遺構番号の中間に付すことで、固有の報告遺構名を表すことにした。
例) ●区検出のSB01（検出時遺構名）→SBe01（報告遺構名）
10. 挿図の一部に国土交通省国土地理院作成の1／25,000地形図を使用した。
11. 遺物観察表中の色調は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色標監修『新版標準土色帖1997年度版』による。
12. 本遺跡の報告にあたっては、下記の機関に土器実測と写真撮影を委託した。
土器実測・デジタルトレース……………（株）アコード
遺物写真撮影……………岡村印刷工業株式会社

本文目次

第2分冊

第VI章 J調査区の調査

第1節 概要・基本層位……………(小野) 1

第2節 J調査区の遺構・遺物……………(小野) 13

第VII章 F調査区の調査

第1節 概要・基本層位……………(小野) 169

第2節 F調査区の遺構・遺物……………(小野) 169

第VIII章 まとめ

第1節 C調査区の歴史の変遷……………(木下) 197

第2節 D・E調査区の歴史の変遷……………(西村) 200

第3節 周辺水利調査と西末則遺跡検出中世居館について……………(柏) 211

第1分冊

第I章 調査の経緯と経過

第1節 発掘調査の経過……………(西村) 1

第2節 整理作業の経過……………(西村) 4

第II章 調査の方法

第1節 発掘調査の方法……………(西村) 6

第2節 整理作業の方法……………(西村) 9

第III章 C調査区の調査

第1節 C調査区の概要・基本層位……………(木下) 11

第2節 C調査区の遺構・遺物……………(木下) 15

第IV章 D調査区の調査

第1節 D調査区の概要・基本層位……………(西村) 49

第2節 D調査区の遺構・遺物……………(西村) 55

1.C13・D15S・D12地区

2.E15・E14・E13・F12地区

第V章 E調査区の調査

第1節 E調査区の概要・基本層位……………(西村) 150

第2節 E調査区の遺構・遺物……………(西村) 152

插图目次

第1図	遺跡位置図	1
第2図	グリッド割図	2
第3図	年度別地区割図	3
第4図	調査区割図	4
第5図	J区西壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	5
第6図	J区西壁土層断面図2 (縦1/40・横1/80)	6
第7図	J区南壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	7
第8図	J区南壁土層断面図2 (縦1/40・横1/80)	8
第9図	J区東壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)	9
第10図	J区東壁2、東拡張区北壁土層断面図 (縦1/40・横1/80)	10
第11図	J調査区遺構配置図	11・12
第12図	SBj01平・断面図 (1/60)	13
第13図	SBj02平・断面図 (1/60)	14
第14図	SBj03平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	15
第15図	SBj04平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	16
第16図	SBj05平・断面図 (1/60)	17
第17図	SBj06平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	18
第18図	SBj07平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	19
第19図	SBj08平・断面図 (1/60)、出土遺物1 (1/4)	20
第20図	SBj08出土遺物2 (1/4)	21
第21図	SBj09平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	22
第22図	SBj10平・断面図 (1/60)	23
第23図	SBj11平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	24
第24図	SBj12平・断面図 (1/60)	25
第25図	SBj13平・断面図 (1/60)	26
第26図	SBj13出土遺物 (1/4)	27
第27図	SBj14平・断面図 (1/40)	28
第28図	SBj15平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	29
第29図	SBj16平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	30
第30図	SBj17平・断面図 (1/60)	31
第31図	SBj18平・断面図 (1/60)	32
第32図	SBj19平・断面図 (1/60)	33
第33図	SBj19出土遺物 (1/4・1/2)	34
第34図	SBj20平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	35
第35図	SBj21平・断面図 (1/60)	36
第36図	SBj22平・断面図 (1/60)	36
第37図	SBj23平・断面図 (1/60)	37
第38図	SBj24平・断面図 (1/60)	38
第39図	SBj25平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	39
第40図	SBj26平・断面図 (1/60)	40
第41図	SBj27平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/2)	41
第42図	SBj28平・断面図 (1/60)	42
第43図	SBj28出土遺物 (1/4・1/2)	43
第44図	SBj29平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	44
第45図	SBj30平・断面図 (1/60)	45
第46図	SBj31平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	46
第47図	SBj32平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	47
第48図	SBj33平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	48
第49図	SBj34平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	49
第50図	SBj36平・断面図 (1/60)	50
第51図	SBj37平・断面図 (1/60)	51
第52図	SBj38平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	52
第53図	SBj39平・断面図 (1/60)	53
第54図	SBj40平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	54
第55図	SBj41平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	55
第56図	SBj42平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	56
第57図	SBj43平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	57
第58図	SBj44平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)	58
第59図	SBj45平・断面図 (1/60)	59
第60図	SAj01平・断面図 (1/80)	60
第61図	SP出土遺物1 (1/4)	61
第62図	SP出土遺物2 (1/4・1/2)	62
第63図	SP出土遺物3 (1/4・1/2)	63
第64図	SP出土遺物4 (1/4・1/2)	64
第65図	SP出土遺物5 (1/4)	65
第66図	SKj01・02平・断面図 (1/40)	66
第67図	SKj03・04平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	67
第68図	SKj05平・断面図 (1/40)	67
第69図	SKj06・07平・断面図 (1/40)	68
第70図	SKj09・10平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	69
第71図	SKj11・12平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4)	70
第72図	SKj13・16平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	71
第73図	SKj17・19平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	72
第74図	SKj24・25平・断面図 (1/40)	73
第75図	SKj35・40平・断面図 (1/40)	74
第76図	SKj42平・断面図 (1/40)	74
第77図	SKj44・45平・断面図 (1/40)	75
第78図	SKj47・48平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	76
第79図	SKj49・50平・断面図 (1/40)	77
第80図	SKj51・53平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	78
第81図	SKj54・55平・断面図 (1/40)	79
第82図	SKj58平・断面図 (1/40)	79
第83図	SKj59平・断面図 (1/40)	80
第84図	SKj60・61平・断面図 (1/20)、 出土遺物 (1/4)	81
第85図	SKj62平・断面図 (1/40)	82
第86図	SKj64・65平・断面図 (1/20・1/40)、 出土遺物 (1/4)	83
第87図	SKj66・67平・断面図 (1/40)	84
第88図	SKj68・69平・断面図 (1/40)	84
第89図	SKj71・72平・断面図 (1/40)	85
第90図	SKj78平・断面図 (1/40)	86
第91図	SKj79・81平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	86
第92図	SKj82・83平・断面図 (1/40)	87
第93図	SKj86平・断面図 (1/40)	88
第94図	SKj87・88平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	88
第95図	SKj89・90平・断面図 (1/40)	89
第96図	SKj91・92平・断面図 (1/40)	90
第97図	SKj98・99平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	91
第98図	SKj100平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	91
第99図	SKj101・102平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4)	92

第 100 图	SKj103 · 104 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	93	第 141 图	SDj29 · 30 断面图 (1/20 · 1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	130
第 101 图	SKj105 · 106 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	94	第 142 图	SDj31 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/2) ······	131
第 102 图	SKj107 ~ 109 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	95	第 143 图	SDj32 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	132
第 103 图	SKj110 · 112 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	96	第 144 图	SDj33 · 34 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	133
第 104 图	SKj113 · 114 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	97	第 145 图	SDj37 · 38 · 40 断面图 (1/40) ······	134
第 105 图	SKj115 · 117 平 · 断面图 (1/40) ······	98	第 146 图	SDj36 · 54 断面图 (1/40) ······	135
第 106 图	SKj118 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	98	第 147 图	SDj36 出土遺物 (1/2) ······	136
第 107 图	SKj120 · 122 平 · 断面图 (1/40) ······	99	第 148 图	SDj54 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······	137
第 108 图	SKj123 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	100	第 149 图	SDj35 · 39 断面图 (1/20) ······	138
第 109 图	SKj124 · 125 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	101	第 150 图	SDj43 · 45 断面图 (1/40 · 1/20) ······	139
第 110 图	SKj126 · 127 平 · 断面图 (1/40) ······	102	第 151 图	SDj47 断面图 (1/20) ······	139
第 111 图	SKj128 · 129 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	102	第 152 图	SDj49 · 51 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	139
第 112 图	SKj130 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	103	第 153 图	SDj52 断面图 (1/20) ······	140
第 113 图	STj01 平 · 断面图 (1/20)、 出土遺物 (1/4) ······	105	第 154 图	SDj53 · 62 断面图 (1/20) ······	140
第 114 图	STj01 出土遺物 2 (1/1) ······	106	第 155 图	SDj55 断面图 (1/40) ······	140
第 115 图	STj01 出土遺物 3 (1/2) ······	106	第 156 图	SDj57 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	141
第 116 图	STj02 平 · 断面图 (1/20)、 出土遺物 (1/4) ······	107	第 157 图	SDj58 · 61 断面图 (1/20 · 1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	142
第 117 图	STj03 平 · 断面图 (1/20) ······	109	第 158 图	SDj63 断面图 (1/20) ······	142
第 118 图	STj03 出土遺物 (1/2) ······	110	第 159 图	SDj64 · 66 断面图 (1/40 · 1/20)、 出土遺物 (1/4) ······	143
第 119 图	SFj01 平 · 断面图 (1/40) ······	111	第 160 图	SDj73 断面图 (1/40) ······	143
第 120 图	SFj02 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	111	第 161 图	SDj74 平 · 断面图 (1/40 · 1/80) ······	144
第 121 图	SFj03 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	112	第 162 图	SDj74 出土遺物 1 (1/4) ······	145
第 122 图	SFj04 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	113	第 163 图	SDj74 出土遺物 2 (1/4) ······	146
第 123 图	SEj01 平 · 断面图 (1/40) ······	114	第 164 图	SDj75 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	147
第 124 图	SEj02 上層平面图 (1/40) ······	115	第 165 图	SDj76 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	148
第 125 图	SEj02 下層平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	116	第 166 图	SDj77 ~ 79 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	149
第 126 图	SDj01 · 02 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	117	第 167 图	SDj81 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	150
第 127 图	SDj03 · 04 断面图 (1/20) ······	118	第 168 图	SDj82 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	151
第 128 图	SDj05 · 06 · 断面图 (1/20) ······	119	第 169 图	SDj84 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	152
第 129 图	SDj07 ~ 09 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	120	第 170 图	SDj87 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	152
第 130 图	SDj10 · 11 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	121	第 171 图	SDj88 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······	153
第 131 图	SDj12 断面图 (1/40) ······	121	第 172 图	SDj89 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	154
第 132 图	SDj16 断面图 (1/20)、出土遺物 (1/2) ······	122	第 173 图	SDj91 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	155
第 133 图	SDj18 · 19 断面图 (1/20 · 1/40) ······	123	第 174 图	SDj92 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	156
第 134 图	SDj20 断面图 (1/20)、出土遺物 (1/4) ······	123	第 175 图	SDj94 断面图 (1/20) ······	156
第 135 图	SDj22 · 23 断面图 (1/40) ······	124	第 176 图	SDj96 断面图 (1/20)、出土遺物 (1/4) ······	156
第 136 图	SDj27 断面图 (1/40) ······	125	第 177 图	SDj100 断面图 (1/40)、出土遺物 (1/4) ······	157
第 137 图	SDj27 出土遺物 1 (1/4 · 1/2) ······	126	第 178 图	SDj102 断面图 (1/20)、 SDj107 出土遺物 (1/2) ······	157
第 138 图	SDj27 出土遺物 2 (1/4) ······	127	第 179 图	SDjJ812 · 884 出土遺物 (1/4) ······	158
第 139 图	SDj27 出土遺物 3 (1/2) ······	128	第 180 图	SRj01 断面图 (1/40) ······	159
第 140 图	SDj28 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······	129	第 181 图	SRj01 出土遺物 (1/4 · 1/2) ······	159
			第 182 图	SXj06 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	160
			第 183 图	SXj07 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	161
			第 184 图	SXj08 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	161
			第 185 图	SXj15 出土遺物 (1/4) ······	162
			第 186 图	SXj23 平 · 断面图 (1/40)、 出土遺物 (1/4) ······	162
			第 187 图	SXj24 周辺平 · 断面图 (1/40 · 1/100)、	

出土遺物 (1/4).....	163
第 188 図 SXj28 出土遺物 (1/2).....	164
第 189 図 SXj30・36 平・断面図 (1/40)、 出土遺物 (1/4).....	164
第 190 図 中央溝群出土遺物 (1/4).....	165
第 191 図 包含層出土遺物 1 (1/4).....	165
第 192 図 包含層出土遺物 2 (1/4).....	166
第 193 図 F 調査区遺構配置図.....	167・168
第 194 図 SDr01・02 出土遺物.....	170
第 195 図 SRr02 出土遺物.....	171
第 196 図 SRr03 出土遺物.....	173
第 197 図 SXr01 出土遺物.....	174
第 198 図 SXr02 出土遺物.....	175
第 199 図 SXr05・06・07・09 出土遺物.....	177
第 200 図 SXr14・17 出土遺物.....	179
第 201 図 SXr21 平・断面図、出土遺物.....	180
第 202 図 SXr11 出土遺物.....	182
第 203 図 SKr01 平・断面図.....	186
第 204 図 SDr04 断面図.....	187

第 205 図 SDr04 出土遺物 (1).....	188
第 206 図 SDr04 出土遺物 (2).....	189
第 207 図 SBr01 平・断面図.....	191
第 208 図 SBr02 平・断面図.....	192
第 209 図 SBr03 平・断面図.....	193
第 210 図 SBr04 平・断面図.....	194
第 211 図 SBr05 平・断面図.....	195
第 212 図 包含層出土遺物.....	196
第 213 図 年代別配置図.....	198
第 214 図 年代別配置図.....	201・202
第 215 図 年代別配置図.....	203・204
第 216 図 西末則遺跡周辺条里型地割復元図.....	205
第 217 図 発掘調査前の用水配置 (筆者の調査による).....	214
第 218 図 周辺水利.....	215
第 219 図 弥生時代後期の用水.....	216
第 220 図 古代の用水.....	217
第 221 図 中世前半の用水.....	218
第 222 図 中世後半の用水.....	219

図版目次

巻頭図版 1	F 地区 遺構出土の弥生土器
巻頭図版 2	J 地区 STj01 出土遺物
巻頭図版 3	J 地区 SP115 出土遺物
巻頭図版 4	J 地区 SDj74 出土遺物
図版 1	J2 区全景 南から J3 区・J7 区全景 南から
図版 2	J3 区・J7 区全景 西から
図版 3	J4 区全景 南から J7 区 STj01 南東部土層 東から
図版 4	J7 区 STj01 南東部北壁土層 南から
図版 5	J7 区 STj01 北西部東壁土層 西から J7 区 STj01 北西部南壁土層 北から
図版 6	J7 区 STj01 木棺検出状況 西から J7 区 STj01 人骨出土状況 南から
図版 7	J7 区 STj01 棺内完掘状況 南から J7 区 STj02 全景 西から
図版 8	J7 区 STj02 全景 東から J7 区 STj02 木棺検出状況 北から
図版 9	J7 区 STj02 棺内完掘状況 北から J2 区 STj03 棺内完掘状況 西から
図版 10	J7 区 SFj04A ブロック西壁土層 東から

J7 区 SFj04 中層遺物出土状況 南から	図版 11
J7 区 SFj04 下層炭層検出状況 南から J3 区 SXj24 下層(炭層)上面全景 南から	図版 12
17・25・28・29・36・38	図版 13
39・40・46・47・56・53	図版 14
54・62・67・94・101・118・132	図版 15
137・152・154・157・168・187・205・208	図版 16
224・225・228・230・231・234・235・238	図版 17
236・237・252・254・257	図版 18
258・261・265・267・269・272・305・306	図版 19
307・308・386・421・446・451・455・467	図版 20
499・503・510・523・512・525・528	図版 21
530・532・542・546・559・552・553・554・564	図版 22
565・566・599・603・605・606・609・622	図版 23
349・383・219・418・327・391	図版 24
393・149・189・550・653	図版 25
調査区東壁土層 SRr02 部分 西から 調査区東壁北半土層 北西から	図版 26
SDr04 A-A' 断面 東から SDr04 B-B' 断面 東から	

図版 27

SKr01 断面 北西から
SKr01 断面 東から

図版 28

調査区西壁土層 SRr03 部分 東から
SXR05 遺物出土状況 西から

図版 29

SXR05 遺物出土状況 南から
SXR06 遺物出土状況 南から

図版 30

SXR07 断面 西から
SXR08 断面 南から

図版 31

SXR10 東西断面 南から
SXR02 B 断面 東から

図版 32

SXR13 断面 東から
SKr05 断面 東から

図版 33

SXR22 断面 東から
SDr02 C 断面 南西から

図版 34

SDr02 D 断面 北東から
34U・34T・33U グリッド全景 南西から

図版 35

調査区南部全景 北西から
調査区南部全景 南東から

図版 36

調査区北部全景 南東から
調査区南部全景 北東から

図版 37

調査区西壁土層 SDr01 部分 東から

図版 38

688・704・689・706・709・710・711

図版 39

712・713・715・717・718・687

図版 40

686・700・724・794・799

表目次

第1表 J4区出土鉄製品一覧 ……166

第2表 西末則遺跡C・D・E区掘立柱建物跡一覧 ……207

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(1)～(31)

第4表 西末則遺跡V出土石器観察表(1)～(3)

第5表 西末則遺跡V出土鉄器観察表

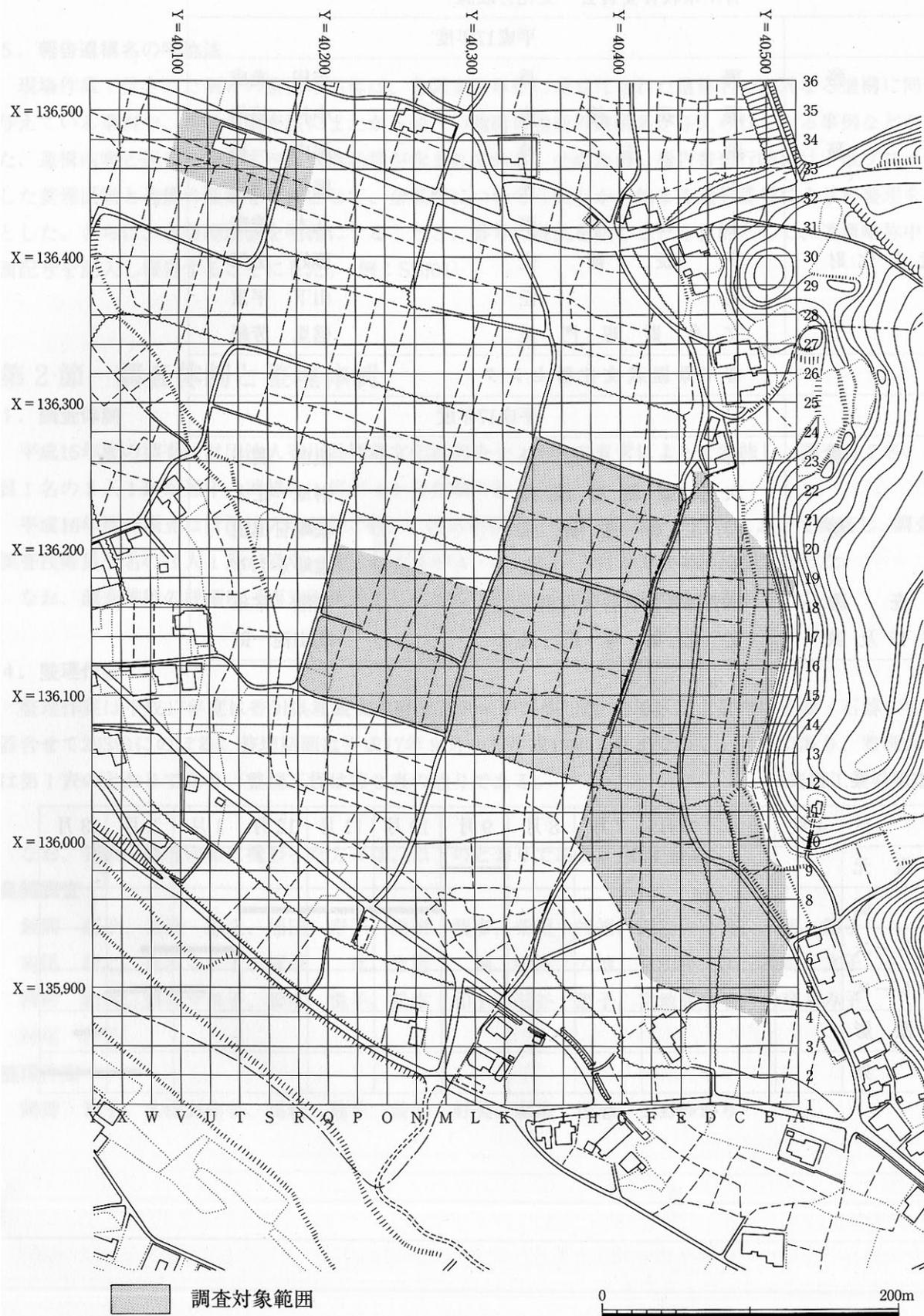
第6表 西末則遺跡V出土玉観察表

第7表 西末則遺跡V出土瓦観察表

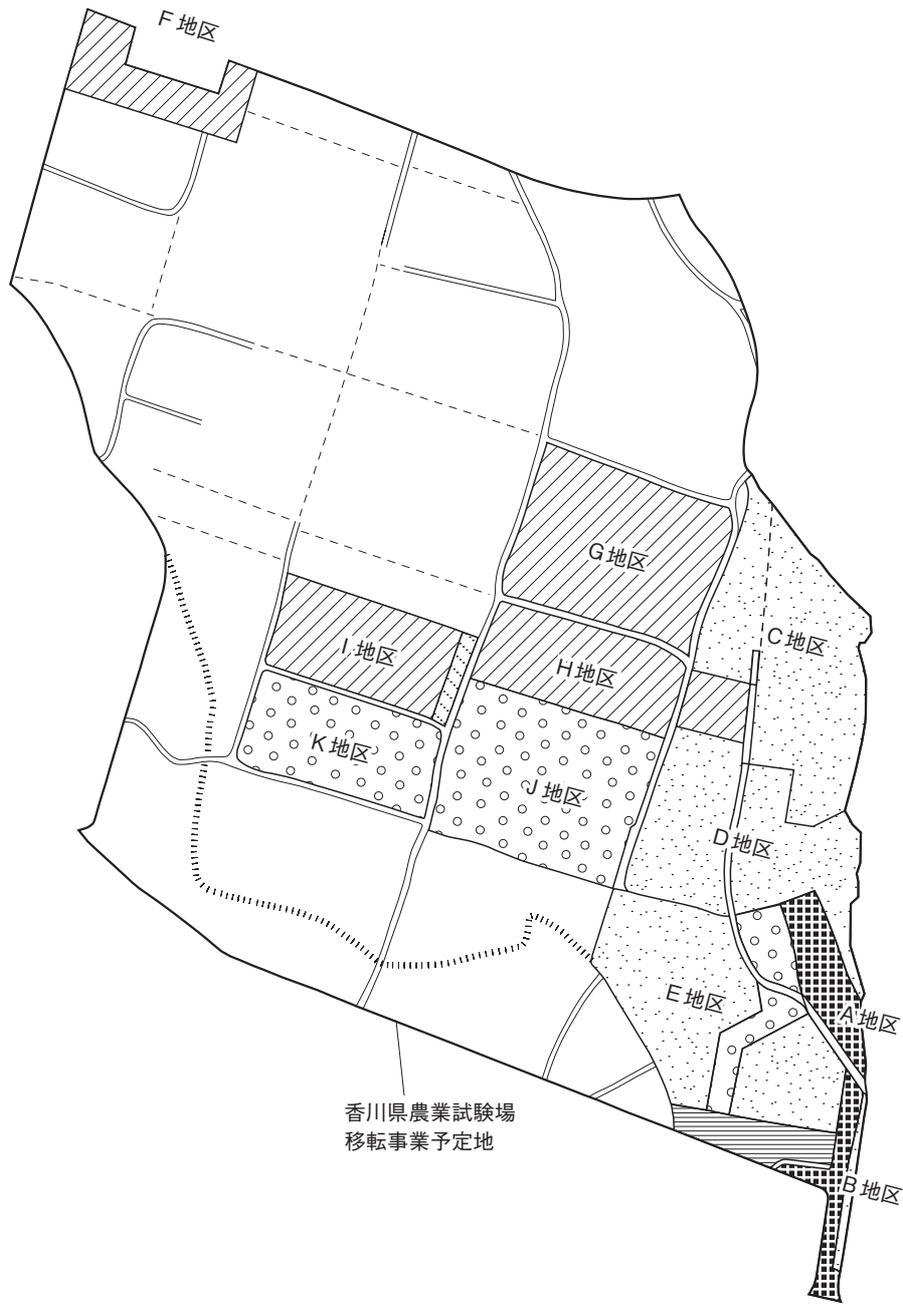
付図目次

付図1 西末則遺跡遺構配置図(J5・J6・J7・J8・J1・J2・J3・J4区)

付図2 西末則遺跡遺構配置図(R32区)

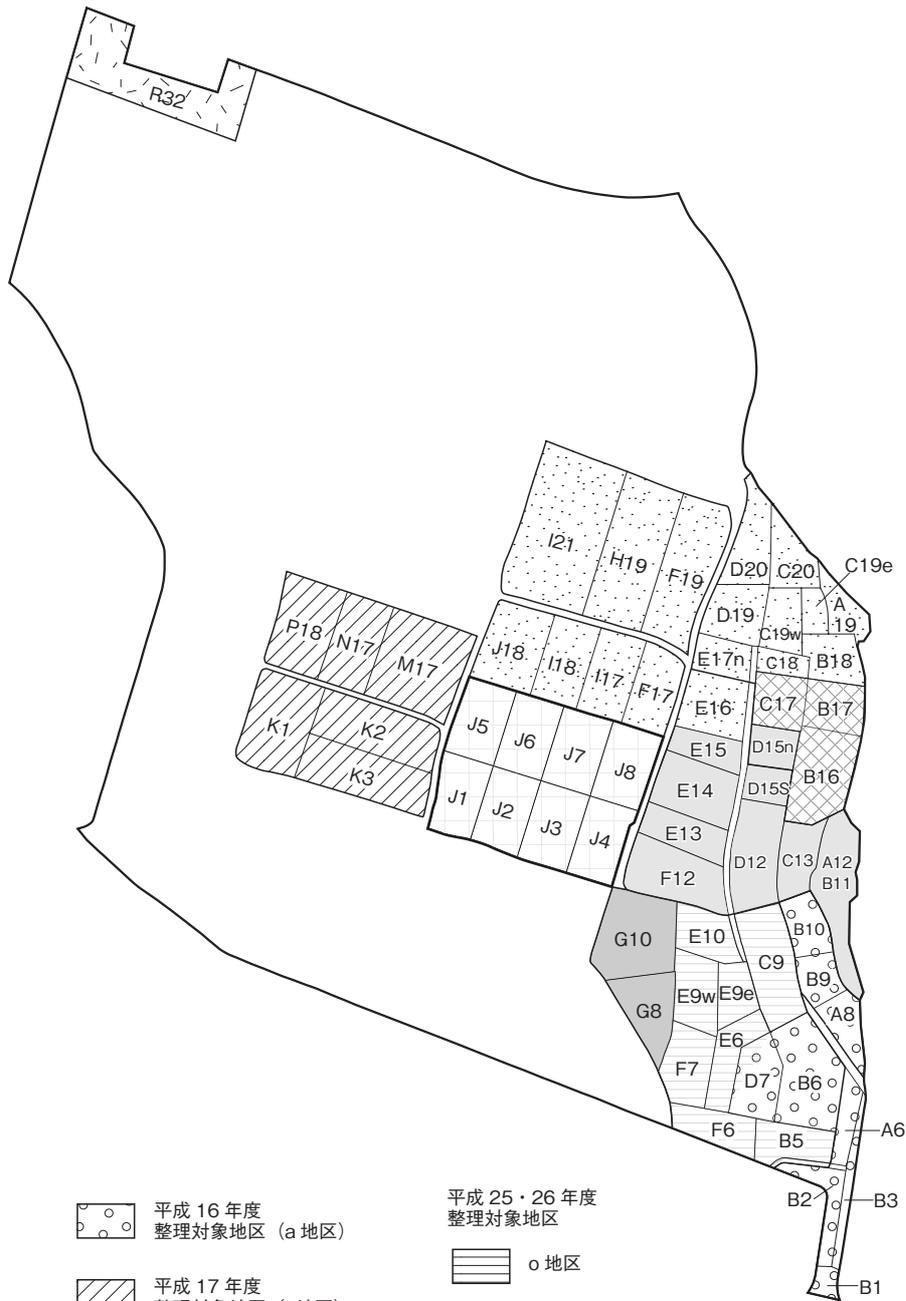


第2図 グリッド割図



- 平成 13 年度調査区
- 平成 14 年度調査区
- ▨ 平成 15 年度調査区
- 平成 16 年度調査区
- ▬ 平成 17 年以降の調査区

第3図 年度別地区割図

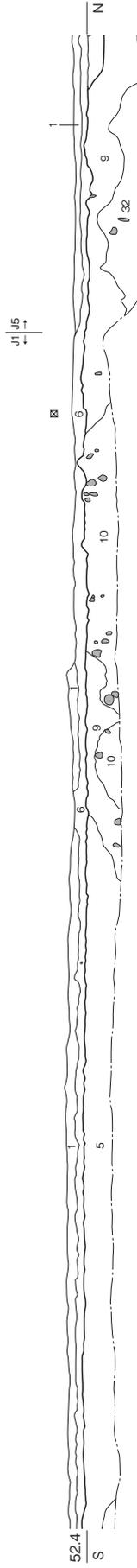
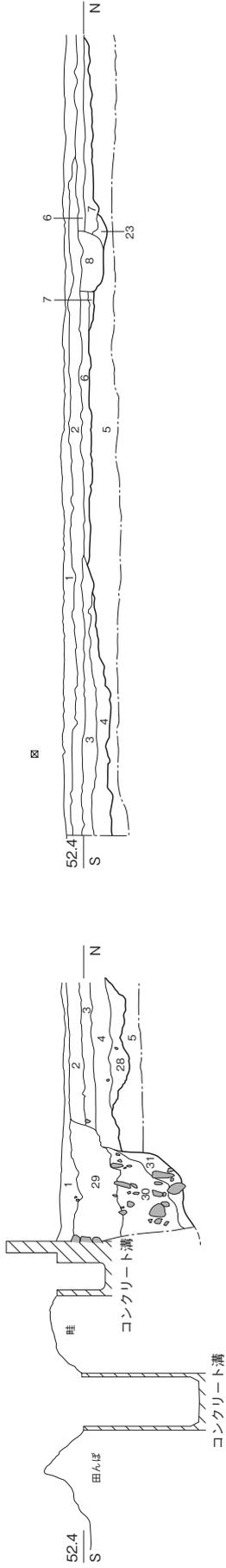


- | | | | |
|--|---------------------------|--|-----------------------|
| | 平成 16 年度
整理対象地区 (a 地区) | | 平成 25・26 年度
整理対象地区 |
| | 平成 17 年度
整理対象地区 (f 地区) | | o 地区 |
| | 平成 18 年度
整理対象地区 (d 地区) | | e 地区 |
| | 平成 24 年度
整理対象地区 (c 地区) | | b 地区 |
| | | | j 地区 |
| | | | r 地区 |

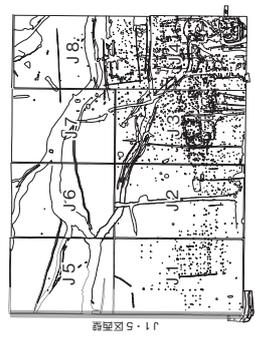
第 4 図 調査区割図

J1 南拵張区西壁

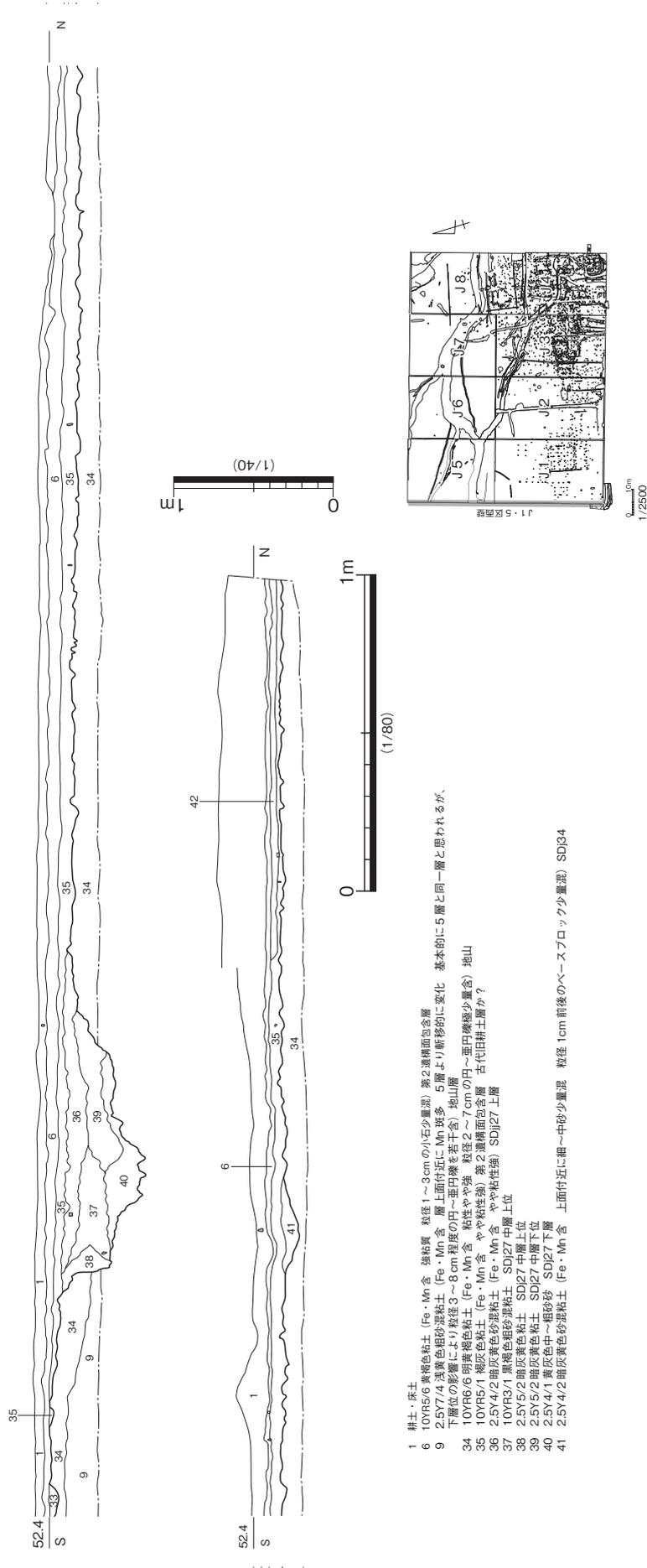
J1・J5西壁



- 1 耕土・床土
- 2 10YR7/1 灰白色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性 粒径 3cm 前後の小石混) SDJ01 上層 6層に近似
- 3 10YR7/8 黄褐色砂混粘土 (Fe・Mn 含 粒径 4cm 前後の小石混少量混) SDJ01 上層 3層よりやや砂多いが、流水下堆積を想像させるほどではない。
- 4 2.5Y7/2 灰黄色砂混粘土 (Fe・Mn 含 粒径 4cm 前後の小石混少量混) SDJ01 以下で灰味強くなる) 地山
- 5 10YR6/8 明黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 層上面付近に Mn 斑著 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面を含ま
- 6 10YR5/6 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘質 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面を含ま
- 7 2.5Y5/1 黄灰色砂混粘土 (Fe・Mn 含 粒径 1cm 前後の小石少量混) 第2遺構面を含ま
- 8 10YR6/1 褐灰色粘土 (Fe・Mn 含 ややシルト質 底面付近に粒径 2~6cm 前後の 5・9層のプロック土含)
- 9 人発的な埋戻しではなく墓面の崩落に伴う混入の可能性大 SDJ02 埋土 5層より断移的に変化 基本的に5層と同一層と思われるが、下層位の影響により粒径 3~8cm 程度の円~垂円礫を若干含) 地山層
- 10 2.5Y4/1 黄灰色粗砂 (わずかに粘性あり 粒径 3~7cm 程度の円~垂円礫少量混) 地山層
- 23 2.5Y6/1 黄灰色粗砂混粘土 (Fe・Mn 含 下面に厚 1cm 程度の粗砂混まる やや粘土強)
- 28 2.5Y7/3 淡黄色細~中砂質土 (Mn 含 粒径 3~4cm の小石少量含) SDJ31 埋土
- 29 攪乱
- 30 5Y5/1 灰色粘土 SDJ30 上層
- 31 5Y5/1 ~ 5Y4/1 灰色粘土 SDJ30 下層



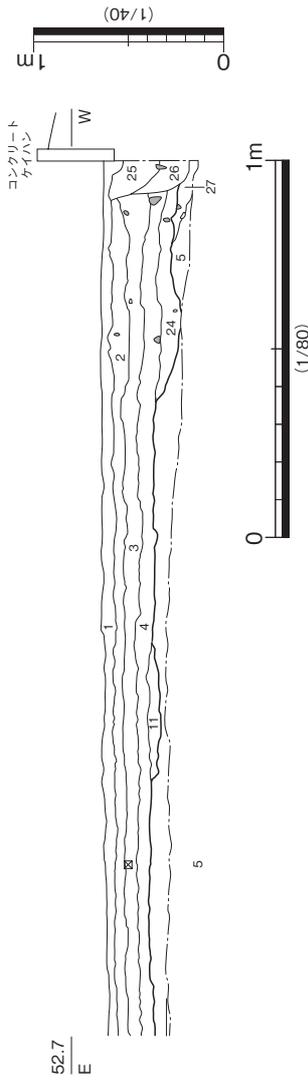
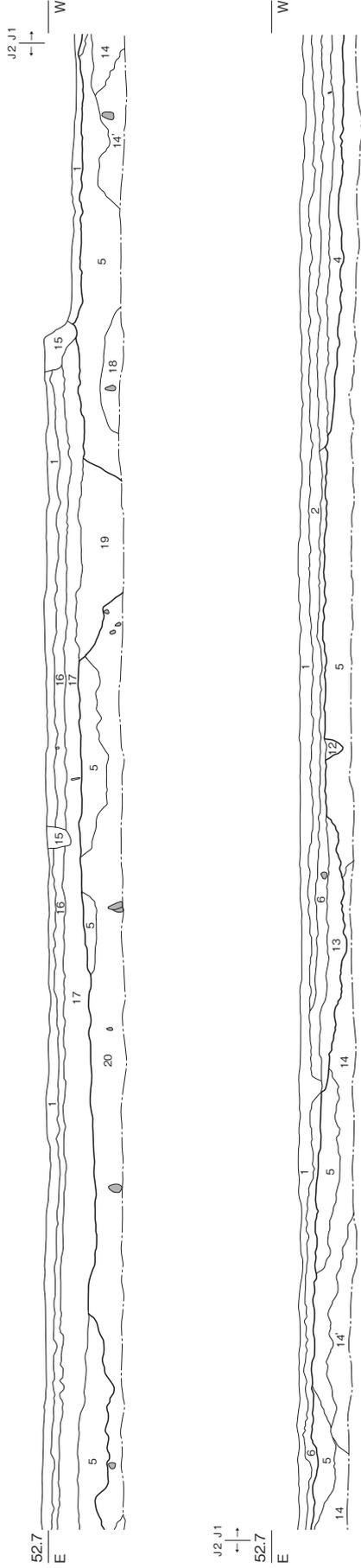
第5図 J区西壁土層断面図1 (縦 1/40・横 1/80)



- 1 粘土・灰土
- 6 10/R6/6 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含) 強粘質 縦径1~2cmの小石(少量混) 第2遺構面向急傾
- 9 2.5Y7/4 淡黄色粗砂混粘土 (Fe・Mn 含) 層上面付近に1m以内多、5層より断移的に変化 基本的に5層と同一層と思われるが、断面位の影響により縦径3~8cm程度の円形埋物(若干個)、地山層中(西田摩多少量含) 地山
- 34 10/R6/6 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含) 粘性や粘質 縦径2~7cmの中(西田摩多少量含) 地山
- 35 10/R6/7 褐色粘土 (Fe・Mn 含) や粘質強 第2遺構面向急傾
- 36 2.5Y4/2 暗灰黄色砂混粘土 (Fe・Mn 含) や粘質強 SDJ27 上層
- 37 10/R3/7 黄褐色粗砂混粘土 SDJ27 中層上位
- 38 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土 SDJ27 中層上位
- 39 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土 SDJ27 中層下位
- 40 2.5Y4/1 黄灰色中~粗砂 SDJ27 下層
- 41 2.5Y4/2 暗灰黄色砂混粘土 (Fe・Mn 含) 上面付近に細~中砂少量混 縦径1cm前後のベースブロック(少量混) SDJ34

第6図 J区西壁土層断面図2 (縦1/40・横1/80)

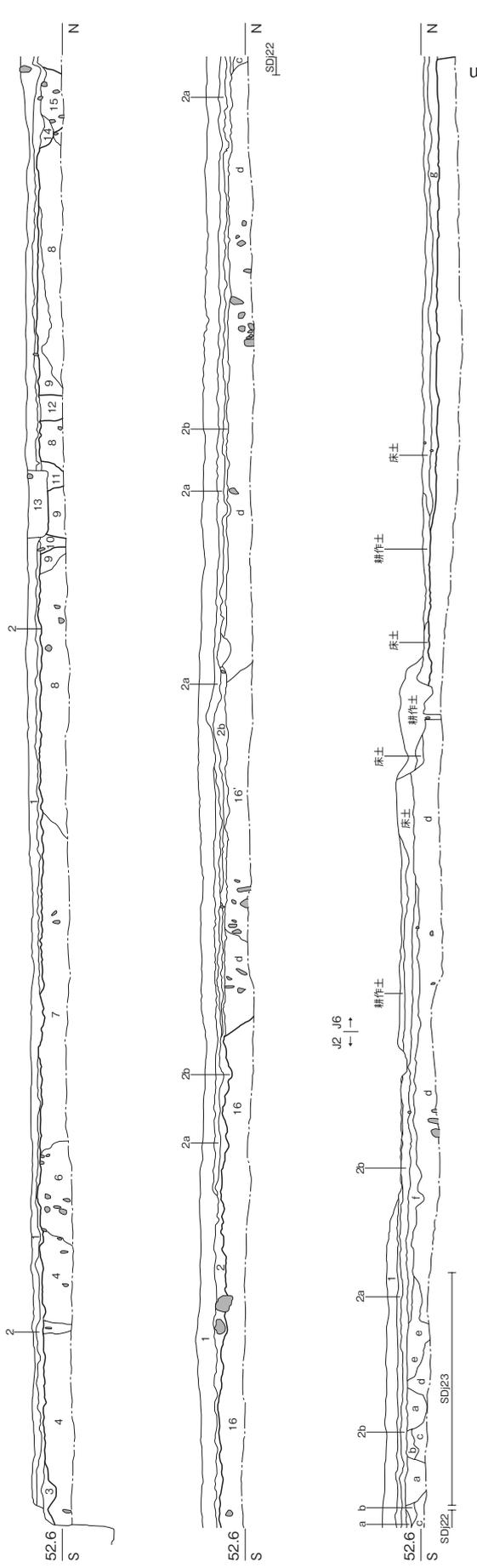
J区南壁



- 1 耕土・床土
- 2 10YR7/1 灰白色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性 粒径 3cm 前後の小石混) 旧耕土? 粒径 1~2cm の 6層ブロック土混) 旧耕土?
- 3 10YR7/8 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 均質な堆積まれに粒径 3cm 程度の小石混
- 4 2.5Y7/2 灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性) SDJ01 上層 3層に近似的に類似
- 5 10YR6/8 明黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性) 52.2m以下で灰味強くなる) 地山
- 6 10YR5/2 灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) SDJ01 下層 3層に近似的に類似
- 7 10YR5/6 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 8 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 9 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 10 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 11 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 12 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 13 10YR5/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 粒径 1~3cm の小石少量混) 第2遺構面包含層
- 14 2.5Y7/3 淡黄色粘土 (Fe 含 粒径 3cm 以下の小石少量混) 地山層
- 15 14層中に5~7cmの円~亜円礫や多量に混じる。
- 16 10YR6/8 明黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性) 旧耕土層? 6層に近似的に類似
- 17 2.5Y5/1 灰白色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 均質な堆積まれに粒径 3cm 程度の小石混 (包含層?)
- 18 10YR4/2 灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強い) 粗砂多量に混 粒径 6cm 程度の亜円礫混) 地山
- 19 2.5Y5/2 暗灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 粒径 3~4cm の小石を極少量混
- 20 10YR6/6 明黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 粗砂多量に混 粒径 7~9cm の円~亜角礫混) 地山
- 21 2.5Y7/2 灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 弱粘性) 14層に近似的に類似
- 22 5Y4/1 灰黄色粘土 (Fe 少量) 粗砂多量に混 粒径 3~10cm の円~亜円礫混) 地山層
- 23 2.5Y7/2 灰黄色粘土 (Mn 含 粒径 1~5cm の小円礫少量混 流水下堆積) SDJ01埋土
- 24 2.5Y7/2 灰黄色粘土 (Mn 含 粒径 1~5cm の小円礫少量混 流水下堆積) SDJ01埋土
- 25 埋土
- 26 2.5Y6/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 砂多量に混 強い水浸下の堆積の可能性あり
- 27 2.5Y6/1 黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性あり) 砂多量に混 強い水浸下の堆積の可能性あり (粒径 4cm 前後の小石量混 SDJ01の埋土が別の遺構の埋土か判断できず。)

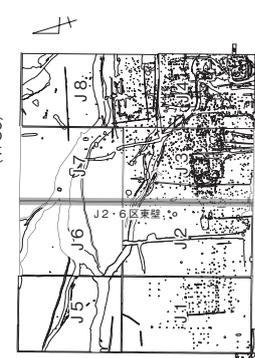
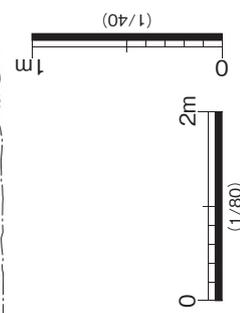


第8図 J区南壁土層断面図2 (縦 1/40・横 1/80)



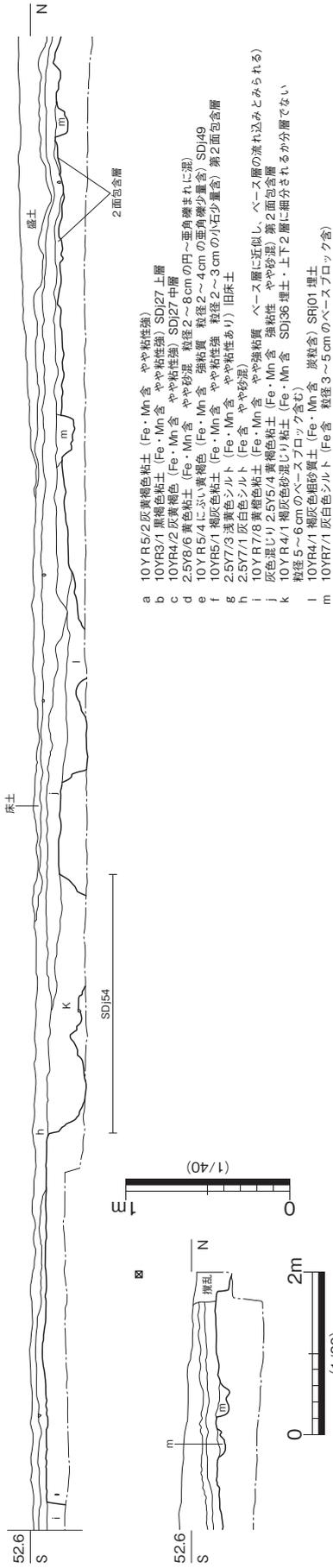
- 1 耕作土・床土
- 2 7.5VR5/6明褐色砂混じり粘土 (強粘質 床土)
- 2a 耕作土
- 2b 床土
- 3 2.5V6/1黄灰色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強い) SD332上層
- 4 10VR7/4(1)黄褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 強粘質) 地山層 9層に近い
- 5 2.5VR7/4黄褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 強粘質 粒径2~5cmの小石少量含) 柱穴埋土
- 6 2.5V4/1黄灰色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強 粒径2~8cmの円~垂角礫少量に含) 地山
- 7 2.5V6/4(1)黄褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強 粒径2~8cmの円~垂角礫含) 地山
- 8 2.5V5/2暗灰色粘質土 (粘土質部分に少量のFe・Mn 含 粒径2~10cmの円~垂角礫やや多量に含) 地山 7層より漸移的に変化した、層界やや不明瞭
- 9 2.5V7/4黄褐色粘土 (Fe 著 Mn 含 やや砂混じるが強粘質) 地山
- 10 2.5V4/1黄灰色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 粒径2cmの9層ブロック含) 柱穴埋土
- 11 10VR4/1黄褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 粒径2~3cmの小石少量混 砂粒含) 小溝?埋土
- 12 2.5V4/1黄灰色粘土 (Fe・Mn 含 粒径1~2cmの9層ブロック含む 炭粒含粒径~4cmの小石少量含 焼土粒含) 小溝?埋土
- 13 肥溜トレンチ埋土
- 14 5V6/1灰色粘土 (Fe 含 やや粘性強) 近世遺構?小溝?埋土
- 15 2.5V5/1黄褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 粒径2~5cmの円~垂角礫多量に含炭粒・焼土粒含) 中世土坑?埋土
- 16 2.5V6/1黄褐色粘土混じり砂粒 (上位10~15cmに粘土多く混 Fe・Mn 含 下位は砂礫層粒径1~10cmの円~垂角礫多量に含む) 地山
- 16' 2.5V7/3黄褐色粘質土 (Fe・Mn 含 粗砂多く混 粒径2~10cmの円~垂角礫やや多く混)

- a 10YR5/2灰褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強)
- b 10YR3/1黒褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強) SD277上層
- c 10YR4/2灰黄色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強) SD277中層
- d 2.5V6/6黄色粘土 (Fe・Mn 含 やや砂混 粒径2.6cmの円~垂角礫まれに混)
- e 10YR5/4(1)黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘質 粒径2~4cmの垂角礫少量含) SD49
- f 10YR5/1黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや粘性強 粒径2~3cmの小石少量含) 第2面包含層
- g 2.5V7/3黄褐色シルト (Fe・Mn 含 やや砂混) 旧床土
- h 2.5V7/1灰白色シルト (Fe 含 やや砂混)
- i 10YR7/7黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 やや強粘質 ベース層に近似し、ベース層の混れ込みとみられる)
- j 灰色混じり2.5V5/4黄褐色粘土 (Fe・Mn 含 強粘性 やや砂混) 第2面包含層
- k 10YR4/1褐色砂混じり粘土 (Fe・Mn 含 SD36埋土・上下2層に細分されるか層でない 粒径5~6cmのベースブロック含)
- l 10YR4/1灰褐色粘質土 (Fe・Mn 含 炭粒含) SR01埋土
- m 10YR7/1灰白色シルト (Fe 含 粒径3~5cmのベースブロック含)



第9図 J区東壁土層断面図1 (縦1/40・横1/80)

J2・6区東壁



J4区東拡張区北壁



第10図 J区東壁2、東拡張区北壁土層断面図 (縦1/40・横1/80)



第 11 図 J 調査区遺構配置図

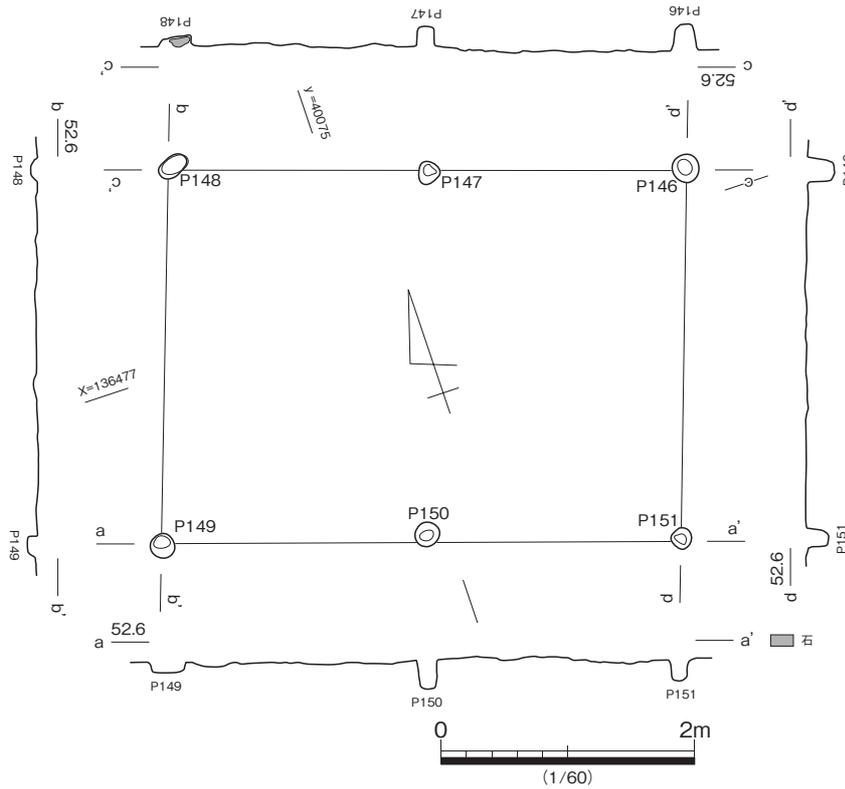
第2節 J調査区の遺構・遺物

掘立柱建物跡

SBj01 (第12図)

14 Kグリッド北東隅付近で検出した。梁間 2.95 m (1間) × 桁行 4.1 m (2間) で床面積 12.1㎡を測る東西棟である。柱間は梁間が 2.95 m、桁行は 2 ~ 2.1 mを測る。主軸方位は N 71.5° Wを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

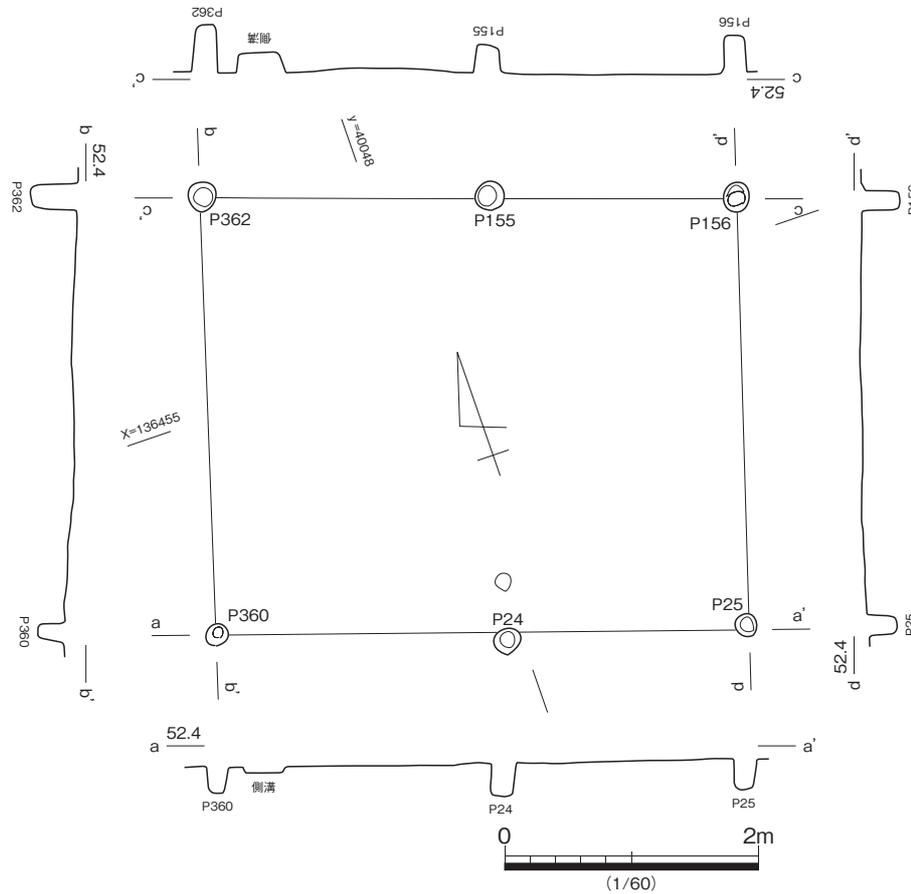


第12図 SBj01 平・断面図 (1/60)

SBj02 (第 13 図)

13 L グリッド北西部で検出した。梁間 3.5 m (1 間) × 桁行 4.2 m (2 間) で床面積 14.7㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は 1.9 ~ 2.3 m とばらつきが認められる。主軸方位は N 71° W を測る。SDj01 と重複しており、遺構検出時の状況から見てこれに先行する建物であると考えられる。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

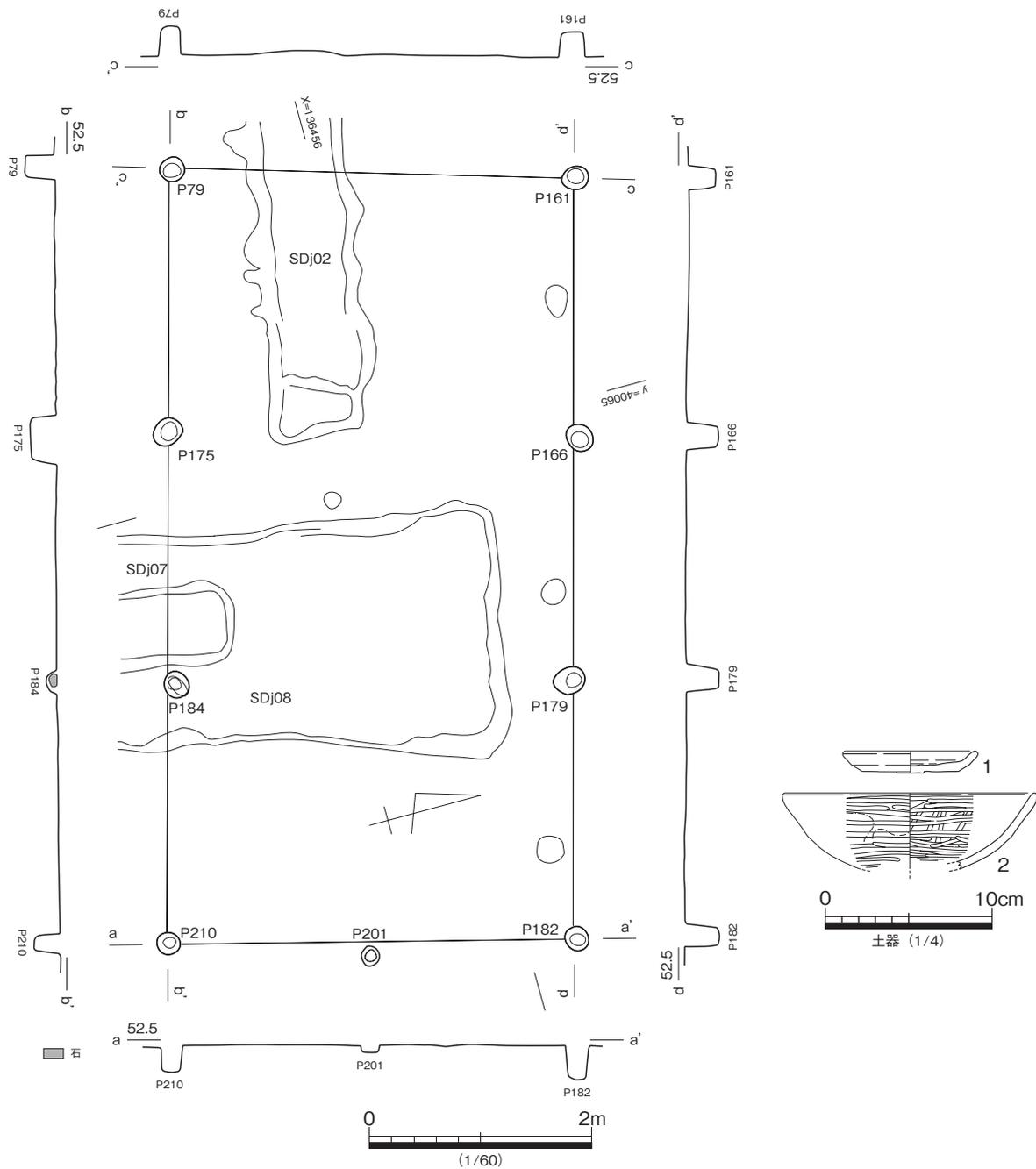


第 13 図 SBj02 平・断面図 (1/60)

SBj03 (第 14 図)

13 K グリッド北西部で検出した。梁間 3.65 m (1 間) × 桁行 7 m (3 間) で床面積 25.55㎡を測る東西棟である。柱間は梁間が 3.65 m、桁行が約 2.3 m を測る。建物東辺の柱穴配置は間に SP201 が入り、これを SBj03 を構成するものとして理解すると梁間 1.8 m となる。主軸方位は N 74.7° W を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

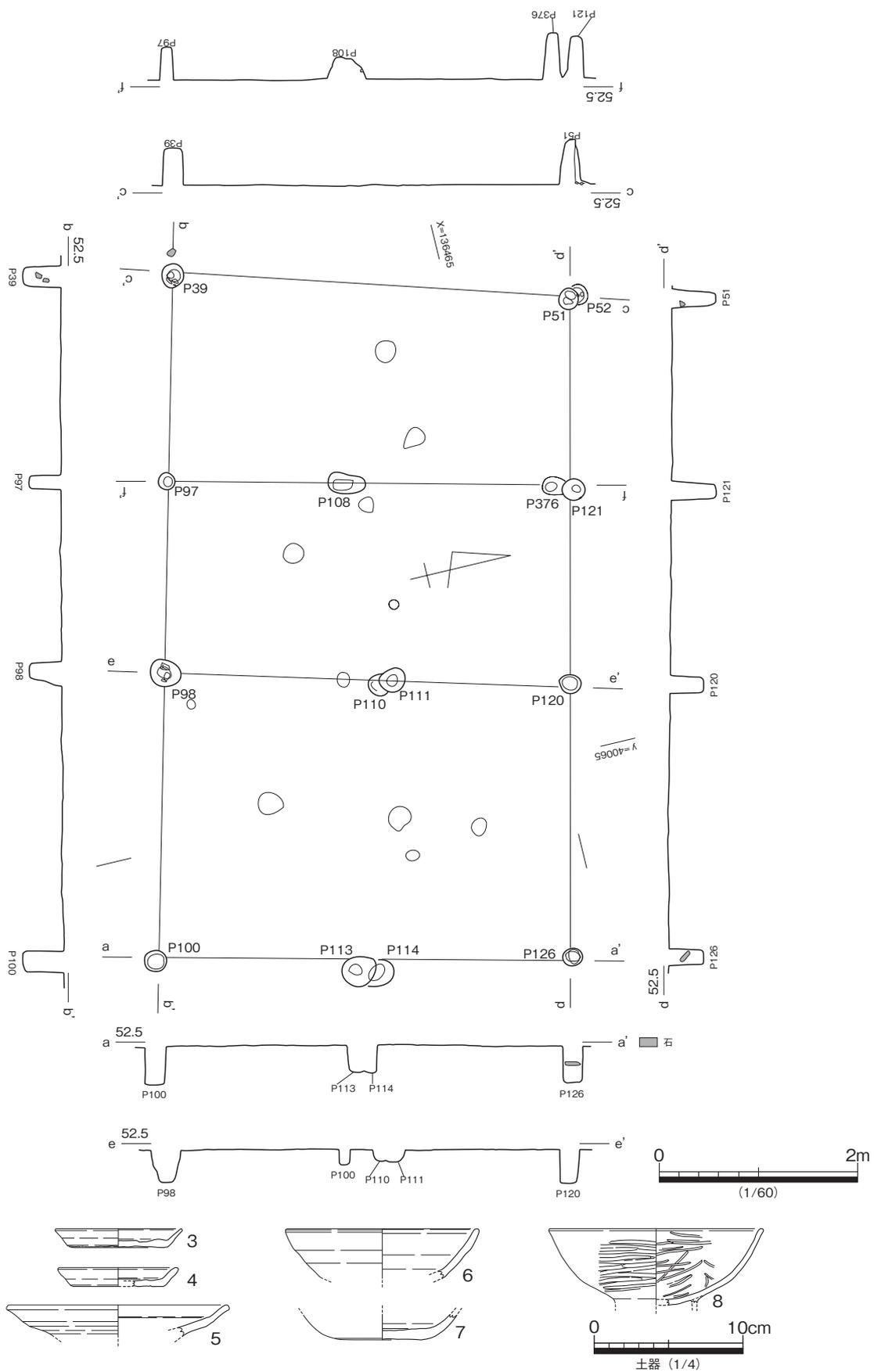


第14図 SBJ03 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj04 (第15図)

14 K グリッド南半で検出した。梁間4.1 m (1間) × 桁行7 m (3間)で床面積28.7㎡を測る東西棟である。建物西辺以外は、梁間方向に1本ずつ柱が束柱状に加わる構造となる。柱間は梁間は4 m、桁行は約2 mを測る。梁間については束柱状のものを入れると概ね2 mを測る。主軸方位はN 76.5° Wを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

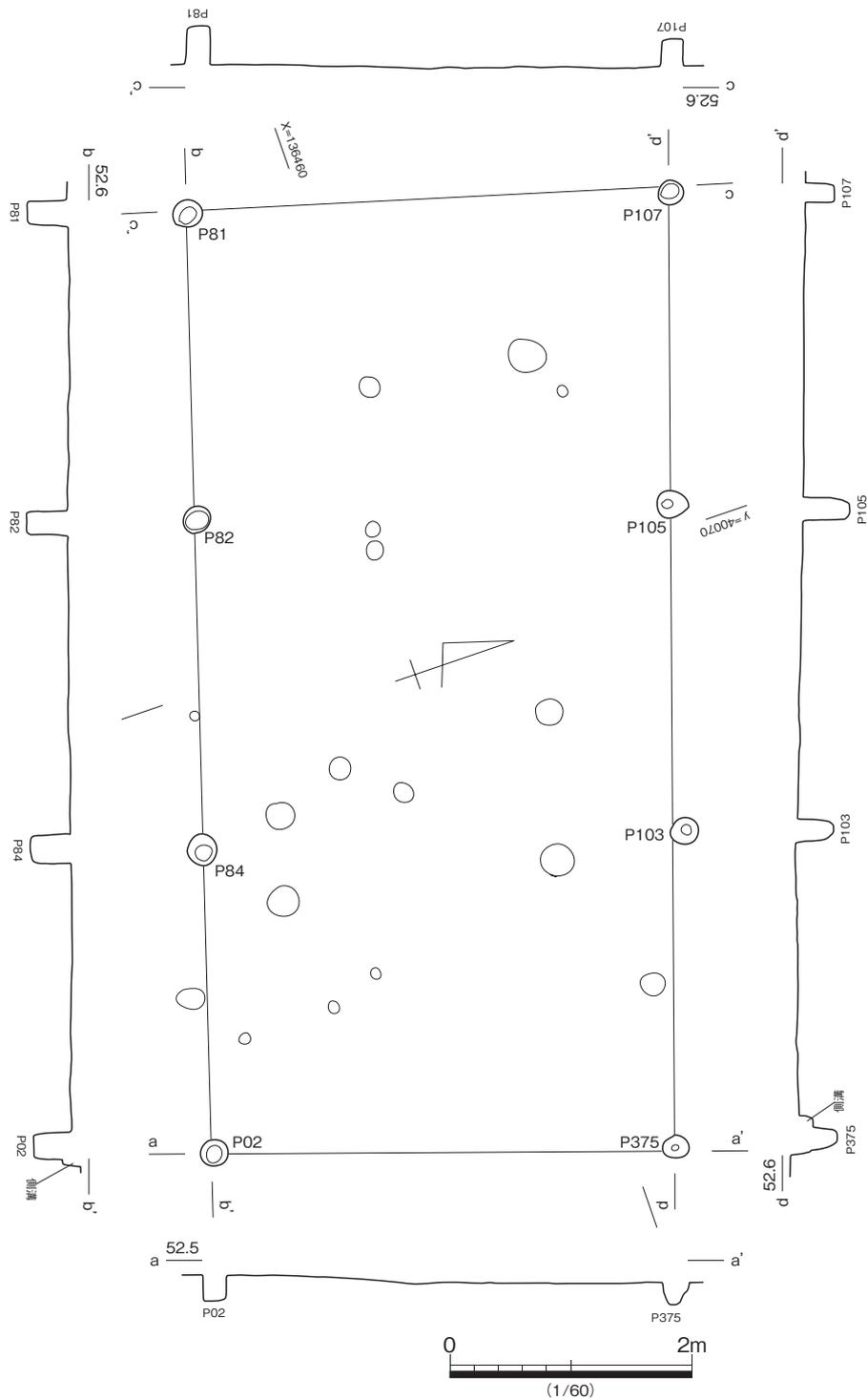


第 15 図 SBj04 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj05 (第16図)

13・14 Kグリッドに亘り検出した。梁間4 m (1間) × 桁行8 m (3間) で床面積32㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は2.5 ~ 2.8 mを測る。主軸方位はN 71° Wを測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

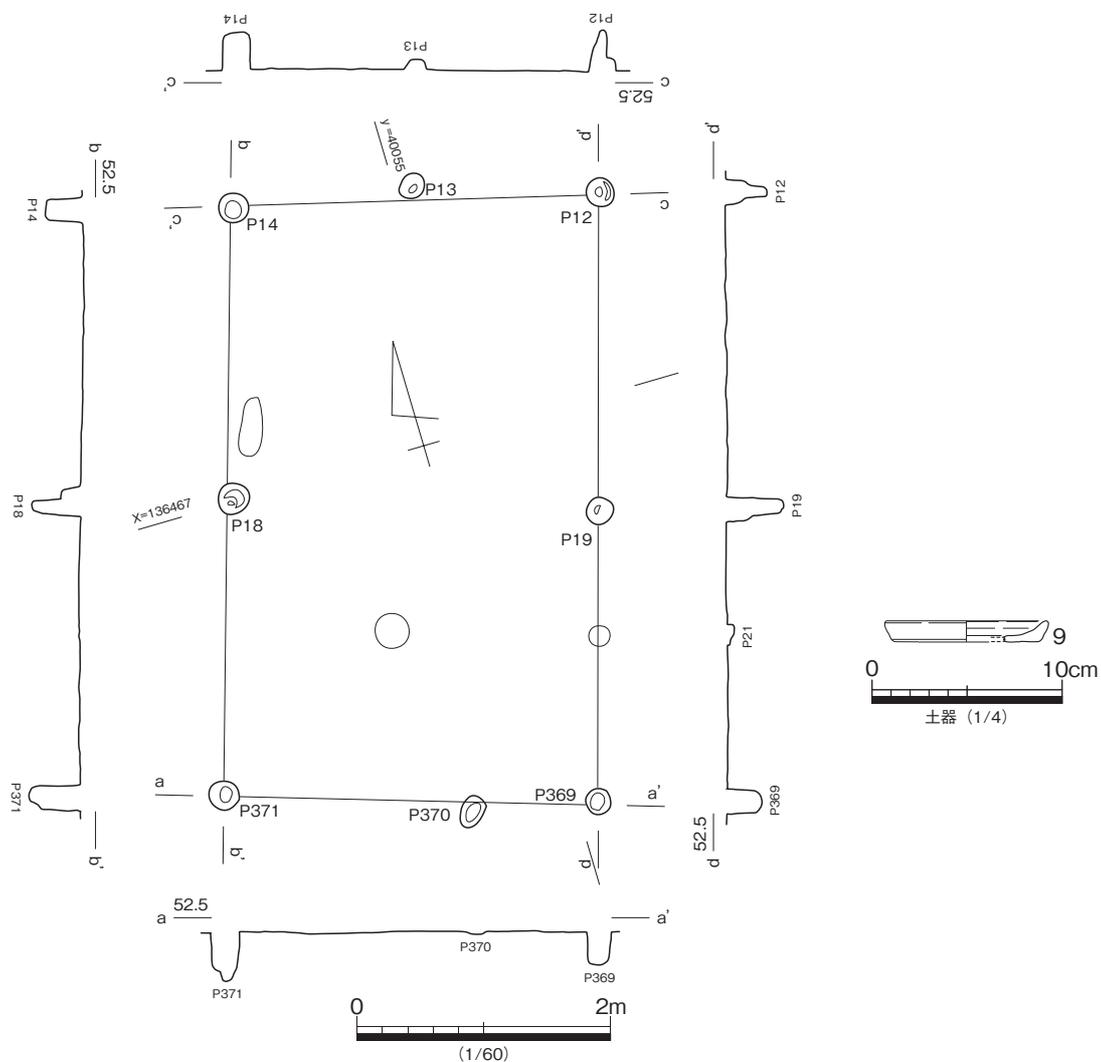


第16図 SBj05 平・断面図 (1/60)

SBj06 (第 17 図)

14 L グリッド南東部で検出した。梁間 2.9 m (1 間) × 桁行 4.8 m (2 間) で床面積 13.92m²を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.5 m を測る。主軸方位は N 16.3° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

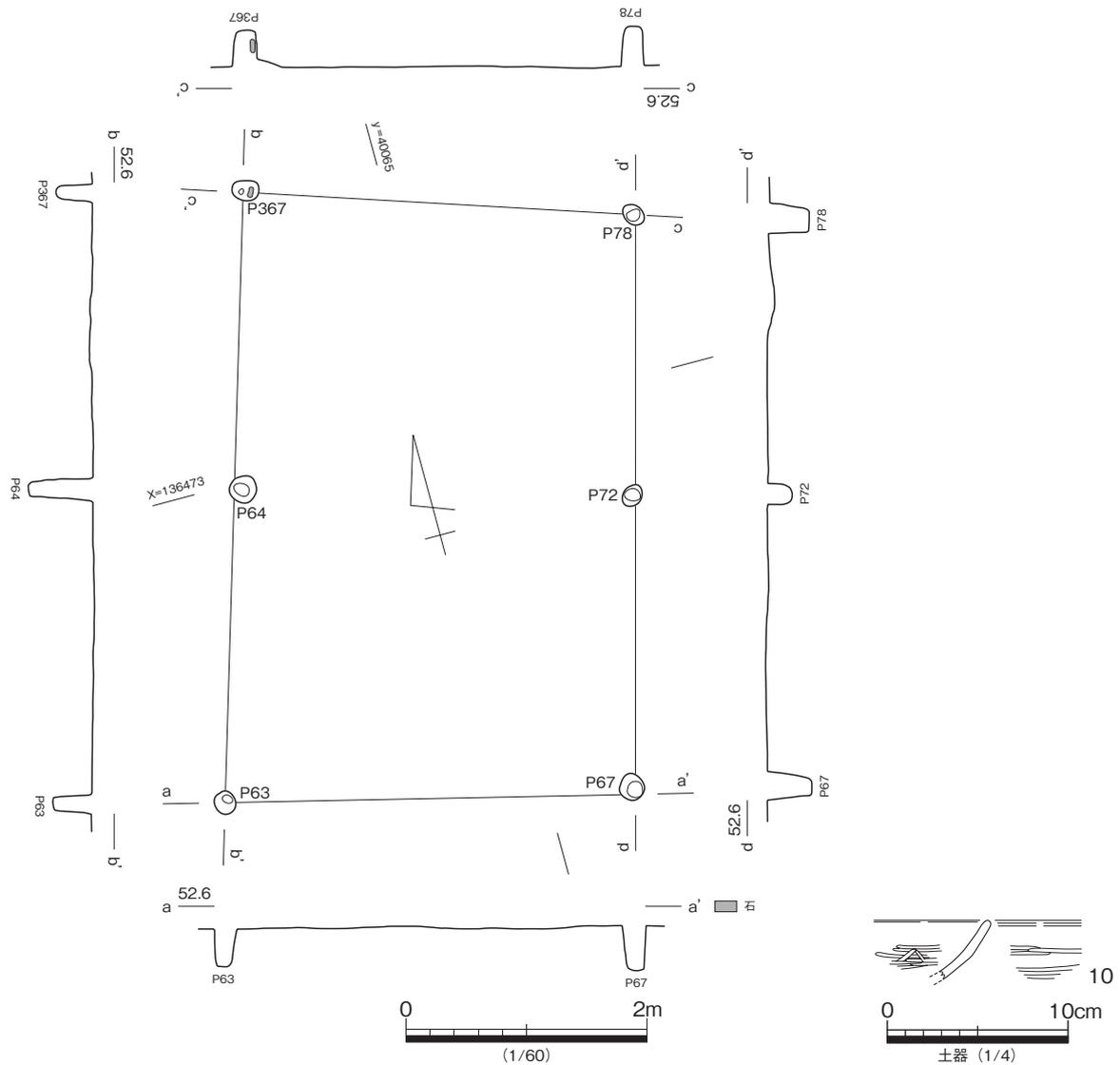


第 17 図 SBj06 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

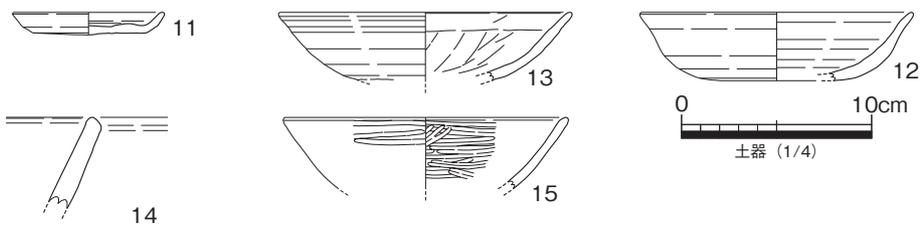
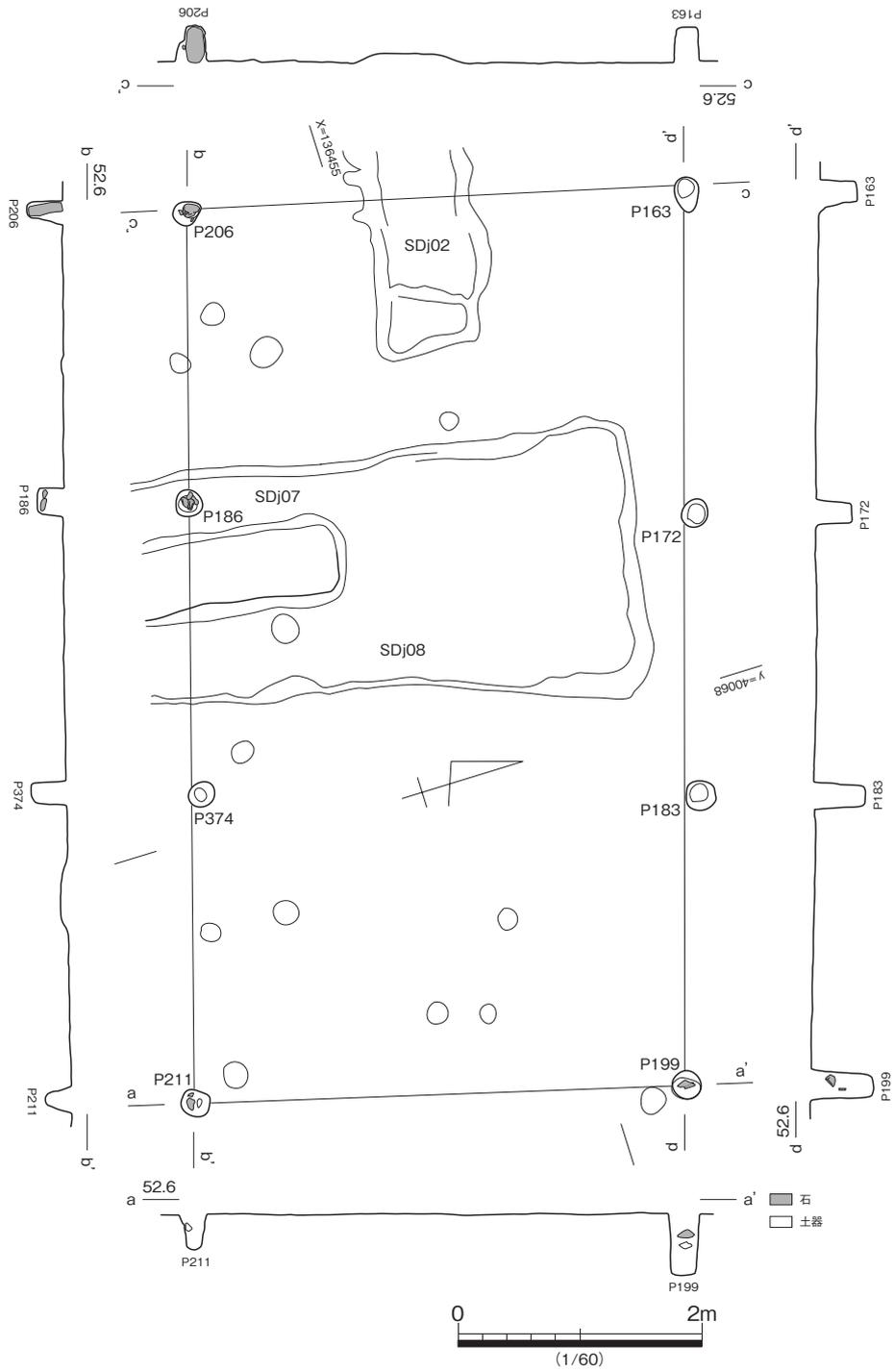
SBj07 (第 18 図)

14 K グリッド北西部で検出した。梁間 3.25 m (1 間) × 桁行約 5.1 m (2 間) で床面積 16.58㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.5 m を測る。主軸方位は N 15° E を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。



第 18 図 SBj07 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

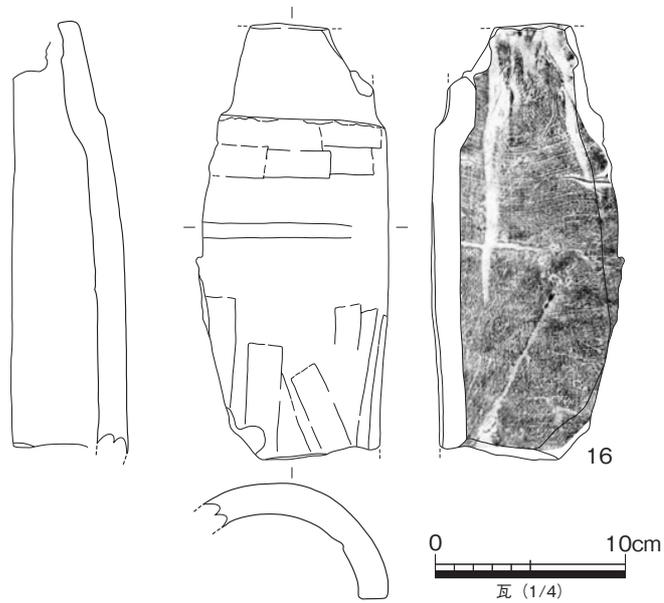


第 19 図 SBj08 平・断面図 (1/60)、出土遺物 1 (1/4)

SBj08 (第 19・20 図)

13 K グリッド北半で検出した。梁間 4.1 m (1 間) × 桁行 7.4 m (3 間) で床面積 30.34㎡を測る東西棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.7 m を測る。主軸方位は N 72.8° W を測る。

出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。

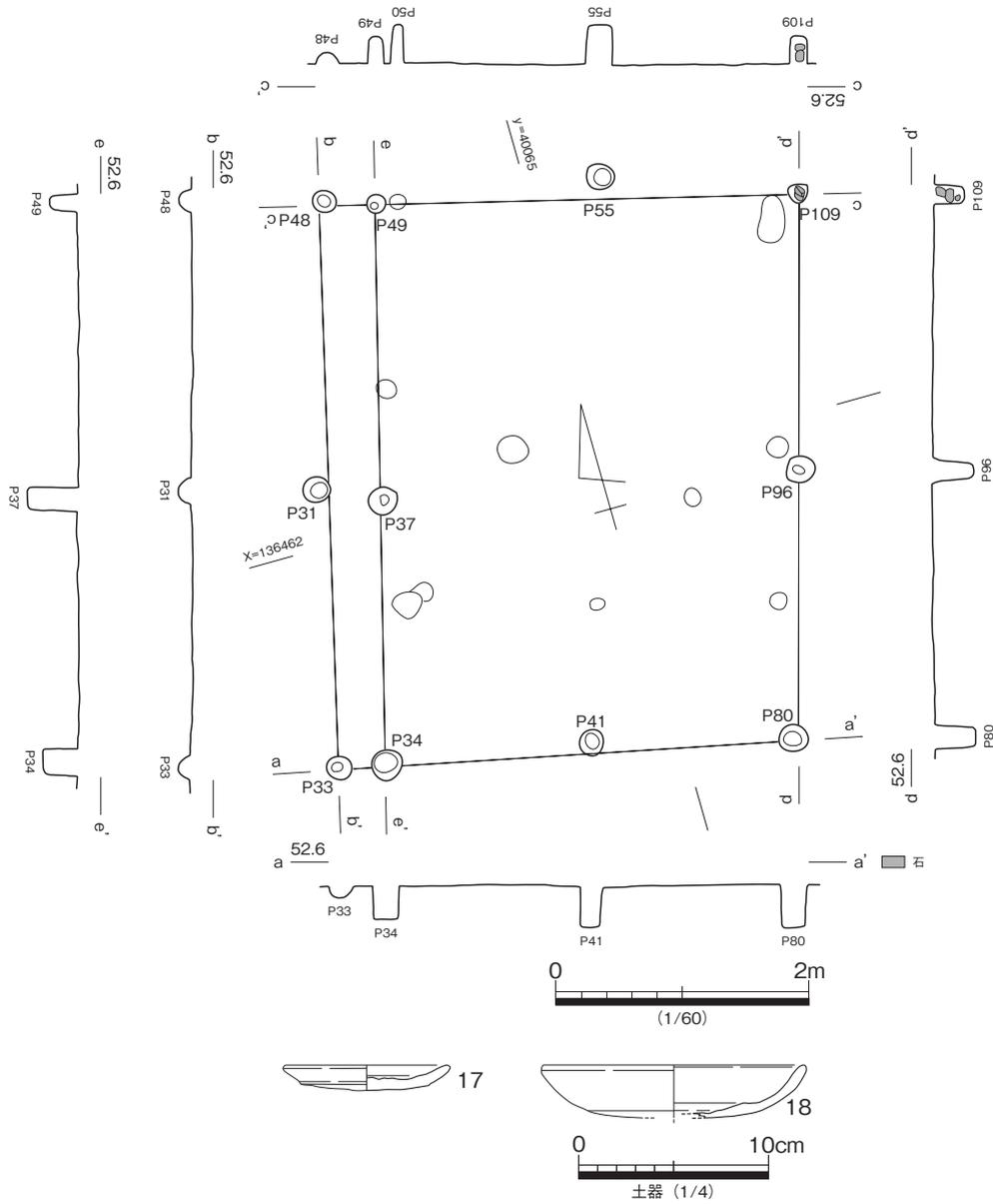


第 20 図 SBj08 出土遺物 2 (1/4)

SBj09 (第 21 図)

14 K グリッド南西隅で検出した。梁間 3.3 m (1 間) × 桁行 4.5 m (2 間) に 0.4 m (1 間) × 4.5 m (2 間) の庇が付く総床面積 16.88㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.1 ~ 2.3 m を測る。主軸方位は N 15.7° E を測る。

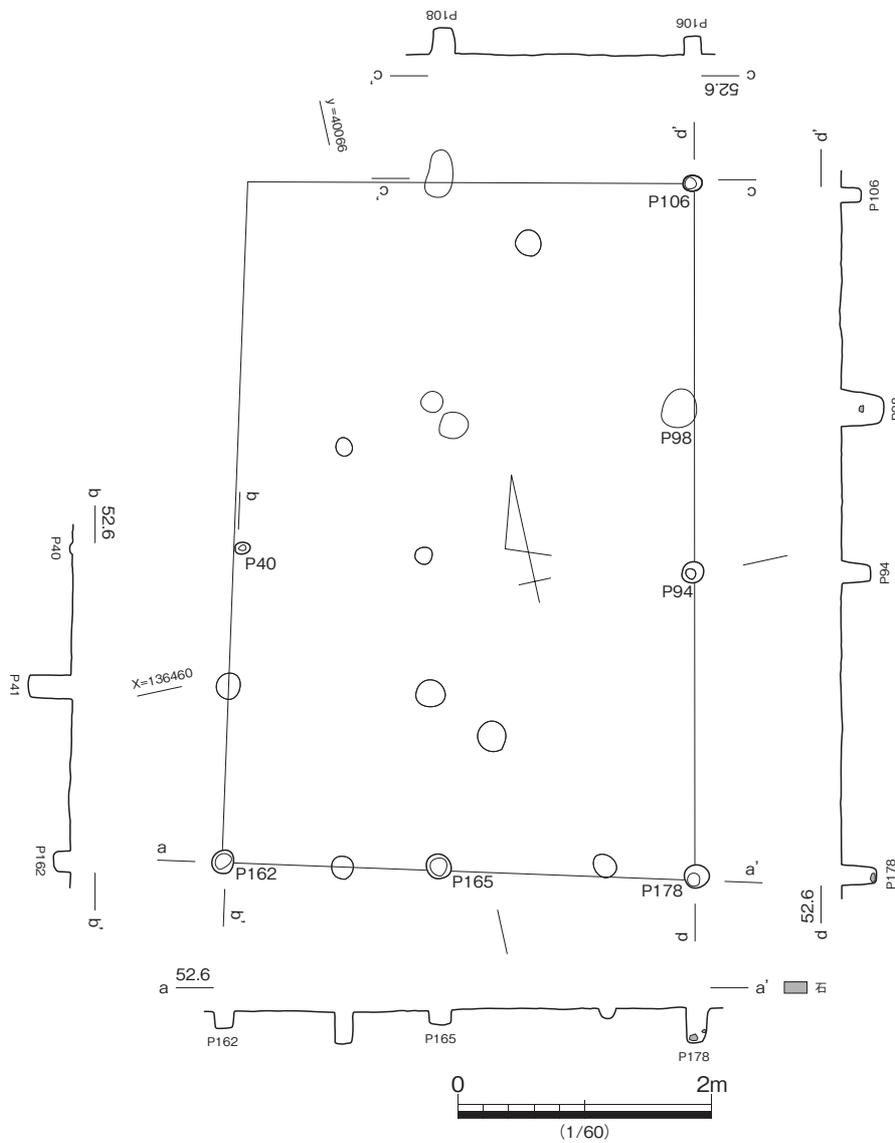
出土遺物は小片を中心とし、詳細を把握するのが困難であるが、概ね中世の建物であると考えられる。



第 21 図 SBj09 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj10 (第 22 図)

13・14 K グリッドに亘り検出した。梁間 3.7 m (2 間) × 桁行 5.5 m (2 間) で床面積 20.35㎡を測る南北棟である。柱間は梁間は 1.7 ~ 2 m、桁行は 2.4 ~ 3 m を測る。主軸方位は N 123° E を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



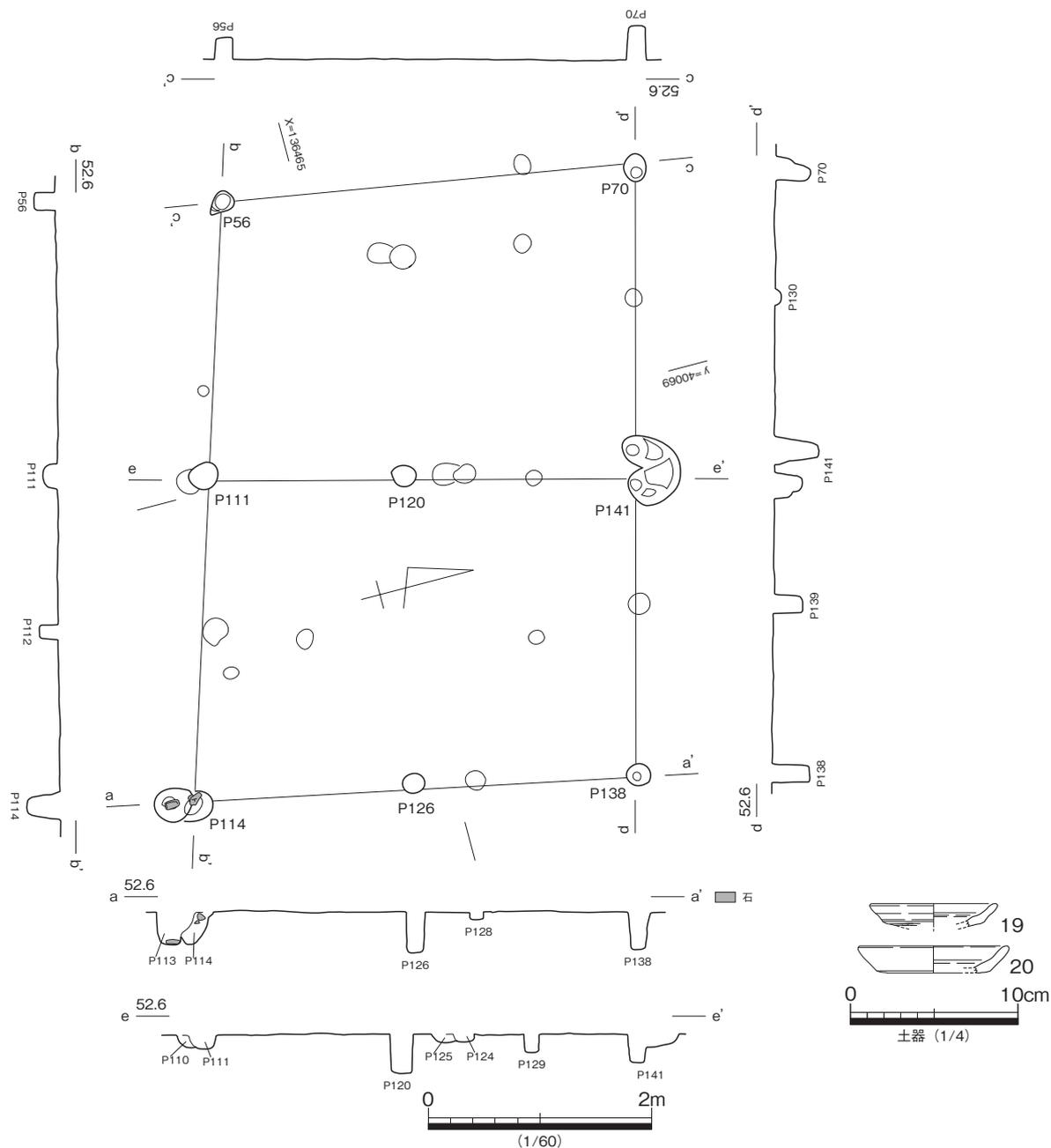
第 22 図 SBj10 平・断面図 (1/60)

SBj11 (第23図)

14 Kグリッド南半で検出した。梁間4 m(2間)×桁行5.5 m(2間)で床面積22㎡を測る南北棟である。桁行の柱間は2.5～2.8 mを測る。主軸方位はN 75.2° Wを測る。

19・20はともにSP70から出土した土師器小皿である。

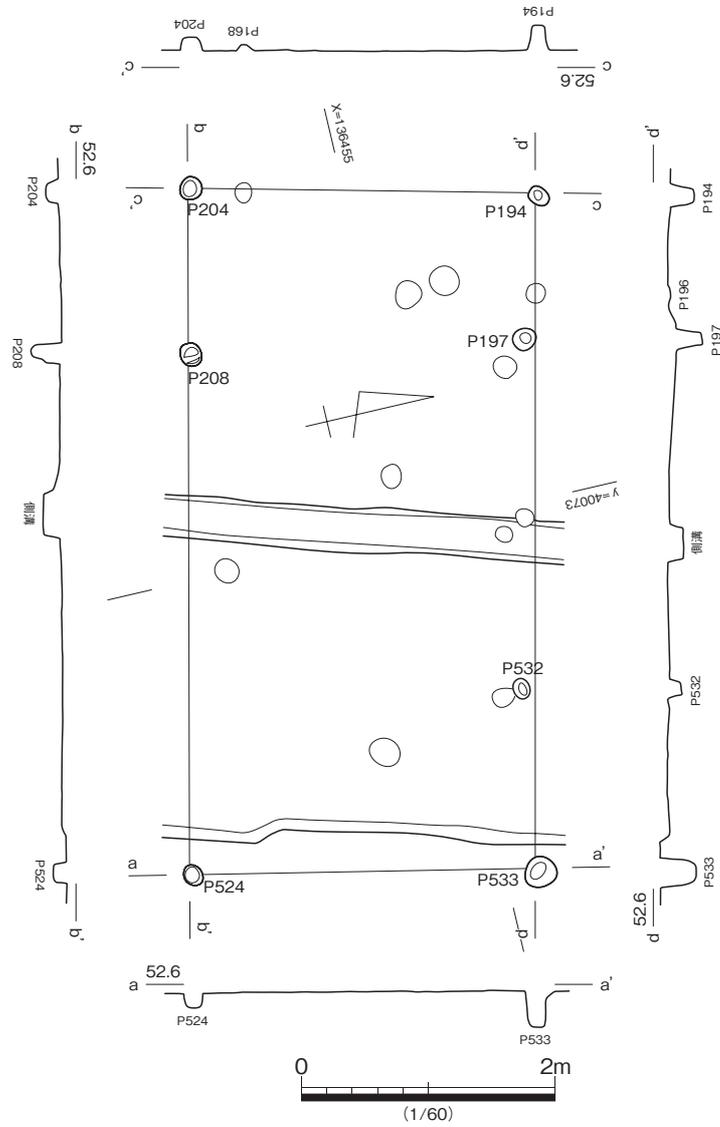
出土遺物から中世の建物である。



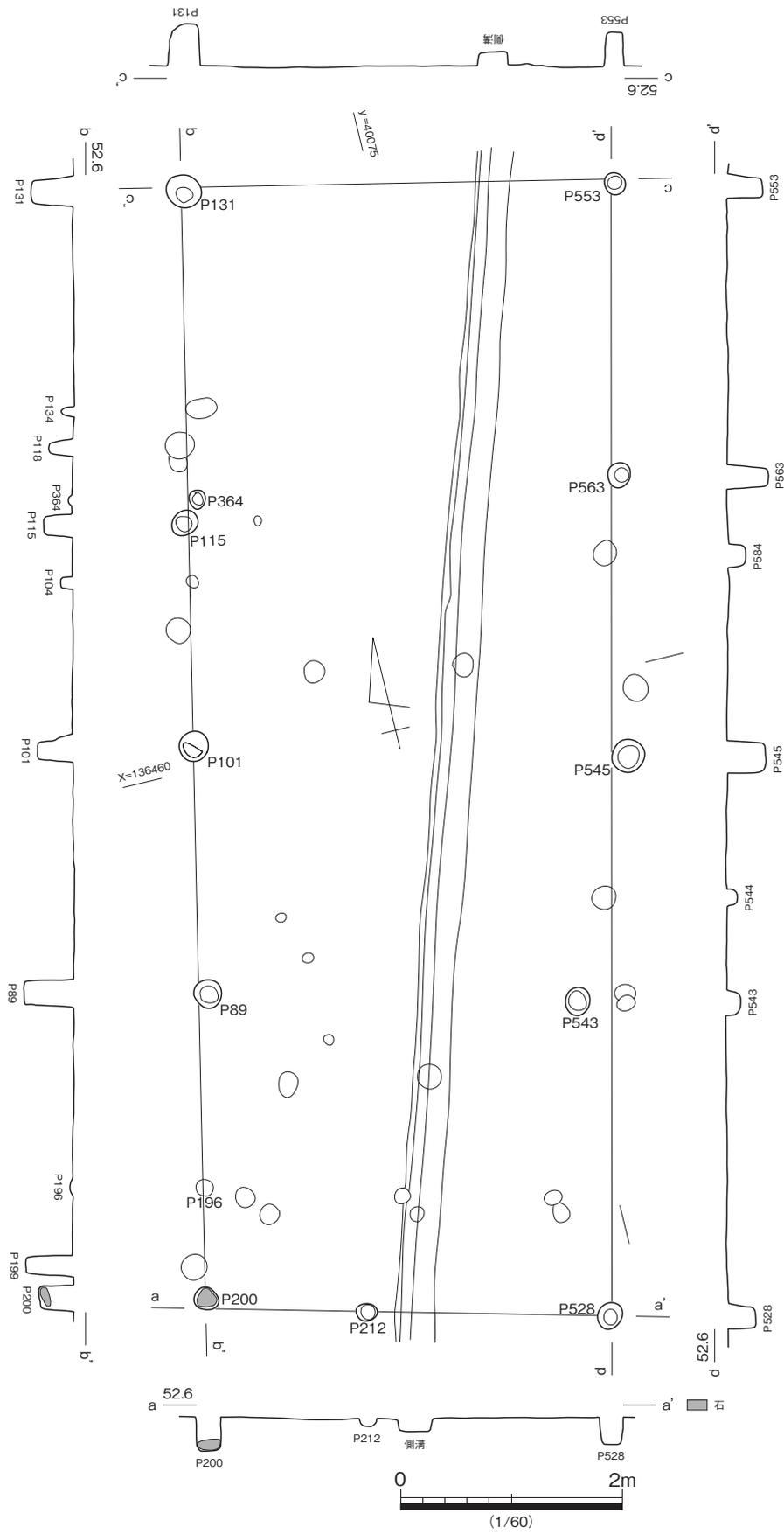
第23図 SBj11 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj12 (第 24 図)

13 K グリッド北東部で検出した。梁間 2.7 m (1 間) × 桁行 5.4 m (4 間) で床面積 14.58㎡を測る東西棟である。南北とも桁行の東寄りの柱穴を欠くもの 4 間として復元した。主軸方位は N 76.8° W である。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第 24 図 SBj12 平・断面図 (1/60)

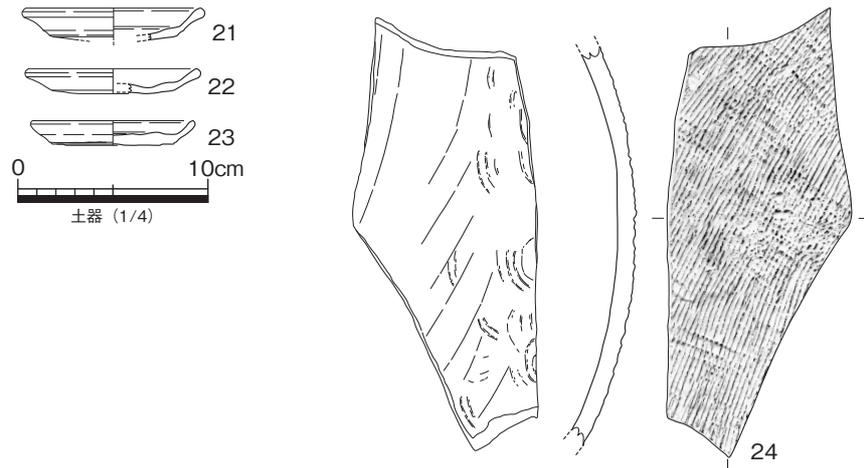


第 25 图 SBj13 平·断面图 (1/60)

SBj13 第 25・26 図)

13・14 K グリッド東半に亘り検出した。梁間 3.7 m (1 間) × 桁行 10.2 m (4 間) で床面積 38.11㎡ を測る南北棟である。桁行の柱間は 2.3 ~ 2.8 m を測る。主軸方位は N 13.6° E を測る。出土遺物は小片が多い。

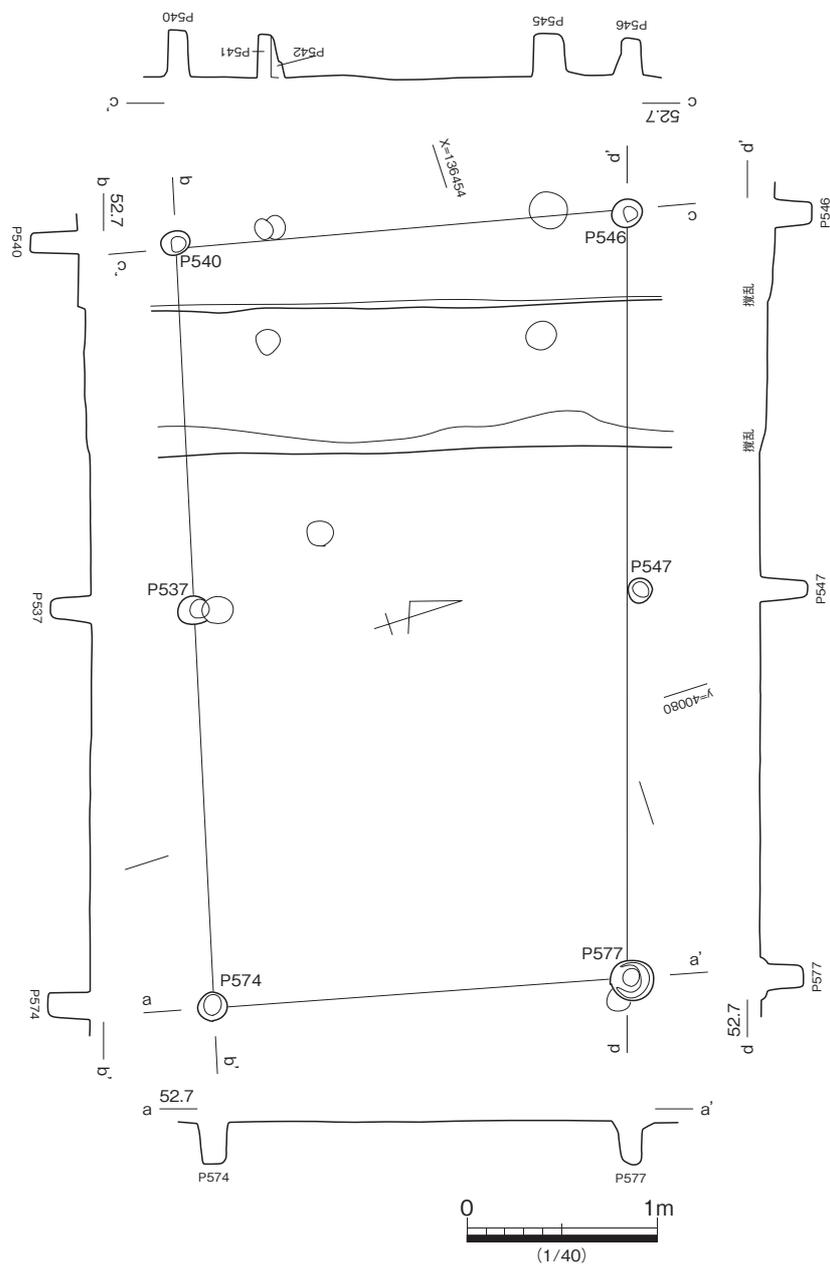
21・22 は SP563 から出土した土師器小皿、23 と 24 は SP545 から出土した土師器小皿と須恵器甕である。出土遺物から中世の建物である。



第 26 図 SBj13 出土遺物 (1/4)

SBj14 (第 27 図)

13 J・K グリッド北半に亘り検出した。梁間 3.5 m (1 間) × 桁行 6.1 m (4 間) で床面積 21.35㎡ を測る東西棟である。桁行の柱間は 2.9 ~ 3.1 m を測る。主軸方位は N 72.15° W を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



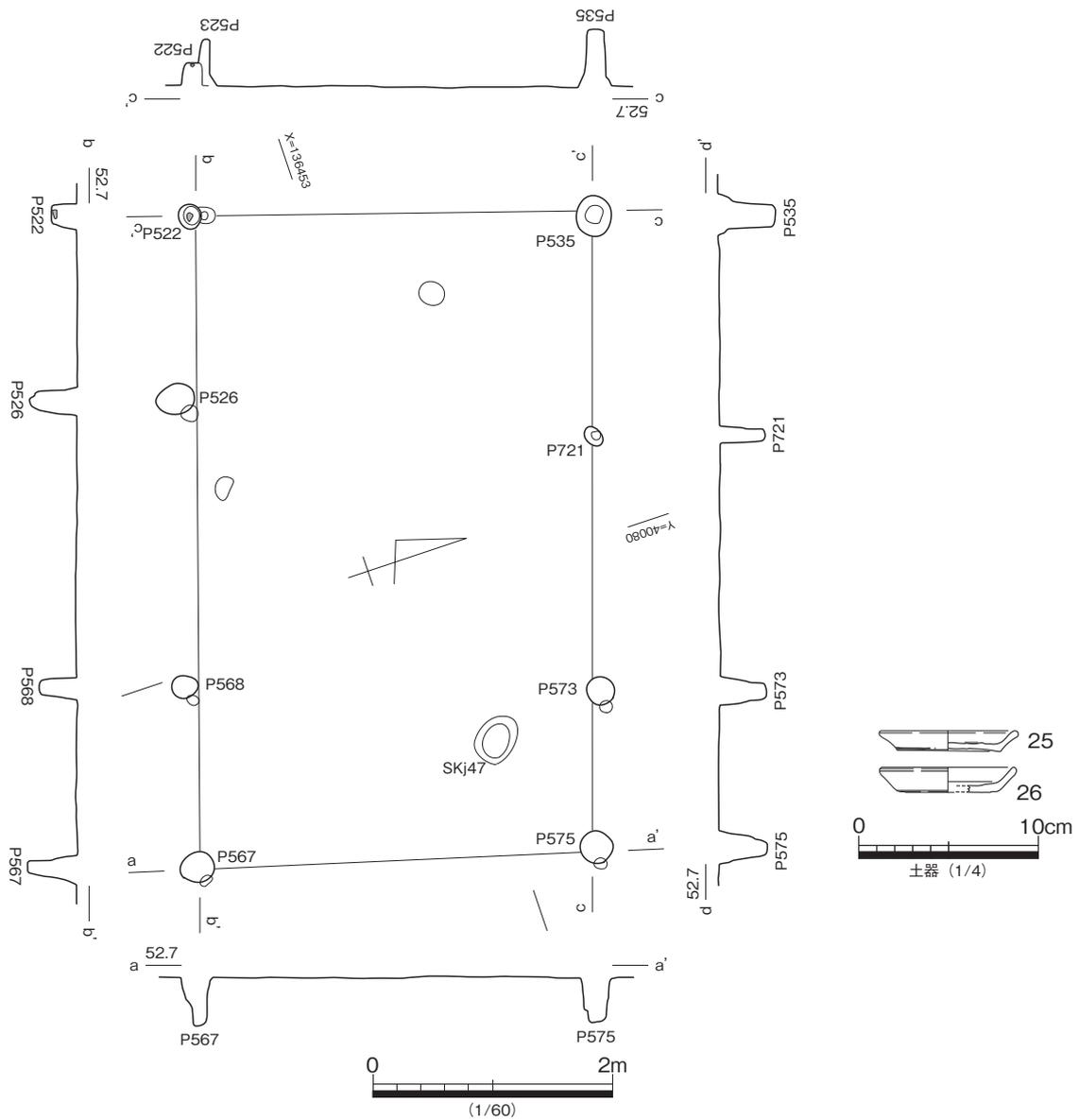
第 27 図 SBj14 平・断面図 (1/40)

SBj15 (第28図)

13 J・Kグリッドに亘り検出した。梁間3.3m(1間)×桁行5.5m(3間)で床面積18.15㎡を測る東西棟である。主軸方位はN71.4°Wを測る。桁行の柱間は1.3~2.5mと大きくばらつく。SP568とSP573は西辺を基準にした際に等間隔となることから、この2基を東辺とする可能性もある。

25はSP535から出土した土師器小皿、26はSP721から出土した土師器小皿である。

出土遺物から中世の建物である。

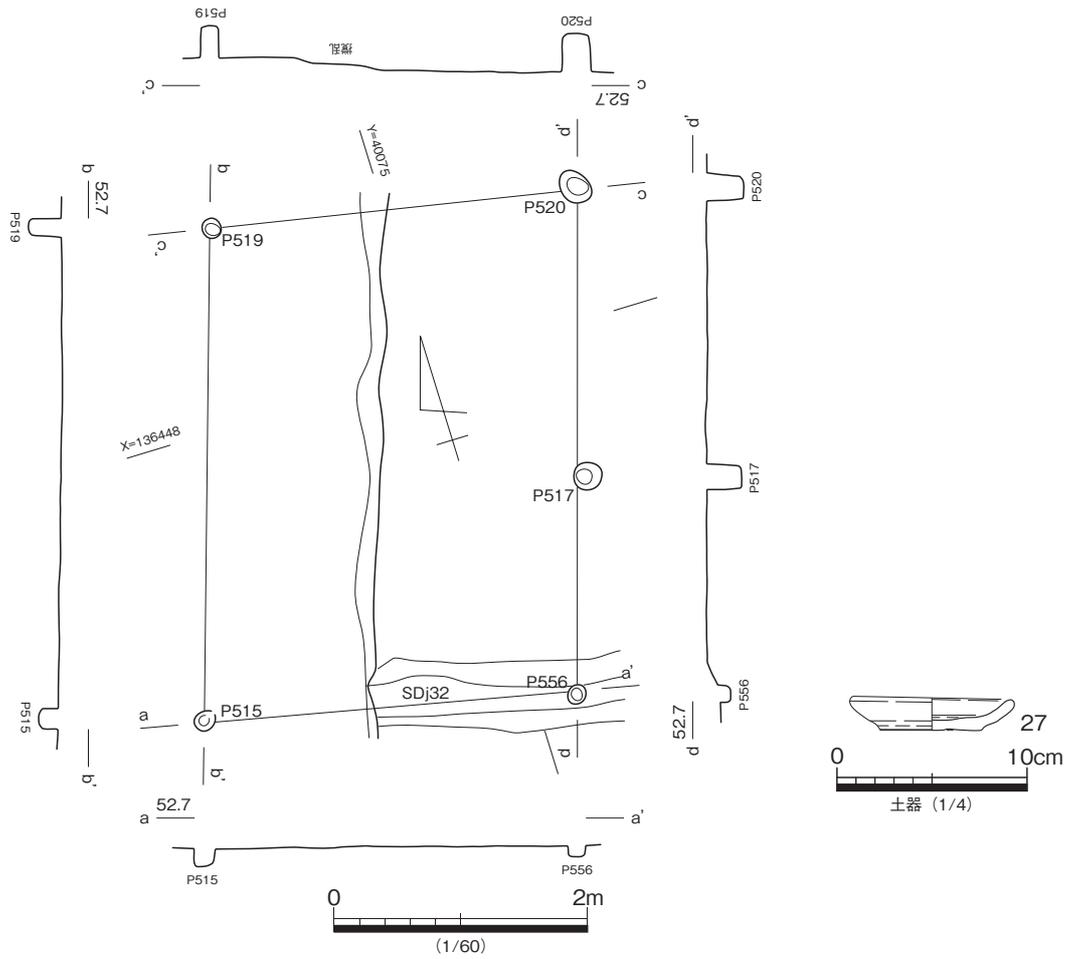


第28図 SBj15平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)

SBj16 (第 29 図) 13 K グリッド南東隅で検出した。梁間 2.95 m (1 間) × 桁行 4 m (2 間) で床面積 11.8㎡を測る。主軸方位は N 17° E を測り、平面形が矩形を描く南北棟である。桁行の柱間は 1.7 ~ 2.3 m を測る。

27 は SP519 から出土した土師器小皿である。

出土遺物から中世の建物である。

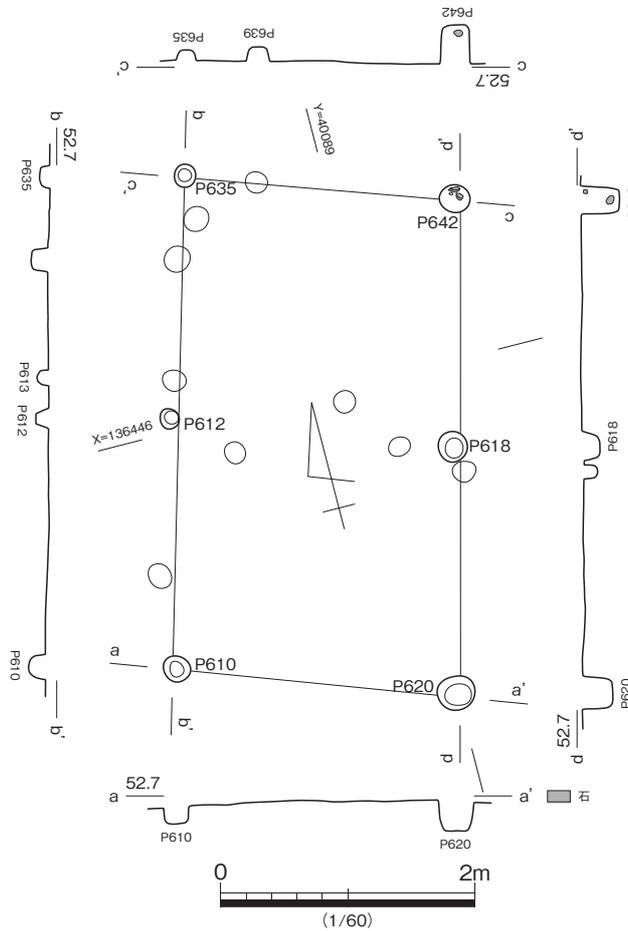


第 29 図 SBj16 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj17 (第 30 図)

13 J グリッド南半で検出した。梁間 2.2 m (1 間) × 桁行 3.9 m (2 間) で床面積 8.58m²を測る。主軸方位は N 14.5° E を測り、平面形が矩形を描く南北棟である。柱間は概ね 2 m を測る。

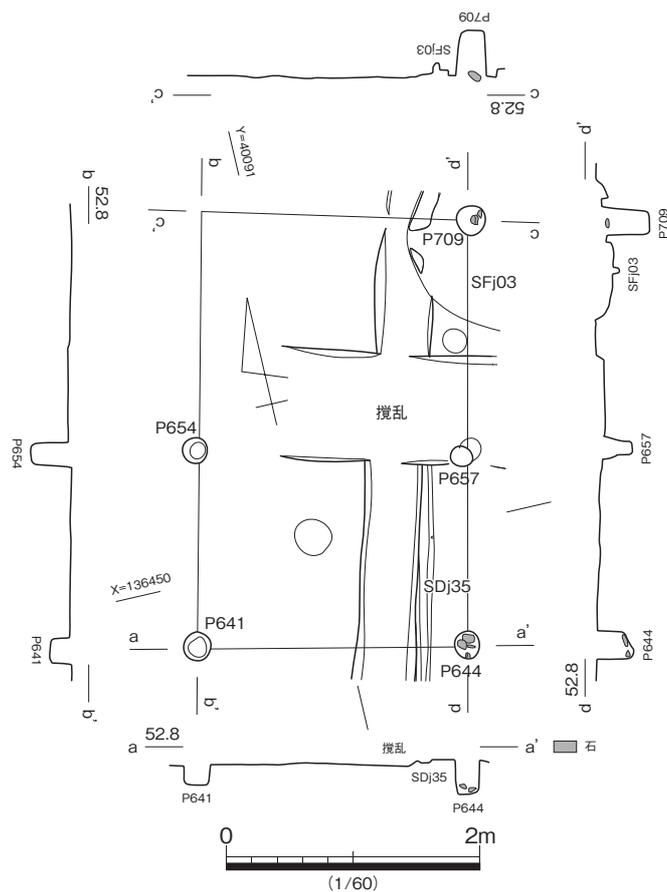
柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第 30 図 SBj17 平・断面図 (1/60)

SBj18 (第 31 図)

13 J グリッド中央で検出した。梁間 2.1 m (1 間) × 桁行 3.4 m (2 間) で床面積 7.14m²を測る南北棟である。主軸方位は N 13° E を測る。桁行の柱間は 1.5 ~ 1.9 m を測る。SP709 が S F 03 の埋没後に掘削されていることから、これに後出する遺構であることがわかる。柱穴からの遺物は小片が主体で詳細不明であるが、SF03 が放射性炭素年代測定 (AMS 法) により 12 世紀終わりから 13 世紀中頃以降に操業されていた可能性が指摘されており、少なくともそれ以降の中世の建物であることが言える。



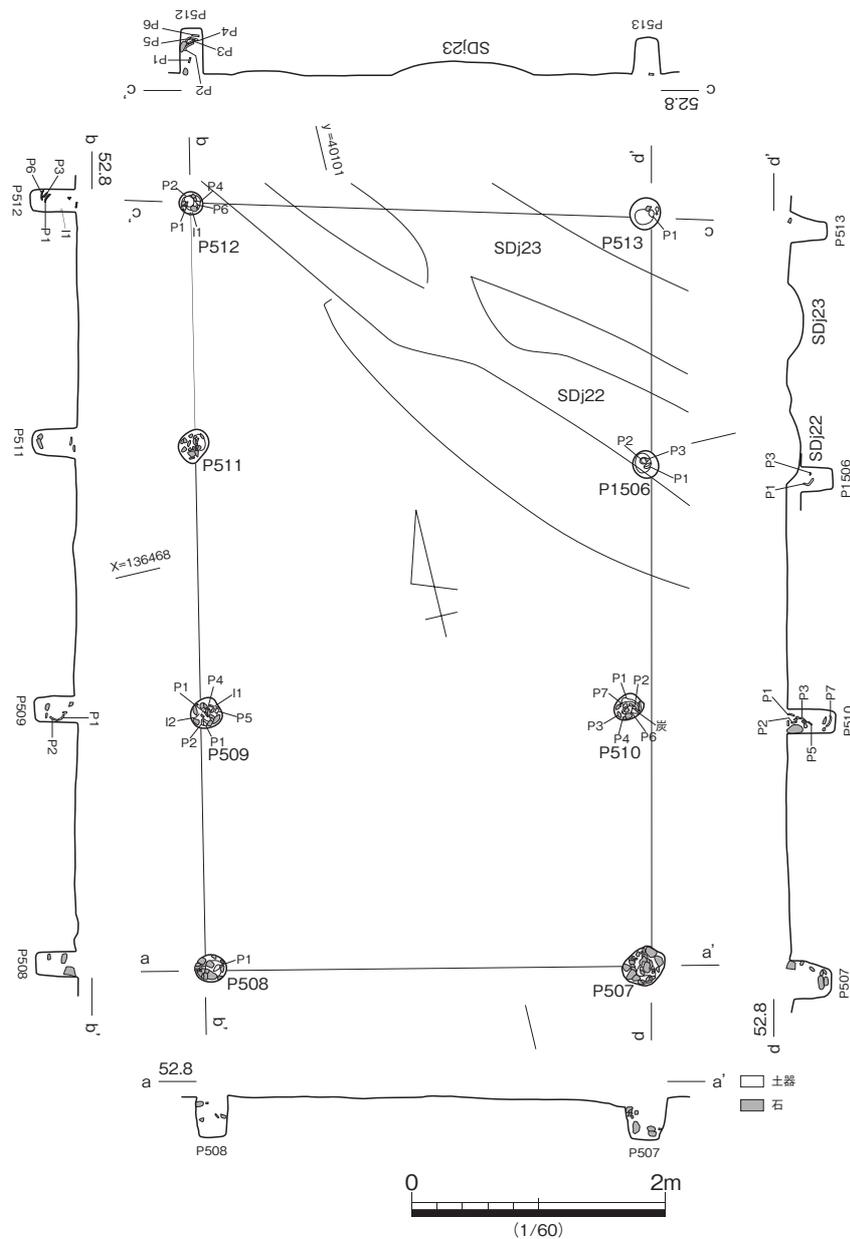
第 31 図 SBj18 平・断面図 (1/60)

SBj19 (第 32・33 図)

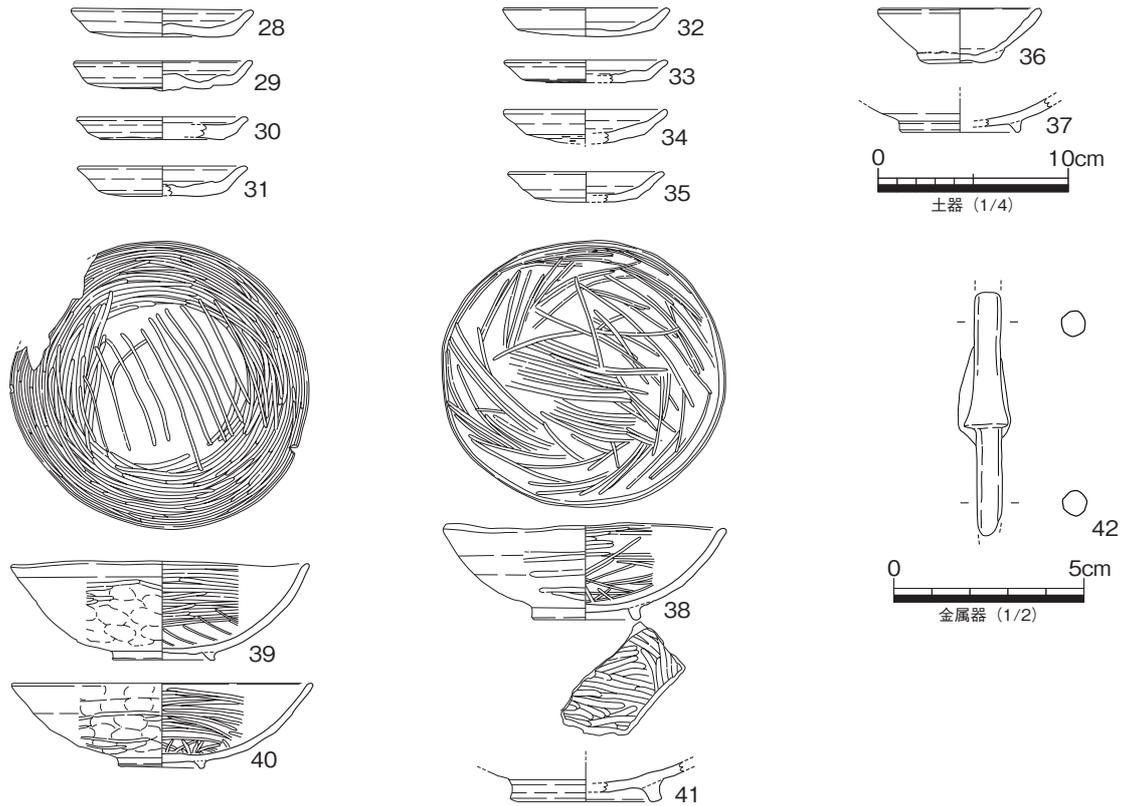
14 I グリッド中央南西寄りで検出した。梁間 3.6 m (1 間) × 桁行 6.0 m (3 間) で床面積 21.6㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 13.3° E を測る。桁行の柱間は約 2 m を測り、比較的整然とした配置である。各柱穴には根石並びに根巻石として用いられたと考えられる砂岩礫が多量に認められる。

30 は SP507、33 は SP508、28・34・40 は SP509、32・35・38・41 は SP510、37 は SP511、29・39・42 は SP512、31 は SP513、36 は SP1506 からそれぞれ出土している。28～35 は土師器小皿、36 は土師器杯で底部は突出している。37 は土師器椀、38 は十瓶山産須恵器椀、39・40 は和泉型瓦器椀で体部外面には指押さえが顕著である。41 は黒色土器椀、42 は鉄鏝である。

出土遺物、特に瓦器椀の形状から中世 (12 世紀中頃) の建物である。



第 32 図 SBj19 平・断面図 (1/60)



第33図 SBj19出土遺物 (1/4・1/2)

SBj20 (第34図)

13 I グリッド北東部で検出した。梁間 4.3 m (2 間) × 桁行 6.7 m (3 間) で床面積 28.81㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 15° E を測る。北側の梁間の中央の柱穴 SP1185 は柱筋からややずれている。桁行の柱間は約 1.8 ~ 2.8 m と幅がある。建物北辺をなす SP1193・SP1225 の中には根石並びに根巻石と見られる礫が認められる。

43 は SP987、44 は S K 63、45 は SP1225、46 は SP1155 から出土している。43・44 は土師器小皿で、43 の底部には穿孔されている。46 は須恵器片口鉢である。

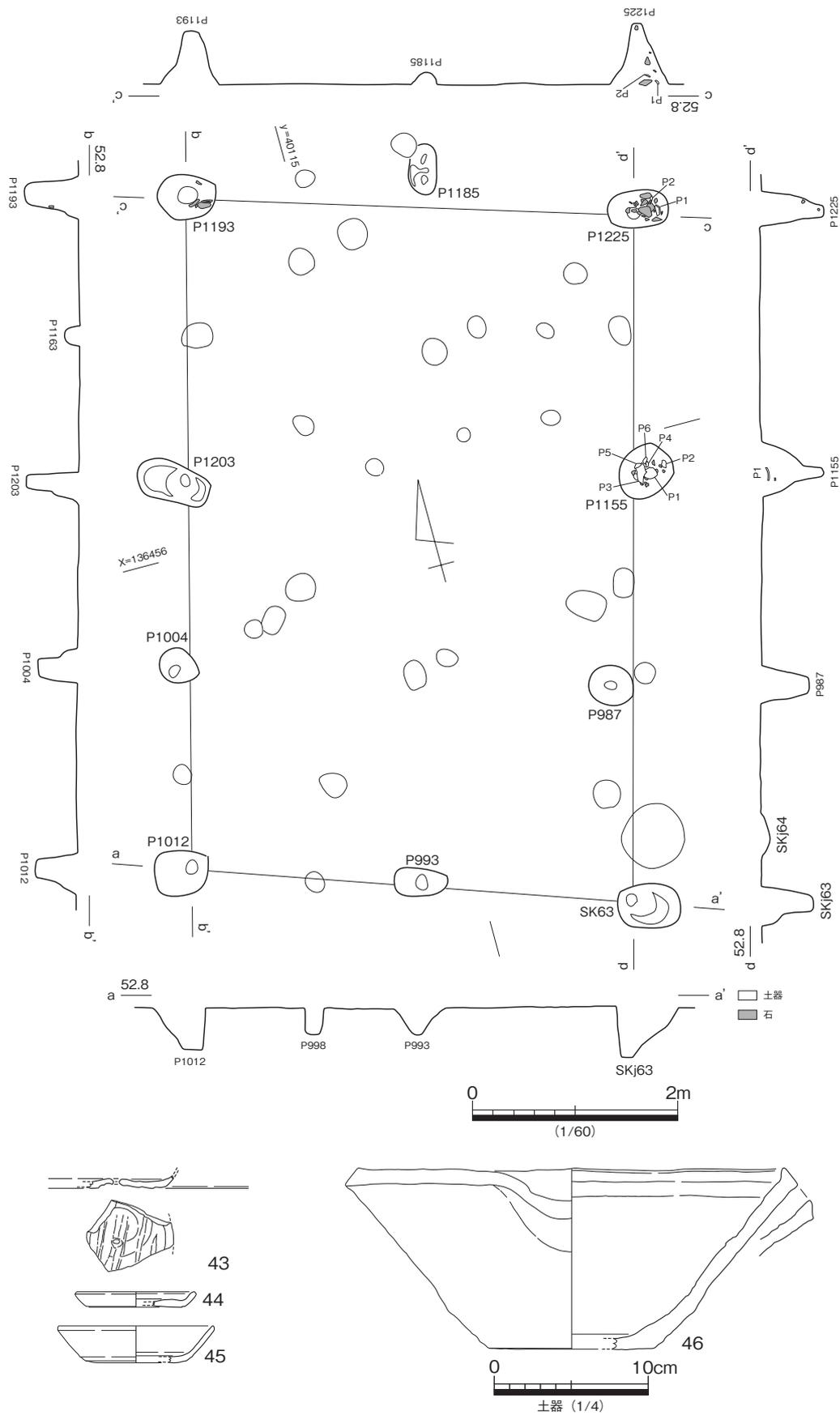
出土遺物から中世 (12 世紀中頃) の建物である。

SBj21 (第35図)

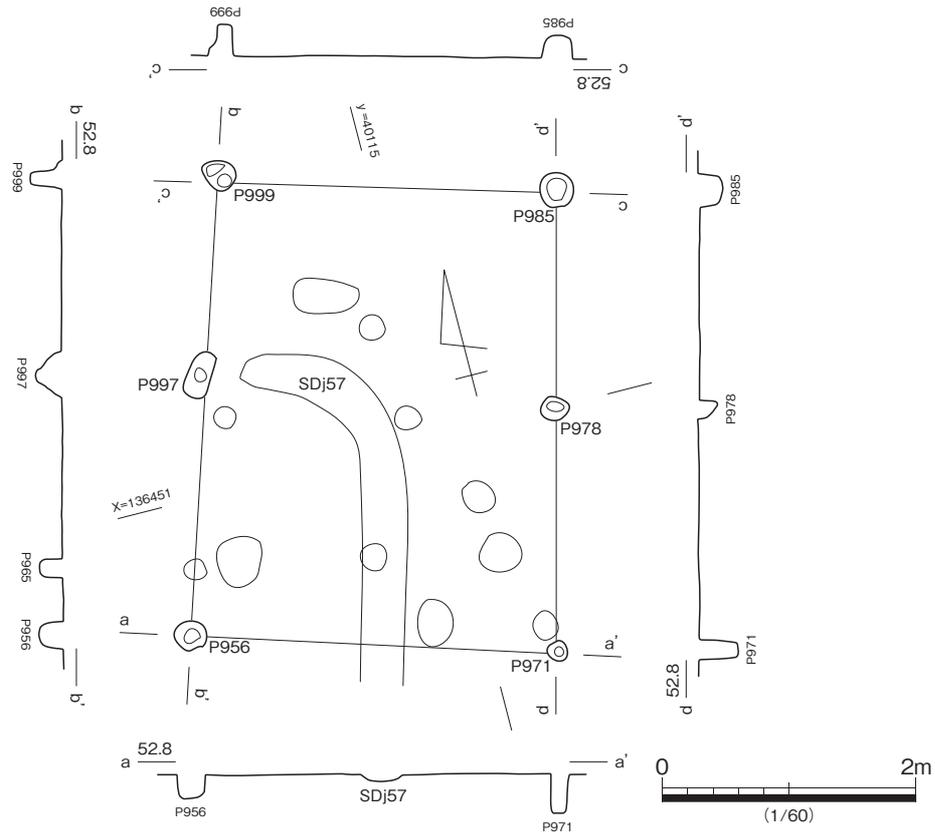
13 I グリッド中央やや北東付近で検出した。梁間 2.9 m (1 間) × 桁行 3.65 m (2 間) で床面積 10.59㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 14.4° E を測る。桁行の柱間は 1.7 ~ 1.9 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

SBj22 (第36図)

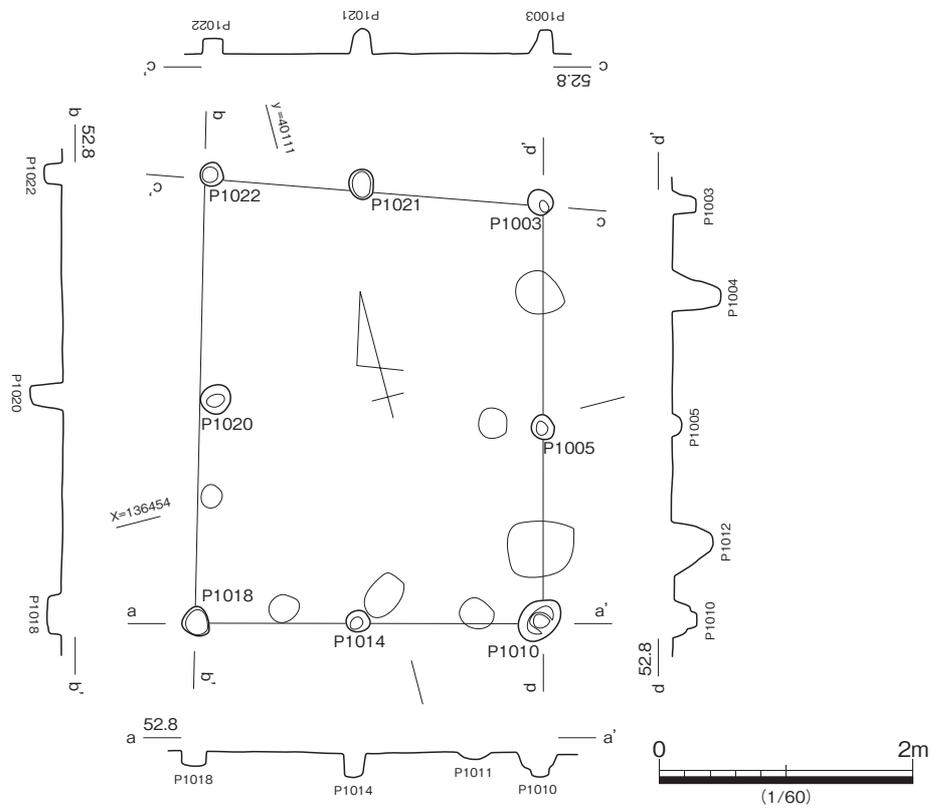
13 I グリッド北半中央付近で検出した。梁間 2.7 m (2 間) × 桁行 3.5 m (2 間) で床面積 9.45㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 14.6° E を測る。桁行の柱間は 1.2 ~ 1.45 m を測る。柱穴の埋土や建



第 34 図 SBj20 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



第 35 图 SBj21 平·断面图 (1/60)

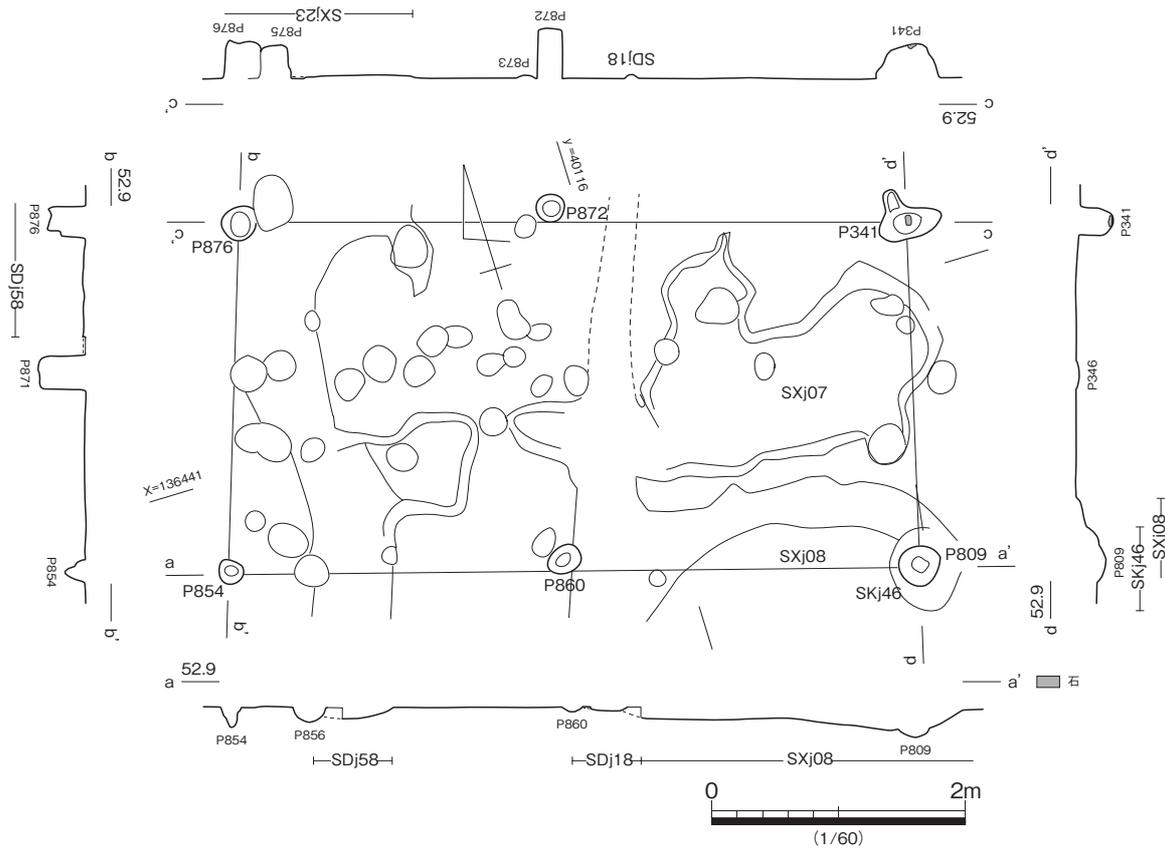


第 36 图 SBj22 平·断面图 (1/60)

物の方向などから中世の建物とする。

SBj23 (第 37 図)

13 I グリッド南東隅で検出した。梁間 2.8 m (1 間) × 桁行 5.4 m (2 間) で床面積 15.12m²を測る東西棟である。主軸方位は N 16.88° W を測る。柱間は 2.6 ~ 2.8 m を測り、概ね等間隔である。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第 37 図 SBj23 平・断面図 (1/60)

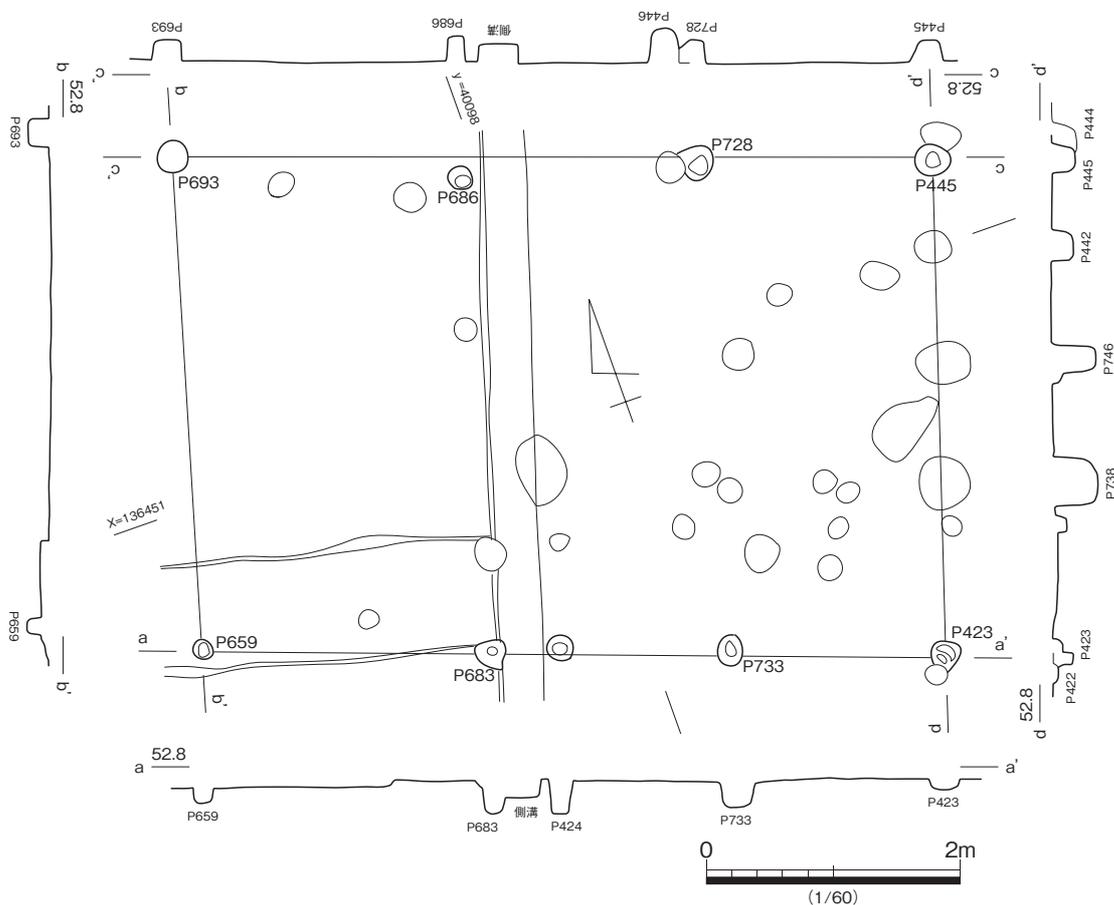
SBj24 (第 38 図)

13 J グリッド東半中央付近で検出した。梁間 4.0 m (2 間) × 桁行 5.9 m (3 間) で床面積 23.6㎡を測る東西棟である。梁間中央に柱穴は認められなかったが 2 間とする。主軸方位は N 19.5° W を測る。柱間は梁間と桁行で概ね似通い、1.6 ~ 2.4 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

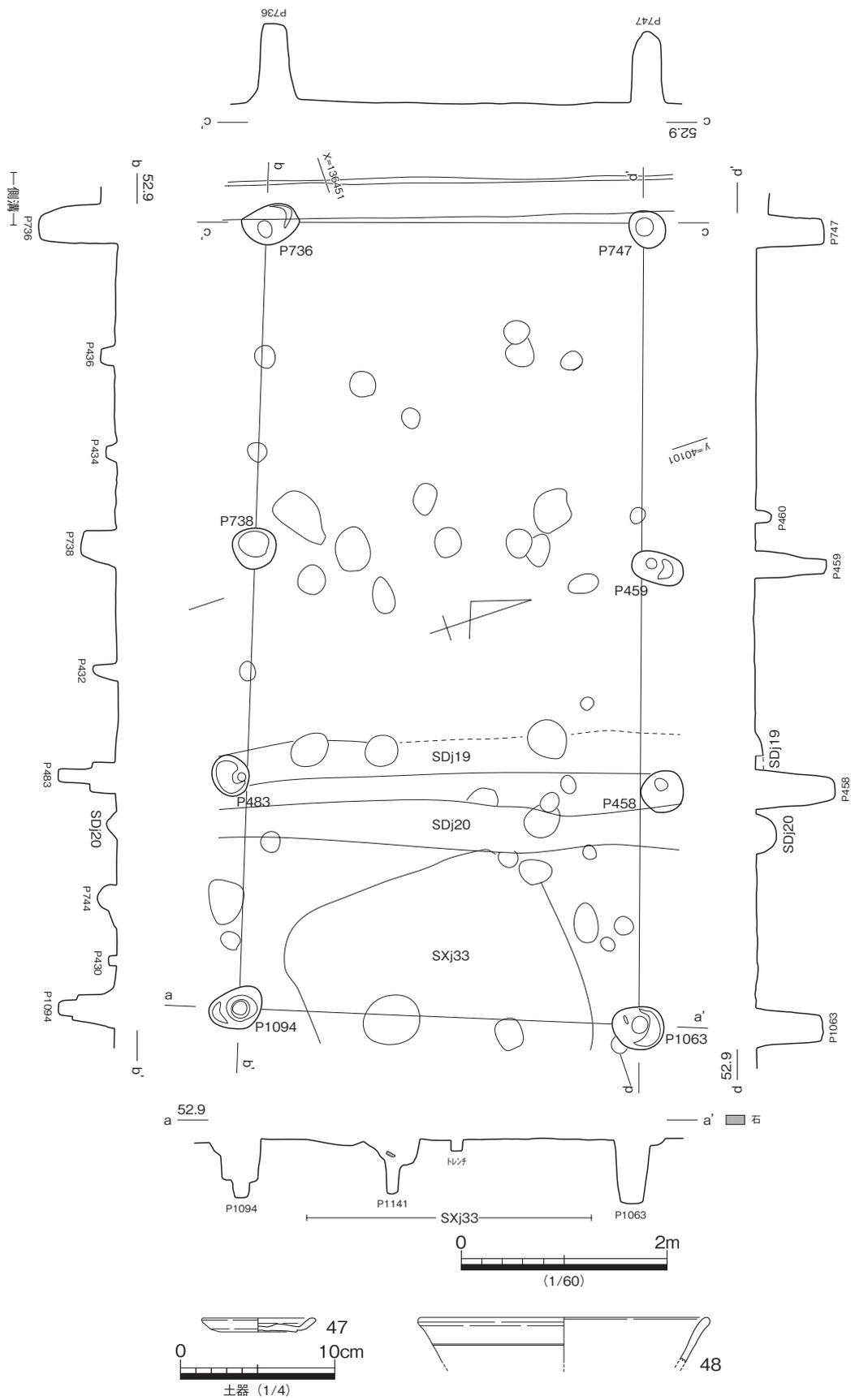
SBj25 (第 39 図)

13 I・J グリッドに亘って検出した。梁間 3.9 m (2 間) × 桁行 7.8 m (3 間) で床面積 30.42㎡を測る東西棟である。主軸方位は N71.5° W を測る。桁行の西 1 間分の幅が桁行の他の部分より広がっている。

47・48 とともに SP1063 から出土している。48 は青磁碗で、体部外面に沈線が 1 条巡っている。



第 38 図 SBj24 平・断面図 (1/60)



第39図 SBj25平・断面図(1/60)、出土遺物(1/4)

出土遺物から中世の建物である。

SBj26 (第40図)

13 I グリッド西辺中央で検出した。梁間 2.3 m (2 間) × 桁行 3.6 m (2 間) で床面積 8.28㎡を測る東西棟である。西側の梁間の中央の柱穴を欠いている。主軸方位は N 18.7° W を測る。桁行の柱間は 1.7 ~ 1.9 m を測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

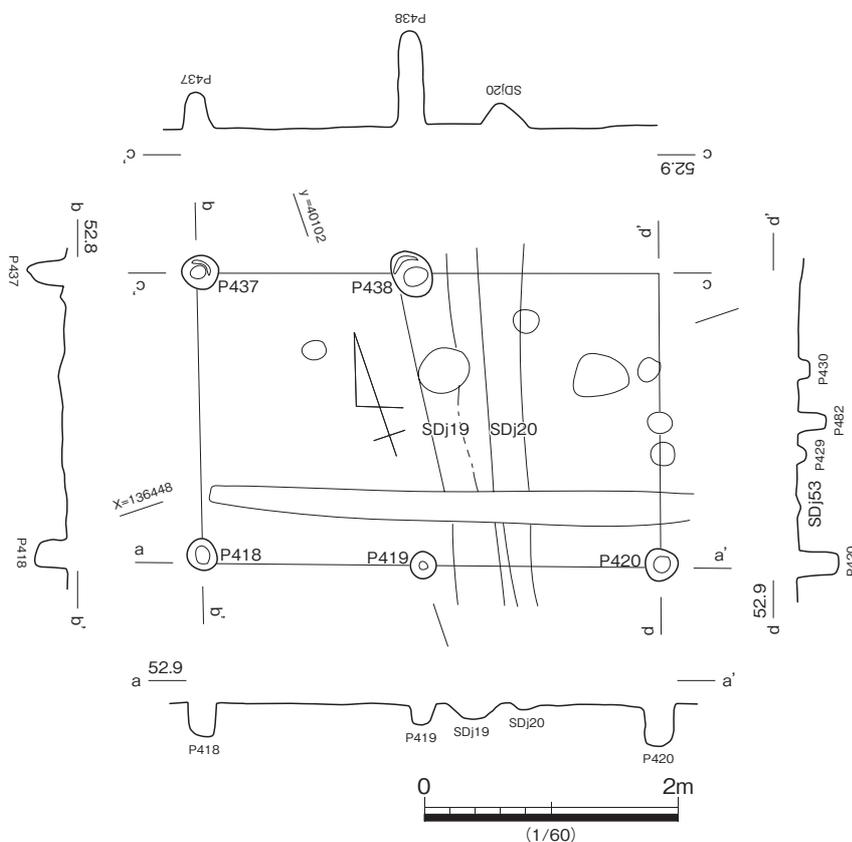
SBj27 (第41図)

13 I グリッド西辺中央で検出した。梁間 4.2 m (2 間) × 桁行 5.35 m (2 間) で床面積 22.47㎡を測る東西棟である。主軸方位は N 71.3° W を測る。柱間は梁間は 1.8 ~ 2.4 m、桁行は 2.3 ~ 3.0 m を測る。SP450 が SP448 の対面に配置され、柱間が整うことから、間仕切りの構造に関わる可能性が考えられる。

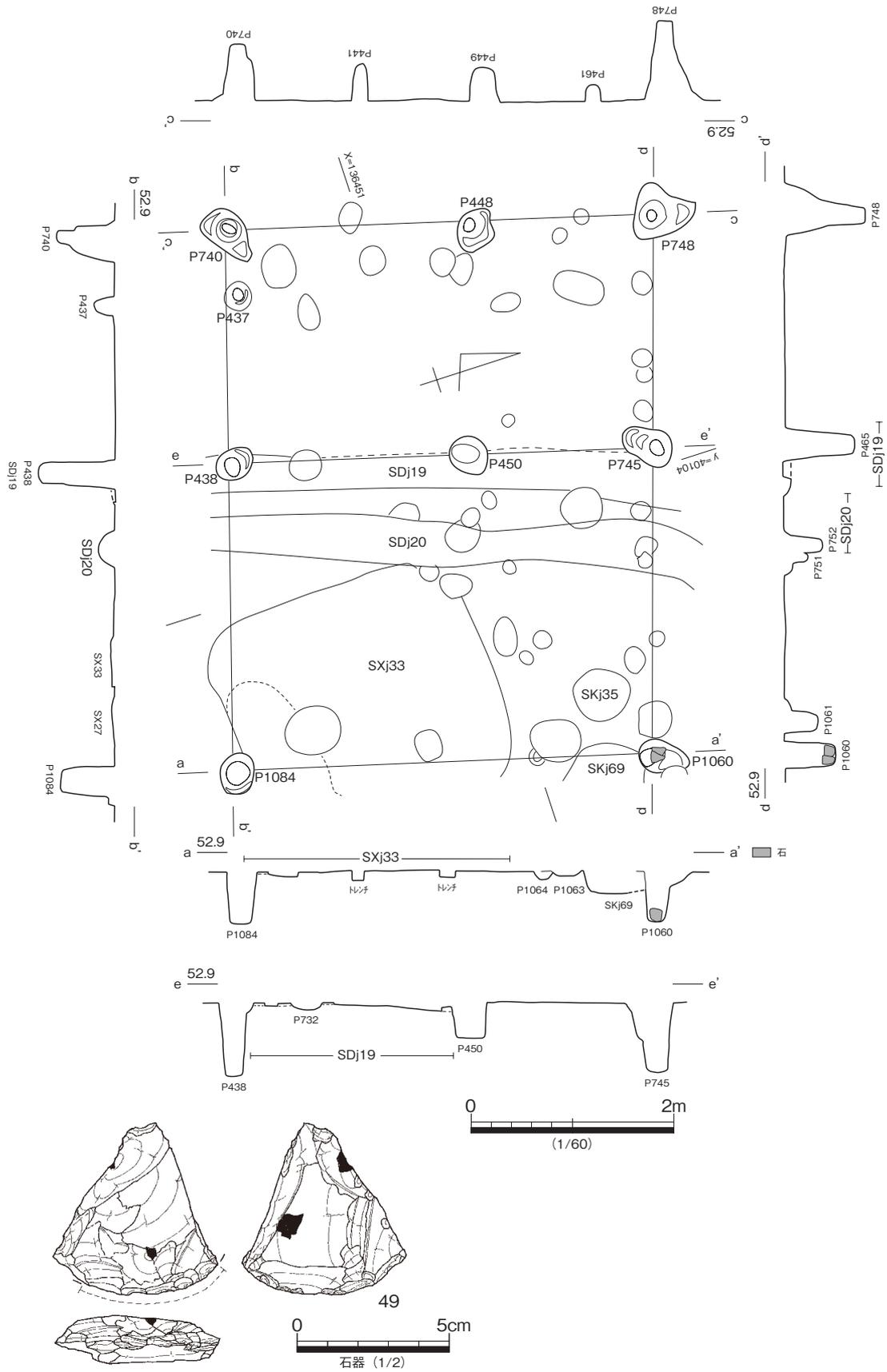
遺物は混入した石器だけであるが、柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

SBj28 (第42・43図)

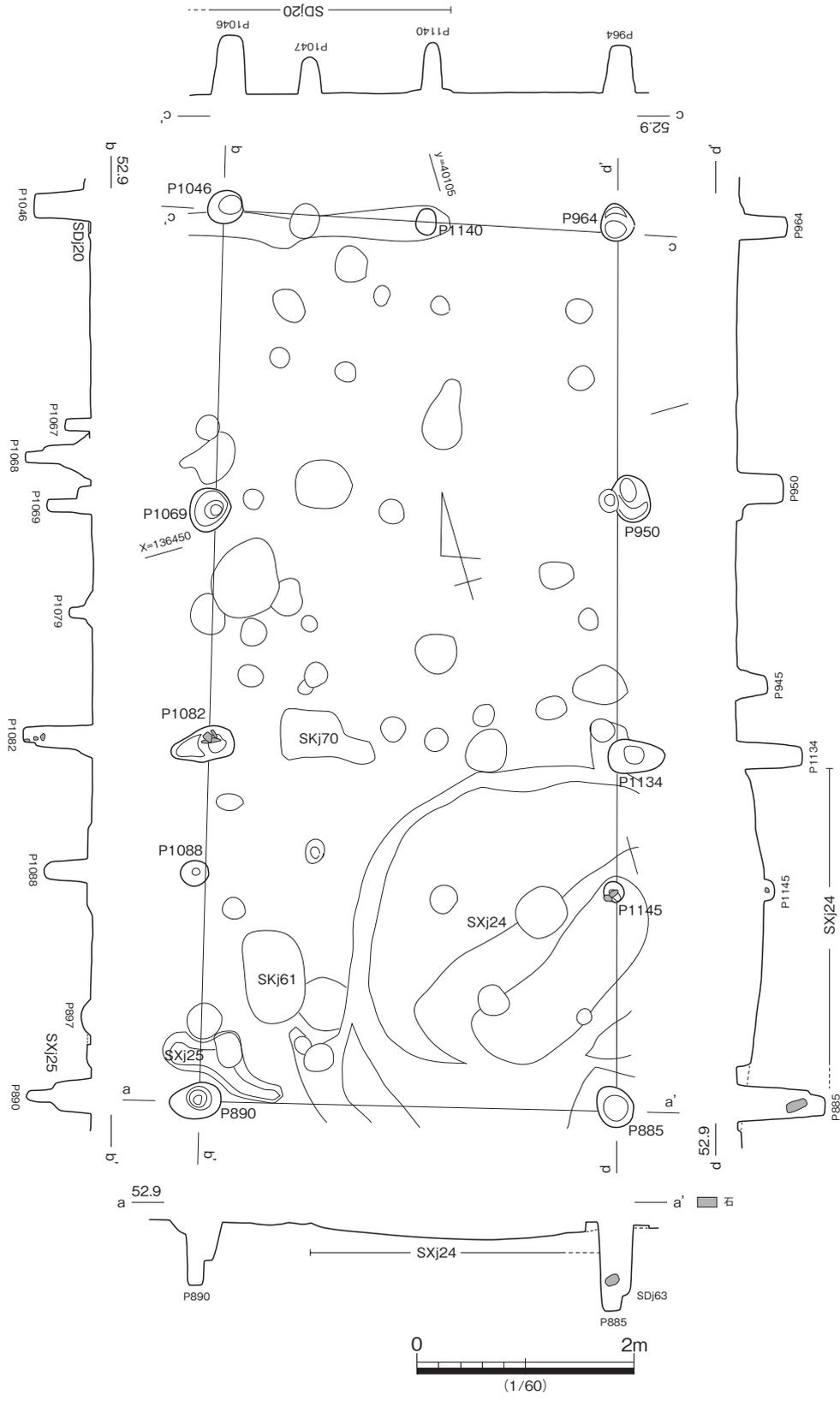
13 I グリッド中央付近で検出した。梁間 3.8 m (1 間) × 桁行 8.2 m (3 間) で床面積 31.16㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 16° E を測る。桁行の柱間は 3 間とも異なっているが、それぞれ正対する位置に柱穴が配置されている。北側の梁間の中央の柱穴は柱筋に乗っているが東西で柱間が異なるこ



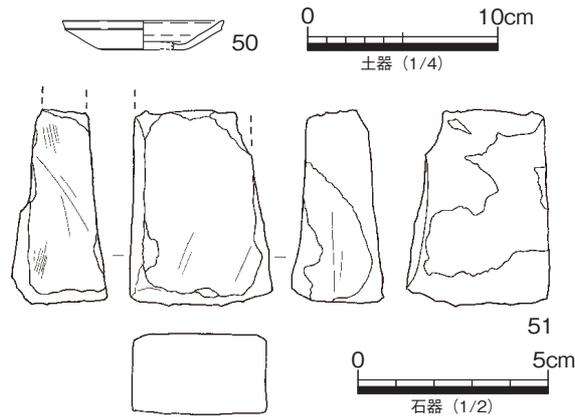
第40図 SBj26 平・断面図 (1/60)



第41図 SBj27平・断面図(1/60)、出土遺物(1/2)



第 42 図 SBj28 平・断面図 (1/60)



第43図 SBj28 出土遺物 (1/4・1/2)

とと、南側梁間中央の柱穴が認められないことから、梁間は1間で復元した。

50・51ともにSP885から出土している。51は流紋岩製の砥石である。

出土遺物から中世の建物である。

SBj29 (第44図)

13 I グリッド南半で検出した。梁間 3.8 m (1 間) × 桁行 7.2 m (3 間) で床面積 27.36㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 16° E を測る。桁行の柱間は 2.2 ~ 2.5 m を測る。建物南西隅に当たる SP899 が SXj61 および SXj24 によって壊されており、これに先行する建物であることがわかる。ただ、両者共に埋土中に焼土塊や炭化物を多量に含むほか、地山ブロックを多量に含むことから、短期間での埋め戻しが想定される遺構である。一方で、SBj29 を構成する柱穴も同様に炭化物や焼土を含んでいる。これらの遺構から出土したものには SP899 から出土した 53・54 のように片側に平坦面を持ち、太さ 1cm 程度の円柱状圧痕が認められる壁土がある。これは壁面と壁土の中に塗り込められた心材とみられ、建物が土壁であったことを示している。このことから、SBj29 が火災で焼失し、その片付けとして SKj61 や SXj24 が掘削され、廃材が埋め立てられたものと考えられる。

52 は SP944 から出土した土師器小皿である。体部外面は強くナデている。

出土遺物から中世の建物である。

SBj30 (第45図)

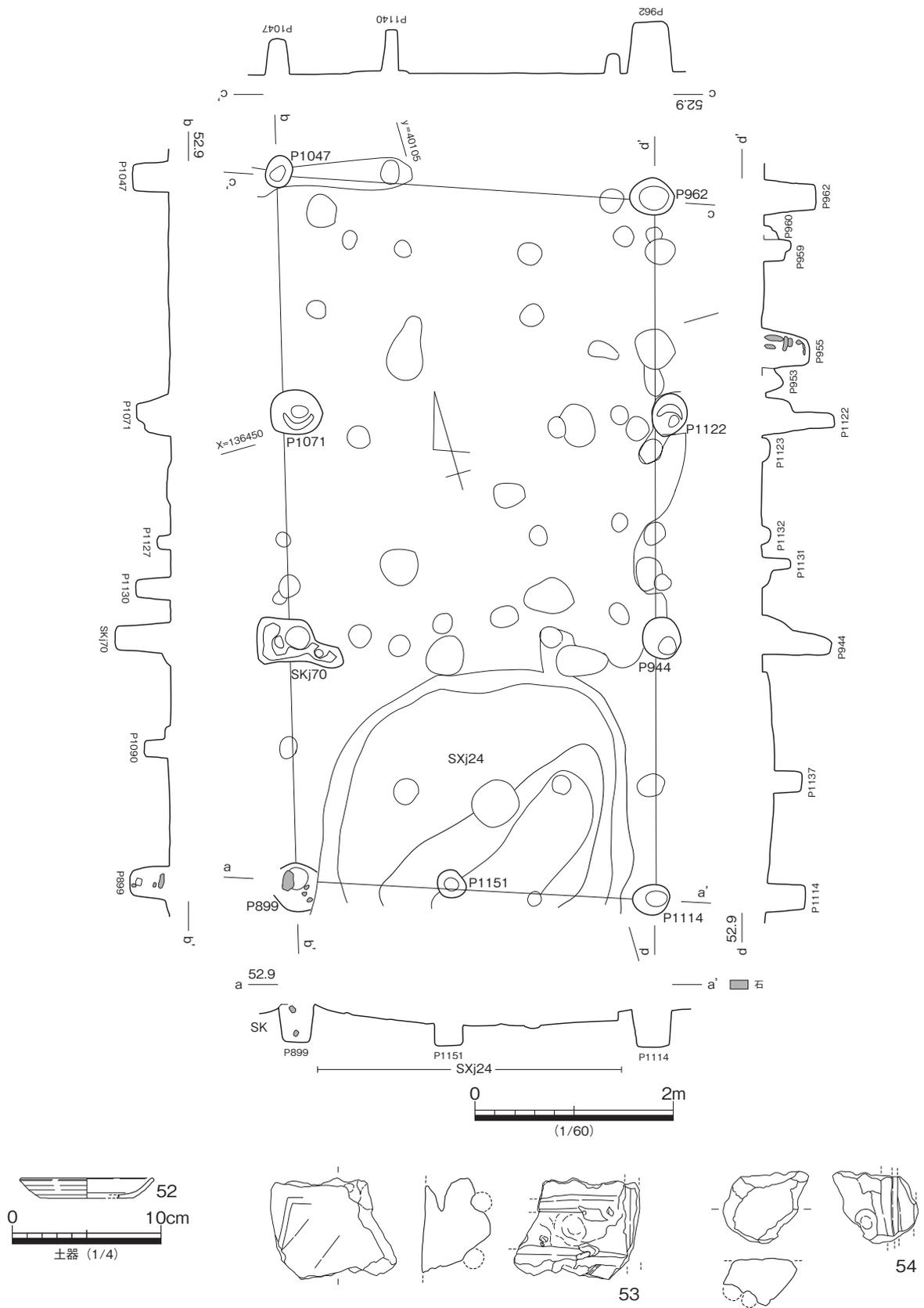
13 I グリッド中央で検出した。梁間 2.8 m (1 間) × 桁行 4.0 m (2 間) で床面積 11.2㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 16.2° E を測る。桁行の柱間は 1.8 ~ 2 m を測る。

出土遺物は小片が中心のため詳細不明であるが、柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。

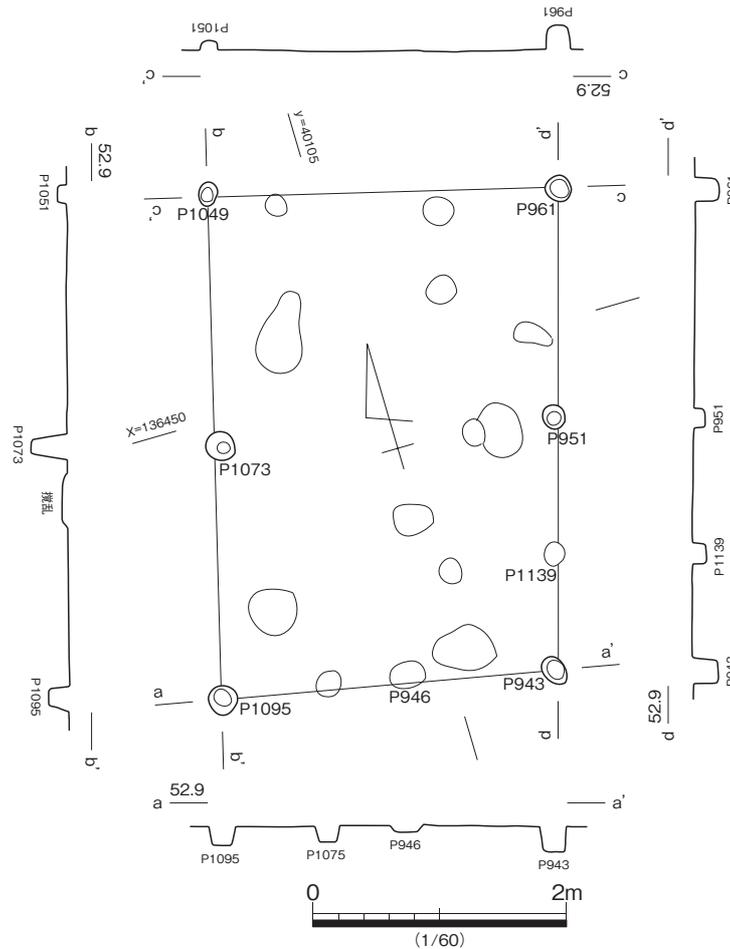
SBj31 (第46図)

13 H・I グリッド中央で検出した。梁間 3.2 m (2 間) × 桁行 8.4 m (3 間) で床面積 26.88㎡を測る東西棟である。主軸方位は N 72.3° W を測る。柱間は梁間は 1.55 ~ 1.6 m、桁行は 2.7 ~ 2.9 m を測る。大半の柱穴で詰石が認められた。

55 は SP244 から、56 は SP988 から出土した土師器杯である。



第 44 図 SBj29 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



第 45 図 SBj30 平・断面図 (1/60)

出土遺物から中世の建物である。

SBj32 (第 47 図)

13 I グリッド南東隅で検出した。梁間 3.9 m (1 間) × 桁行 10.3 m (7 間) で床面積 40.17m²を測る南北棟である。主軸方位は N 15.5° E を測る。南北に長い建物で、桁行の柱間は 1.4 m 前後で狭くなっている。

57 は SP813 から出土した土師器鉢である。

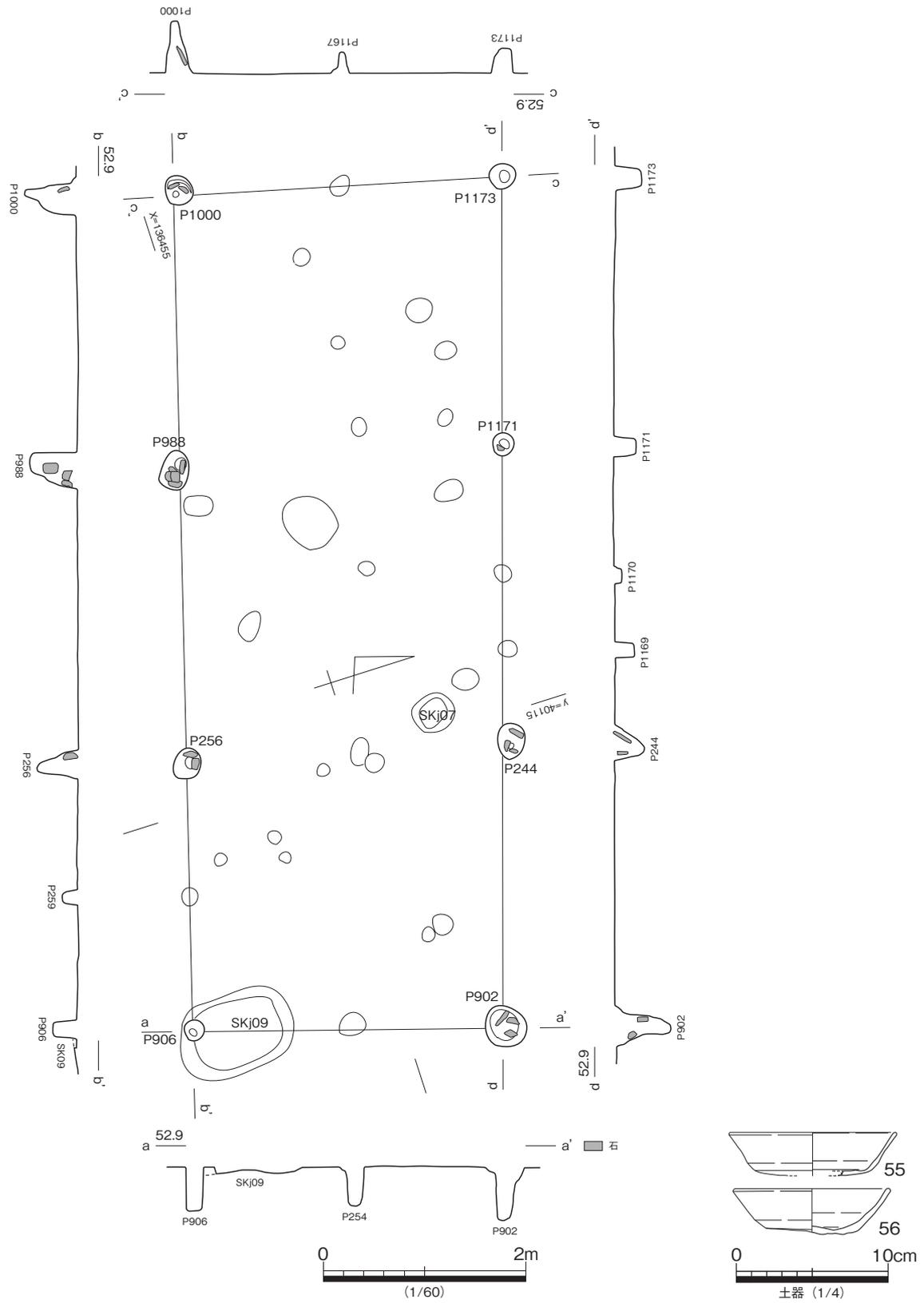
出土遺物から中世の建物である。

SBj33 (第 48 図)

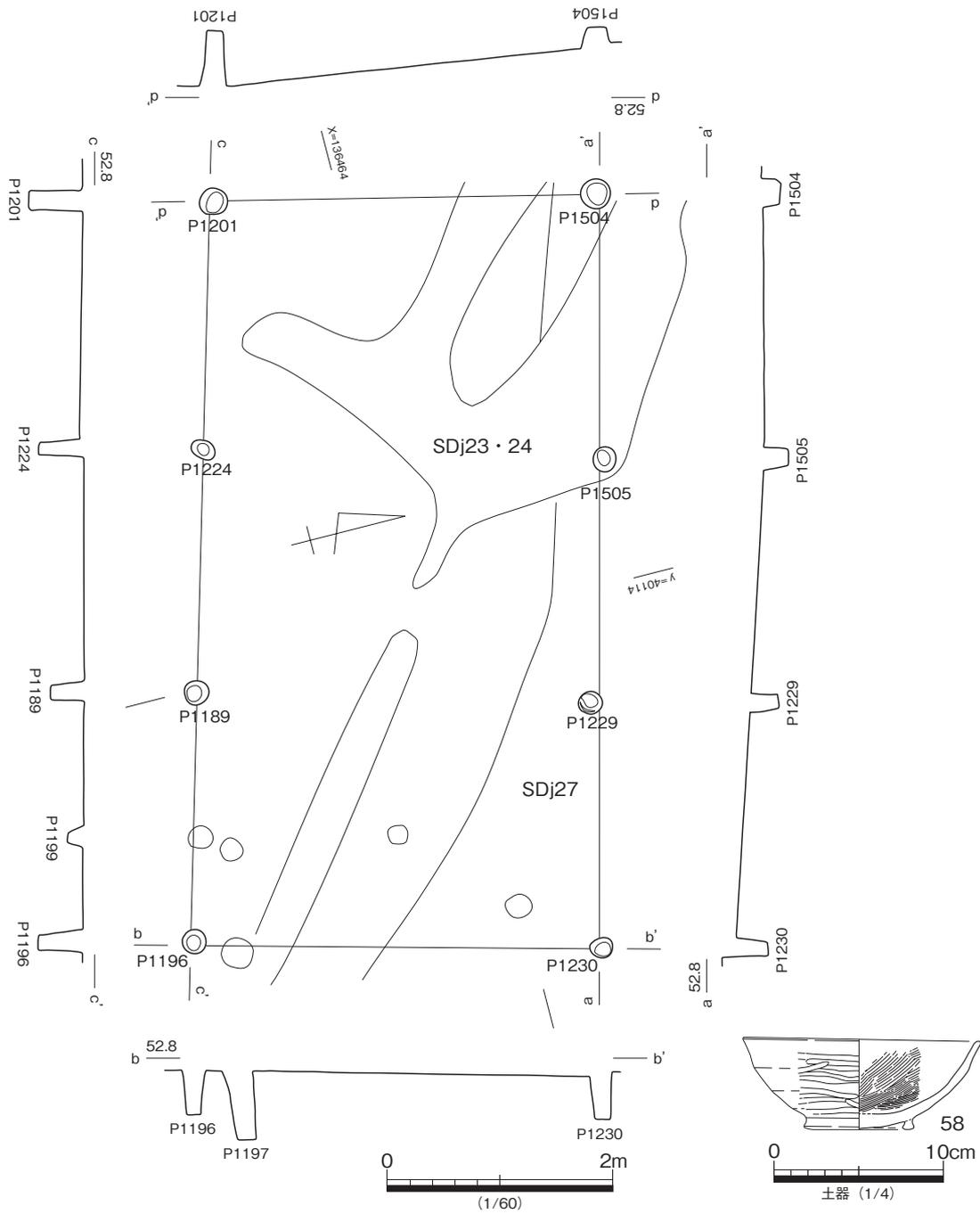
14 I グリッド中央で検出した。梁間 3.5 m (1 間) × 桁行 6.7 m (3 間) で床面積 23.45m²を測る東西棟である。主軸方位は N 74.5° W で、桁行の柱間は 2.3 m である。

58 は SP1504 から出土した十瓶山産須恵器椀である。口縁部外面を強くナデている。

出土遺物から中世前半期の建物である。



第46図 SBj31 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)



第 48 図 SBj33 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj34 (第 49 図)

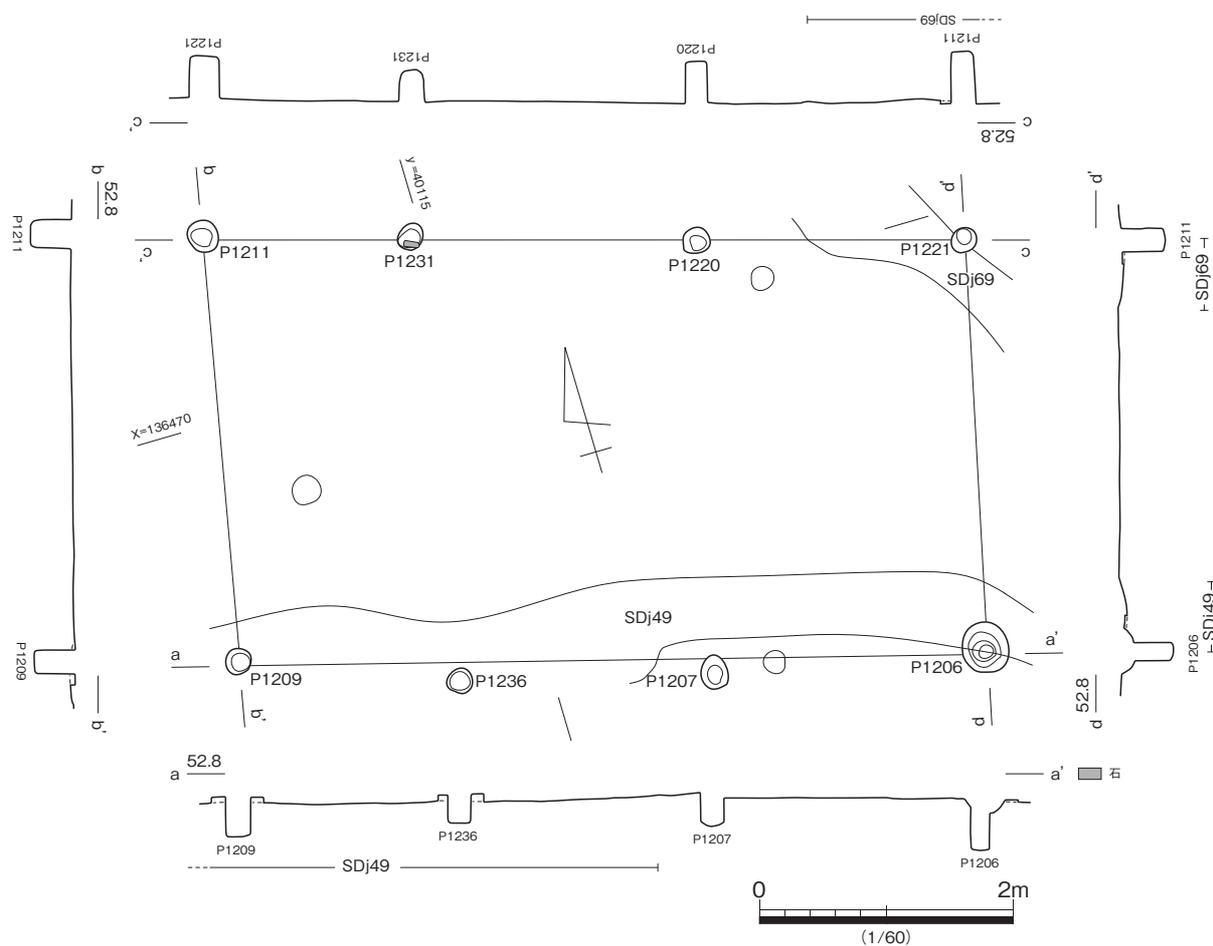
13・14 I グリッドに亘り検出した。梁間 3.4 m (1 間) × 桁行 6.6 m (3 間) で床面積 22.44㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 11.6° E を測る。桁行の柱間は 1.7 ~ 2.8 m で、東側の桁行の柱穴 SP1175 は少し東側にずれている。

59 は SP488 から出土した土師器杯、60 は SP1175 から出土した須恵器甕である。

出土遺物から中世の建物である。

SBj36 (第 50 図)

14 I グリッド東半中央で検出した。梁間 3.3 m (1 間) × 桁行 5.9 m (3 間) で床面積 19.47㎡を測る東西棟である。主軸方位はN 73.7° Wを測る。西側の梁間は多少ずれている。桁行の柱間は 1.6 ~ 2.2 mを測る。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



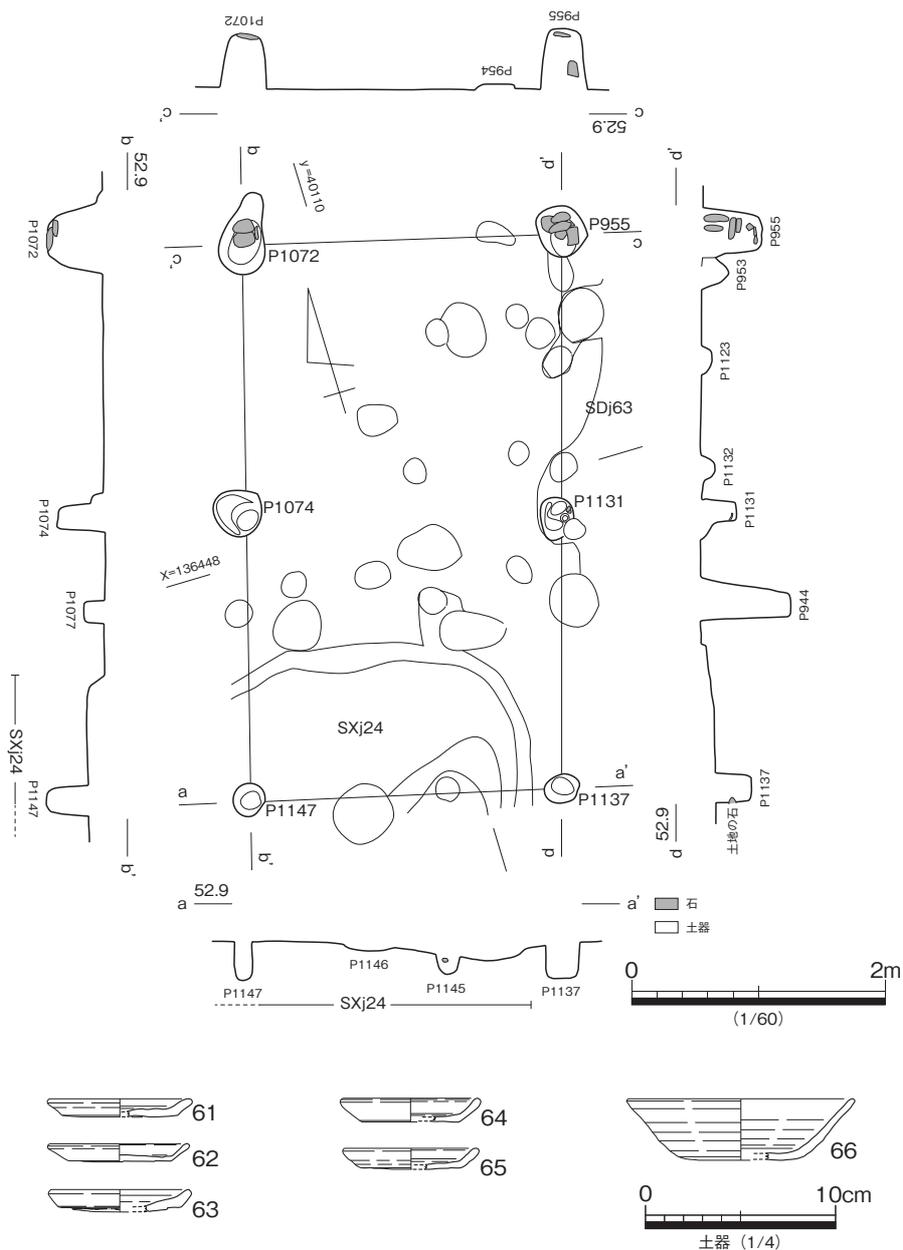
第 50 図 SBj36 平・断面図 (1/60)

SBj38 (第 52 図)

13 I グリッド中央付近で検出した。梁間 2.5 m (1 間) × 桁行 4.4 m (2 間) で床面積 11.0㎡を測る南北棟である。主軸方位は N 16.6° E を測る。桁行の柱間は 2.2 m を測る。北辺の柱列には根石及び詰石が認められる。

61・65 が SP955 から、66 が SP1072 から、63 が SP1074 から、62・64 が SP1131 からそれぞれ出土している。61～65 は土師器小皿で、63 の底部は突出している。66 は土師器杯である。

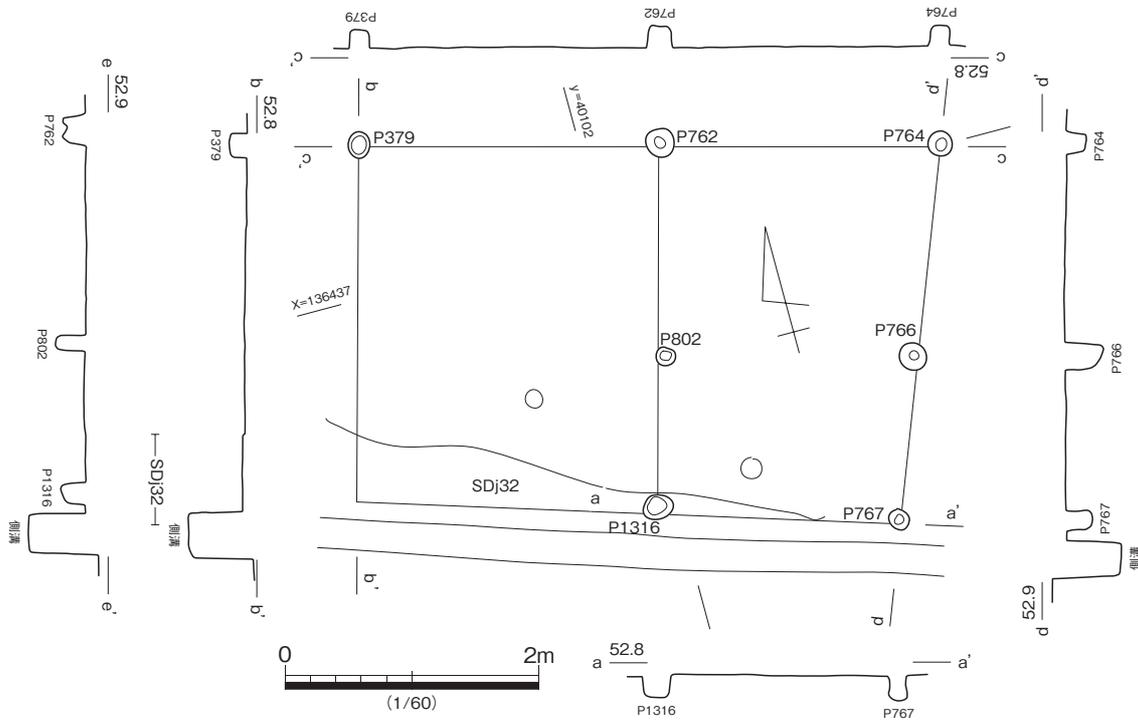
出土遺物から中世の建物である。



第 52 図 SBj38 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj39 (第 53 図)

12 I グリッド北西隅で検出した。梁間 3.0 m (2 間) × 桁行 4.6 m (2 間) で床面積 13.8㎡を測る東西棟である。主軸方位は N 78.78° W を測る。東側の梁間は斜めになり、西側の梁間は柱穴を 2 基欠いている。やや歪な平面形態であり、柱穴の多くが浅く欠落するものもあるが、建物として復元した。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



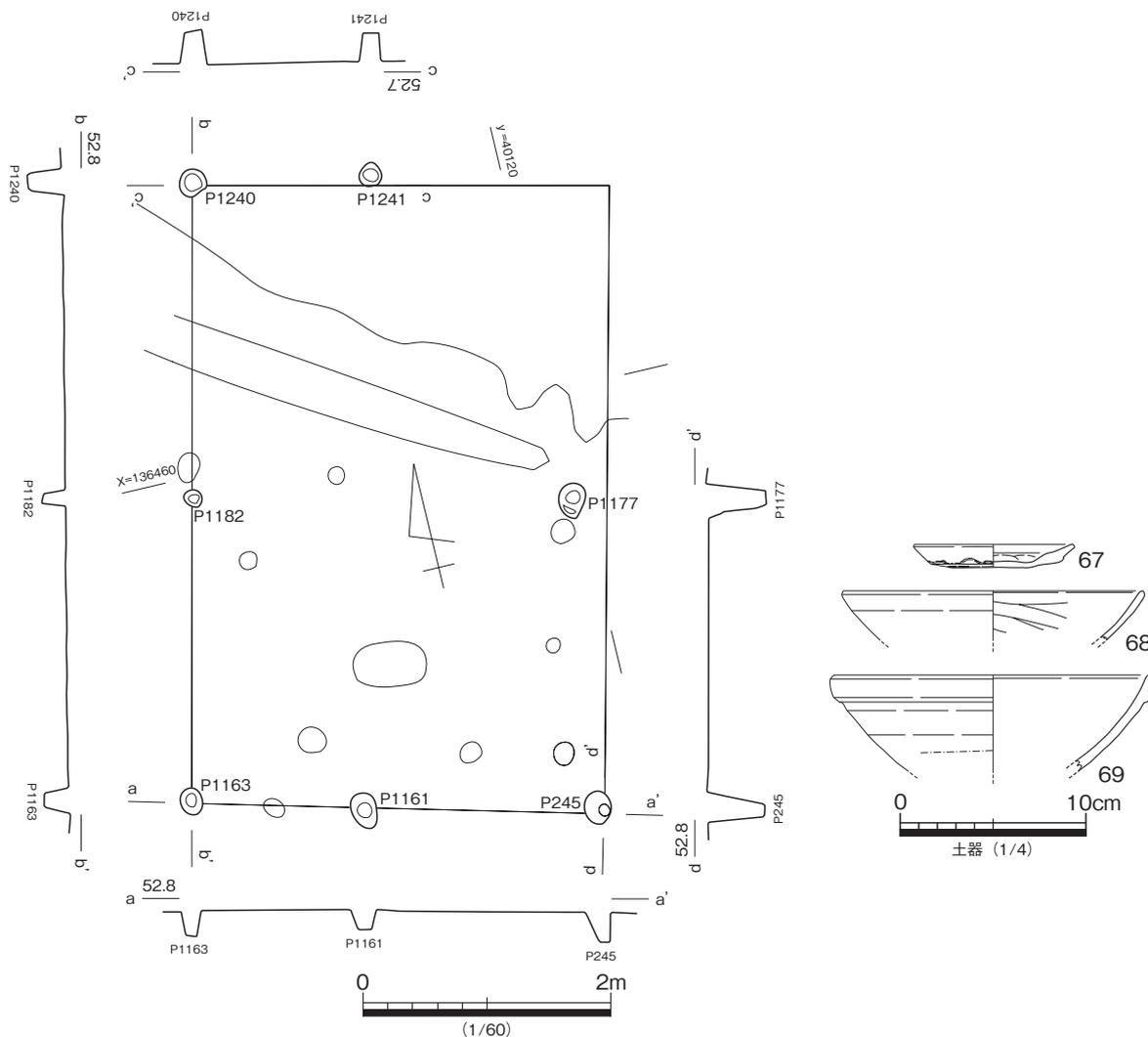
第 53 図 SBj39 平・断面図 (1/60)

SBj40 (第 54 図)

14 I グリッド付近で検出した。梁間 3.35 m (2 間) × 桁行 5.0 m (2 間) で床面積 16.75m²を測る南北棟である。主軸方位はN 135° Eを測る。柱間は梁間は 1.4 ~ 1.9 m、桁行は 2.5 mを測る。梁間は南北共に同じ柱間配置となることから、意図的に柱間を変えている可能性が考えられる。また東側の桁行の北隅柱は認められず、中央の柱穴は柱筋より内側になっている。

遺物はすべて SP245 から出土している。67 の土師器小皿と共に、69 の口縁部が玉縁になる白磁碗Ⅳ類が出土している。

出土遺物から中世前半 (12 世紀) の建物である。

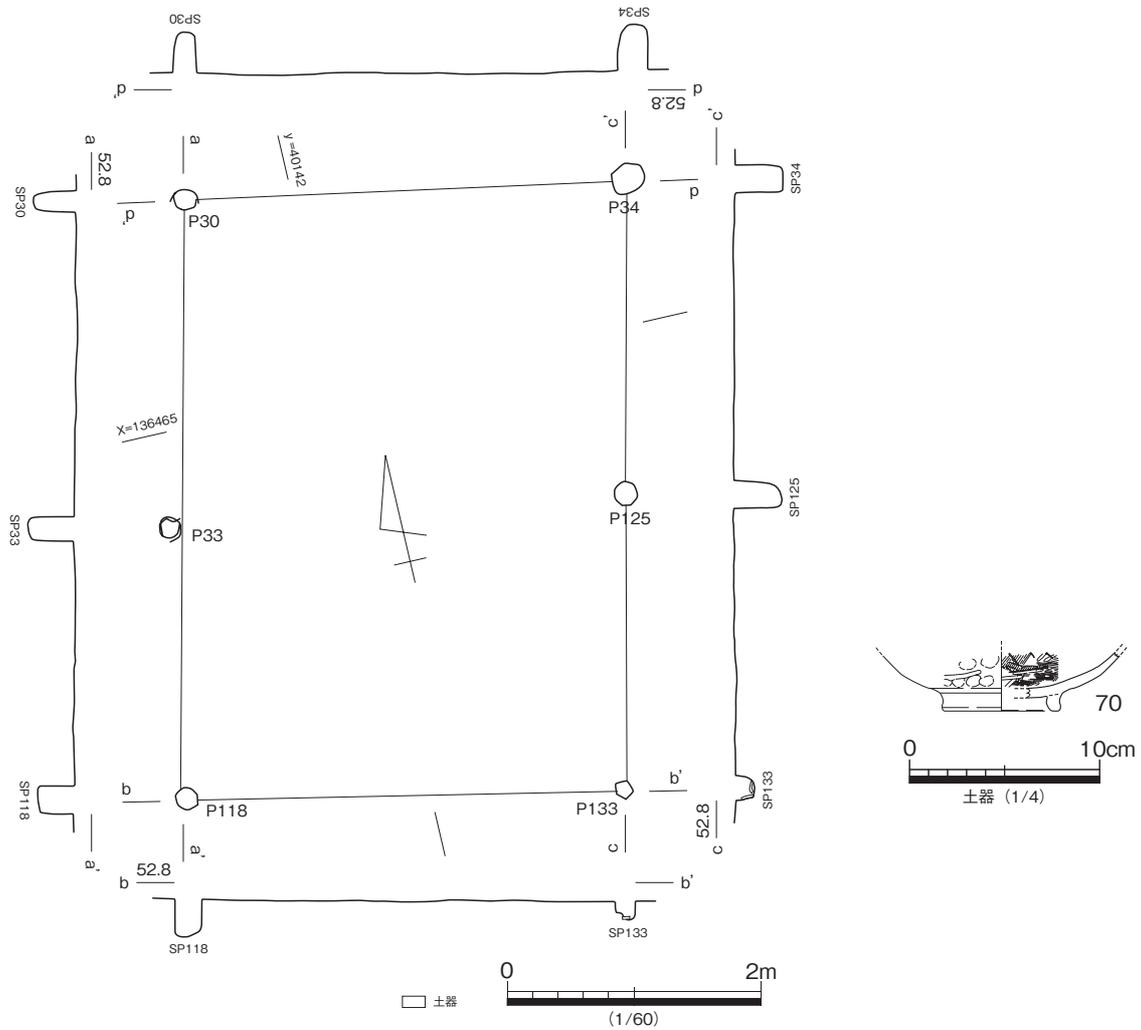


第 54 図 SBj40 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj41 (第 55 図)

14 G グリッド中央で検出した。梁間 3.5 m (1 間) × 桁行 4.85 m (2 間) で床面積 16.98㎡ の南北棟である。主軸方位は N 12° E を測る。柱穴は全体に小さく、桁行の柱間は 2.45 m である。

70 は SP33 から出土した黒色土器碗である。体部内面はハケ目の後にヘラミガキを施している。出土遺物から中世の建物である。



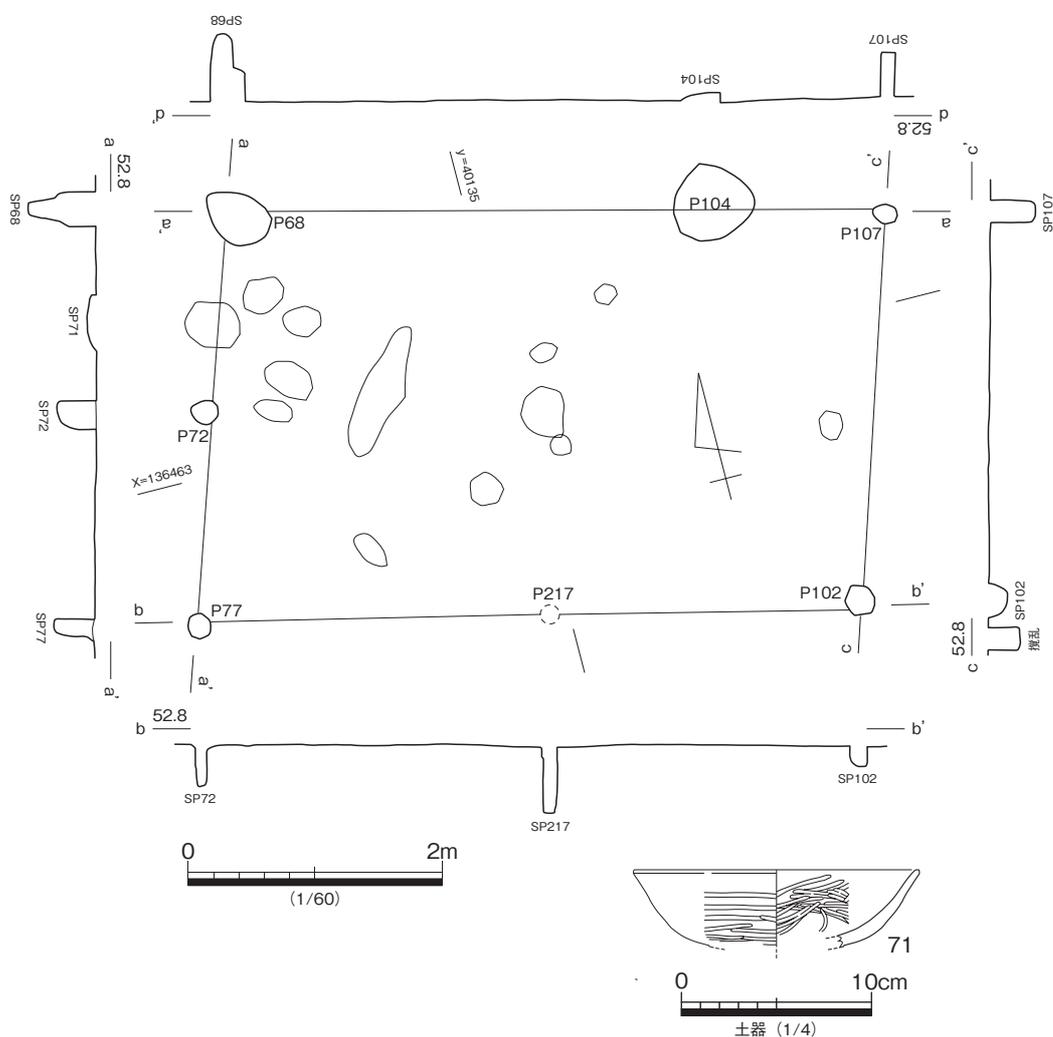
第 55 図 SBj41 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj42 (第 56 図)

14 H グリッド 東部で検出した。梁間 3.2 m (2 間) × 桁行 5.2 m (2 間) で床面積 16.64m² の東西棟である。主軸方位は N 77° W を測る。東側の梁間中央の柱穴と、北側の桁行の中央の柱穴を欠くが、建物として復元した。南東の隅柱の SP102 は他に比べて浅くなっている。SP104 は北側の桁行上にあるが、対応する柱穴はなく建物を構成する他の柱穴に比べて規模も大きく位置的にも不自然であることから、積極的にこの建物の柱穴とは言い難い。

71 は上記の SP104 から出土している十瓶山産須恵器碗である。

71 が直接この建物の時期を示すとは言い難いが、これを加味すると柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



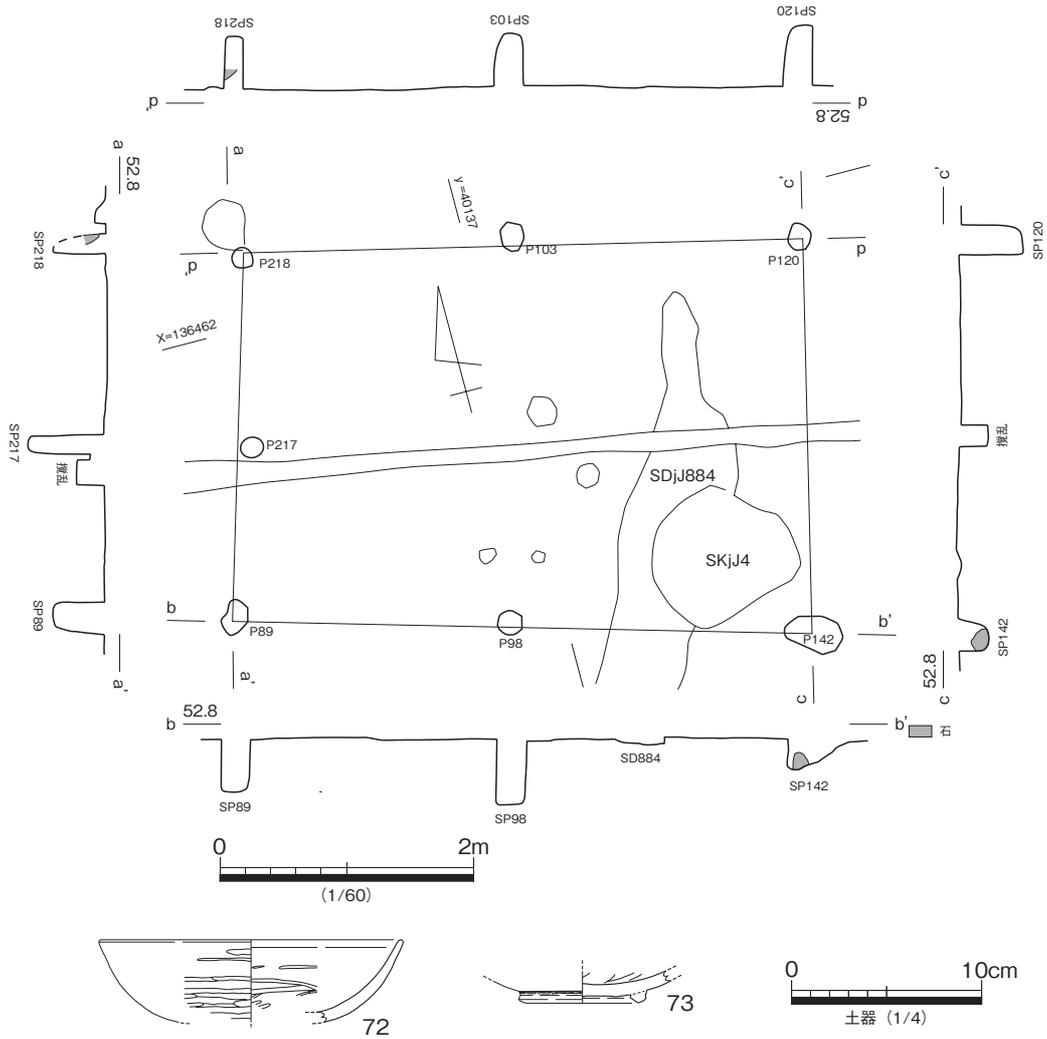
第 56 図 SBj42 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj43 (第 57 図)

14 G～14 Hグリッドにかけての南部で検出した。梁間 3.1 m (2 間) × 桁行 4.5 m (2 間) で床面積 13.95㎡の東西棟である。主軸方位は N 74° W を測る。梁間の西側中央の柱穴は柱筋よりやや内側に入り、東側は攪乱部分にあたり検出されなかった。南東の隅の SP142 には根石が認められたが、他の柱穴より浅くなっている。柱間は梁間で 1.55 m、桁行で 2.2～2.3 m である。

72 は SP120 から、73 は SP103 から出土しており、両者とも十瓶山産須恵器椀である。

出土遺物から中世の建物である。



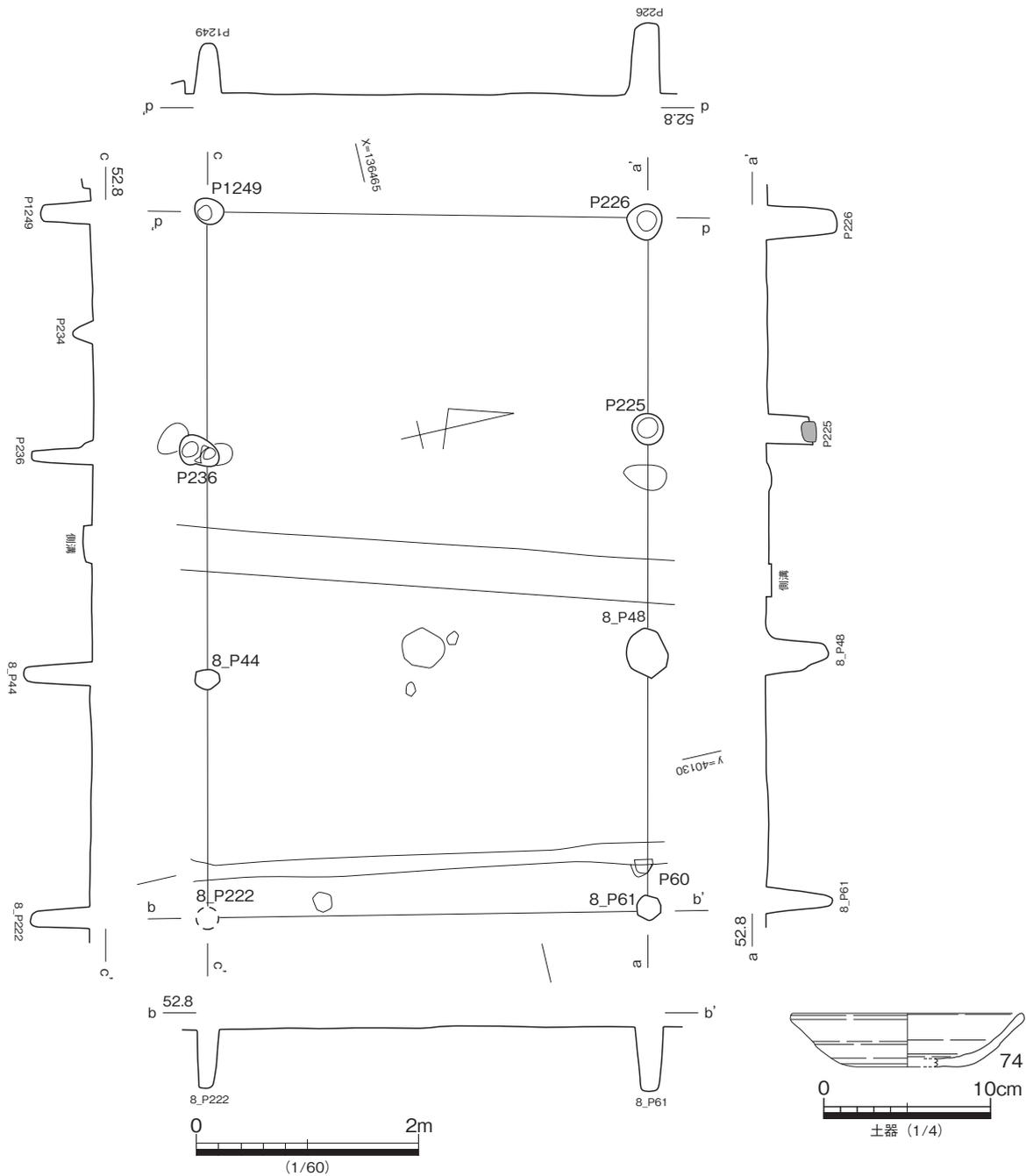
第 57 図 SBj43 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj44 (第 58 図)

14 H グリッド西部で検出した。梁間 3.95 m (1 間) × 桁行 6.3 m (3 間) で床面積 24.89㎡ の東西棟である。主軸方位は N 77° W を測る。梁間は東西とも中央に柱穴は認められず幅広の 1 間となっている。また南東隅の柱穴も認められなかった。桁行の柱間は 2.1 m と均等に配置されている。

74 は SP1249 から出土した土師器杯である。体部上半を強くナデている。

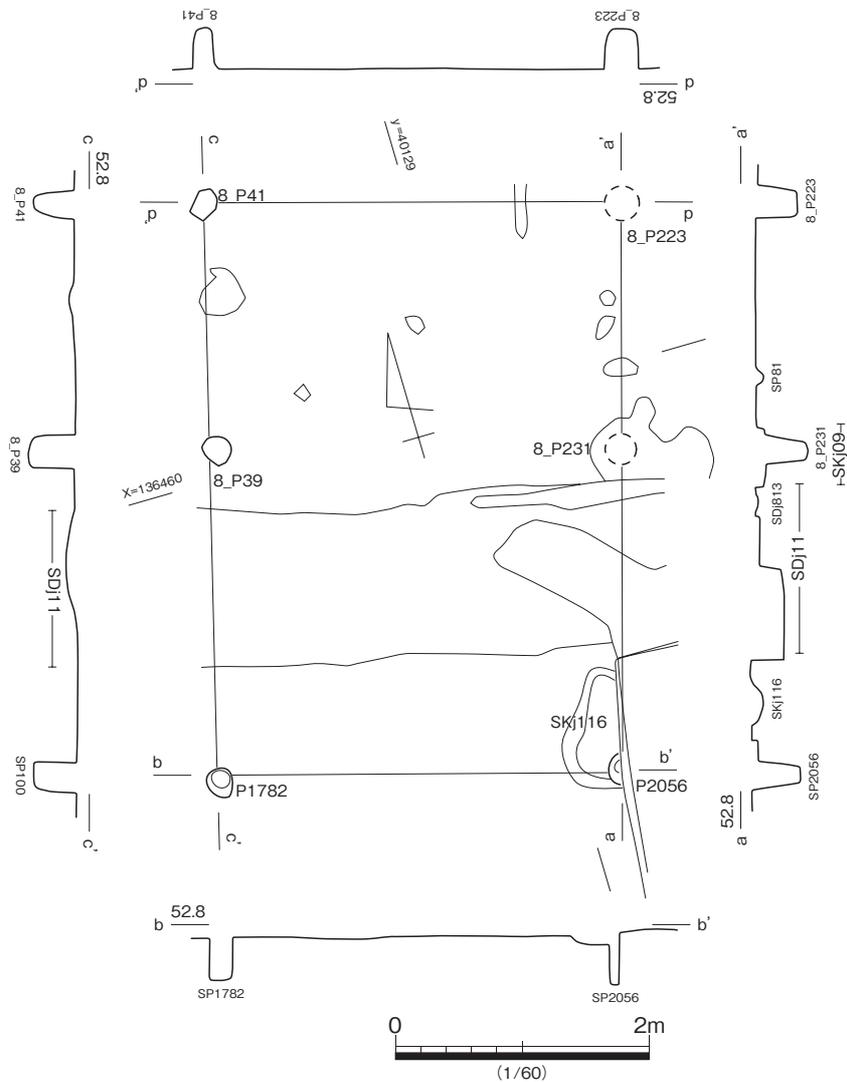
出土遺物から中世の建物である。



第 58 図 SBj44 平・断面図 (1/60)、出土遺物 (1/4)

SBj45 (第 59 図)

14 H グリッド南部で検出した。梁間 3.3 m (1 間) × 桁行 4.55 m (2 間) で床面積 15.02m²の南北棟である。主軸方位は N 15° E を測る。東側の桁行の柱穴は他の遺構に壊されていたりして検出されなかったり、部分的にしか検出されなかったが、建物として復元した。桁行の柱間は 2.0 m と 2.55 m と不揃いである。柱穴の埋土や建物の方向などから中世の建物とする。



第 59 図 SBj45 平・断面図 (1/60)

柵列

SAj01 (第60図)

14 K・14 L・15 Kにかけて検出した。長さ17.2 mで7間の規模をもつ長大な柵列である。柱間は2.4 mの部分が多いが、1.8 mや3.0 mの箇所もある。また南端の柱穴は平面形が楕円形で他のものに比べてかなり大きくなっているが、深さは他のものとほぼ同じであり、間隔も同じであることからこれも柱穴に含めて柵列の端とした。主軸方位はN 18° Eで、この柵列の東西にあるSBj06、SBj07とほぼ同じ方位である。埋土や周囲の建物の方向との関係から中世の柵列である。

小穴出土の遺物 (第61～65図)

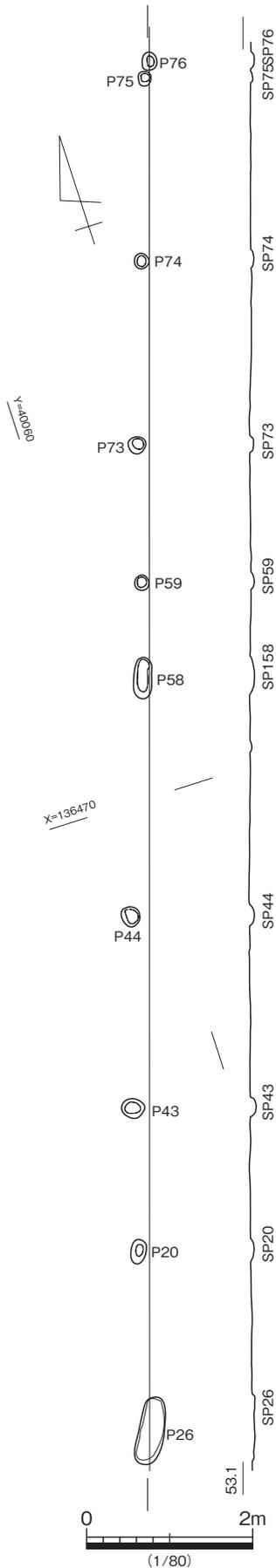
75～219は建物を構成しない小穴から出土した遺物である。

80は黒色土器A類の椀で、内・外面にヘラミガキを丁寧に施している。87は和泉型瓦器椀で体部外面には指押さえが顕著である。内面の暗文になるヘラミガキは雑である。101は土師器杯で全体に回転ナデで整形している。底部はヘラ切りの後に板状圧痕が認められる。

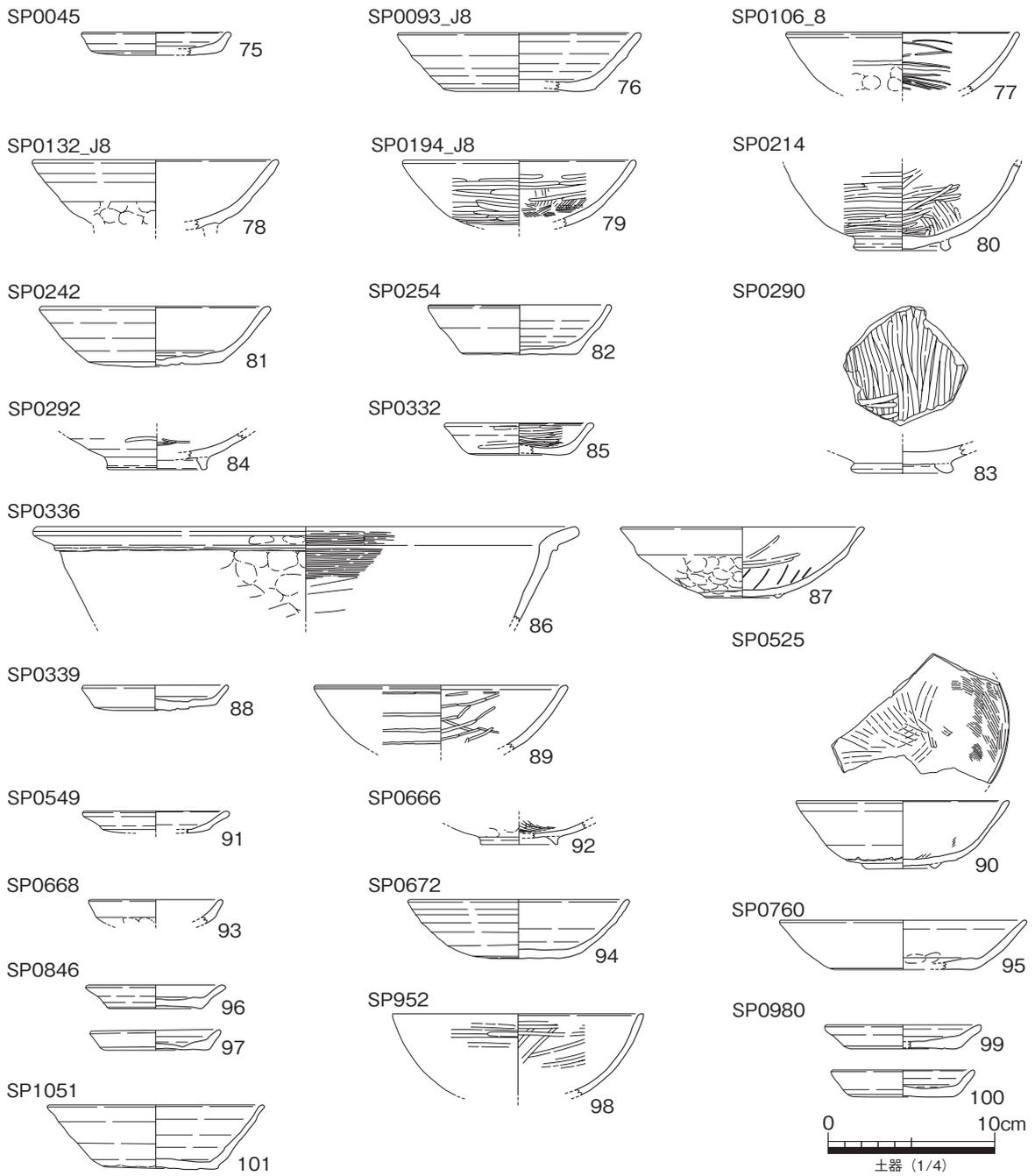
102～118はSP1115から一括で出土している。このうち102～117は土師器杯でいずれも回転ナデで整形している。これらの口径は平均で10.8cm、器高2.9cmである。

123は和泉型瓦器で体部外面には指押さえが顕著であるが、口縁部外面にはヘラミガキを施している。136は黒色土器皿で体部の内・外面にはヘラミガキを施している。140は和泉型瓦器椀である。142は流紋岩製の砥石、143は白磁の皿、144は黒色土器A類の椀、149・189は軒平瓦である。

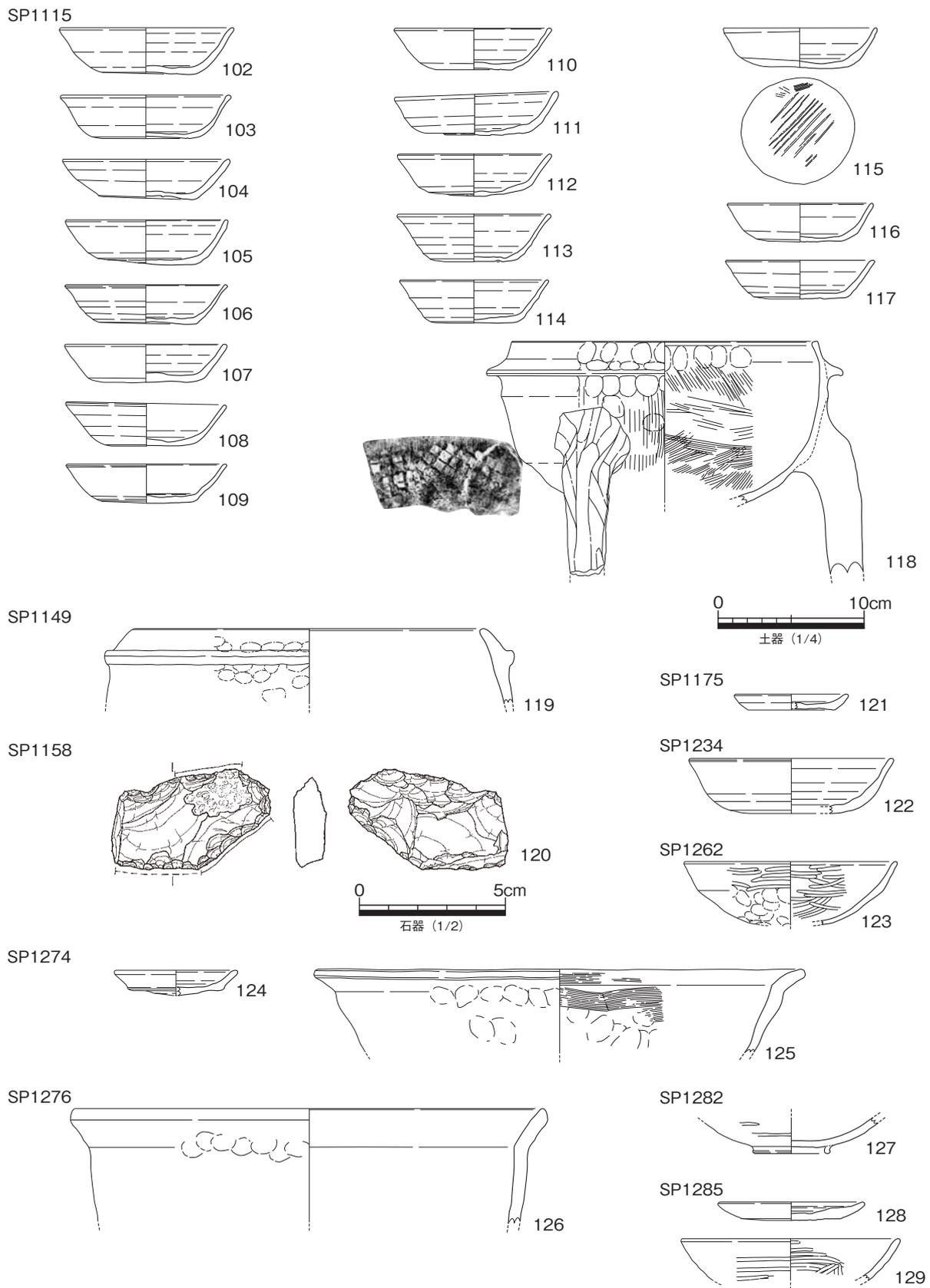
154・156・208は土師器の脚台付き小皿で、154の皿部の底部中央には穿孔が施されている。172は土師器の耳皿、173は和泉型瓦器椀、185は白磁碗で口縁部は玉縁になっている。209は壁土、219は滑石製の石鍋である。



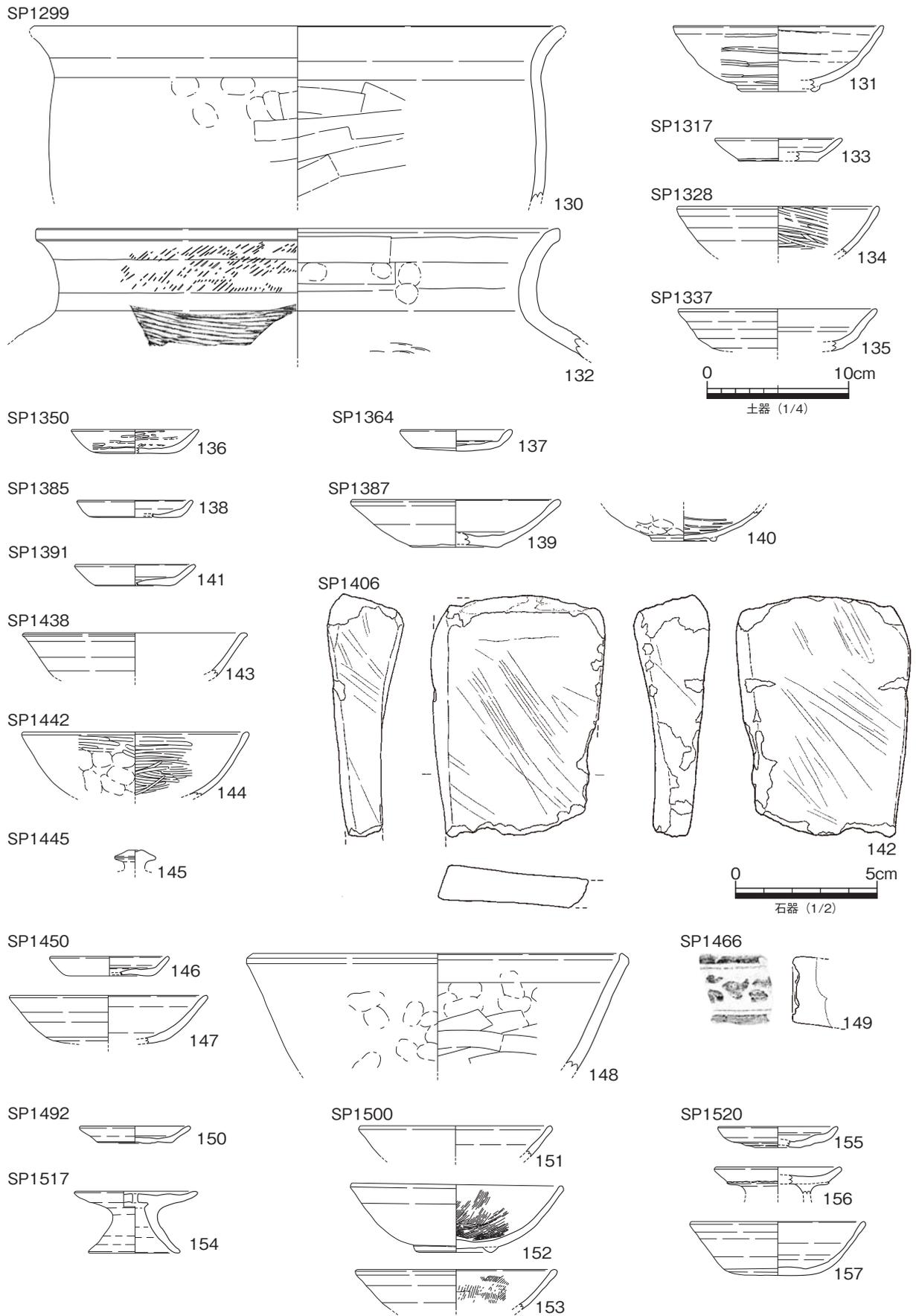
第60図 SAj01 平・断面図 (1/80)



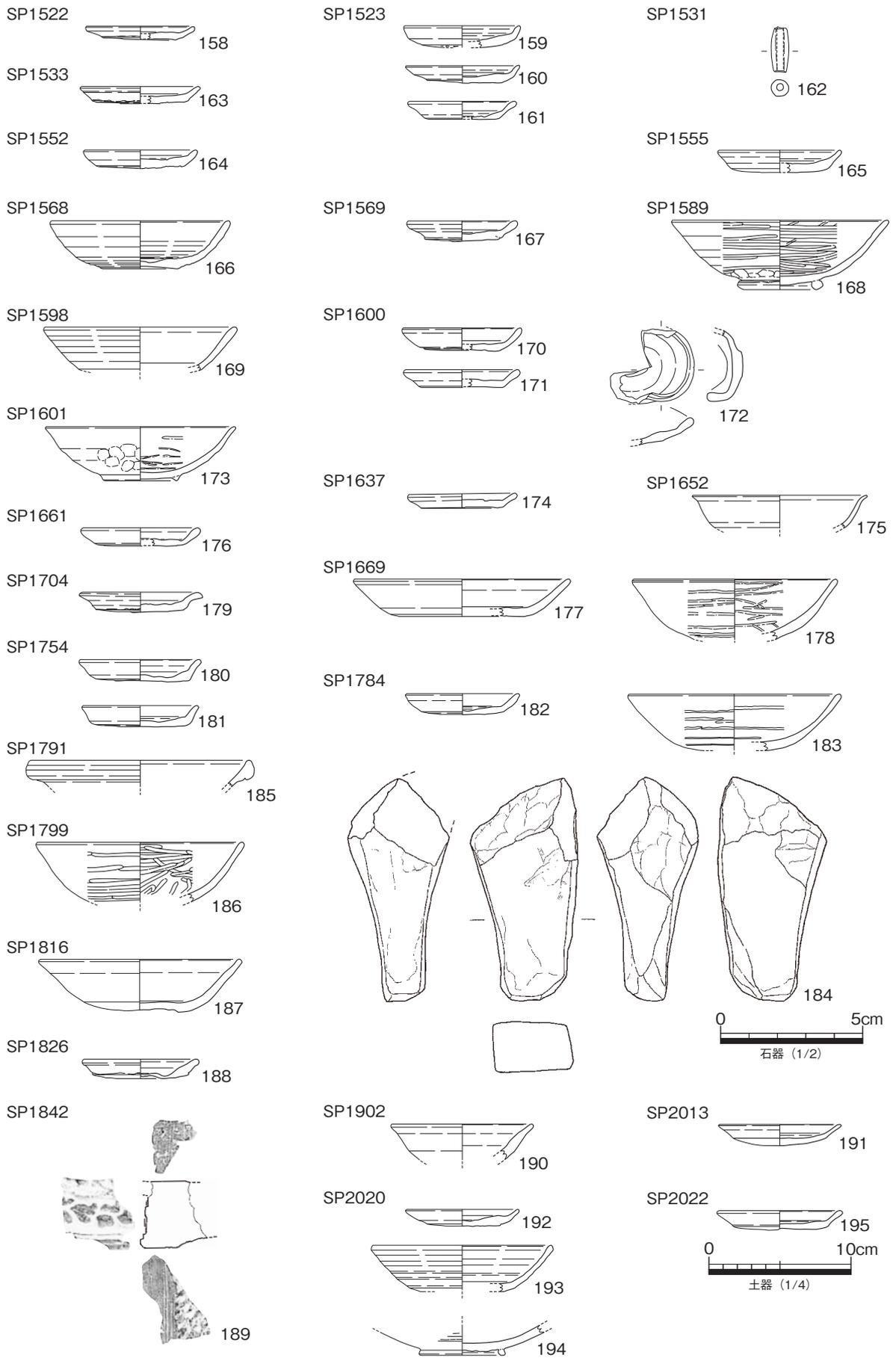
第 61 図 SP 出土遺物 1 (1/4)



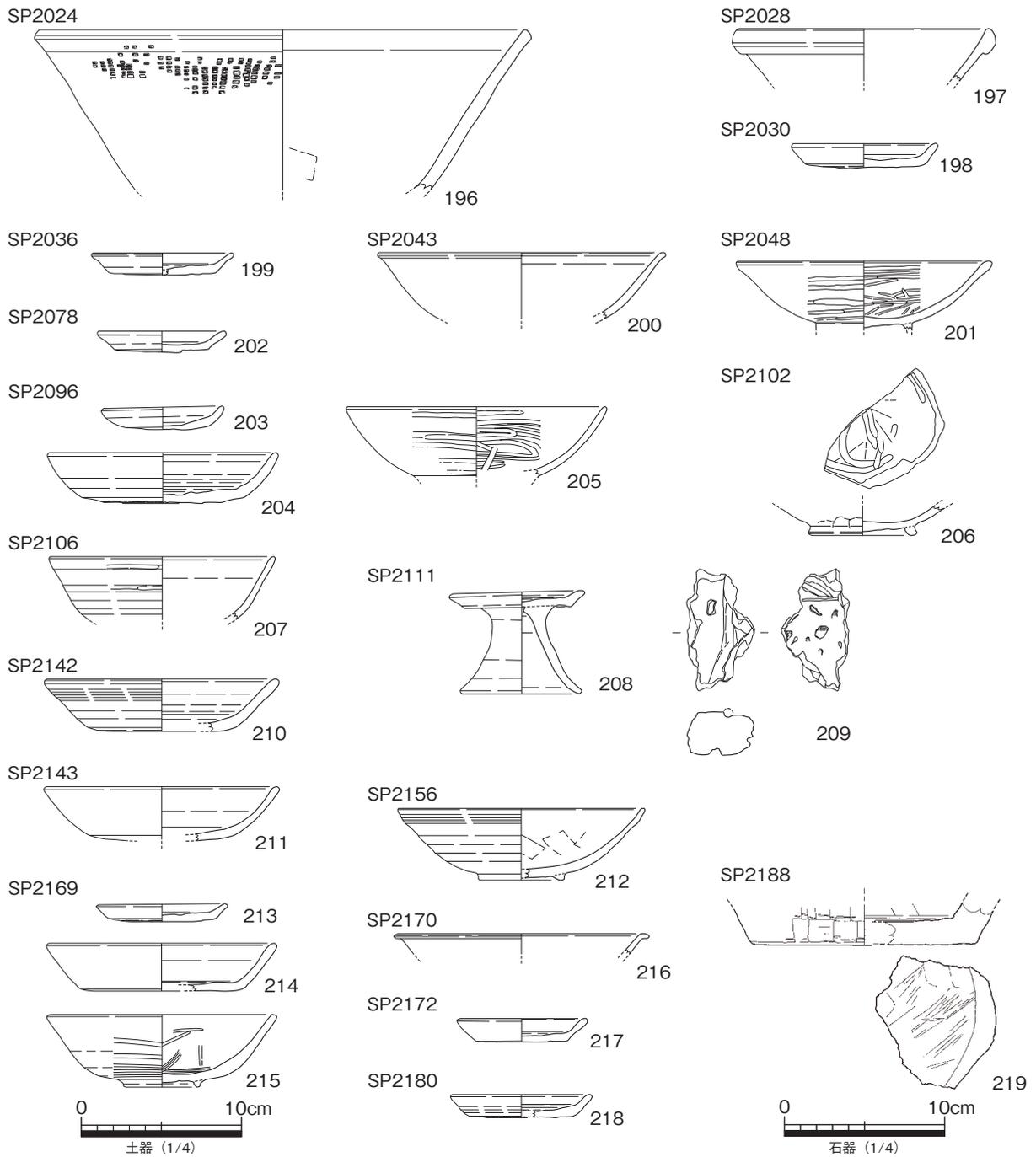
第 62 図 SP 出土遺物 2 (1/4・1/2)



第 63 図 SP 出土遺物 3 (1/4・1/2)



第 64 図 SP 出土遺物 4 (1/4・1/2)



第 65 図 SP 出土遺物 5 (1/4)

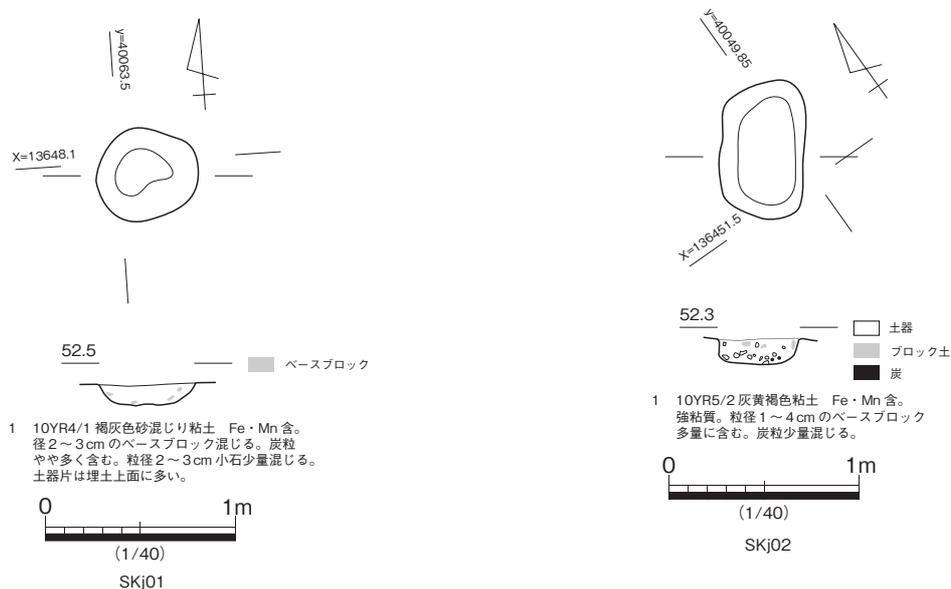
土坑

SKj01 (第 66 図)

15 K グリッド南部で検出した。平面形は円形で、直径 0.52 m、深さ 0.15 m である。埋土にはベース土ブロック、炭化物を含んでいる。遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj02 (第 66 図)

13 L グリッドにあり調査区の南西隅で検出した。平面形は長方形であるが隅は丸みを帯びている。長辺 0.5 m と 0.7 m で対辺の長さは異なる。短辺は 0.44 m、深さは 0.14 m である。埋土にはベース土ブロックと炭化物が少量含まれている。遺物は細片しか出土していないものの、埋土の状況から中世の土坑とする。



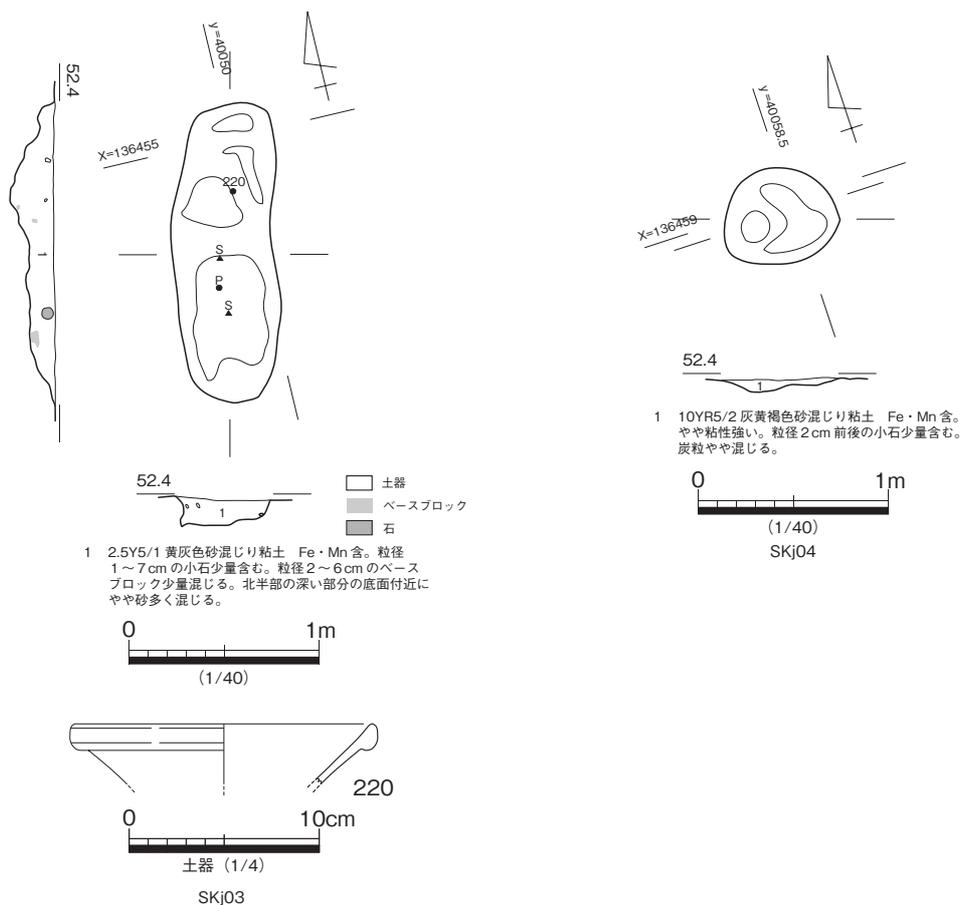
第 66 図 SKj01・02 平・断面図 (1/40)

SKj03 (第 67 図)

13 L グリッドにあり調査区の南西隅で検出した。平面形は長方形で、長辺 1.60 m、短辺 0.55 m、深さ 0.23 m である。北半部は不整形に段状に掘り込まれており、底部も北側のほうが深くなっている。埋土は北側部分に砂が多くなっている。

220 は白磁の碗で、口縁部が玉縁になっている。

出土遺物から中世の土坑である。



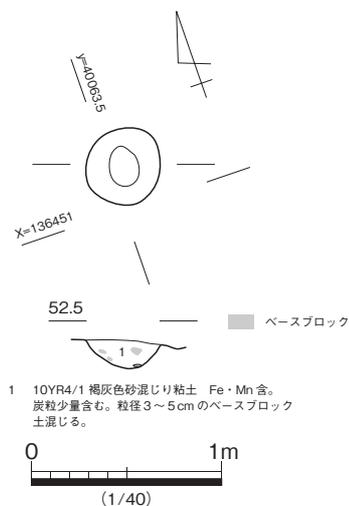
第 67 図 SKj03・04 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj04 (第 67 図)

14 L グリッドの南東部で検出した。平面形は円形であるが、東側が尖り気味である。直径 0.55 m 前後で、深さ 0.08 m と浅いものである。東側は浅くテラス状である。埋土には炭化物を少々含んでいる。遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj05 (第 68 図)

13 K グリッド北西部で検出した。平面形は円形で、直径 0.40 m、深さ 0.15 m である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。



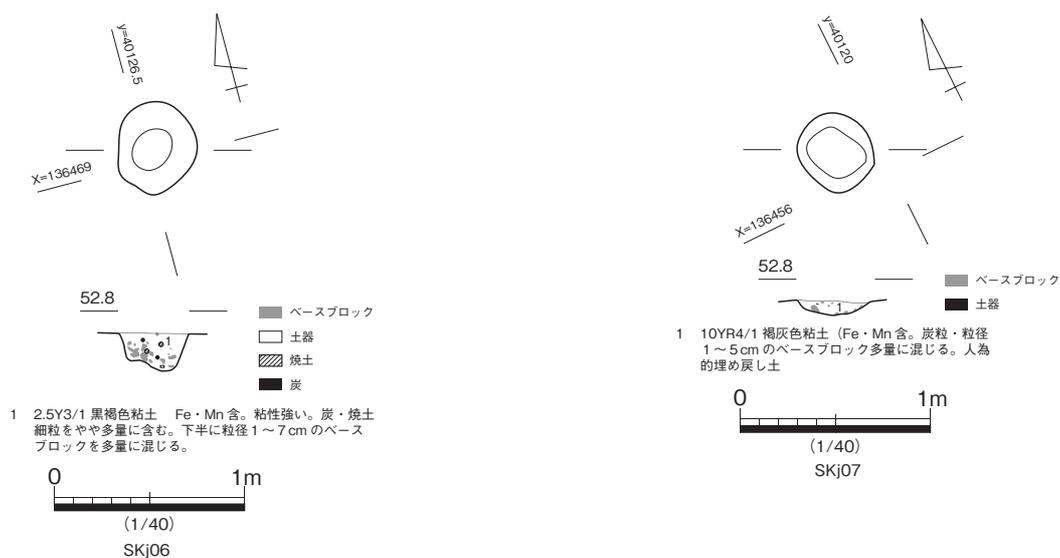
第 68 図 SKj05 平・断面図 (1/40)

SKj06 (第 69 図)

14 H グリッド中央付近で検出した。平面形は円形であるが直線的な部分もある。直径 0.40 ~ 0.48 m、深さ 0.20 m である。底部は東側が一段深くなっている。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。遺物は細片しか出土しておらず、時期は不明である。

SKj07 (第 69 図)

13 H グリッドの北西隅で検出した。平面形は円形であるが、南側は直線的な部分がある。直径 0.30 m、深さ 0.08 m と浅いものである。遺物は細片しか出土しておらず、時期は不明である。



第 69 図 SKj06・07 平・断面図 (1/40)

SKj09 (第70図)

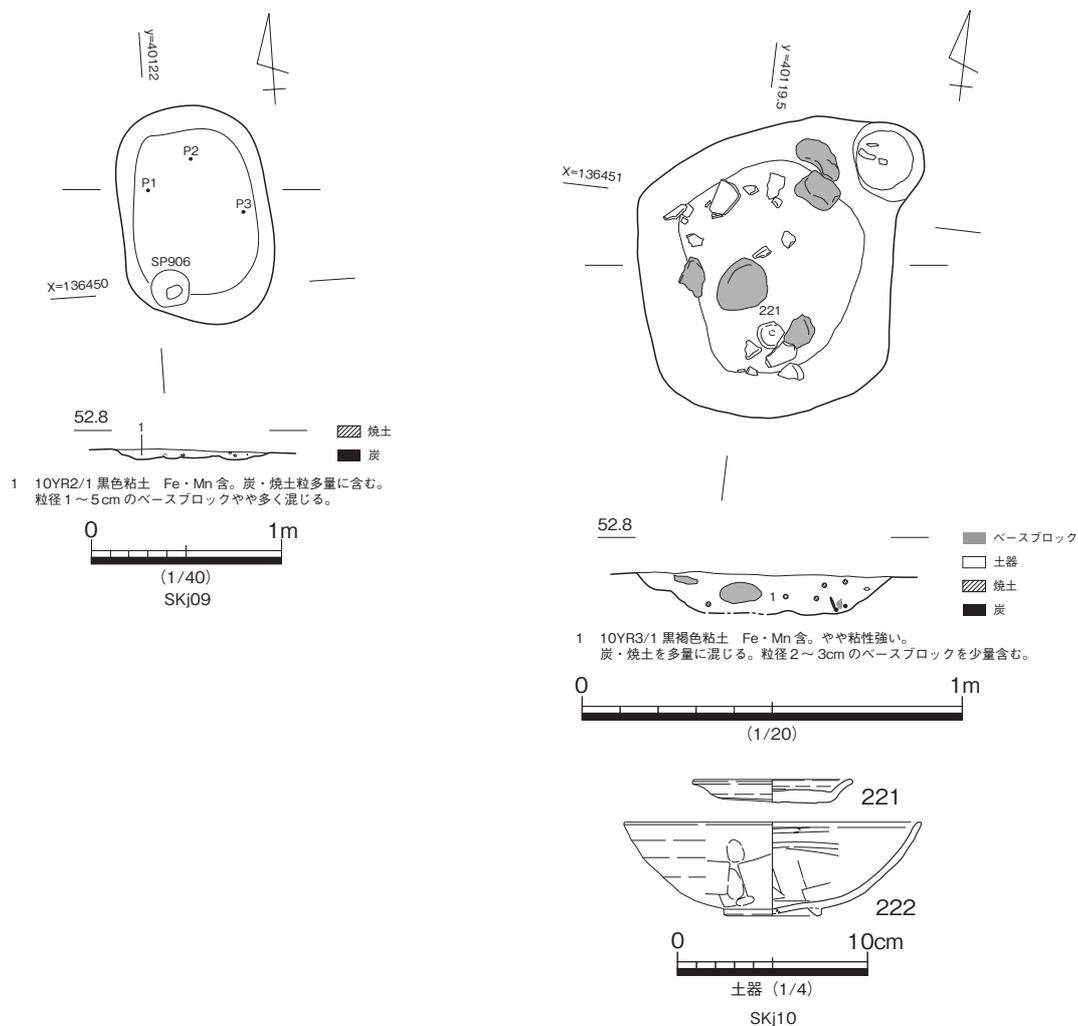
13 Hグリッドの北西部で検出した。平面形は隅丸の長方形である。長辺 1.16 m、短辺 0.80 m、深さ 0.06 m と浅いものである。底部は凹凸が目立ち、埋土には炭化物と焼土が多量に含まれる。遺物は細片しか出土していないが、SKj09 の埋没後に中世の建物である SBj31 の柱穴が設けられていることから、SBj31 以前の中世の土坑とする。

SKj10 (第70図)

13 Hグリッド西端で検出した。平面形は方形であるが丸みを帯びている部分がある。また北東部分は別の小穴で壊されている。長辺 1.54 m、短辺 1.32 m、深さ 0.20 m である。底面は若干の起伏があり、掘り込みは全体に緩やかである。埋土には炭化物と焼土が多く含まれている。

221 は土師器小皿で底部は肥厚している。222 は十瓶山産須恵器椀で、内面の口縁部付近にヘラミガキが若干認められる。

出土遺物から中世（13世紀前半）の土坑である。



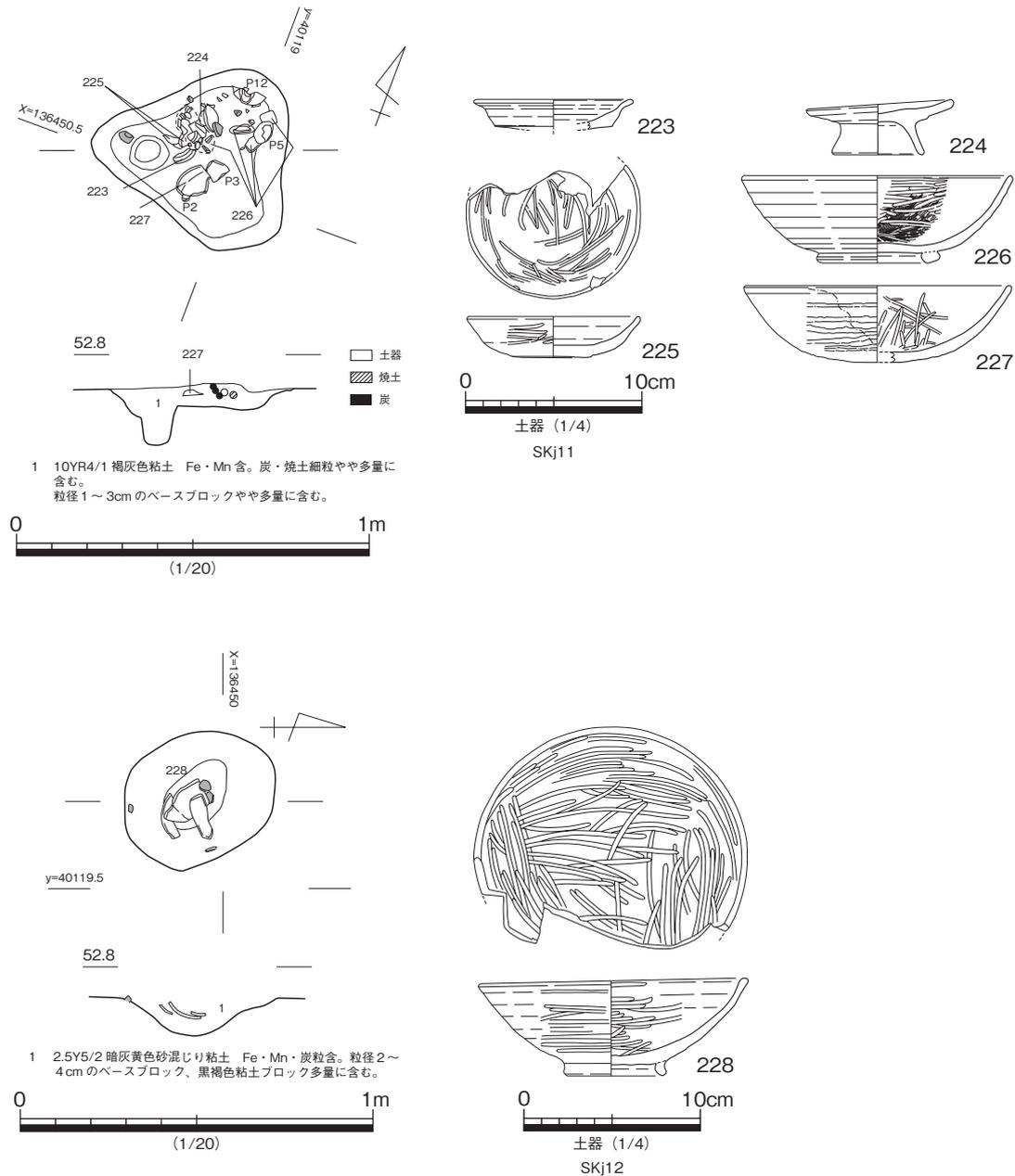
第70図 SKj09・10 平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj11 (第71図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は三角形で隅はいずれも丸みを帯びている。一辺0.5 mであり、東側部分はテラス状になり深さは0.07 mと浅くなっているが、西側部分には柱穴状に部分的に深くなっており、0.17 mの深さになる。埋土には炭化物と焼土が多く含まれている。

比較的多くの遺物が出土している。223は土師器小皿、224は土師器脚台付き小皿、225は黒色土器皿、226・227は黒色土器A類椀である。227は高台が剥がれている。226の体部外面のヘラミガキは省略されており、227は雑に施されている。

出土遺物から中世(12世紀後半)の土坑である。



第71図 SKj11・12 平・断面図(1/20)、出土遺物(1/4)

SKj12 (第71図)

13 I グリッド東端でSKj11の南西に隣接して検出した。平面形は楕円形で長径 0.45 m、短径 0.35 m、深さ 0.11 m である。埋土には炭化物を含んでいる。掘り込みは緩やかで、全体に播鉢状になっている。

228 は黒色土器A類椀で、体部内・外面に細かいヘラミガキを施している。

出土遺物から中世（12世紀後半）の土坑である。

SKj13 (第72図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は円形で、直径 0.42 m、深さ 0.14 m である。埋土には炭化物と焼土を少量含んでいる。底面は平坦になっている。

229 は土師器小皿で、底部から体部の立ち上がり部分が肥厚している。

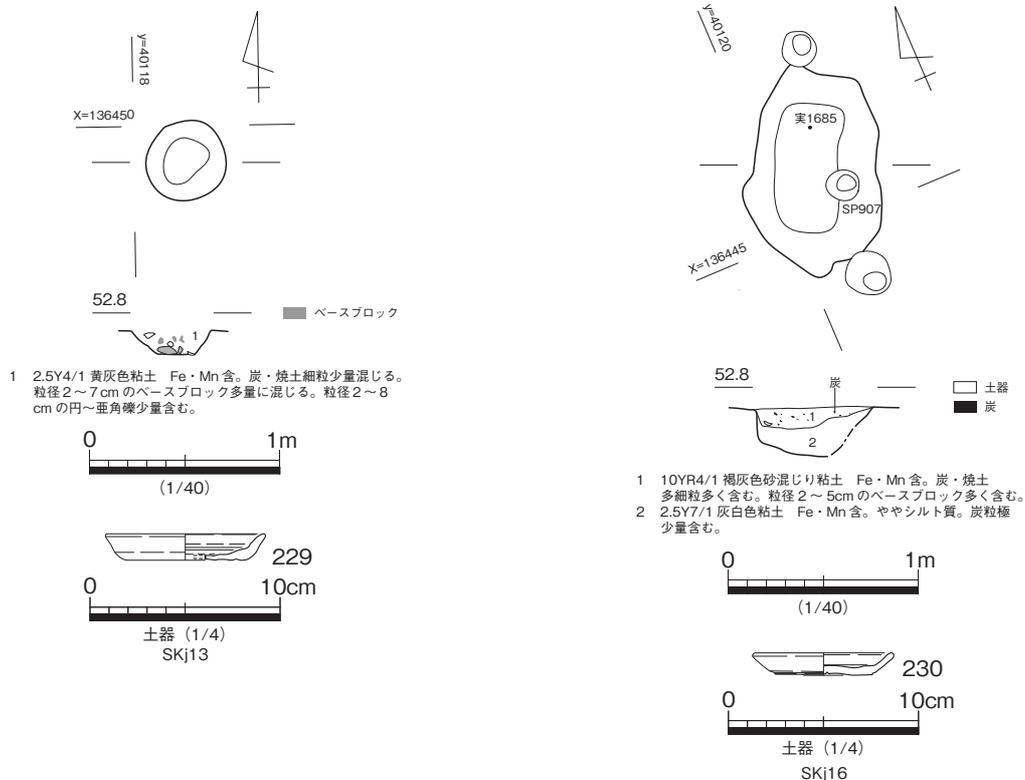
出土遺物から中世の土坑である。

SKj16 (第72図)

13 H グリッド西端で検出した。平面形は不整形で歪な方形で、南西部分が突出している。長辺は 1.0 ~ 1.1 m、短辺は 0.62 ~ 0.73 m、深さ 0.25 m である。底面は西から東に向かって傾斜している。西側の掘り込みは急であるが、東側は緩やかである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。上面は埋没後に他の小穴により壊されている。

230 は土師器小皿で、底部内面には強いナデが施されている。

出土遺物から中世の土坑である。

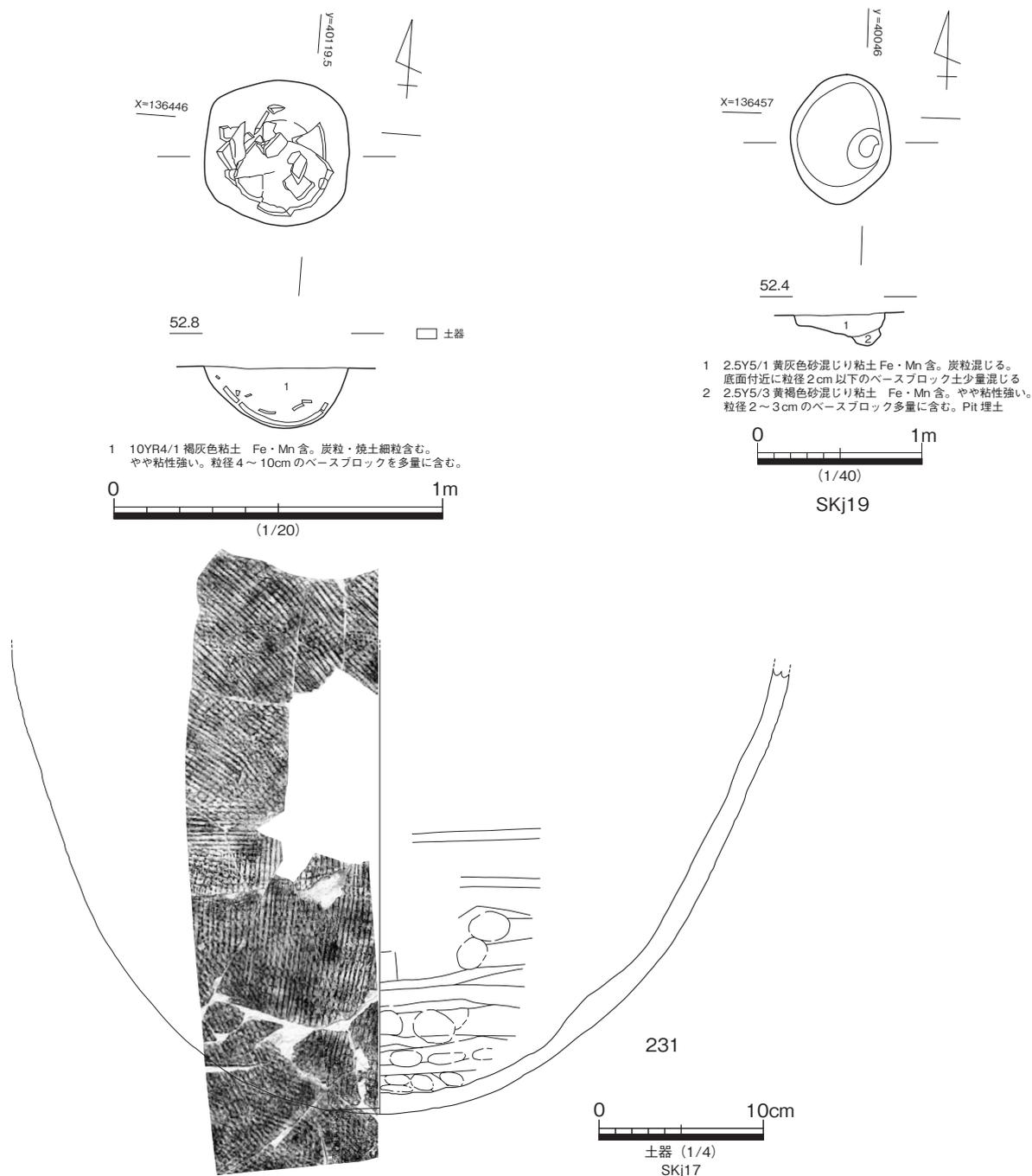


第72図 SKj13・16 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj17 (第73図)

13 I グリッド東端で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北西部は角張っている。辺0.44 m前後で、深さ0.19 mである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。底面から須恵器甕が出土したが、須恵器甕の体部の形状に合わせてように底部は丸みを帯びている。SKj17はSBj32の内側に位置しその東壁際であり、建物内で須恵器甕を据えるために掘削された土坑と見なせる。

231は上記の須恵器甕で底部は丸底である。体部外面には格子目のタタキが施されている。出土遺物から中世の土坑であり、SBj32の年代とも矛盾しない。



第73図 SKj17・19平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj19 (第73図)

13 L北端で、調査区の南西隅の拡張区で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.80 m、短径 0.62 m、深さ 0.20 mである。底面は西から東に向かって傾斜し、東端には直径 0.22 mの円形の小穴があり一段低くなっている。この小穴は SKj19 の上層の埋土に覆われており、SKj19 に伴うものと考えより、それ以前の小穴が SKj19 により壊されたものであろう。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj24 (第74図)

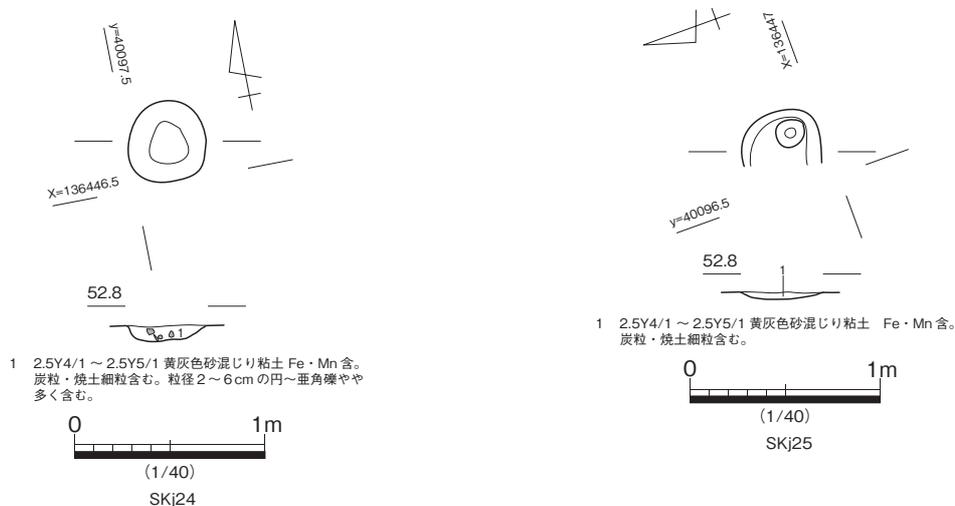
13 J 東端で検出した。平面形は円形で、直径 0.42 m、深さ 0.08 m と浅いものである。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj25 (第74図)

13 J 東部で検出した。小調査区の J 2 と J 3 の境にあり、調査上の都合で掘削した排水を兼ねた側溝により、この SKj25 の西側が壊されている。平面形は円形あるいは隅丸方形になるものと思われ、検出部分で直径 0.42 m、深さ 0.04 m で非常に浅いものである。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

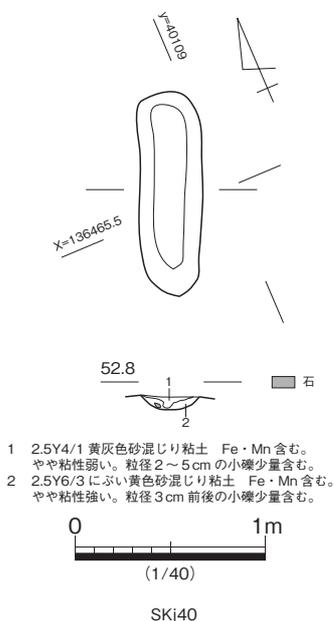
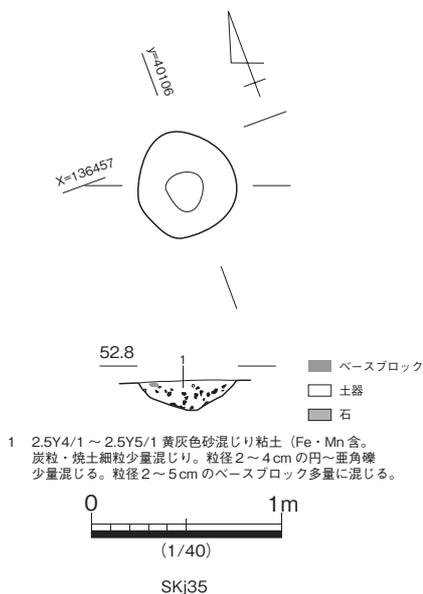


第74図 SKj24・25 平・断面図 (1/40)

SKj35 (第75図)

13 I グリッド中央やや北寄りで検出した。平面形は円形であるが、南側が角張っている。直径 0.52 m、深さ 0.15 m で挿鉢状になっている。埋土にはベース土ブロックを多く含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第75図 SKj35・40 平・断面図 (1/40)

SKj40 (第75図)

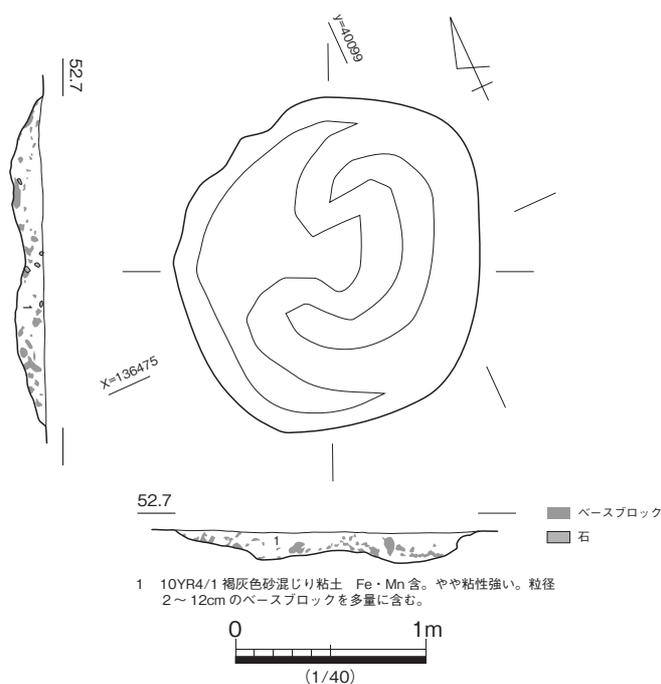
14 I グリッド中央で検出した。平面形は長楕円形で細長い。長径 1.08 m、短径 0.32 m、深さ 0.07 m である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj42 (第76図)

14 I グリッド北端で検出した。平面形は楕円形と隅丸方形の中間形態であり、北西部分が蛇行しており、また東側と南側は直線的になっている。北東-南西主軸の楕円形として測ると、長径 1.86 m、短径 1.62 m、深さ 0.15 m である。底面には起伏があり、中央部分が突出してその両側が窪んでいる。埋土にはベース土ブロックを多く含んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第76図 SKj42 平・断面図 (1/40)

SKj44 (第77図)

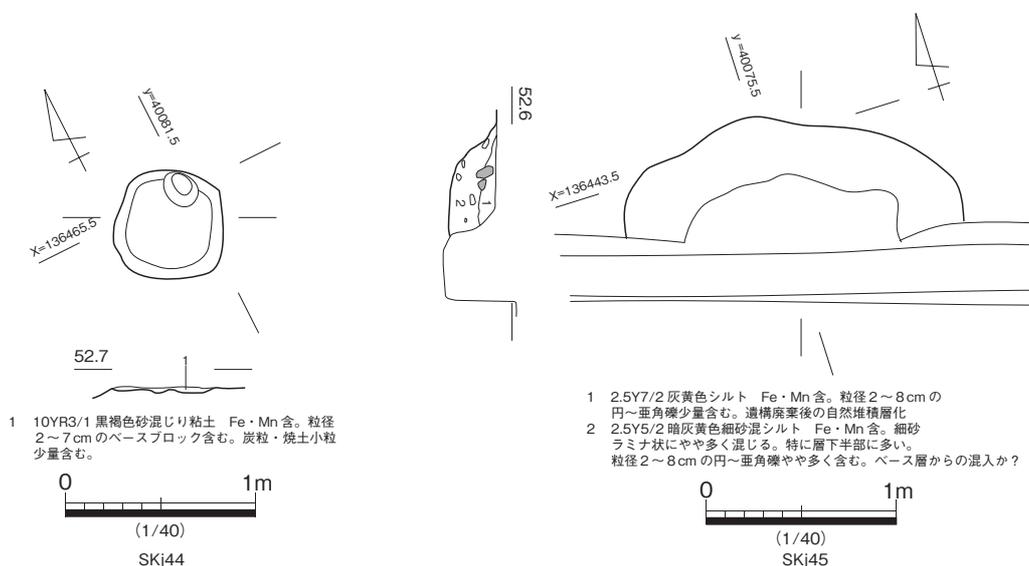
14 J グリッド西側で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北東部は角張っている。一辺 0.56 m、深さ 0.04 m と非常に浅くなっている。底面は起伏があり、北東辺際には直径 0.18 m 前後の円形の小穴がある。柱穴の柱痕と掘り方のような形状であるが、周辺に遺構は稀少で単独であるため土坑としたものである。

遺物は出土しておらず、埋土も炭化物の影響により黒褐色で本来の色調が不明であるため、この土坑の時期は不明である。

SKj45 (第77図)

13 K グリッドで調査区南壁際で検出した。南側は調査区外へ広がるとともに、調査の排水を兼ねた側溝で壊されているため、全体形は不明である。検出部分では楕円形に近く、長径 1.78 m、短径は検出部分で 0.60 m、深さ 0.14 m である。底部は検出部分では平坦で、掘り込みも緩やかである。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第77図 SKj44・45 平・断面図 (1/40)

SKj47 (第78図)

13 J グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形であるが南東部分は丸みが弱い。長径 0.42 m、短径 0.32 m、深さ 0.06 m である。

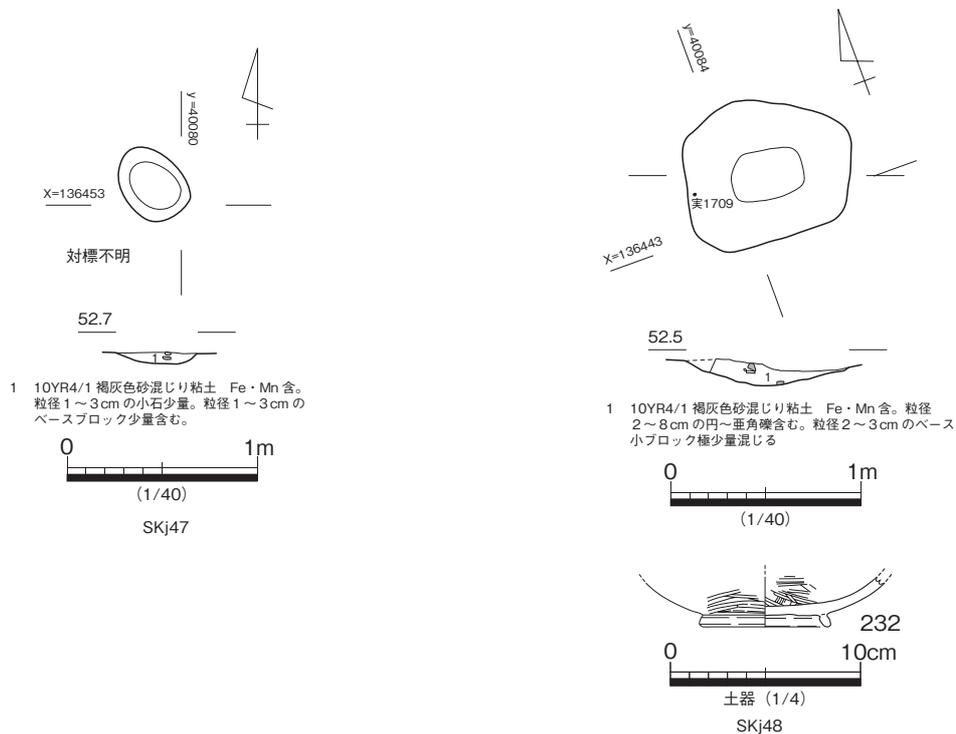
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の遺構土坑とする。

SKj48 (第78図)

13 J グリッド南西部で検出した。平面形は五角形で北側は丸みを帯びている。南北方向の突出部分で 0.76 m、東西 0.90 m、深さ 0.11 m である。SDj28 により上部全体を壊されており、下部のみが残存している。

232 は土師器椀で、体部内・外面にはヘラミガキを施している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第 78 図 SKj47・48 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj49 (第 79 図)

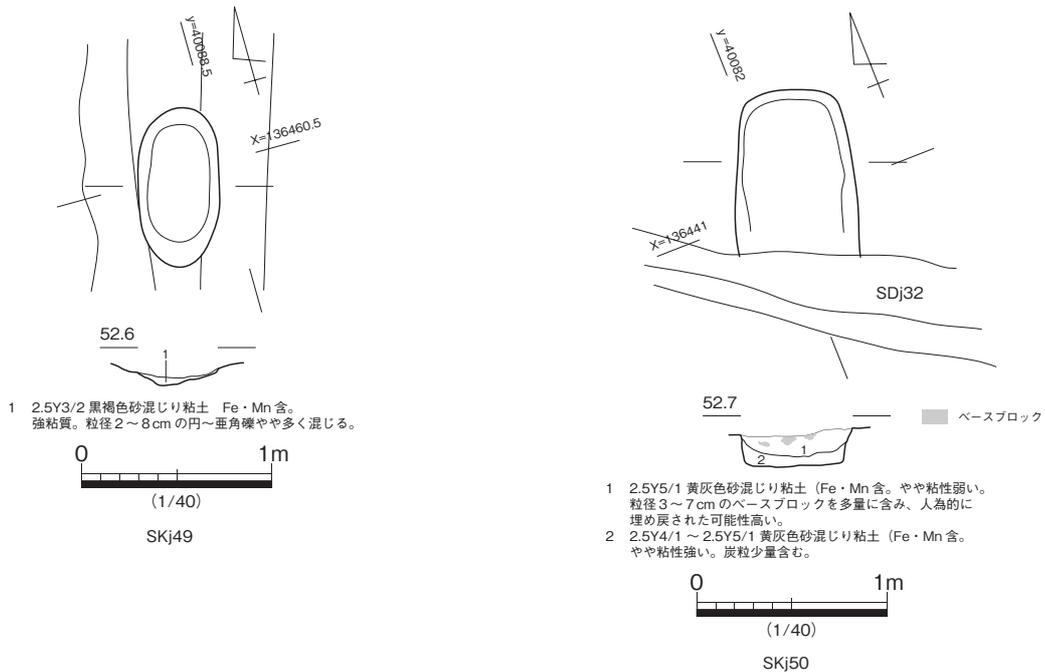
14 J グリッド南部で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.84 m、短径 0.42 m、深さ 0.25 m である。SDj28 の底部で検出されたもので、SKj48 と同様に SDj28 により上部全体を壊されており、下部のみが残存している。

遺物は出土していないが、中世 (13 世紀) の SDj28 より古い段階の中世の土坑である。

SKj50 (第 79 図)

13 J グリッド南部で検出した。南側を SDj32 に壊されているため全体形は不明である。検出部分で平面形は長方形で、長辺 0.88 m、短辺 0.64 m、深さ 0.18 m である。掘り込みは垂直に近く急で、底面は平坦である。

遺物は出土していないが、中世 (13 世紀) の SDj32 より古い段階の中世の土坑である。



第 79 図 SKj49・50 平・断面図 (1/40)

SKj51 (第 80 図)

13 J グリッド南部で、SKj50 の北西に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径 0.58 m、短径 0.45 m、深さ 0.05 m である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj53 (第 80 図)

13 J グリッド北部で検出した。平面形は隅丸の長方形で、長辺 4.42 m、短辺 2.41 m、深さ 0.15 m である。大型の土坑であるが浅いものである。掘り込みは非常に緩やかで、断面は浅い皿状になっている。

233 は備前焼壺の体部の破片で、肩部に沈線が 5 条巡っている。

出土遺物から、中世 (13 世紀) の土坑である。

SKj54 (第 81 図)

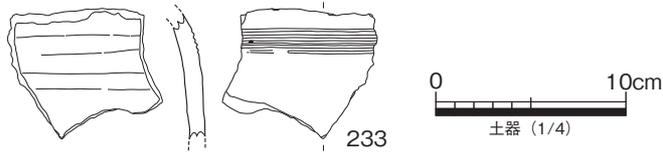
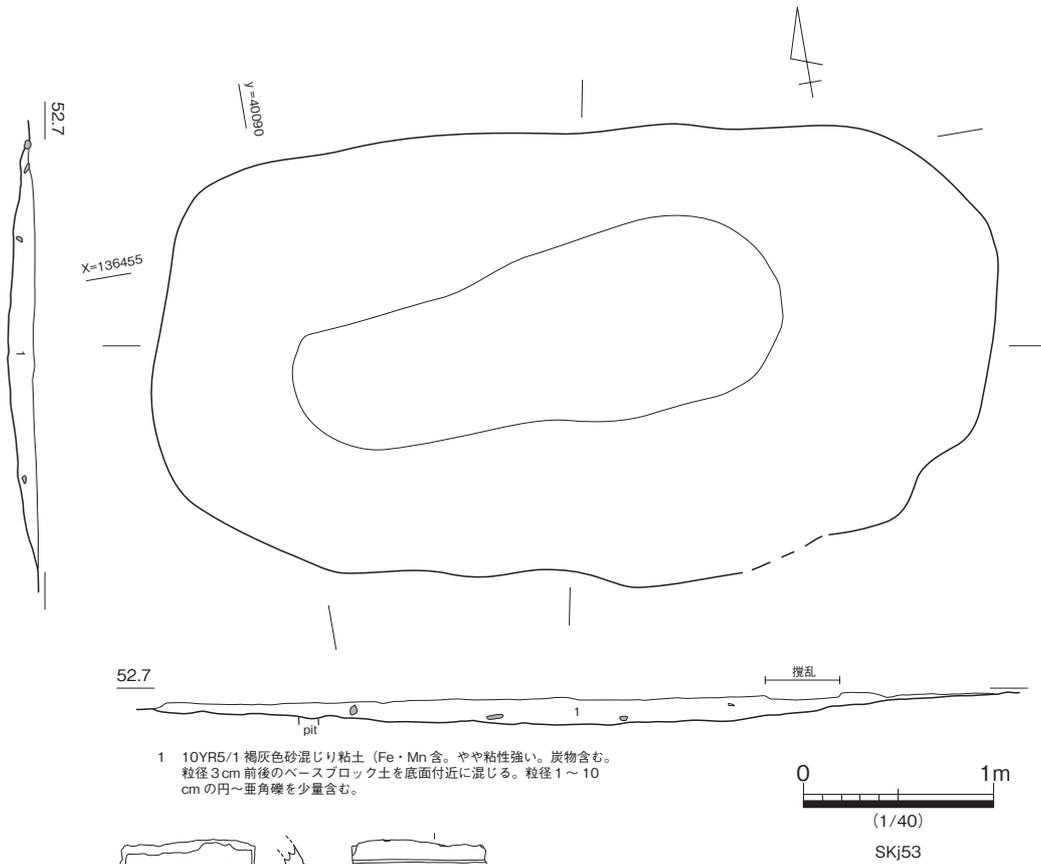
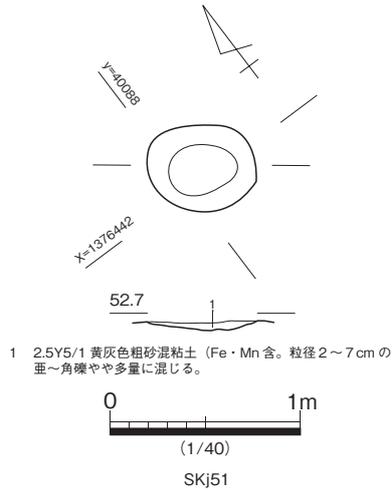
12 G グリッドで調査区東壁際で検出した。東側は調査区外となるため全体形は不明である。検出部分から考えると平面形は楕円形になるが西側は一部内側に窪んでいる。検出部分で長径 0.43 m、短径 0.16 m、深さ 0.06 m である。底面には起伏が見られる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

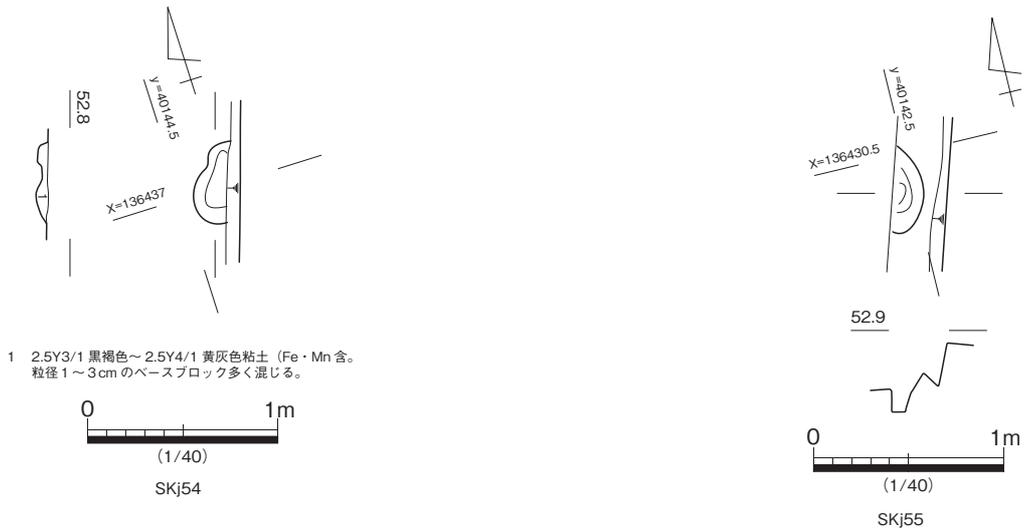
SKj55 (第 81 図)

12 G グリッドで調査区東壁際で検出した。西側部分は不明瞭であり掘削を行っていない。検出部分での平面形は半月状で、本来は楕円形になるものと思われる。検出部分で南北 0.48 m、東西 0.16、深さ 0.11 m である。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第80図 SKj51・53平・断面図(1/40)、出土遺物(1/4)

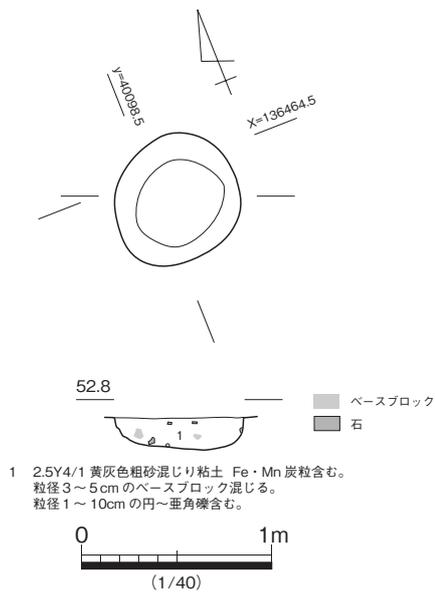


第 81 図 SKj54・55 平・断面図 (1/40)

SKj58 (第 82 図)

14 J グリッド東端で検出した。平面形は円形で、直径 0.65～0.72 m、深さ 0.16 m である。東側の掘り込みが急になっており、底面は平坦である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

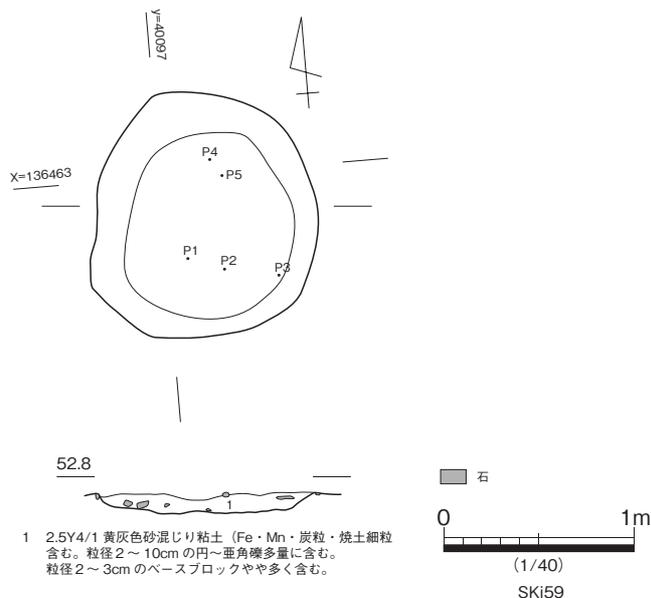


第 82 図 SKj58 平・断面図 (1/40)

SKj59 (第 83 図)

14 J グリッド東端で、SKj58 の南西に隣接して検出した。平面形は円形に近いが、角張ったり直線的な部分がある。円形とすると直径 1.20 m 前後で、深さ 0.11 m である。底面は若干の起伏がある。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第 83 図 SKj59 平・断面図 (1/40)

SKj60 (第 84 図)

14 I グリッド中央付近で検出した。平面形は不整形で隅丸方形の南西部に丸みを帯びて突出している部分がある。北東—南西方向の最大部分で 0.89 m、北西—南東方向の最大部分で 0.62 m、深さ 0.22 m になる。緩やかに段を形成して掘り込まれており、中央やや西側が最も深くなっている。埋土には焼土とともにベースブロックを多量に含んでいる。

234 は土師器小皿、235 は土師器杯である。235 は回転ナデで整形し、底部外面には板状圧痕が認められる。

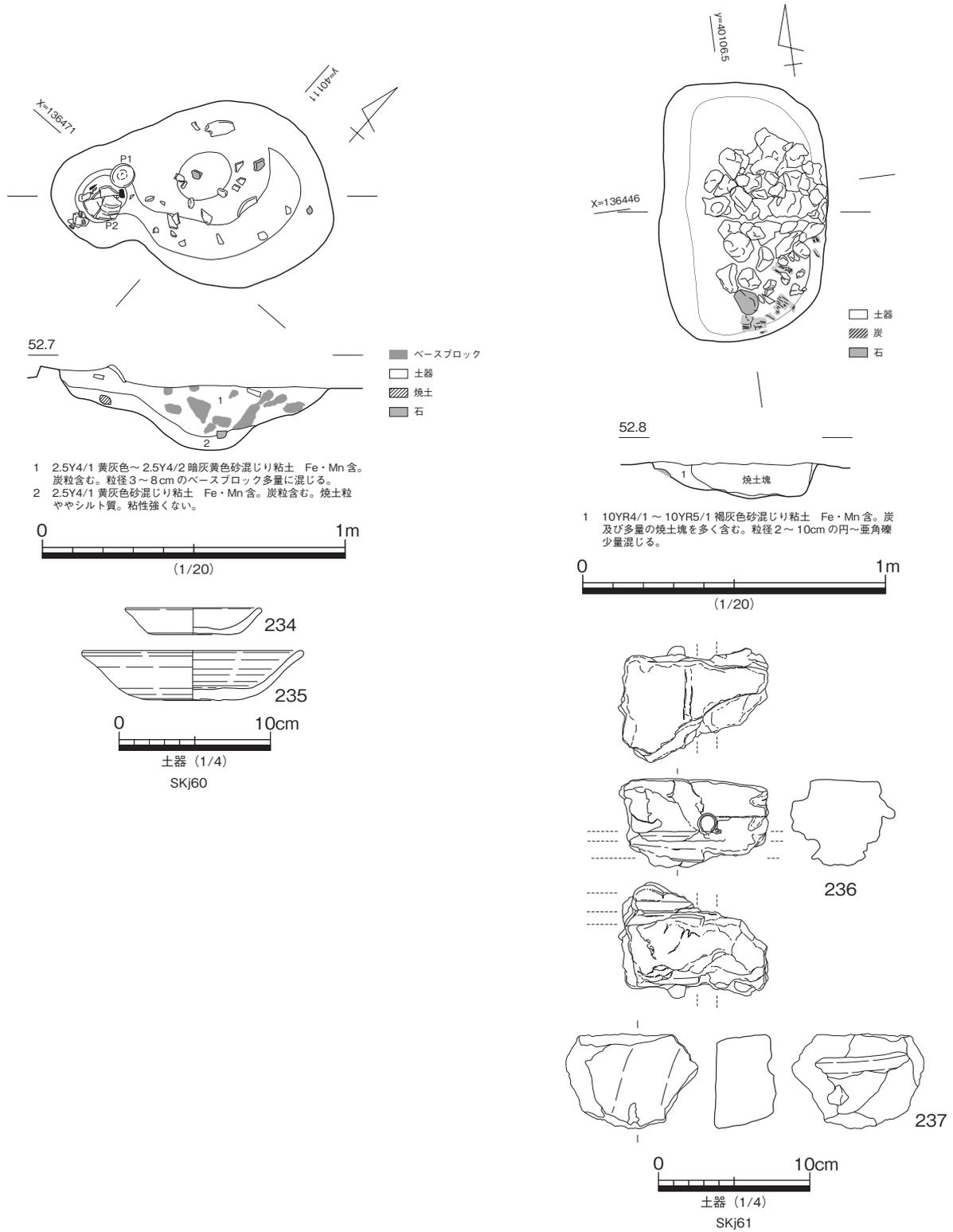
出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。

SKj61 (第 84 図)

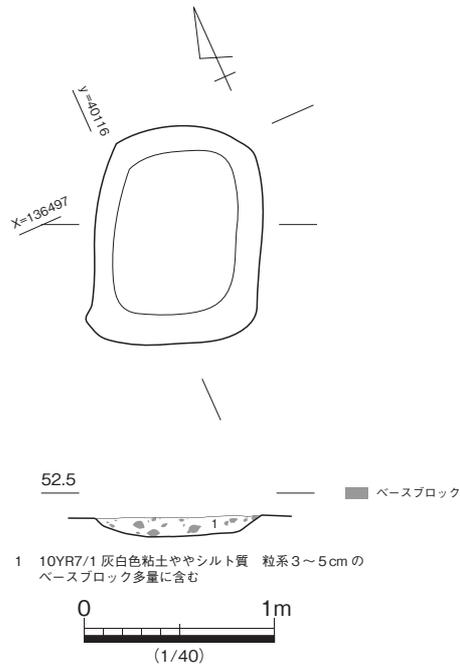
13 グリッド中央付近で検出した。平面形は長方形であるが、東側が短くなり南側は丸みを帯びている。長辺 0.85 m、短辺 0.54 m、深さ 0.12 m である。掘り込みは東側は急であるが、西側は緩やかである。底面は若干の起伏があり、埋土中から炭化物とともに焼土塊が西側に寄せて多量に出土した。

236・237 は壁土で、片側に平坦面を持ち、壁面と壁土の中に塗り込められた心材と考えられる太さ 1 cm 程度の円柱状圧痕が認められる。

時期のわかる遺物は出土していないが、周辺遺構との関係で中世の土坑とする。



第84図 SKj60・61 平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)



第 85 図 SKj62 平・断面図 (1/40)

SKj62 (第 85 図)

15 I グリッド北東部で検出した。平面形は方形であるが、北側は丸みを帯びており、南西部は少し突出している。長辺 1.15 m、短辺 0.86 m、深さ 0.10 m である。掘り込みは緩やかで、底面は平坦である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj64 (第 86 図)

13 I グリッド北東部で検出した。平面形は円形で、直径 0.62 m、深さ 0.13 m である。掘り込みは東側は急であるが、西側は緩やかである。

238・239 は土師器小皿である。238 は内面の見込み部を先にナデてから周囲をナデて調整している。239 は器高は 0.7cm と低くなっている。

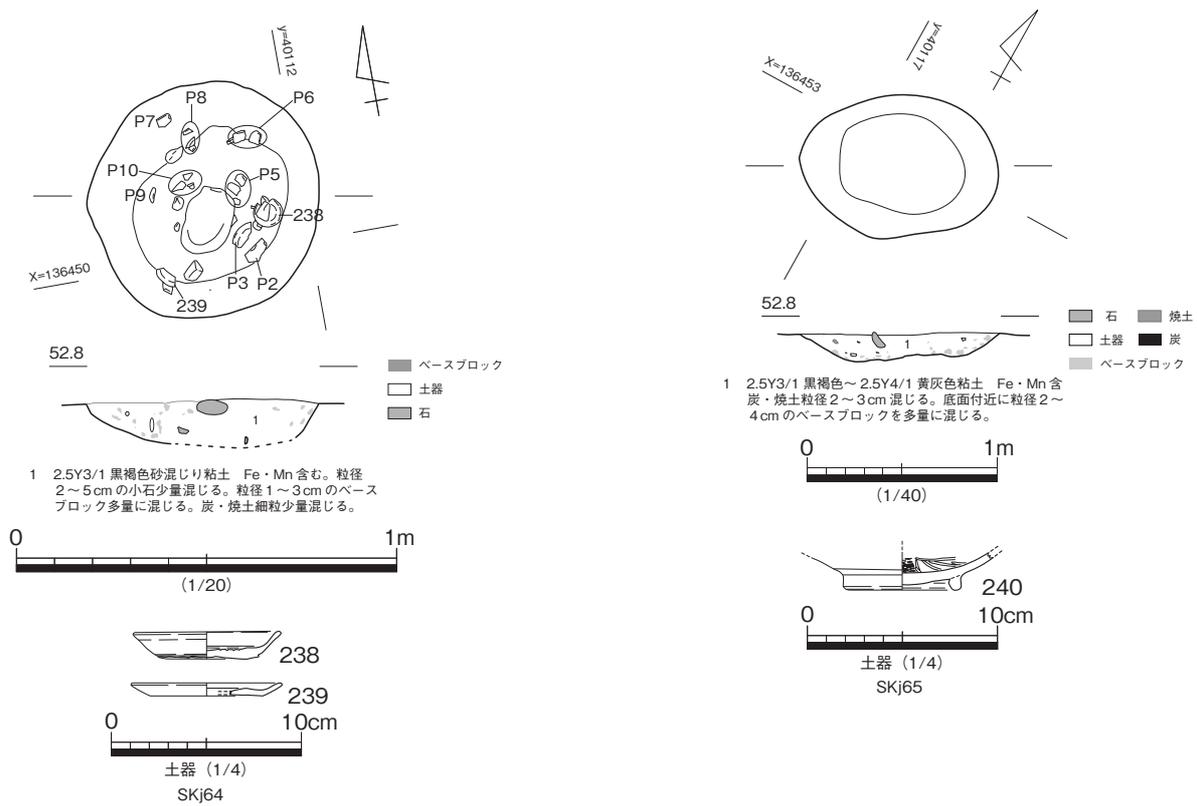
出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。

SKj65 (第 86 図)

13 I グリッド北東部で検出した。平面形は楕円形で、長径 1.02 m、短径 0.74 m、深さ 0.08 m である。掘り込みは緩やかで、底面は中央部分が若干盛り上がっている。埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

240 は十瓶山産須恵器椀で、外向きの肥厚した高台を貼り付けている。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。



第 86 図 SKj64・65 平・断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj66 (第 87 図)

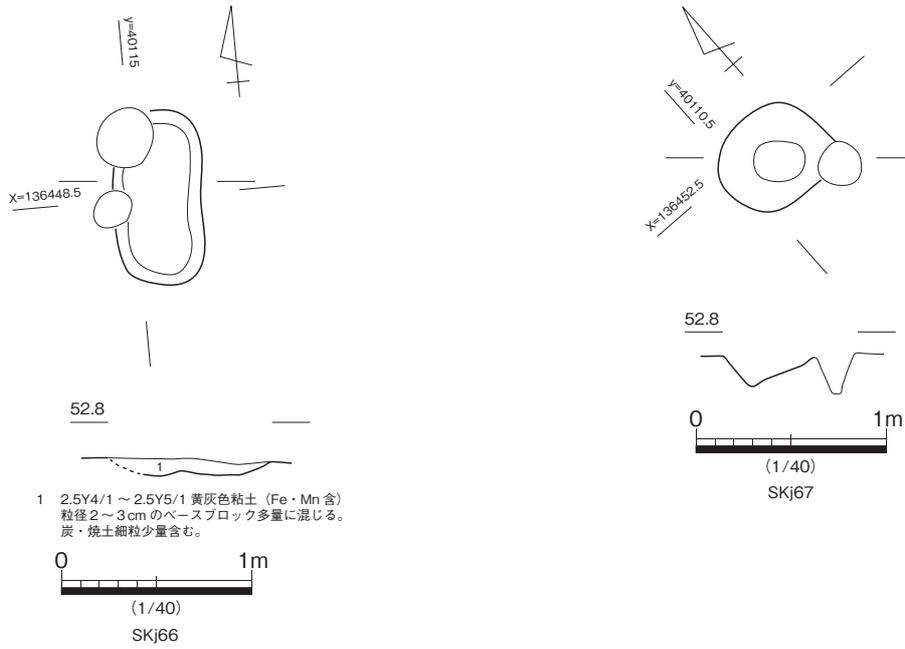
13 I グリッド東部で検出した。平面形は隅丸長方形で、長辺 0.93 m、短辺 0.47 m、深さ 0.09 m である。西側部分を小穴により壊されている。底面は東側に比べて西側が若干深くなっている。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

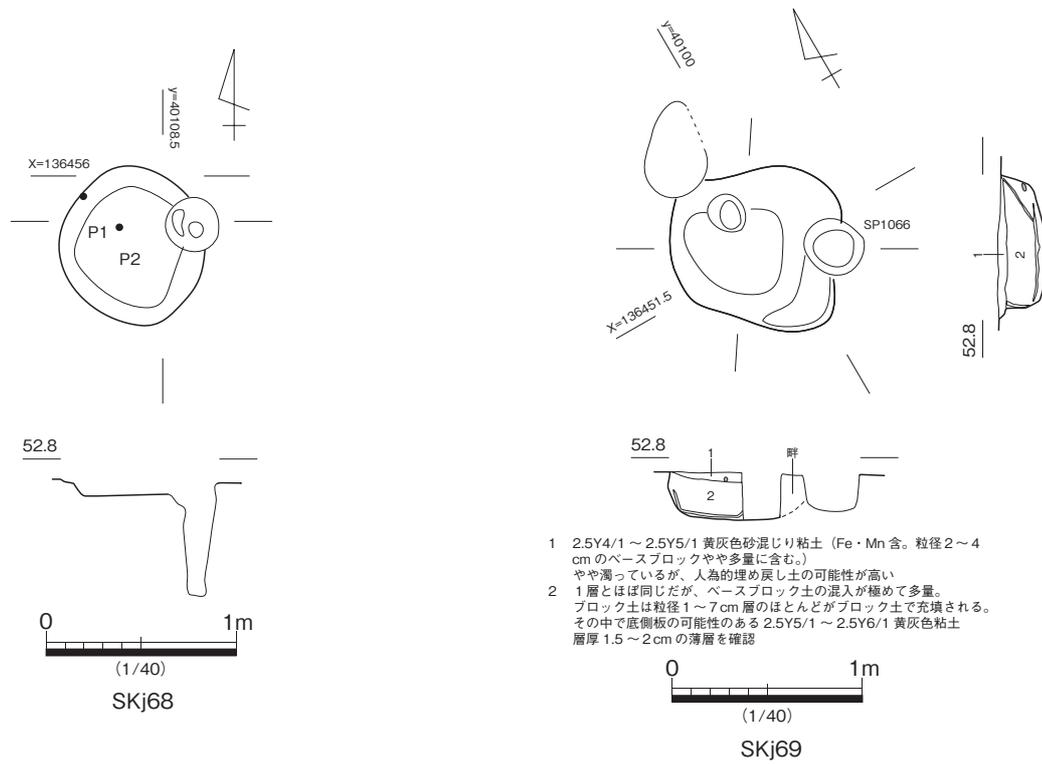
SKj67 (第 87 図)

13 I グリッド北東部で検出した。平面形は隅丸方形で、南東隅を小穴により壊されている。南北 0.50 m、東西 0.60 m、深さ 0.15 m である。底面は全体に東側西に向かって下っている。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第 87 図 SKj66・67 平・断面図 (1/40)



第 88 図 SKj68・69 平・断面図 (1/40)

SKj68 (第 88 図)

13 I グリッド北端部で検出した。平面形は円形で、東側を小穴により壊されている。直径 0.80 m、深さ 0.09 m である。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難である。

SKj69 (第 88 図)

13 I グリッド中央付近で検出した。平面形は隅丸方形であるが東西で若干長さが異なる。また北と南東部分が小穴により壊されている。最大で一辺 0.86 m、深さ 0.24 m である。西側の壁面下半から底面の直上で、板材の痕跡のような黄灰色粘土の細長い層を確認した。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj71 (第 89 図)

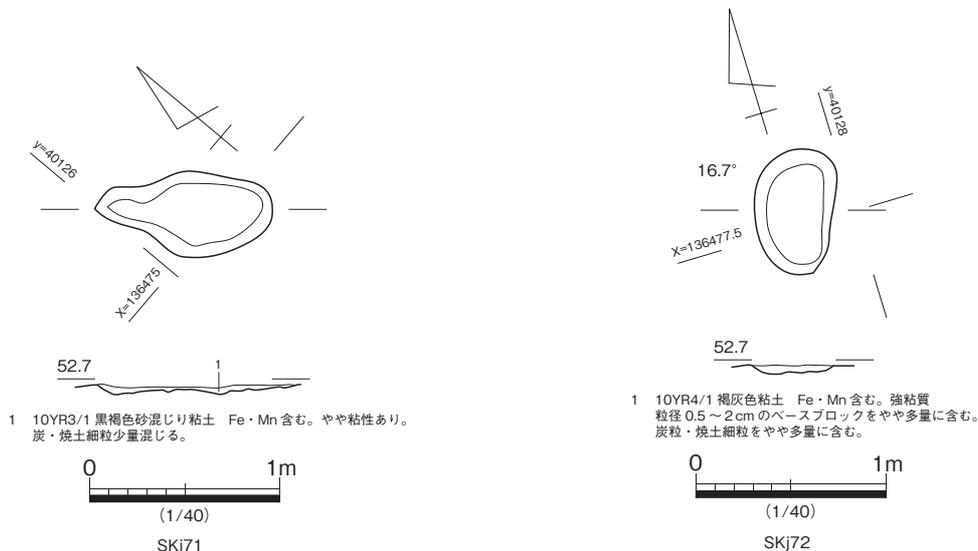
14 H グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形に近く、北西側の幅が狭くなり突出しているような形態である。長軸 0.93 m、短軸 0.46 m、突出部分の幅 0.20 m、深さ 0.04 m である。全体に浅いもので、底面には微細な起伏が目立つ。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj72 (第 89 図)

14 H グリッド北端部で検出した。平面形は楕円形であるが、東側部分は直線的である。長径 0.67 m、短径 0.40 m、深さ 0.05 m である。埋土は炭化物と焼土を多く含み、粘性が強い。底面は微細な起伏がある。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

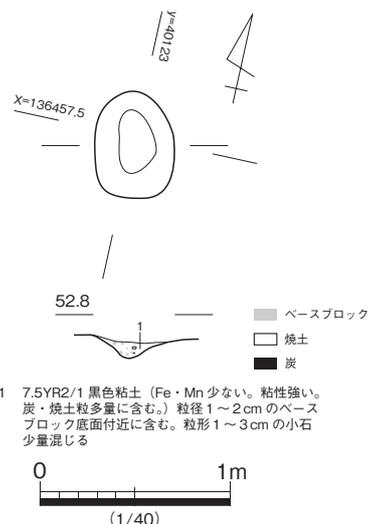


第 89 図 SKj71・72 平・断面図 (1/40)

SKj78 (第90図)

13 Hグリッド北西部で検出した。平面形は卵形で東側から北側にかけて丸みをもつ。南北0.56 m、東西0.41 m、深さ0.08 mである。掘り込みは緩やかで、底面は丸みを帯びて狭い。埋土は炭化物和焼土を多く含み、粘性が強い。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第90図 SKj78 平・断面図 (1/40)

SKj79 (第91図)

14 Hグリッド北端部で検出した。平面形は東側が直線になっている以外は円形である。円形の部分の直径は0.55 mになり、深さは0.32 mである。底面は狭く、断面はU字形になる。

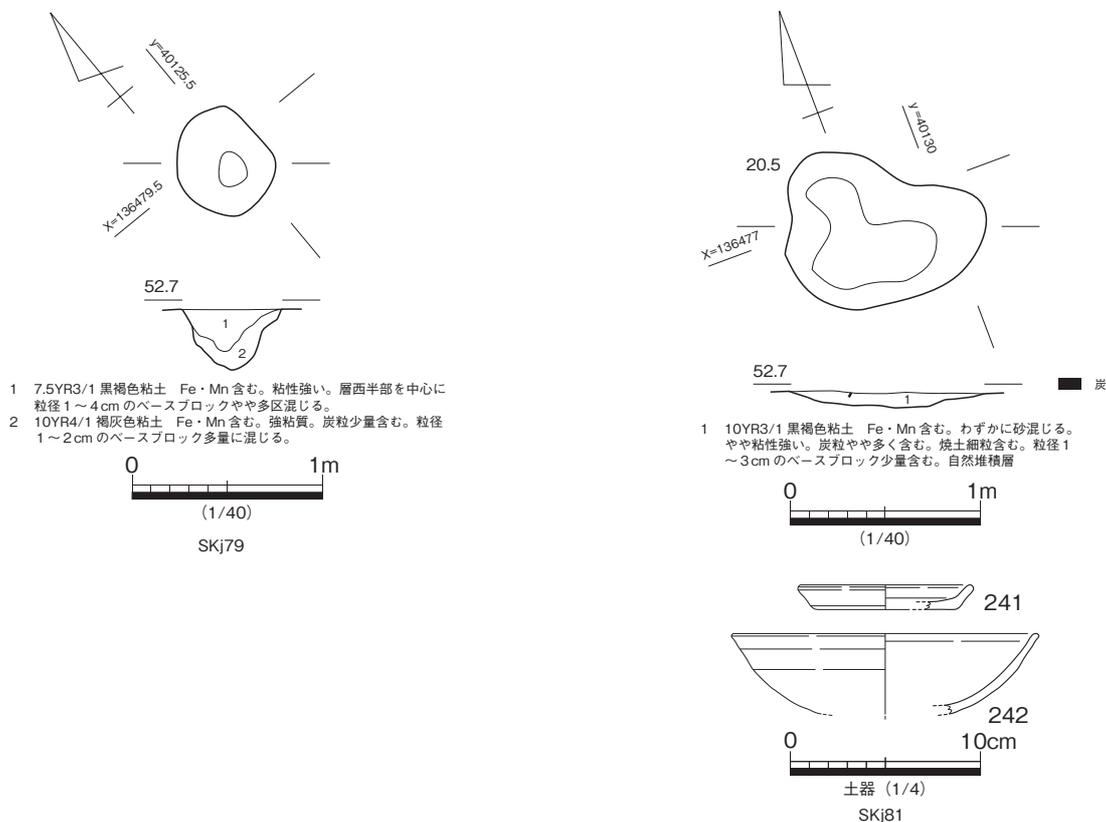
遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj81 (第91図)

14 Hグリッド北部で検出した。平面形は不整形で、東側と西側が内湾している。南北0.86 m、東西は最大1.08 m、深さ0.08 mである。掘り込みは全体に緩やかであるが、特に東側部分は緩やかでテラス状なる。埋土には炭化物を多く含む。

241は土師器小皿、242は黒色土器碗であるが全体に摩滅している。

出土遺物から中世(13世紀初頭前後)の土坑である。



第91図 SKj79・81 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj82 (第 92 図)

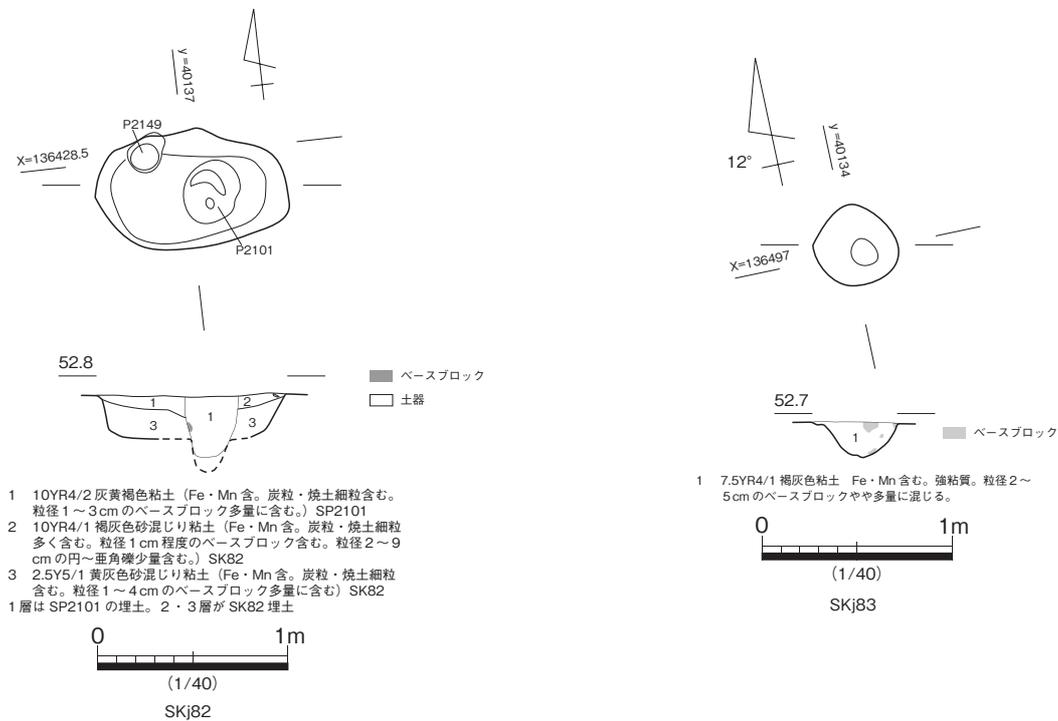
12 H グリッド 東部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、北側と西側が角張っている。東西 1.0 m、南北 0.62 m、深さ 0.22 m である。中央部分に小穴があり柱痕のように見えるが、SKj82 埋没後の別の遺構である。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみであり時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj83 (第 92 図)

15 H グリッド 北東部で検出した。平面形は円形と隅丸方形の中間形態で西側が角張っている。円形とすれば直径 0.42 m 相当で、深さは 0.19 m である。掘り込みは緩やかで、断面は U 字形になる。

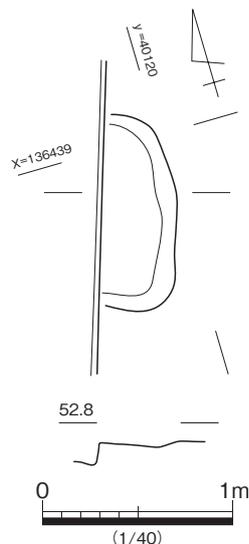
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第 92 図 SKj82・83 平・断面図 (1/40)

SKj86 (第 93 図)

12 I グリッド北東隅で検出した。小調査区間の側溝を設けた部分に相当しているため、西側部分が失われている。側溝を越えて西側では検出されていないので、この部分で収束するものである。平面形は隅丸の長方形になるものと思われ、検出部分で長辺 1.02 m、短辺 0.40 m、深さ 0.06 m である。遺物は出土しておらず、時期は不明である。

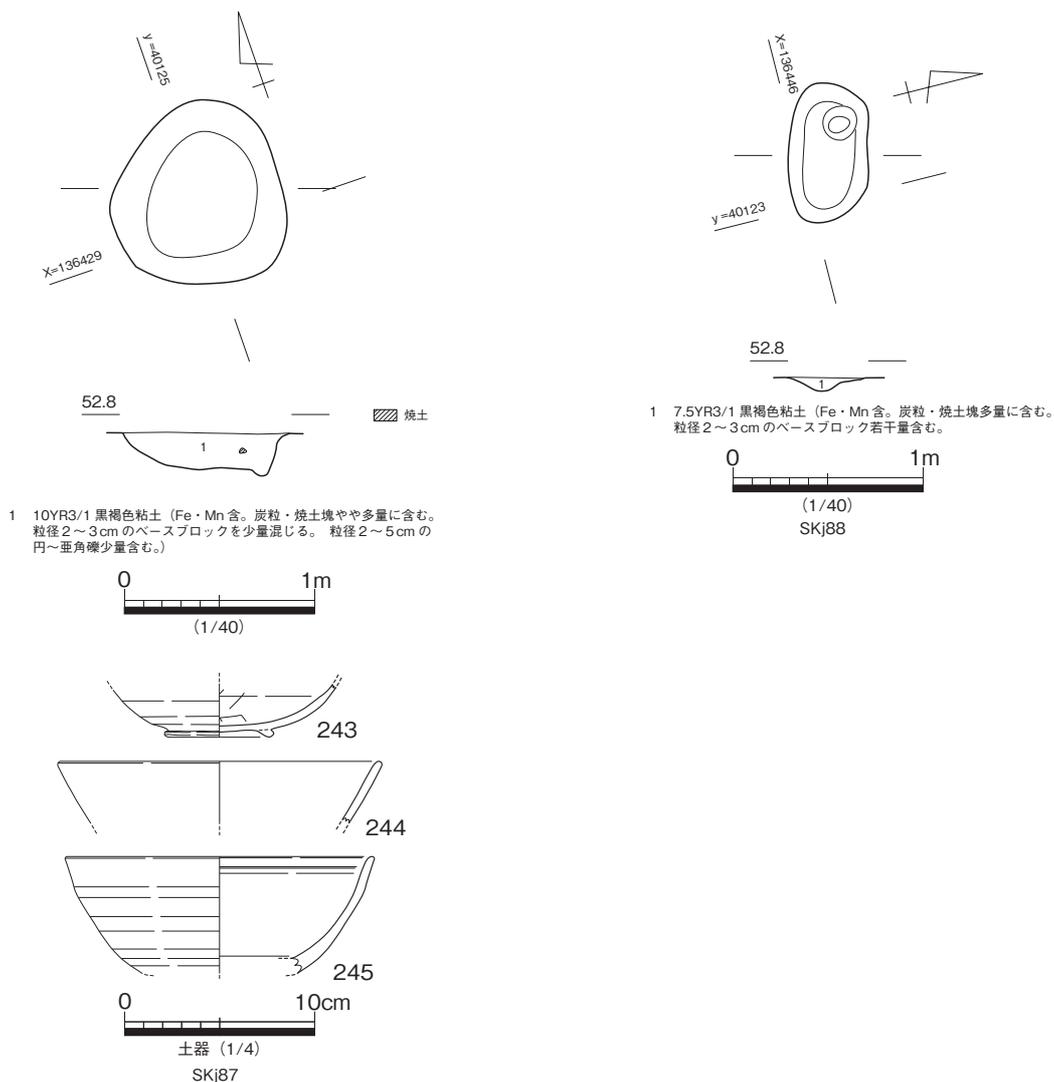


第 93 図 SKj86 平・断面図 (1/40)

SKj87 (第 94 図)

12 H グリッド西部で調査区の南壁付近で検出した。平面形は隅丸の三角形に近い。一辺 0.9 m 前後で、深さ 0.22 m である。掘り込みは西側は緩やかであるが、東側は急になっておりその下端は一段低くなっている。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

243 は土師器椀で、外側に大きく踏ん張る断面方形の高台をもつ。244・245 は青磁碗である。245 は



第 94 図 SKj87・88 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

口縁部内面に沈線をもつ。

出土遺物から中世（13世紀前半）の土坑である。

SKj88（第94図）

13 Hグリッド西部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、北側は短くなっており若干内湾している。北西部分は小穴により壊されている。東西0.74 m、南北0.42 m、深さ0.07 mである。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj89（第95図）

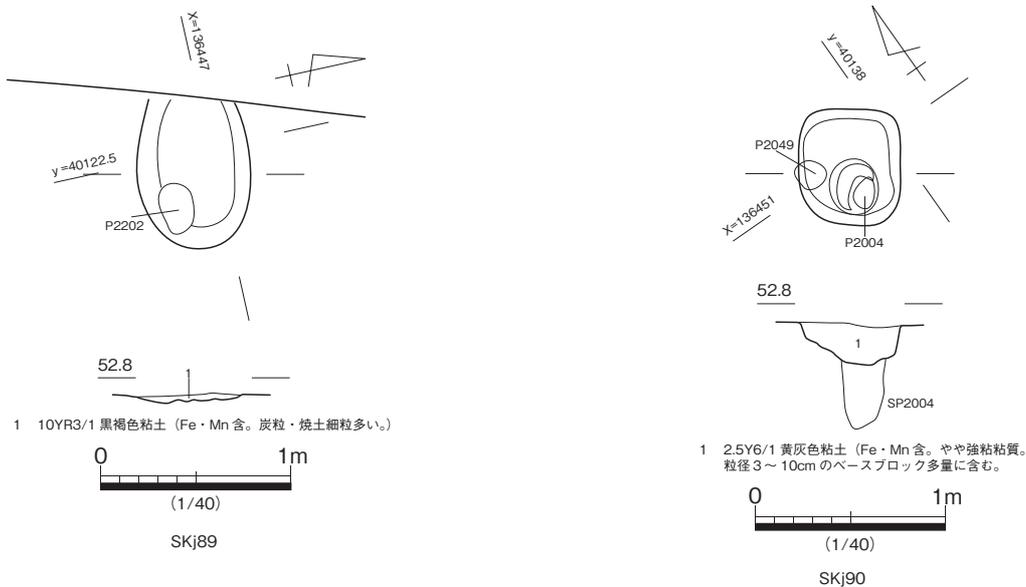
13 Hグリッド西部でSKj88の北西に隣接して検出した。西側は小調査区間に設けた側溝により失われている。側溝を越えて西側では検出されていないので、この部分で収束するものである。平面形は楕円形になるものと思われ、検出部分で長径0.81 m、短径0.60 m、深さ0.04 mである。底面は起伏が目立ち、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj90（第95図）

13 Hグリッド東端で検出した。平面形は隅丸方形で、長辺0.62 m、短辺0.52 m、深さ0.20 mである。底面にはSKj90以前の遺構SP2004の残存部分が認められる。掘り込みは全体に急である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第95図 SKj89・90 平・断面図 (1/40)

SKj91 (第 96 図)

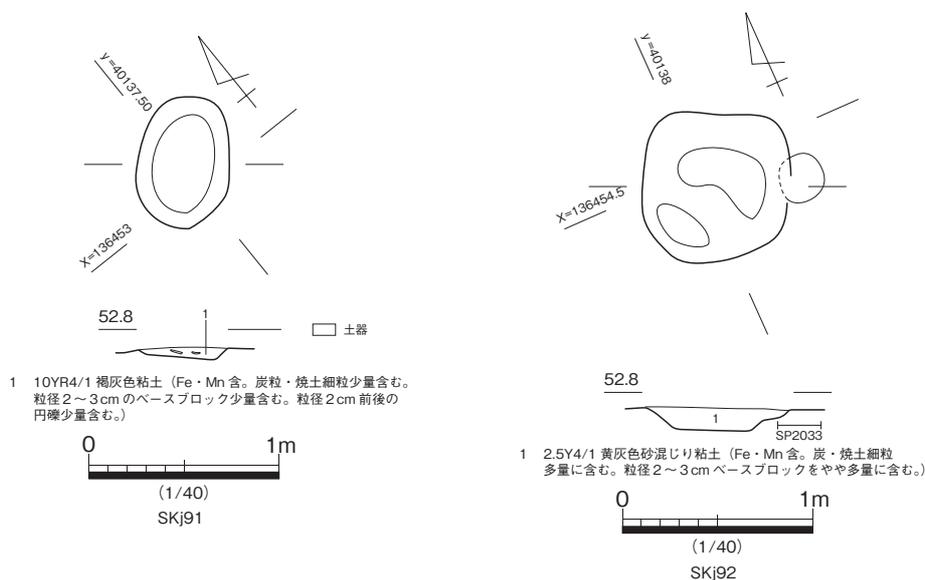
13 H グリッド 東端で SKj90 の北側に隣接して検出した。平面形は楕円形であるが、南側が直線的な部分がある。長径 0.70 m、短径 0.48 m、深さ 0.06 m である。底面は平坦であるが、西から東に向かって下がっている。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj92 (第 96 図)

13 H グリッド 東端で SKj91 の北側に隣接して検出した。東側を小穴により壊されている。平面形は隅丸方形に近いが、西側の湾曲が強い。一辺 0.80 m 前後、深さ 0.12 m である。南西部分にはテラス状の平坦面がある。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第 96 図 SKj91・92 平・断面図 (1/40)

SKj98 (第 97 図)

12 H グリッド 中央やや北寄りで検出した。平面形は楕円形で、長径 0.84 m、短径 0.42 m、深さ 0.11 m である。掘り込みは急で、底面は平坦であるが、北西から南東に向かって緩やかに下っている。

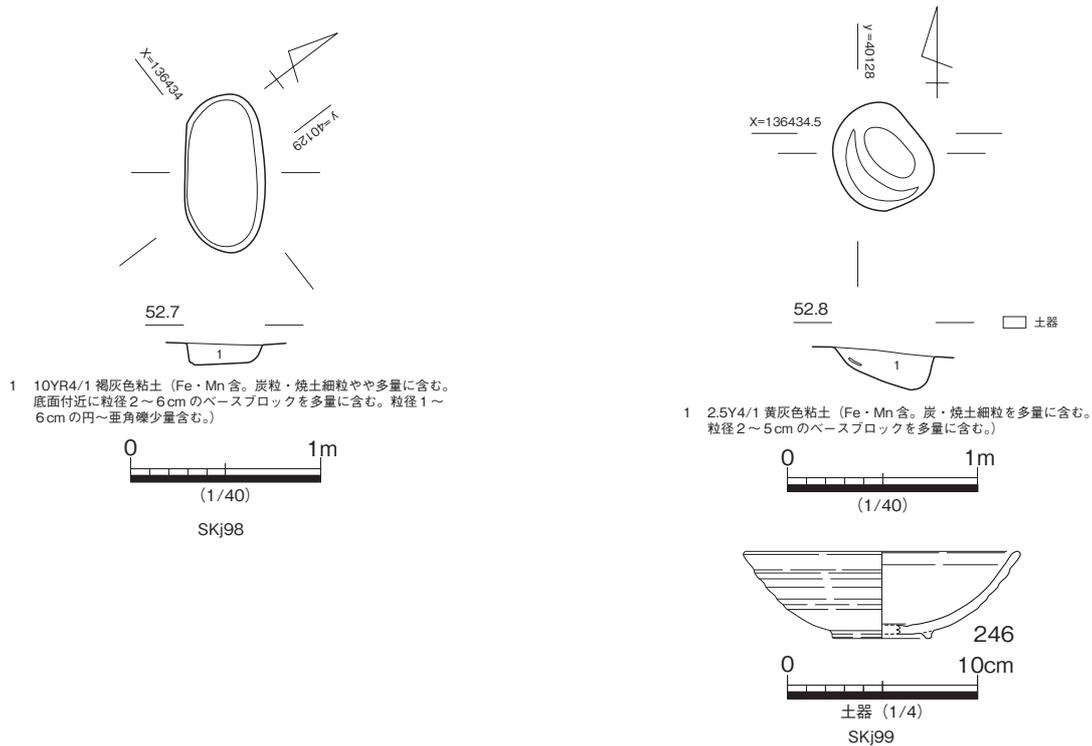
遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj99 (第 97 図)

12 H グリッド 中央やや北寄りで、SKj98 の西側に隣接して検出した。平面形は扁平な円形で、東側が直線的である。円形とすれば直径 0.55 m になり、深さは 0.19 m である。南西部分は段状に掘り込まれており、北東部分は急になっている。底面は平坦であるが、西から東に向かって下っている。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

246 は土師器椀で、体部上半のナデは強い。底部には断面方形の高台を貼り付けている。

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。



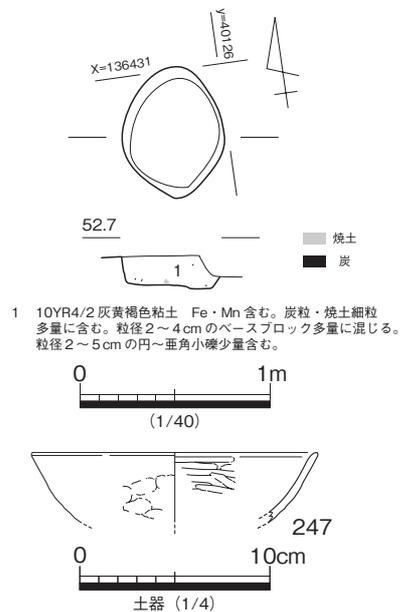
第97図 SKj98・99 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj100 (第98図)

12 Hグリッド中央やや西寄りで検出した。平面形は楕円形で、長径 0.70 m、短径 0.54 m、深さ 0.17 m である。底面は平坦な部分が多いが、東側の壁際が一段低くなっている。また掘り込みは全体に急になっている。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

247 は瓦器椀である。体部外面には指押さえが顕著で、内面の口縁部付近には幅広のヘラミガキを施している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第98図 SKj100 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj101 (第99図)

12 H グリッド南部の調査区南壁付近で検出した。平面形は楕円形で、長径0.57 m、短径0.38 m、深さ0.05 mである。底面は若干の起伏がある。

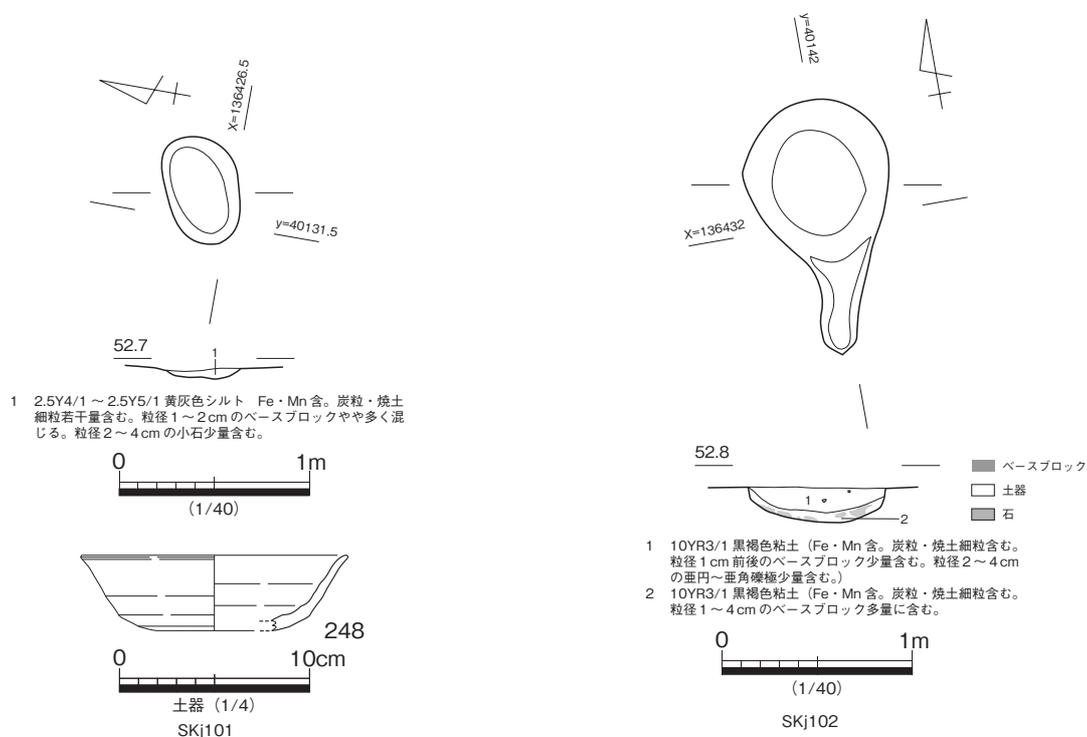
248は土師器杯で、体部立ち上がり部は回転ナデによる稜線が明瞭である。

出土遺物から中世(12世紀後半)の土坑である。

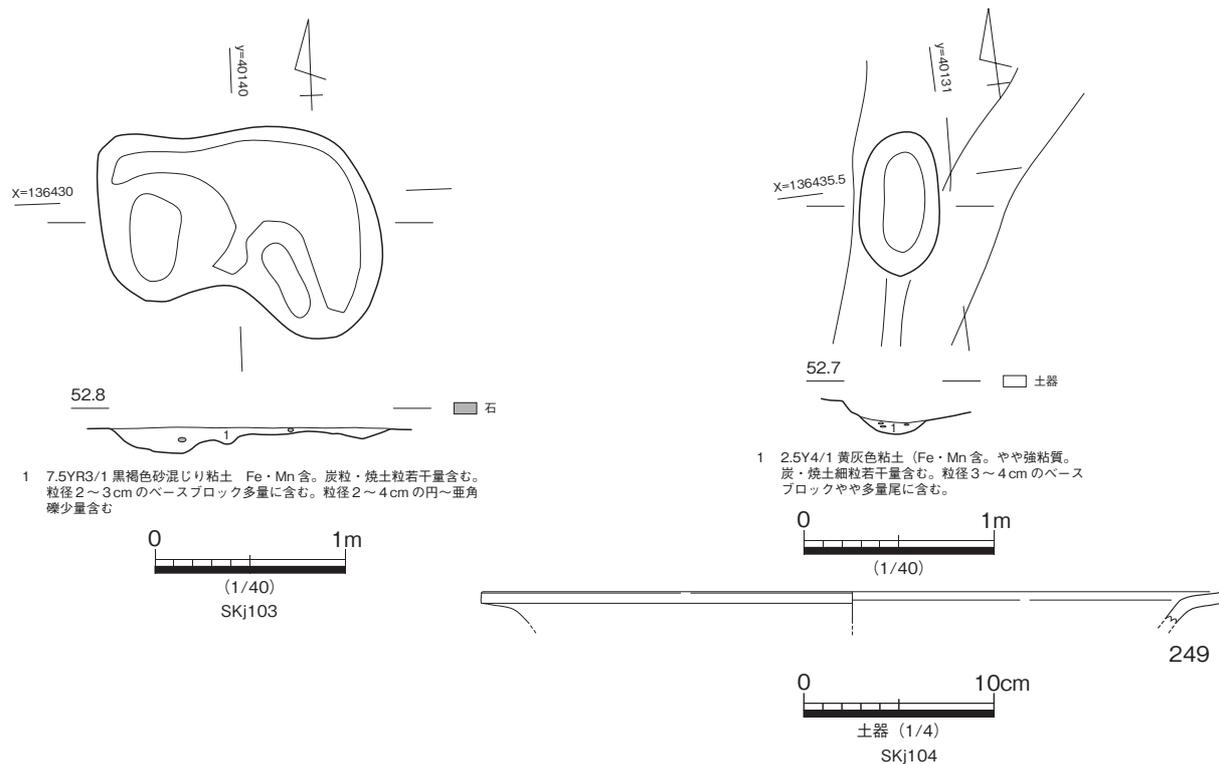
SKj102 (第99図)

12 G グリッド西端で調査区東壁際で検出した。円形部分の南側に短い溝状の突出部が付いている。円形部分は直径0.75 m、深さ0.18 mで、溝状部分は長さ0.48 m、幅0.21 mで、円形部分より浅くなっている。円形部分の底面は緩く湾曲しており、掘り込みは急である。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難である。



第99図 SKj101・102 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 100 図 SKj103・104 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj103 (第 100 図)

12 G グリッド西端で調査区東壁際で SKj102 の北西に隣接して検出した。平面形は不整形で、南東部分が円形に突出している。東西 1.48 m、南北 0.80 ~ 1.15 m、深さ 0.14 m である。北側一帯はテラス状の面をもち、南側と西側が局所的に低くなっている。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj104 (第 100 図)

12 H グリッド北部で検出した。上部全体を後に掘削された溝により削平されている。平面形は楕円形で、長径 0.77 m、短径 0.42 m、残存している深さ 0.06 m である。

249 は土師質鍋である。口縁部は外側に直線的に屈曲し、端部は平坦な面を形成している。

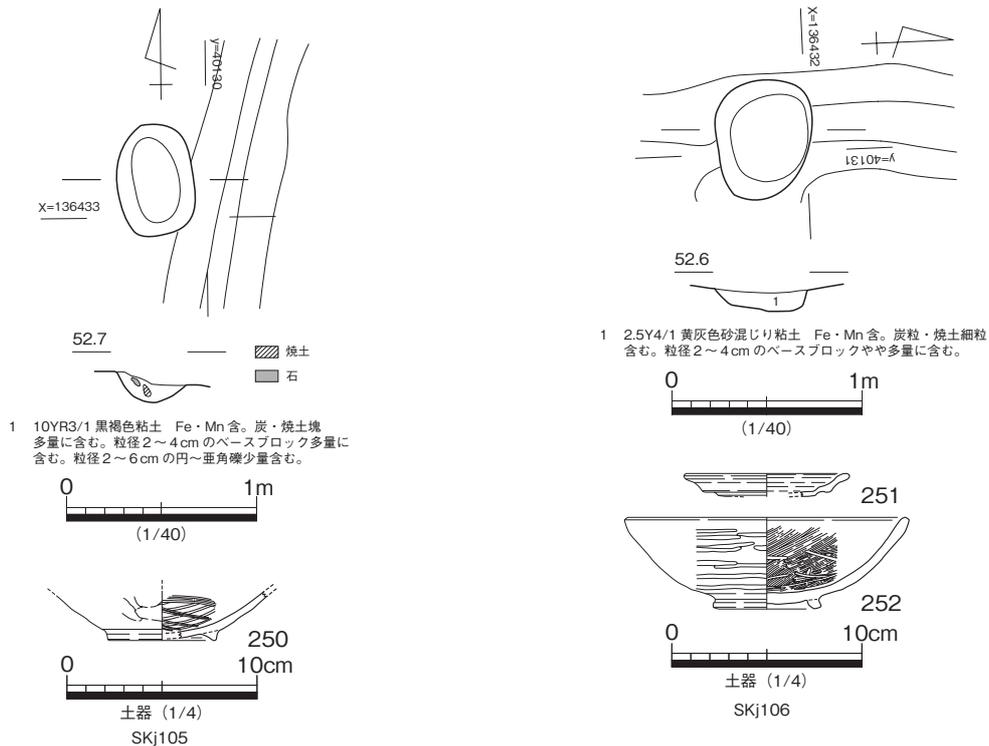
出土遺物から中世の土坑である。

SKj105 (第 101 図)

12 H グリッド中央付近で検出した。SKj104 を削平している溝の埋没後に掘削されている。平面形は楕円形と隅丸長方形の中間形態である。長径 0.60 m、短径 0.41 m、深さ 0.15 m である。埋土には炭化物と焼土を多量に含んでいる。

250 は和泉型瓦器椀で、体部外面は指押さえが顕著で、底部には断面三角形の高台を貼り付けている。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の土坑である。



第 101 図 SKj105・106 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj106 (第 101 図)

12 H グリッド北部で、SKj104 の北側に隣接して検出した。SKj105 と同様に、SKj104 を削平している溝の埋没後に掘削されている。平面形は楕円形と隅丸長方形の中間形態である。長径 0.66 m、短径 0.52 m、深さ 0.10 m である。

251 は土師器小皿で体部上半と立ち上がり部を強くナデているため、その境が突帯のような鋭い稜を形成している。252 は十瓶山産須恵器椀で、体部内面には全体にハケ目を施した後に、下半部に間隔の開いたヘラミガキを加えている。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。

SKj107 (第 102 図)

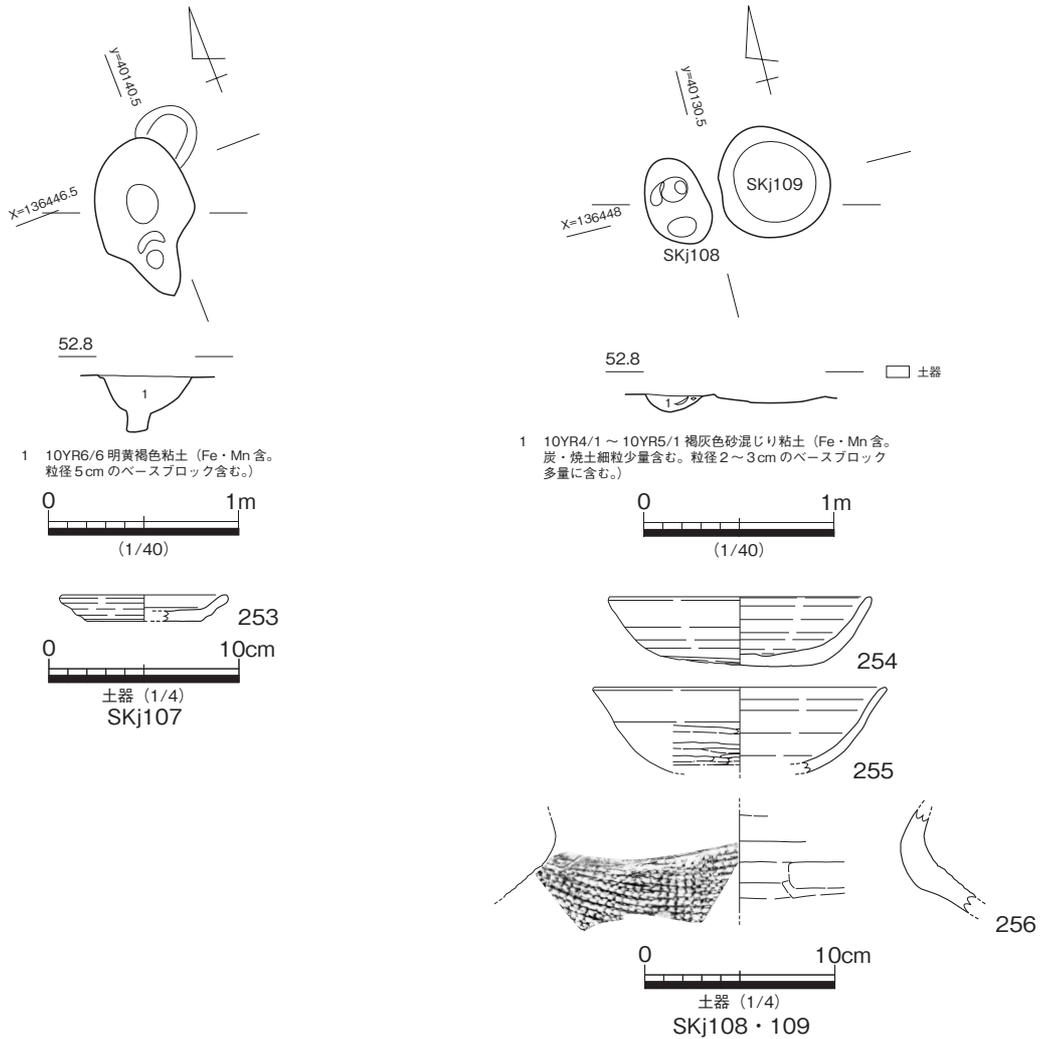
13 G グリッド西端部で検出した。平面形は不整形で隅丸方形の一部が突出している。南北 0.84 m、東西の最大幅 0.52 m、深さ 0.30 m である。突出する箇所平坦面をもち、その両側が柱穴の柱痕部分のように一段深くなる。あるいは 2 つの遺構が重なっているのかも知れないが、埋土の断面観察からはすべて単一層になっており、その状況は伺えなかった。

253 は土師器小皿で、体部を 2 段にナデている。

出土遺物から中世 (13 世紀後半) の土坑である。

SKj108 (第 102 図)

13 H グリッド中央で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.48 m、短径 0.32 m、深さ 0.10 m である。掘り込みは緩やかで、断面は U 字形になる。



第 102 図 SKj107 ~ 109 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

254 は土師器杯、255 は十瓶山産須恵器椀で体部外面に間隔の開いた横方向のヘラミガキを施している。256 は須恵器甕で体部外面に格子目タタキを施している。

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。

SKj109 (第 102 図)

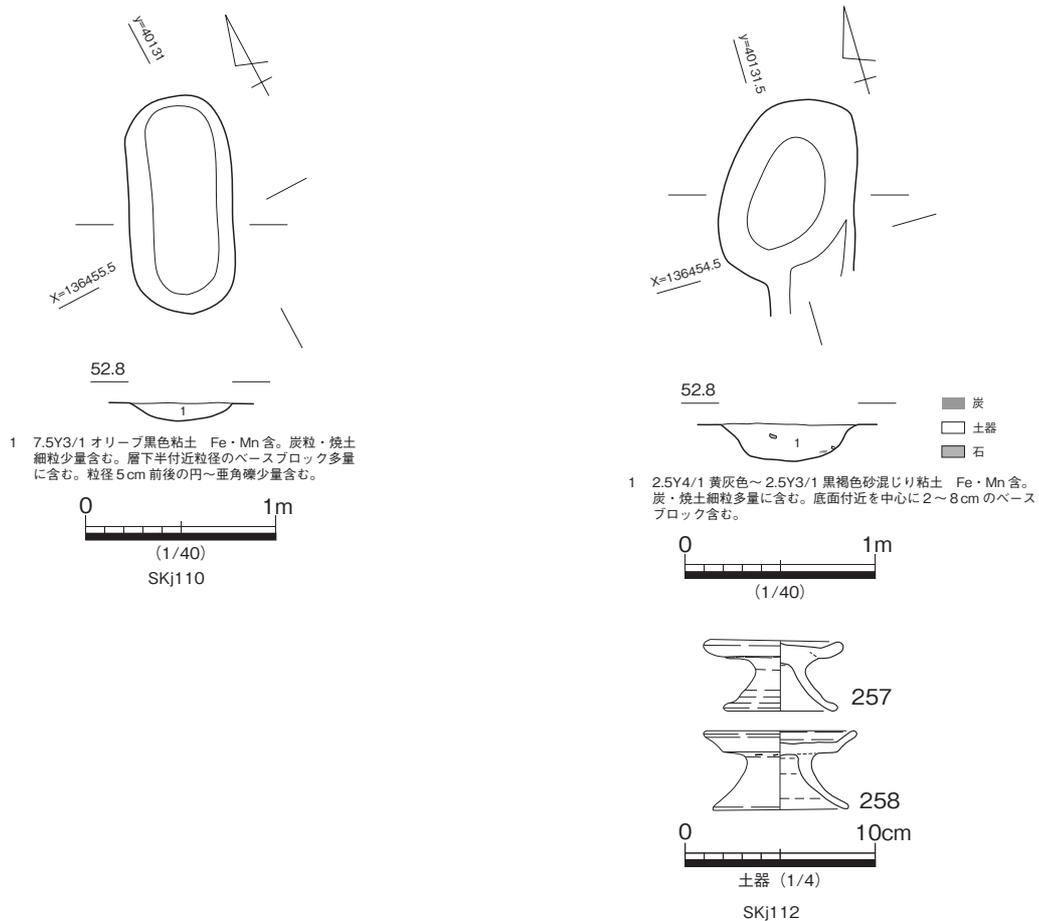
13 H グリッド中央で SKj108 の東側に隣接して検出した。平面形は円形で、直径 0.60 m、深さ 0.04 m である。非常に浅いもので、断面は皿状になる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj110 (第 103 図)

13 H グリッド北部で検出した。平面形は楕円形であるが、東西は直線的になる。長径 1.16 m、短径 0.54 m、深さ 0.09 m である。底面は緩やかに湾曲しており、掘り込みも緩やかである。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第 103 図 SKj110・112 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj112 (第 103 図)

13 H グリッド北部で SKj110 の東側に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径 1.00 m、短径 0.67 m、深さ 0.20 m である。南側に溝が接続するが同時併存か前後関係があるのかは不明である。掘り込みは緩やかで、底面はほぼ平坦である。埋土には炭化物と焼土を多く含んでいる。

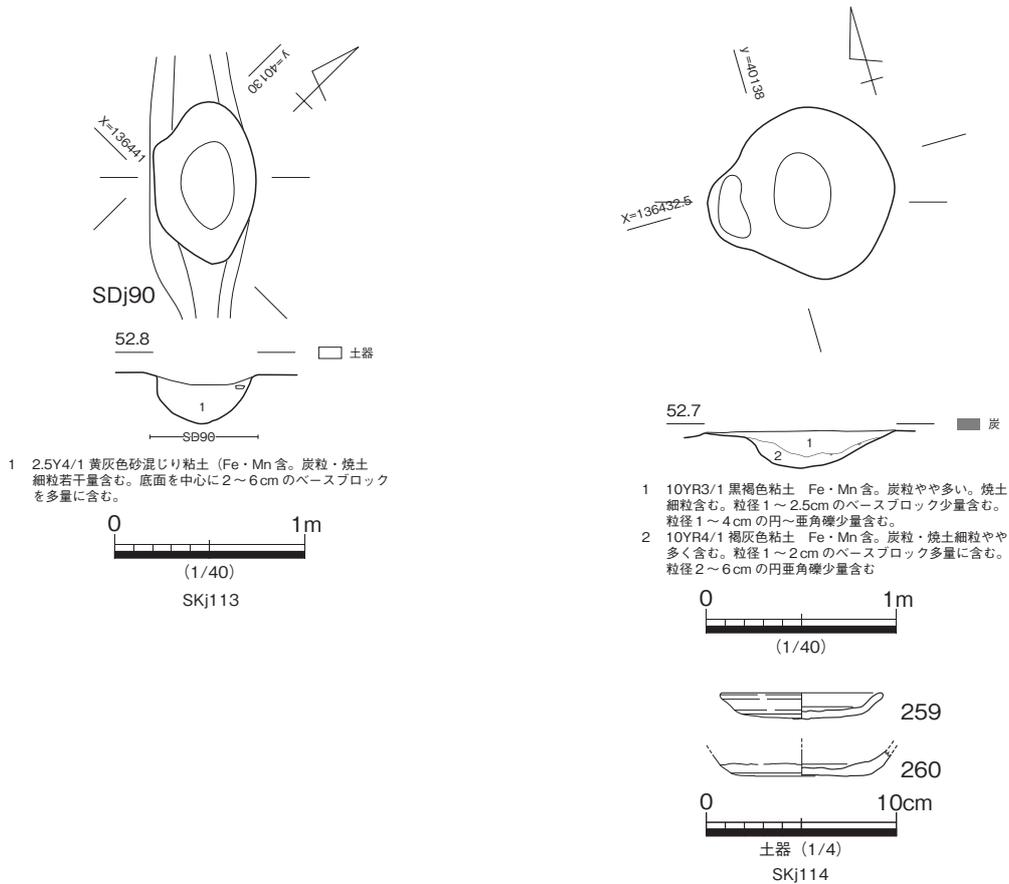
257 は土師器台付き小皿で、皿部分は全体に肥厚しており、底部から若干折り曲げるだけで口縁部を作り出している。258 は黒色土器台付き小皿で、皿部の内面を黒色処理している。

出土遺物から中世 (12 世紀後半頃) の土坑である。

SKj113 (第 104 図)

13 H グリッド南端部で検出した。平面形は西側が内湾しているものの概ね楕円形である。長径 0.85 m、短径 0.54 m、深さ 0.22 m である。SDj90 に丁度収まるようにあるが、SDj90 との前後関係は不明である。底面は緩やかに弧を描き、断面は U 字形である。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第104図 SKj113・114 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj114 (第104図)

12 Hグリッド東端部で検出した。平面形は隅丸方形の西側が突出している形状である。南北0.92 m、東西0.99 m、深さ0.18 mである。掘り込みは全体に緩やかで、西側の突出した部分は一段高く、テラス状の面をもつ。底面は若干の丸みを帯び、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

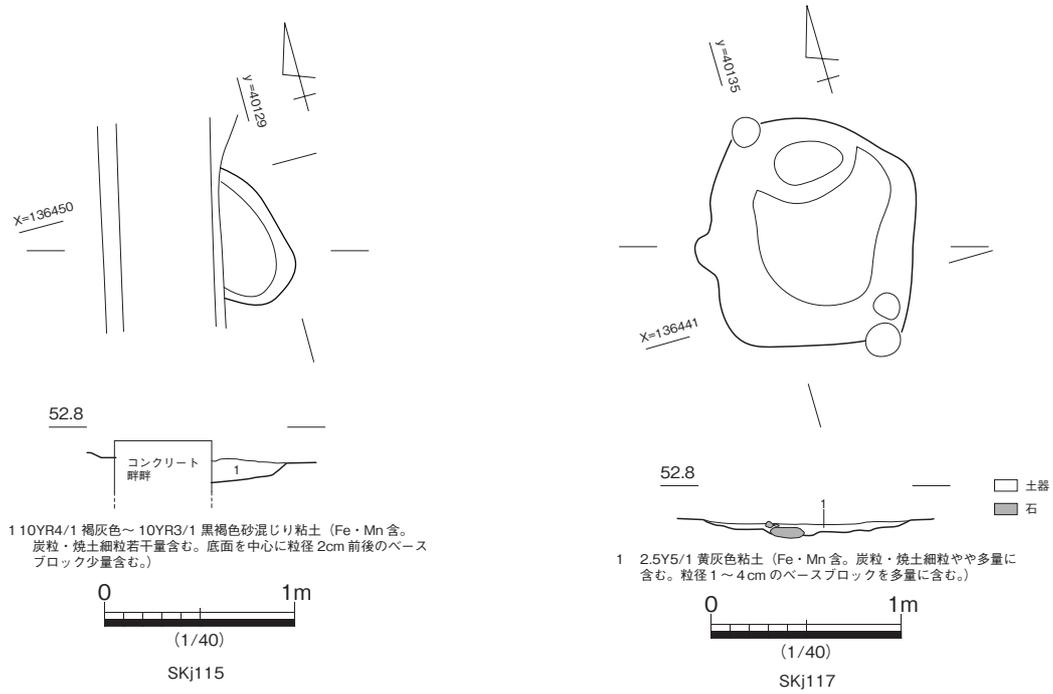
259 は土師器小皿で体部を強くナデている。260 は土師器杯で立ち上がり部は肥厚している。

出土遺物から中世 (12世紀後半頃) の土坑である。

SKj115 (第105図)

13 Hグリッド中央で検出した。西側は現代の構造物で壊されており全体形は不明である。検出部分から考えると楕円形に近くなるものと思われる。南北0.7 m前後、東西は最大で0.42 m、深さ0.13 mである。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。



第 105 図 SKj115・117 平・断面図 (1/40)

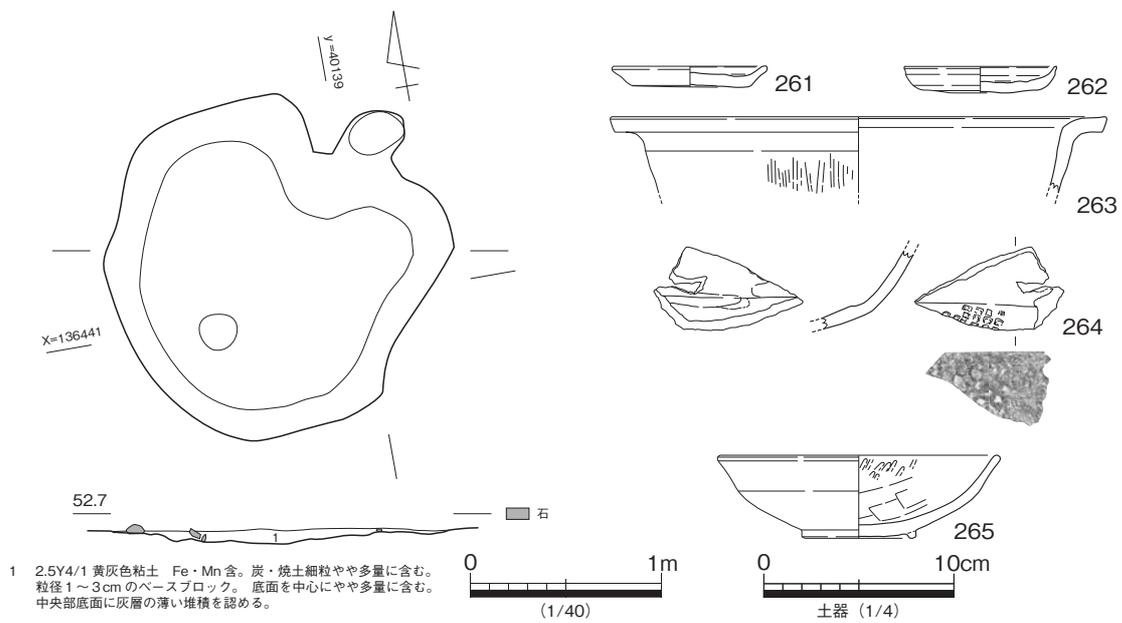
SKj117 (第 105 図)

13 H グリッド南東部で検出した。平面形は隅丸方形であるが、北側は丸みを帯び、両隅は不揃いである。また西側には丸みを帯びた小さな突出がある。南北 1.20 m、東西 1.10 m、深さ 0.07 m である。全体に浅いが北側が一段低くなっており、底面には起伏がある。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj118 (第 106 図)

13 H グリッド南東隅で検出した。平面形は不整形で北東部分は内側に入り込むが、その一部が突出



第 106 図 SKj118 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

している。南北 1.78 m、東西 1.84 m、深さ 0.08 m である。全体に浅く皿状の落ち込みになっている。埋土には炭化物と焼土をやや多く含んでいる。

261・262 は土師器小皿で、262 の口縁部は強いナデにより先細りになっている。263・264 は土師質鍋で、264 の下部には粗い格子目タタキが施されている。265 は須恵器椀で体部中央で湾曲する。断面方形の短い高台を貼り付けている。

出土遺物から中世（13 世紀中頃）の土坑である。

SKj120 (第 107 図)

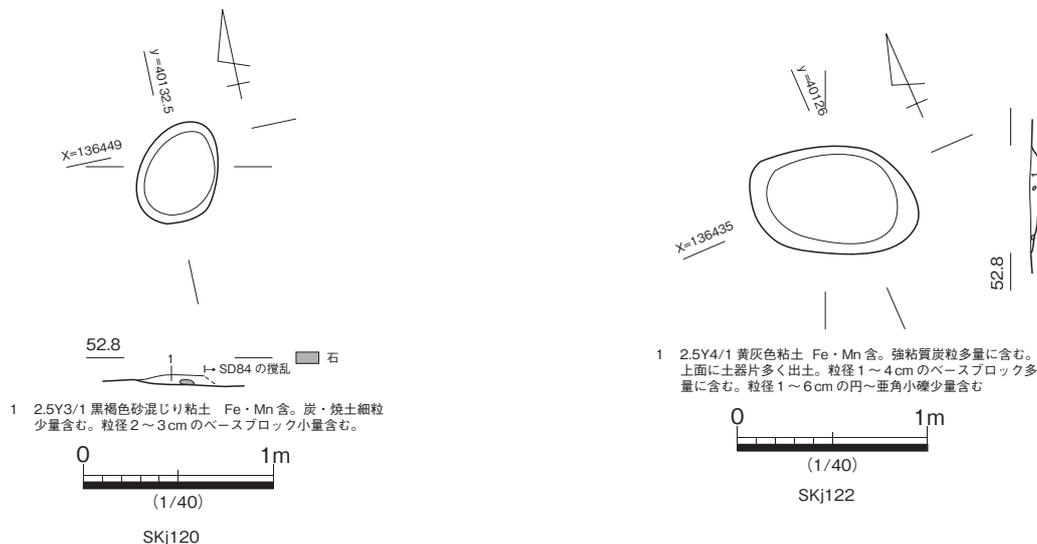
13 H グリッド中央で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.55、短径 0.40 m、深さ 0.06 m である。周囲の遺構面は SDj84 の氾濫により低くなっており、SKj120 の掘り方部分より中央が高くなってしまっている。底面は平坦で、全体に浅いものである。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

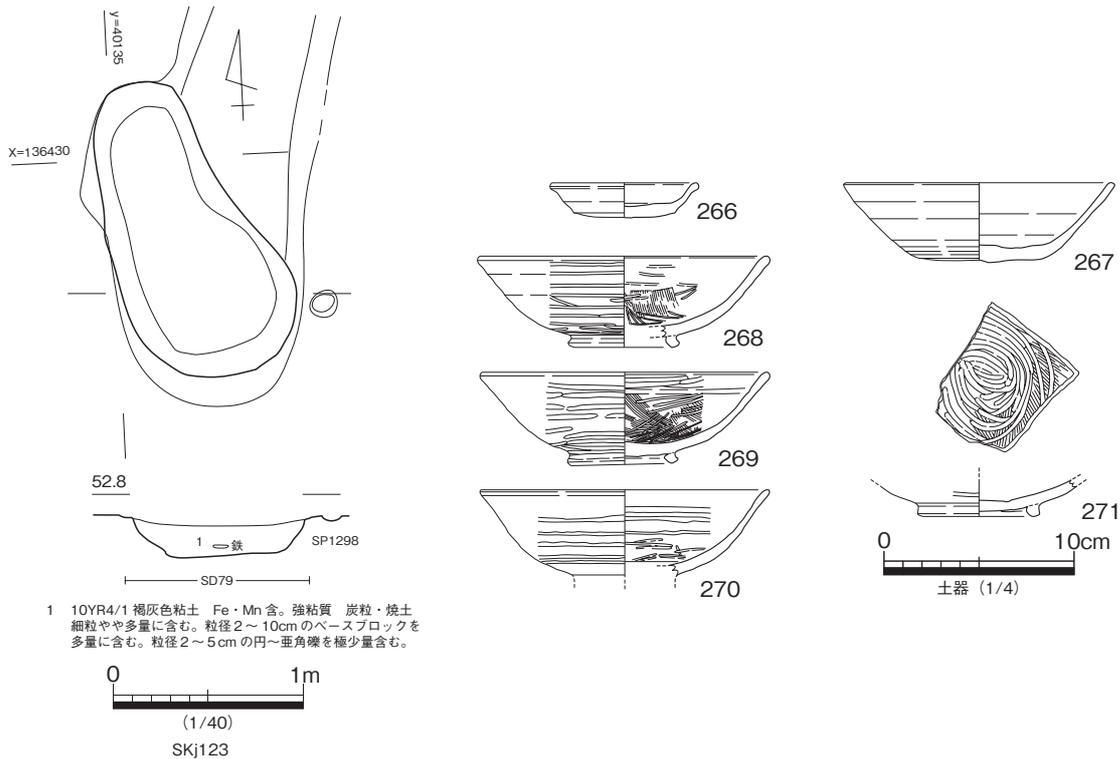
SKj122 (第 107 図)

12 H グリッド北西部で検出した。平面形は隅丸長方形と楕円形の間形態である。北東—南西 0.56 m、北西—南東 0.90 m、深さ 0.06 m である。埋土は粘性が強く炭化物を多く含んでいる。

遺物は細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況から中世の土坑とする。



第 107 図 SKj120・122 平・断面図 (1/40)



第 108 図 SKj123 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj123 (第 108 図)

12 H グリッド東部で検出した。上部を SDj79 により削平されており、SDj79 の収束部と重なっている。平面形は隅丸長方形の北東部が抉れているような形態である。北西—南東 1.64 m、北東—南西は 0.55～0.88 m、残存する深さは 0.17 m である。底面は平坦で、埋土には炭化物と焼土を含んでいる。

266 は土師器小皿で体部を 2 段に強くナデている。267 は土師器杯である。268～271 は十瓶山産須恵器碗である。270 以外の高台はどれも断面方形で外向きである。271 は内面見込み部にハケ目の後にらせん状にヘラミガキを施している。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の土坑である。

SKj124 (第 109 図)

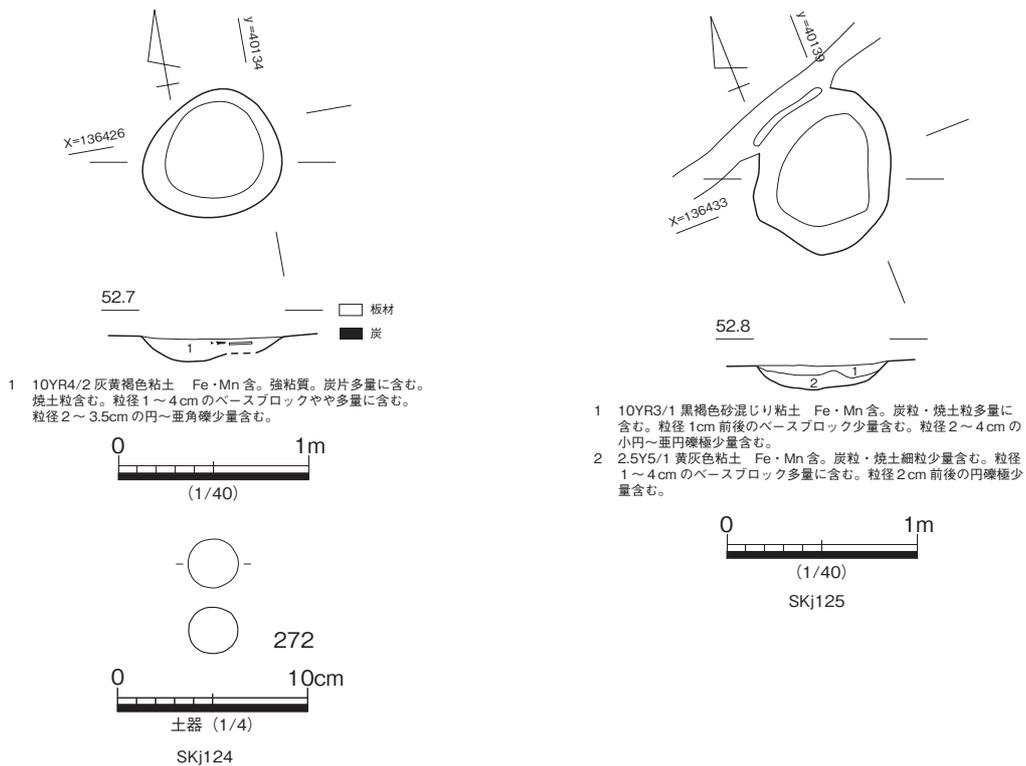
12 H グリッド南東部の調査区南壁際で検出した。平面形は扁平な円形で、直径 0.62～0.75 m、深さ 0.12 m である。掘り込みは緩やかで、底面は丸みを帯びている。埋土は粘性が強く炭化物を多く含み、木片も少量出土した。

272 は直径 2.6cm の土玉である。

時期を特定できる遺物は出土していないが、13 世紀代の SDj74 の埋没後に築かれていることから、それ以降の中世の土坑である。

SKj125 (第 109 図)

12 H グリッド東端部で検出した。北側で SDj100 と接しているが、前後関係は不明である。平面形は楕円形と隅丸方形との中間形態であり、西側が全体に直線的になっている。楕円形とすれば長径 0.87 m、短径 0.70 m、深さ 0.14 m である。掘り込みは緩やかで、底面は若干の丸みを帯びている。上層には炭



第 109 図 SKj124・125 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

化物と焼土を多く含んでいる。

遺物は出土していないが、13 世紀初頭前後の SDj100 との前後関係は不明ながら接していることから同時期に近い中世の土坑とする。

SKj126 (第 110 図)

13 H グリッド北西部で検出した。平面形は楕円形で、長径 0.90 m、短径 0.58 m、深さ 0.10 m である。北側半分はテラス状の平坦面を形成して底面に至り、底面には若干の起伏が認められる。

遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj127 (第 110 図)

13 H グリッド北西部で SKj126 の東側に隣接して検出した。平面形は不整形で、北側が一部内湾しているが、全体として三角形に近い。北西—南東で 0.65 m、北東—南西で 0.50 m、深さ 0.04 m である。全体に浅く、底面は起伏に富んでいる。

遺物は出土していないが、埋土の状況から中世の土坑とする。

SKj128 (第 111 図)

13 H グリッド中央で検出した。平面形は隅丸の三角形であるが、全体に丸みを帯びている。一辺 0.65 m 前後で、深さ 0.08 m である。東から西に向かって緩やかな段を形成しながら下っている。

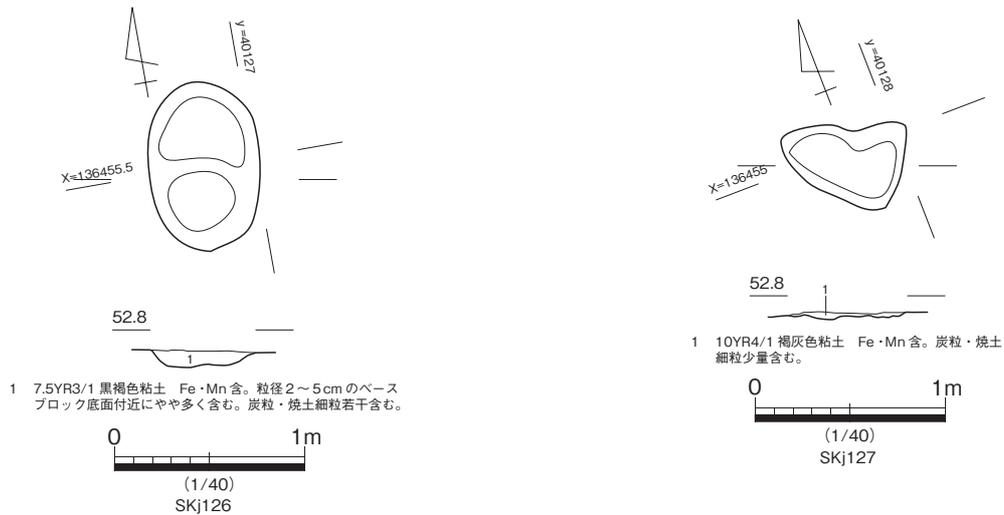
遺物は出土しておらず、時期は不明である。

SKj129 (第 111 図)

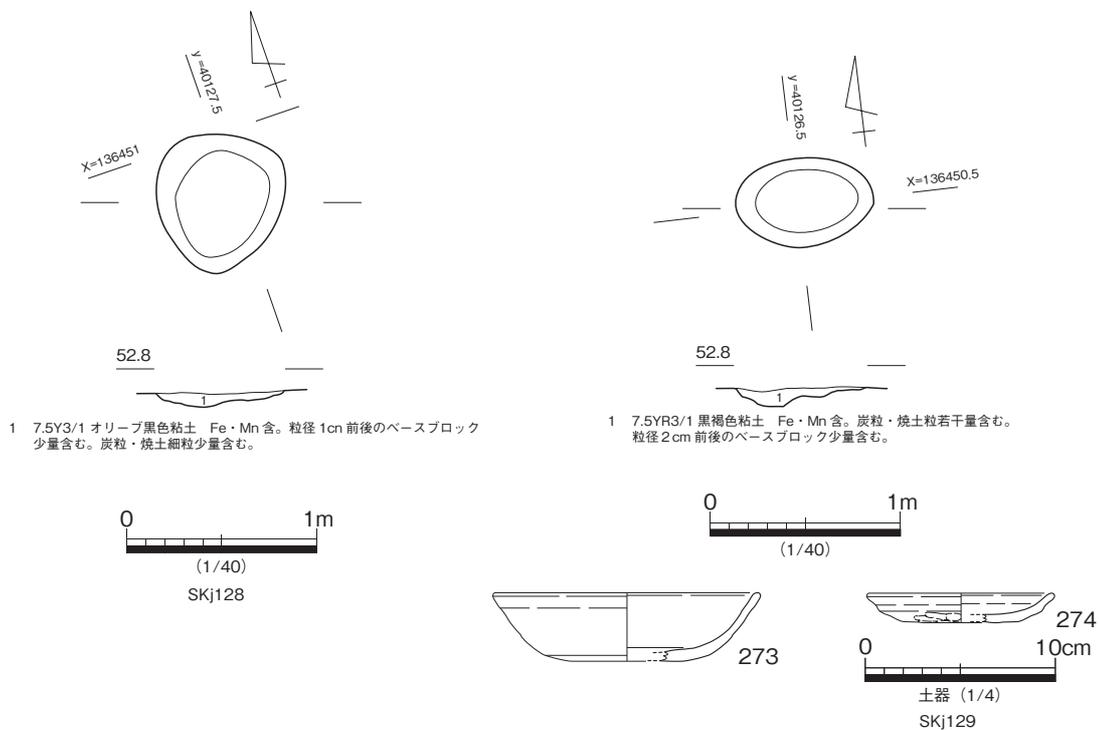
13 H グリッド中央で SKj128 の西側に隣接して検出した。平面形は楕円形で、長径 0.71 m、短径 0.47 m、深さ 0.09 m である。東から西に向かって段を形成しながら下っている。

273 は土師器杯、274 は瓦器小皿で口縁部を強くナデており、体部立ち上がり部外面には指押さえが顕著である。

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の土坑である。



第 110 図 SKj126・127 平・断面図 (1/40)



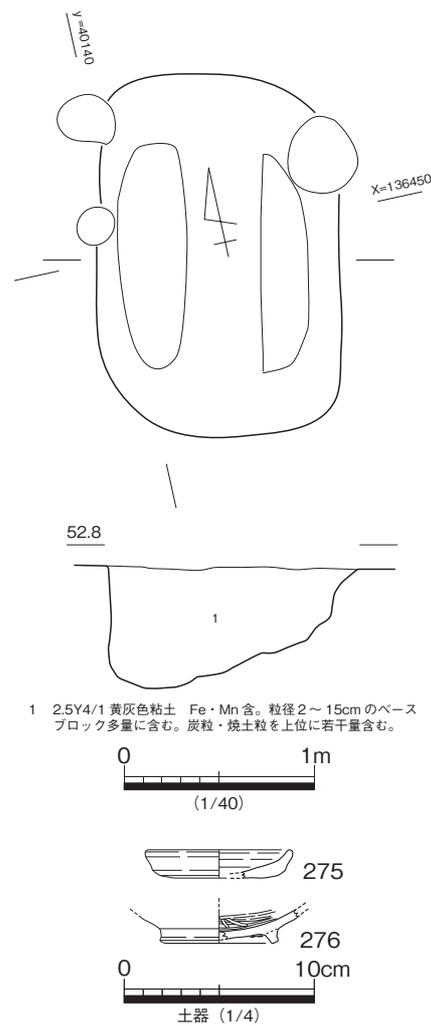
第 111 図 SKj128・129 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SKj130 (第 112 図)

13 G グリッド西端から 13 H グリッドにかけて検出した。平面形は隅丸長方形で、長辺 1.94 m、短辺 1.28 m、深さ 0.64 m である。西側は垂直に掘り込まれており、東側も垂直に近く 0.26 m ほど掘り込んだ後に起伏を持ちながら徐々に下って行く。底面の最深部は東側の下端付近に片寄っている。深さをもつ遺構であるが、埋土は黄灰色粘土の単一層である。

275 は土師器小皿、276 は黒色土器 A 類椀で、内面にはヘラミガキを施し、底部には断面方形の高台を外向きに貼り付けている。

出土遺物から中世（13 世紀初頭前後）の土坑である。



第 112 図 SKj130 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

木棺墓

STJ01 (第 113 ~ 115 図)

15 H グリッド南端部で検出した。墓壙は隅丸長方形で、長辺 1.55 m、短辺 0.96 m である。残存する深さは 0.55 m と深く、底面の標高は 52.08 m で、垂直に近く掘り込まれている。底面は概ね平坦であるが、木棺が置かれた部分だけ 0.03 m ほど深く掘り込まれ、断面形は中央部分が凹字状に窪んだ方形になる。

埋土は上位の墓壙埋め戻し土、棺内埋土、棺裏込め土の 3 層に大別される。埋め戻し土はベース層のブロック土を多量に含んだ土壌で、墓壙掘削から棺埋納後直ちに埋め戻されている。また墓壙上面には、墓壙掘削土のうち少なくとも木棺分に相当する量が塚状に盛り上げられていたことであろう。

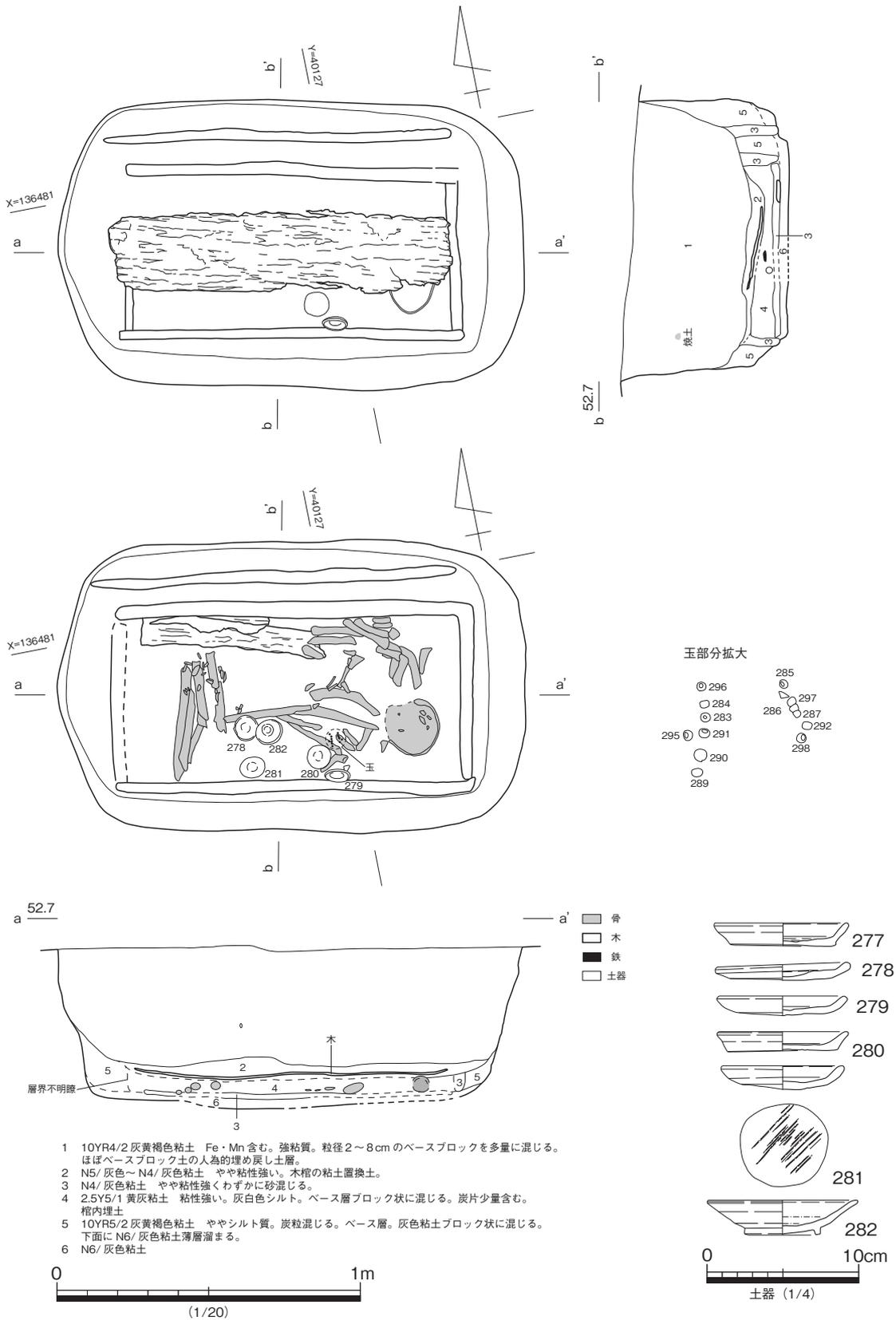
木棺は内法で長辺 1.05 m、短辺 0.51 m、残存する深さ 0.10 m で、主軸方位は N 79° W と東西主軸になる。棺は蓋板がかろうじて残存していたが、側板と底板は完全に腐食し、灰色粘土に置き換わっていた。蓋板木質部は長辺 1.03 m、短辺 0.28 m が残存していたのみで、長辺の左右側縁部は腐食して粘土に置き換わっていたが、粘土の範囲から棺の上面を覆っていたことがわかる。釘は確認されなかったため、蓋と側板の結合方法は不明である。側板は南北両長側板と東小口板は明瞭に確認できたが、西小口板は土層断面でも明瞭に確認出来なかった。上面で帯状に検出された灰色粘土と蓋板から西小口板を復元した。このため先の木棺の寸法は長辺の長さには若干の誤差を含むものである。また棺北東隅部の状況も不明瞭であったが、比較的明瞭に確認された南東隅部の状況から、長側板が小口板を挟む構造であったと復元する。底板は側板内側にのみ確認された。さらに木棺の北側に棺とほぼ平行して長さ 1.15 m の板材が立てられていたことを確認した。埋土の状況から、棺埋納とほぼ同時に立てられたようだが、棺蓋板や側板はこの板材まで及んでおらず、棺主軸と僅かに方向も異なることから、棺とは別物と判断できる。墓壙の北半が弥生時代の大溝と重複しており軟弱な地盤であると判断したため、墓壙の崩落を防止する擁壁のような機能をもって設置されたと考えておく。

棺内で、頭部を東に向けて仰臥し膝を折り曲げて埋葬された人骨を 1 体検出した。人骨の残存状況は不良で、頭蓋骨と四肢骨の一部などが確認されたに過ぎない。人骨は成人男性（山口県土井が浜遺跡・人類学ミュージアム館長・松下孝幸氏の鑑定による）である。

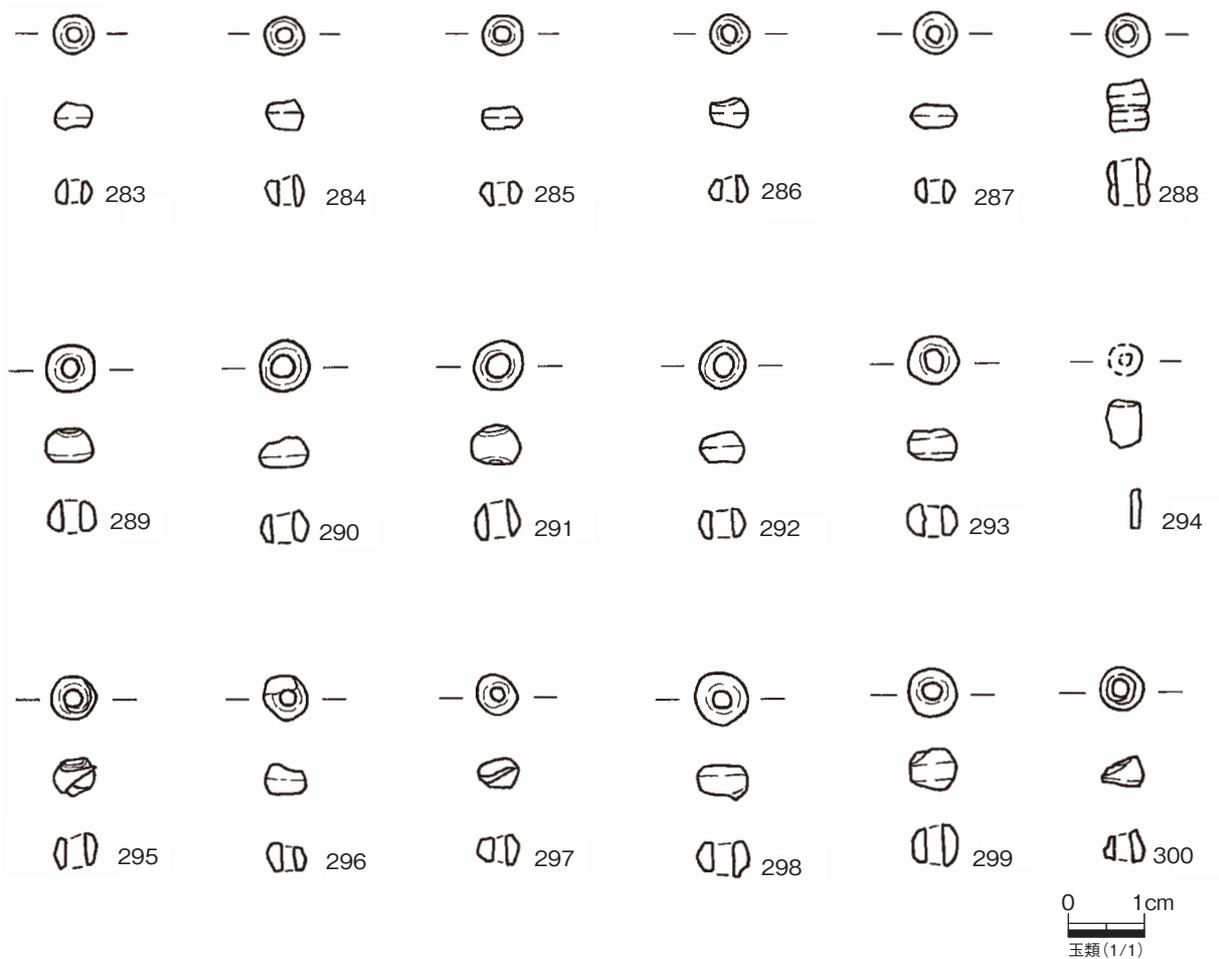
副葬品はすべて棺内から出土した。腹部と想定される位置の南側で白磁皿 (282) と土師器小皿 (278 ~ 281) が内面を上に向けて出土した。土師器小皿のうちの 3 点 (279 ~ 281) は棺側に落ち込むように出土したが、いずれも本来は遺体の上に据え置かれていたものであろう。また遺体の中央付近の白磁皿 (282) の下から鉄製の短刀 (301) が出土した。長さ 31.1cm、刃部幅 32cm、厚さ 0.7cm のもので、茎を頭部側に、切先を足側に、刃は南に向けてほぼ遺体と平行に置かれていた。また頭蓋骨から西へ 0.15 ~ 0.20 m 離れたところにガラス製小玉が 16 点 (283 ~ 293・295 ~ 299) 出土している。小さな骨片を中心に玉が環状に近く出土したことから、紐を通して環状にして手首に巻かれていたようである。にぶい青緑色から劣化した白濁色のものがある。

さらに木棺の下で墓壙底面に接して土師器小皿 (277) が口縁部を下に伏せた状態で出土した。木棺の埋納前の儀礼的な意味をもって埋められたのであろうか。

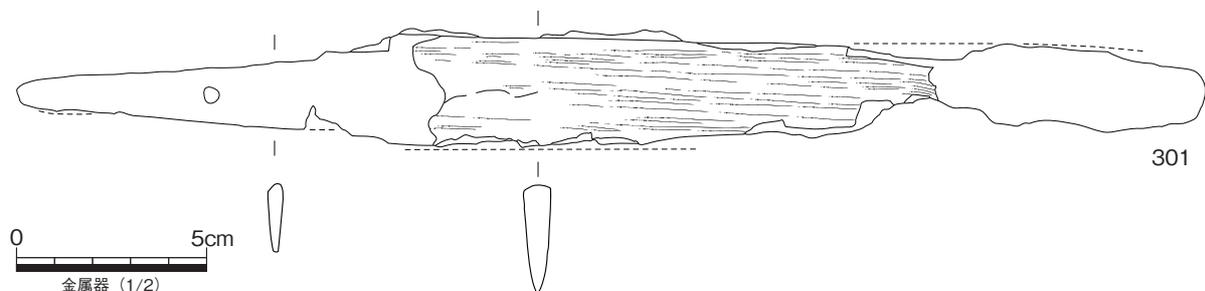
出土遺物から中世 (13 世紀前半) の木棺墓である。



第113図 STj01 平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)



第 114 図 STj01 出土遺物 2 (1/1)



第 115 図 STj01 出土遺物 3 (1/2)

STj02 (第 116 図)

15 H グリッド南部で、STj01 の北東部隣接して検出した。墓壙は隅丸長方形で、長辺 1.62 m、短辺 0.95 m である。残存する深さは 0.27 m で底面の標高は 52.28 m と STj01 と比べて 0.2 m ほど浅い位置に木棺が据えられている。四周とも垂直に近く掘り込まれており、底面はほぼ平坦であり、木棺の周囲に僅かな段が認められる。断面形は方形になる。

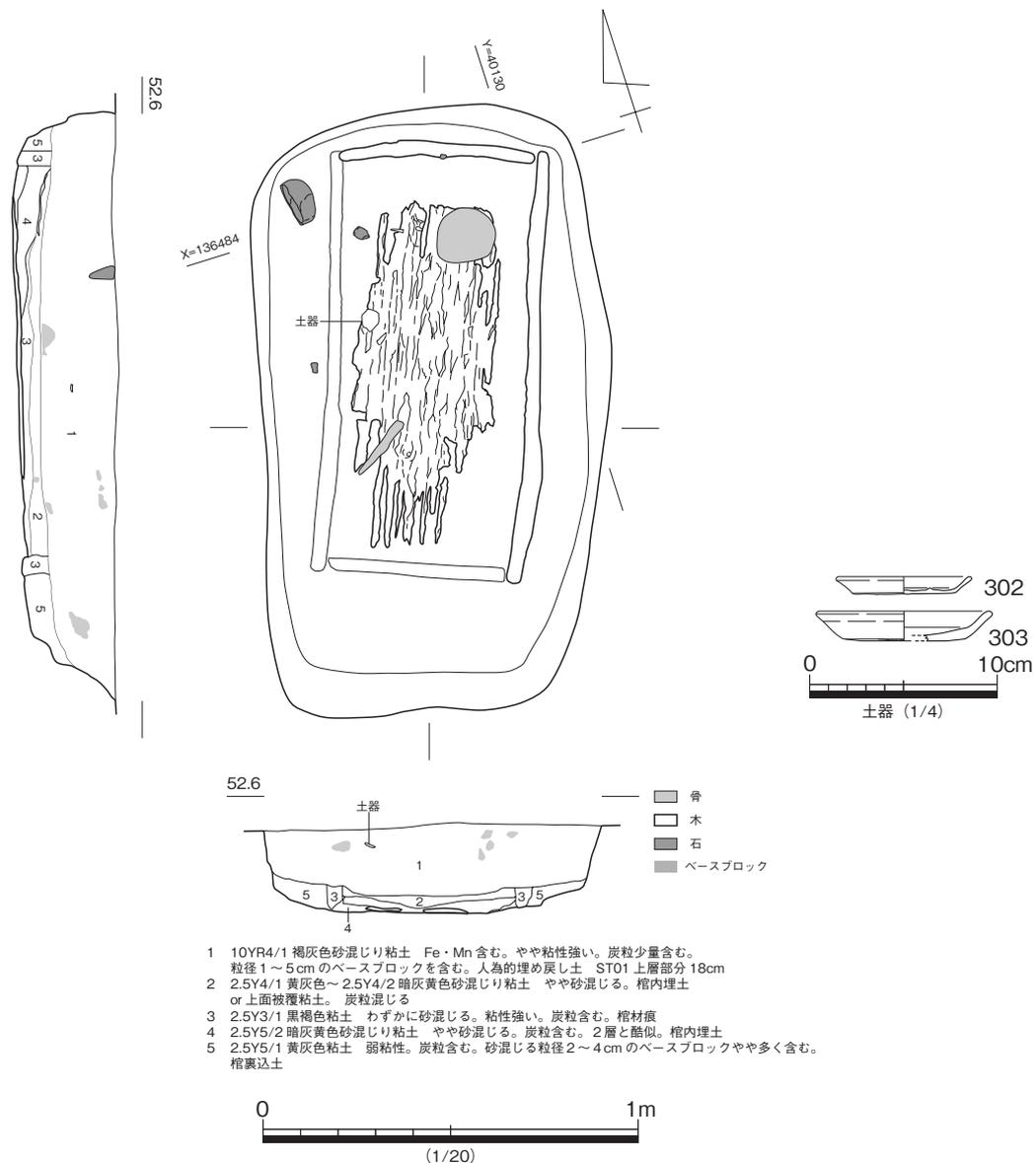
埋土は墓壙埋め戻し土、棺内埋土、棺裏込め土の 3 層に大別される。埋め戻し土はベース層のブロック土を多量に含んだ土壌である。全体として埋土は STj01 と酷似している。

木棺は内法で長辺 1.10 m、短辺 0.50 m、残存する深さ 0.07 m で、主軸方位は N 20° E と南北主軸になる。

STj01 とは直交に近い位置関係になる。棺は底板のみがかるうじて残存していたが、側板と蓋板は腐食しており、側板の痕跡は確認できたが、蓋板は痕跡も確認出来なかった。側板は明瞭に確認でき、長側板が両小口板を挟む構造であった。底板は側板内側のみで確認できた。

棺内には頭部を北に向けて埋葬された人骨を1体検出した。顔は歯の位置から西を向いている。頭蓋骨は比較的良好に残っていたが、他の骨は痕跡も確認できなかったため埋葬姿勢は不明である。

棺内埋土からは混入した土器の小片が出土したのみで副葬品はなかった。302は墓壙上面で出土した土師器小皿である。副葬品がないため正確な時期決定はできないが、302を墓壙の埋め戻し時の遺物とすることが出来るなら、302とSTj01との類似性を考慮して、STj01と相前後した時期である中世（13世紀前半）の木棺墓とする。



第 116 図 STj02 平・断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)

STj03 (第 117・118 図)

13 J グリッド南部で検出した。墓壙は隅丸長方形で、長辺 1.52 m、短辺 0.98 m である。残存する深さは 0.27 m で底面の標高は 52.38 m と STj02 とほぼ同じ深さに木棺が据えられている。南側が若干緩やかながら、四周とも垂直に近く掘り込まれている。底面はほぼ平坦であり、断面形は方形になる。

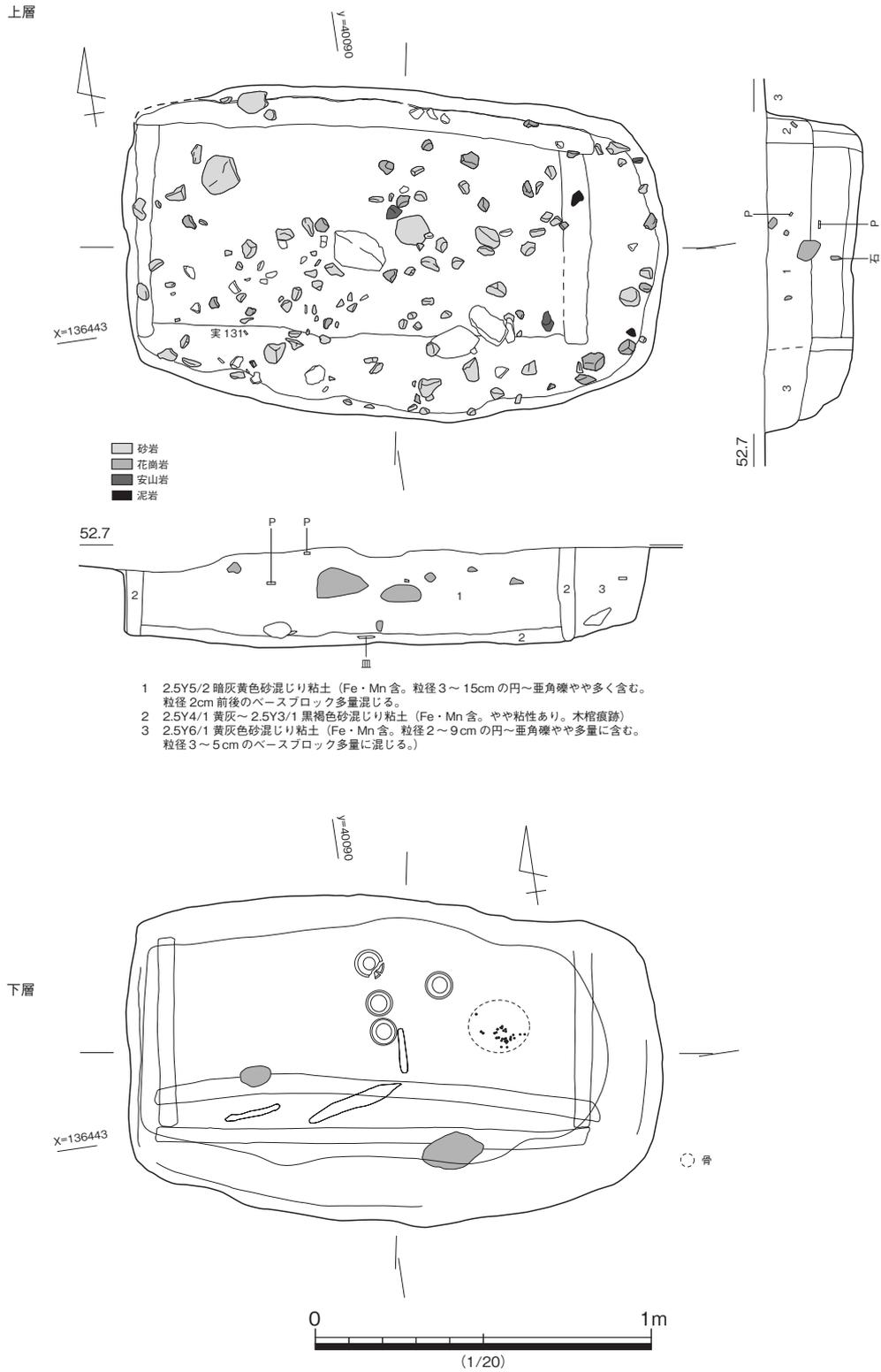
埋土は木棺痕跡の内部の埋土がベース層のブロック土や細礫を多量に含んでいることから墓壙の埋め戻し土と考えられ、蓋板の腐食に伴い陥没し棺内に流入したものである。早い段階で蓋板の腐食による陥没が起こったためか、明瞭な棺内埋土は確認されなかった。その他に棺裏込め土がある。

木棺は内法で長辺 1.22 m、短辺 0.57 m、残存する深さ 0.24 m で、主軸方位は N 82° W と東西主軸になる。木質は残っておらず、腐食して粘土化した痕跡での復元となる。それによると長側板が両小口板を挟む構造になる。木棺の位置は墓壙の北西に押し付けたような配置であり、北西隅は墓壙壁に接しており、北側と西側の側板も墓壙壁と至近距離にある。

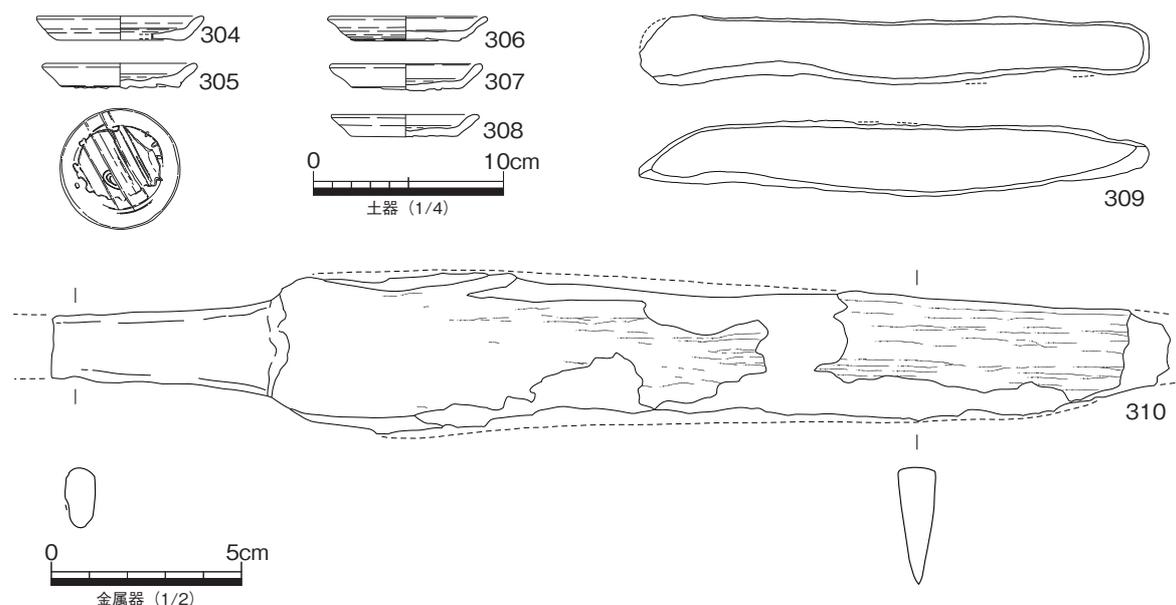
棺内の東小口板から西へ 20cm 前後の場所に骨片が集中していたが、位置的に頭部に相当するもので STj01 と同様に東枕になる。他の骨は痕跡も確認できなかったため埋葬姿勢は不明である。

棺中央部分で遺体の腹部が想定される位置で、土師器小皿 (304・305・307・308) が、その南側で切先を東に向けた鉄製の短刀 (310) と不明鉄製品 (309) が出土した。また東小口板と墓壙壁の間の棺裏込め土からほぼ完形の土師器小皿 (306) が出土した。木棺の埋納時の遺物である。

出土遺物から、中世 (13 世紀前半) の木棺墓である。



第 117 図 STj03 平・断面図 (1/20)



第 118 図 STj03 出土遺物 (1/2)

焼成遺構

SFj01 (第 119 図)

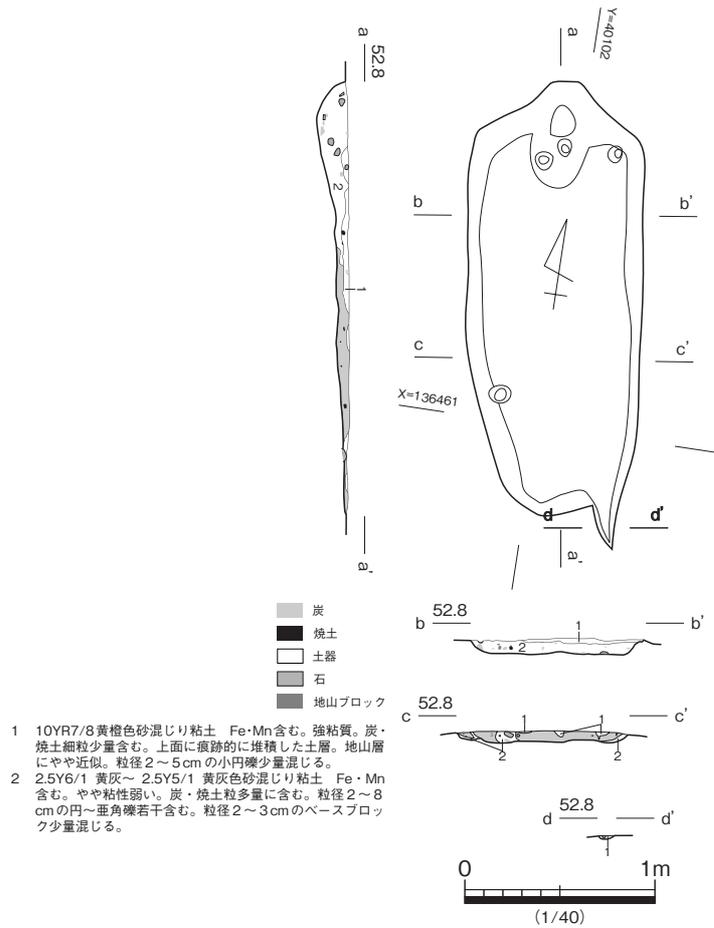
14 I グリッド南西隅で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に北側が山状に突出し、南側には溝状の突出が取り付く形状である。北側の突出部を含んだ南北の長さは 2.31 m、幅 0.90 m、深さは北側で 0.17 m、中央部分で 0.06 m である。主軸方位は N 9° W である。床面の北側端部は突出部分に対応するように小土坑状に深く掘り込まれている。北側のこの部分を除けば床面はほぼ平坦で、緩やかに南に向かって上がっている。床面の北側の小土坑部分付近には浅い窪みのような小穴が複数認められる。

埋土は 3 層に分層され、上層は黄橙色砂混じり粘土で、薄く上部に堆積している。北側の木口部分を中心に黄灰色砂混じり粘土が堆積しており、炭化材や焼土が多量に含まれている。またベース土のブロックも少量含まれている。また中央から南小口部にかけては炭層で、直径 3cm 前後の小枝程度の丸太材を少々含み、さらに直径 7cm 前後の丸太材をみかん割りしたような材も見られた。出土した材はクヌギである。

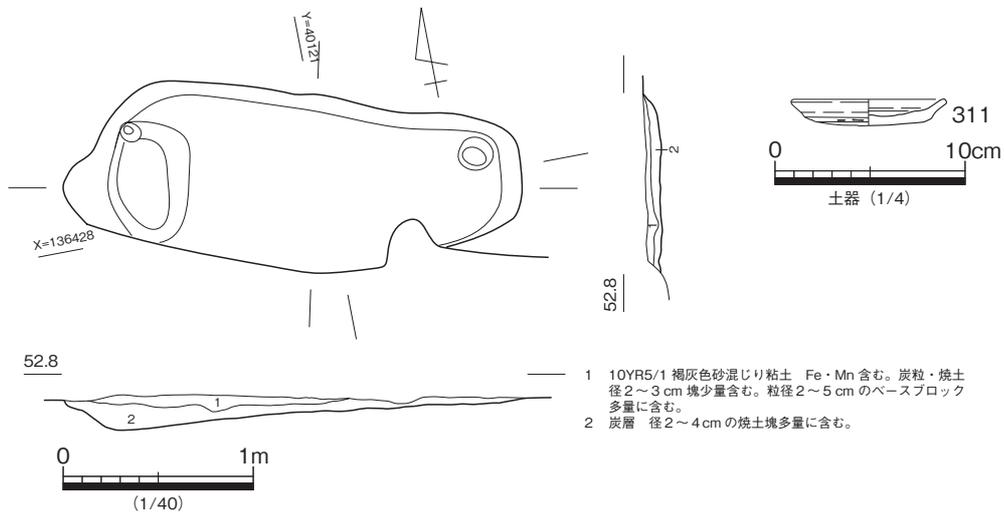
以上の状況から、SFj01 は薪炭を生成した炭窯と考えるのが妥当である。遺物は土器の細片が少量出土したのみであるが、中世 (13 世紀中頃) のものである。

SFj02 (第 120 図)

12 H グリッドから 12 I グリッドにかけての、調査区南壁部分で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に西側が山状に突出している。西側の突出部を含んだ東西の長さは 2.42 m、幅 0.92 m、深さは西側で 0.18 m、中央部分で 0.08 m である。主軸方位は N 80° W である。床面の西側端部は突出部分に対応するように小土坑状に深く掘り込まれている。西側のこの部分を除けば床面はほぼ平坦で、緩やかに東に向かって上がっている。床面の東西には浅い窪みのような小穴が認められる。埋土は上下 2 層に分層され、上層は褐灰色砂混じり粘土で、西半部に堆積している。下層は全体に炭層



第 119 図 SFj01 平・断面図 (1/40)



第 120 図 SFj02 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

で、炭化材とともに焼土も含まれている。

311は土師器小皿で体部を強くナデており、底部は全体に肥厚している。

SFj02はSFj01と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世(13世紀中頃)のものである。

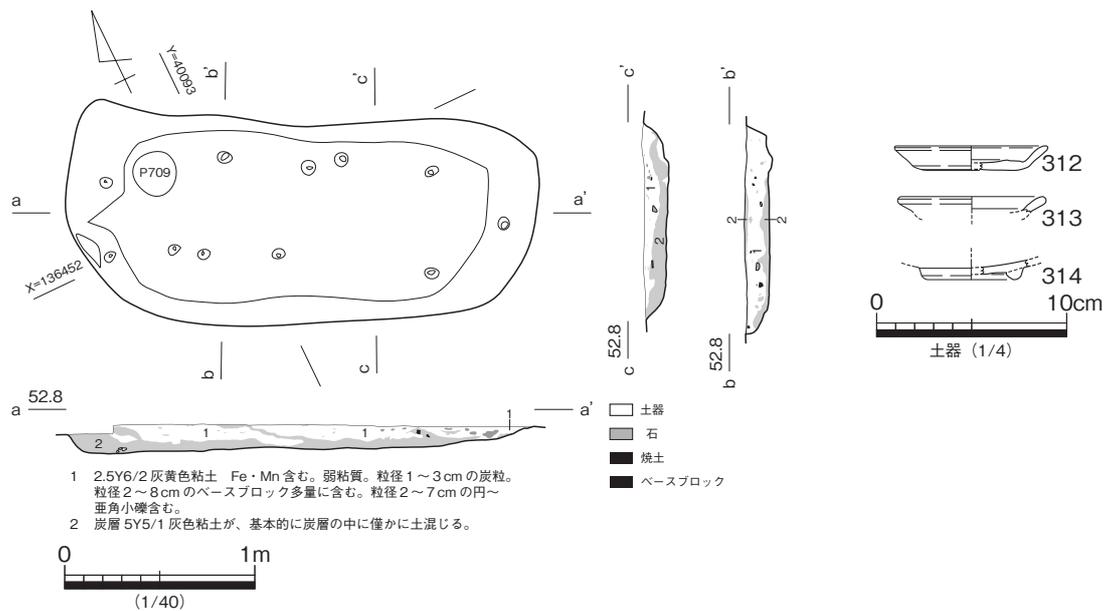
SFj03 (第121図)

13 J グリッド中央で検出した。上部は削平されているものの、平面形は隅丸長方形に近いが、西隅は湾曲が強く、北東の長辺は内湾している。北西—南東の長さは2.45 m、幅1.10 m、深さは0.13 mである。主軸方位はN 64° Wである。床面は平坦であるが、北西から南東に向かって緩やかに上がっており、小口部に土坑状の掘り込みは見られない。また床面の小穴は多数認められる。

埋土は上下2層に分層され、上層は灰黄色粘土で、ベース土のブロックを多く含んでいる。下層は全体に炭層であり炭化材や焼土を含み、この炭層は上層に筋状に貫入している。

312・313は土師器小皿で、このうち313は下層の炭層から出土している。314は十瓶山産須恵器碗で、幅広の高台を貼り付けている。

SFj03は床面の小口部の小土坑は認められないものの、SFj01・02と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01・02と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世(13世紀前半)のものである。



第121図 SFj03 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

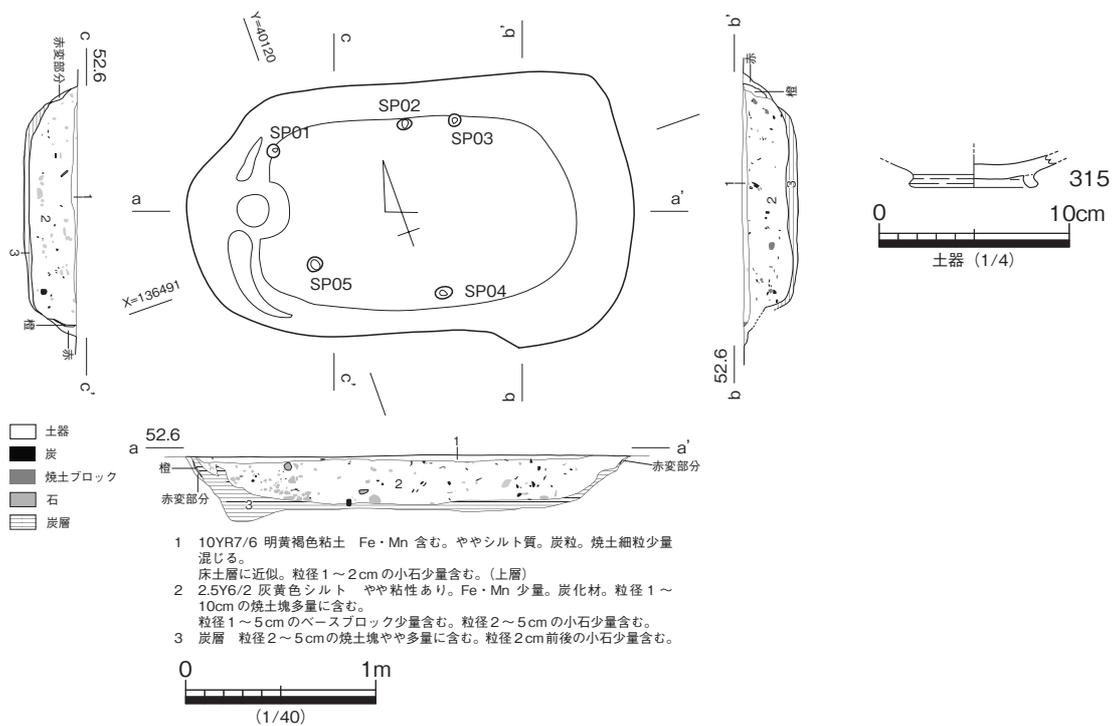
SFj04 (第 122 図)

15 Hグリッドから 15 Iグリッドにかけての中央部で検出した。平面形は隅丸長方形に近いが、西側部分は全体に丸みを帯びており、南東部分はコーナー付近が突出して幅広になっている。東西の長さは 2.32 m、幅 1.30 ~ 1.45 m、深さは西側で 0.35 m、中央部分で 0.30 m で比較的残存状況が良い。主軸方位は N 71° W である。床面の西端部には西辺の丸みの頂部に対応するように小土坑が深く掘り込まれている。床面は平坦で浅い窪みのような小穴が複数認められる。東西の掘り込みは 45° 程度であるが、南北の長辺部分に比べて緩やかである。

埋土は 3 層に分層され、上層は明黄褐色粘土で、薄く全体に堆積している。中層も全体に灰黄色シルトが堆積しており、炭化材や焼土が多量に含まれている。下層は炭層で、床面と西側の土坑状落ち込み全体が覆われている。被熱により赤変した部分が床面の小土坑周辺と床面から 13cm ほど上部の壁面で認められたが、特に壁面部分で顕著である。

315 は中層から出土した土師器椀である。外向きの断面方形の高台を貼り付けている。

SFj04 は SFj01 ~ 03 と規模や構造、埋土も酷似しており、SFj01 ~ 03 と同様に炭窯と考えられ、出土遺物から中世 (13 世紀前半) のものである。



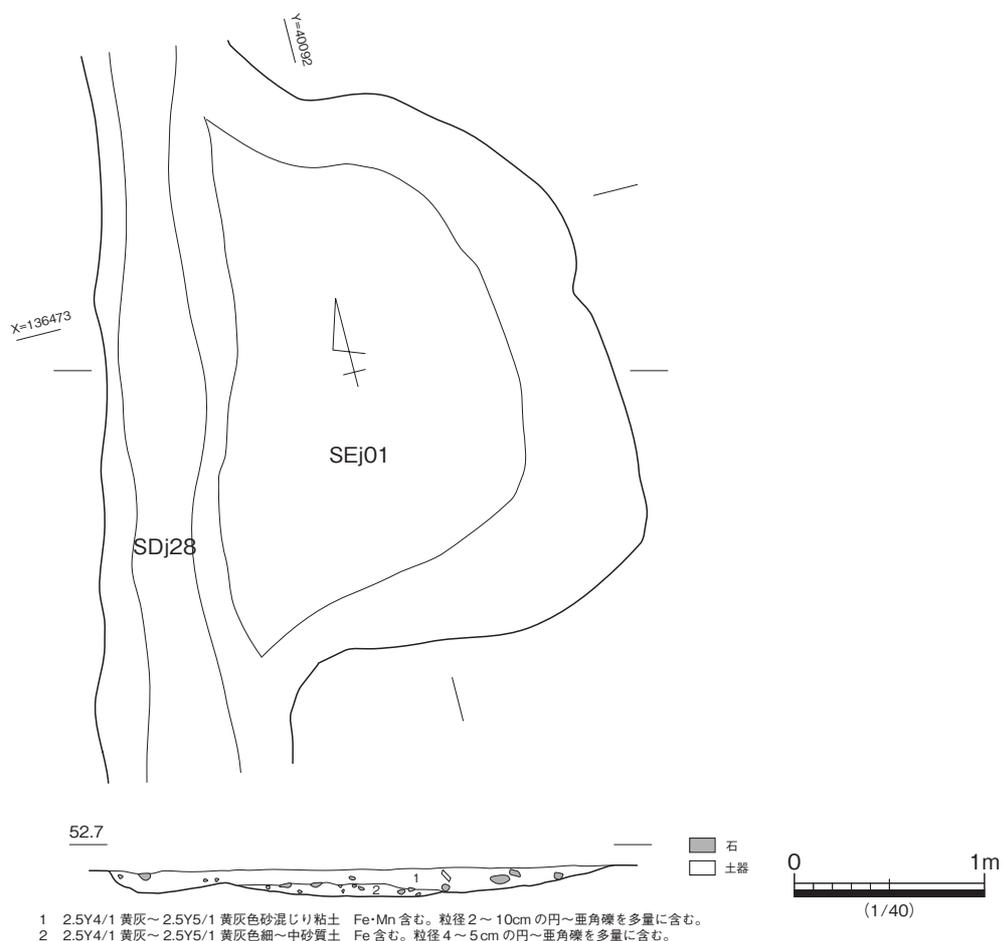
第 122 図 SFj04 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

井戸状遺構（土坑）

SEj01（第123図）

14 J グリッド中央で検出した。平面形は方形に近いが北西部分は角がなく、西側部分はSDj28に取り付いている。南北2.94 m、東西はSDj28を除いた部分で2.24 m、深さ0.16 mである。SDj28と合わせた東西方向の断面は、SEj01とSDj28との境に盛り上がりがあることから、同時併存ではなく前後関係があるものである。SDj28の埋土がSEj01を覆っていることと、SDj28の西側が乱れることなく通り、SEj01の西側がSDj28の西側に及ばずSDj28の幅の中で本来は収束していたと考えられることから、SEj01はSDj28に先行するものである。SDj28の流れが溢れてSEj01の窪みに及んだものと考えられる。検出時にはその大きさから深くなり井戸になるものと想定して遺構名を付けたが、上部が削平されているとしても浅い落ち込み状であり、湧水も認められないことから井戸の機能はない。

遺物は土器の細片が少量出土したのみで時期決定は困難であるが、埋土の状況や13世紀前半のSDj28に先行することから、それ以前の中世の遺構とする。



第123図 SEj01 平・断面図 (1/40)

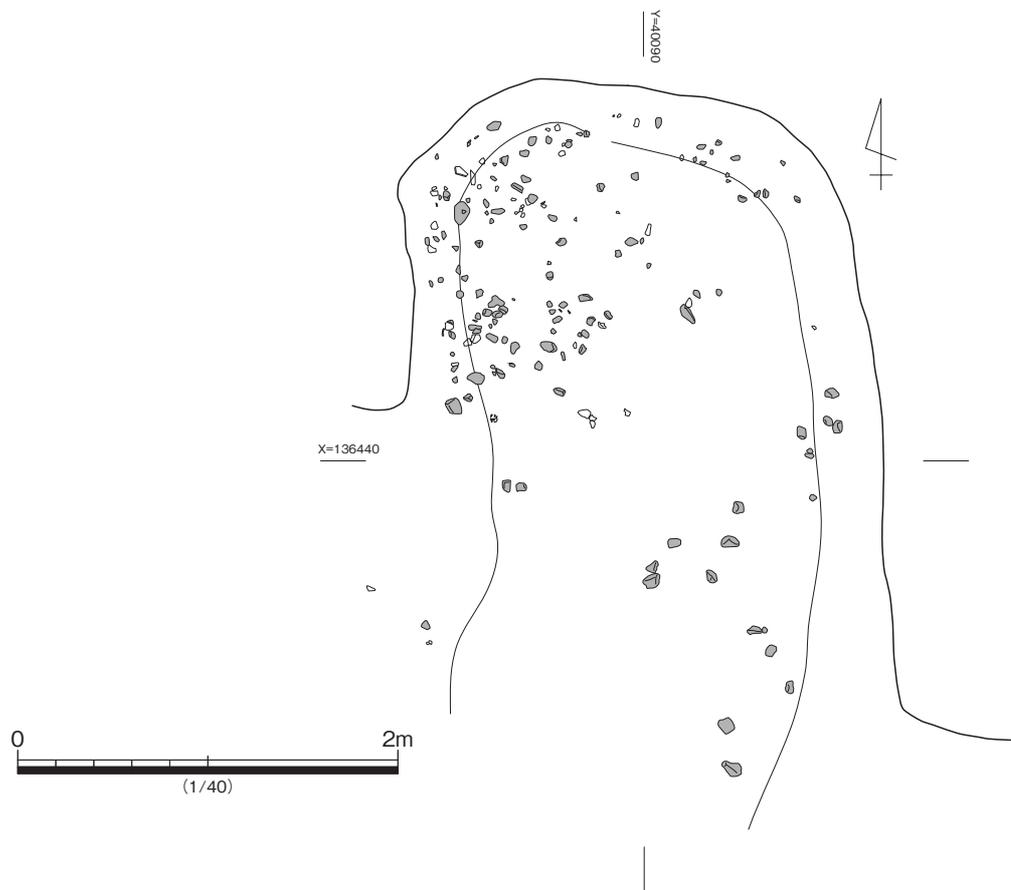
SEj02 (第 124・125 図)

12 J グリッドから 13 J グリッドにかけての調査区南壁際で検出した。南側部分は調査区外なるため全形は不明であるが、隅丸長方形になるものと思われる。また調査区壁際では SDj32 により上部を削平されている。検出部分で長辺 3.34 m、調査区南壁部分まで含めると 3.90 m、短辺 2.45 m、深さ 0.42 m である。掘り込みは全体にほぼ同じ角度であり、底面は緩やかに中央に向かって下っている。

埋土は 4 層に分層され、最下層には 0.05 ~ 0.10 m ほど砂が堆積している。その上の 0.30 m ほどの厚さの褐灰色砂混じり粘土層中には 3 ~ 25cm の円礫と角礫が多量に含まれ、全体に敷き詰めてられているがその配置には規則性は認められず、礫を敷き詰めた意図は不明である。この礫層を上部 2 層で覆っているが、この上部 2 層には小礫が散見されるが、下部の礫層とは異なり単に混入した状況である。

316・317 は下層の礫に混じって出土したもので、316 は足釜、317 は平瓦で凸面には縄目タタキを施しているが、礫とともに古い時期のものが混入したものである。

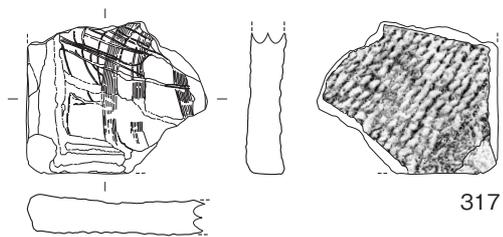
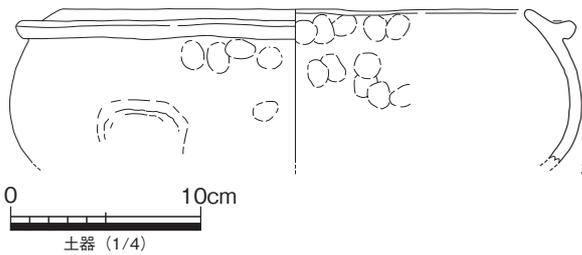
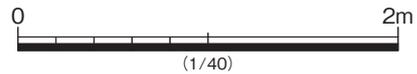
出土遺物のうち 316 は時期決定が難しいが、13 世紀前半の SDj32 に先行することから、それ以前の中世の遺構とする。



第 124 図 SEj02 上層平面図 (1/40)



- 1 2.5Y5/2 暗灰黄色粘質土 Fe・Mn 含む。炭粒含む。
粒径 2～7 cm の円～亜角礫少量含む。
- 2 2.5Y4/1 黄灰色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。炭・焼土細粒若干含む。
粒径 2～5 cm のベースブロック多量に混じる。
- 3 10YR6/1 褐灰色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。やや強粘質。
粒径 3～25 cm の円～角礫多量に含む。少々クライ化。
- 4 10YR7/4 に近い黄橙色細～中砂 Fe 含む。粒径 2～6 cm の円～亜角礫
少量含む。



第 125 図 SEJ02 下層平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

溝状遺構

SDj01 (第 126 図)

13 K グリッドから 13 L グリッドにかけての調査区南西隅で検出した。検出長 19 m、幅は確認できる最大幅で約 2 m、残存深度は 0.15 m を測る。主軸方位は周辺の地割軸とほぼ合致しており、N 73° W を測る。埋土は概ね 2 層に分層出来、2 層にはベース土をブロック状に含む。

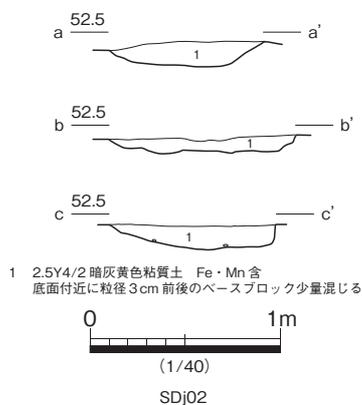
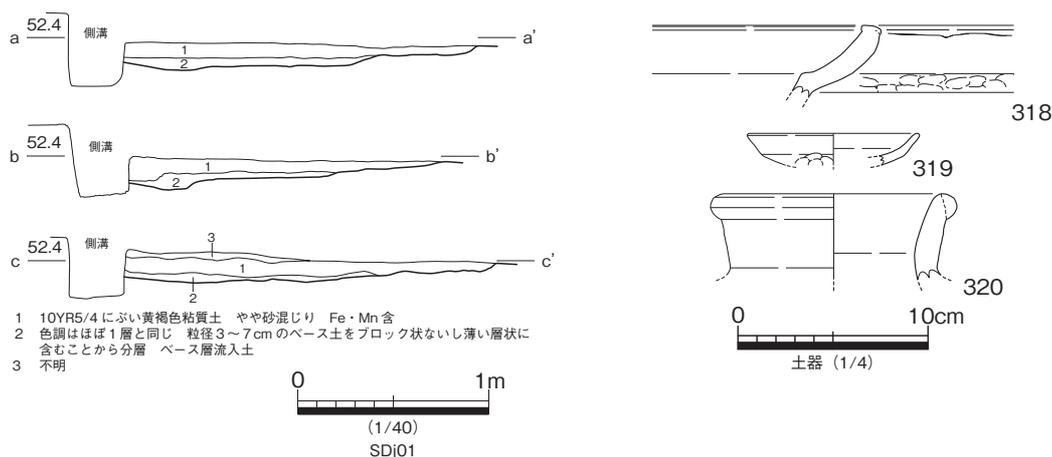
須恵器・土師器の小片と共に、318 の土師質鍋、319 の瓦器小皿、320 の備前焼壺が出土している。320 は口縁部端部に粘土を加えて玉縁状にしている。

出土遺物から中世（14 世紀中頃）を下限とした溝である。

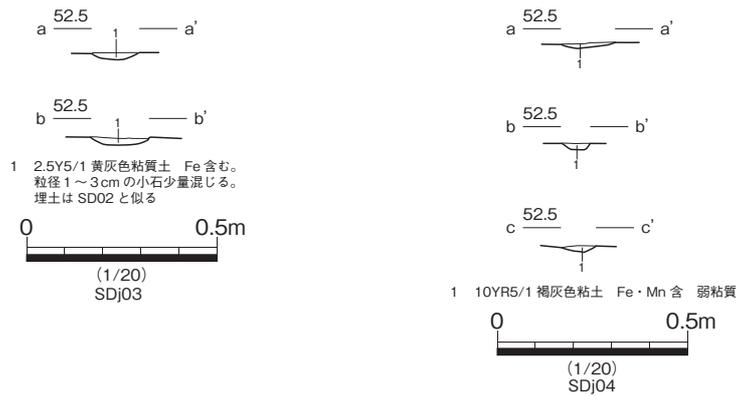
SDj02 (第 126 図)

13 K グリッドから 13 L グリッドにかけての調査区南西隅で検出した。検出長 17 m、幅は確認できる最大幅で約 1 m、残存深度は 0.13 m を測る。主軸方位は周辺の地割軸とほぼ合致しており、N 78° W を測る。埋土は単層で、底面付近で粒径 3 cm 程度の地山ブロックが少量確認できる。

遺物は出土していないが、東側に隣接して直交する SDj07・08 との関係から中世末から近世初頭にかけての溝とする。



第 126 図 SDj01・02 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 127 図 SDj03・04 断面図 (1/20)

SDj03 (第 127 図)

13 L グリッド北端で検出した。検出長 5.8 m、幅は最大幅で約 0.3 m、残存深度は 0.04 m を測る。主軸方位は周辺の地割軸とはほぼ合致しており、N 78° W を測る。埋土は単層で、SDj02 のものと似る。粒径 1 ~ 3 cm の小礫が若干混じる。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

SDj04 (第 127 図)

14 L グリッド南端で検出した。検出長は断片的ながら 6.2 m、幅は最大で約 0.15 m、残存深度は 0.04 m を測る。主軸方位は SDj03 と平行し、N 78° W を測る。埋土は単層である。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

SDj05 (第 128 図)

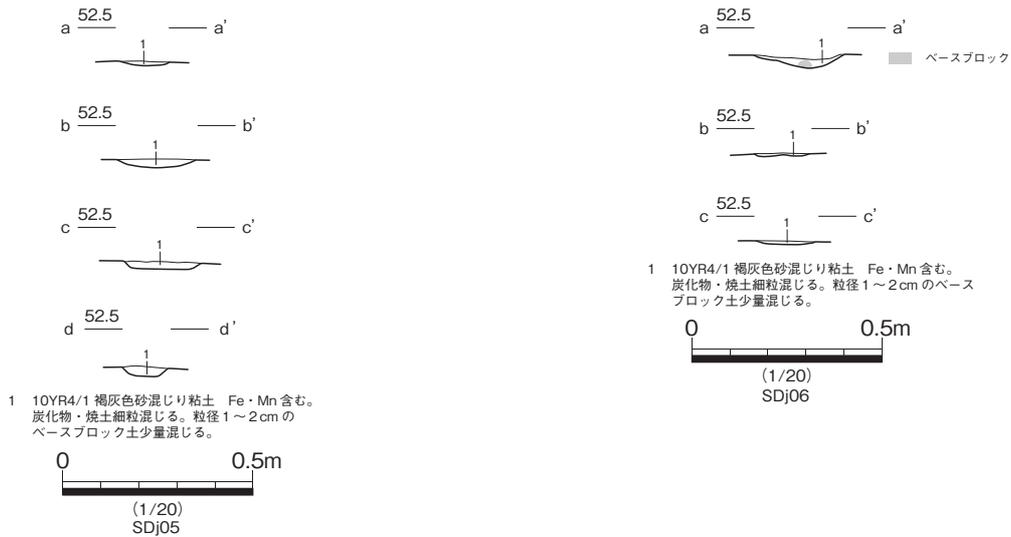
13 K グリッドから 14 K グリッドにかけて検出した。検出長は 12.2 m、幅は最大幅で 0.2 m、残存深度は約 0.04 m を測る。主軸方位は N 78° W を測る。埋土は単層で、炭化物・焼土の細粒を含むほか、粒径 1 ~ 2 cm の地山ブロックを少量含む。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

SDj06 (第 128 図)

14 K グリッドで検出した。検出長は 3 m、幅は最大で約 0.25 m、残存深度は約 0.5 m である。主軸方位は SDj05 に直交し、N 78° W を測る。埋土は単層で、炭化物・焼土の細粒を含むほか、粒径 1 ~ 2 センチの地山ブロックを少量含む。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。



第 128 図 SDj05・06・断面図 (1/20)

SDj07・08 (第 129 図)

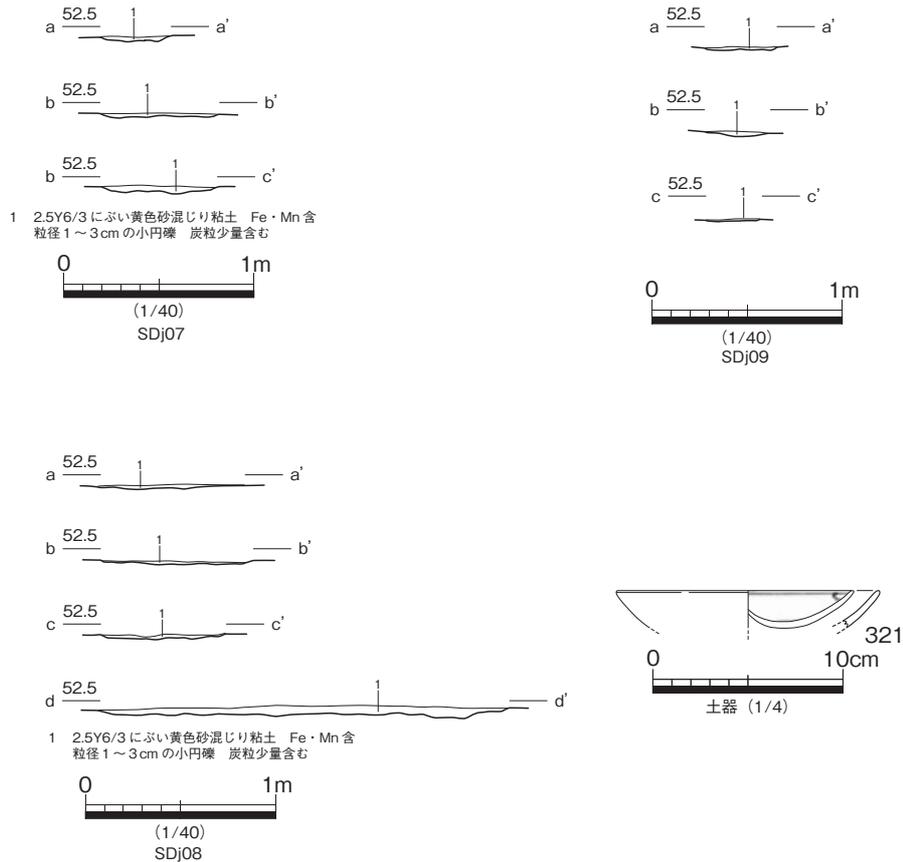
13 K グリッド西半で検出した。検出長は SDj07 が 6.6 m、SDj08 が 8 m を測り、幅は前者が最大で 0.6 m、後者は最大で 0.8 m である。残存深度は前者は約 0.04 m、後者は 0.02 m である。主軸方位は SDj02 と直交し、N 78° W を測る。北端で隣接する SDj08 と接続する。この部分は約 2.2 m 四方の方形の溜り状を呈しており、そこに両溝が接続する形状となる。現状ではここが北限となり、南進する溝として見ることが出来る。

出土遺物は須恵器・土師質土器の小片が主体であるが、321 の染付の皿が出土しており、この遺物の帰属時期から近世の移行期の溝である。

SDj09 (第 129 図)

15 K グリッド南西部で検出した。検出長は 6.8m を測り、幅は最大で 0.36 m である。残存深度は 0.03 m である。主軸方位は N47° E を測る。

遺物は細片しか出土しておらず、溝の方向も周辺遺構と異なることから時期は不明である。



第 129 図 SDj07～09 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj10 (第 130 図)

14H グリッド西部で検出した。検出長約 16 m を測り、幅は最大で 1.85 m である。残存深度は約 0.14 m である。主軸方位は N7° E を測る。埋土中に地山ブロックが含まれ、人為的な埋め戻しが想定できる。その混入状況は一様ではなく、溝の岸近くであったり底面付近であったりとまちまちである。出土遺物は須恵器・土師質土器などの小片を主体とし、時期を把握できるものは限られる。322 は土錘、323 は和泉型瓦器小皿である。口縁部を強くナデており、体部外面には指押さえが顕著である。324 は平瓦である。

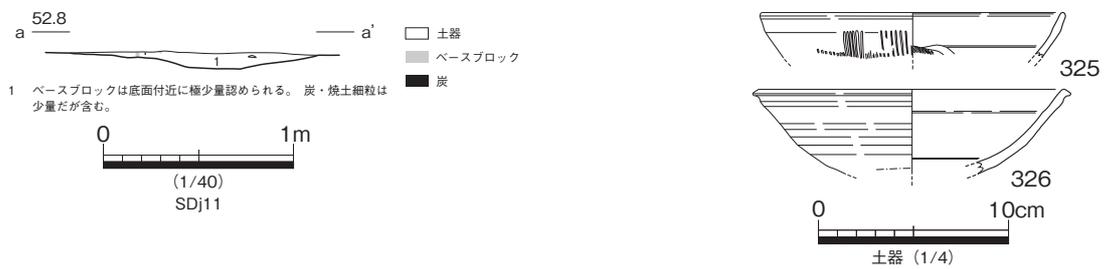
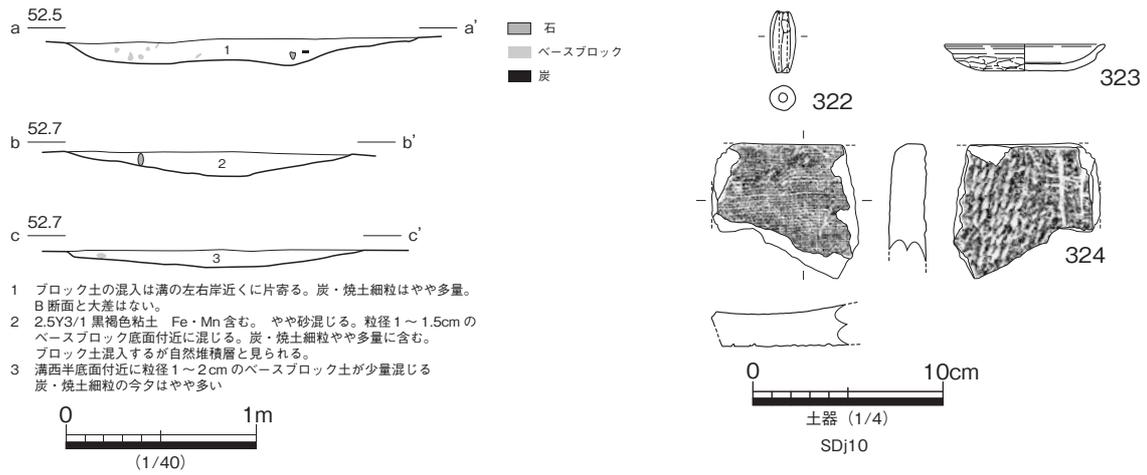
出土遺物から中世 (12 世紀後半頃) の溝である。

SDj11 (第 130 図)

13 H グリッド北端で検出した。SDj10 との交点から東に向かい約 10 m で不明瞭になる。SDj10 との前後関係は不明瞭であるが、後述するように出土遺物からは後出するものである。幅は最大で 1.29 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は約 0.1 m である。主軸方位は N 80° W を測る。埋土は地山ブロック土を僅かに含むほか、炭化物・焼土の細粒を含む。

325 は青磁碗、326 は白磁碗である。このほかに須恵器・土師器の小片が出土した。

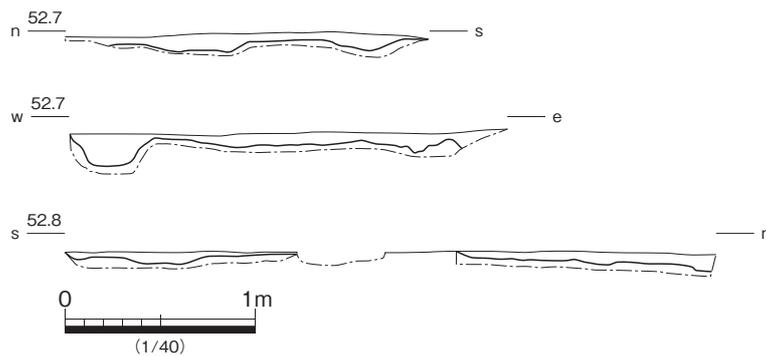
出土遺物から中世 (13 世紀前後) の溝である。



第 130 図 SDj10・11 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj12 (第 131 図)

13 H グリッド北西部で検出した。検出長約 5.2 m、幅は最大 1.2 m、残存深度は 0.16 m である。主軸方位は N 7° W を測る。時期は不明である。

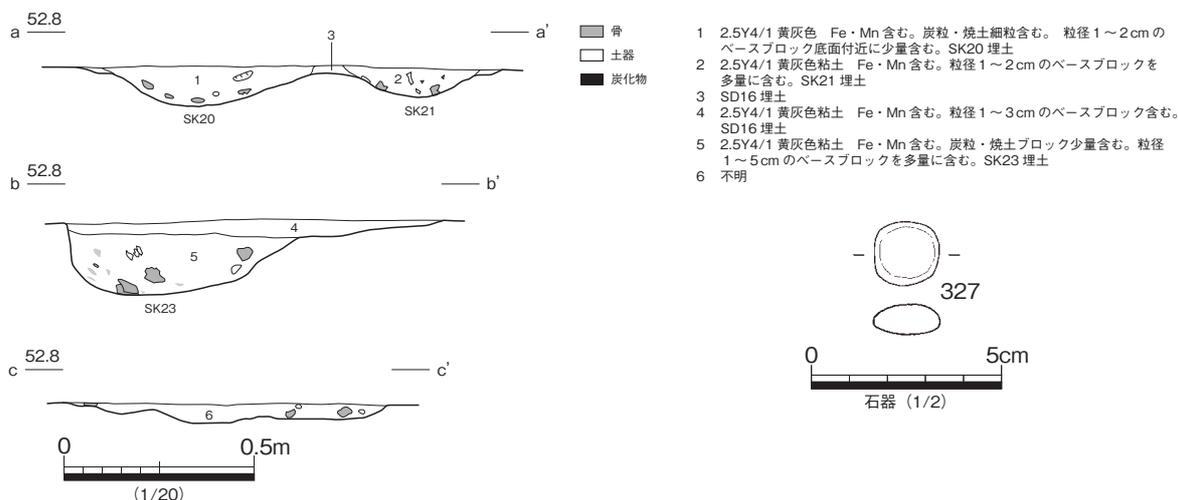


第 131 図 SDj12 断面図 (1/40)

SDj16 (第 132 図)

12 I グリッド北東で検出した。SKj23 を削平して掘削され、SDj16 の埋没後に SKj20 ~ 22 がその上部から掘り込んでいる。検出長 6.8 m を測り、幅は最大で 1.2 m を測る。断面形状は不整形な浅い皿状を呈し、残存深度は 0.1 m である。主軸方位は N 25° E を測る。北端で SXj08 と接合する。

327 は黒色チャート製の基石である。土器は出土していないが、埋土の状況から中世の遺構とする。



第 132 図 SDj16 断面図 (1/20)、出土遺物 (1/2)

SDj18 (第 133 図)

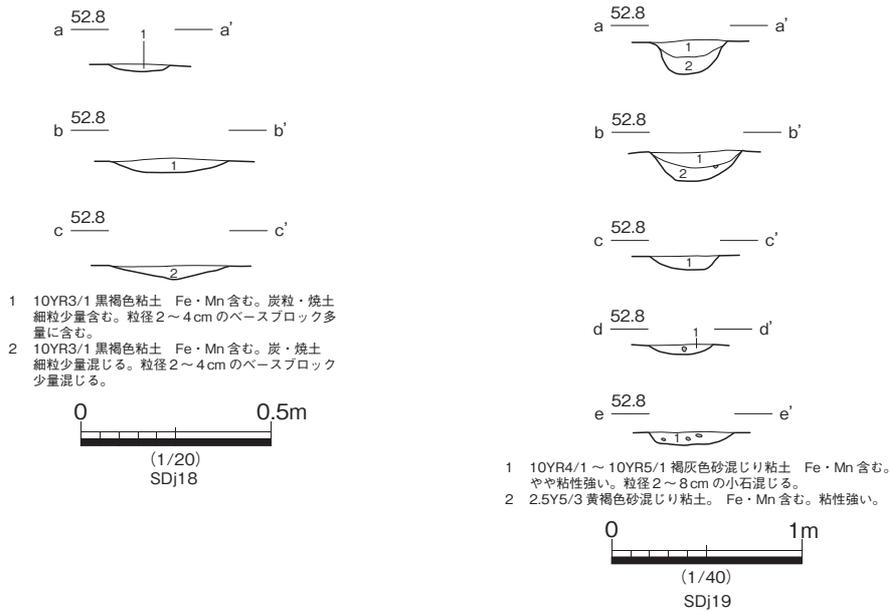
12 I グリッドの北東部で検出した。直線的な溝で、検出長は 11.8 m を測り、幅は最大で 0.4 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.04 m である。主軸方位は N 18° E を測る。埋土は黒褐色粘土で、地山ブロック土を含む。SDj16 西側に並走して掘削される。底部のレベルは北へ緩やかに下り、北端で SXj06 と接合する。相互に切り合い関係を認められず、同時並存の遺構と判断した。

直接時期決定出来る遺物はないが、SXj06 の時期から中世 (13 世紀後半) の溝である。

SDj19 (第 133 図)

12 J グリッド、13 I グリッド、14 I グリッドにかけて検出した。直線的な溝で、南側は調査区外に続き、北側は 14 I グリッド中央付近でクランク状に屈曲したのち北に向かい収束する。検出長は 39.2 m を測り、幅は最大で 0.5 m を測る。断面形状は浅い皿状から椀状を呈し、残存深度は 0.05 ~ 0.18 m である。主軸方位は N 24° E を測る。埋土は北半と南半で異なっており、前者が単層であるのに対し、後者は 2 層に分層できる。部分的ながら底部に砂質土の堆積が認められ、流水下の堆積であると判断できる。底部のレベルは北から南へ下がる。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。

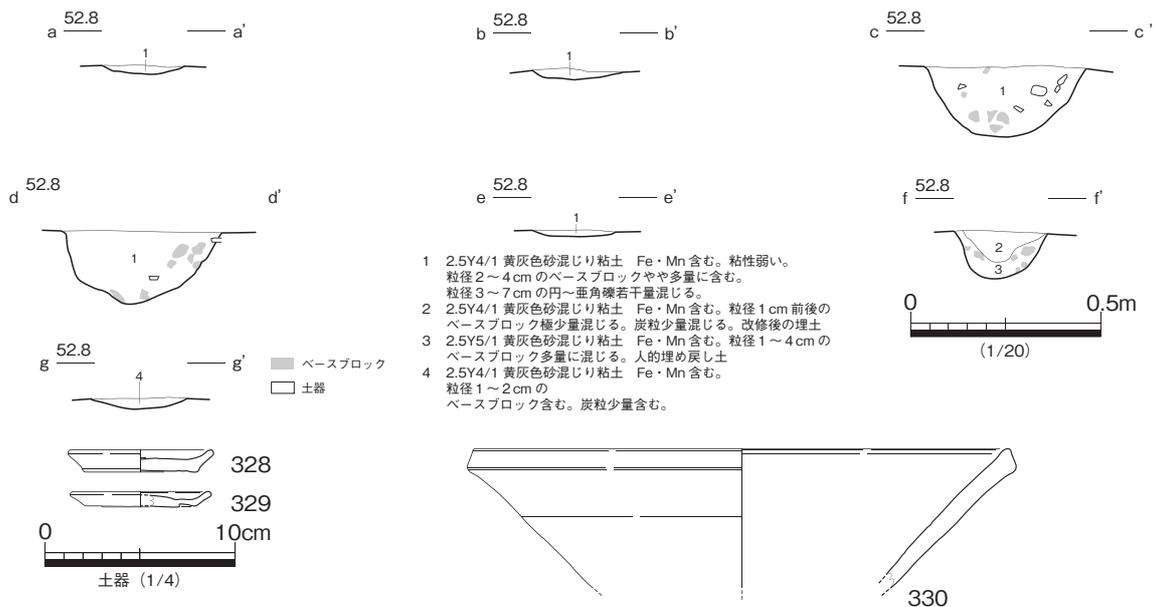


第 133 図 SDj18・19 断面図 (1/20・1/40)

SDj20 (第 134 図)

13 I グリッド西半部で検出した。検出長は 14.2 m を測り、幅は最大で 0.5 m を測る。平面形は東側に向かって開く「コ」の字状を呈する。主軸方位は N 20° E を測る。断面形状は浅い皿状を呈する部分と椀状を呈する部分が認められ、残存深度は 0.02～0.19 m を測る。「コ」の字の角部が浅く、辺の中心が深く掘削される傾向が認められ、排水などの機能よりも、区画施設的な性格が想定できるが、この内側の部分について区画に合う建物は復元出来ていない。

328・329 は土師器小皿で底部は肥厚している。330 は須恵器捏鉢で口縁部端部は外側に平坦な面をもつ。出土遺物から中世 (13 世紀後半) の溝である。

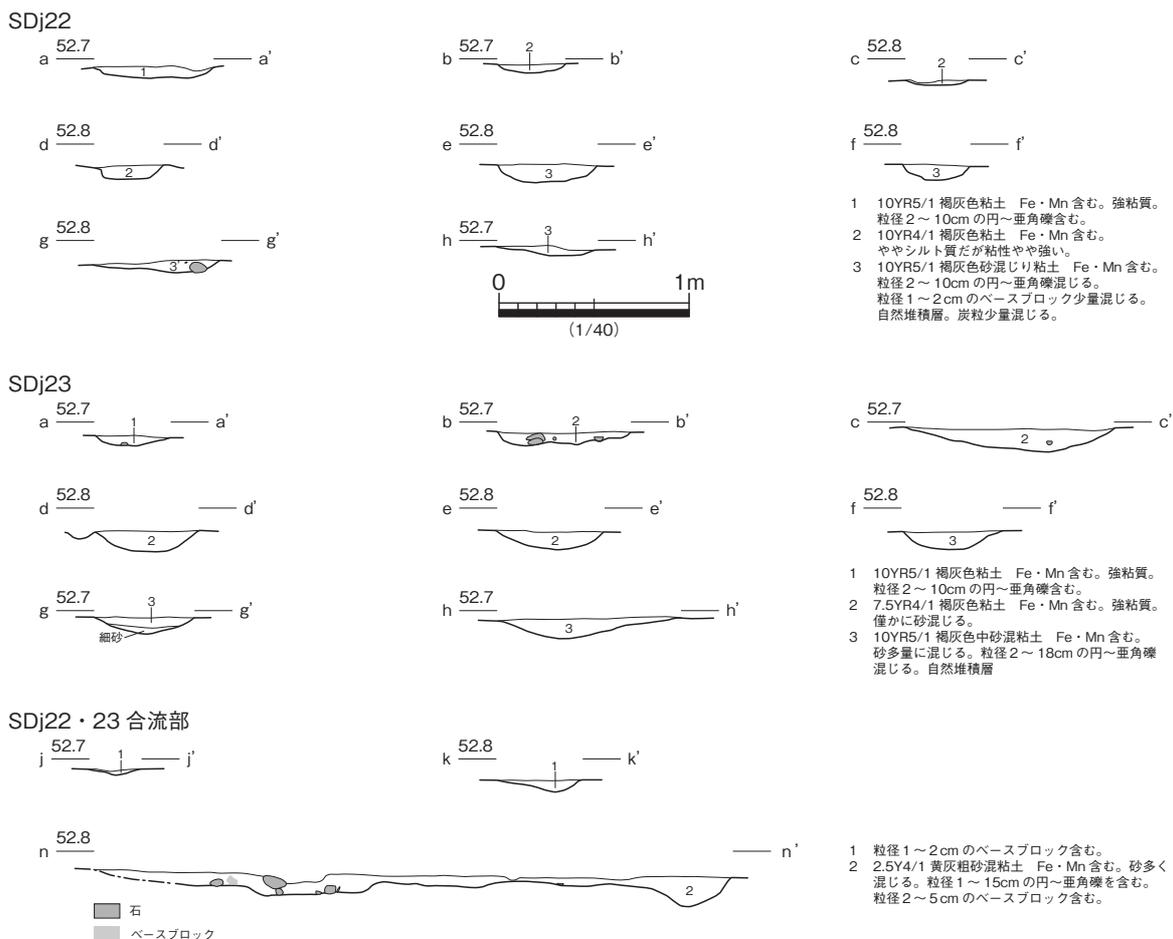


第 134 図 SDj20 断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)

SDj22・23 (第135図)

14 I グリッド北西部で検出した。検出長はSDj22が17.1 m、SDj23が20.8 mを測り、幅はそれぞれ最大で0.6 mと1.1 mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度はそれぞれ0.02～0.10 mと0.05～0.10 mを測る。それぞれが概ねN 57° Wの方向に主軸を取る。東端では両者が接合する。後述するSDj27と重複しており、その埋没後に残存した窪地の中を流下した溝と判断できる。

時期決定は困難であり、弥生時代後期後半以降の溝としか言えない。



第135図 SDj22・23 断面図 (1/40)

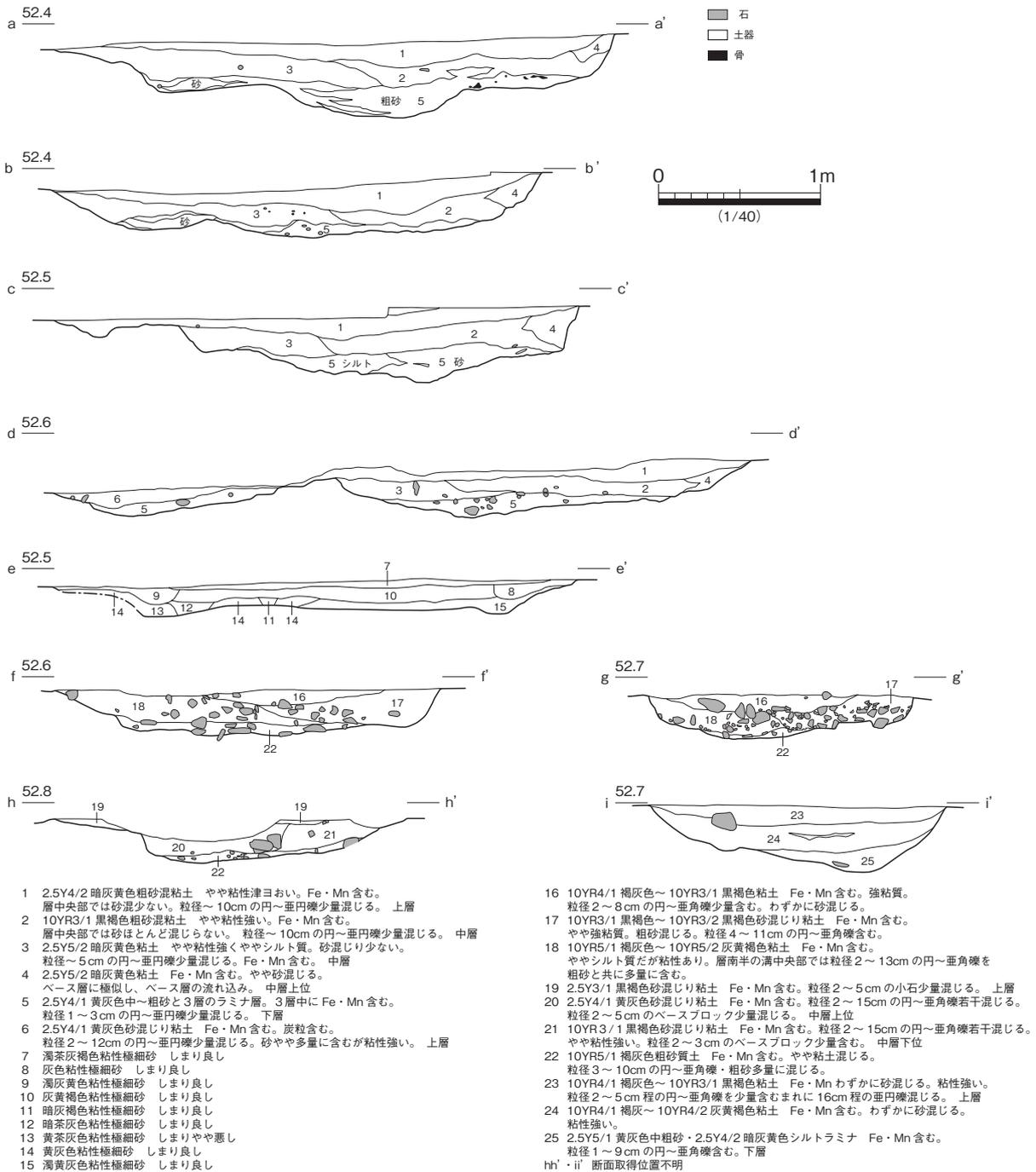
SDj27 (第136～139図)

16 K グリッドから13 G グリッドにかけて調査区の西端中央付近から南東部にかけて、ゆるやかに蛇行しながらほぼ東西に調査区を横断する溝である。最大長約107 m、幅は1.5～3.8 mである。断面形状は皿状を呈し、残存深度は0.2～0.45 mを測る。埋土は上層が粘土質を中心に、下層が砂層を中心に堆積する傾向にある。このことから溝機能時は旺盛な流水環境にあったものが、溝廃絶に伴い緩やかな堆積環境に変化したものと考えられる。また東側部分には埋土に礫を含む箇所が多くなっている。東から西へ向けて溝の底部レベルが下がっており、この方向へ流下していると考えられる。逆に上流側へ延伸した先には、既往の報告遺構 S R a 02 をはじめとする大型河川跡が存在する。ここから、あるいはさらに南側で取水された水を西側の耕作地へ向けて配水するための基幹水路としての機能が想定でき

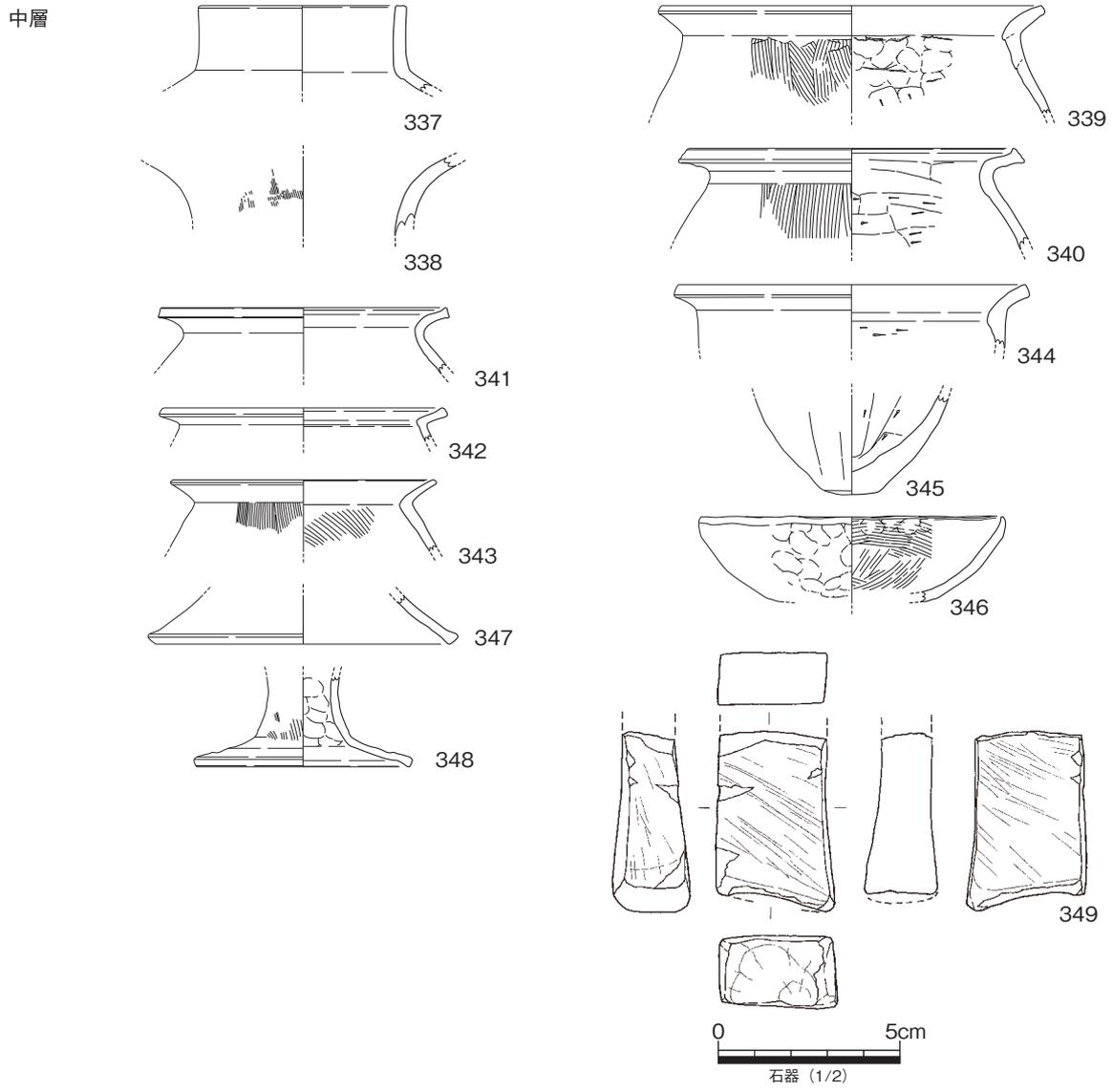
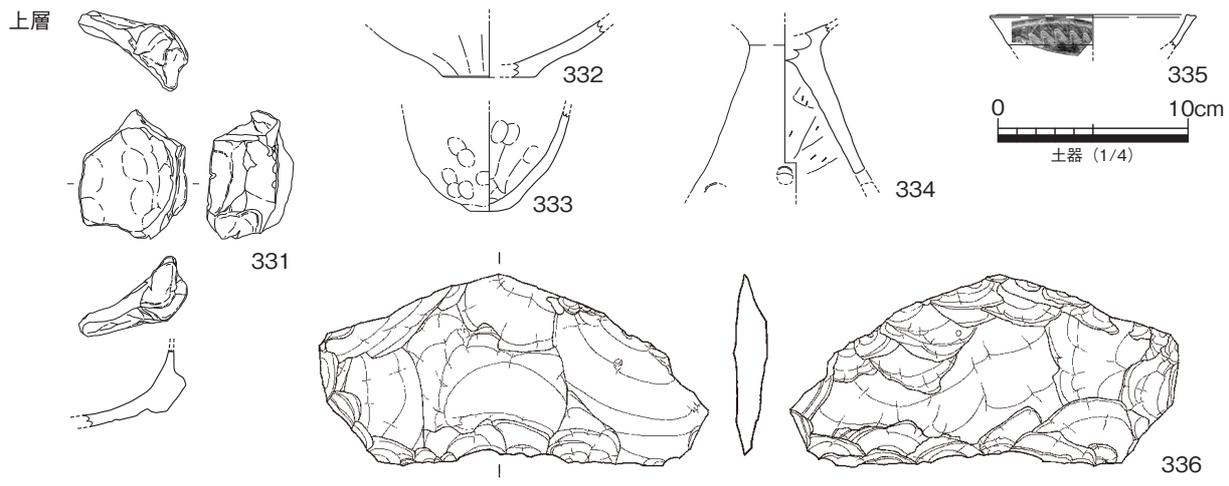
る。

遺物は弥生土器を中心に出土しており、長頸壺・広口壺・甕・鉢・鉢・高坏などが出土している。331は把手付片口鉢で、断面方形で横長の把手を貼り付けている。335は上層埋土中に混入した須恵器ハソウの口縁部である。

出土遺物から、弥生時代後期後半の溝である。

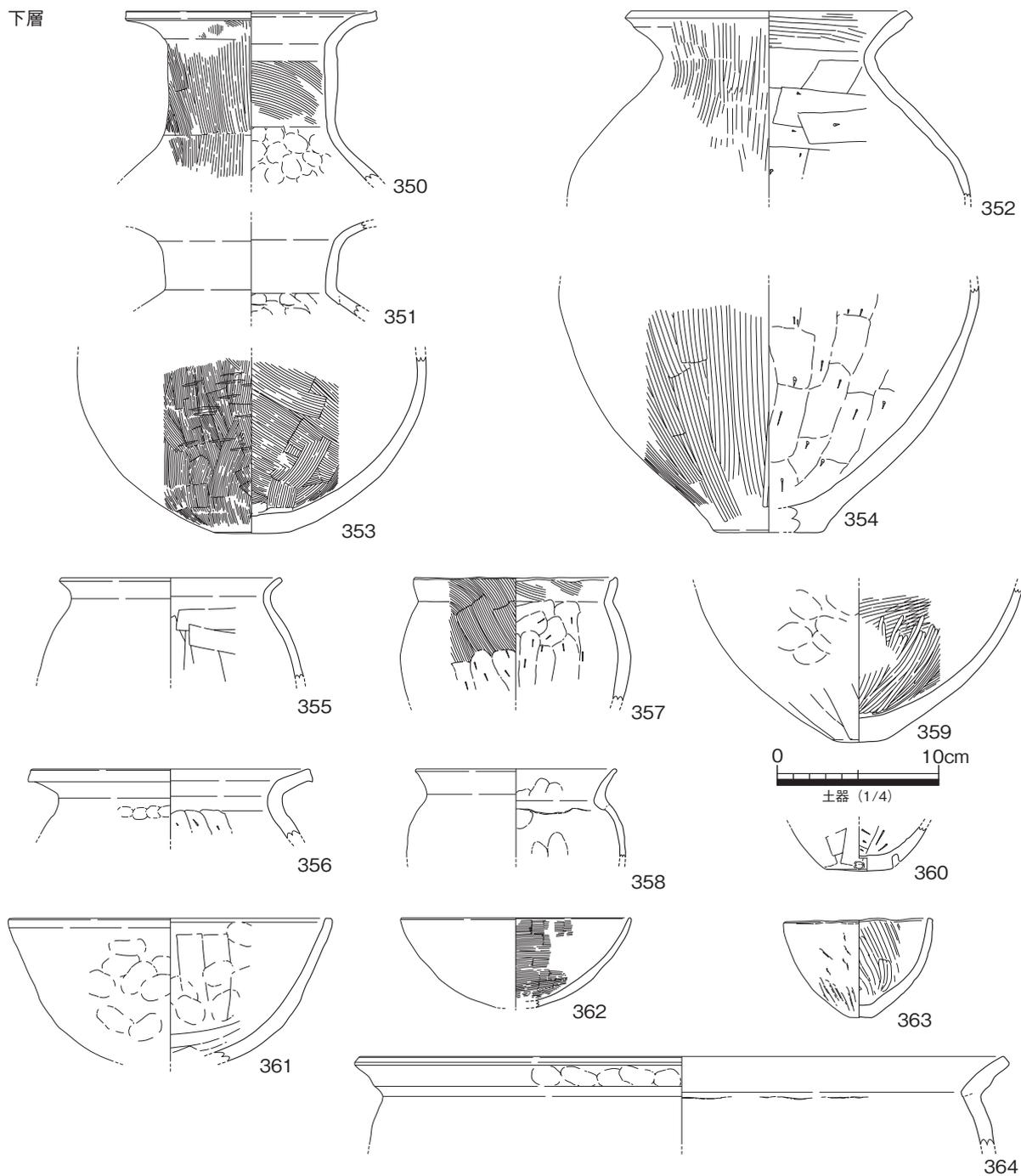


第136図 SDj27 断面図 (1/40)



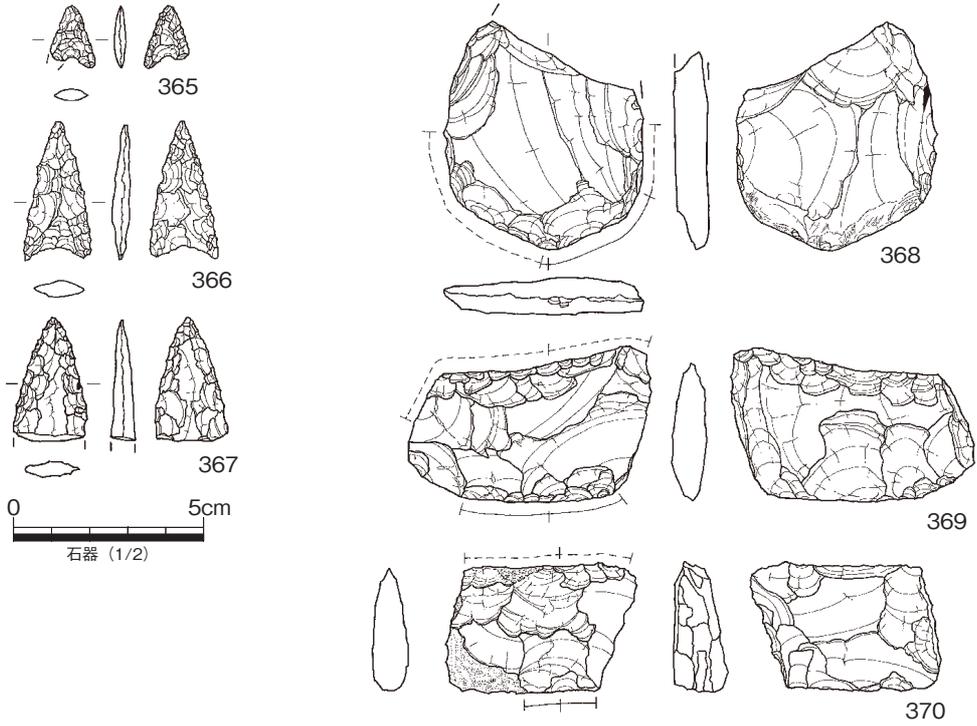
第 137 図 SDj27 出土遺物 1 (1/4・1/2)

下層

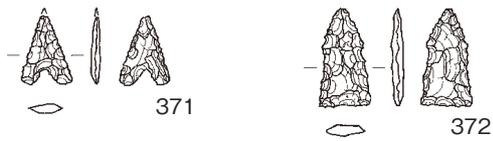


第 138 図 SDj27 出土遺物 2 (1/4)

下層



最下層



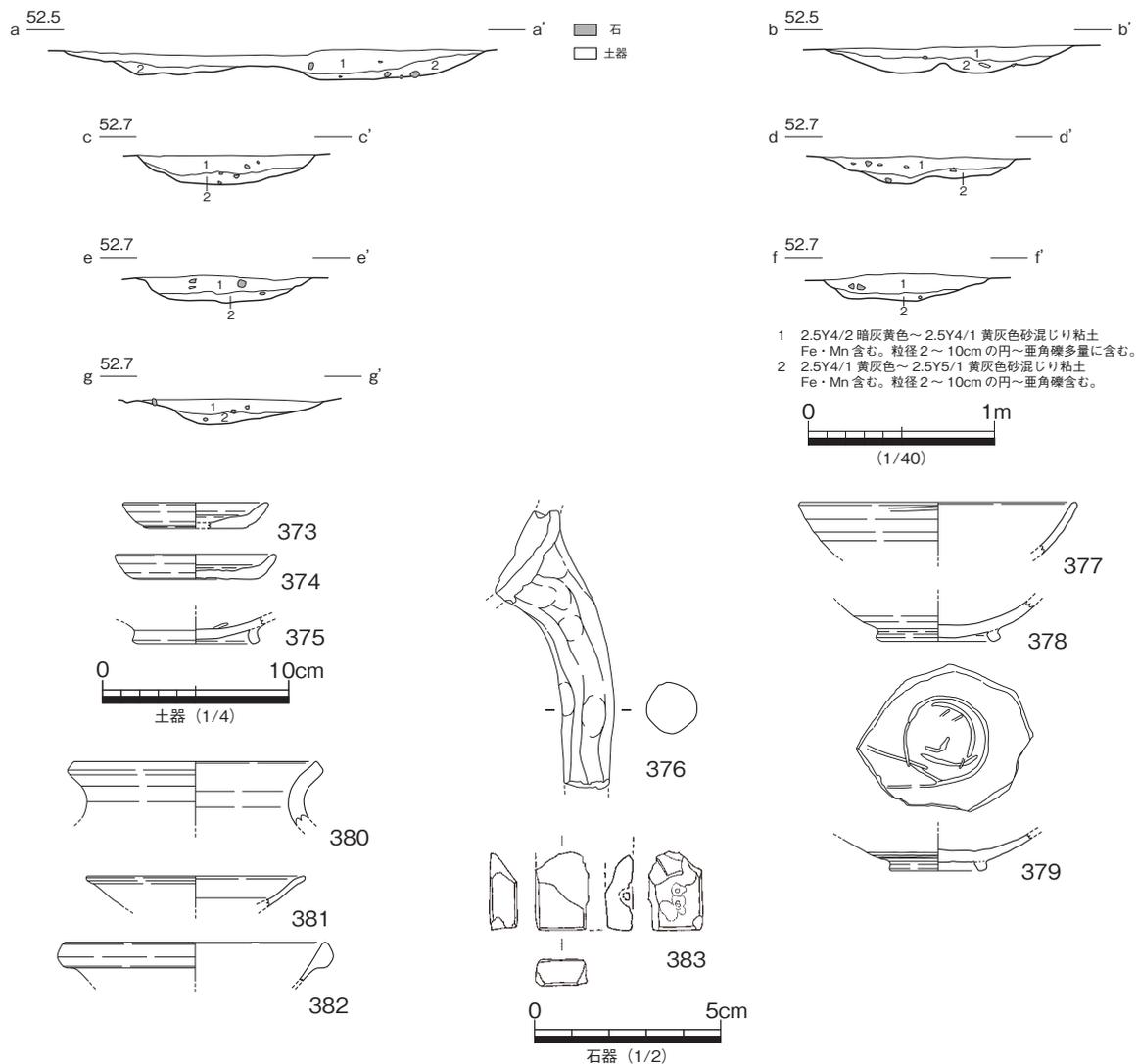
第 139 図 SDj27 出土遺物 3 (1/2)

SDj28 (第 140 図)

13～15 J グリッドの調査区中央付近の南半部で検出した。直線的な溝で、検出長は 42.2 m を測り、幅は最大で 2.3 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.15 m を測る。主軸方位は N 13° E で、南端付近で SD32 が、北端付近でそれぞれ西へ分岐する。この溝を境にして 2 つの遺構密集部が形成されており、これが屋敷地を区画するための施設として機能していたと考えられる。西側へ延びる 2 条の溝も、途中で途切れているがそれぞれ屋敷地の北限・南限を区切る機能を持っていたと見ておきたい。

出土遺物は須恵器・土師質土器などが主に小片で出土しており、これに白磁などの輸入陶磁の小片が加わる。373・374 は土師器小皿、375 は土師器椀である。376 は土師器足釜で溝埋土下層からの出土である。377～378 は須恵器椀、381 は白磁皿、382 は白磁碗で口縁部は玉縁になる。383 は石製の巡方で SDj32 との合流部付近で出土した。

出土遺物から中世（13 世紀前半）の溝である。

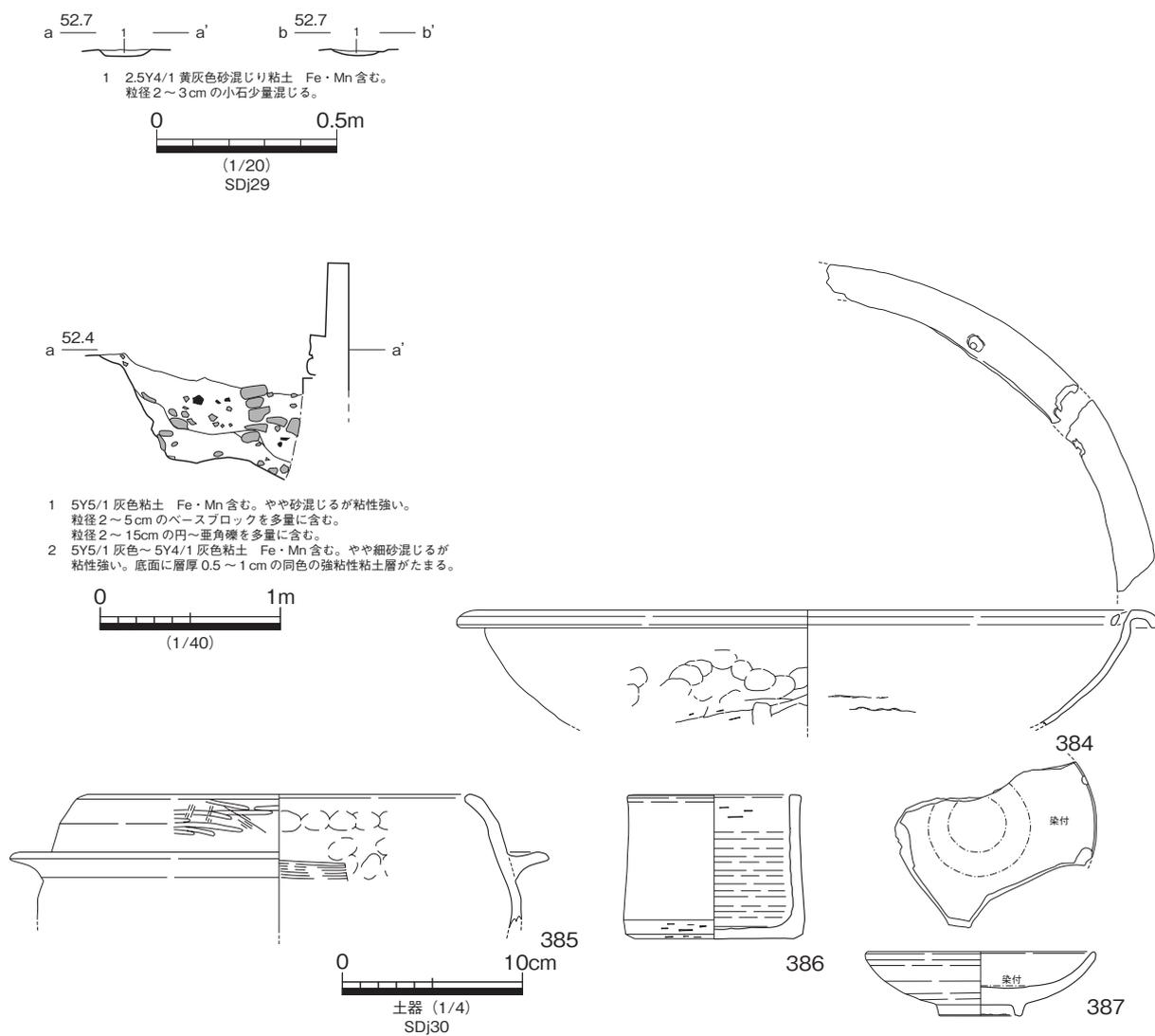


第 140 図 SDj28 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)

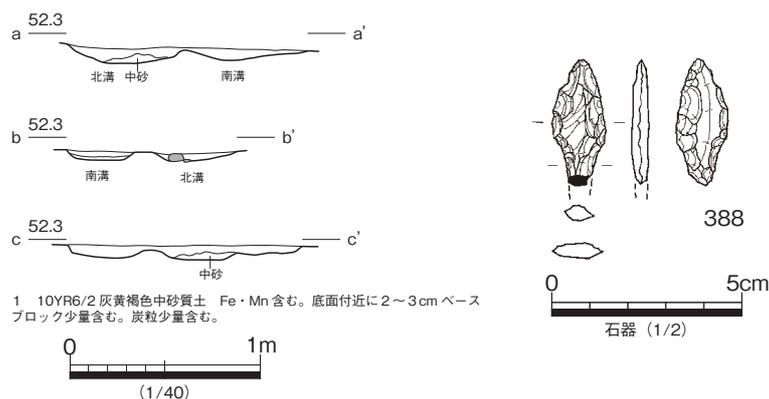
SDj29 (第 141 図)

13 J グリッド西端部で検出した。検出長は 4.6 m を測り、幅は最大で 0.12 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.02 m ほどと浅い。主軸方位は N 13° E で、SDj28 と同方位である。

溝の方向や埋土の状況から中世の溝とする。



第 141 図 SDj29・30 断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)



第 142 図 SDj31 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/2)

SDj30 (第 141 図)

13 L グリッド中央付近の調査区南西隅で検出した。平面形の東西両端及び南半分が対象地外へ延びており、全容は不明である。検出長 6.6 m、最大幅 0.9 m、主軸方位は N 78° W である。残存深度は約 0.7 m を測り、確認できる範囲では断面形状は箱型を呈する。上層は地山ブロック土及び礫を多量に含み、人為的埋め戻しがなされたことを窺わせる。下層は砂質土を含むものの、緩やかな堆積による埋没を想定させる堆積状況である。

出土遺物は羽釜 (385)・焙烙 (384)・染付皿 (387)・陶器椀 (386) を含み、出土遺物から近世の溝であると判断できる。

SDj31 (第 142 図)

13 L グリッド中央付近の調査区南西隅で SDj30 の北側に隣接して検出した。検出長は 10.5 m を測り、最大幅は 1.4 m、主軸方位は N 75° W である。溝の西端部付近で北西方向に湾曲している。断面形状は中央部分が盛り上がる浅い皿状を呈しており、両者がそれぞれ別の溝として掘削された可能性もある。それぞれの溝が部位によって下位に砂質土の堆積を認め、共に流水の環境下にあったことを裏付けるといえる。

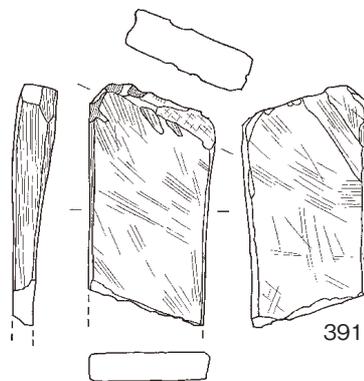
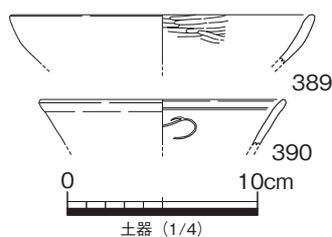
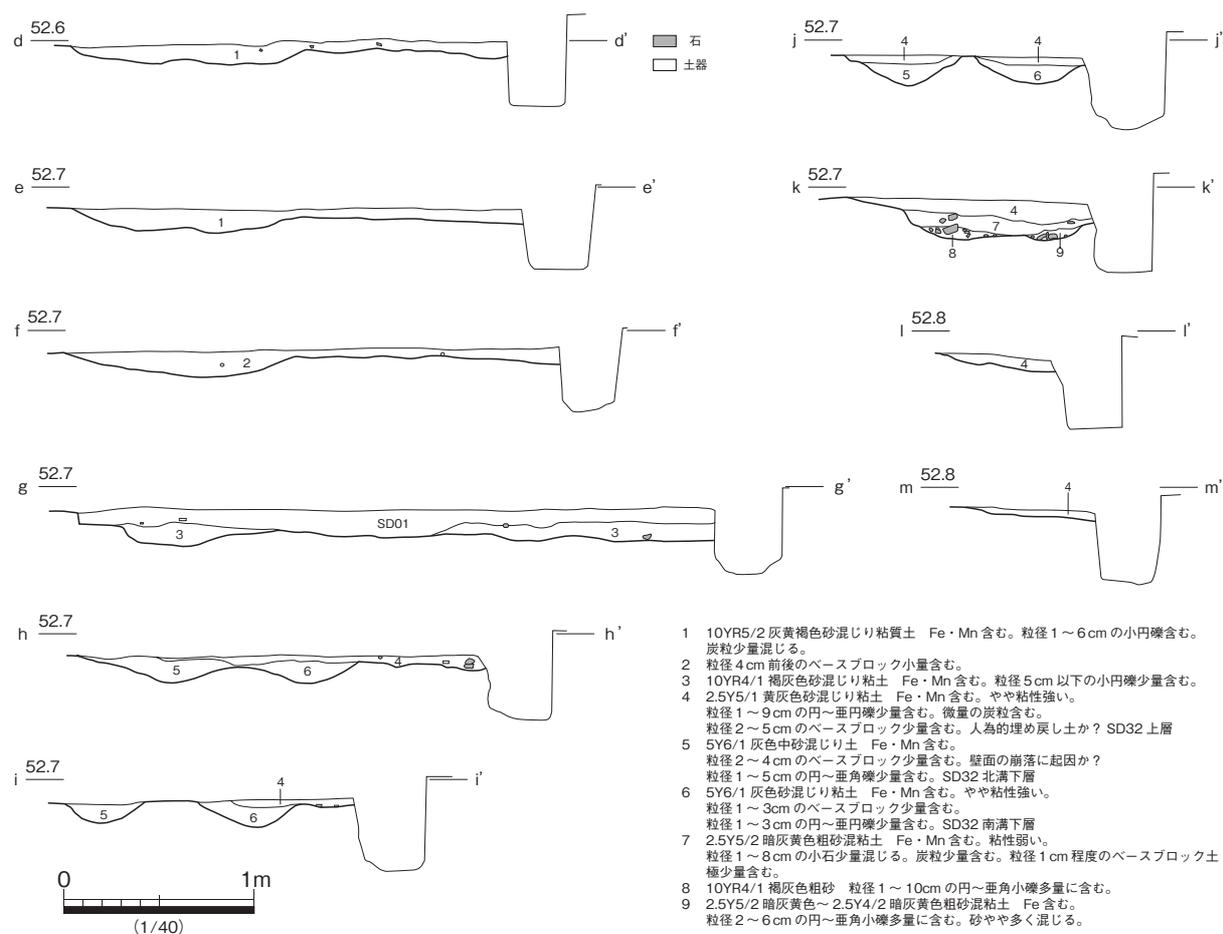
方向や埋土の状況から中世の溝とする。

SDj32 (第 143 図)

12 J・13 J・13 K グリッドに続き、調査区南壁付近で検出した。検出長は 31.1 m を測り、最大幅は 1.3 m を測る。主軸方位は N 75° W で、SDj28 とは直交し、交点部分の東側でやや湾曲するがその後はまた同じ方位になる。断面形状は浅い皿状を主体とするが、北側に浅い芯を持つ箇所と中州状の盛り上がりを見せるところが認められる。埋土は上層を共通とするが、中洲状に区切られた南北に分かれる芯の埋土には差が認められ、掘削の時期に差があったことが想定できる。

389 は黒色土器 A 類碗、390 は青磁碗である。391 は流紋岩製の砥石である。

出土遺物と SDj28 と埋土が共通で同時期であることから、中世 (13 世紀前半) の溝である。



第 143 図 SDj32 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj33 (第 144 図)

15 K グリッド北西部の調査区西端部分で検出した。検出長 11.8 m、最大幅 0.4 m を測る。断面形状は浅い皿状で、残存深度は最深部でも 0.06 m 程度である。主軸方位は N 67° W を測る東西方向溝である。

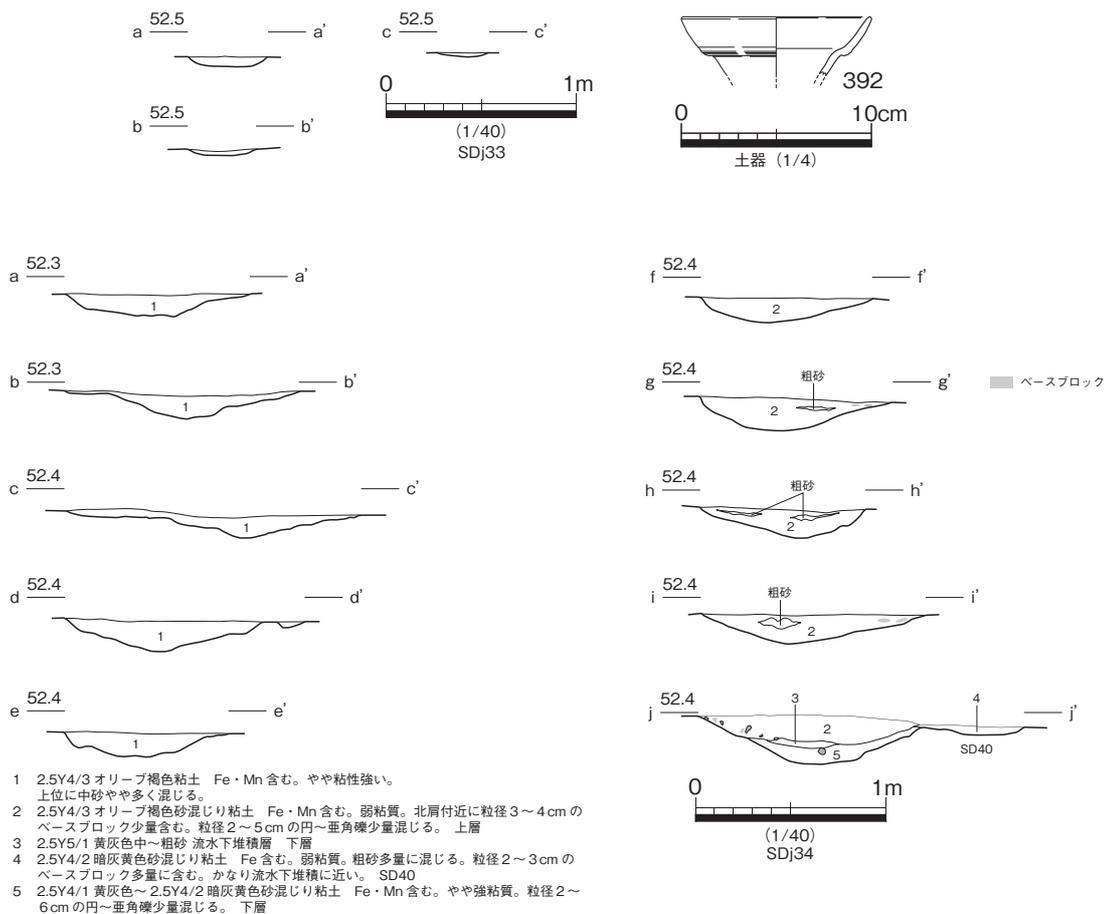
出土遺物はあまり多くなく、図化できたものに須恵器ハソウの口縁部がある。

出土遺物から古墳時代 (6 世紀後半) の溝である。

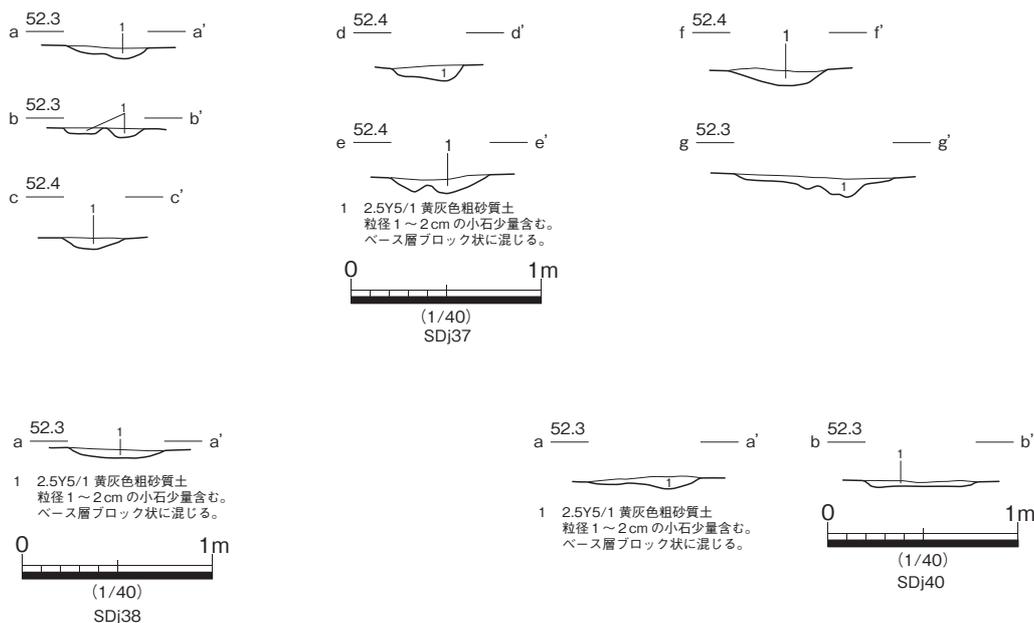
SDj34・37・38・40 (第 144・145 図)

15 J・16 J・16 K グリッドで調査区北西部で検出した。SDj34 は検出長約 32 m、最大幅は約 1.5 m を測る。断面形状は浅い皿状で、残存深度は最深部で 0.25 m を測る。埋土は砂質が主体となる部分と粘質が主体となる部分が共に認められ、流・滞水下の環境にあったことが窺える。底部のレベルが概ね標高 52.1 m 付近で揃うことから、これらの溝がそれぞれ別の溝として機能したというよりも、掘り直しが行われたのち、後世の削平を受けたと考えられる。また、後述する SDj54 も底部のレベルは揃うことから、溝の規模から見て、SDj34・37・38・40 は SDj54 の枝溝としての機能を持っていたと考えられる。

SDj54 の時期から弥生時代中期後半～後期後半の溝である。



第 144 図 SDj33・34 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



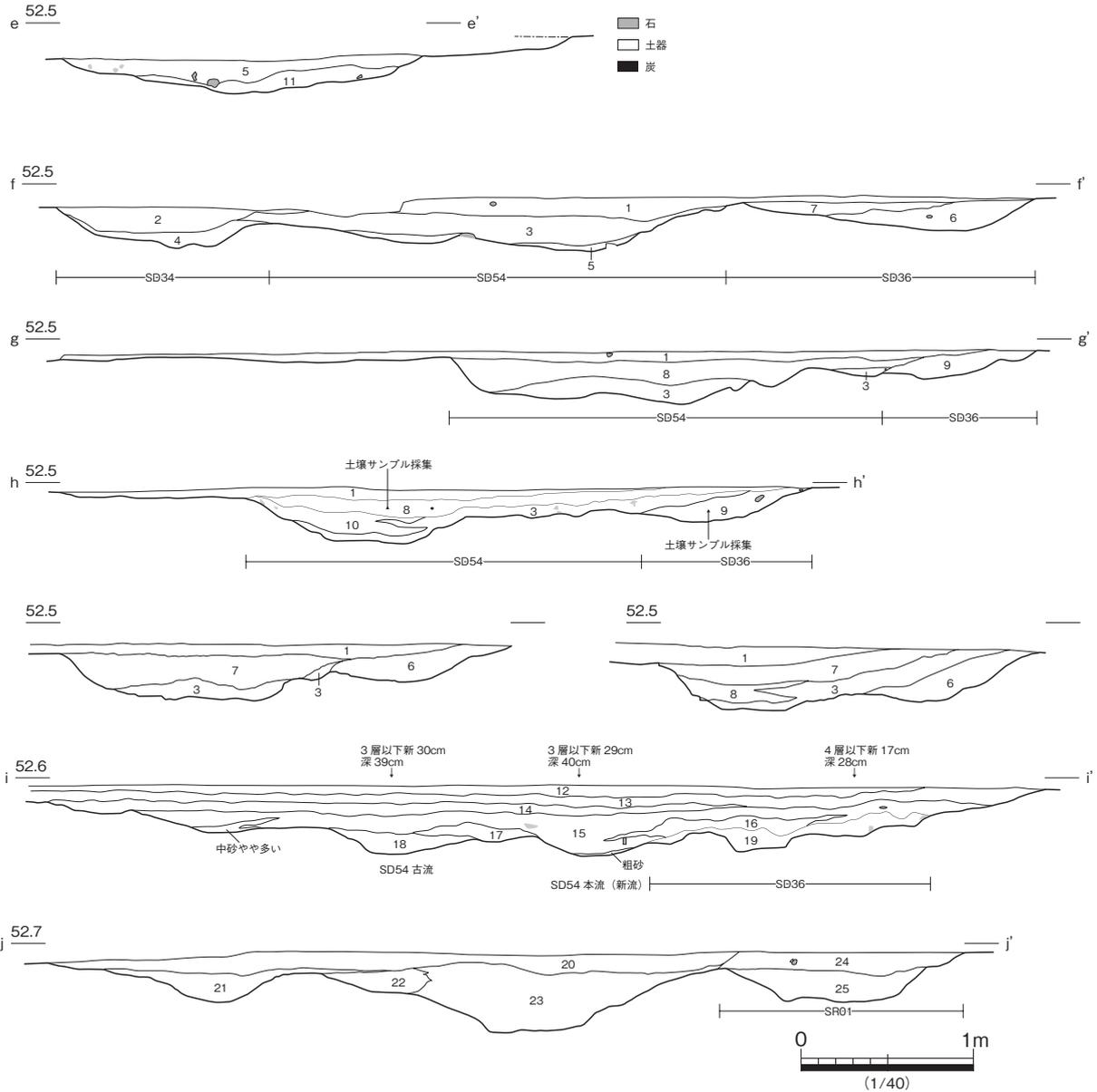
第 145 図 SDj37・38・40 断面図 (1/40)

SDj36・54 (第 146～148 図)

14G・14H・15H・15I・15J・16I・16J にかけての調査区の北半部で検出した。検出長は約 79 m、最大幅は 5.75 m を測る。東西方向に緩やかに S 字状に蛇行し、西側は SDj27 に合流し、東側は調査区外へ続いてゆく。断面形状はやや深い皿状で、残存深度は最深部で約 0.5 m を測る。埋土は上部に中世以前の面を覆う包含層が被っており、その下に本来の埋土が堆積する。SDj54 は概ね上層に粘質土が、下層で砂質土がそれぞれ堆積する傾向にあるが、SDj36 はほぼ粘質土からなる堆積で占められる。底部で部分的に砂質土の堆積が認められることから、一時は流水環境下にあったと考えられる。堆積環境から見て、この 2 条の溝は SDj36 が先行し、後に SDj54 が掘削されたことがわかる。底部のレベルが前者は標高 52.2～52.3 m 付近であるのに対し、後者が 52.1 m 付近と若干低い。掘削された位置は極めて近接していることから、本来 SDj36 として掘削された溝が何らかの理由で機能しなくなり、SDj54 が再度掘削されたものと考えられる。

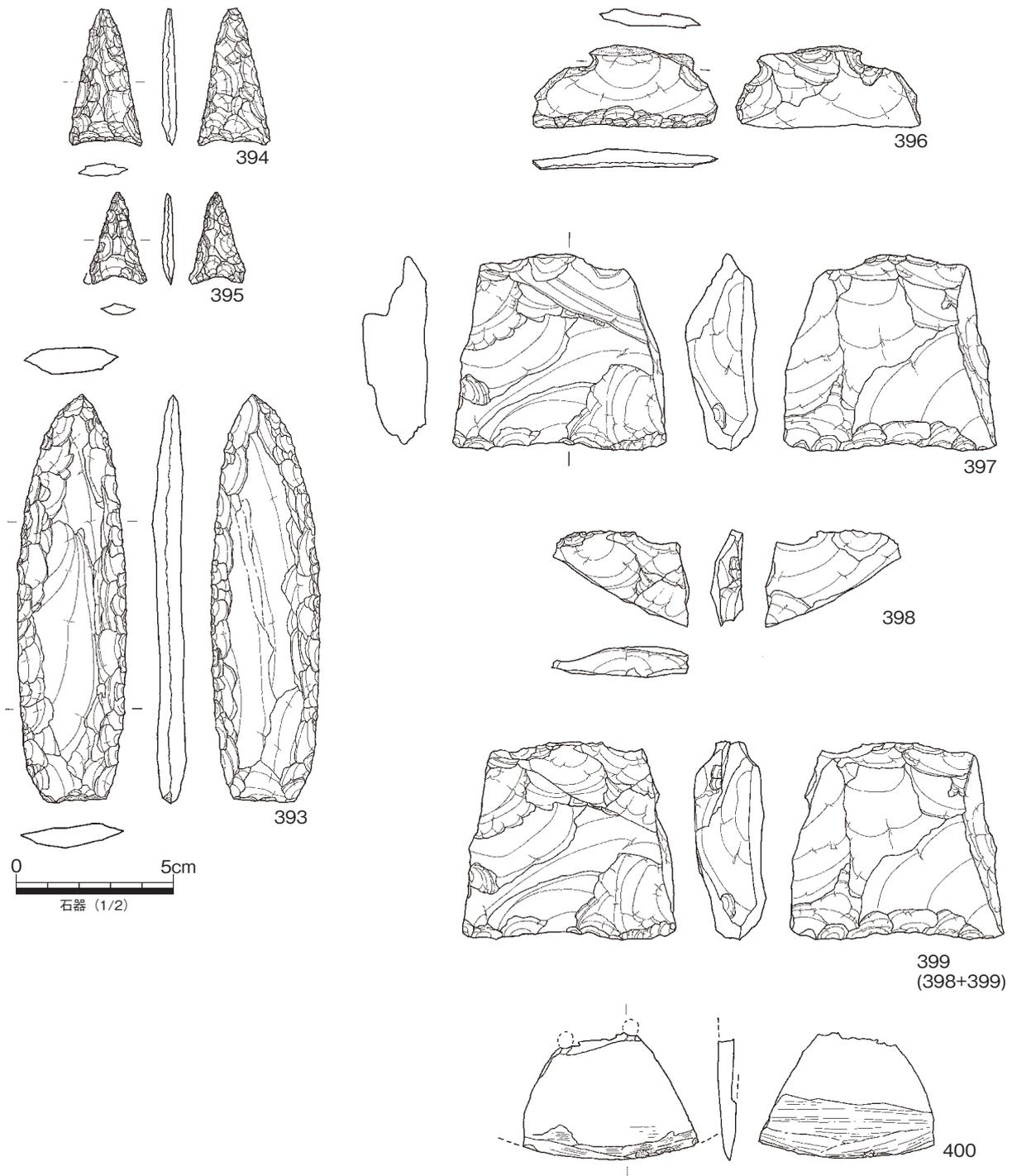
出土遺物はあまり多くないが、弥生土器が若干と石器が出土している。394～400 は SDj36 から出土したものである。393 はサヌカイト製の石槍、400 は流紋岩製の磨製石庖丁で刃部には擦痕が顕著である。401～418 は SDj54 から出土したものである。401・405・406 は口縁部外面に凹線文を施している。408 はサヌカイト製の石槍、417 は打製石斧の基部、418 は太型蛤刃石斧である。

図示した土器は弥生時代中期後半のものであるが、弥生時代後期後半の遺物も含み、西側で弥生時代後期後半の SDj27 と合流することから、弥生時代中期後半に開削され、後期後半まで継続する溝である。

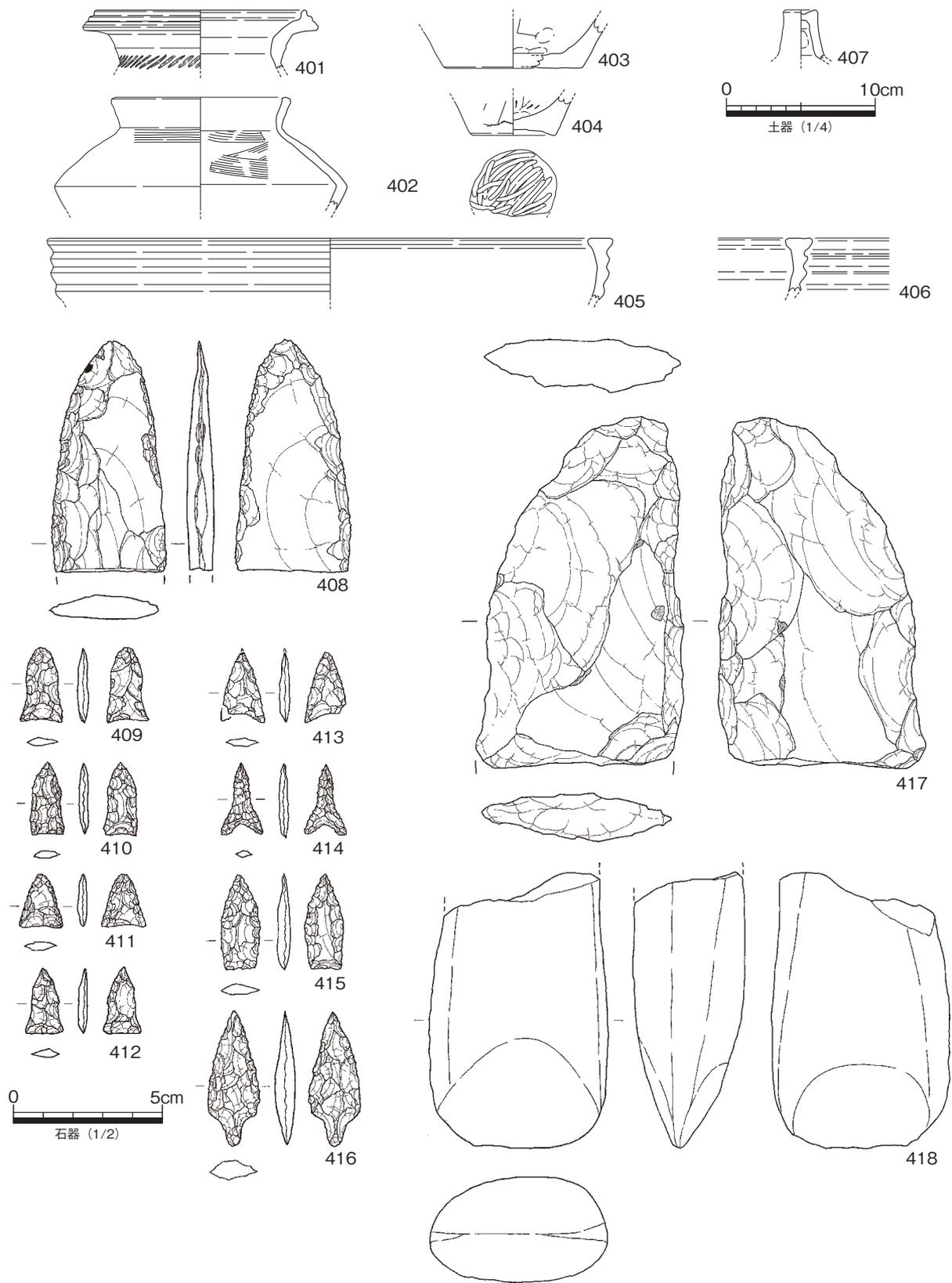


- 1 10YR4/1 褐灰色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。やや長粘質。粒径2～10cmの円～亜角礫少量含む。第2面包含層
- 2 2.5Y4/3 オリーブ褐色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。やや粘性強い。上面付近に粒径2～3cmのベースブロック少量混じる。SD34の上層
- 3 10YR7/1 灰白色細～中砂・10YR5/1 褐灰色シルト・10YR8/1 灰白色粗砂ラミナシルト層内にFe・Mn 含む。粒径2～15cmの円～亜角礫含む。オウ盛な流水下堆積。SD54下層
- 4 10YR4/2 灰黄褐色粘土 Fe・Mn 含む。ややシルト質だが粘性強い。わずかに砂薄層混じる。SD34下層
- 5 10YR3/2 黒褐色粗砂 粒径2～5cmの小円礫含む。SD54下層
- 6 10YR4/1 褐灰色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。やや粘性強い。底面付近に中～粗砂部分的にたまる。顕著な流水堆積は認められない。SD36下層
- 7 10YR5/1 褐灰色砂混じり粘土 Fe/Mn 含む。砂多く混じるか粘性強い。粒径2～3cmのベースブロックを中央付近に少量含む。SD36中層
- 8 10YR5/2 灰黄褐色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。ややシルト質。中砂ラミナ状にわずかに混じる。2層・7層極似 SD54中層
- 9 10YR4/1 褐灰色粘土 Fe・Mn 含む。やや砂混じるが強粘質。底面付近に2～3cmベースブロック少量含む。SD36下層
- 10 2.5Y5/2 暗灰黄色～2.5Y4/2 暗灰黄色細砂質シルト Fe/Mn 含む。3層とラミナ堆積。SD54下層
- 11 2.5Y5/1 黄灰色中～粗砂混砂質土 粒径2～30cmの円～亜角礫やや多量に含む。
- 12 2.5Y4/1 黄灰色粘土 Fe・Mn 含む。やや砂混じる。強粘質 第2面包含層
- 13 2.5Y6/4 にぶい黄色粘土 Fe・Mn 含む。ややシルト質。弱粘質 第2面包含層
- 14 2.5Y6/4 にぶい黄色シルト Fe・Mn 含む。やや砂混じる。SD54上層
- 15 2.5Y4/2 暗灰黄色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。やや砂多い。粒径1～4cmのベースブロック極少量混じる。
- 16 2.5Y5/1 黄灰色～2.5Y5/2 暗灰黄色シルト混粗砂 Fe 含む。粒径1～2cmのベースブロック極少量混じる。粒径2～3cmの小石混じる。6層と基本的には同じ層。4層とラミナ状に堆積。SD54中層
- 17 2.5Y4/1 黄灰色～2.5Y5/1 黄灰色粗砂 Fe 含む。ややシルト混じる。粒径1～5cmの円～亜角礫混じる。流水下堆積 SD54下層
- 18 2.5Y4/1 黄灰色粗砂 粒径1～4cmのベースブロック多く含む。SD54下層
- 19 10YR4/2 灰黄褐色粘土 Fe・Mn 含む。強粘質。粒径1～4cmのベースブロック含む。SD36下層
- 20 2.5Y5/4 黄褐色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。粘性強い。自然堆積層 SD54上層
- 21 2.5Y4/1 黄灰色粗砂質土 Fe・Mn 含む。わずかに粘性あり。粒径1cm前後のベースブロック少量混じる。SD54北清下層
- 22 2.5Y4/1 黄灰色～10YR4/1 褐灰色中砂質土 Fe・Mn 含む。粒径2～10cmのベースブロック多量に混じる。
- 23 2.5Y4/1 黄灰色～10YR4/1 褐灰粗～細砂・シルトラミナ層下半部に粒径1～2cmのベースブロック極少量混じる。底面付近10YR5/1 褐灰色細砂質シルトが厚6～7cm溜まる。炭粒等含む。SD54南清下層
- 24 2.5Y5/4 黄褐色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。粘性やや強い。粒径1～5cmの円～亜角礫含む。SR01上層
- 25 2.5Y4/1 黄灰色～2.5Y4/2 暗灰黄色砂混じり粘土 Fe・Mn 含む。粒径1cm前後のベースブロック少量混じる。底面中～粗砂やや多く混じる。SR01下層

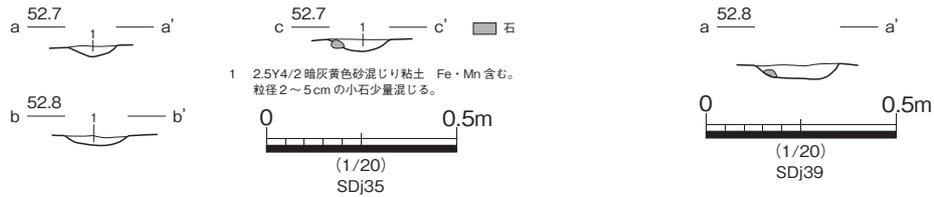
第146図 SDj36・54 断面図 (1/40)



第 147 図 SDj36 出土遺物 (1/2)



第 148 図 SDj54 出土遺物 (1/4 · 1/2)



第 149 図 SDj35・39 断面図 (1/20)

SDj35 (第 149 図)

13 J・14 J グリッドで検出した。検出長は 22.6 m、最大幅は 0.4 m を測る。溝の北側は不明瞭になり、また南側も一部不明瞭な部分がある。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.06 m 程度である。主軸方位は N 15° E を測り、周辺の地割軸とほぼ同一である。SEj02・SKj53・SFj03・STj03 により削平されている。

これら後出する遺構の年代から、SDj35 は 13 世紀前半以前の中世段階の溝である。

SDj39 (第 149 図)

13 J グリッド南東部で検出した。検出長は 2.8 m、最大幅は 0.22 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.04 m 程度である。主軸方位は N 11° E を測り、周辺の地割軸とほぼ同一である。溝の方向と周辺遺構の関係から中世の溝とする。

SDj43 (第 150 図)

15 K グリッドの北西隅で調査区の西壁中央付近で検出した。検出長は 2.2 m、最大幅は 1.0 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、深さは最深部で 0.2 m を測る。SDj27 南岸から派生して掘削されている。SDj27 と同じ弥生時代後期後半の溝である。

SDj45 (第 150 図)

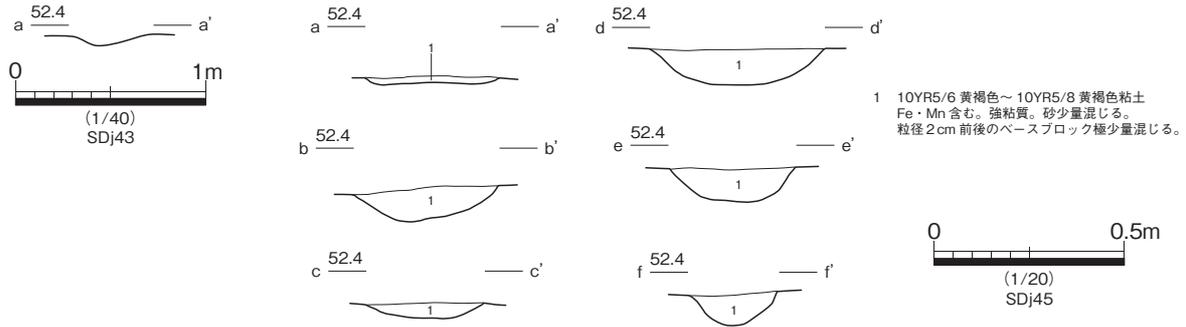
16 J グリッドから 16 K グリッドにかけて SDj34 の北側を併走するように検出した。検出長は 31.6 m、最大幅は 0.45 m を測る。断面形状は皿状ないし椀状を呈し、残存の度合いにより形状は異なる。底部レベルが概ね揃い、標高 52.2～52.3 m 付近となる。検出状況から SDj34・54 掘削以前のものとは判断できる。直線的に掘削されており、SDj54 東岸でその連続を見ることが出来ないことから、SDj54 に先行して掘削された SDj36 から派生した枝溝の可能性はある。

検出状況から SDj36 と同じ弥生時代中期後半かそれ以前の溝である。

SDj47 (第 151 図)

15 G グリッドから 15 H グリッドにかけての調査区北東部で検出した。検出長は 24.4 m、最大幅 0.17 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.02 m である。主軸方位は N 75° W を測る。東へ向けて僅かに傾斜する傾向が認められた。

方向や埋土の状況から中世の溝とする。



第 150 図 SDj43・45 断面図 (1/40・1/20)



第 151 図 SDj47 断面図 (1/20)

SDj49 (第 152 図)

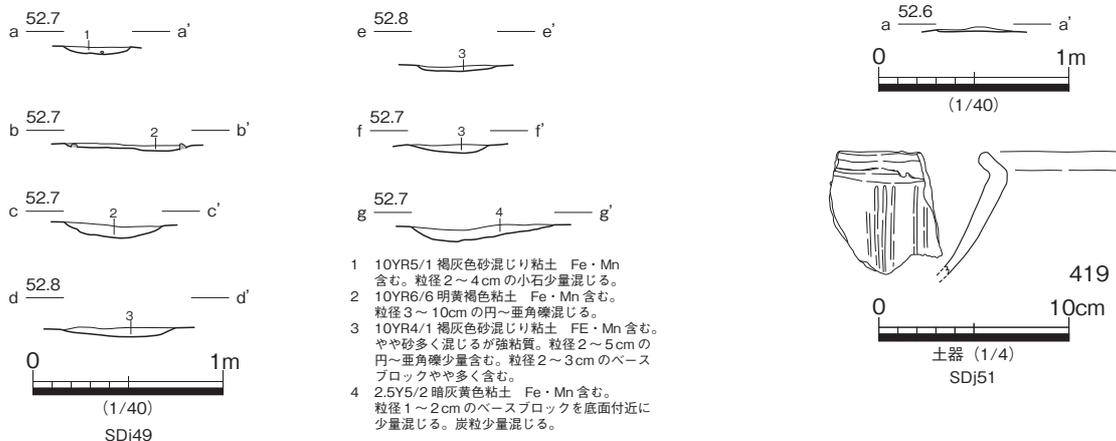
14 I グリッドから 14 J グリッドにかけての調査区中央部で検出した。検出長は 17.3 m、最大幅 0.7 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.06 m である。北西側の端部は二股に分かれている。底部のレベルが概ね揃っており、SDj27 と並走する関係から、同溝の上層部が削平を受けた残存か、SDj27 に先行して開削された溝と考える。

検出状況から弥生時代後期後半以前の溝である。

SDj51 (第 152 図)

13 J グリッドから 14 J グリッド付近で検出した。幅 0.46 m で深さ 0.01 m 程度と僅かに痕跡が残っている程度である。419 は播鉢で内面に卸し目が僅かに残る。

出土遺物から中世の溝である。

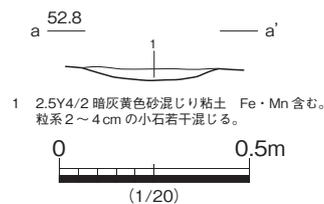


第 152 図 SDj49・51 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj52 (第 153 図)

12 J グリッドの北東部で調査区南壁付近で検出した。検出長は 1.9 m、最大幅 0.35 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は 0.03 m である。主軸方位は N 64° W を測る。

方向と埋土の状況から中世の溝とする。

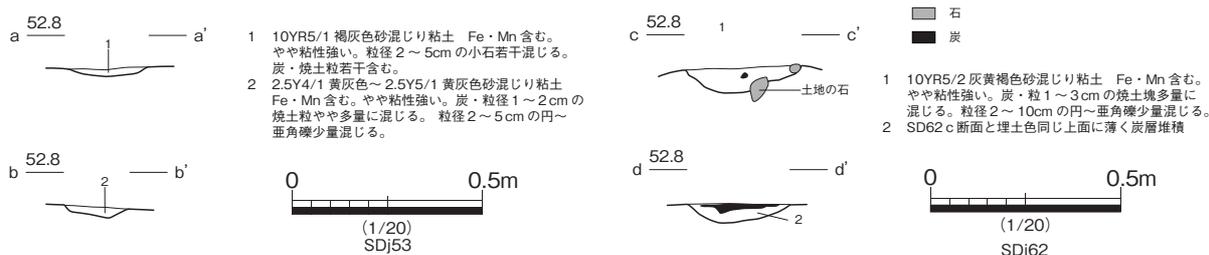


第 153 図 SDj52 断面図 (1/20)

SDj53・62 (第 154 図)

13 I グリッド南西部で検出した。検出長は 6.5 m、最大幅は 0.18 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.02 m を測る。主軸方位は N 72° W を測る。東端で 90° 屈曲し、SDj62 と接合する。SDj62 は SDj53 と合流したのちに南に 2.2 m 伸びた後に東に 90° 屈曲して 6 m 地点で SDj63 に、8 m 地点で SDj57 に合流する。埋土中に炭化物や焼土粒を含む。これよりも東側に位置する S X 24 を始め、周辺遺構の埋土中に焼土塊及び炭化物を多量含んでおり、この近辺で火災があり、その片付けに伴う痕跡と考えられるが、SDj53 から出土したものは粒度が小さいことから、片付けに伴う埋め戻し終了後に開削された溝と考えられる。

検出状況から中世 (13 世紀後半) の SDj20 より後出することから、この時期以降の中世の溝である。

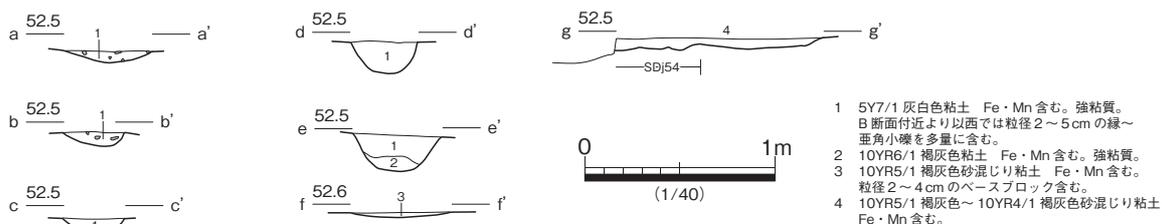


第 154 図 SDj53・62 断面図 (1/20)

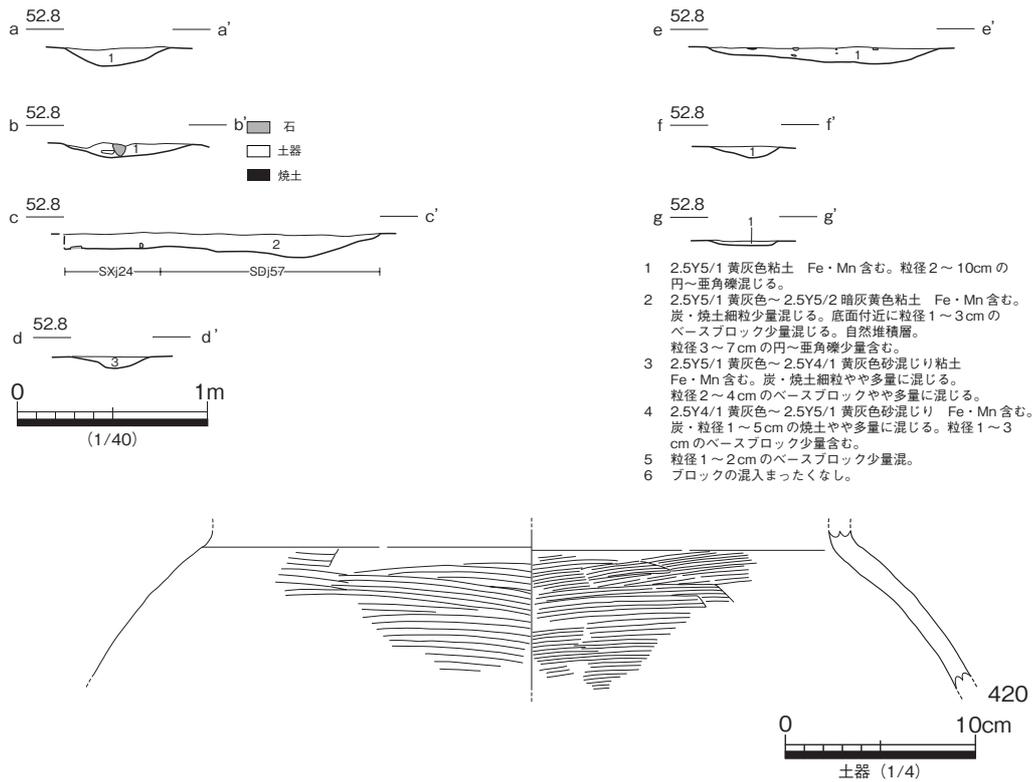
SDj55 (第 155 図)

15 H・I・J グリッド中央部で検出した。検出長は 35.0 m、最大幅 1.0 m を測る。断面形状は両端で浅い皿状、中央付近で椀状を呈する。溝の底部レベルは概ね標高 52.3~52.4 m の間に収まっており、東から西へ流下する傾向にある。SDj54 から派生しているように見えるが、溝底部レベルは SDj55 のほうが高いことから、SDj55 廃絶後に SDj54 が開削された可能性が高い。

弥生時代中期後半以前の溝である。



第 155 図 SDj55 断面図 (1/40)



第 156 図 SDj57 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj57 (第 156 図)

12 I グリッド北半部で検出した。検出長は 20.6 m、最大幅 0.65 m、深さ 0.12 m を測る。主軸方位は N 15° E を測る。北端で西へ屈曲して収束するほか、西側へ部分的に膨らむ部位が認められる。また、中ほどでは後述する SDj62 もここから西に向かって派生しており、これらは何らかの区画施設として機能していた可能性がある。

西側に派生する SDj53 との関係から中世 (13 世紀後半) 以降の溝である。

SDj58 (第 157 図)

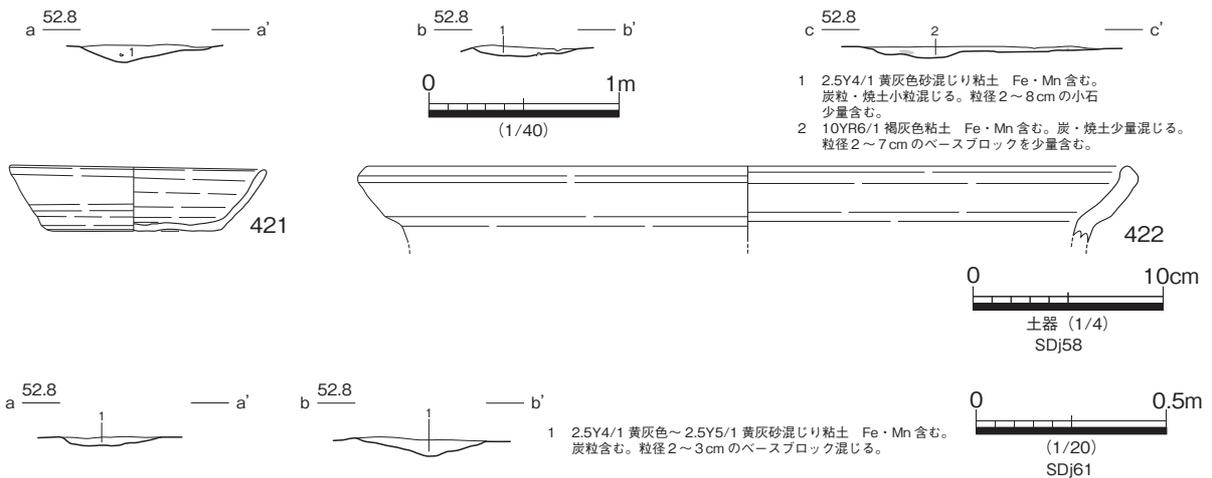
12 I グリッドから 13 I にかけての東部で SDj57 の東側に隣接して検出した。検出長は 11.3 m、最大幅 0.8 m、残存深度は最深部で 0.10 m、主軸方位は N 18° E を測る。北端は SXj23 と接合し、SXj23 と比べると若干深くなる。

421 は土師器杯、422 は土師器鍋である。出土遺物から中世 (13 世紀後半) の溝である。

SDj61 (第 157 図)

12I グリッドから 13I グリッドにかけて検出した。検出長は 2.2 m、最大幅は 0.3 m、深さ 0.05 m を測る。南端は SDj57 に、北端は SDj62 にそれぞれ接合する。

中世 (13 世紀後半) 以降の溝である。

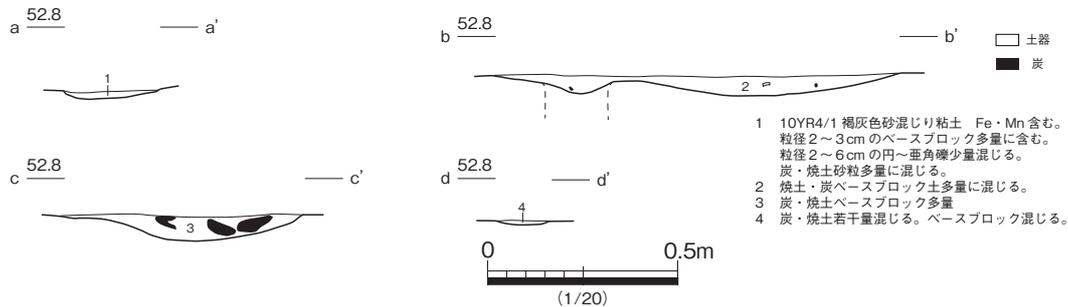


第 157 図 SDj58・61 断面図 (1/20・1/40)、出土遺物 (1/4)

SDj63 (第 158 図)

13 I グリッド南半部で検出した。検出長は 9.7 m、最大幅 0.7 m、残存深度は 0.06 m、主軸方位は N 15° E を測る。北側端部は先細りになって収束し、中央部分は幅広になるが不明瞭な部分がある。南側は SDj62 に取り付いている。特に中央部分の埋土には炭化物と焼土を多量に含んでいる。

周辺の溝との関係から中世 (13 世紀後半) 以降の溝である。



第 158 図 SDj63 断面図 (1/20)

SDj64 (第 159 図)

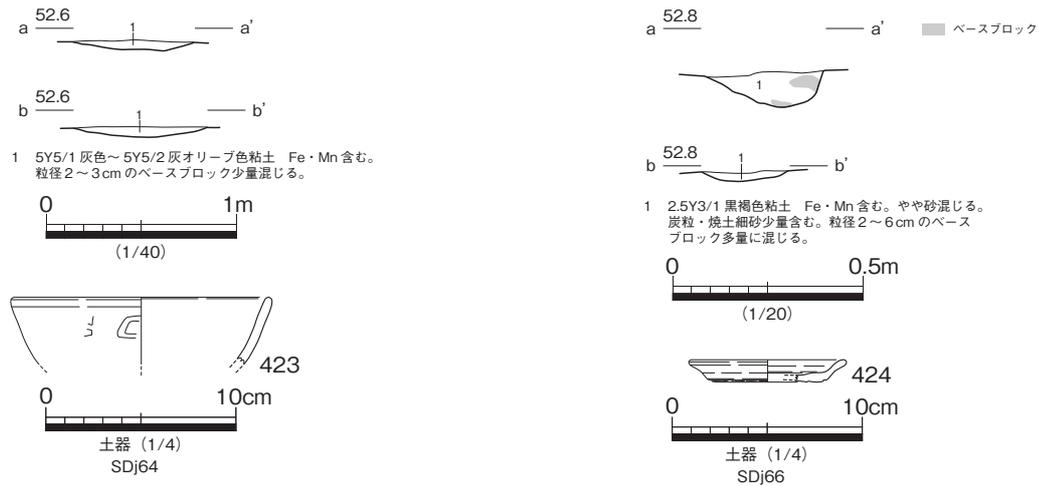
15 H グリッドから 16 H グリッドにかけての調査区北壁付近で検出した。検出長は 5.2 m、最大幅は 0.7 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.06 m を測る。底部に若干の起伏が認められ、鋤先の痕跡と考えられる。

423 は青磁碗である。出土遺物から中世 (15 世紀) の溝である。

SDj66 (第 159 図)

14 H グリッド北半部で検出した。検出長は 3.5 m、最大幅は 0.3 m を測る。断面形状は浅い皿状から碗状を呈し、西側で深くなる傾向がある。残存深度は最深部で 0.08 m を測る。埋土は黒褐色を基調とする粘土であるが、地山ブロックを多量に含むことから、人為的に埋め戻されたと見られる。

424 は土師器小皿で体部を強くナデている。出土遺物から中世 (13 世紀) の溝である。

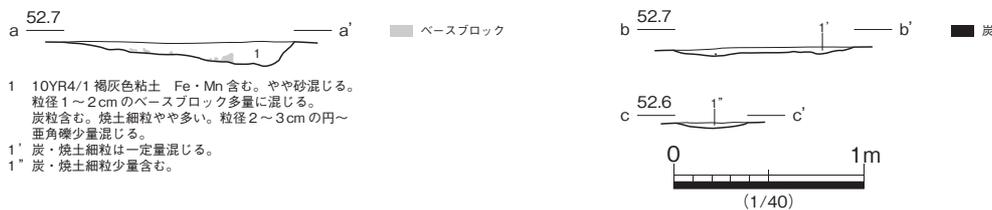


第 159 図 SDj64・66 断面図 (1/40・1/20)、出土遺物 (1/4)

SDj73 (第 160 図)

14 Hグリッドから 15 Hグリッドにかけての西部で検出した。検出長は 12.0 m、最大幅は 1.5 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.12 m を測る。南に向かって幅広になって行き、南端部は南東方向に向きを変えて SDj10 の端部に近接する。この溝の延長にあたる可能性がある。

明確な時期を示すものはないが、SDj10 と関係があれば中世 (12 世紀後半頃) の溝である。

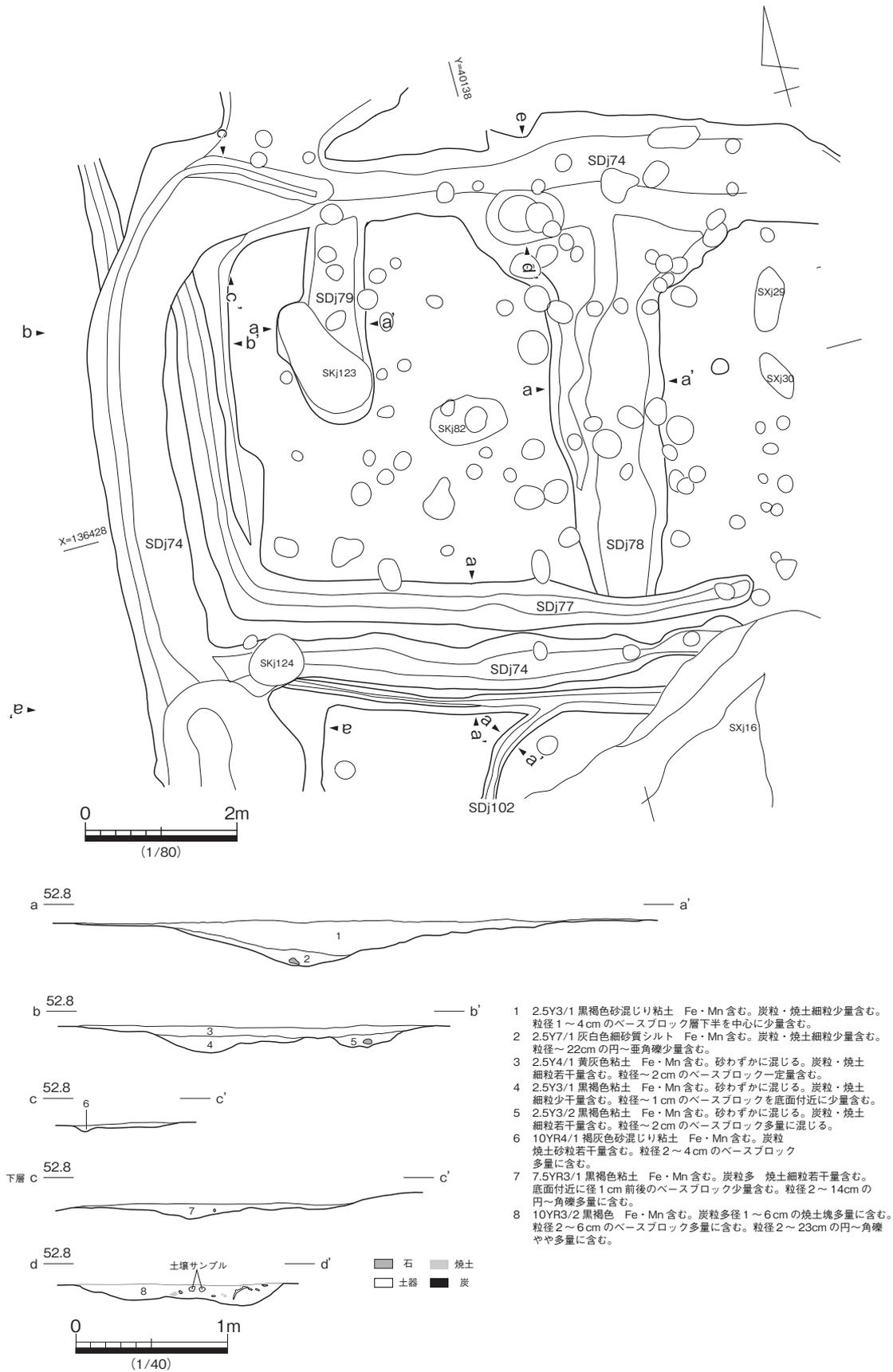


第 160 図 SDj73 断面図 (1/40)

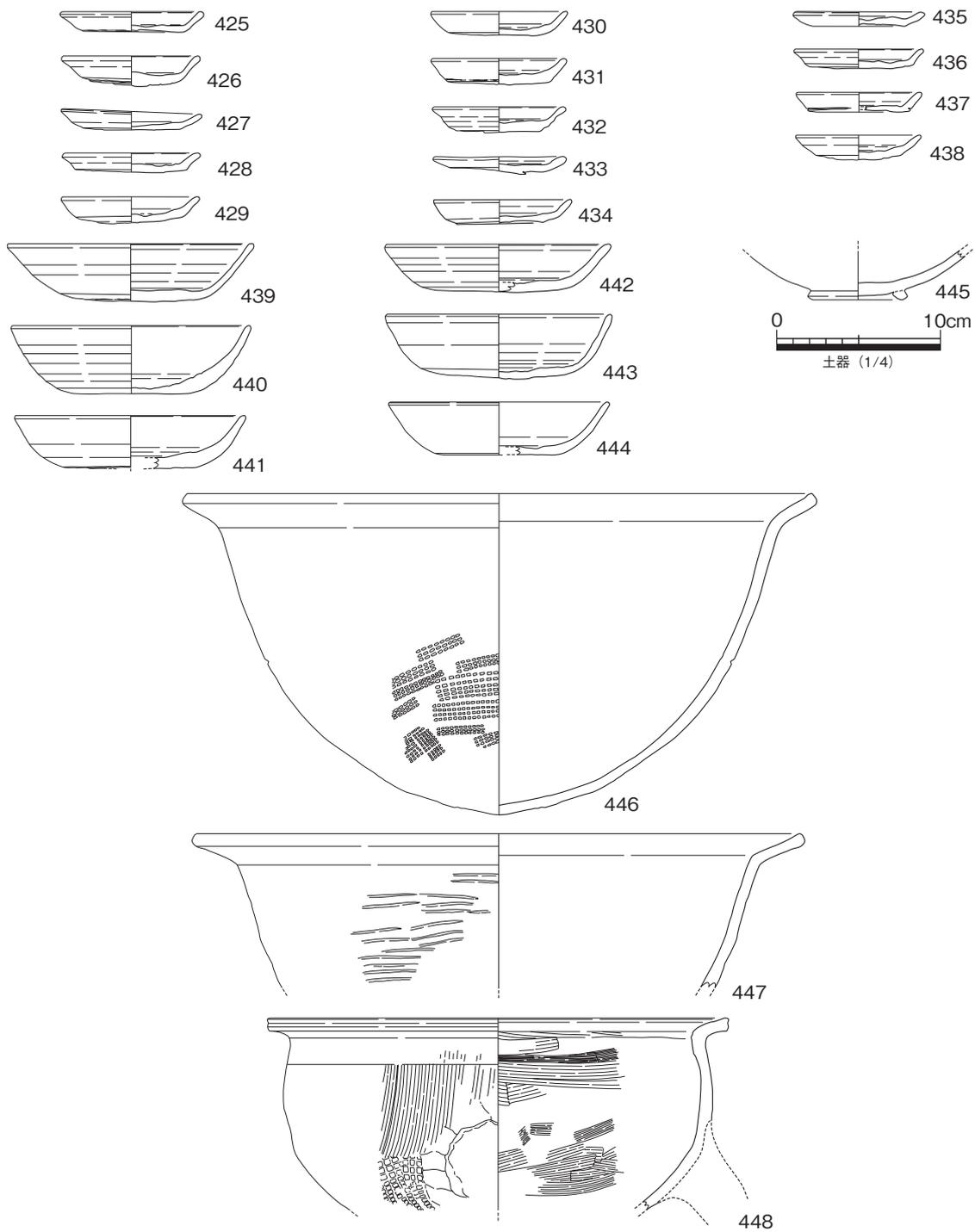
SDj74 (第 161～163 図)

12 Gグリッドから 12 Hグリッドにかけての調査区南東隅で検出した。南北方向溝とその北端で直交する東西溝、さらにその東西溝の南 6 m に並行して掘削された東西溝からなる。検出長は南北部 7.1 m、北側東西部 9.15 m、南側東西部 6.85 m を測る。断面形状は中央部が盛り上がった浅い皿状を呈する場所が多く、残存深度は最深部で 0.29 m を測る。東西溝での主軸方位は N 78° W である。

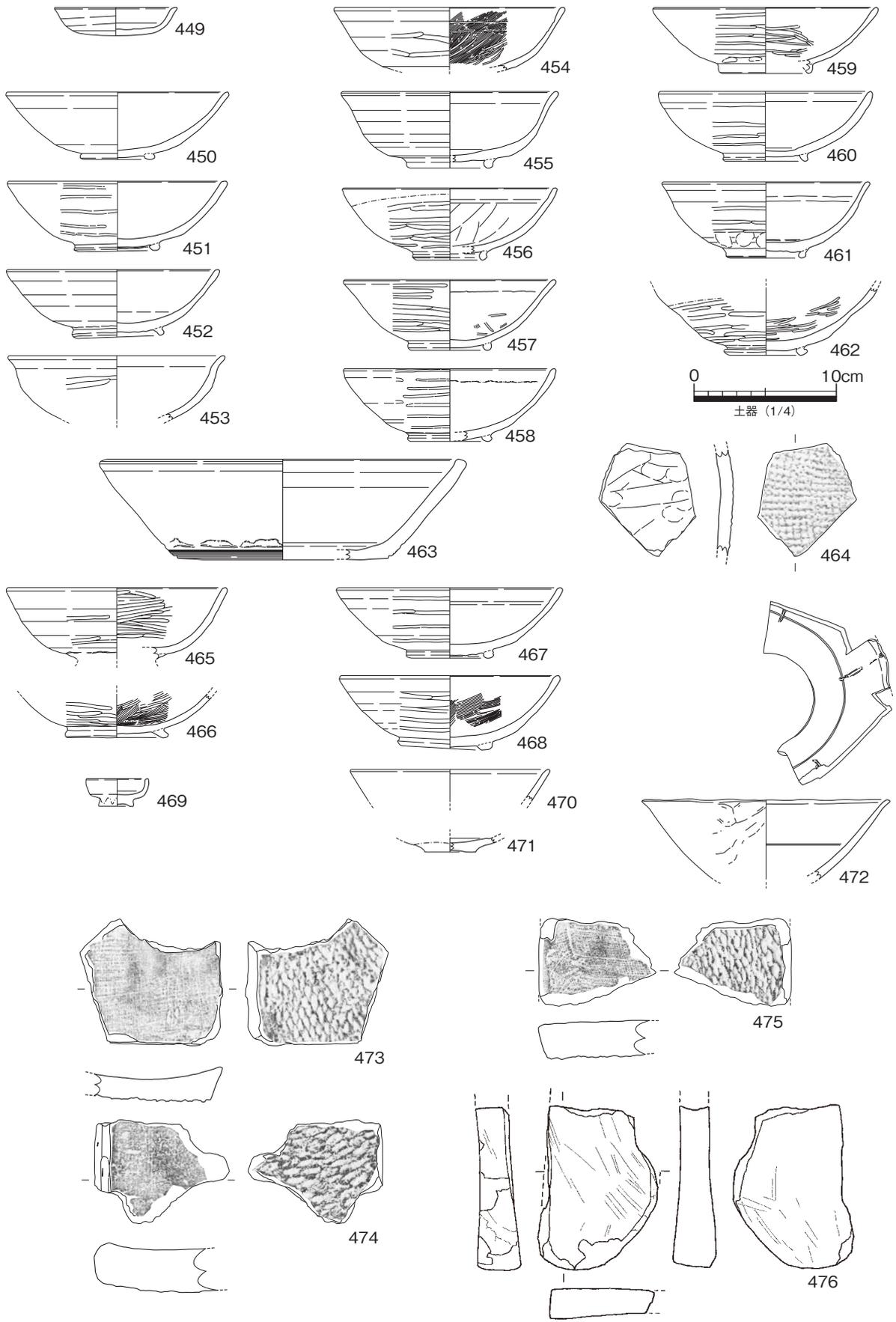
J 地区の中でもまとまった遺物の出土が確認できた遺構であり、残存状況も比較的良好なものが多い。425～438 は土師器小皿、439～444 は土師器杯、445 は土師器椀、448 は足釜である。450～462 は須恵器椀で、底部には断面方形の厚手の高台を貼り付けるものが多い。463 は須恵器捏鉢である。467・468 は黒色土器椀、469 は灰釉陶器と思われる小型の椀 (杯)、470 は青磁碗、471 は白磁皿、472 は白磁碗である。図化出来なかったが、青磁・白磁が 10 個体程度存在する。



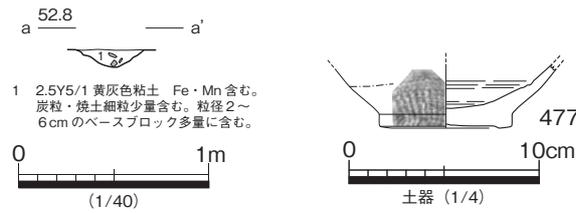
第 161 図 SDj74 平・断面図 (1/40・1/80)



第 162 図 SDj74 出土遺物 1 (1/4)



第 163 图 SDj74 出土遺物 2 (1/4)



第 164 図 SDj75 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世 (13 世紀前半) の溝である。

SDj75 (第 164 図)

12 H グリッドの調査区南壁付近で検出した。SDj42 と SDj76 をつなぐ短い溝で僅かに湾曲している。検出長は 1.2 m、最大幅は 0.5 m を測る。断面形状は幅広の U 字形で、残存深度は最深部で 0.10 m を測る。

477 は白磁碗である。出土遺物から中世の溝である。

SDj76 (第 165 図)

12 H グリッドで検出した。検出長 14.6 m、最大幅 1.8 m を測る。断面形状は浅い皿状から椀状を呈し、残存深度は 0.28 m を測り、北側ほど掘り込みは急で深くなる。主軸方位は N 10° E を測る。482 は須恵器捏鉢、486 は黒色土器 A 類椀、487 ～ 489 は青磁碗、490 は青白磁合子、491 ～ 494 は白磁碗である。495・496 は軒平瓦である。出土遺物には青磁や白磁などの貿易陶磁器が目立ち、少量ながら瓦を伴っている。

出土遺物から中世 (12 世紀後半～ 13 世紀) の溝である。

SDj77 (第 166 図)

12 H グリッド南東部で検出した。東西方向部分の西端で直角に北側に屈曲して伸びる L 字形の溝である。SDj74 の内側に沿うように掘削されているが、SDj74 に先行するものである。検出長 10.6 m、最大幅 0.7 m、残存深度は 0.1 m、東西部分での主軸方位は N 79° W を測る。

500 は土師器椀、501 は土師器鍋である。出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

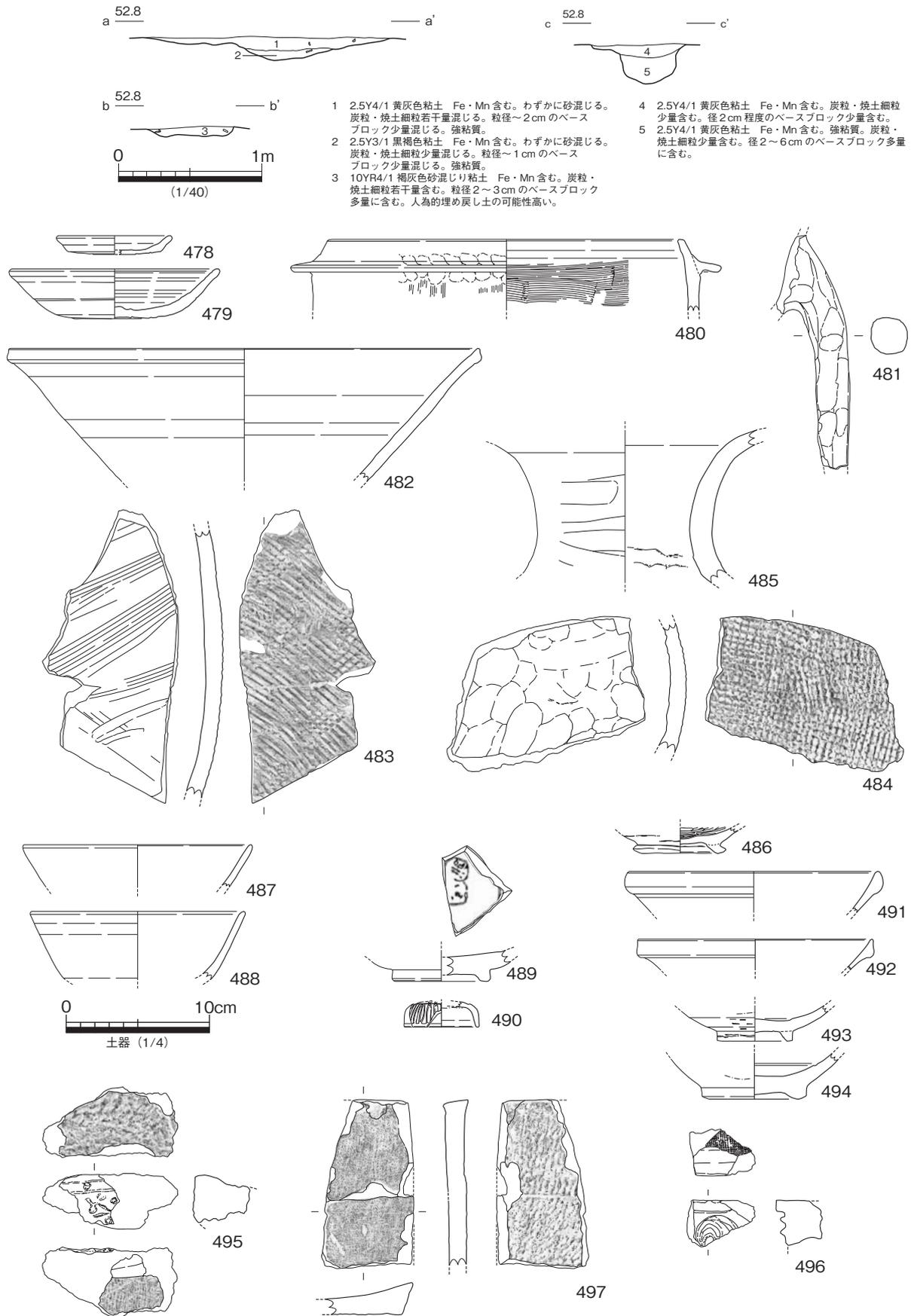
SDj78 (第 166 図)

12 H グリッド東端で検出した。両端を SDj74 と SDj77 に壊され、北側の SDj74 との交点部分は幅広になっている。検出長 5.12 m、最大幅 3.6 m、中央部分で幅 1.4 m、残存深度は 0.06 m、主軸方位は N 13° E を測る。

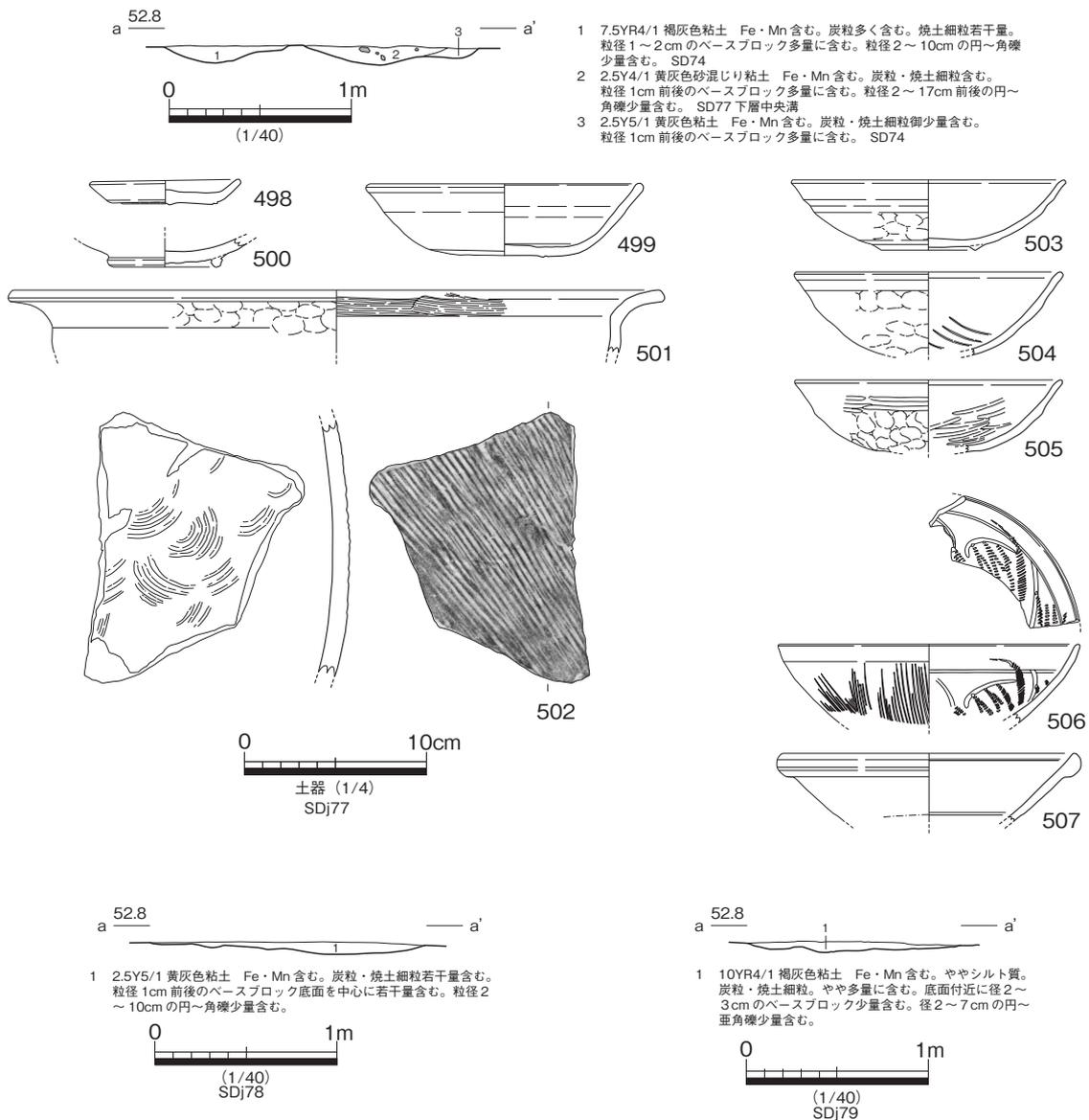
検出状況から中世 (13 世紀初頭以前) の溝である。

SDj79 (第 166 図)

12 H グリッドの東部で検出した。検出長 2.7 m、最大幅 0.9 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.05 m、主軸方位は N 13° E を測る。北端部は SDj74 と接合するほか、南端付近では SKj123 を削平していることから、SKj123 埋没後に開削され、SDj74 とほぼ同時期に機能していたものである。503 ～ 505 は瓦器椀で、いずれも体部外面には指押さえが顕著である。506 は青磁碗、507 は白磁碗で口縁部は玉縁になる。



第 165 図 SDj76 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 166 図 SDj77 ~ 79 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

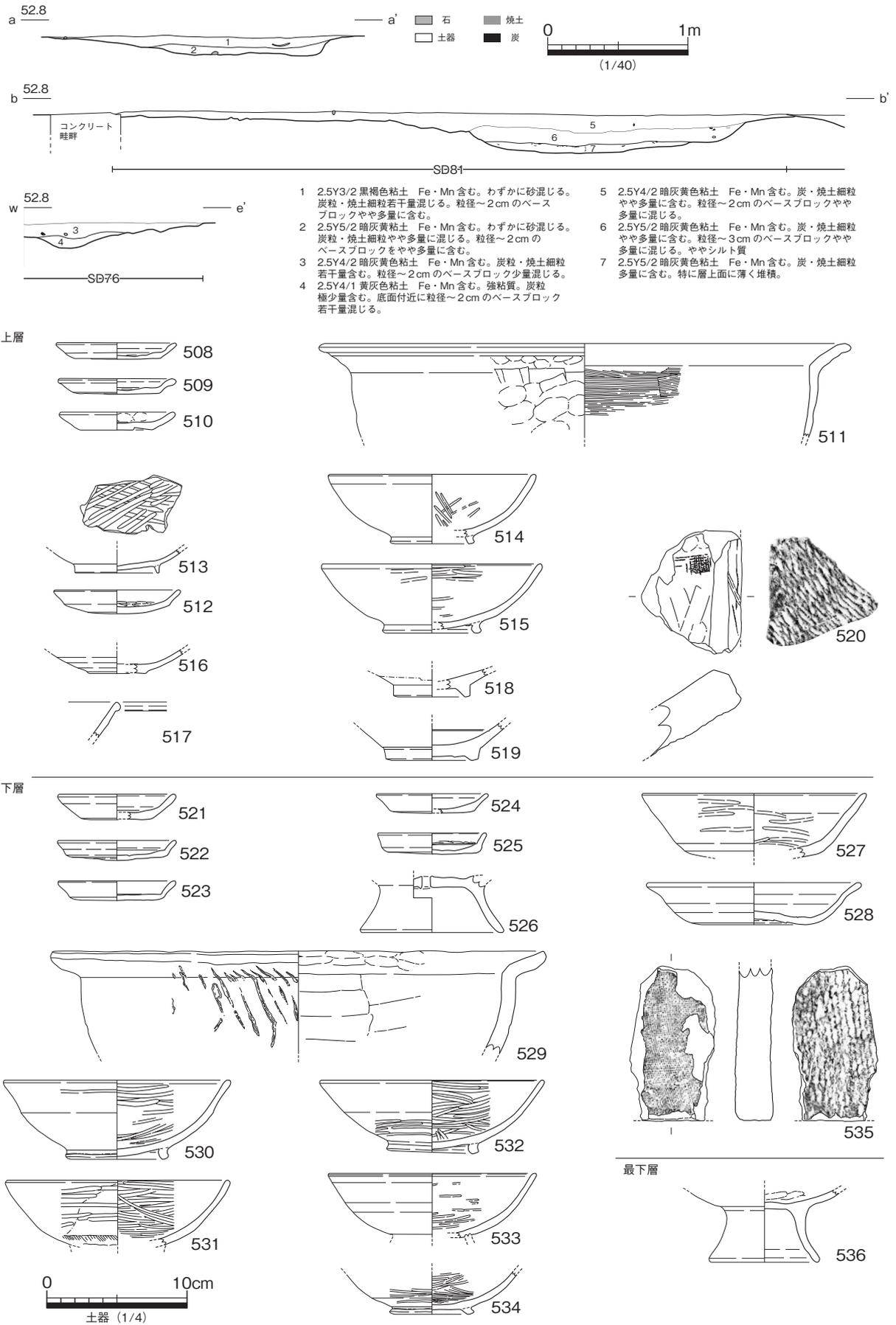
出土遺物から中世 (13 世紀前半) の溝である。

SDj81 (第 167 図)

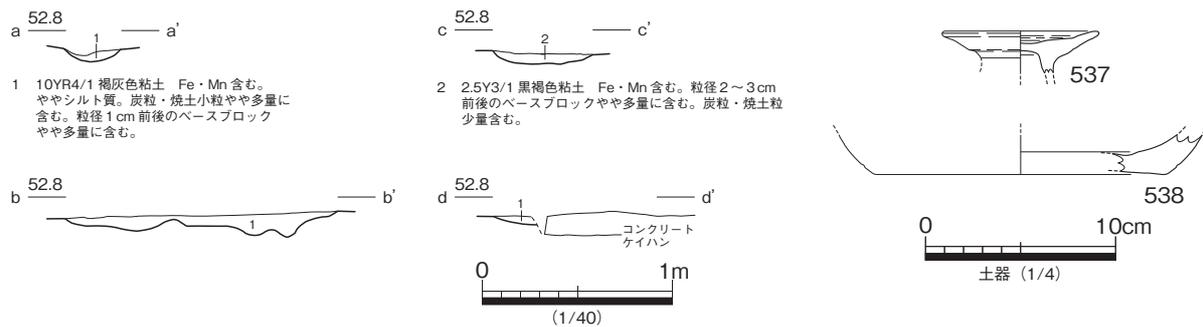
12H グリッドの中央で検出した。検出長 14.8m、最大幅 4.8m を測る。中央付近は不整形に幅が広がり、西側に向かっては枝溝が派生している。断面形状は浅い皿状で、最深部で 0.25m、主軸方位は N 17° E を測る。埋土は上下に大別され、全体に炭化物と焼土を多く含んでいる。遺物は比較的多く出土しており、508~520 は上層から、521~536 は下層からそれぞれ出土している。512 は瓦器小皿、513 は瓦器椀、514・515 は黒色土器 A 類椀、516 は灰釉陶器皿、517~519 は白磁碗である。526 は土師器高台付き皿で皿部中央に穿孔が施されている。530~534 は黒色土器 A 類椀である。536 は土師器台付き杯である。

出土遺物から下層は 12 世紀中頃まで、上層は 13 世紀初頭頃には埋没している。

なお SDj81 の平面位置が不明瞭であるため、断面図等から執筆者が特定したものであるため、位置



第 167 図 SDj81 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 168 図 SDj82 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

の誤りがある可能性を含んでいる。

SDj82 (第 168 図)

12 H グリッド西部で検出した。検出長約 25 m、最大幅 0.65 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.12 m を測る。検出部位の南半と北半で溝の開削状況が異なり、南半部では周辺の地割に合致して掘削されるのに対し、北半部では一度東に振れた後に地割方向に戻り、北端で緩やかに西へ湾曲する。南半部の主軸方位は N 13° E を測る。南端部の調査区壁際では屈曲しているとともに、SFj02 により削平されている。また東方向へ直角に派生する部位が数ヶ所認められる。537 は土師器台付き皿である。

SFj02 との関係から、中世 (13 世紀中頃以前) の溝である。

SDj84 (第 169 図)

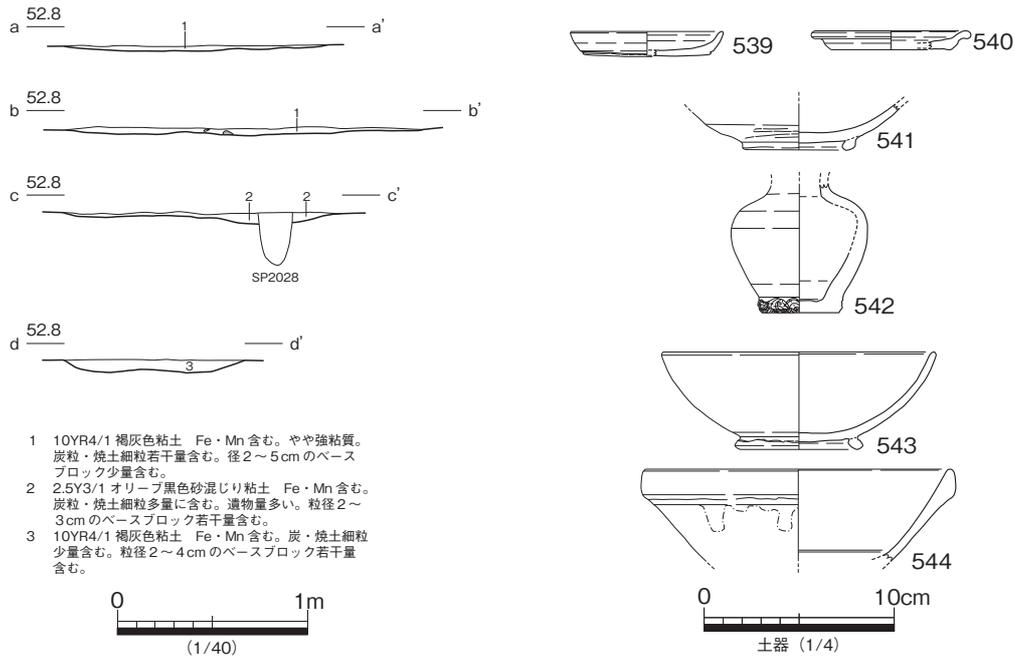
13 H グリッド東半部で検出した。北端部は先細りになって収束し、南端部は SDj89 により削平されている。また中央部分はテラス状の部分形成して幅広になっている。検出長 18.1 m、最大幅 2.0 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、最深部で 0.06 m を測る。主軸方位は N 14° E であるが、北端部付近はこれより東側に傾いている。

539・540 は土師器小皿、541 は須恵器椀、542 は須恵器壺、543 は黒色土器 A 類椀で、断面方形の高台を外側に向けて貼り付けている。544 は白磁碗で玉縁になっている。

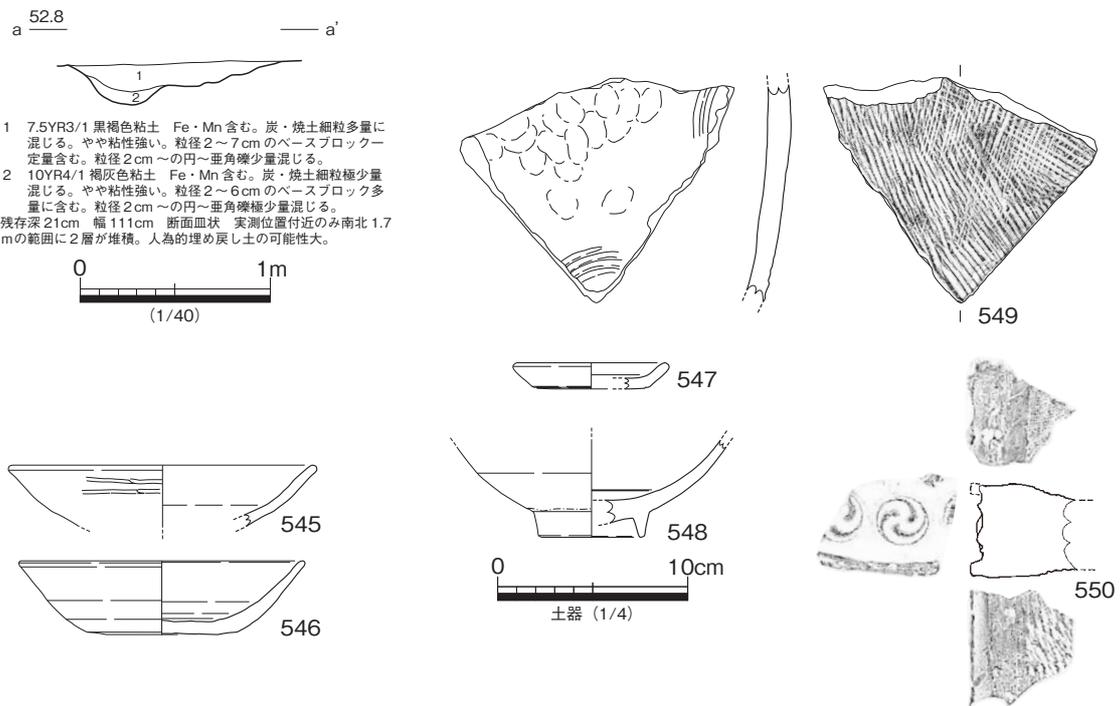
出土遺物から中世 (12 世紀後半) の溝である。

SDj87 (第 170 図)

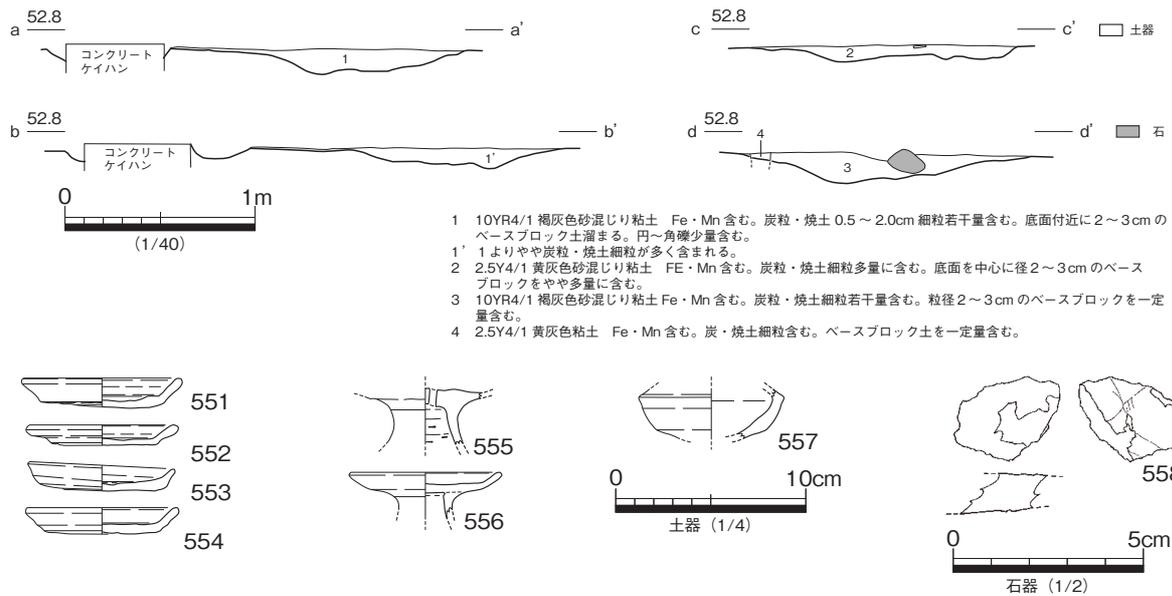
平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 1.1 m 程度、深さ 0.22 m 程度の溝である。547 は黒色土器小皿、548 は白磁碗で、断面三角形の足高の高台をもつ。550 は軒平瓦で瓦当には連続三つ巴文が認められる。



第 169 図 SDj84 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 170 図 SDj87 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 171 図 SDj88 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4・1/2)

SDj88 (第 171 図)

13 H グリッド中央で検出した。検出長 12.7 m、最大幅 1.54 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.16 m を測る。主軸方位は N 16° E で、南端は東に直角に屈曲し、SDj89 へ連続する。溝底部の標高は SDj89 との交点付近が若干深く、SDj88 全体としてはやや浅く概ね似たような高さで揃う。

出土遺物は須恵器・土師質土器が認められるが、小片が多い。551～554 は土師器小皿、555・556 は土師器台付き皿で、555 は皿部底部には穿孔が認められる。557 は土師質で体部上半で鋭く屈曲している。器種ははっきりしないが釜類のミニチュアであろうか。558 は滑石製石鍋の底部である。

出土遺物から中世 (12 世紀後半～13 世紀前半) の溝である。

SDj89 (第 172 図)

13 H グリッド南部で検出した。検出長 9.5 m、最大幅 1.2 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.14 m を測る。主軸方位は N 73° W で、先述の SDj88 から連続するほか、東端で SDj96 へと連続する。

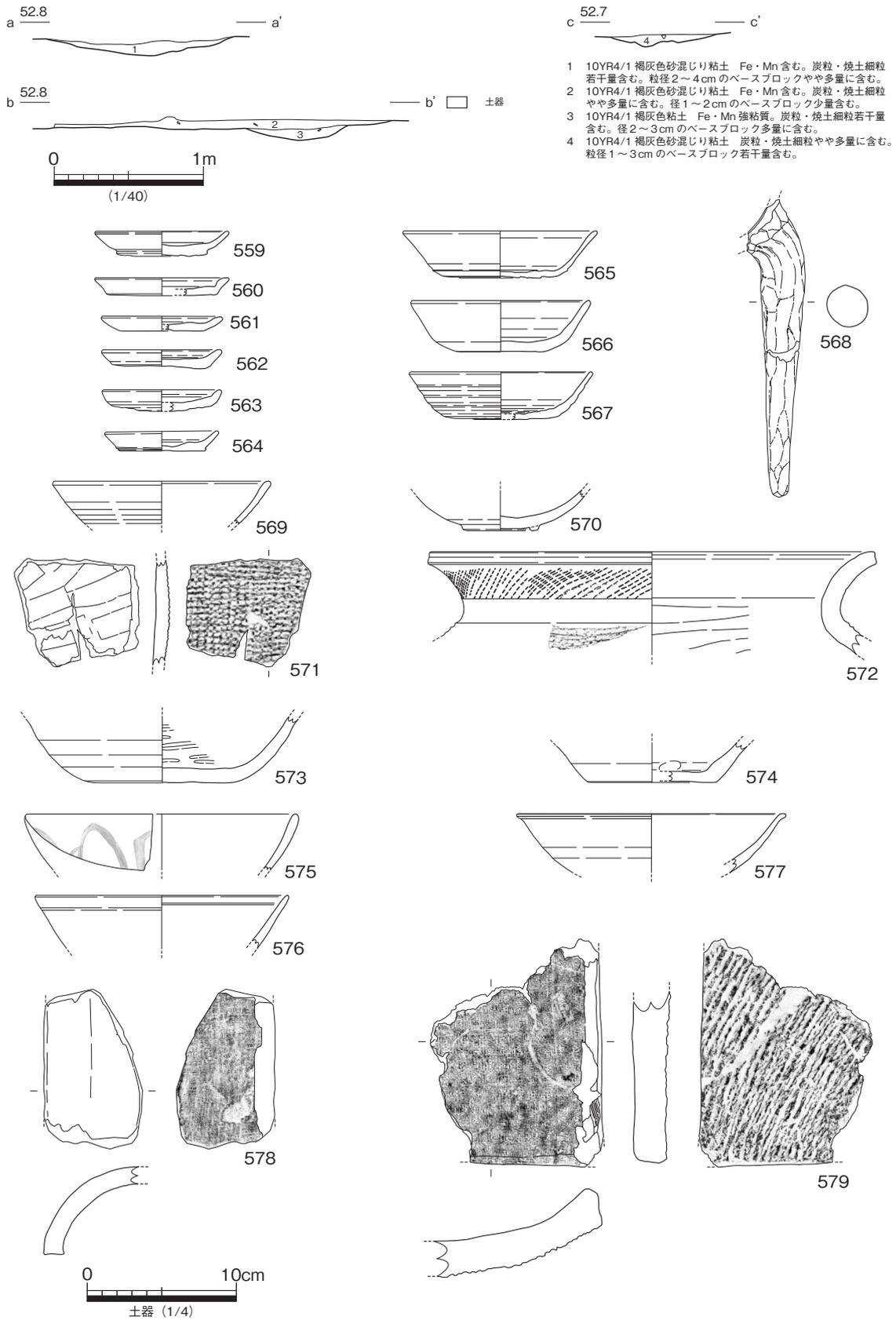
残存状況の良い出土遺物が比較的まとまっている。559～564 は土師器小皿、565～567 は土師器杯、569・570 は須恵器椀、573・574 は瓦質土器鉢、575・576 は青磁碗、577 は白磁皿である。

出土遺物から中世 (13 世紀～14 世紀) であるが時期幅をもつ溝である。

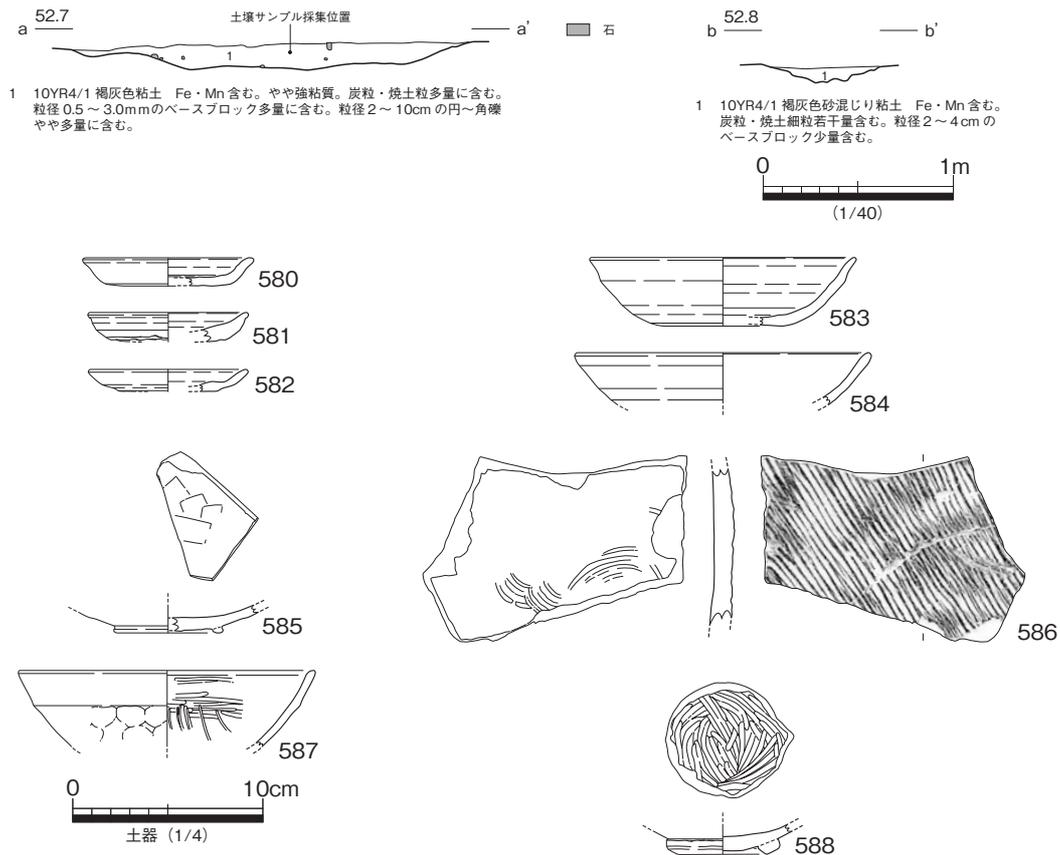
SDj91 (第 173 図)

平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 0.64～2.08 m 程度、深さ 0.14 m 程度の溝である。

580～582 は土師器小皿、583・584 は土師器杯、585 は須恵器椀、587 は和泉型瓦器椀で体部外面には指押さえが顕著である。588 は黒色土器 A 類椀である。



第 172 図 SDj89 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 173 図 SDj91 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

SDj92 (第 174 図)

平面位置が不明瞭であるため、断面図によると幅 1.05 ~ 2.45 m 程度、深さ 0.08 m 程度の溝で、全体に浅いものである。

591 ~ 595 は須恵器椀、597 は瓦器椀で内面に格子状の暗文が見られる。

出土遺物から中世 (13 世紀初頭前後) の溝である。

SDj94 (第 175 図)

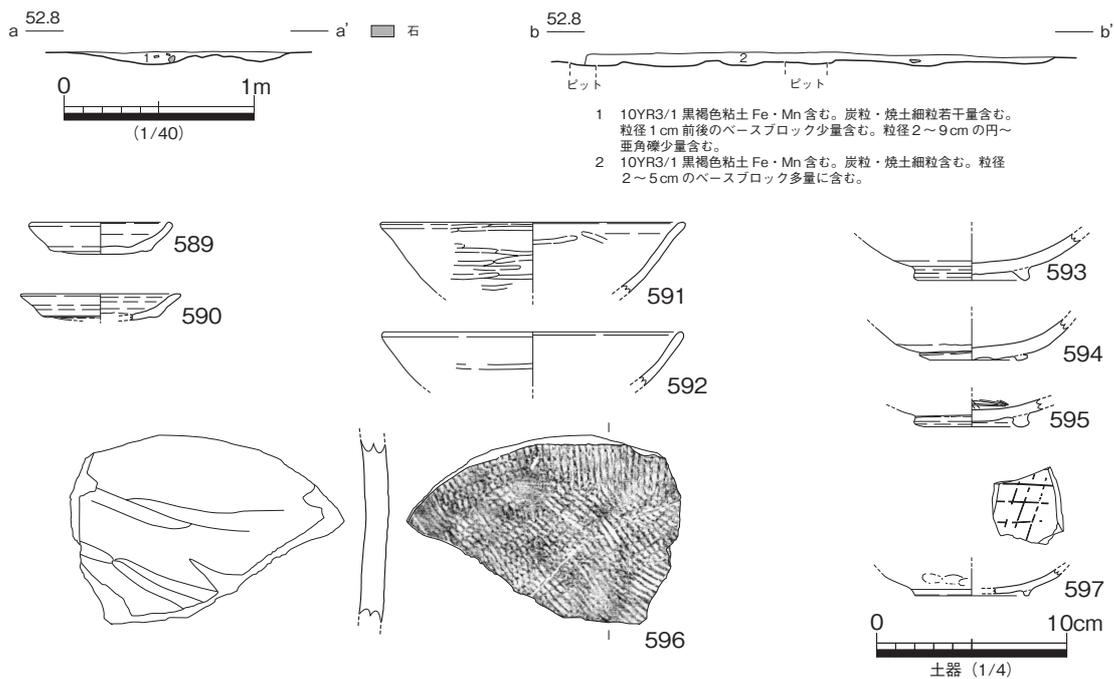
13 H グリッド中央付近で検出した。SDj84 とほぼ直交して枝状に派生する溝である。検出長 2.2 m、最大幅 0.4 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.03 m を測る。主軸方位は N 73° W である。SDj84 との先後関係は不明瞭である。

方向と埋土の状況から中世の溝とする。

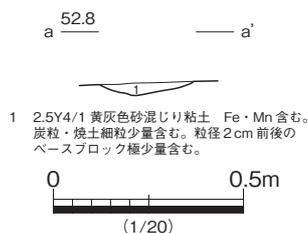
SDj96 (第 176 図)

12 H グリッドから 13 H グリッドにかけて検出した。SDj89 の東端から南に直角に屈曲して始まり、僅かに湾曲しながら SDj76 に合流する。検出長 6.0 m、最大幅 1.2 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.03 m を測る。主軸方位は N 40 ~ 56° E である。

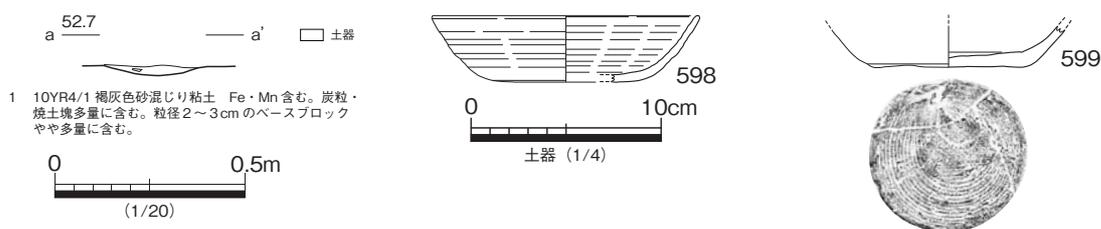
598・599 は土師器杯で、598 の体部は回転ナデが著しく、599 の底部は糸切りになっている。



第 174 図 SDj92 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 175 図 SDj94 断面図 (1/20)



第 176 図 SDj96 断面図 (1/20)、出土遺物 (1/4)

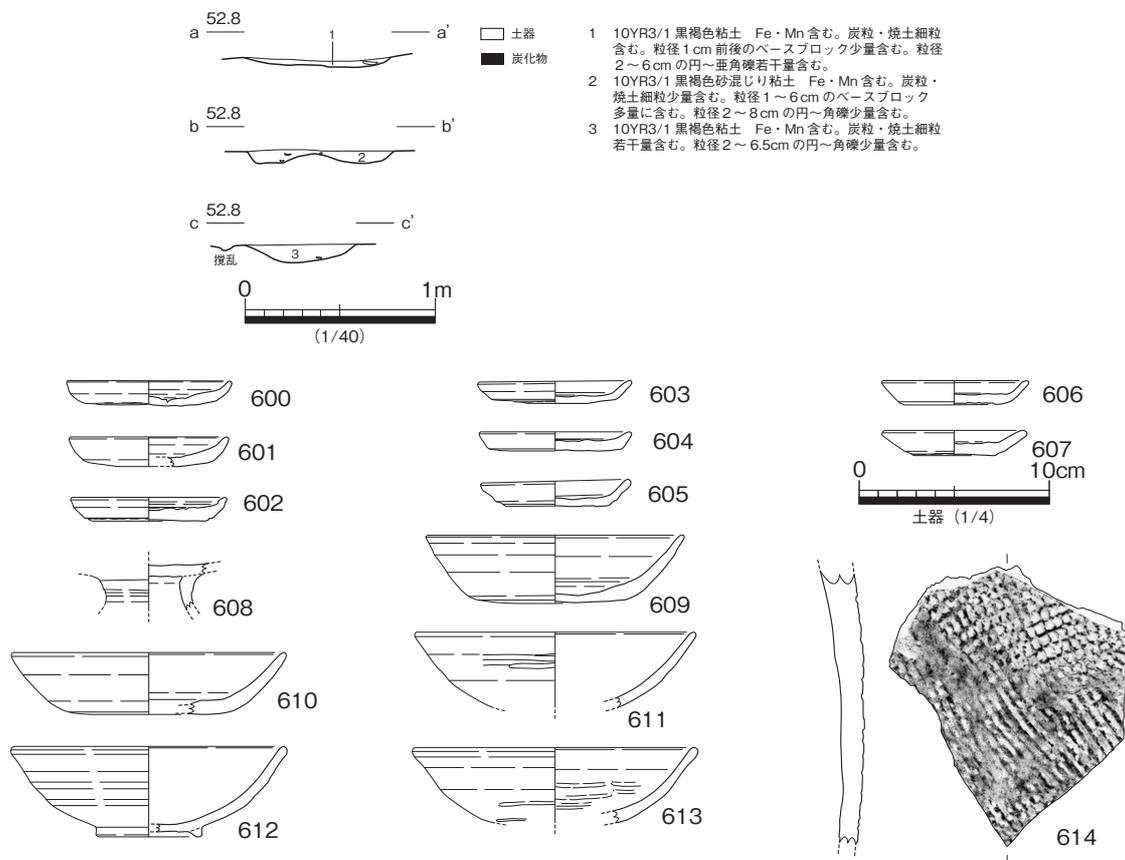
出土遺物と SDj89 と同時期であることから中世 (13 世紀~14 世紀) の溝である。

SDj100 (第 177 図)

12 H グリッド・12 G グリッド・13 G グリッドにかけて検出した。北東—南西方向に緩く湾曲しながら 7.5 m 伸びたのちに北向きに方向を変えて直線的に 7.5 m 伸びて収束する。検出長 15.0 m、最大幅 1.3 m を測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で 0.10 m を測る。主軸方位は北側の直線的

な部分でN 18° Eである。

600～607は土師器小皿、608は土師器台付き皿、609・610は土師器杯、611は土師器椀、612・613は須恵器椀である。



第177図 SDj100 断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

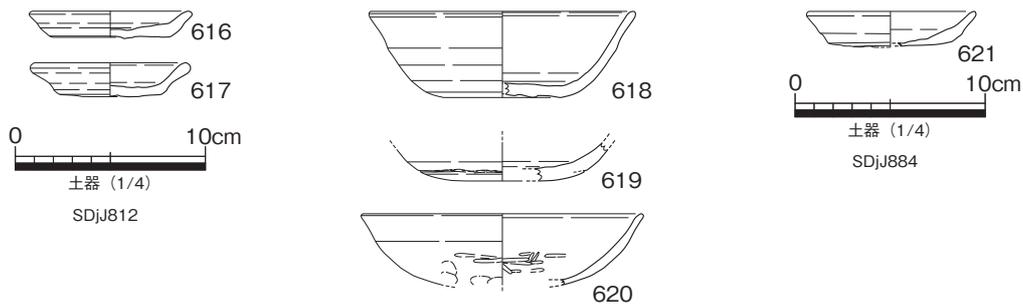
出土遺物から中世 (13世紀初頭前後) の溝である。

SDj102 (第178図)

12Hグリッドの調査区南壁際で検出した。全体に湾曲しており、南側は調査区外へ続く。検出長1.8m、最大幅0.22mを測る。断面形状は浅い皿状を呈し、残存深度は最深部で0.02mを測る。



第178図 SDj102 断面図 (1/20)、SDj107 出土遺物 (1/2)



第 179 図 SDj812・884 出土遺物 (1/4)

埋土の状況から中世の溝である。

SDj812 (第 179 図)

14 G グリッドで調査区東壁際で検出した。東側は調査区外に続き、溝の南側部分は 2 箇所の不整形な溝状の突出が認められる。検出長は 7.5 m、最大幅は 1.2 m である。

616・617 は土師器小皿、618・619 は土師器杯、620 は瓦器碗である。

出土遺物から中世 (12 世紀後半) の溝である。

SDj884 (第 179 図)

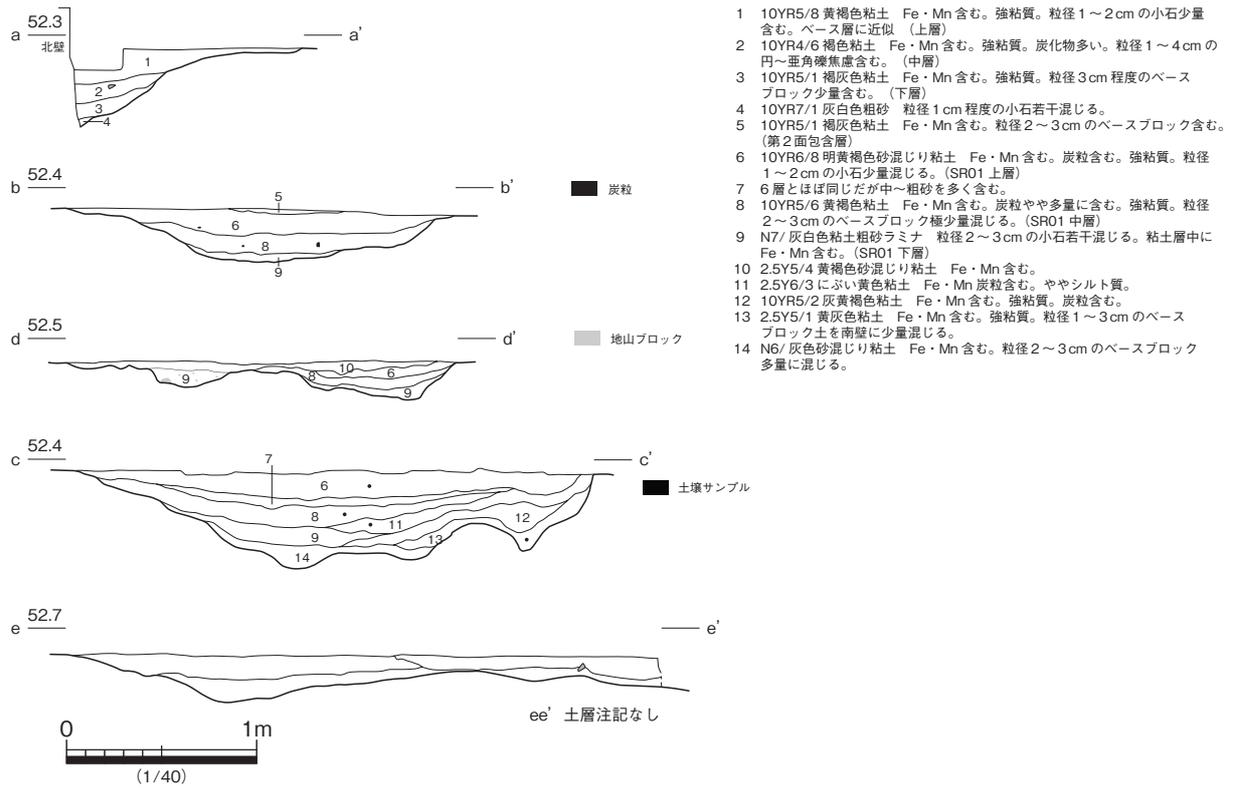
13 H グリッドから 14 H グリッドにかけて検出した。SDj84 の北側 5.3 m 部分に該当し、調査時に SDj J 884 と呼称したものである。621 は SDj J 884 部分から出土した土師器小皿である。詳細は SDj84 の部分を参照されたい。

自然河川

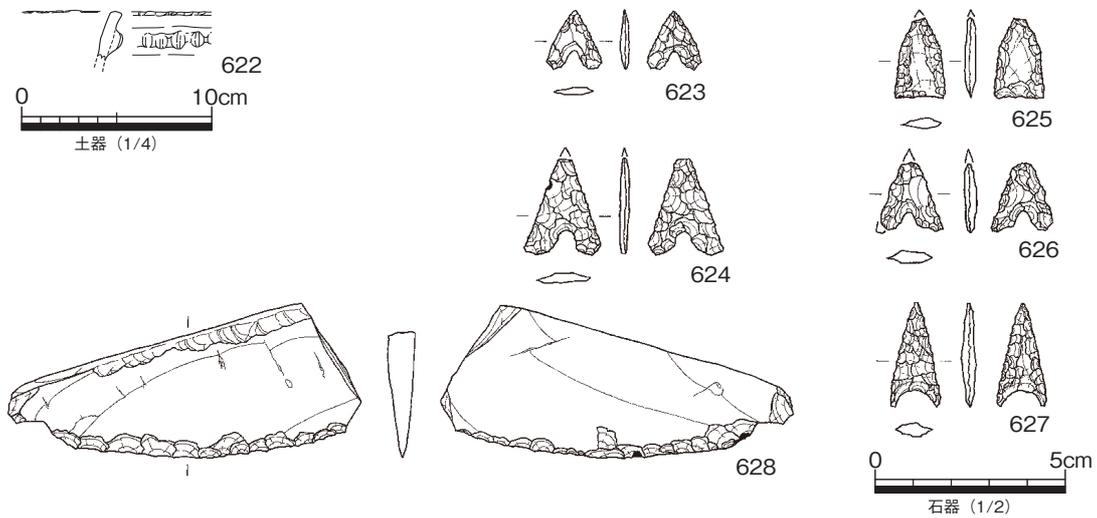
SRj01 (第 180・181 図)

調査区の北東部を北西—南東方向にかけて検出した。幅は 30 m 前後で、数回の流れが入り混じっており、断面図として図示したのは調査区北側の 16 I グリッド部分の、SDj54 の北側の溝状になっている流路部分である。底面付近には粘土と粗砂がラミナ状に堆積したり、砂混じり粘土が堆積している。底面は場所によっては起伏が著しくなっている。流れの度に溝状の底面が形成されたきた名残であろう。この SRj01 の埋没後に SDj54 が弥生時代中期後半に掘削されている。調査区の北側の H 地区 (『西末則遺跡Ⅲ』) では、この SRj01 の続きは明瞭になっていないが、一帯が自然河川が入り混じる低地であり、この低地部分に続いて行く。これに対し調査区西側の D 地区はしっかりとした黄褐色系の地山が展開し、この縁辺に沿って弥生時代の溝が掘削されている。SRj01 もおそらくこの地山にぶつかり収束したものである。

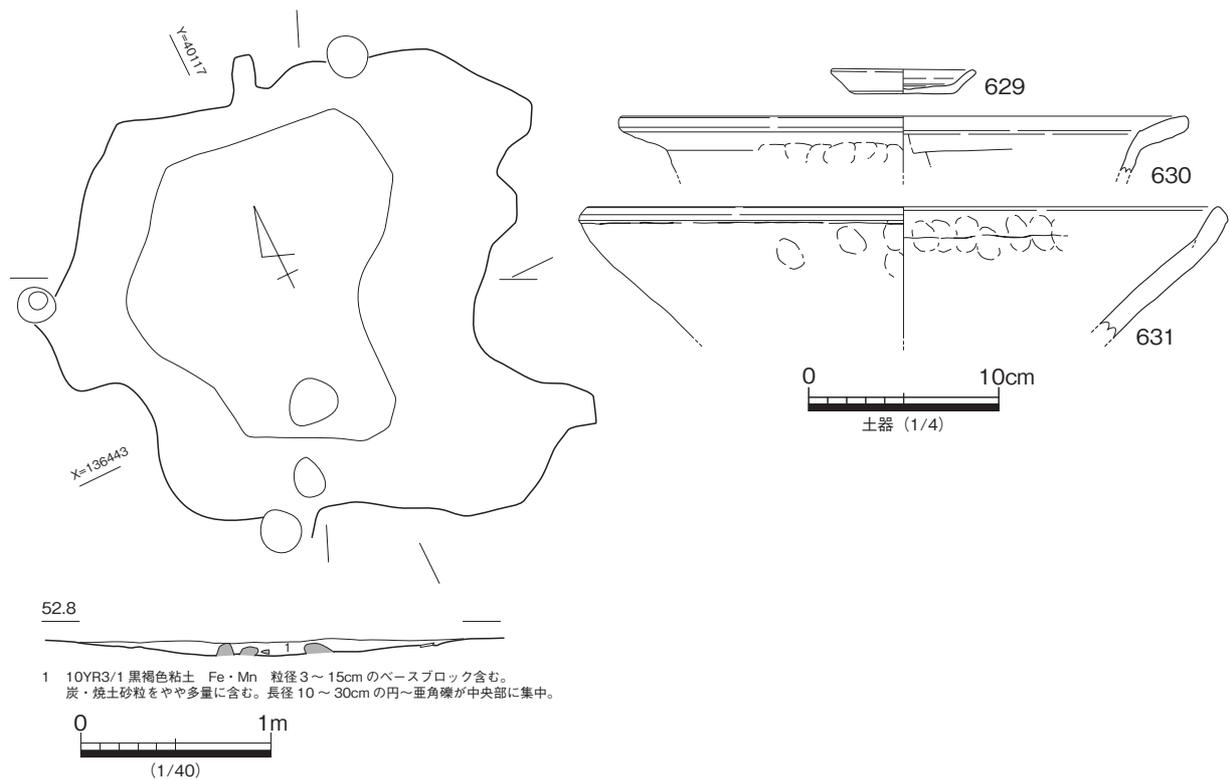
622 は 15 G グリッドで出土した縄文土器深鉢で、口縁部のやや下に刻み目突帯が巡っている。623・625 は 15 H グリッドで、624・626・628 は 16 I グリッドで、627 は 16 J グリッドでそれぞれ出土した。出土遺物と検出状況から縄文時代晩期から弥生時代中期後半までの自然河川である。



第180図 SRj01 断面図 (1/40)



第181図 SRj01 出土遺物 (1/4・1/2)



第 182 図 SXj06 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

性格不明遺構

SXj06 (第 182 図)

13 I グリッド南東部で検出した。平面形は不整形で南側が突出している。南北 2.22～2.58 m、東西 1.78～2.62 m、深さ 0.07 m である。全体に浅い落ち込みで、底面の中央部には 0.1～0.3 m 大の礫が集中していた。また南側から同時並存である SDj18 が取り付いている。

629 は土師器小皿、630 は土師器鍋、631 は須恵器鉢である。出土遺物から中世 (13 世紀後半) の遺構である。

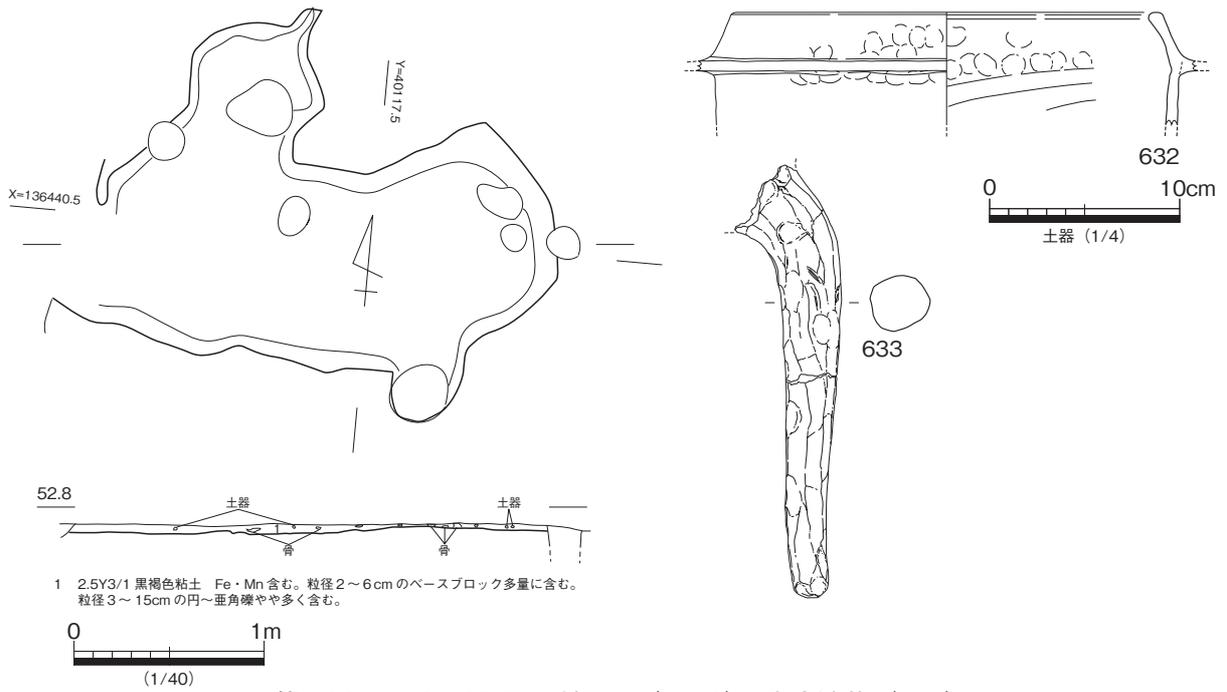
SXj07 (第 183 図)

13 I グリッド南東部で SXj06 の南側に隣接して検出した。平面形は不整形で北側の 2 箇所が突出している。南北 1.03～1.75 m、東西 2.37～2.65 m、深さ 0.06 m である。西側は SDj18 により壊されている。全体に浅い落ち込みで、埋土にはベース土ブロックを多量に含んでいる。

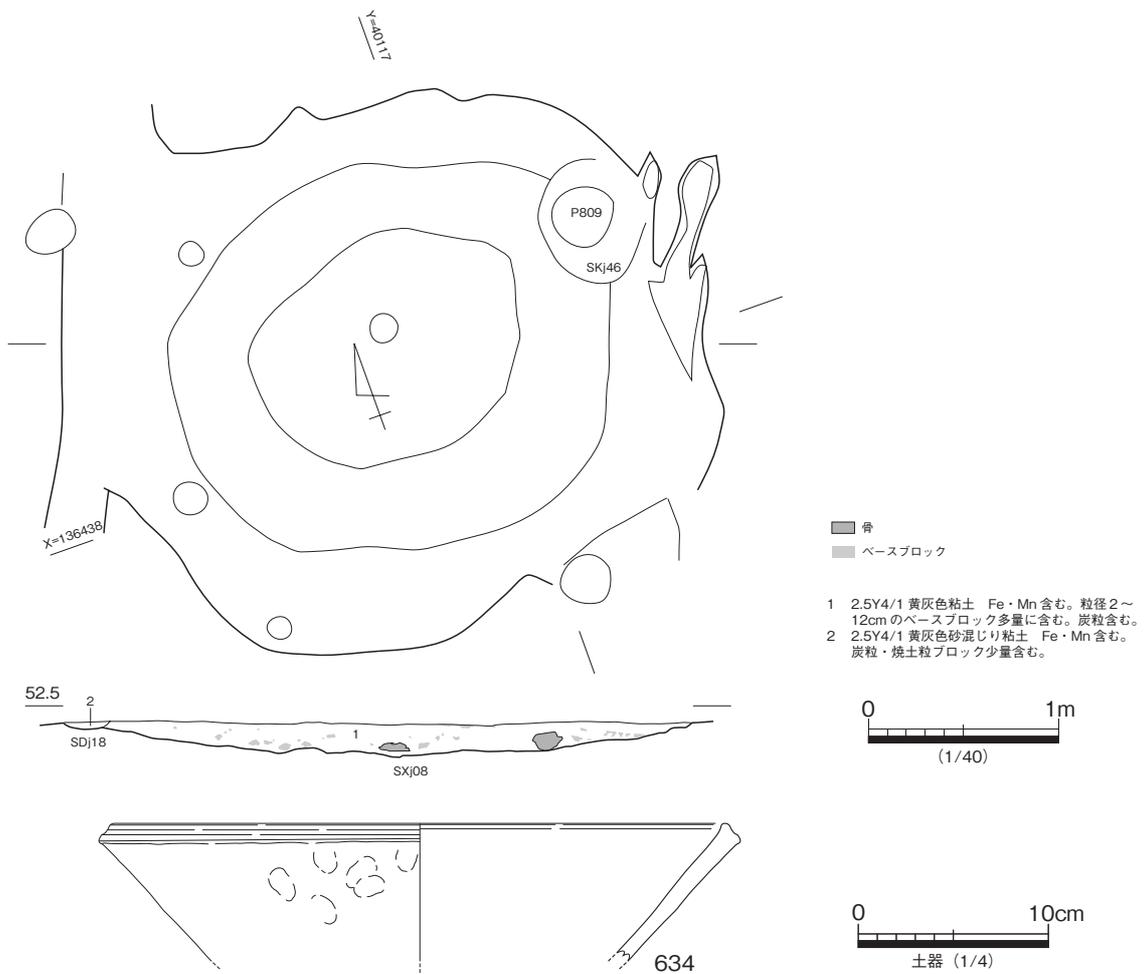
出土遺物と SDj18 との関係から、中世 (13 世紀前半～中頃) の遺構である。

SXj08 (第 184 図)

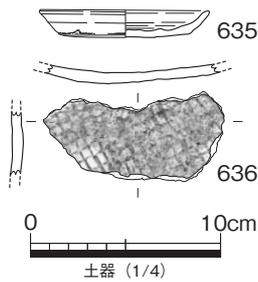
12 I グリッドの北東部で、SXj07 の南側に隣接して検出した。平面形は隅丸方形であるが、東側は溝状に突出している部分がある。西側は SDj18 に壊され、全体の埋没後には SBj23 の柱穴 P 809 が掘削されている。南北 2.95 m、東西 3.20 m、深さ 0.16 m である。全体に皿状に浅い落ち込みである。



第183図 SXj07 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第184図 SXj08 平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)



第 185 図 SXj15 出土遺物 (1/4)

出土遺物と SDj18 との関係から、中世 (13 世紀前半～中頃) の遺構である。

SXj15 (第 185 図)

635 と 636 は調査区南東部の SXj15 から出土したもので、636 の鍋の体部外面には格子目のタタキが施されている。

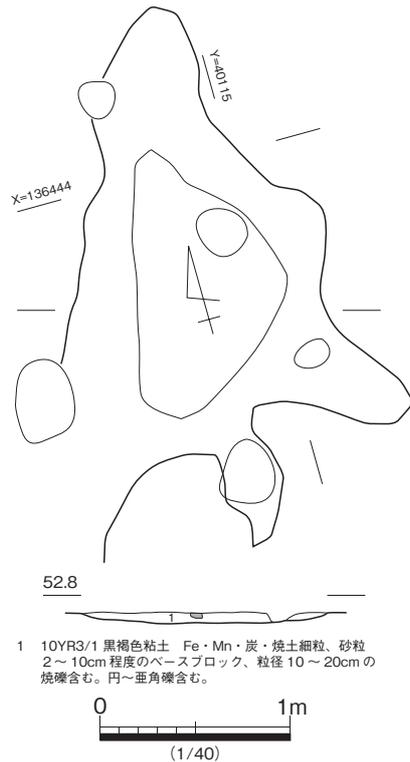
SXj23 (第 186 図)

13 I グリッド南東部で検出した。平面形は不整形で、南側が 2 箇所突出している。また南西部には SDj58 が取り付いている。突出部を除いた南北 2.38 m、東西最大幅 1.62 m、深さ 0.06 m である。全体に浅い落ち込みである。

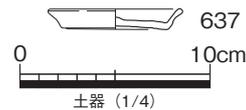
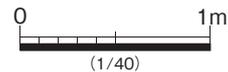
637 は土師器小皿で、出土遺物と SDj58 との関係から中世 (13 世紀後半) の遺構である。

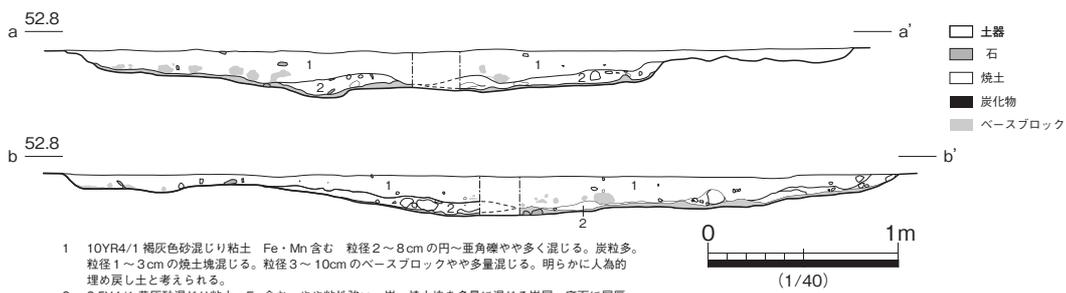
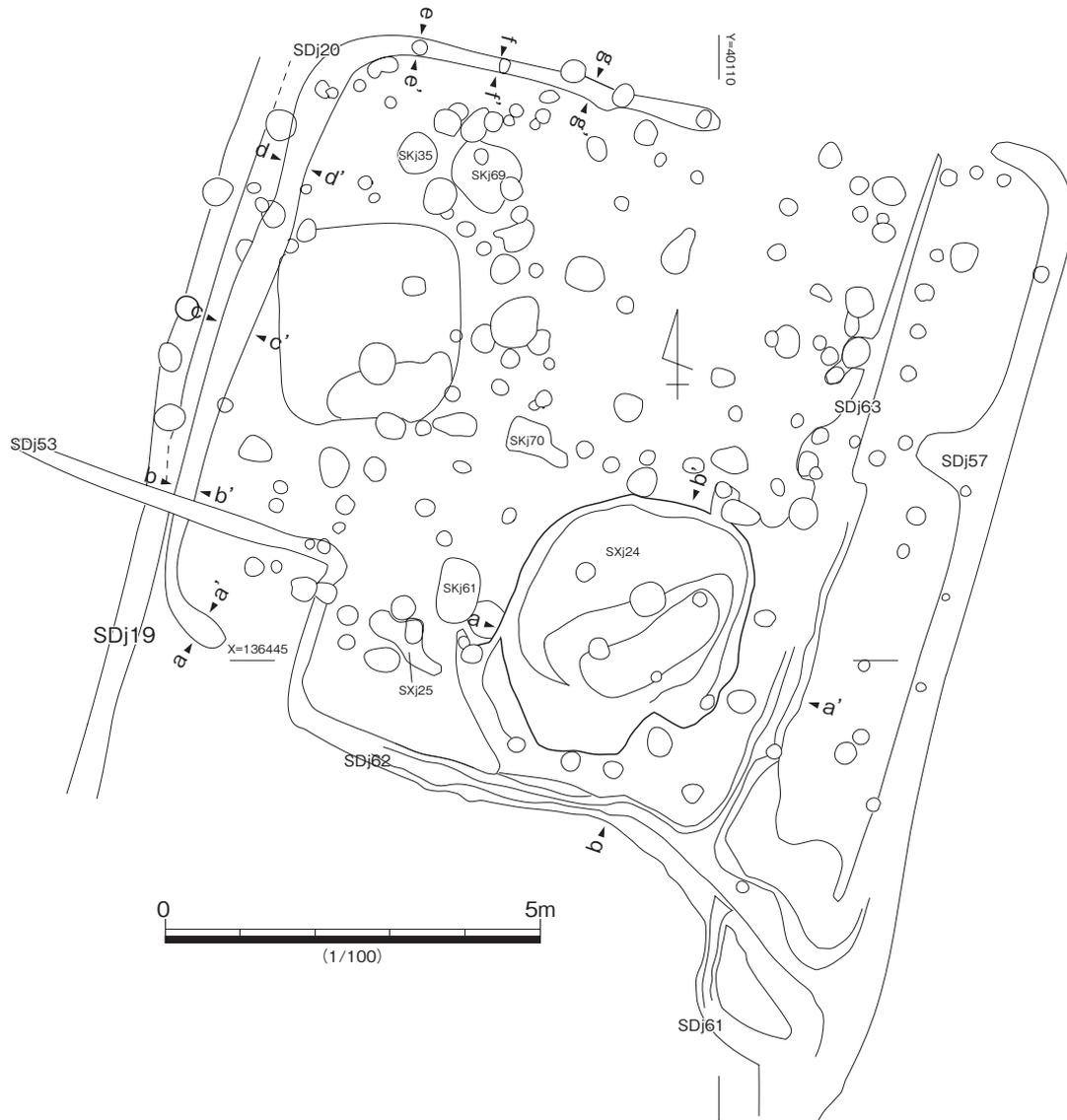
SXj24 (第 187 図)

13 I グリッド中央やや南寄りで検出した。平面形は隅丸方形に近いが、南側は角度を持って屈曲したり内側に入り込んでいる部分がある。南北 3.60 m、東西 3.15 m、深さ 0.22 m である。底面には厚さ 0.5～3.5cm ほどの炭化物が堆積している。これに加えて焼土塊も多く含んでいる。また埋土の上には灰とともにベース土ブロックが多く含まれ、人為的に埋められていることがわかる。さらに壁土などの建築廃材が多量に出土している。これらのことから建物の廃棄後に部材を焼却処分したか、あるいは火災にあった建物のかたづけに伴う土坑と考えられる。



1 10YR3/1 黒褐色粘土 Fe・Mn・炭・焼土細粒、砂粒
2～10cm 程度のベースブロック、粒径 10～20cm の
焼礫含む。円～亜角礫含む。



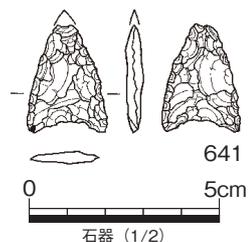


第 187 図 SXj24 周辺平・断面図 (1/40・1/100)、出土遺物 (1/4)

638・639は土師器小皿、640は青磁皿である。出土遺物は少ないが、周辺の建物の時期やSXj24の埋没後に建てられている建物もあることを考慮して、中世（12世紀後半～13世紀前半頃）の遺構とする。

SXj28 (第188図)

641はSXj28から出土した凹基の石鏃である。



第188図 SXj28出土遺物 (1/2)

SXj30 (第189図)

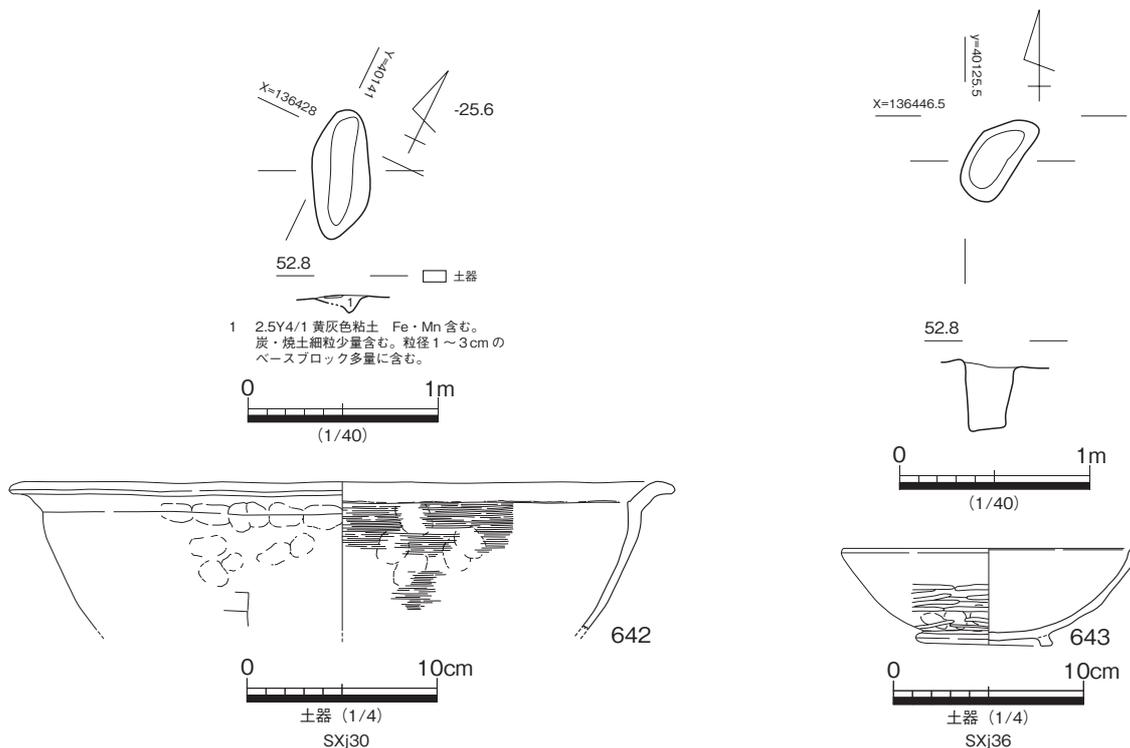
12Gグリッドの調査区東壁際で検出した。平面形は楕円形で、長径0.69m、短径0.30m、深さ0.10mである。断面はV字形になり、埋土にはベース土ブロックを多量に含んでいる。

642は土師器鍋である。出土遺物から中世（13世紀）の遺構である。

SXj36 (第189図)

13Hグリッド南西部で検出した。平面形は隅丸長方形の一隅が潰れたような形である。長辺0.50m、短辺0.26m、深さ0.36mである。断面は方形で掘り込みは急で垂直に近く、底面は平坦になっている。

643は土師器椀である。底部には外向きの断面方形の高台を貼り付けている。



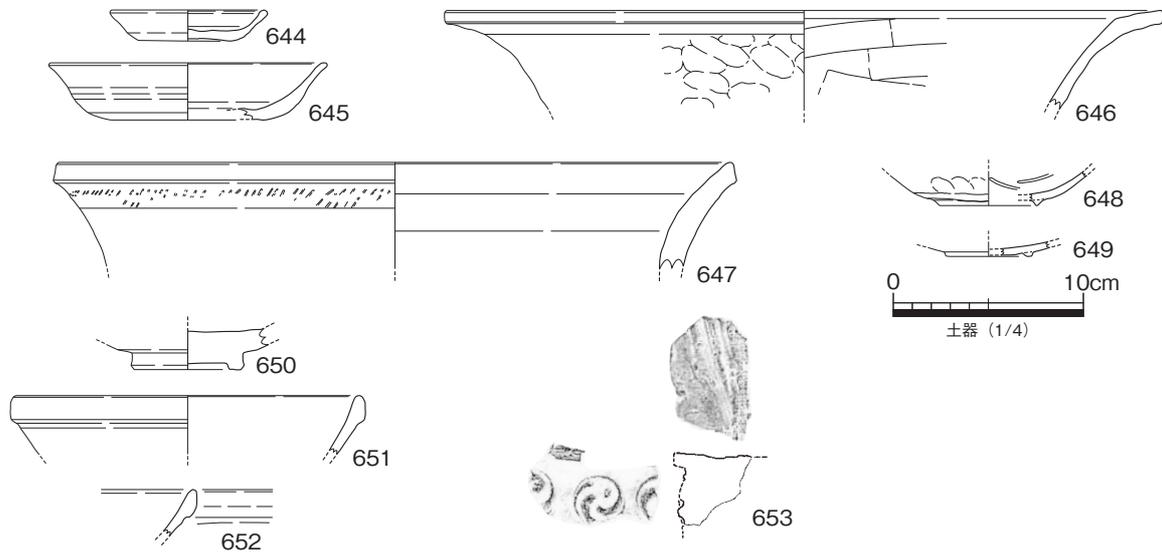
第189図 SXj30・36平・断面図 (1/40)、出土遺物 (1/4)

出土遺物から中世（13世紀前半）の遺構である。

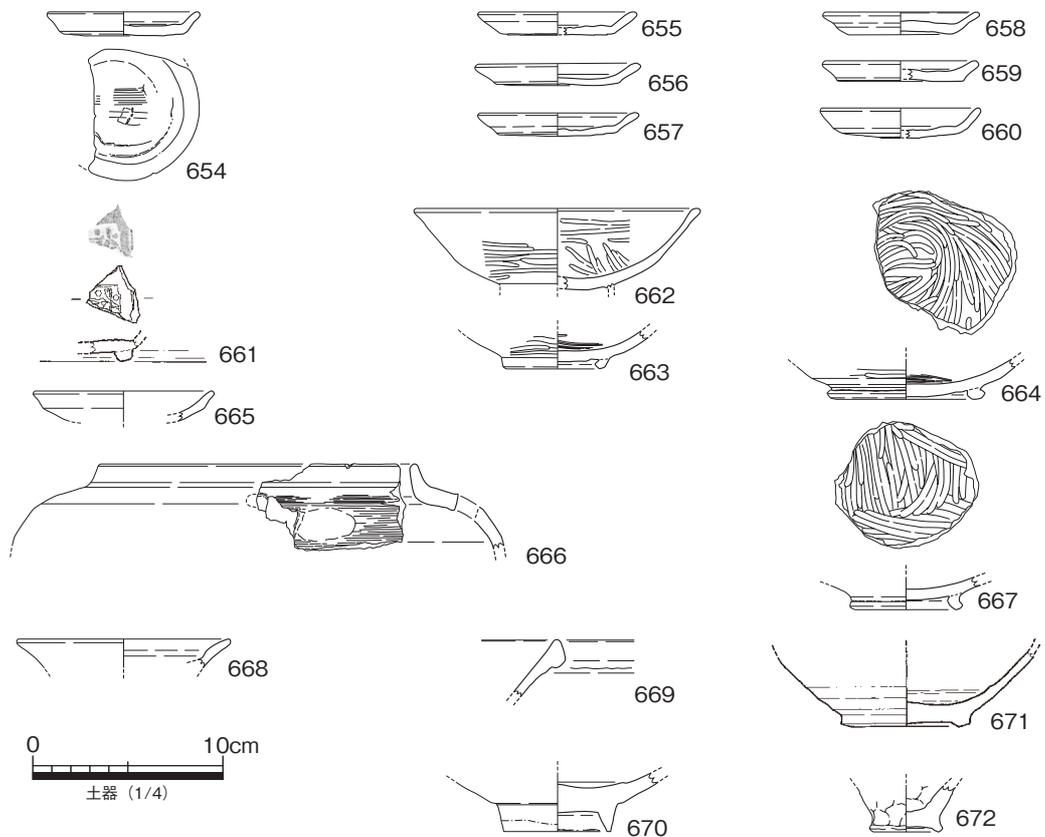
包含層出土遺物 (第190～192図)

644～653は13Hグリッドの溝が密集している部分から出土したものである。648・649は瓦器椀、650は青磁碗、651・652は口縁部が玉縁になる白磁碗、653は連続巴文の軒平瓦である。

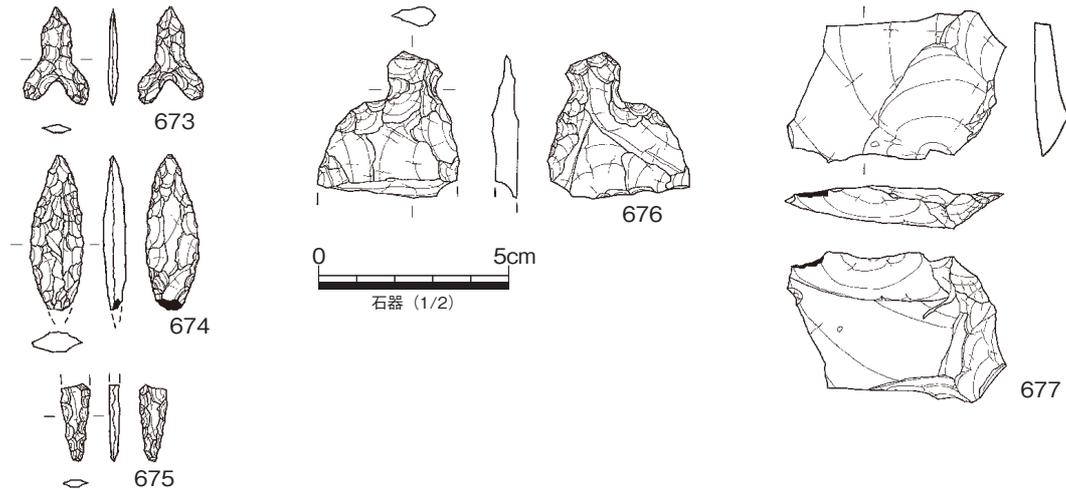
小調査区に分けると、673がJ1区、668・672がJ2区、675がJ3区、655～660・665・667・669・670がJ4区、661・674・677がJ5区、676がJ6区、654・662・664・666・671がJ8区でそ



第190図 中央溝群出土遺物 (1/4)



第191図 包含層出土遺物1 (1/4)



第 192 図 包含層出土遺物 2 (1/4)

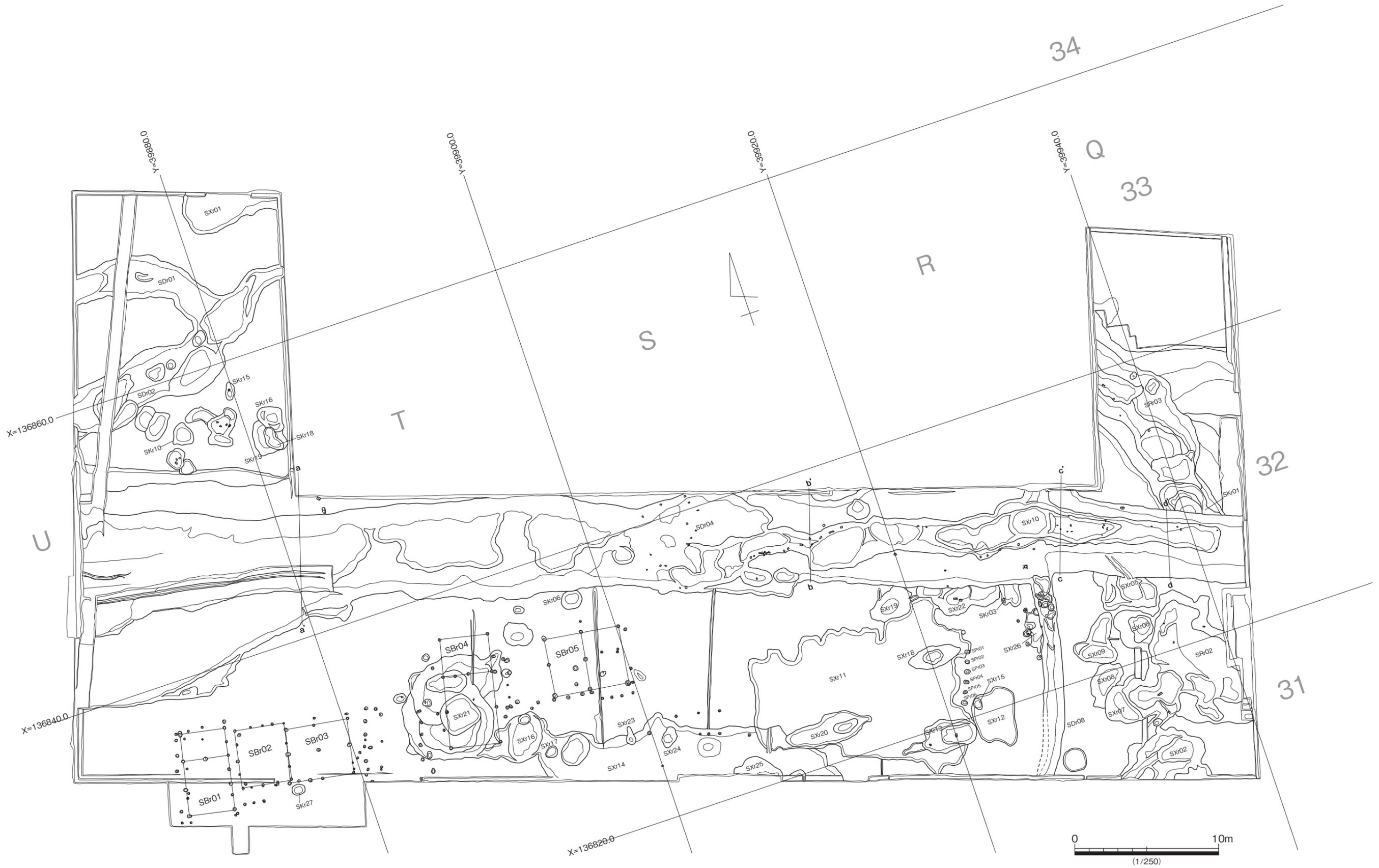
それぞれ出土している。661 は須恵器杯であるが、内面の見込み部に刻印を施している。665 は瓦器小皿、668 は白磁皿、669～671 は白磁碗である。

鉄関連 (J 4 区)

鉄製品 (釘など) や鉄滓を伴う遺構が調査区南東部の J 4 で多く認められたので表のとおりまとめておく。

第 1 表 J4 区出土鉄製品一覧

SP1301、SP1438、SP1442、SP1444、SP1493、 SP1522、SP1533、SP1538、SP1539、SP1569、		
SP1871、SP1885、SP2012、SP2046 上面、SP2071、SP2096A、SP2109、SP2116		鉄滓
SP1438 I-1		不明鉄器
SP1515、SP1555、SP2029、SP2143		鉄釘
SK100 南半 (SDj81A-B 間下層が一部混)、SK107 南半、SK123 I-1		鉄滓
SK118		鉄釘、鉄滓
SE02 南西	下層	鉄釘
SDj74 P-1、SDj74A-B 間	上層	鉄滓
SDj74 西溝 A-B 間、B-C 間、D-E 間	中層	鉄滓、不明鉄器?
SDj74 東溝 I-1	下層	不明鉄器
SDj74 西溝 (D 断面より少し西の土器集中部)	下層	鉄滓、鉄釘 (I-1)
SDj76A-B 間		鉄滓
SDj76B-C 間	上層	鉄滓
SDj76 東 B-C 間	上層	鉄滓
SDj77 A 以西	上層	鉄滓
SDj77 中央溝 A 以西	下層	鉄釘
SDj79 A 以南		鉄滓
SDj81A 以南、A-B 間、B-C 間	上層	鉄滓
SDj81B-C 間	下層	鉄滓
SDj84A-B 間、B-C 間、SDj88A 以南、A-B 間		鉄釘、鉄滓
SDj87A 以南		不明鉄器
SDj89 A 以西、A-B 間上位、B-C 間上位、		
C 断面・SDj 9 1 B 断面		鉄滓、鉄釘?
SDj91A-B 間、SDj100A-B 間		鉄滓
中央溝群 J ブロック I-1、H ブロック、I ブロック		
F ブロック、K ブロック	上層	鉄滓 (鉄釘含む)
中央溝群 E ブロック I-2	上層	環状鉄製品
包含層		不明鉄器、鉄釘、鉄滓



第 193 図 F 調査区遺構配置図

第Ⅶ章 F 調査区の調査

第1節 概要・基本層位

1. 調査区の概要

本調査区は西末則遺跡の調査対象地の北西隅の部分で、宅地を囲うようにコ字状の調査区となっている。試掘調査の結果では、旧流路部分であり遺物も希少であることから、調査対象地には含めなかった。しかし平成13年度の本発掘調査開始後に、当該地が中世の平地城館に多く見られる「ドイ」地名であることと、空中写真や地籍図などの検討の結果、堀を巡らせる中世の平地城館の可能性が指摘されたことから、急遽調査対象地に追加された。遺跡全体の調査区割りではR32区に相当し、調査面積は2,186㎡で、平成15年4月～7月に発掘調査を実施した。

第2節 F 調査区の遺構・遺物

(1) 縄文時代晩期の遺構と遺物

SDr01 (第194図)

調査区の北西部の34 Tグリッドから34 Uグリッドにかけて検出した溝状遺構である。調査区西壁部分から東に6 m伸びた後に南東方向に向きを変えてSDr02に合流する。検出長10.3 m、幅2.0～3.1 mである。断面形は流路底が概ね平坦な逆台形で埋土は上下2層に大別出来る。

678・682・683は上層、679～681は下層からの出土で土器はいずれも縄文土器である。678は深鉢で外面はヘラミガキである。679は深鉢で口縁部端部に刻み目を施し、端部直下に扁平な刻目突帯を貼り巡らせている。680は外面には二枚貝による貝殻条痕の後に縦方向に現存で2列の半裁竹管文を施している。681の底部はやや上げ底になっている。682・683は石鏃で平基である。

出土遺物から縄文時代晩期後半の遺構である。

SDr02 (第194図)

調査区の北西部の34 Tグリッドから34 Uグリッドにかけて検出した溝状遺構である。北東—南西方向に若干蛇行しながら伸びており、検出長18.0 m、幅1.0～3.5 mである。幅は場所により著しく異なり、SDr01との合流点より西側で幅広になる。断面形は流路底が概ね平坦な逆台形である。しかし底面は場所により起伏に富み、水流により掘り窪められた皿状の落ち込みが随所に認められた。

埋土は上下2層に大別出来る。上層は褐灰色粘土で流路機能が停止した後の自然堆積層と考えられる。本層は調査部分の大半で下層とは明確な境界を示して堆積していた。しかし西端付近では下層と接する部分がラミナ状堆積になり上下層の境界が不明瞭となっていた。このことは単純に流路機能が停止したのではなく、旺盛な水流による堆積が停止し上層の堆積が開始された後も、一定量の水が流れたことを示している。

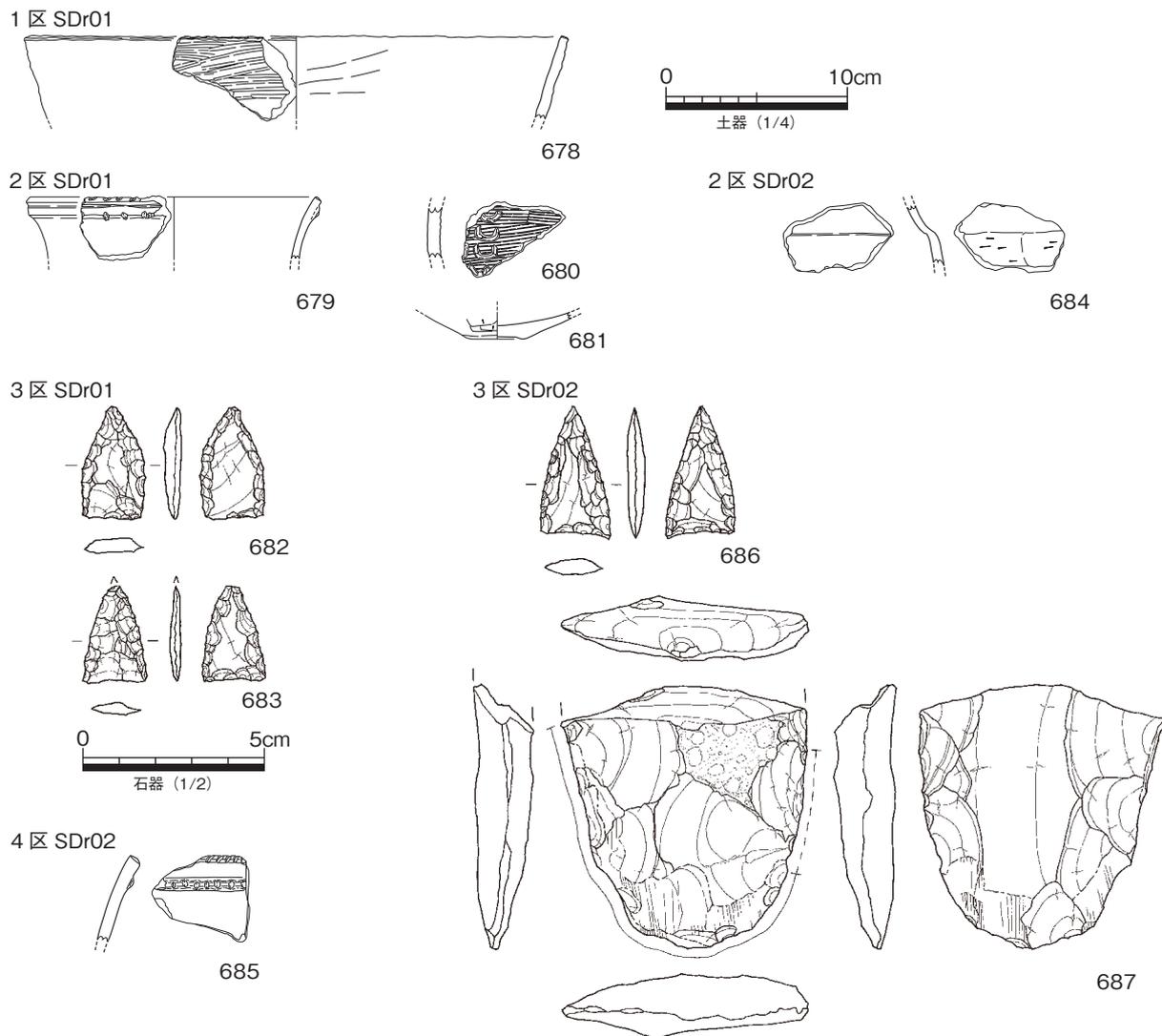
遺物は縄文土器の細片が多数を占めている。684・686は上層から、685・687は下層から出土している。685は深鉢である。口縁部端部に刻み目を施し、端部から1 cmほど下に刻目突帯を貼り巡らせている。686は石鏃であるが基部は不揃いである。687は打製石斧で、刃部には使用痕である擦痕が認めら

れる。また図化出来なかったが、上層から弥生時代中期後半の甕の細片が若干出土している。弥生土器は埋没後の混入と考えられ、他の出土遺物から縄文時代晩期後半の遺構である。

SRr02 (第 195 図)

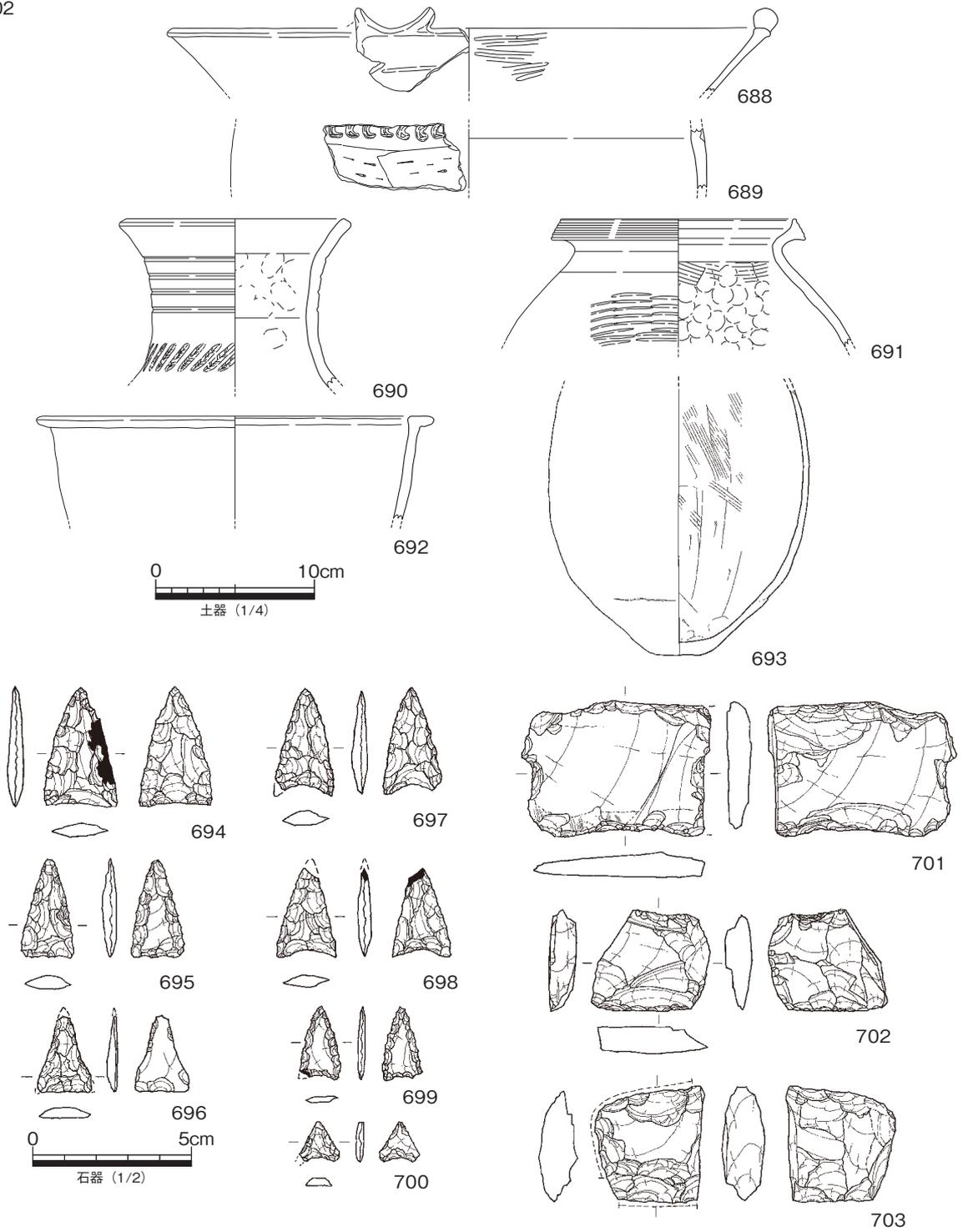
調査区の南東部の 32 Q グリッドから 32 R グリッドにかけて検出した自然河川である。調査区東壁部分から 7.5 m 東進して収束する。東壁部分で北岸部分が不明瞭であるが幅約 6.5 m である。北岸は調査区東壁から東へ 3.4 m 地点から広がり、最大幅 8.8 m になる。収束部分は大型の土坑状の SXr06 と SXr07 に壊されている。

埋土は 3 層に大別され、23 が最上層から、690・692～699・701・703 が上層から、689・691 が中層から、688・702 が下層からそれぞれ出土している。688 は縄文土器浅鉢で、口縁部の一部に粘土で二又の突起状に加飾している。689 は縄文土器深鉢で、外面にヘラケズリの後に横方向に爪形文を巡らせている。690 は弥生土器壺で頸部外面に凹線文と板小口による圧痕文を巡らせている。691～693 は弥生土器甕で、691 は口縁部端部を拡張して外面に凹線文を巡らせ、体部外面にはタタキを施している。692 は逆 L 口縁である。694～700 は石鏃で、694～696 は平基、697～700 は凹基である。696 は片面



第 194 図 SDr01・02 出土遺物

SRr02



第195図 SRr02 出土遺物

の調整が終わった段階の未製品である。701 は打製石庖丁で側縁に抉りがある。702・703 は楔形石器で、703 の外周には敲打痕が顕著である。

出土遺物から縄文時代晩期後半に開削され、弥生時代中期末に埋没した自然河川である。

SRr03 (第 196 図)

調査区の南東部の 32 Q～R グリッド、33 Q～R グリッドにかけて検出した自然河川である。調査区東部の北東に向けて突出した箇所、北西―南東方向で検出長は幅の中央部分で 12.5 m、幅 3.6～5.8 m で南側が狭くなっている。本流部分はほぼ直線的であるが、東側はオーバーフローしたように湿地状に窪みが不定形に広がっている。また調査区東壁付近で SDr04 に重なり調査区内で見られなくなることから、SDr04 と同じ東向きに屈曲して調査区外に続いてゆくものと考えられる。

埋土は 3 層に大別され、大多数の遺物は下層から出土している。40・47 が中層から出土している以外はすべて下層からの出土である。

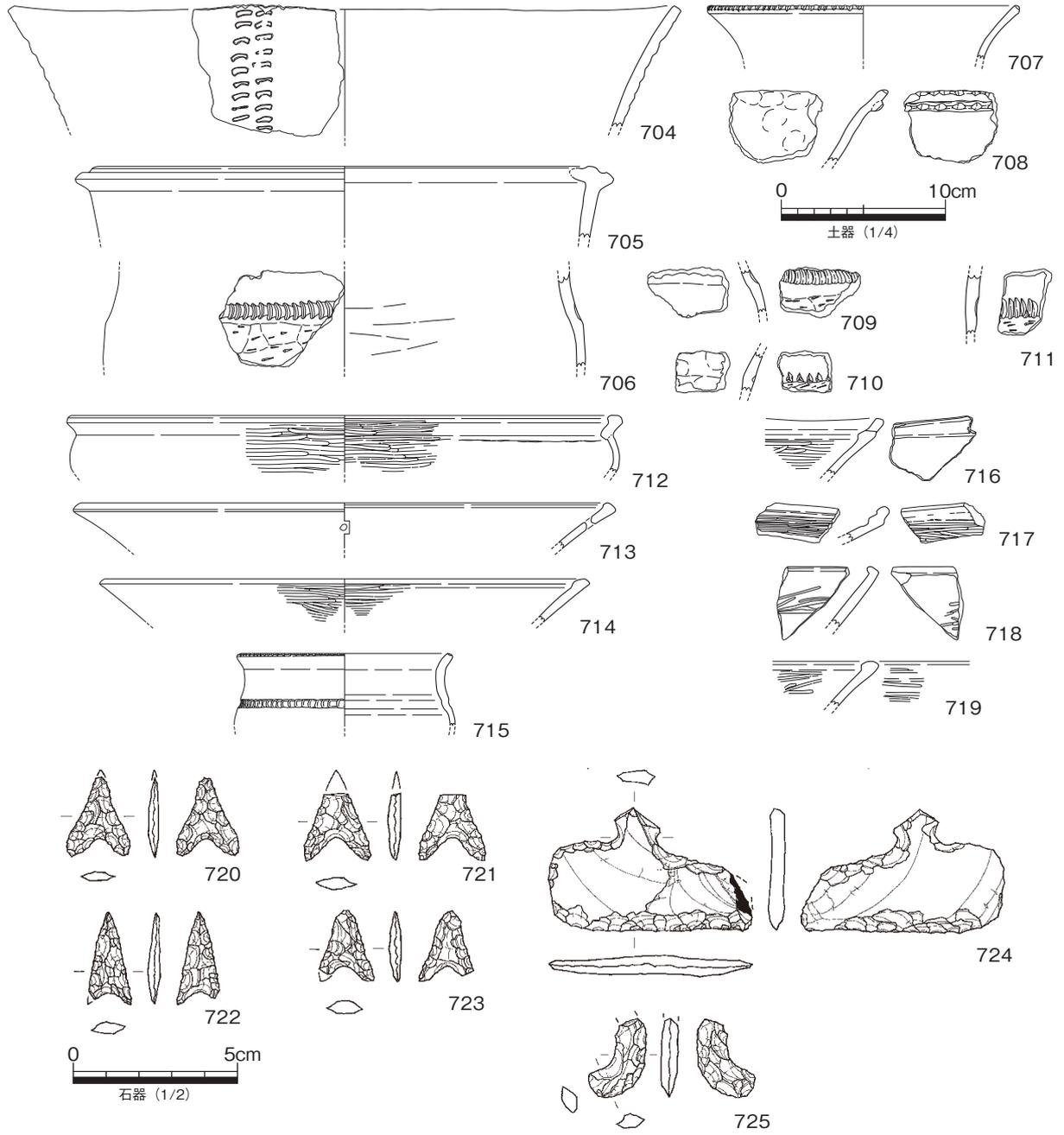
704～711 は縄文土器深鉢である。704 は口縁部外面に縦方向に 2 列の爪形文を施している。705 は口縁部端部を肥厚させ外面に凹線を巡らせている。706 は口縁部と体部の境の屈曲部に横方向に爪形文を巡らせている。体部外面はヘラケズリである。708 は口縁部端部に刻目を施し、口縁部の下部に刻目突帯を貼り巡らせる。

712～719 は縄文土器浅鉢である。712 の口縁部は体部に比べて肥厚しており、短く屈曲している。713・714・717～719 は口縁部端部は内側に肥厚している。

720～723 は凹基の石鏃、724 は石匙である。725 は片側の端部は欠損しており全体形は不明である。湾曲しており両面とも細かい剥離により整形しているが、内湾部の片面は粗い調整である。用途は不明である。

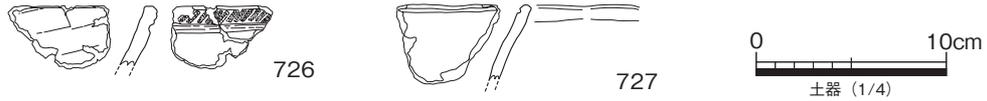
出土遺物は縄文時代後期の遺物を若干含むものの、後期の遺物が出土した下層には晩期の遺物も多く含まれることから、晩期の自然河川といえる。

SRr03



第 196 図 SRr03 出土遺物

SXr01



第 197 図 SXr01 出土遺物

SXr01 (第 197 図)

調査区の北西部の 34 T グリッドから 34 U グリッドにかけて検出した落ち込み状の遺構である。北側と東側が調査区外となるため全体形は不明である。調査区内で長軸にあたる東西方向で 6.8 m、南北方向の幅 1.0 ~ 2.9 m である。

埋土の堆積状況は南側に隣接する SDr01・02 に酷似していることと時期も同じ縄文時代晩期であること、さらに遺構の位置としても同様の遺構が形成されやすい低地であることから、本遺構は蛇行する溝状遺構あるいは流路の一部と考えた方がよさそうである。

726 は縄文土器深鉢で埋土の下層から出土している。口縁部外面に沈線を巡らせ、沈線部分と端部の間に縄文を施している。727 は縄文土器浅鉢で埋土の上層からの出土で、口縁部端部内面に沈線が 1 条巡っている。

縄文時代後期に開削され、縄文時代晩期に埋没した溝状遺構あるいは流路である。

(2) 弥生時代の遺構と遺物

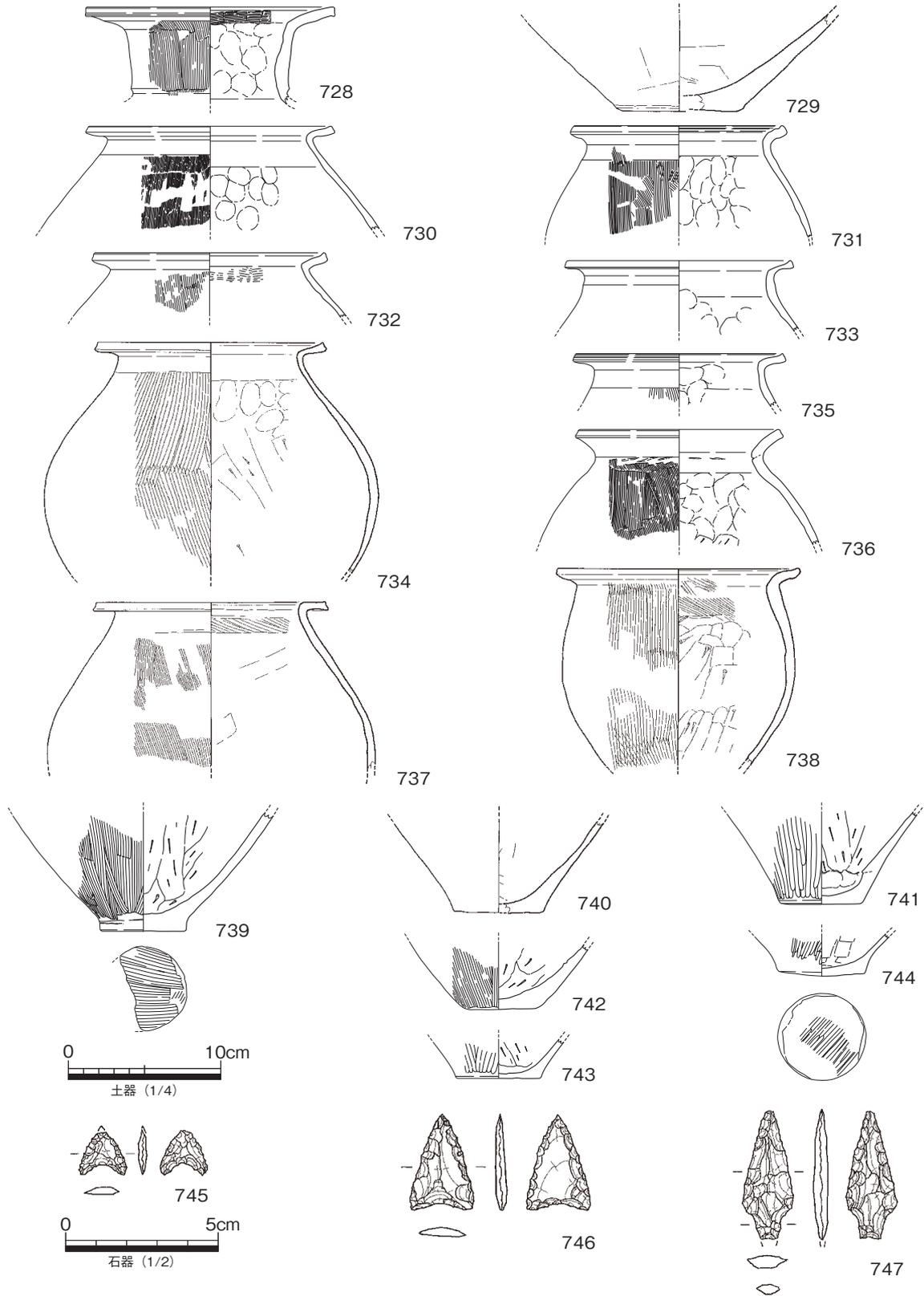
SXr02 (第 198 図)

調査区南東隅の 31 Q グリッドから 31 R グリッドにまたがって検出した。検出した部分では平面形は方形に近いが、北側は直線に近いものの東西は凹凸が目立ち不整形である。南側は調査区外に広がるため全体形は不明である。検出した部分では東西 6.3 m、南北は調査区南壁から 3.7 m の規模である。底部は一段溝状に深くなっている部分がある。底部付近では湧水が見られ、自然河川 SRr02 に隣接している。湧水が見込まれる箇所掘削しており、また全体形が不明であるが底部の一部が溝状になっていることから、取水を目的として、水を外部に流すような役目をもった井戸や出水状の遺構と考えておく。

埋土は上下 2 層に大別される。遺物の出土量は多く、特に下層からの出土が多くなっている。731・732・744・746 が上層、734・737・739・747 が底部付近の最下層、これ以外は下層からの出土である。728・729 は壺で、728 の頸部は若干外傾している。口縁部と頸部の外面にはハケ目を施している。730 ~ 744 は甕である。730 ~ 735 の口縁部は短く斜め上方に屈曲する。体部外面にハケ目を施している。734 の体部内面のヘラケズリは上半にまで及ぶ。737 の口縁部は真横に屈曲している。体部最上部の内面にハケ目を施した後に下半に板ナデを加えている。738 は体部上半が肥厚しており、口縁部端部付近を強くナデている。体部は外面に粗いハケ目を施し、内面はヘラケズリが上半まで及んでいる。739 は底部外面にハケ目、744 はヘラミガキを施している。745・746 は凹基、747 は凸基有茎式の石鏃である。

出土遺物から層位的な時期差はなく、弥生時代後期後半の遺構である。

SXr02



第 198 図 SXr02 出土遺物

SXr05 (第 199 図)

調査区南東部の 32 R グリッドで検出した土坑である。北側を SDr04 に壊されており、残存する南側の平面形は方形に近い不整形である。残存部分で東西 3.5 m、南北 1.9 ～ 2.4 m である。西から東に向かって段を形成しながら下がり、東側が最も深くなっている。

748 は壺で、底部は若干平底を残す。体部内・外面共にハケ目を施している。749・750 は甕で、ともに体部最大径は中央部にある。749 は体部外面はタタキの後にハケ目を施すが、底部付近にはタタキが顕著に残っており丸底に近い。750 は体部内面は全体にヘラケズリを施すが、上部と底部付近にはハケ目を加えて調整し、底部は傾斜している。751 は鉢で、口縁部端部を強くナデており、部分的に歪んでいる。口縁部内面にもハケ目を施している。752 は凹基の石鏃である。

出土遺物から弥生時代終末期の遺構である。

SXr06 (第 199 図)

調査区南東部の 32 R グリッドで SXr05 の南側に隣接して検出した土坑である。また東側は不明瞭であったが後述する遺物から考えて、SRr02 の埋没後に掘削されている。西側が途中で屈曲しており東側は調査時に不明瞭であったが、概ね方形に近くなるものである。東西 3.0 m 前後、南北 2.6 m で、掘り込みは西側が全体に緩やかで、下部で傾斜が急になり底部に至る。

遺物は弥生土器の細片が少量出土したのみである。753 は壺で複合口縁の上側の部分で、端部は平坦で上面に 2 個 1 組の竹管文を巡らせている。また外面には櫛描波状文を重ねている。754 は凸基有茎式の石鏃である。

出土遺物が細片で判断し難いが、概ね弥生時代終末期の遺構である。

SXr07 (第 199 図)

調査区南東部の 31 R グリッドから 32 R グリッドにまたがり、SXr02 と SXr06 の間で検出した土坑である。SXr06 と同様に東側は不明瞭であったが後述する遺物から考えて、SRr02 の埋没後に掘削されている。北側は途中で屈曲しており東側は調査時に不明瞭であったが、概ね長方形に近くなるものである。南北は 2.9 ～ 3.2 m、東西は SRr02 と重なっている部分の一段深くなっている部分までを SXr07 とすると 5.7 m になる。西側の掘り込みは緩やかで、幅 0.7 m ほどのテラス面を形成した後に東側に向かい急激に落ちる。

755 ～ 758 は石鏃で 756 が凸基有茎式である以外は凹基である。土器は弥生土器の細片が出土したのみで図化は出来なかった。

周辺遺構との関係から、弥生時代後期～終末期頃と想定する。

SXr08

調査区南東部の 32 R グリッドで SXr07 の北側に重なっている土坑である。南東側を SXr07 に壊されているため全体形は不明であるが、方形に近い。検出部分で南北 3.4 m、東西 1.7 m で、南端部付近で急激に幅が狭くなっている。掘り込みは全体に緩やかである。

弥生土器の細片が出土したのみであるが、周辺の遺構の状況や前後関係から SXr07 より古い弥生時代後期～終末期頃と想定する。

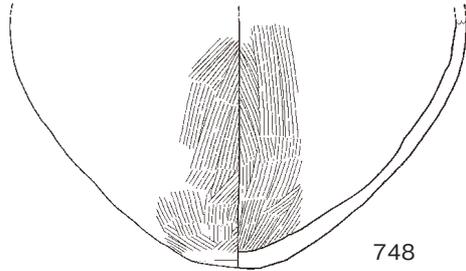
SXr09 (第199図)

調査区南東部の32 RグリッドでSXr05とSXr08の間で検出した土坑である。平面形は凸形で北側に向かって突出している。南北方向で3.6 m、東西方向は突出部分で最大幅1.7 m、南側部分で3.1 mである。東西方向に幅広になっている南側部分が一段深くなっており、西側部分が二段に掘り込まれている。南北方向のものと東西方向の遺構が重なっているように見えるが、前後関係は認められなかった。

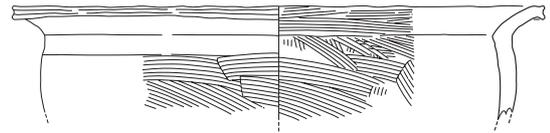
759・760は弥生土器甕である。両者とも口縁部は大きく屈曲しており、体部外面にはハケ目を施している。

出土遺物から弥生時代後期前半の遺構である。

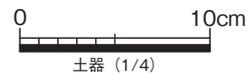
SXr05



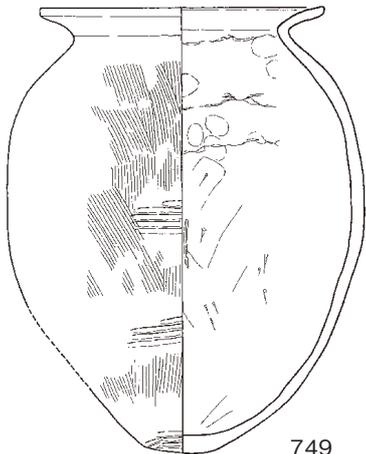
748



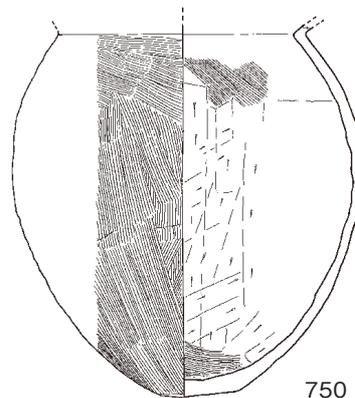
751



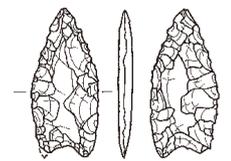
土器 (1/4)



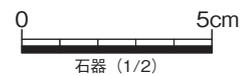
749



750

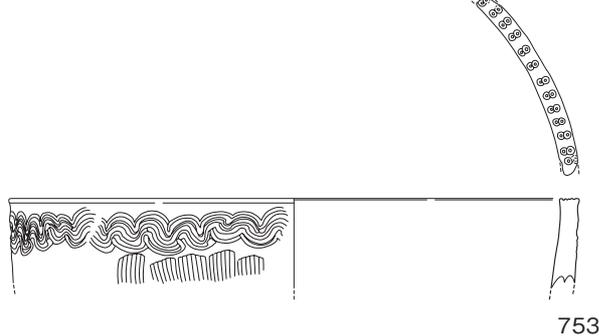


752

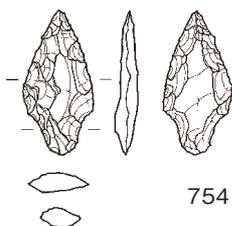


石器 (1/2)

SXr06

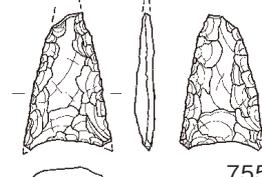


753

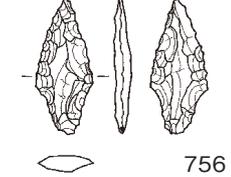


754

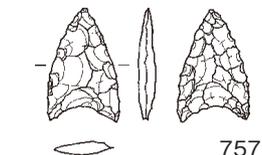
SXr07



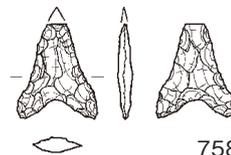
755



756

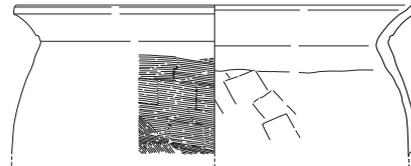


757

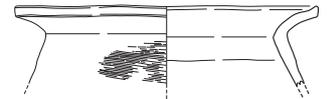


758

SXr09



759



760

第199図 SXr05・06・07・09 出土遺物

SXr14 (第 200 図)

調査区南壁際の 32 S グリッドから 32 T グリッドにかけて検出した遺構である。SXr21 の南東隅から派生して南側と先端部は調査区外へと延び、調査区内で延長 25.6 m を検出した。緩やかに掘り込まれており、平面形は埋土堆積時の侵食や遺構上面の削平によるためか波状になって安定していない。場所により幅は 0.77 ~ 4.7 m 以上と差が大きい。深さは 0.2 ~ 0.3 m、底部の標高は西端の SXr21 との合流部付近で 50.59 m、中央部分で 50.40 m と緩やかに東に向かって傾斜する。断面は逆台形ないしは皿状で、底部は僅かな起伏が認められる程度でほぼ平坦である。

埋土は基本的に 3 層に分けられる。上層は黒褐色砂混じり粘質土で遺構廃絶後の自然堆積層と考えられる。遺構中央付近の窪地部分を中心にレンズ状に堆積する。中層は灰黄褐色粘質土で、灰白色細砂の薄いラミナ状堆積が認められ、少量の流水下での堆積が想定される。下層は底面付近に灰白色細～中砂のラミナ状堆積を伴う黄灰色粘土で、旺盛な水流による砂の堆積とその後の静水下での堆積を示している。基本的な遺構の機能時の堆積は下層のみである。

埋土の堆積状況などからこの遺構は、出水遺構である SXr21 から水を外部へ流出させる用水路の役割を持っていたと考えられる。

遺物は上層・中層で若干出土している。761 は弥生土器甕の底部である。762・763 は石鏃である。762 は凸基で基部は片面のみの調整である。763 は平基であるが基部の幅は狭い。

土器は細片であり判断し難いが、弥生時代後期～終末期の遺構と考えられる。

SXr16

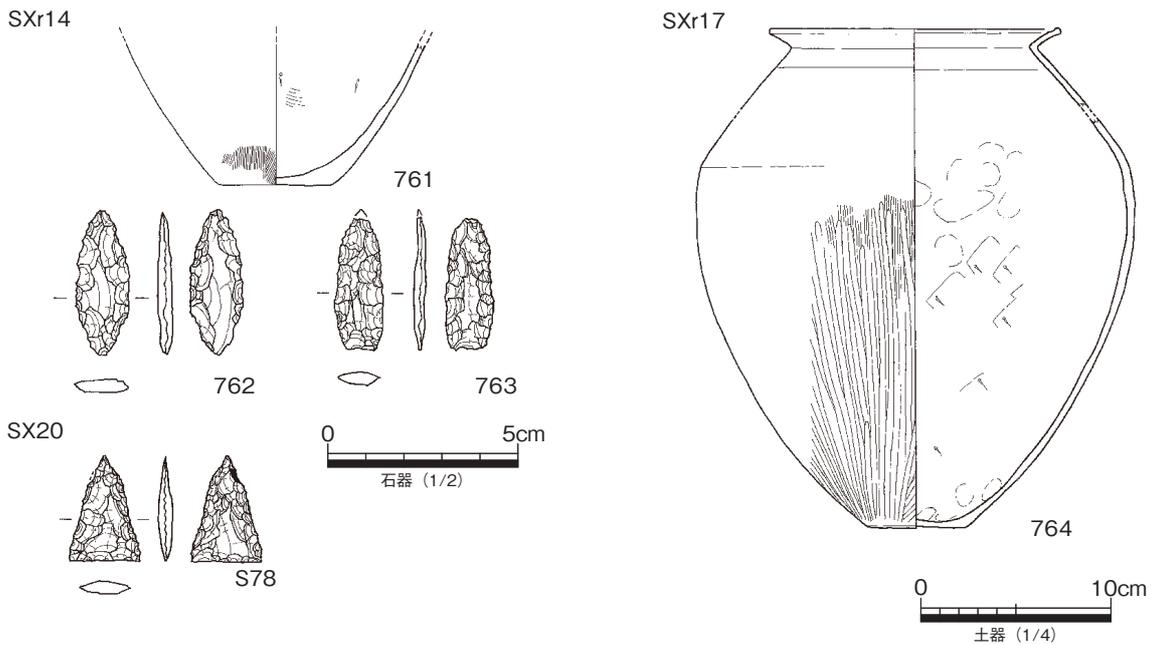
調査区中央部の 32 T グリッドの南壁近くで検出した遺構である。SXr21 の南東部に隣接し、SXr14 と重なっている。SXr14 の底面で SXr14 の埋土下で検出していることから SXr14 より先行する遺構である。平面形は北側部分が直線的であるが楕円形で、南北方向 3.7 m、東西方向 2.4 m である。残存する深さは 0.56 m で、最深部の標高は 50.04 m、断面形は逆台形で、底面はほぼ平坦である。北から東側にかけては緩やかに掘り込まれ、南から 器の細片が僅かに出土しただけであり、時期を特定することは困難であるが、周辺遺構との関係から SXr14 より古い時期の弥生時代後期後半頃を想定しておく。

SXr17 (第 200 図)

調査区中央部の 32 T グリッドの南壁近くで検出した土坑である。SXr16 の東側に隣接し、SXr14 と重なっている。SXr14 の底面で SXr14 の埋土下で検出していることから SXr14 より先行する遺構である。平面形はやや歪んだ楕円形で、長径 0.9 m、短径 0.75 m、残存する深さは 0.3 m である。最深部の標高は 50.1 m で、断面形は方形に近く、底部はほぼ平坦である。南東部分がやや緩やかである以外は垂直に近く掘り込まれている。

埋土は灰白色砂混じり粘土の単一層であり均質でよく締まっている。基本的には遺構廃絶後の自然堆積層である。

底面の中央部のやや上位で弥生土器甕 (764) が破碎された状態で出土した。その他には弥生土器広口壺の口縁部の細片などがある。底面から出土した細片もある。764 の口縁部は鋭く屈曲している。体部は最大径は上半にあり、外面の下半にはハケ目の後にヘラミガキを加えている。内面の下半にはヘラケズリを施している。



第 200 図 SXR14・17 出土遺物

SXR14 より古い時期で、出土遺物からは弥生時代後期後半から終末期の遺構である。

SXR21 (第 201 図)

調査区中央やや西寄りの 32 T グリッドで検出した遺構である。平面形は不整形であり、南側は円形に近いが、北東部分が突出している。最長部分は突出部分からの北東—南西方向で 9.1 m、南側の円形部分は径 6.2～7.0 m の規模である。深さは 0.85 m で、底面は平坦である。掘り込みは全体に緩やかで、ある程度の埋没後に再掘削を繰り返している。南東隅には幅 0.8 m の開口部がありそのまま溝状になり SXR14 につながる。SXR14 とは同時併存しており、SXR21 で湧水した水をそのまま SXR14 に流している。このことから SXR21 は出水状遺構と考えられる。

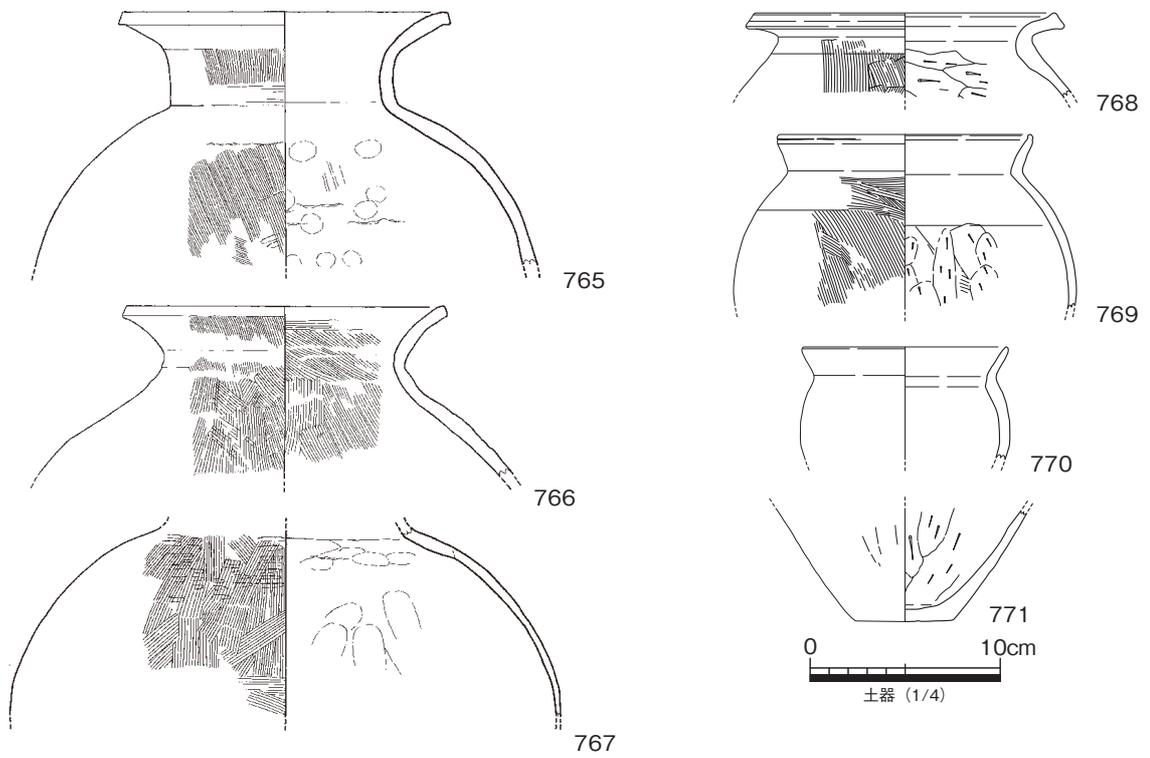
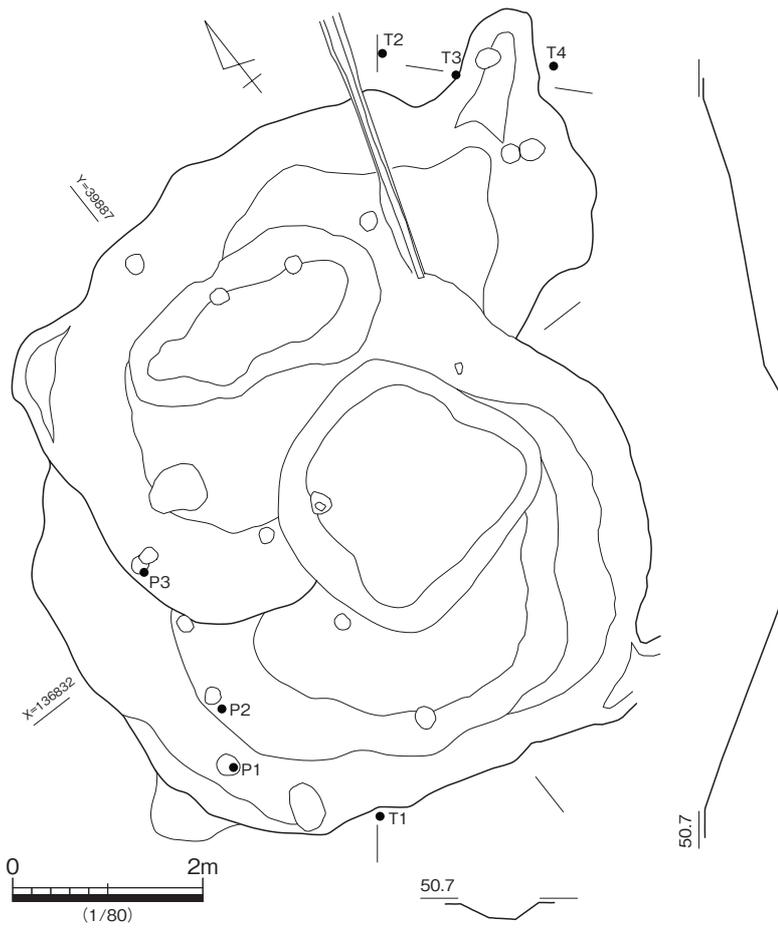
埋土は 3 層に大別され、上層は黒褐色粘土が、中層は灰色粘土を主体としている。下層は砂混じり粘土で湧水を伴っている。

遺物は上層～下層でそれぞれ出土している。767 が中層、768 が下層で出土している以外は上層での出土である。765～767 は弥生土器壺、768～771 は弥生土器甕である。765・767 の体部外面はタタキの後にハケ目を施している。766 は頸部は不明瞭で、口縁部から体部にかけての内・外面全体にハケ目を施している。768 の口縁部は厚手で端部には幅広の面をもつ。体部内面のヘラケズリは口縁部直下まで及ぶ。769 の口縁部は直線的に斜め上方に立ち上がり、端部は強いナデにより細くなっている。体部内面のヘラケズリは上半にまで及ぶ。

出土遺物から弥生時代後期中葉～後半の遺構である。

SXR25

調査区中央の 32 S グリッドの南壁部分で検出した遺構である。SXR14 の底面で SXR14 の埋土下で検出していることから SXR14 より先行する遺構である。調査区内では東西 3.3 m、南北 1.3 m 程度を検出したにとどまり、遺構は調査区外へ続いてゆく。平面形は径 4.0 m 程度の楕円形もしくは方形が想定出



第 201 図 SXr21 平・断面図、出土遺物

来る。残存する深さは 0.55 m、最深部の底面の標高は 50.14 m、断面形は東側がやや急になっているものの概ね逆台形状である。

埋土は 3 層に分かれる。上層は黄灰色砂混じり粘土層で、灰黄色細砂がブロックおよびラミナ状に混じることから、緩やかな流水下での堆積が想定される。中層は黄灰色粘土層で粘性が強くよく締まっており、滞水下での堆積が考えられる。下層は灰白色細～中砂層で明らかな流水下での堆積層で、底面には 0.5～1.0cm 程度の鉄分の沈着した粗砂層が堆積している。なお上層の下部は平坦な面の上に堆積しており、中層堆積後に人為的な改修を行っていると思われる。

透水層を掘り込んでおらず積極的な根拠に乏しいが、埋土の状況や周辺遺構との類似性から SXr25 も出水状遺構とする。

遺物は下層から弥生土器の細片が僅かに出土したのみである。出土遺物から弥生時代後期の遺構である。

(3) 古墳時代の遺構と遺物

SXr20

調査区中央南寄りの 32 S グリッドで検出した土坑状の落ち込みである。SXr11 と SXr14 の両者と重なって検出されたが、遺構の前後関係から後述する古代の SXr11 より古く、弥生時代の SXr14 より新しいものである。平面形は長楕円形に近いが、北側から東側部分が不整形で、特に東側は細長く突出している。長径にあたる東西は 6.0 m、短径にあたる南北は 1.5～2.1 m である。上部は SXr11 により削られているため残存する深さは 0.36 m と浅い。最深部の標高は 50.30 m、断面形は皿状である。底面は若干起伏しており、東側がやや深くなっている。遺構の主軸は E-3°-S でほぼ正方位である。

埋土は黒褐色粘土の単一層で、上面に鉄分の沈着が認められ、底面近くで 2～5cm 大のベース層ブロック土が混じる。また東半部の底面部分には灰白色細砂がラミナ状に堆積しており、埋没の初期段階で流水が及んだことを示している。

遺物は少量の弥生土器細片と須恵器杯身の細片及び平基石鏃を含む石器が少量出土したのみである。出土した須恵器杯身細片は、後述する古代の遺構 SXr11 から出土した須恵器杯身 (772) と同一個体とみられ、772 は本来は SXr20 に帰属していたものと思われる。

出土遺物から、6 世紀後半に埋没した遺構と考えられる。

(4) 古代の遺構と遺物

SPr01～06

調査区東部の 32 R グリッドで検出した小穴群である。北端のものは後述する SXr11 より先行する。小穴は 6 基検出した。小穴間の距離は 0.44～0.50 m と一定である。平面形はそれぞれ東西に長い隅丸方形または楕円形で、長径 0.3～0.4 m、短径 0.2～0.28 m である。深さは 0.04～0.1 m で断面形はいずれも皿状である。小穴群の主軸方向は N-22°-E で周辺の遺構で似た方位のものはない。

埋土はすべて褐色砂混じり粘土の単一層である。埋土には柱痕、根石、詰石などは認められず、周囲には建物などの生活痕跡も検出されなかったことや断面形状から柵列とは考え難く、溝跡の底面に見られるような鋤先の痕跡に近い。

遺物は出土していないため、時期を特定することは困難であるが、埋土の状況から SXr11 より先行

する古代の時期とする。

SXr11 (第 202 図)

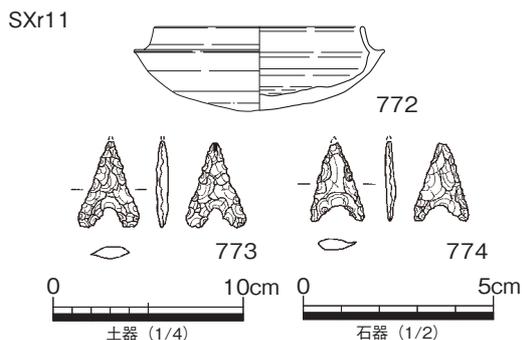
調査区の中央やや東寄りの 32 R グリッドから 32 S グリッドにかけて検出した浅い落ち込みである。西側と南側は直線的であるが、北側と東側部分は凹凸が激しく不整形であるが、大局的に見れば方形に近い。最も広い部分で東西 14.1 m、南北 11.4 m で、直線的な南側と西側は概ね現状の条里型地割りの方向に合致する。断面形は浅い皿状で、深さは 0.2 m である。底面は最大 0.1 m の起伏が顕著に認められる。

埋土は褐灰色砂混じり粘土の単一層で、埋土には 0.5 ~ 3.0cm のベース土ブロックが多量に含まれる。

埋土の状況と底面の顕著な起伏が足の踏み込みによるものとするれば、SXr11 は水田耕作地と考えることが出来る。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器の細片と須恵器杯身 (772)、石鏃 (773・774) が出土したのみである。図化できた 772 ~ 774 は混入したもので、特に 772 は重複した古墳時代の遺構である SXr20 からの混入である。

出土遺物が細片のため時期の特定は困難であるが、遺構は須恵器細片から 9 世紀に埋没したものと想定する。



第 202 図 SXr11 出土遺物

SXr12

調査区東部の 32 R グリッドで、SXr11 の東側に隣接して検出した浅い落ち込みである。上面の一部を後出する SXr15 に壊されている。平面形は南北が内湾する台形状で、南北方向 4.2 m、東西方向 2.9 m である。断面形は浅い皿状で、深さは 0.16 m と浅く、最深部の底面の標高は 50.54 m である。底面には細かな起伏が顕著で、西端部分で一部土坑状に掘り窪められた部分があるが、埋土に違いは認められず同一の遺構と判断した。

埋土は褐灰色砂混じり粘土の単一層で、埋土には 2.0 ~ 3.0cm のベース土ブロックを一定量含み、SXr11 の埋土と酷似している。

遺物は弥生土器、土師器、須恵器の細片が出土したのみで遺物量は少ない。時期の特定は困難であるが、埋土の状況から SXr11 と同時期の 9 世紀のものとする。

SXr13

調査区東部の 32 R グリッドから 32 S グリッドにかけて検出した土坑である。SXr11 の底面で検出し、SXr11 の形成時に壊されており、下部のみが残存していたものである。平面形は隅丸の長方形で東西方向の長辺が 3.5 m、南北方向の短辺が 2.13 m で、西辺に幅 0.5 m 前後、長さ 1.85 m の小溝が取り付いている。残存する深さは 0.34 m で、断面は逆台形状になる。二段に掘り込まれており、西側部分に平坦面を形成し、東側半分が全体に一段深くなっている。上半部の掘り込みは下半んに比べて緩やかになっている。底面は東側に向かって緩やかに傾斜している。

埋土は3層に分層され、上・中の2層は褐灰色粘土層で、中層は粘性が強い。下層はベース層に似ている。

遺物は混入した弥生土器の細片が数点出土したのみである。SXr11より先行する時期であるが、埋土等の類似性からSXr11に近い古代の時期とする。

SXr15

調査区東部の32 Rグリッドで検出し、SXr12の埋没後にその北西部分に掘り込まれた土坑である。平面形は楕円形で、長径0.85 m、短径0.48 m、深さは0.32 mで断面形は方形である。掘り込みは垂直に近く、底面は平坦である。

埋土は2層に分層され、上層は褐灰色砂混じり粘土で、埋土には3cm程度のベースブロックを若干含み、層下半を中心に灰白色細砂がラミナ状に堆積している。下層は黄橙色細砂で下部に鉄分が沈着している。上下の層界は平坦で、上層の一部が下層を削るように堆積している。

遺物は混入した弥生土器の細片が数点出土したのみである。SXr12より後の時期であるが、埋土等の類似性からSXr12に近い古代の時期とする。

SXr18

調査区東部の32 Rグリッドで検出した土坑である。SXr11の北東部分の底面で検出し、SXr11の形成時に壊されており、下部のみが残存していたものである。平面形は楕円形で、長径3.65 m、短径1.50 m、深さ0.24 mで断面形は逆台形である。底面には起伏が顕著である。

埋土は2層に分層されるが、両者とも褐灰色粘土であるが上層には砂が多く混じり、下層は粘性がより強いことから分層した。

遺物は混入した弥生土器と須恵器の細片が数点出土したのみである。SXr11より先行する時期であり、SXr13と埋土が酷似していることからSXr13と同様にSXr11に近い古代の時期とする。

SXr19

調査区東部の32 Rグリッドから32 Sグリッドにまたがって検出した土坑である。北側をSDr04に、南側をSXr11にそれぞれ削平されている。平面形は楕円形に近いが直線的な部分が目立つ。長径に相当する東西方向は3.2 m、短径に相当する南北方向は1.9 mが残存している。東端部は幅0.3 m、長さ0.6 mの小規模な溝SDr11が取り付け、SXr22に接続している。深さは0.4 m、底面の標高は50.22 mで、断面形は丸みを帯びた逆台形である。

埋土は2層に分層されるが、両者とも褐灰色粘土で下層は粘性が強い。埋土の特徴はSXr13・18と酷似している。

遺物は出土していないが、埋土の状況からSXr13・18と同様にSXr11に近い古代の時期とする。

SXr22

調査区東部の32 Rグリッドで検出した土坑状の落ち込みである。西端でSDr11を介してSXr19と接続している。北側をSDr04により大きく壊されているとともに南西部をSXr11により壊されているため全体形は不明である。検出部分は東西に長い方形の南辺中央部が突出している。東西で5.8 m、南

北の検出幅は 0.9 ～ 1.3 m で、中央の突出部分の幅は 1.9 m になる。なお西端の東西 1.75 m 部分については土坑状の落ち込みになっていたが埋土に前後関係は認められなかったことから同一の遺構と判断した。深さは 0.64 m と深く、底面最深部の標高は 50.10 m まで下がり、多量の湧水を伴った。断面形は逆台形状で、底面は鋤先痕と見られる小さな起伏が顕著である。なお底面には 20cm 程度の小礫が数個出土している。

埋土は 3 層に分層され、いずれも灰色系粘土と細～粗砂のラミナ状堆積である。下層は粘土の堆積は薄く、圧倒的に砂の堆積が多く北から南に傾斜して堆積している。これに対し中層は砂の堆積が薄く、南側に厚く粘土が堆積していた。この傾向は上層でも認められ、砂のラミナ状堆積は減少し、粘土質の堆積層となる。少ないものの砂のラミナ状堆積が認められることは、引き続き流水状態はあるものの、中層以上では滞水状態での穏やかな環境下での堆積が主となっていたと考えられる。なお層界は一部不明瞭な部分があり、比較的短期間に埋没したのであろう。

遺物は各層から弥生土器や土師器の細片が少量出土したのみで、詳細な時期の特定は困難である。SXr11 より先行する時期であり、SXr13・18 と埋土が酷似していることからこれらと同様に SXr11 に近い古代の時期とする。

SXr23

調査区中央部やや南寄りの 32 T グリッドで検出した土坑で、弥生時代後期の SXr14 の埋没後に形成されている。平面形は北側が先細りになった楕円形で、長径 1.25 m、短径は中央部分で 0.65 m である。深さは中央部分で 0.5 m、北側の先細りになった部分で 0.18 m、底面の最深部の標高は 50.16 m である。断面は方形で、掘り込みは緩やかである。

埋土は褐灰色粘土の単一層である。中央から南側にかけて下部に灰白色細砂がラミナ状に堆積しており上部とやや異なるが、層界が不明瞭であるため分層していない。基本的には滞水状態での穏やかな環境下での堆積である。なお底面には 3～4cm 大の小石が少々認められたが、これはベース土からの混入である。

遺物は出土していないが、埋土の状況から SXr11 に近い古代の時期とする。

SXr24

調査区中央部やや南寄りの 32 S グリッドで検出した土坑で、SXr23 の 2 m 東側に隣接しており同様に弥生時代後期の SXr14 の埋没後に形成されている。平面形は楕円形であるが北側が緩やかに内湾している。長径 1.45 m、短径 0.88 m、深さ 0.34 m で最深部の標高は 50.24 m である。断面形は逆台形で、掘り込みは南北が緩やかで東西は急になっている。

埋土は 2 層に分層される。下層は中～粗砂が多く混じる粘土層で、滞水下での自然堆積層である。

遺物は SXr14 からの混入である弥生土器の細片が少量出土したのみで、遺構の時期は特定し難いが、埋土の特徴から古代とする。

(5) 中世の遺構と遺物

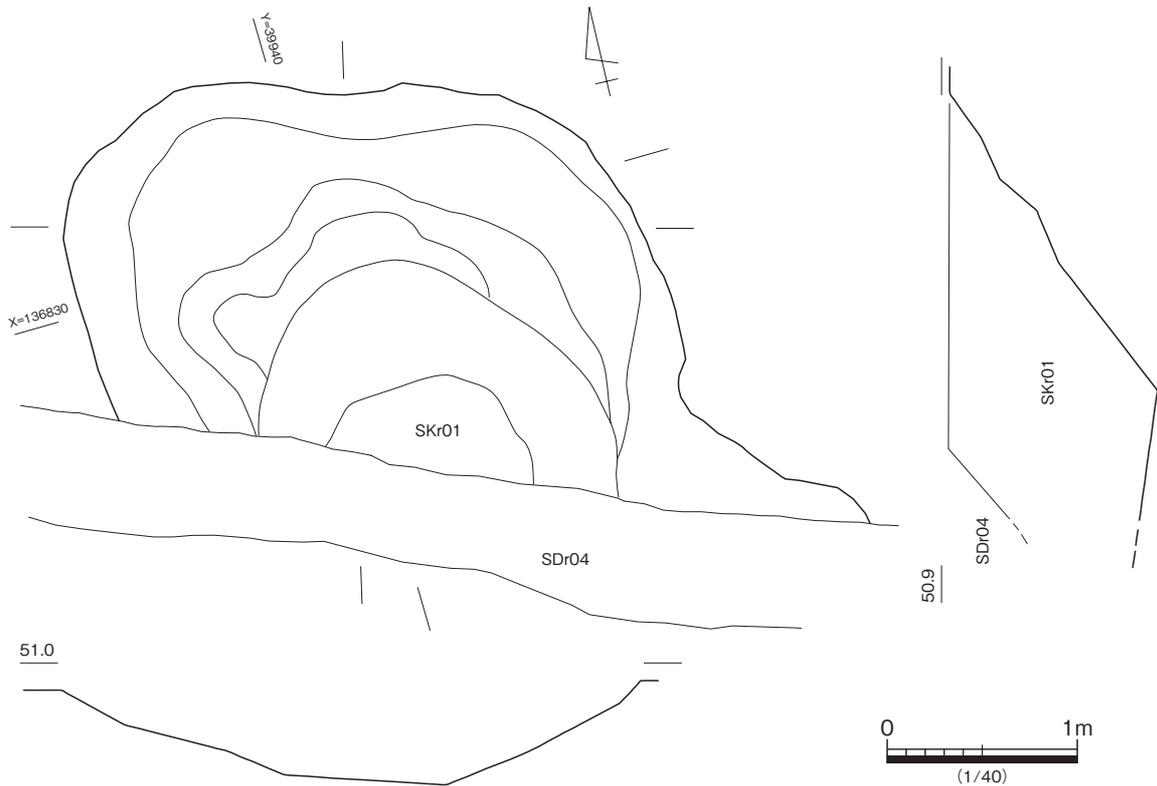
SKr01 (第 203 図)

調査区東端部の 32 Q グリッドで検出した井戸状の遺構である。埋没後の自然河川 S R r03 の上に掘削されている。また南側部分は SDr04 により壊されているため、全体形は不明であるが、残存部分は東側が内側に窪む長楕円形で、長径の北西-南東が 4.32 m 以上、短径の北東-南西が 2.6 m 以上となっている。北西から東側にかけては段状に掘り込まれており不整形なテラスを形成している。そして中央部分には一辺 1.6 m の隅丸方形の土坑状となって下がっている。深さは 1.24 m、底面の最深部は標高 49.68 m で、断面形は概ね逆台形ある。透水層である灰色砂礫層を 0.4 m ほど掘り抜いており、調査時には湧水が顕著に認められた。

埋土は 10 層に分層され、遺構廃絶後の人為的埋め戻し土である上層 (1~7 層) と、遺構機能時の堆積層などの下層 (8~10 層) に大別される。上層は 20cm 程度の地山及びベース層のブロック土を多量に含む粘土ないし砂層であり、南西に傾斜して堆積している。北東側から投入された人為的な埋め戻し土である。上層はさらに灰白色中砂~粗砂と粘土のラミナ堆積層 (5 層) を境に上下 (1~4 層と 6・7 層) に細分される。5 層はブロック土が認められず水平堆積になっていることから、滞水下での自然堆積層と考えられ、埋め戻しが一時中断したことを示している。これに対し下層は中央部分の隅丸方形の土坑状の掘り込み部分に堆積した土層で 3 層に細分される。掘り込み部の中央には植物遺体を多量に含む粘性の強い黄灰色粘土 (9 層) が掘り込み上端付近まで堆積している。滞水下での堆積層であり、層の外縁部が垂直に立ち上がることと、層上面で径 0.6 m 程度の円形の部分が認められたことから、9 層が有機質の容器内に堆積した土層、つまり曲物あるいは桶が据え付けられていたことが想定される。9 層の周囲には容器の裏込め土と考えられる砂や粘土の堆積があり、15cm 以下の多量の小礫を含んでいた。

上記の有機質層 (9 層) の上位には井筒や石組などの構築物やその痕跡は確認されなかった。上層は人為的な埋め戻し土であり井筒の裏込め土に相当するものは認められなかった。井筒を転用・再利用するために周囲を大きく掘り下げたのかもしれない。さらに旧河川という湧水が見込まれる箇所に構築されていることから、SKr01 は井戸と考えるのが妥当である。

遺物は上層から縄文土器や須恵器杯蓋の細片のほかに、土師器杯や播鉢などの細片が出土している。後者の遺物は 16 世紀後半のものであり、この時期は後述する SDr04 の時期と同じか直前である。SDr04 を設置するために SKr01 は廃絶され埋め戻されたのである。



第 203 図 SKr01 平・断面図

SKr03

調査区東部の 32 R グリッドで検出した浅い落ち込みである。北側を SDr04 に壊されているため全体形は不明である。検出部分は南側が内側に蛇行するものの、概ね方形である。東西 1.2 ～ 1.4 m、南北 1.6 m 以上である。深さは 0.15 m と浅く、断面形は皿状である。底面は緩やかに北に向かって傾斜している。底面には直径 0.2 ～ 0.3 m、深さ 0.1 m 前後の円形の小穴が不規則に穿たれていた。

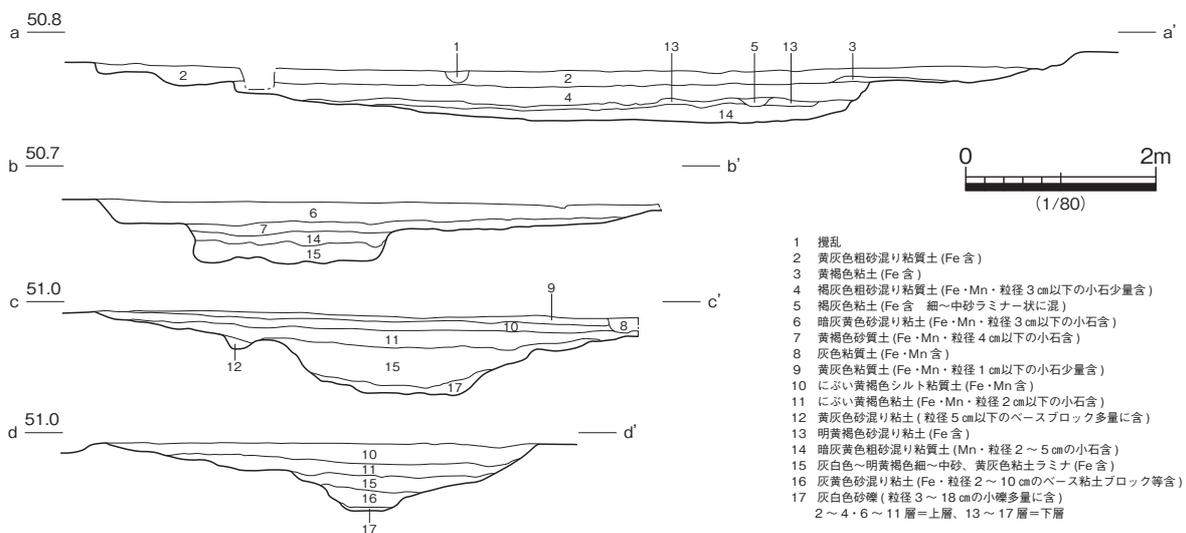
埋土は褐灰色シルト質粘土の単一層で、灰黄色細砂のラミナ状堆積が顕著である。また底面の小穴には灰色粗砂が堆積していた。

遺物は土師器小皿と見られる細片と十瓶山産須恵器碗の口縁部の細片がそれぞれ少量出土したのみである。遺物から 13 世紀代の時期である。

SDr04 (第 204・205・206 図)

中央の 32 Q グリッドから 33 U グリッドにかけて東西に貫く大型幹線水路である。東西の両端は調査区外に至り、調査区内で延長 81.3 m を検出した。幅 4.5 ～ 10.0 m、深さ 0.6 ～ 0.9 m で、底面の標高は東端で 50.66 m、西端で 49.64 m となり、底面の標高差は 1.02 m で緩やかに東から西に向かって下っている。調査区西端から E - 16° - S の方向で直進した後に、C - C' 断面付近で僅かであるが南側に屈曲して、E - 24° - S の方向をとって調査区東端に至る。断面形状も東端から 38 m 部分を境にして東側と西側で大きく異なっている。東側は上部 0.3 m ほどは南北両岸に幅 0.5 ～ 2.8 m のテラスを形成して緩やかに落ち込み、それより下部はやや強く掘り込まれ断面は上面幅が 2.0 ～ 2.8 m の逆台形の二段掘りになる。底面は溝の清掃や湧水確保のための基底礫層の掘り込みなどによる若干の凹凸を除けば、断面図のように概ね平坦である。東端から 38 m 部分より西側では、東側で見られた二段の掘り込みは認められず、両岸が緩やかに掘り込まれ、断面は幅広の逆台形になり、底面も平坦面が連続している。

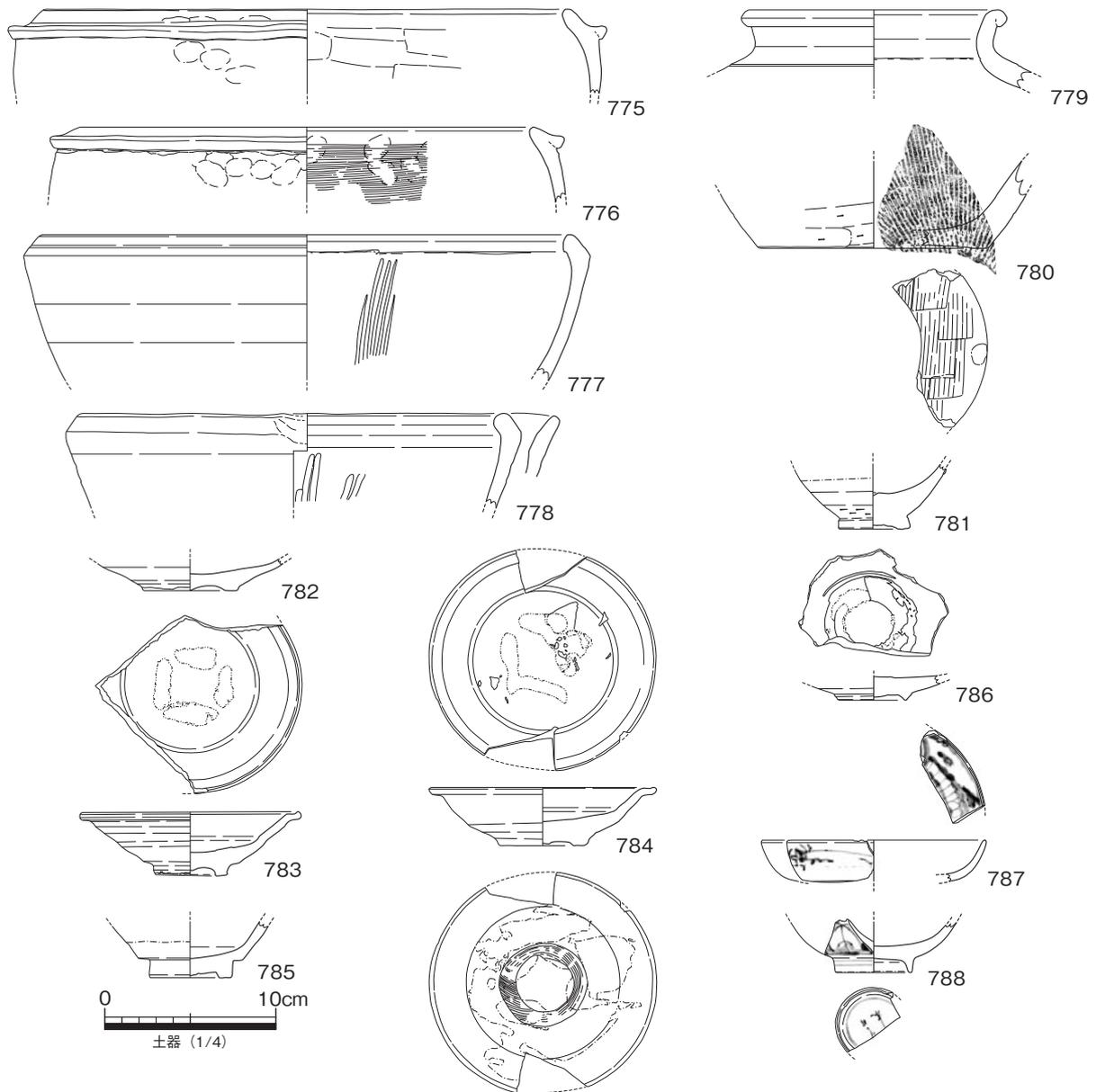
埋土は上記の断面形状の差と関連して東側と西側で大きく異なる。東側では埋土は 4 ～ 5 層に分層され、基本的にテラス部分に水平堆積した上位 2 ～ 3 層（上層）と、逆台形状の掘り込み部分に堆積した下位 2 ～ 3 層（下層）に大別される。上層は層界は微細な起伏があるものの概ね水平堆積する黄灰・黄褐～灰黄色系粘質シルト～粘土層である。埋土中には 3 cm 以下の小石と 7 cm ほどの下層のブロック土を少量含むのみで、流水下での堆積の可能性のない均質な内容となっている。下層は最上位に灰～黄褐色系粘土と細～粗砂のラミナ層が堆積している。層厚は 0.15 ～ 0.4 m で、C - C' 断面付近に厚く堆積し東西に薄く広がっている。0.15 m 以下の小礫を一定量含み、顕著なラミナ堆積を示すことから旺盛な水流を裏付ける。A - A' 断面を中心とする西側部分の下層は 2 層に分かれ、このうちの上部には明黄褐色砂混じり粘土が、下部には暗灰黄色粗砂混じり粘質土が堆積している。東側の底面直上には 3 ～ 18 cm の円・亜角礫を多量に含む灰白色砂礫層が堆積しているが、調査区東端部では確認されず、東端部より 2 m 西から徐々に厚みを増しながら確認された。礫は砂岩を主体として花崗岩や安山岩が認められ、基盤となる礫層の礫の種類と共通することから、侵食により巻き上げられた基盤層の再堆積と考えられる。東端部でこの層が認められないのは、この部分では底面が浅く基盤礫層まで掘削が及んでいないためである。これに対して西側の底面直上である暗灰黄色粗砂混じり粘質土層には 5 cm 以下の小石が一定量含まれる。東側の底面直上の層との明確な前後関係は認められず漸移的に移行している。礫の混



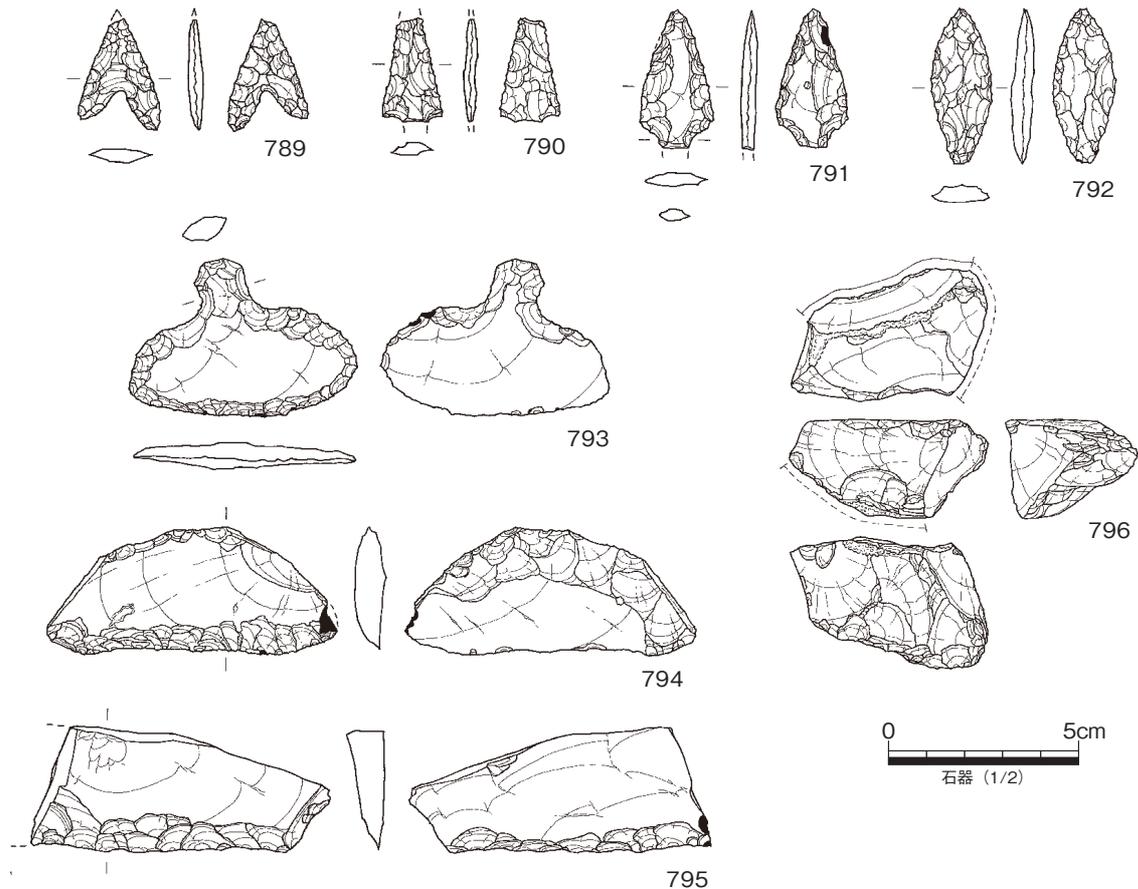
第 204 図 SDr04 断面図

入が少ないことはこの部分の底面が基盤礫層に及んでいないため、底面には顕著な鉄分の沈着が認められた。

遺物は肥前系磁器・陶器、瀬戸美濃系陶器、備前焼、堺・明石系陶器、瓦などの近世遺物が中心に出土しており、これに青磁、備前焼、瓦器、土師器、足釜、播鉢、須恵器、弥生土器、縄文土器、サヌカイト製石器などの中世以前の遺物も出土している。特に下層では17世紀前半までの遺物が主体となっている。これらのうち775～796が図化出来たものである。775・776は土師質の足釜、777・778は土師質の播鉢である。779は備前焼の壺で口縁部は玉縁になっている。780は備前焼の播鉢である。782～785は肥前系陶器で、783と784の見込み部分には砂目積みの痕跡が残る。786の見込み部分は蛇の目釉剥ぎになっている。787・788は肥前系磁器である。793は石匙でつまみ部以外は主に片面からの調



第205図 SDr04 出土遺物(1)



第 206 図 SDr04 出土遺物 (2)

整になる。794・795 はスクレイパーで刃部は 794 が片面から、795 が両面からの調整で作り出している。796 はサヌカイト製の火打ち石で敲打痕が認められる。

出土遺物から下層は 16 世紀後半に開削され 17 世紀前半には埋没しており、下層部分については幹線水路として機能していた。これに対し上層は 18 世紀前半までは継続している。下層が埋没してから上層が埋没するまで 1 世紀近くの時間が開いているが、上層部分が下層部分と埋土の様相が異なることと、幅や断面形状も異なることから、上層部分は整地層や耕作地といった水路以外の機能を考慮する必要がある。

SXr10

調査区東部の 32 R グリッドで、SDr04 の底面で検出した SDr04 に先行する土坑である。SDr04 の調査区東端から西へ 9.0 m の箇所があり、平面形は長楕円形で長径 12.8 m、短径 2.8 m で、SDr04 の底面の中央部分で同じ東西方向に溝状に形成されている。そして SXr10 の中央部分は楕円形に 0.1 ～ 0.2 m ほど深く掘り込まれている。縦断面は皿状、横断面は逆台形になる。底面は基盤礫層を 0.4 ～ 0.7 m 掘り抜いており、顕著な湧水が認められた。

埋土はグライ化した灰色系粘土と灰色系細～粗砂のラミナ状堆積を基本としている。また埋土の上面には鉄分の沈着が認められる。埋土や調査の状況から一定量の湧水が見込まれることから出水状の遺構とする。

遺物は須恵器・土師器の細片や出土しているのみである。出土遺物や SDr04 に先行するが SDr04 の掘削を契機として廃絶されたとするなら 16 世紀後半の時期である。

SXr26

調査区東部の 32 R グリッドで検出した浅い落ち込みである。東側を近世の SDr08 により壊されているため全体形は不明である。検出部分の平面形は不整形で、外縁部は凹凸が著しい。南北 3.15 m、東西 1.15 m 以上、深さは 0.1 m と浅い。断面形は皿状である。底面には直径 0.3 ～ 0.5 m、深さ 0.1 m 前後の小穴状の窪みが顕著に認められる。

埋土は褐灰色砂混じり粘質土の単一層で、灰黄色細砂のラミナ状堆積が顕著である。窪み部分には中砂が堆積しており、全体として北西に隣接する SKr03 と似ている。

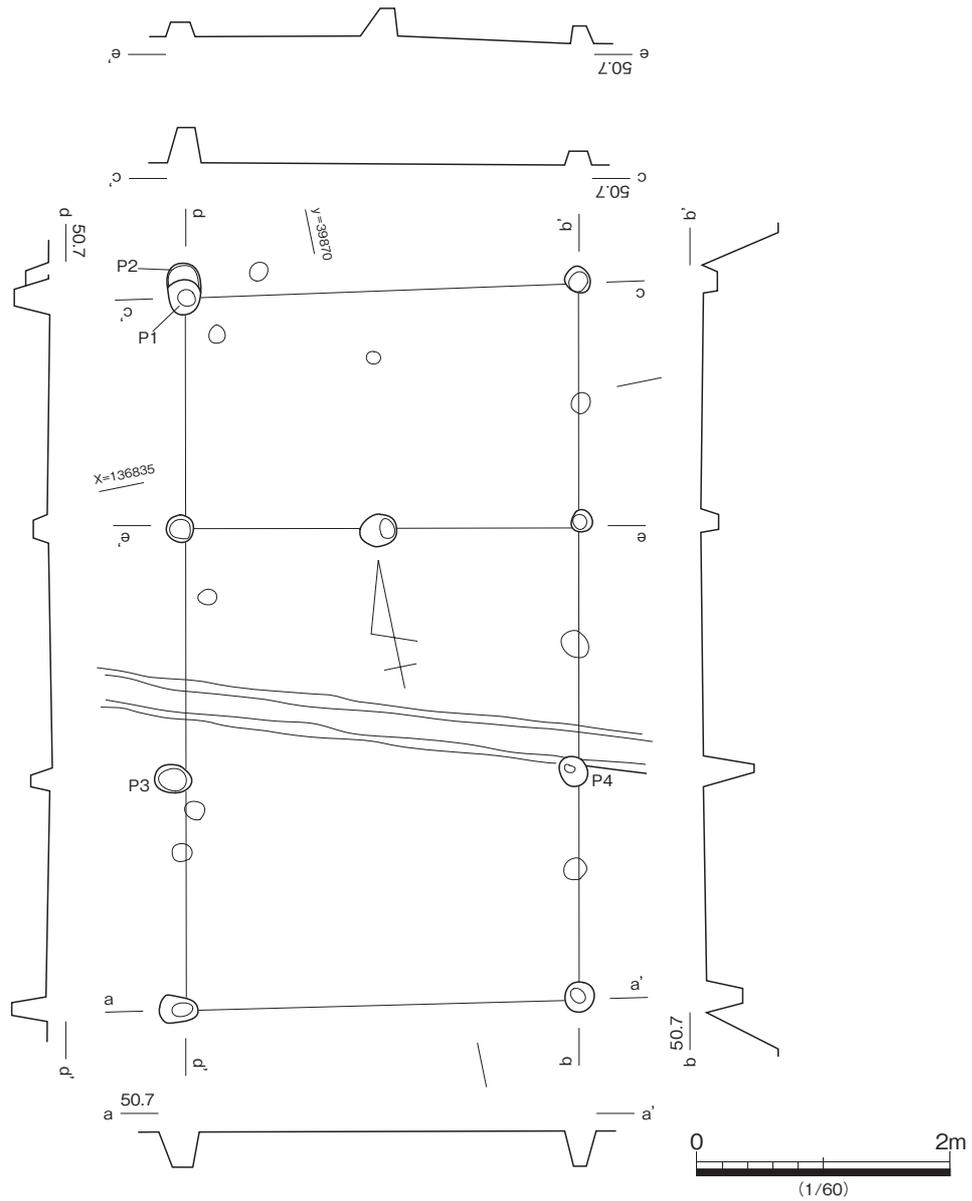
遺物は須恵器や土師器の細片が少量出土したのみであるが、遺物や埋土の特徴から SKr03 と似た時期の 13 世紀代とする。

(6) 近世の遺構と遺物

SBr01 (第 207 図)

調査区の南東部の南壁部分の 32 U グリッドで検出した掘立柱建物跡である。梁間 3.13 m (2 間) × 桁行 5.67 m (2 間) で、床面積 17.75㎡で、建物の主軸方位は N 11.6° E の南北棟となる。梁間の北から 2 列目の中央には東柱があることと柱間の長さから、北端と南端の梁間は現状では 1 間であるが、本来は中央に柱穴がある 2 間に復元できる。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから 18 世紀前後の時期とする。

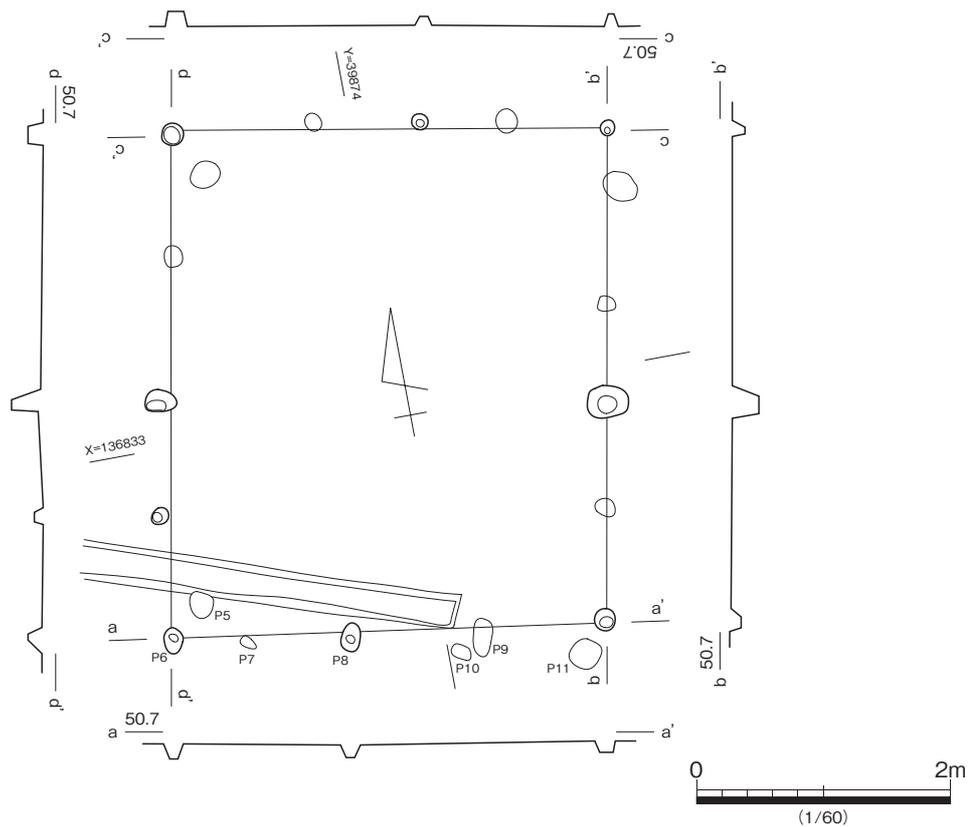


第 207 図 SBr01 平・断面図

SBr02 (第 208 図)

調査区の南東部の南壁部分の 32 U グリッドで検出した掘立柱建物跡で SBr01 の東側に隣接する。梁間 3.43 m (2 間) × 桁行 3.90 m (4 間) で、床面積 13.38㎡で、建物の主軸方位は N 10.5° E の南北棟となる。梁間の北端と南端の柱列の中央の柱穴は不揃いである。また東側の桁行列の北から 2 穴目を欠いている。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから 18 世紀前後の時期とする。

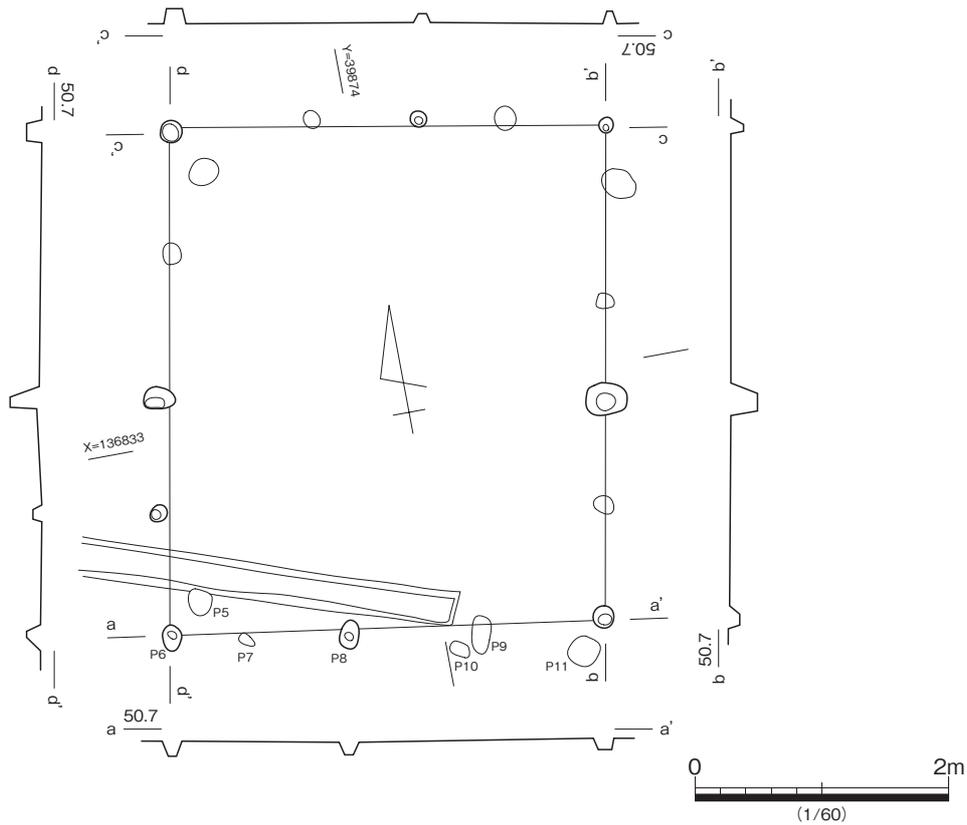


第 208 図 SBr02 平・断面図

SBr03 (第 209 図)

調査区の南東部の南壁部分の 32 T グリッドから 32 U グリッドで検出した掘立柱建物跡で SBr02 の東側に隣接する。梁間 3.75 m (2 間) × 桁行 4.36 ~ 4.50 m (2 間) で、床面積 16.88m² の総柱建物で、建物の主軸方位は E 8.9° S の東西棟となる。西側の梁間列は斜めになっており、建物全体が整った方形にはならない。

柱穴から遺物は出土していない。柱穴が包含層の上面から掘り込まれていることから 18 世紀前後の時期とする。

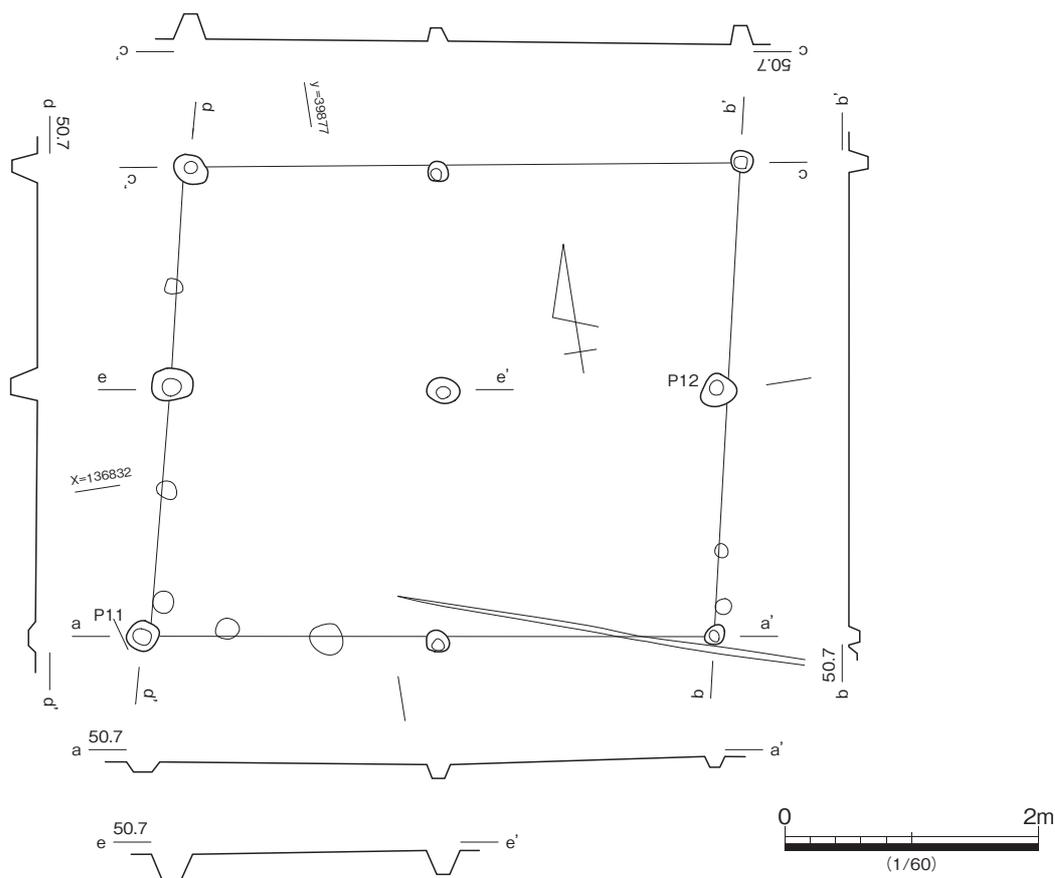


第 209 図 SBr03 平・断面図

SBr04 (第 210 図)

調査区の中央やや西寄りの 32 T グリッドで検出した掘立柱建物跡である。弥生時代の SXr21 と同じ位置にある。梁間 3.43 m (2 間) × 桁行 7.55 m (3 間) で、床面積 25.90㎡で、建物の主軸方位は N 11.3° E の南北棟となる。梁間の北から 2 列目の中央には束柱があることと柱間の長さから、北端と南端の梁間は現状では 1 間であるが、本来は中央に柱穴がある 2 間に復元できる。また梁間は北側に比べて南側のほうが若干広がっている。

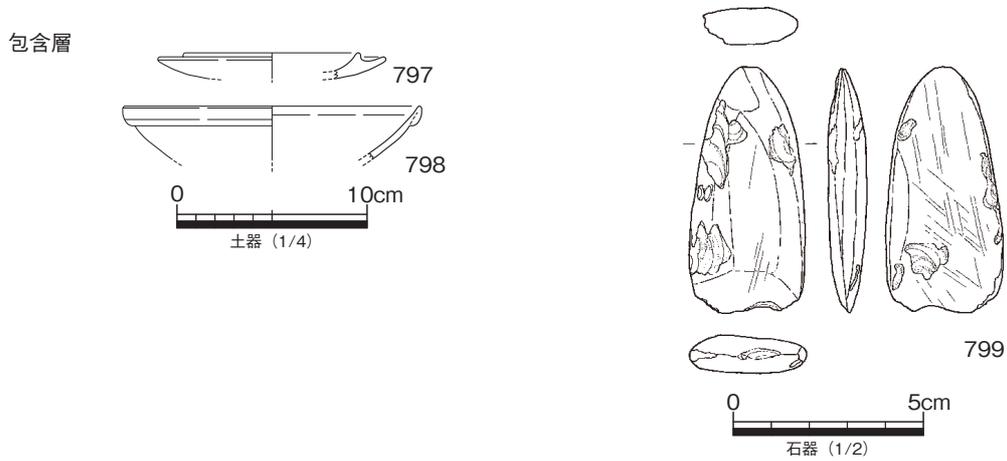
西桁行列の南から 2 つめの柱穴から土師器の細片が 1 点出土したのみである。柱穴の掘り込みの位置や遺物の大まかな年代観から、他の掘立柱建物跡と同様の 18 世紀前後とする。



第 210 図 SBr04 平・断面図

(7) 包含層出土の遺物 (第 212 図)

797・798 はそれぞれ調査区西側の包含層から出土している。797 は土師器の灯明皿で、内面に口縁部より高い突起が巡る。798 は白磁碗で口縁部は玉縁になっている。799 は調査区北西部の SDr02 と SDr04 との間の包含層で出土した磨製の小型片刃石斧である。基部は丸みを帯びて先細りになる。蛇紋石と思われる石材を使用している。



第 212 図 包含層出土遺物

第Ⅷ章 まとめ

第1節 C 調査区の歴史の変遷

1. 弥生時代

丘陵裾部を北流する大規模な溝状遺構（SDb01）が掘削されている。この溝状遺構は、古代、中世の溝状遺構および現代の用水路と同じ経路である点から、丘陵西側の平坦面（段丘面）を灌漑する目的で掘削されたものと判断できる。過年度に整理報告済みの知見を合わせると弥生時代後期末頃の利用・埋没の年代が考えられるが、この時期の土地開発が後代と同じものである点で注目される遺構である。

2. 古墳時代

丘陵裾部に古墳時代後期（TK209 型式並行期）の竪穴住居跡が数棟建てられている。また、SDb01を再掘削する溝状遺構がある。

遺跡周辺に視野を広げると、南東に500 mほど離れた山田下吉田遺跡でも丘陵裾部に同時期の竪穴住居跡が複数検出されており、数棟の建物からなる集落が点在するようである。

3. 古代

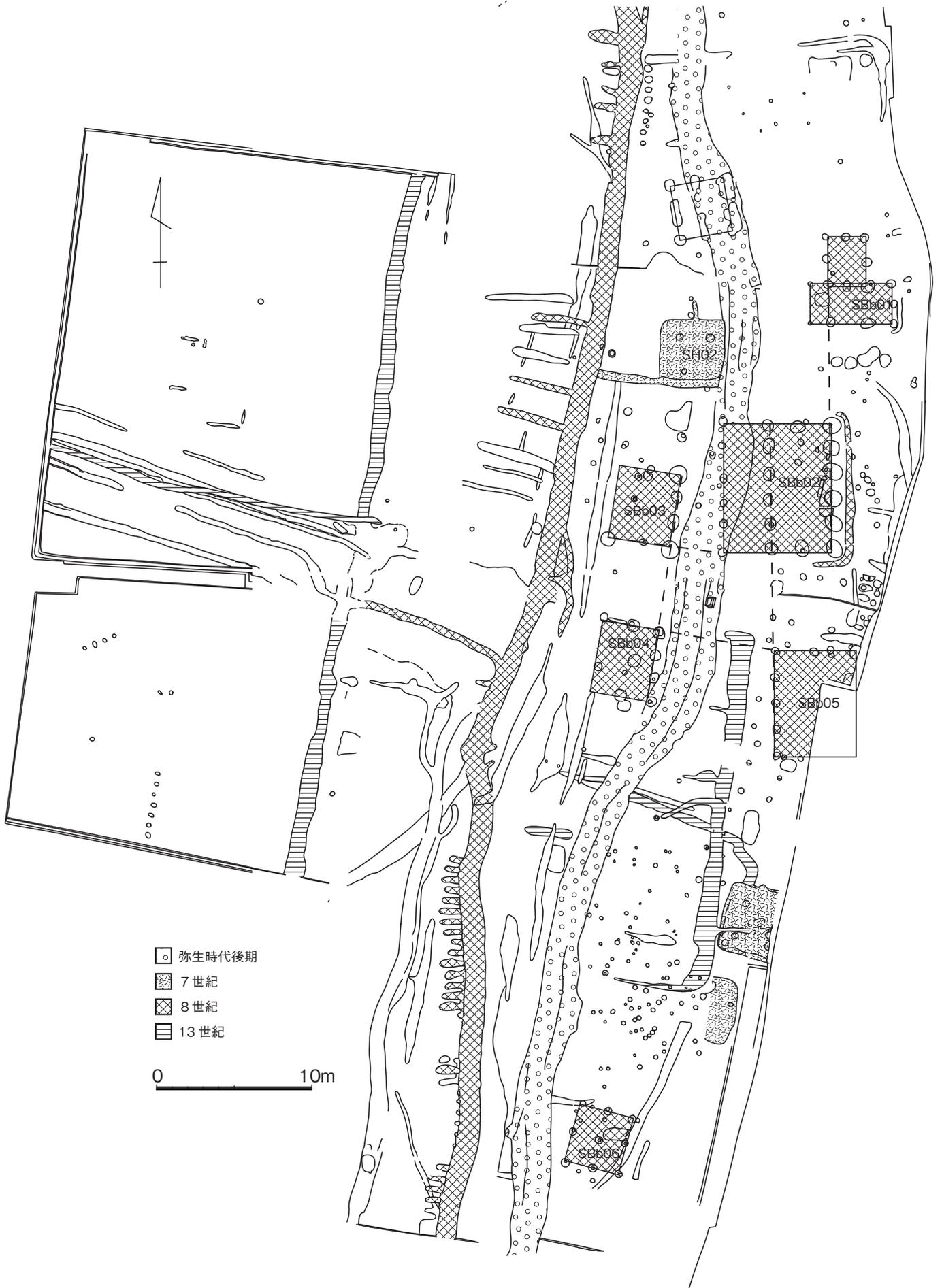
計画的に配置された掘立柱建物からなる集落が営まれる。これは2×5間の身舎の西側に庇をつけた建物を主屋に、2棟の付属棟、3棟の倉からなる。

福山敏男氏は、奈良時代の庄園について、天平19年（747）の法隆寺、大安寺の伽藍縁起并流記資材帳の記載から、平均すると1庄に倉2棟、屋3棟があったと指摘している（註1）。宮本長二郎氏は、墨書土器等の出土により庄園の庄所であることが判明した高瀬遺跡（富山県）、じょうべのま遺跡（富山県）、横江庄遺跡（石川県）の検出遺構を検討し、主屋を中心にその左右に付属建物を配し、これに倉を加えた4～5棟で構成されていたこと、主屋はいずれも5間で庇をもち、その規模や形式は類似したものであることを指摘している（註2）。さらに小口雅史氏も、その後の発掘資料を加えて宮本氏の見解を追認している（註3）。

西末則遺跡の掘立柱建物群のなかで主屋と考えられるSBb02は、梁行2間（4.0 m）、桁行5間（8.0 m）で西側に庇をもつ建物である。これは先述の高瀬遺跡ほかで指摘されている庄所の規模よりも一回り小さいものであるが、香川県内の遺跡では、これと類似する規模の建物が中心的な位置を占めると考えられる遺跡が散見される。例えば、東かがわ市引田の川北遺跡では、7世紀後半から8世紀前半の掘立柱建物12棟他が検出されている（註4）。建物は数時期に分かれるが、2間（4.2 m）×4間（8.4 m）の7尺等間で同一規模の建物4棟のほか、3棟の倉等からなる。丸亀市の津森位遺跡も掘立柱建物群が検出されているが、中心的な位置を占める建物（I区SB04）は、2間（4.1m）×5間（8.5m）の規模である（註5）。津森位遺跡のI区SB04は西末則遺跡SBb02の身舎部分と同形同大である。これらは西末則遺跡のSBb02と酷似する規模といえる。

以上のことから、西末則遺跡の古代の掘立柱建物群は、初期庄園の庄所に類する性格を持つ可能性が考えられる。ただし、庄園であることを示す資料は出土していない。

西末則遺跡の掘立柱建物群の西側では、古代の溝状遺構（SDb06～08）が検出されている。弥生時代のSDb01と同様に、丘陵西側に広がる平坦面（段丘面）の開発に伴うものと評価できるが、さらには条里地割の造成とも関連している可能性が指摘できる。



第 213 図 年代別配置図

西末則遺跡の調査で条里地割に係わる遺構のうち、確実に年代が押さえられる遺構は中世の溝状遺構であるが、間接的な傍証としてSB b 06の建物方向が条里地割の方向と合うこと等があげられる。西末則遺跡周辺の綾川流域には、異なる方向をもった条里地割が小範囲に複数分布している。これは、綾川の河道によって分断された平地ごとに条里が施工された結果と考えられるが、西末則遺跡の掘立柱建物群は、丘陵西側に広がる条里地域の開発もしくは経営の拠点としての性格があったのではなかろうか。なお、綾川の南岸の宗戸泉谷遺跡でも古代の掘立柱建物が複数見つかっているが、同様の性格をもつ集落の可能性が考えられる。つまり、西末則遺跡の掘立柱建物群は、初期庄園の庄所と類似する様相をもつことから、庄所であるかどうか不明であるものの、地域開発もしくは経営の拠点としての性格を持つもので、類似する規模・形式の建物が県内他遺跡でも見られることから、律令国家による規格もしくは規制が窺えることが指摘できる。

4. 中世

丘陵裾部に柱穴が散漫に検出され、柱穴配置から数棟の掘立柱建物が復原される。丘陵西側の平坦面(段丘面)は生産域として土地利用されていたものと考えられる。

註

- 1 福山敏男「建築」児玉幸多編『図説日本文化史大系 第3巻』小学館、1956年
- 2 宮本長二郎「建築よりみた二つの遺跡」高島忠平・阿部義平ほか『井波町高瀬遺跡・入善町じょうべのま遺跡発掘調査報告書 富山県埋蔵文化財調査報告書3』富山県教育委員会、1974年
- 3 小口雅史「荘所の形態と在地支配をめぐる諸問題」佐藤信・五味文彦編『土地と在地の世界をさぐる－古代から中世へ－』山川出版社、1996年
- 4 香川県教育委員会ほか『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第五十一冊 川北遺跡三殿出口遺跡』2004年
- 5 香川県教育委員会ほか『県道丸亀詫間豊浜線(観音寺工区)及び県道多度津丸亀線(丸亀工区)緊急地方道路整備工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 高屋条里遺跡津森位遺跡』2009年

第2節 D・E 調査区の歴史の変遷

1. 概要

D 調査区の末則丘陵斜面部～裾部にかけての地域では、先述したC 調査区同様、斜面の等高線に沿うように、弥生時代後期後半～末・古代・中世の多数の溝状遺構を確認し、弥生時代～中世に至る灌漑水路の変遷を捉えるうえで良資料になった。丘陵裾部から段丘面上のE14区以南のE13・F12区からは、中世後半～近世初頭頃の堀状の大溝で画された居住域を検出した。

E 調査区の段丘面上には綾川から派生する弥生時代後期後半～古代以降の複数の小流路と、末則丘陵方面から流下する谷状の小流路が交差しており、それらの流路の周辺や上面に古代・中世前半・中世後半～近世の小規模な集落が広がる。次ぎに主要な遺構を①弥生時代 ②古代 ③中世前半 ④中世後半～近世初頭の4時期に区分し大まかな歴史の変遷についてまとめる。

2. 弥生時代

D 調査区の状況

集落に直接係わる遺構は確認できていないが、溝等の遺構及び自然河川、包含層中から遺物が出土しており、この時期の集落が隣接地に推定できるものと考えられる。調査区から外れるが、調査区東辺に隣接する末則丘陵上には、弥生時代中期末～後期前半の遺構を確認している(註1)。これらの点から弥生時代の集落は、末則丘陵の現在民家が密集している南斜面部周辺に広がる可能性が考えられる。

丘陵西斜面裾部のC13区周辺で確認したSDe01・02は、丘陵裾部を巡るように配された弥生時代後期末～古墳前期初頭頃の大溝で、規模的な点で灌漑用の幹線水路と考えられる。取水箇所については、末則丘陵東斜面部の綾川氾濫原付近の可能性はあるが、今後の課題になる点が多い。なお、「報告I」(註2)で紹介した、南方のA 調査区SDa07・08等のSDe01(SDa06)より分岐する溝跡は、幹線水路より段丘面上面に導水するための支線水路と考えられる。この時期の水田域については、具体的なデータは見当たらず今後の課題になるが、対象地内で確認できる自然河川中で設けられた小規模な水田域か、対象地の北西に広がる綾川氾濫原付近が候補地としてあげられる。

F12区で検出したSRe01・02は、トレンチで確認した河川である。全掘していないため不明な点が多いが、F12区南東端からE14区のSDe20・21周辺に続き、北村用水を越えJ・H 調査区の自然河川に至る。南方ではE 調査区のE10区SDe23あたりに連続する可能性がある。

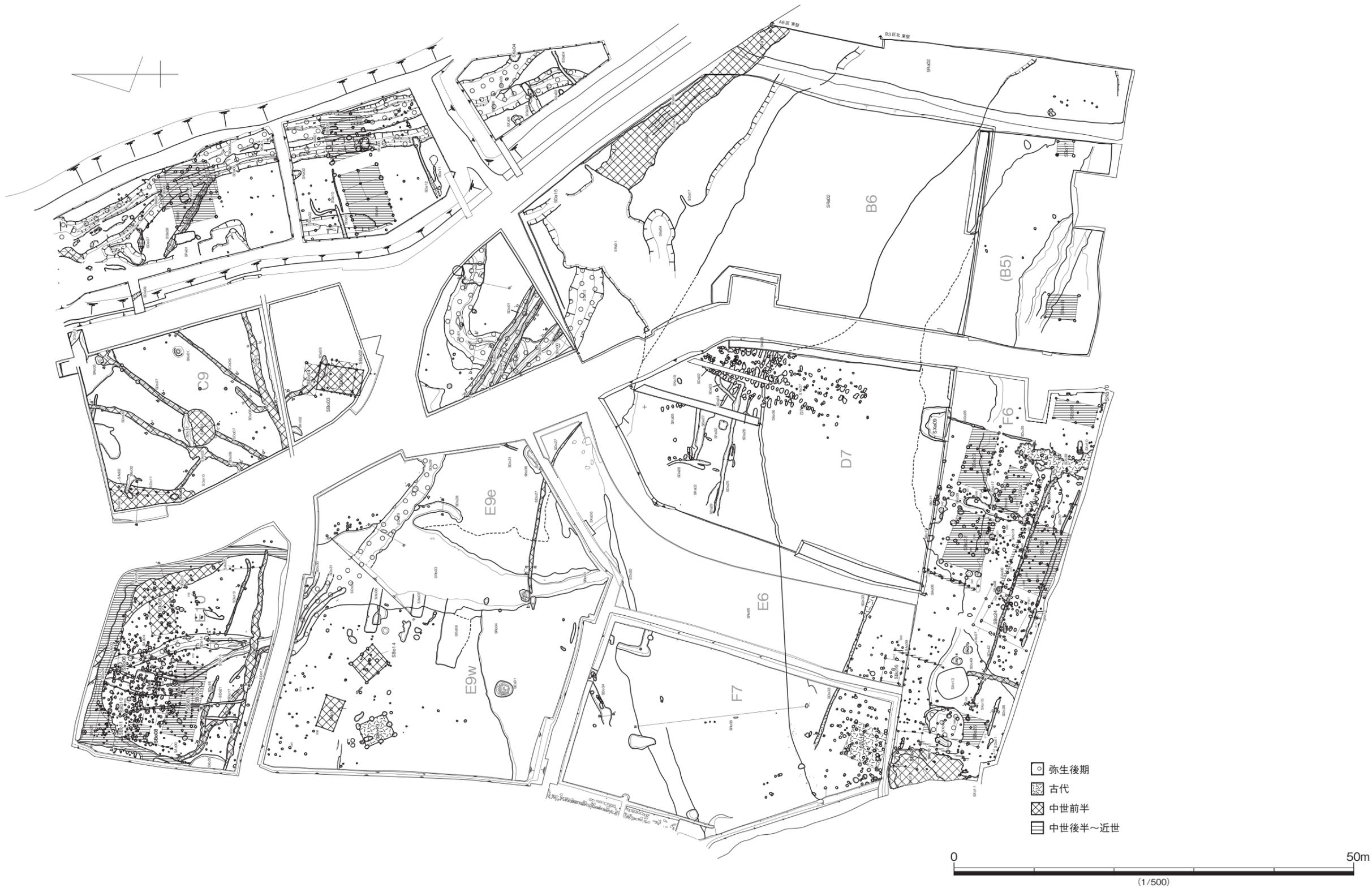
E 調査区の状況

D 調査区同様、集落に直接係わる遺構は確認できていないが、溝等の遺構及び自然河川、包含層中からこの時期の遺物が比較的多量に出土しており、先述したようにこの時期の集落は、末則丘陵の現在民家が密集している丘陵南辺地域に広がる可能性が高い。

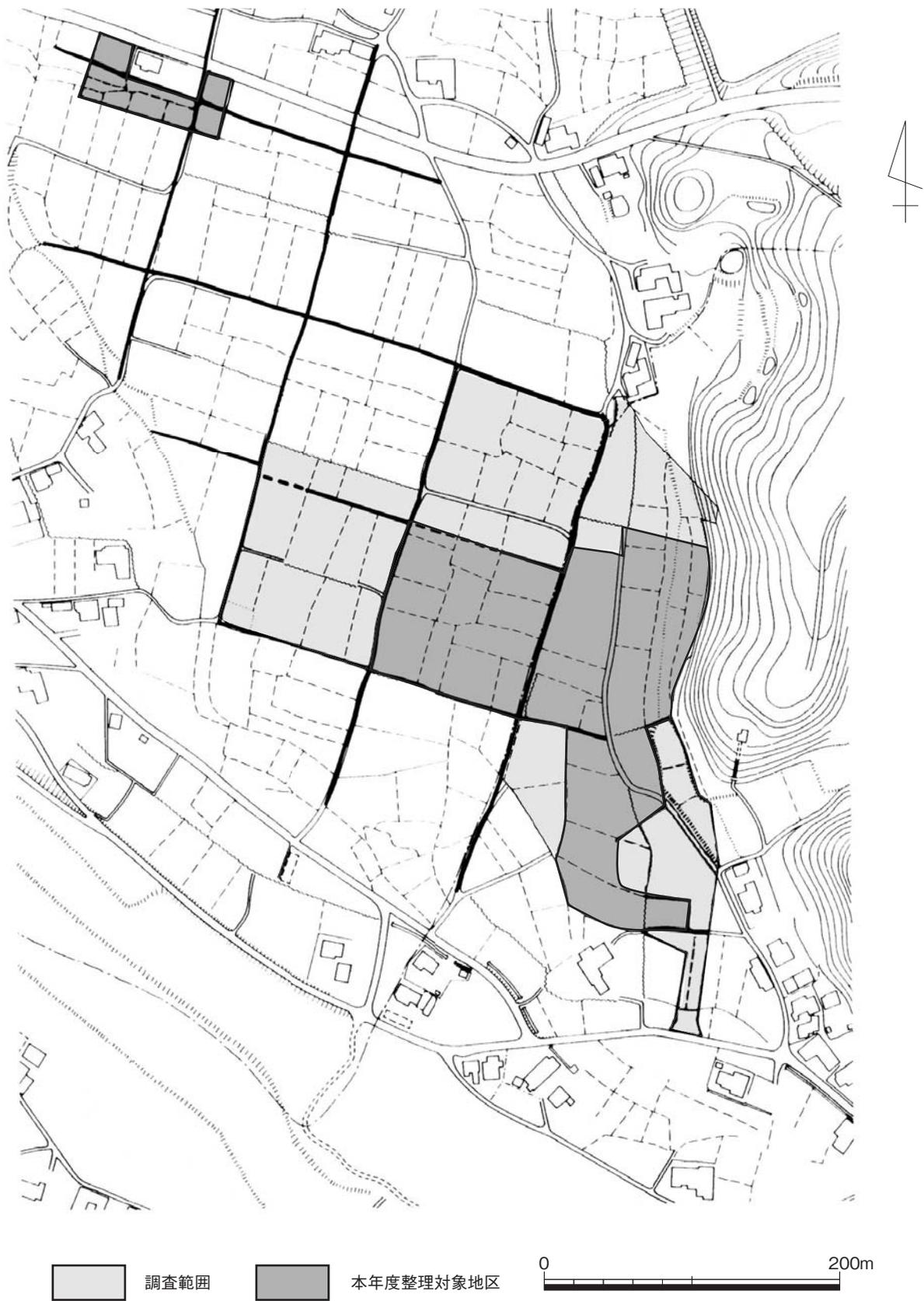
E 調査区の代表的な遺構としては、弥生時代後期後半新相以降と考えられる大型の土坑状の遺構と溝跡等があげられる。E9e区のSKo06、F6区のSXo09は、弥生時代後期後半新相以降に埋没した大型の土坑状の遺構である。溝状遺構としては、北半部のC9・E9e・E10区からは、弥生時代後期以降の



第 214 図 年代別配置図



第 215 図 年代別配置図



第 216 図 西末則遺跡周辺条里型地割復元図

SDo00～03・14・29等の溝跡があげられる。これらの溝跡は配置等から推定して北西方向へ延びる一連の溝状遺構で、D調査区のSDe35へ繋がる溝跡である。

E調査区では弥生時代の複数の自然河川が確認されているが、部分調査で調査を終えている所が多々あり、河川網の把握には問題を残すところがある。SRo01・03・05(SRa02)・07～10は弥生時代後期後半以降に埋没を開始した河川である。流路方向から段丘面を東西に横断する、SRo03・05・07～10等と、末則丘陵方面から流下してくる小流路SRo01等に分けられる。SRo05(SRa02)は調査区を東西に横断する幅広な河川である。弥生時代後期後半新相頃の弥生土器と7～9世紀頃の土器が混在しており、弥生後期後半頃から埋没を開始し古代前半以降に埋没が完了した河川と考えられる。なお、SRo05(SRa02)は、先の「報告Ⅰ」の際にはプラントオパール分析を行ない、河川がある程度埋没した段階で水田化されていた状況が推定できる(註3)。

3. 古代

D調査区の状況

北に隣接するC調査区の末則丘陵西斜面では、7～8世紀の竪穴建物や掘立柱建物からなる、集落跡を確認したが、D調査区ではC・A調査区から続く多数の溝跡を確認した。

丘陵裾部のC13区で確認したSDe11は、C13区北半部に位置し南北方向に延びる溝跡で、C調査区のSDb07に続く、7世紀初頭以降に埋没した溝跡である。SDe11の東側に隣接するSDe06は、C13区中央部を南北方向に延びて、途中西方へ「ク」の字状に屈曲する溝で、この溝跡はC調査区のSDb06に繋がる8世紀前半以降に埋没した溝跡である。C調査区のSDb06では、西岸部に道路状遺構と考えられる波板状圧痕が顕著にみえることから、SDb06・SDe06の西岸部には道路状遺構が敷設され、この溝跡は道路状遺構に伴う側溝の可能性が高い。また、SDb06は東西方向の条里地割溝と考えられるSDb30やSDd44と直交することから条里地割に係わる可能性もあるが、これらの溝は若干の時期差が認められることから今後の課題になる。

SDe11の西側に隣接するSDe13は古代後半(9～10世紀)頃の遺物が主体を占めるが、SDe13の北半部にあたるC調査区SDb29では13世紀頃の遺物を少量含むため、埋没期は13世紀以降の可能性はあるが、開削期は古代後半の可能性も考えられる。また、SDe13はC・H調査区の条里地割溝と考えられる東西方向のSDb30、SDd44等と直交するため、条里地割方向に規制された南北溝の可能性が考えられる。

E調査区の状況

古代の主要な遺構としては、建物・土坑・溝跡等が少数分布す。また、段丘を東西に横断する幅広の河川SRo05(SRa02)からは古代の遺物が多量に出土している。

古代の建物跡は数地点に分かれて分布している。先の報告Ⅳで紹介している、調査区西端部のG8・10区からは、平安時代頃の建物跡8棟を確認している。今回報告するE9w区のSBo13やF7区のSBo15は、形状や配置等からこの時期の可能性はある。特に、F7区のSBo15周辺からF6区にかけての地域には、SDo33・36等の条里地割方向に向く複数の区画溝や多数の柱穴が分布し、遺構の集中地点の一つになっている。主要な遺構としてF6・F7・E6区周辺のSBo15、SDo33・35～39・41、SKo07・14等の遺構がこの時期に属する可能性が高い。また、先述したSDo33・36～38・42等の条里

第2表 西末則遺跡C・D・E区掘立柱建物跡一覧

調査区	検出遺構名	報告遺構名	配置	主軸方位	主軸方位 (角度調整)	構造・規模 梁間(m)×桁行(m)	面積(m ²)	柱間寸法		付属施設
								梁間(m)	桁行(m)	
C調査地区	B17	SB b 01		0°		1間(2.6)×3間(5.4)	14.00	2.6	1.3~2.4	
	B17	SB b 02		N2.0° W		2間(4.0)×5間(8.0)	32.00	2.0	1.4~1.7	
	B17	SB b 03		N8.0° E		2間(4.0)×3間(4.9)	19.60	1.7~2.3	1.6	
	B16	SB b 04		N10.0° W		2間(3.7)×3間(4.7)	17.40	1.8	1.5~1.8	
	B16	SB b 05		0°		2間(5.2)×4間(6.8)	35.40	1.0~2.4	1.8	
	B16	SB b 06		N19.0° E		2間(3.4)×2間(4.0)	13.60	1.8	1.9~2.1	
	B16	SB b 11		N18.0° E		1間(2.7)×1間(3.7)	9.90	2.7	3.7	
	B16	SB b 12		N3.0° W		1間(2.0)×1間(2.5)	5.00	2.0	2.5	
	B16	SB b 13		N2.0° W		1間(1.9)×1間(2.9)	5.50	1.9	2.9	
	B16	SB b 09		N18.0° E		2間(3.0)×2間(3.0)	9.0以上	1.1~1.8	1.4~1.9	
	B16	SB b 10		N30.0° E		1間(3.8)×1間(2.8)	10.60	3.8	2.8	
	B17	SB b 07		N12.0° E		2間(2.7)×1間(3.5)	9.50	1.3	3.5	
	B16・17	SB b 08		N11.0° E		1間(3.0)×3間(4.0)	12.00	3.0	1.1~1.5	
D調査地区	E13	SBe01		N18° E		2間(4.0)×4間(7.5)	30.00	2.0	1.5~2.2	
	E13	SBe02		N14° E		4間(7.3)×4間(8.9)	64.70	1.4~2.1	1.8~2.5	廂あり
	E13	SBe03		N76° W	N14° E	3間(6.0)×8間(13.0)	78.00	1.9~2.2	1.4~2.0	
	F12	SBe04		N20.5° E		4間(8.6)×6間(14.0)	120.40	1.8~2.5	2.0~2.3	
	F12	SBe05		N25° E		2間(3.5)×4間(10.2)	35.70	1.5~2.0	2.5~2.7	
	F12	SBe06		N22° E		2間(5.2)×5間(11.0)	57.20	2.5~2.7	2.0~2.4	
	E13	SBe07		N0.5° W		1間(2.7)×3間(5.7)	15.39	2.7	1.7~2.0	
	F12	SBe08		N1.0° E		2間(3.7)×6間(7.1)	26.27	1.4~2.0	1.0~1.6	
	F12	SBe09		N1.0° E		1間以上(1.4以上) ×3間(6.5)	9.1以上	1.4	2.0~2.4	
	F12	SBe10		N1.0° E		2間以上(3.2以上) ×4間(8.0)	25.6以上	1.4~1.8	1.3~2.3	
E調査地区	E9W	SBe13		N23.5° W	N66.5° E	2間(3.0)×2間(3.9)	11.70	1.4~1.6	1.9~2.0	
	E9W	SBe14		N40.5° W	N49.5° E	1間(3.1)×2間(3.6)	11.16	3.0~3.1	1.8	
	C9	SBo01		N8.0° E		1間(3.2)×2間(3.4)	10.88	3.2	1.6	
	C9	SBo02		N10.0° E		1間(3.3)×3間(5.5)	18.15	3.3	1.8~2.0	
	C9	SBo03		N10.0° E		1間(3.3)×2間(3.4)	11.22	3.3	1.4~2.0	
	C9	SBo04		N10.0° E		1間(1.8)×1間(3.9)	7.02	1.8	3.9	
	E10	SBo05		N86.0° E	N4.0° W	2間(3.2)×4間(5.8)	18.56	1.4~1.6	1.4~1.6	
	E10	SBo06		N21.0° E		2間(2.4)×4間(3.9)	9.36	1.2	0.8~1.2	
	E10	SBo07		N85.0° W	N5.0° E	1間(3.0)×4間(7.3)	21.90	2.8~3.2	1.2~3.2	
	E10	SBo08		N74.0° W	N16.0° E	2間(2.8)×3間(5.0)	14.00	1.2~1.6	1.4~1.8	
	E10	SBo09		N77.0° W	N13.0° E	2間(4.0)×3間(9.5)	38.00	1.9~2.1	1.4~2.4	
	E10	SBo10		N15.0° E		2間(3.4)×3間(4.4)	14.96	1.6~1.8	1.4~1.6	
	E10	SBo11		N15.0° E		2間(2.1)×2間(2.7)	5.67	1.0~1.1	1.2~1.5	
	E9W	SBo12		N68.0° W	N22.0° E	1間(2.4)×1間(4.1)	9.84	2.3~2.4	4.1	
	F7	SBo15		N24.0° E		1間(3.7)×3間(4.8)	17.76	3.7	1.4~1.8	
	E6	SBo16		N10.0° E		1間(2.2)×2間(2.8)	6.16	2.2	1.2~1.4	
	B5	SBo17		N0°		1間(1.8)×1間(2.1)	3.78	1.8	2.1	
	B5	SBo18		N5.0° E		1間(3.0)×2間(3.6)	10.80	3.0	1.9	
	F6	SBo19		N10.0° E		1間(2.6)×3間(5.3)	13.78	2.6	1.2~3.8	
	F6	SBo20		N75.0° W	N15.0° E	1間(3.4)×3間(7.6)	25.84	3.2~3.4	2.1~2.8	
	F6	SBo21		N70.0° W	N20.0° E	1間(2.9)×3間(5.8)	16.82	2.8	5.8	
	F6	SBo22		N70.0° W	N20.0° E	2間(5.0)×3間(7.3)	36.50	2.2~2.8	1.0~3.0	
	F6	SBo23		N70.0° E	N20.0° W	2間(4.2)×4間(8.4)	35.28	2.0~2.2	2.0~2.6	
	F6	SBo24		N27.0° E		2間(4.6)×2間(4.8)	22.08	2.0~2.2	2.2~2.4	
	F6	SBo25		N17.0° E		1間(3.6)×3間(7.5)	27.00	3.6	2.2~2.8	
	F6	SBo26		N72.5° E		2間(3.1)×2間(4.5)	13.90	3.1	2.0~2.4	

地割方向に向く溝跡は条里地割の施行時期を示唆する溝跡でもある。

古代の土地開発と西末則遺跡

D・E調査区からは、7~8世紀頃の集落に係わる遺構は少ないが、自然河川や包含層から8世紀前後の遺物が多量に出土している。末則丘陵の西斜面部に当る、C調査区からは7世紀初頭~8世紀の集落の中心地を確認しているが、現在の民家が密集している末則丘陵南斜面部周辺も集落の候補地として考えられる。注目できるのは末則丘陵西斜面部のC・D調査区から、古代の灌漑水路の可能性をもつ8世紀頃の溝を検出している点で、8世紀頃より段丘面上面の開発が本格化したことを示唆する重要な溝

跡と考えられる。

弥生時代後期後半頃より埋没を開始したSRa02、SRo05・08～10等の自然河川は、古代にはおおむね埋没を完了する。平坦化した河川上面及び周辺には土坑・溝跡等の遺構が散漫に広がる。注目できる遺構では、先の「報告Ⅰ」で紹介したA調査区のSTa01は、8世紀中葉頃の火葬墓と考えられる蔵骨器である。この墓の造営主体は在地の首長階層が推定できる。地理的な点で末則丘陵上の末則古墳群か、吉田古墳群を築造した首長層の可能性が高いものと考えられる。また、その造営者を推定する補強資料として「報告Ⅰ」で紹介しているが、周辺の自然河川や包含層から水滴や円面硯等が出土しており、少なくとも識字層の存在が指摘できる資料であり、STa01の造営者の具体像を推定するうえで貴重な資料になっている。これらの状況より8世紀頃の西末則遺跡は、古墳時代前期以降、荒廃していた当該地の段丘面上の開発を本格的に開始した時期に当るものと考えられる。その開発主体は末則丘陵上の末則古墳群や、吉田古墳群等を築造した在地の首長層の可能性が高い。

9～11世紀頃の遺構は今年度の整理対象地区では少ない。この時期の集落は、「報告Ⅳ」で紹介したE調査区のG8・10区を中心とした地域で確認している。集落が隣接するためか、SRa02等の自然河川及び包含層では、この時期の遺物が比較的多量に出土している。G8・10区集落の建物主軸は、周辺の条里型地割の方位に類似しており、少なくともこの頃には条理型地割を基準とした、段丘面上の開発が開始されていることは確実であろうが、その上限期については今後の課題となる。なお、注目できる遺物としてE6区の包含層出土の陶印(1761)や、先の報告で紹介したG8・10区集落の溝から出土した帯金具等があげられる。陶印は奈良時代から平安時代の地方豪族が、役所の公印である銅印を模倣した一種の私印であり県下でも事例はあるが希少な資料である。先述した8世紀の蔵骨器等の資料を含め、西末則周辺を拠点とする地方豪族を推測する上で重要な資料になる。

開発が及んでいない荒地に、古墳時代後期末～古代前半頃、新たな集落が開始される事例は県下でも数多く確認できる現象で、これらの集落は在地の有力な豪族層の主導による、新たな農地開発を意図した集落の可能性が考えられており(註4)、西末則遺跡の古代集落も同様の性格が考えられる。

二つの用水と条里地割

調査地内には地元で末則用水と北村用水と呼ばれる二つの灌漑水路がある。発掘調査の結果、末則用水は7～8世紀後半以降に丘陵裾部に開削され、13世紀以降に現在の位置に配された可能性が高い。検出状況から末則用水の前身と考えられる古代の灌漑水路としては、弥生時代のSDe01の西側に並走する、SDe06・11等の溝跡が考えられる。また、13世紀頃の末則用水としては、現在の末則用水と重複しているSDe24・51等の溝跡が考えられる。

北村用水は中世後半には所在していたことは確かであるが、どこまで遡るか問題としてのこる。この用水は条里地割の基準線と一部合致しており、条里地割との関係が問題となる。西末則遺跡の条里地割に係わる溝跡として先の報告で紹介しているSDd44や、C調査区の溝跡の状況等をみれば、この地域に条里地割が施行されたのは、少なくとも10世紀頃には施行されていたことは確実であるが、C調査区の7～8世紀の集落の状況等を考慮すれば更に遡る可能性は高いのであるが、北村用水の施工時期と条里地割の施工時期を直接結びつけるには無理がある。

なお、この二つの用水については、周辺の水利調査をもとにした柏氏の研究が次節で紹介しているので参照して頂きたい(註5)。

4. 中世前半

D 調査区の状況

中世前半の確実な建物は見出せない。ただ、詳細な時期判断ができない中世の建物が数棟あり、これらの中にこの時期に含まれるものが、何棟かはあるものと考えられる。中世前半の集落の中心は、概刊している先の報告をもとにすれば、当地より西方の J・K・I 調査区で確認できる。今回報告する D・E 調査区では土坑・炭焼窯・溝跡等が確認できる。

D 調査区の丘陵裾部の C13 区では、12 世紀後半頃に廃絶した SFe01・02、段丘面上の E15 区・F12 区からは SFe03～07 等の炭焼窯跡 7 基を検出している。何れも 2～3 基単位で 3 地点に分かれて分布している。共通する点では、天上部は消失し、窯内には壁体・焼土・炭片等を多量に含んだおり、不要になった窯を意図的に壊して埋め戻している状況が窺える。また、配置上で互いに接近しているため、最初の窯が壊れた後に同一地点で再構築したものと考えられる。

中世前半の溝跡としては、12～13 世紀頃の SDe08・10・13・16 等や、13 世紀以降の SDe24・25・51 等があげられる。SDe24・51 は現在の末則用水沿いに配された溝跡で、C 調査区に続く溝跡でもある。SDe24・51 は C 調査区の E16 区で、東西方向の条里地割溝 SDd41・42 と交わるため、条里地割に係わる南北方向の溝跡と考えられる。なお、溝跡以外では F12・E13 区の SSe01、SKe08・10・13 等の遺構があげられる。

E 調査区の状況

建物跡としては不明瞭ながら、C9 区の SBo01～04、E10 区 SBo05、E9w 区の SBo12・14 等の建物の可能性が考えられる。いずれも E 調査区北半部に分布する建物である。南半部にも中世の建物が分布しており、この時期に含まれる可能性もあるが、詳細な時期判断ができない建物が多い。

建物以外の遺構としては E9w 区の SSo01 や、北半部の C9・E10・E9e・E9w 区に所在する SDo05・09・10・17・20・22・23・27・30～32、南半部の F6 区 SDo40 等があげられる。傾向としてこの時期の諸遺構は、SRo05 より北側の微高地上に所在する傾向がある。

5. 中世後半～近世前半

D 調査区の状況

E14 区以南の E13・F12 区からは、中世後半～近世初頭頃の堀状の大溝で画された屋敷地を確認した。屋敷地の北辺は SDe24a、南辺は SDe43、東辺は SDe24b・SDe51、西辺は SDe42 周辺にあたり、南北約 48.0 m、東西約 53.0 m の約半町四方の面積を測る。なお、南辺と西辺については、現有の北村用水がこの時期まで遡り、屋敷地の二辺を画している可能性が高い。また、そう考えないと理解できない点が多い。例えば、屋敷地の北辺を画する SDe24a は堀状の大溝で、直線状に東西に延びており、西端部と北村用水の合流部は未掘のため不明瞭ではあるが、検出状況から推定して SDe24a と北村用水は合流しているものと考えられる。なお、屋敷地の南西隅の角地は北村用水が、東西方向と南北方向の二方向に分岐する地点にあたり、水利を管理する上での重要地点である。この屋敷地の集団が水利管理を行っていた可能性が高く、この集団が当地の水利権を掌握していた有力な集団とみる捉え方が妥当であろう。

約半町四方を測る屋敷地内からは、数条の雨落溝や小型の柱穴約 2,500 基等を確認した。この柱穴群

から中世末～近世初頭頃の大型建物を含む10棟の建物跡(SBe01～10)や、5基の柵列(SAe02～06)を復元した。これらの建物は区画溝や雨落溝を含めた検出状況から数時期の変遷が考えられるが詳細な点は今後の課題にしたい。

E 調査区の状況

北端部のE10区と南端部のF6区からは、この時期の屋敷地を南北二地点で確認した。E10区からはSDo24～26等の区画溝等の範囲内には多数の柱穴が確認され、その柱穴群からSBo08・09等の建物を復元することができる。この屋敷地はD調査区E13・F12区周辺の屋敷地の南辺に位置する北村用水の対岸に位置する。時期的にも類似するため、先述したE13・F12区周辺の屋敷地と同一系譜上の集団の可能性が考えられる。

F6区周辺は弥生時代後期後半以降の複数の自然河川が錯綜して流れる地域で、その河川が埋没し平坦化した後に古代以降の遺構が分布する。中世後半以降にはSBo18～26、SAo06～10等の建物や柵列が確認できる。これらの中でSBo20～23・25・26、SAo06・08・09等の建物や柵列は主軸を揃えて規格的に配置されており、同一時期の屋敷地内に建てられた建物群と考えられる。なお、時期的にはSBo22の出土遺物から17世紀前半頃の可能性が高い。これらの屋敷地は周辺の自然河川が埋没し、従来湿地状の地形であった地域を本格的に開発するために新たに設置された、開発集団の屋敷地の一つと考えられる。

註

1. 香川県教育委員会 1976『末則古墳調査概要』
2. 西末則遺跡の報告書としては下記の報告が概刊しており、以下『西末則遺跡Ⅰ』のことを「報告Ⅰ」、『西末則遺跡Ⅱ』のことを「報告Ⅱ」等と略称する。
香川県教育委員会 2005『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡Ⅰ』
香川県教育委員会 2007『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第2冊 西末則遺跡Ⅱ』
香川県教育委員会 2012『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第3冊 西末則遺跡Ⅲ』
香川県教育委員会 2014『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第4冊 西末則遺跡Ⅳ』
3. 鈴木茂 2005「第Ⅳ章自然科学分析結果 第1節西末則遺跡の植物珪酸体」香川県教育委員会 2005『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告 第1冊 西末則遺跡Ⅰ』香川県教育委員会
4. 広瀬和雄 1986「中世への胎動」『岩波講座 日本考古学6』
5. 西末則遺跡周辺に所在する末則用水や北村用水等の水利開発については、柏氏等の研究がある。柏氏は下記の文献で、末則用水の開削の背景には、古代末頃に起きた可能性が高い完新世段丘の形成による川の河床面の低下により、既存の水路網の修正を余儀なくされたことによるものと指摘している。また、北村用水については中世後半に末則用水から分離した用水と述べられている。
柏 徹哉・川原和生 2003「Ⅵ周辺の水利調査」『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
柏 徹哉 2005「西末則遺跡周辺の水利開発とSD04(出水遺構)」『香川県埋蔵文化財センター年報—平成15年度—』香川県埋蔵文化財センター

参考文献

- 菅原康夫 1991「遺物をもたない遺構 —伏焼木炭窯に関する予察—」『徳島県埋蔵文化財センター年報 V o 1. 2』財団法人徳島県埋蔵文化財センター
- 松本和彦 2001「第4節炭焼き窯について」『国道193号改良工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2002『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター 2003『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』
- 香川県教育委員会 2005「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成15年度』
- 香川県教育委員会 2005「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成16年度』
- 香川県教育委員会 2006「西末則遺跡」『香川県埋蔵文化財センター年報 平成17年度』

第3節 周辺水利調査と西末則遺跡検出中世居館について

高松市立川添小学校 柏 徹哉

1. はじめに

筆者は、香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査に先立って、調査地区及び周辺の水利調査を行った。水利調査結果の詳細については、すでに報告をしているので参照をして頂きたい（註1）。

さて、現在の景観を、過去の開発の結果として地表空間と考えるとき、その景観には、各時代の開発の結果が刻印されているものとする。今回の周辺水利調査の結果から2つの疑問が生じた。その解について発掘結果から若干の考察を加えたい。

2. 末則用水と北村用水の2系統の用水はいつ開発されたのか。

(1) 水利調査から

地形から考えて、この地域は1つの灌漑用水で、灌漑を行うのが自然である。しかし、山田下村側の末則用水と北村側の北村用水の2系統で灌漑されている。（第217図）もちろん行政境が灌漑範囲を決定していると考えられるのだが、条里型地割の東端1丁分のみが山田下村になっているのは不自然と言えよう。

(2) 仮説

水利調査を終え筆者は、以下の仮説を立てた。

北村と山田下村、綾川を挟んで、羽床上村と牛川村、西分村がほぼ直線に分けられている。（第218図）このことから下地中分が行われた結果ではないかと仮説を立てた。その時期は、鎌倉時代中期から南北朝時代の14世紀ではないか（註2）。

下地中分の結果、つまりもともとあった末則用水を、開発主であろうと想定される羽床氏が再開発し、北村用水と末則用水の2系統に分けたのではないか。北村用水の水源、北村出水と綾川南側を灌漑する羽床氏が開発したと考えられる羽床用水の水源、神水鼻出水は、ほぼ同じ位置にあり、水路で接続されているのも仮説の根拠である。（第218図）

(3) 発掘調査結果から

発掘調査結果から14世紀前の灌漑用水は、3系統検出されている。弥生時代後期（第219図）と古代（おそらく8世紀から10世紀）（第220図）、中世前半（12世紀から13世紀）（第221図）の3つである。いずれも、位置から末則用水の前進であると理解できる。水路が西に移動しているのは、綾川の河床面が低下した結果、水源が低下したために移動したと考えられる。古代・中世前半の灌漑用水ともに、北村用水を条里型地割を東西に横断している。これは、中世前半には北村用水は開発されていなかったことを示している。ところが16世紀に想定される集落（中世居館）に検出された大型堀状遺構には、北村用水が導水されており、16世紀にはすでに北村用水があったことを示している。（第222図）

これらのことから、仮説で想定したように、14世紀から15世紀に北村用水が開発されたことを示していると考えている。

3. 北村用水を越えて末則用水がのびていたのはなぜか。

(1) 水利調査から

水利調査の結果をみると、北村用水を樋を使って、西に横断する用水が存在している。行政境が各用水の灌漑範囲と一致していると考えると不自然である。

(2) 仮説から

北村用水と末則用水の2系統に分かれた後、何らかの理由により、北村用水側の水田への灌漑を補強するために設置された用水ではないかと仮説を立てた。17世紀に入り、皿池がつくられ、末則用水にも導水されるようになったのでこれらの用水がつくられたと考えていた。

(3) 発掘調査から

北村用水を樋で横断する末則用水の灌漑範囲からは、16世紀の集落が検出された。このことから16世紀集落であった所が、何らかの理由で廃絶され、その範囲を水田化するために末則用水を枝分かれしたことを示している。

4. 16世紀中世居館の開発範囲について

(1) 水利調査から

中世後期の方形の水堀をもつ居館は、その水堀が灌漑機能を持っていたことが広く認識されている(註3)。西末則遺跡で検出された中世居館もその機能を持っていたと考えている。

周辺部その例を探すと、西の北村に常善寺、東の法導寺がある。いずれも方形の水堀跡をもつ方形をした居館である。おもしろいことに巨視的にみると3つの居館は、1本の用水路で結ばれている。東の法導寺からでた水路は、北村用水の水源、北村出水に接続され、北村用水は、今回の中世居館の水堀を経て、西の常善寺に水堀跡に導水されている。(第218図)

(2) 本中世居館の灌漑範囲

本中世居館の水堀は、「イチノマタ」用水と「ニノマタ」用水とよばれる北村用水の支線に導水されている。このことから、この2つの用水と末則用水の灌漑範囲が、本中世居館が支配していた範囲と考えている。

この支配(開発)範囲は、先述の常善寺と本中世居館を結んだ直線に対して垂直二等分線を引いた線の東側と法導寺と本中世居館を結んだ直線に対して垂直二等分線の西側の範囲と一致する。現在その東側は、小字の末則と法道寺の境とも一致している(註4)。(第218図)

「蓮井家文書」による永正17(1520)年の北村の住民と末則弥六・弥七親子との水争いに対して、常善寺と法道寺が仲裁にあたったとの記述を信頼するならば、常善寺・本中世居館・法道寺の3者が中世後半のこの地域の開発主体であり、本中世居館の主は、末則氏であることが想定される。

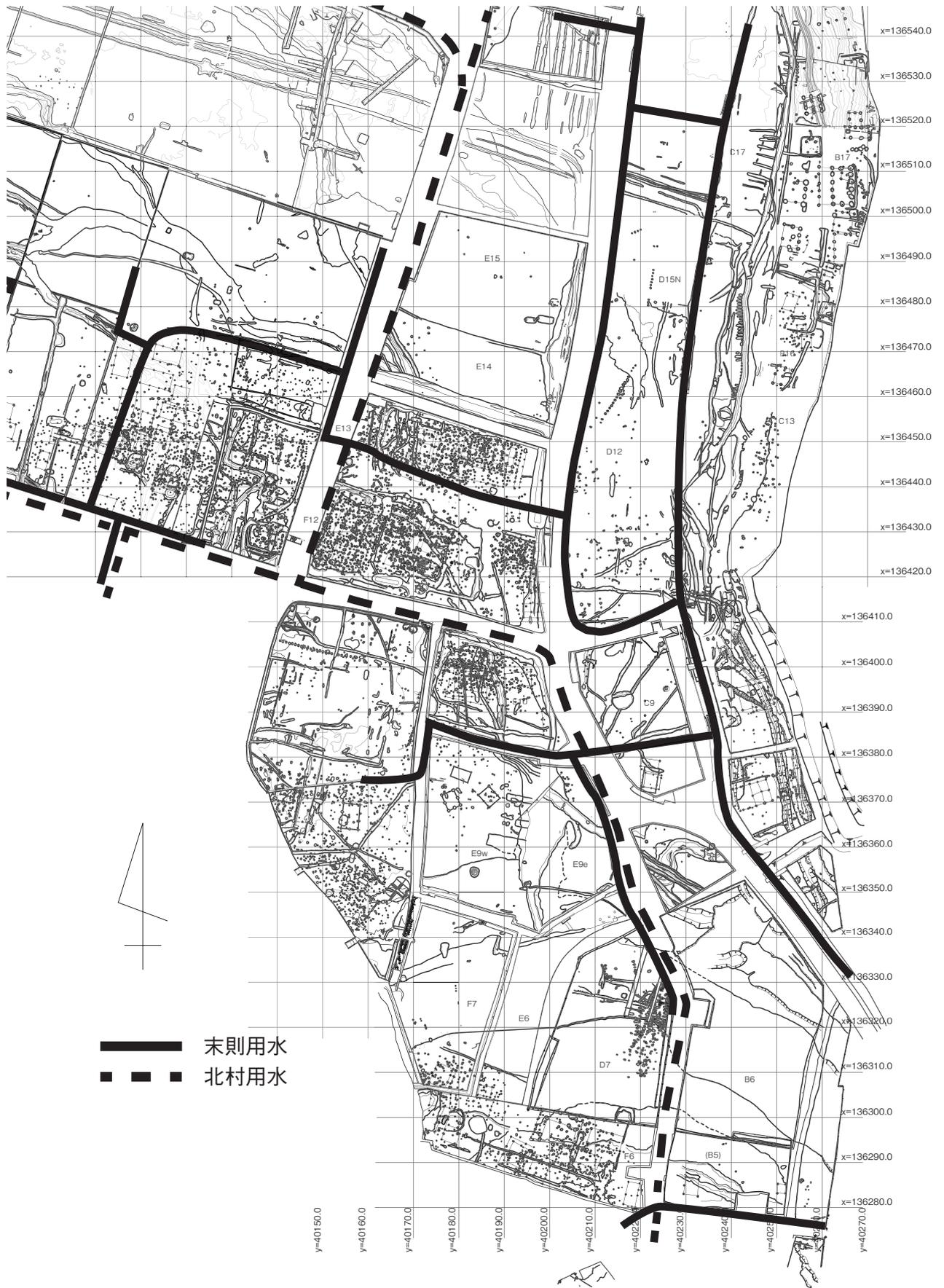
3. おわりに

水利調査の結果について、近世、近現代の開発を取り除くことで、中世後半までの環境を復原できることを示し、それを発掘調査に証明した好例であることを示した。

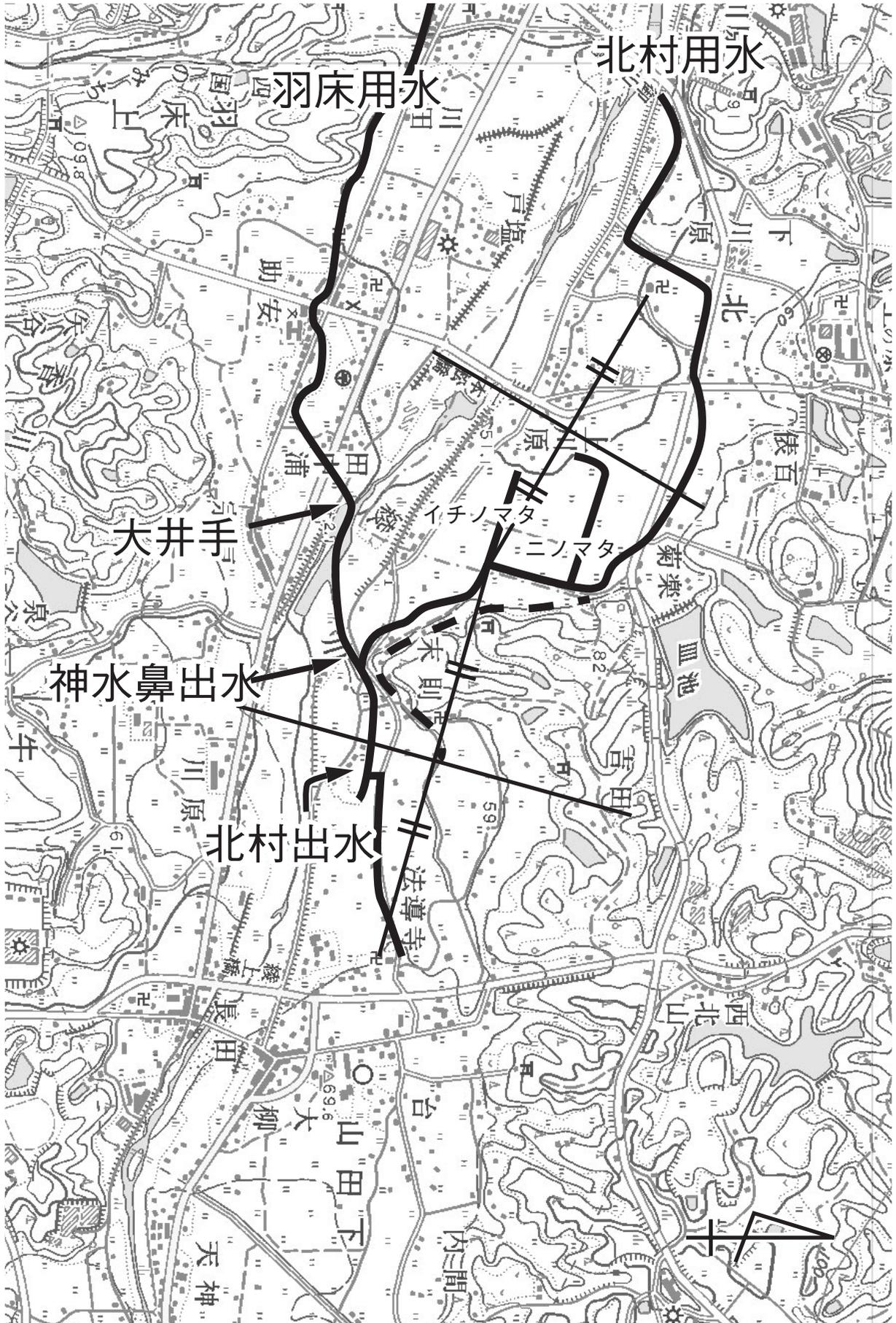
註

1. 柏 徹哉・川原和生 2003 「VI周辺の水利調査」『香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査概要報告 西末則遺跡』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
柏 徹哉 2005 「西末則遺跡周辺の水利開発とSD04(出水遺構)」『香川県埋蔵文化財センター年報—平成15年度—』香川県埋蔵文化財センター
2. 柏徹哉 御山八幡神社の氏子圏の成立とその変遷 香川地理学会会報(2002)

3. 佐野静代 平野部における中世居館と灌漑水利 - 在地領主と中世村落 - 人文地理第51巻第4号 (1999)
4. この手法は、ボロノイ分割とよばれ、ある距離空間上の任意の位置に配置された複数の点（母点）に対して、同一距離空間上の他の点がどの母点に近いかによって領域分けする手法である。地理学では、分布を理解する上でよく利用される方法で、焦点の商圈や集落の葉に葉の空間的分類に利用される。中世居館を母点として、このボロノイ分割を適応すると、理論上のボロノイ図と近世の村境が一致して例を筆者は多く検出している。



第 217 図 発掘調査前の用水配置（筆者の調査による）



第 218 図 周辺水利



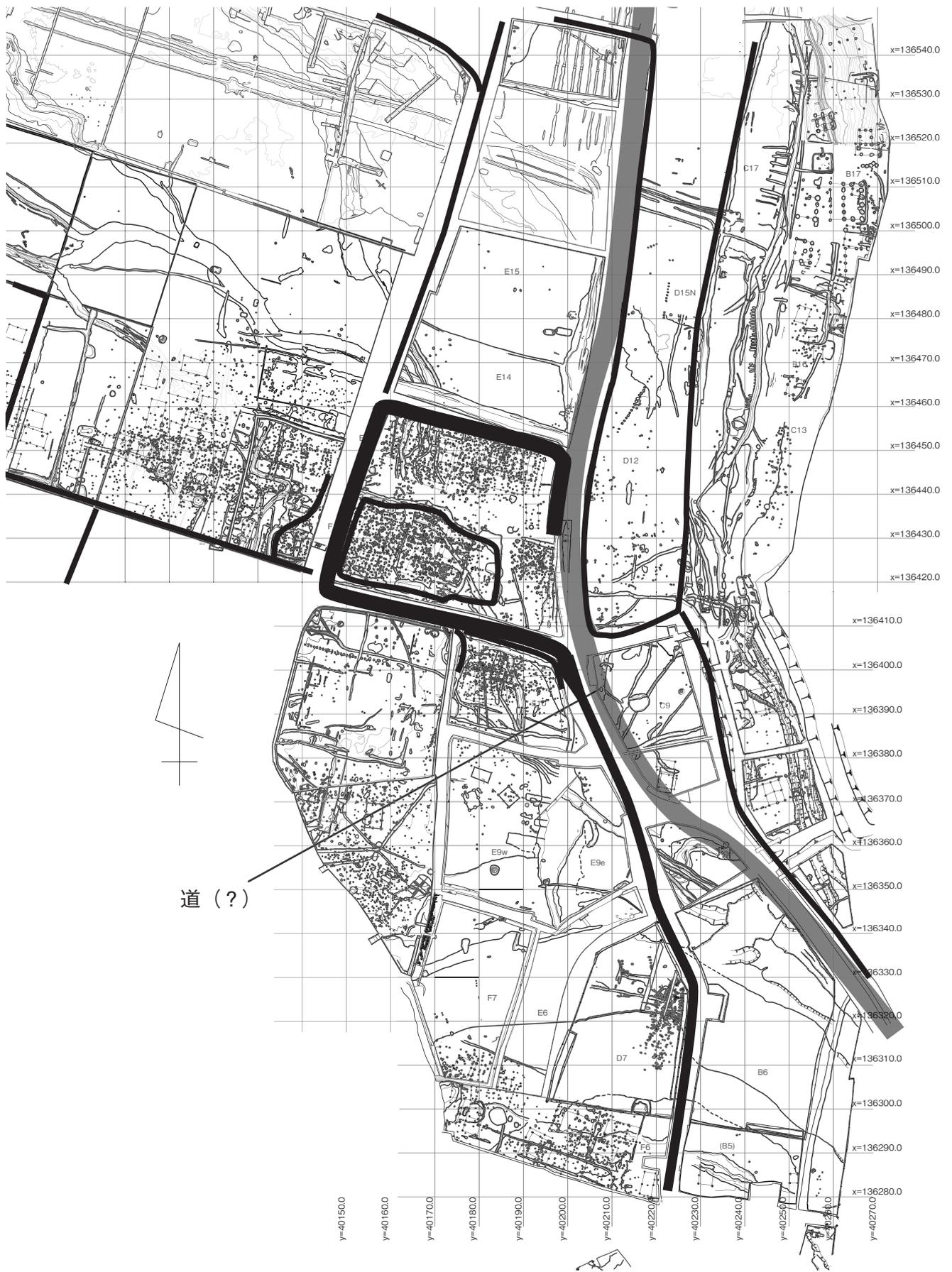
第 219 図 弥生時代後期の用水



第 220 図 古代の用水



第 221 図 中世前半の用水



第 222 図 中世後半の用水

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(1)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)	
1	SBj03	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ後不定方 向ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/3 淡黄					1.4	(58)	—	3/8
2	SBj03	J1区		黒色土器	碗	回転ナデ ラ切り後 回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	25Y8/1 灰白 25Y8/2 灰白	N3/ 暗灰 25Y8/1 灰白					—	—	—	1/8
3	SBj04	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					1.3	(6.1)	—	5/8
4	SBj04	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					1.3	(6.0)	—	2/8
5	SBj04	J1区		土師器	皿	回転ナデ	回転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白					—	—	—	破片
6	SBj04	J1区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					—	—	—	2/8
7	SBj04	J1区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					—	6.4	—	5/8
8	SBj04	J1区		須恵器	碗	回転ナデ ラ切り後高台貼 付後回転ナデ	回転ナデ 回転ナデ 回転ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐					—	—	—	3/8
9	SBj06	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25Y7/1 灰白	25Y8/2 灰白					1.1	(7.2)	—	2/8
10	SBj07	J1区		須恵器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					—	—	—	破片
11	SBj08	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白					1.2	6.0	—	5/8
12	SBj08	J1区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/2 灰白					3.7	(8.1)	—	2/8
13	SBj08	J1区		土師器	碗	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					—	—	—	1/8
14	SBj08	J1区		須恵器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					—	—	—	破片
15	SBj08	J1区		黒色土器	碗	回転ナデ ラ切り	回転ナデ 回転ナデ	N2/ 黒	N2/ 黒					—	—	—	1/8
17	SBj09	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白					1.3	6.8	—	7/8
18	SBj09	J1区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白					2.8	9.1	—	3/8
19	SBj11	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR7/4 にぶ い橙					—	(6.1)	—	1/8
20	SBj11	J1区		土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					1.1	(6.8)	—	1/8
21	SBj13	J2区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					—	—	—	1/8
22	SBj13	J2区		土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					(1.3)	(3.6)	—	2/8
23	SBj13	J2区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					1.3	(6.4)	—	3/8
24	SBj13	J2区		須恵器	甕	平行タタキ	回転ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					—	—	—	破片
25	SBj15	J2区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR8/2 灰白					1.2	5.7	—	7/8
26	SBj15	J2区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					1.4	(4.7)	—	3/8
27	SBj16	J2区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙					1.8	5.2	—	8/8
28	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/3 淡黄					1.5	7.5	—	5/8

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(2)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
29	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					中・少	9.2	2.6	7.6	—	8/8
30	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					中・少	(8.9)	1.2	(6.5)	—	1/8
31	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ(マメツ) 回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/6浅黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙					細・少	(8.7)	1.6	(5.8)	—	1/8
32	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白					中・並	8.5	1.5	7.2	—	7/8
33	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白					中・多	(8.3)	1.2	(6.4)	—	2/8
34	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ(マメツ)	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					細・少	(8.4)	—	—	—	3/8
35	SBj19	J3区		土師器	小皿	回転ナデ(マメツ) 回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ(マメツ)	10YR7/4にぶい 黄橙	10YR7/4にぶい 黄橙					中・少	(8.0)	1.6	(5.4)	—	2/8
36	SBj19	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白					中・小	8.3	2.9	4.2	—	8/8
37	SBj19	J3区		土師器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	ナデ	10YR4/1褐灰	5YR6/6橙					細・少	—	—	(6.1)	—	2/8
38	SBj19	J3区		須恵器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	ハラミガキ	N6/灰	N7/灰白					中・少	14.6	5.1	5.4	—	8/8
39	SBj19	J3区		瓦器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	ナデ後ハラミガキ	N4/灰	N5/灰					細・少	15.5	5.3	5.3	—	7/8
40	SBj19	J3区		瓦器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	ナデ後ハラミガキ	5Y7/1灰白	7.5Y6/1灰					中・少	(15.8)	4.5	4.1	—	3/8
41	SBj19	J3区		黒色土器	碗	回転ナデ ラ切り後ナデ	ハラミガキ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙					中・少	—	—	(6.9)	—	2/8
43	SBj20	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR4/1褐灰	7.5YR6/2灰褐					中・少	—	—	—	—	破片
44	SBj20	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					細・少	(7.6)	1.0	(5.9)	—	1/8
45	SBj20	J3区		土師器	皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙					中・少	(10.0)	2.4	(5.2)	—	1/8
46	SBj20	J3区		須恵器	掛鉢	回転ナデ ラ切り後ナデ	板ナデ	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/2灰白					中・多	(27.6)	11.9	(10.6)	—	2/8
47	SBj25	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白					中・少	7.2	0.9	4.9	—	8/8
48	SBj25	J3区		青磁	碗	施釉	施釉	釉：10Y6/2オ リーブ灰	胎土：10Y8/1 灰白					細・少	(18.6)	—	—	—	破片
50	SBj28	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	5YR7/6橙	10YR8/3浅黄橙					中・少	(8.4)	1.6	(4.7)	—	2/8
52	SBj29	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/4浅黄橙					細・少	(8.8)	1.4	(6.2)	—	2/8

器壁全面が受熱に伴う剥落痕に覆われる

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(3)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
53	SBj29	J3区		壁土	—	板ナデ	—	10YR5/1 褐灰	10YR7/2 にぶい 黄橙				中・並	現存長 6.6	現存幅 7.7	現存厚 4.5	—	破片	胎土中にスササ多 量に含む。縦横 正位不明だが傾 位2条・縦位1 条の骨材圧痕有
54	SBj29	J3区		壁土	—	板ナデ	—	10YR6/2 灰黄褐	7.5YR7/4 にぶ い橙				中・少	現存長 5.8	現存厚 4.7	現存厚 3.1	—	破片	
55	SBj31	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	2.5YR8/2 灰白				中・少	(11.0)	—	(7.6)	—	2/8	
56	SBj31	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰				中・並	10.1	2.9	6.0	—	5/8	
57	SBj32	J3区		土師器	鉢	指オサエ後ナデ	ハケ ナデ	5YR5/8 明赤褐	10YR6/4 にぶい 黄橙				中・多	(30.6)	—	—	—	破片	
58	SBj33	J3区		須恵器	碗	回転ナデ後ヘラミ ガキ ラ切り後高台貼付後回 転ナデ	ハケ目後ナデ	N8/ 灰白	7.5Y6/1 灰				中・多	(14.0)	5.5	(5.4)	—	3/8	
59	SBj34	J3区		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙				細・少	(11.2)	3.0	(6.0)	—	3/8	
60	SBj34	J3区		須恵器	甕	格子目タタキ	板ナデ	N6/ 灰	2.5Y6/1 黄灰				中・少	—	—	—	—	1/8	
61	SBj38	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/2 灰白	7.5YR7/4 にぶ い橙				細・少	(7.4)	1.0	(6.1)	—	3/8	
62	SBj38	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白				細・小	7.2	1.0	5.3	—	8/8	
63	SBj38	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR8/2 灰白				細・少	(7.2)	1.2	(6.2)	—	3/8	
64	SBj38	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				中・少	(7.0)	1.2	(5.1)	—	3/8	
65	SBj38	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白				中・少	(6.7)	1.1	(5.2)	—	3/8	
66	SBj38	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白				細・少	(11.8)	3.3	(6.6)	—	2/8	
67	SBj40	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	指オサエ後回転ナ デ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白				中・多	8.5	1.3	4.2	—	8/8	
68	SBj40	J3区		土師器	小皿	ヨコナデ	ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	10YR7/3 にぶい 黄橙				細・少	(16.1)	—	—	—	2/8	
69	SBj40	J3区		白磁	碗	施釉 回転ナデ	施釉	釉：7.5Y7/1 灰 白	胎土：5Y8/1 灰 白				細・少	(16.7)	—	—	—	1/8	
70	SBj41	J-8区		黒色土器	碗	指オサエ後ヘラミ ガキ 高台貼付後 回転ナデ	ハケ後ヘラミガキ	10 Y R 7/2 にぶ い黄橙	10 Y R 3/1 黒 褐				細・少	—	—	(6.0)	—	3/8	
71	SBj42	J-8区		須恵器	碗	回転ナデ後ヘラミ ガキ	ナデ後ヘラミガキ	N6/ 灰	2.5Y7/2 灰黄				細・少	(15.0)	—	—	—	1/8	
72	SBj43	J-8区		須恵器	碗	回転ナデ後ヘラミ ガキ	ナデ後ヘラミガキ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白				細・少	(15.8)	—	—	—	1/8	
73	SBj43	J-8区		須恵器	碗	回転ナデ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	板ナデ	5Y7/1 灰白	5Y6/1 灰				細・少	—	—	5.9	—	8/8	
74	SBj44	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙				中・少	(13.7)	3.2	(6.1)	—	2/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(4)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)	残存 率
75	SP45	J1区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25Y8/1灰白	25Y8/1灰白					細・少	(88)	1.4	(78)	—	2/8	
76	SP93	J-8区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					中・少	(145)	3.6	(9.2)	—	4/8	
77	SP106	J-8区		瓦器	椀	指オサ エ後ヘラミガキ	ナデ後ヘラミガキ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・少	(138)	—	—	—	1/8	遺構位置不明
78	SP132	J-8区		土師器	椀	指オサエ後回転ナ デ 高台貼付後ナ デ	指オサエ後ナデ	2.5YR6/6 橙	2.5YR6/6 橙					細・多	(146)	—	—	—	1/8	
79	SP194	J-8区		須恵器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ	ハケ後ヘラミガキ	10 Y R 8/2 灰白	10 Y R 8/2 灰 白					中・少	(138)	—	—	—	1/8	
80	SP214	J1区		黑色土器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ヘラ切 り後高台貼付後回 転ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y3/1 黒褐					細・少	—	—	(5.2)	—	5/8	
81	SP242	J3区		土師器	杯	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄					細・多	(136)	3.7	7.9	—	5/8	
82	SP254	J3区		土師器	杯	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/4 浅黄橙	2.5Y8/3 淡黄					細・少	(108)	3.0	(7.0)	—	4/8	
83	SP290	J3区		須恵器	椀	高台貼付後回転ナ デ	ヘラミガキ	5Y7/1 灰白	5Y8/1 灰白					細・多	—	—	5.3	—	7/8	
84	SP292	J3区		須恵器	椀	ナデ後ヘラミガキ 回転ヘラ切り後 高台貼付後回転ナ デ	ナデ後ヘラミガキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	—	—	(5.8)	—	2/8	
85	SP332	J3区		瓦質土器	小皿	ヘラミガキ(マメ ツ)	ヘラミガキ(マメ ツ)	N5/ 灰	N5/ 灰					中・並	(88)	1.9	(4.9)	—	3/8	
86	SP336	J3区		土師器	鉢	指オサエ 指オサ エ後板ナデ	ハケ後ヨコナデ 板ナデ	10YR6/3 にぶい 黄橙	5YR6/6 橙					中・多	(32.2)	—	—	—	破片	
87	SP336	J3区		瓦器	椀	ヨコナデ 指オサ エ 高台貼付後回 転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	5YR7/6 橙	5YR8/4 淡橙					中・少	(144)	4.3	(4.5)	—	2/8	被熱によるカー ボン消滅?
88	SP339	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り	回転ナデ 不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	8.5	1.5	7.2	—	8/8	底部：剥離面に モミ圧痕有
89	SP339	J3区		黑色土器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ	ナデ後ヘラミガキ	10YR8/3 浅黄橙	10YR3/1 黒褐					細・少	(15.0)	—	—	—	2/8	
90	SP525	J2区		須恵器	椀	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ハケ後ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/2 灰白					中・少	(12.7)	4.1	3.9	—	2/8	
91	SP549	J2区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	(8.4)	—	(6.4)	—	1/8	
92	SP666	J4区		瓦器	椀	指オサエ 回転ヘ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ヘラミガキ	N5/ 灰	N4/ 灰					細・少	—	—	(4.6)	—	2/8	
93	SP668	J4区		瓦器	小皿	回転ナデ 指オサ エ	回転ナデ	N4/ 灰	2.5Y7/2 灰黄					細・少	(7.8)	—	—	—	1/8	
94	SP672	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙					細・少	(13.1)	3.6	5.6	—	6/8	

第3表 西末則遺跡V出土器観察表(5)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
95	SP760	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 指オサ 工後回転ナデ 回 転ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白					細・少	(14.6)	3.0	(8.8)	—	2/8
96	SP846	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25Y7/3 浅黄	25Y7/3 浅黄					細・少	(8.1)	1.4	5.5	—	5/8
97	SP846	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	25Y8/2 灰白	25Y8/2 灰白					中・少	7.7	1.2	6.3	—	6/8
98	SP952	J3区		黒色土器	椀	ナデ後へラミガキ 回転ナデ	回転ナデ	7.5Y2/1 黒	7.5Y2/1 黒					中・少	(15.0)	—	—	—	1/8
99	SP980	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	(9.2)	1.5	(6.3)	—	5/8
100	SP980	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/6 橙					細・少	(8.4)	1.6	(6.0)	—	3/8
101	SP1051	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	10YR6/4 にぶい 黄橙	10YR6/4 にぶい 黄橙					細・多	12.8	3.9	6.8	—	7/8
102	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	10YR7/3 にぶい 黄橙					中・並	11.8	3.2	6.5	—	8/8
103	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/3 にぶい 橙	7.5YR8/3 浅黄 橙					中・少	(11.4)	3.0	(5.9)	—	3/8
104	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙					中・並	11.3	2.8	6.7	—	8/8
105	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少	11.0	3.1	7.1	—	6/8
106	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ 後不定方 向ナデ	2.5Y6/2 灰黄	10YR7/2 にぶい 黄橙					細・少	10.9	2.7	6.8	—	6/8
107	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					中・少	10.9	2.7	7.9	—	8/8
108	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	10.8	3.0	4.7	—	5/8
109	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	10.8	2.7	6.4	—	7/8
110	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少	(10.6)	2.9	5.2	—	5/8
111	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	11.1	3.0	6.5	—	6/8
112	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	10.3	3.0	6.3	—	7/8
113	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					細・少	(10.3)	3.3	(6.0)	—	3/8
114	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y7/4 浅黄					中・少	(10.0)	3.0	(5.9)	—	2/8
115	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ 後回転ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					中・少	10.4	2.8	7.7	—	7/8
116	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ 後板状圧痕	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	4.8	2.7	6.0	—	8/8
117	SP1115	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	10.0	2.7	6.4	—	8/8

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(6)

報文 番号	報告 遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
118	SP1115	J3区		土師器	足釜	ヨコナデ タタキ後ナデ 指ナデ	指オサエ ハケ後 板ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR8/3 浅黄橙					中・並	(208)	—	—	1/8	
119	SP1149	J3区		土師器	足釜	ヨコナデ 指オサエ後ナ エ	板ナデ	7.5YR6/4 におい 橙	2.5Y7/1 灰白					細・少	(238)	—	—	1/8	
121	SP1175	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ 後不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	(76)	1.1	(6.0)	2/8	
122	SP1234	J3区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ (マメ ソ)	回転ナデ	10YR7/2 におい 黄橙	10YR4/1 褐灰					細・少	(138)	3.8	(8.4)	2/8	
123	SP1262	J7区		瓦器	椀	ヨコナデ後 ガキナデ	ハラミガキ	2.5Y3/1 黒褐	2.5Y6/1 黄灰					中・少	(146)	—	—	1/8	
124	SP1274B	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナデ 板状庄痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					中・並	(82)	1.7	(6.6)	3/8	
125	SP1274A	J4区		土師器	銅	ヨコナデ エ後ナデ	指オサエ ハケ	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/3 におい 黄橙					中・多	(330)	—	—	破片	
126	SP1276	J4区		土師器	鍋	指オサエ後ナ デ	板ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐					中・多	(322)	—	—	1/8	
127	SP1282	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ハラミガキ ラ切り後板ナ デ	板ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	—	—	(5.0)	3/8	
128	SP1285	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナ デ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	(96)	1.3	6.8	3/8	
129	SP1285	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ハラミガキ	回転ナデ後 ハラミガキ	N3/ 暗灰	N8/ 灰白					細・少	(148)	—	—	1/8	
130	SP1299	J4区		土師器	銅	ヨコナデ エ後ナデ	指オサ エ	10YR3/2 黒褐	10YR6/3 におい 黄橙					中・多	(372)	—	—	破片	
131	SP1299	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ハラミガキ	回転ナデ後 ハラミガキ	N5/ 灰	N5/ 灰					細・少	(148)	4.7	(5.2)	3/8	
132	SP1299	J4区		須恵器	甕	平行タタキ ナデ	ヨコナデ 青海波	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y6/2 灰黄					細・少	(368)	—	—	2/8	
133	SP1317	J3区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板状 庄痕	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・多	(88)	1.6	(5.4)	2/8	
134	SP1328	J4区		黒色土器	椀	ハラミガキ (マメ ソ)	ハラミガキ	10YR8/4 浅黄 橙	N2/ 黒					細・少	(140)	—	—	2/8	
135	SP1337	J4区		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					中・少	(139)	—	—	1/8	
136	SP1350	J4区		黒色土器	皿	ハラミガキ ラ切り後ナ デ	回転ナデ 後ハラミガキ	N2/ 黒	N2/ 黒					細・少	(88)	1.2	(6.0)	1/8	
137	SP1364	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナ デ	回転ナデ後 不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	7.5YR7/6 橙					細・少	7.7	1.5	6.0	8/8	
138	SP1385	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナ デ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					細・少	(80)	1.3	(6.4)	3/8	
139	SP1387	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/3 浅黄 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					中・少	(145)	3.4	(6.0)	2/8	
140	SP1387	J4区		瓦器	椀	指オサエ 工後高台貼付 後回転ナ デ	指オサエ 工後高台貼付 後回転ナ デ	5Y4/1 灰	5Y6/1 灰					中・少	—	—	(4.6)	3/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(7)

報文 番号	報告 遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考				
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)	残存 率	
141	SP1391	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ(マメツ)	7.5YR8/3 浅黄 橙	7.5YR8/3 浅黄 橙						中・少	(8.3)	1.0	(5.1)	—	4/8	
143	SP1438	J4区		白磁	皿	施釉	施釉	釉: 5Y7/2 灰白	胎土: 5Y8/1 灰 白						細・少	(15.6)	—	—	—	1/8	
144	SP1442	J4区		黒色土器	椀	指オサエ後ナデ後 ヘラミミガキ	ヘラミミガキ	N5/ 灰	N5/ 暗灰						細・少	(15.7)	—	—	—	1/8	
145	SP1445	J4区		施釉陶器	蓋	ナデ後施釉	—	釉: 7.5Y7/1 灰 白	胎土: 7.5YR7/4 にぶい橙						細・少	—	—	つまみ 径2.9	—	8/8	
146	SP1450	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄 橙	10YR8/3 浅黄 橙						細・少	(8.2)	1.4	(6.0)	—	4/8	
147	SP1450	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白						中・少	(13.9)	—	(8.3)	—	1/8	
148	SP1450	J4区		須恵器	鉢	指オサエ後ヨコナ デ	ヨコナデ 板ナデ	N4/ 灰	N6/ 灰						細・少	(26.0)	—	—	—	1/8	
150	SP1492	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ(マメツ)	10YR8/4 浅黄 橙	10YR8/4 浅黄 橙						細・多	(7.6)	1.2	(5.0)	—	2/8	
151	SP1500	J4区		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶ い橙					細・少	(13.4)	—	—	—	1/8		
152	SP1500	J4区		須恵器	椀	回転ナデ 付後回転ナデ	ナデ後ハケ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y7/1 灰白						細・少	(14.9)	4.8	(5.0)	—	3/8	
153	SP1500	J4区		須恵器	椀	回転ナデ	ナデ後ハケ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/1 灰白						細・少	(14.0)	—	—	—	1/8	
154	SP1517	J4区		土師器	台付 小皿	回転ナデ 回転ナデ	台付 1ヶ所 穿孔	7.5YR7/6 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙						細・少	8.5	4.4	6.4	—	8/8	
155	SP1520	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	10YR8/3 浅黄 橙						細・少	(8.4)	1.5	(6.2)	—	2/8	
156	SP1520	J4区		土師器	台付 小皿	回転ナデ ラ切り後回転ナデ	回転ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y6/2 灰黄						中・少	(8.8)	2.1	—	—	3/8	
157	SP1520	J4区		土師器	杯	回転ナデ 痕後回転ナデ	回転ナデ	10YR8/4 浅黄 橙	10YR8/2 灰白						細・少	(12.2)	3.8	7.5	—	5/8	
158	SP1522	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙						中・少	(7.5)	1.0	5.1	—	4/8	
159	SP1523	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR6/6 橙						細・少	(8.0)	—	—	—	3/8	
160	SP1523	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	7.5YR8/6 浅黄 橙						中・少	(8.0)	1.2	(5.2)	—	6/8	
161	SP1523	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y7/2 灰黄	2.5Y7/2 灰黄						細・少	(7.4)	1.3	(4.3)	—	2/8	
162	SP1531	J4区		土師器	管状 土鍾	ナデ	—	10YR6/3 にぶい 黄橙	—						細・少	現存長 3.2	幅1.3	—	—	6/8	厚さ1.2
163	SP1533	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰						中・少	(8.2)	1.2	(6.2)	—	2/8	
164	SP1552	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/3 浅黄 橙	10YR8/3 浅黄 橙						細・少	(7.8)	1.3	(5.8)	—	3/8	
165	SP1555	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄 橙	10YR8/3 浅黄 橙						細・少	(8.4)	1.6	(5.7)	—	3/8	
166	SP1568	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						中・少	(12.4)	3.4	(5.3)	—	5/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(9)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考				
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)	残存 率	
191	SP2013	J4区		瓦器	小皿	回転ナデ 指オサ 工後ナデ	ナデ	5Y3/1オリーブ 黒	5Y3/1オリーブ 黒						中・少	(8.5)	1.5	(3.6)	—	4/8	
192	SP2020	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙						細・少	7.8	1.2	5.3	—	7/8	
193	SP2020	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						細・少	(12.5)	—	—	—	1/8	
194	SP2020	J4区		須恵器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N8/灰白	N8/灰白						細・少	—	—	(5.9)	—	4/8	
195	SP2022	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白						中・少	(8.5)	1.4	6.5	—	4/8	
196	SP2024	J4区		瓦器	鉢	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N3/暗灰	N3/暗灰						中・多	(30.4)	—	—	—	1/8	受熱に伴うと考 えらる微細剥離真 多数
197	SP2028	J4区		白磁	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	施釉	釉:2.5Y8/3淡 黄	胎土:5Y8/1灰 白						細・少	(18.6)	—	—	—	1/8	
198	SP2030	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						中・並	8.9	1.6	7.4	—	7/8	
199	SP2036	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白						細・少	(8.6)	1.4	(6.4)	—	2/8	
200	SP2043	J4区		白磁	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	施釉	釉:7.5Y8/1灰 白	胎土:7.5Y8/1 灰白						細・少	(17.9)	—	—	—	破片	
201	SP2048	J4区		黒色土器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N3/暗灰	N3/暗灰						細・少	(15.6)	—	—	—	2/8	
202	SP2078	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	2.5Y8/2灰白						中・少	7.9	1.4	5.9	—	7/8	
203	SP2096C	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR7/4にぶい 黄橙	7.5YR6/6橙						細・少	7.4	1.4	5.1	—	8/8	
204	SP2096	J4区	上面	土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR4/2灰黄褐	10YR7/4にぶい 黄橙						中・少	(14.2)	3.2	(7.3)	—	3/8	
205	SP2096B	J4区		黒色土器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N2/黒	2.5Y7/2灰黄						細・少	(16.0)	—	—	—	2/8	
206	SP2102	J4区		瓦質土器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N4/灰	7.5Y7/1灰白						中・少	—	—	(6.0)	—	2/8	
207	SP2106	J4区		土師器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙						細・少	(14.0)	—	—	—	3/8	
208	SP2111	J4区		土師器	台付 小皿	回転ナデ	回転ナデ	5YR7/8橙	5YR7/8橙						中・少	7.8	6.4	7.3	—	7/8	
209	SP2111	J4区		壁土	—	—	—	7.5YR7/6橙	7.5YR7/6橙						細・少	現存長 (7.6)	現存幅 (4.2)	現存厚 (2.7)	—	破片	スサを多量に含 む、正面骨材真 有り。土師質土 器片を含む。
210	SP2142	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙						中・並	(14.2)	3.3	(6.0)	—	3/8	
211	SP2143	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	7.5YR7/6橙	10YR8/3浅黄橙						中・多	(14.3)	—	—	—	2/8	
212	SP2156	J4区		須恵器	椀	回転ナデ 回転ナデ 板状庄痕	回転ナデ	N7/灰白	N7/灰白						細・少	(15.4)	4.6	(5.4)	—	1/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(11)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
234	SKj60	J3区		土師器	小皿	回転ナデ(マメツ)	回転ナデ(マメツ)	N3/暗灰	2.5Y8/2灰白					8.8	1.8	6.0	—	8/8	
235	SKj60	J3区		土師器	杯	回転ナデ 板ナデ 後板状圧痕 表面:板ナデ	回転ナデ 板ナデ 後板状圧痕 向ナデ	2.5Y7/3浅黄	2.5Y8/2灰白					(14.4)	3.4	(5.5)	—	3/8	
236	SKj61	J3区		壁土	—	—	—	10YR7/3にぶい 黄橙	—					現存長 7.7	現存幅 9.9	現存厚 5.7	—	破片	竹管状の骨材を 2本×1本の組 み合わせて使用
237	SKj61	J3区		壁土	—	表面:板ナデ	—	7.5YR7/6橙	10YR7/3にぶい 黄橙					現存長 6.3	現存幅 8.7	現存厚 4.1	—	破片	
238	SKj64	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ(見込部 先行する個体の切 離痕がナデ消され ずに残る)	10YR8/2灰白	10YR7/3にぶい 黄橙					(7.6)	1.4	4.1	—	4/8	
239	SKj64	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り	回転ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙					(7.8)	0.7	(5.9)	—	2/8	
240	SKj65	J3区		須恵器	椀	回転ナデ 回転へ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ハケ後ヘラミガキ	10YR6/1褐灰	N5/灰					—	—	—	—	6/8	
241	SKj81	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白					(9.0)	1.3	(7.4)	—	3/8	
242	SKj81	J7区		黒色土器	椀	ヨコナデ(マメツ) ナデ 回転へラ切 り後高台貼付後回 転ナデ	ヘラミガキ(剥離)	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙					(16.0)	—	—	—	1/8	
243	SKj87	J4区		土師器	椀	回転ナデ 回転へ ラ切り後高台貼付後回 転ナデ	板ナデ	10YR7/2にぶい 黄橙	2.5Y8/1灰白					—	—	5.2	—	5/8	
244	SKj87	J4区	上層	青磁	椀	施釉	施釉	釉:7.5YR6/2灰 褐	胎土:2.5Y7/1 灰白					(16.8)	—	—	—	2/8	
245	SKj87	J4区		青磁	椀	施釉	施釉	釉:5Y6/2灰オ リーブ	胎土:2.5Y8/2 灰白					(16.0)	—	—	—	4/8	
246	SKj99	J4区		土師器	椀	回転ナデ 高台貼 付後回転ナデ	板ナデ	2.5Y8/1灰白	2.5Y8/1灰白					(14.2)	4.6	4.7	—	4/8	
247	SKj100	J4区		瓦器	椀	ヨコナデ 指オサ エ	ヨコナデ後ヘラミ ガキ	N5/灰	N5/灰					(14.9)	—	—	—	破片	
248	SKj101	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り後回転ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙					(12.8)	3.9	(4.6)	—	2/8	
249	SKj104	J4区		土師器	鍋	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR5/2灰黄褐	10YR8/3浅黄橙					(38.8)	—	—	—	破片	
250	SKj105	J4区		瓦器	椀	指オサエ 高台貼 付後回転ナデ	板ナデ後ヘラミガ キ	2.5Y8/2灰白	N4/灰					—	—	(5.5)	—	2/8	
251	SKj106	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り	回転ナデ	2.5Y5/1黄灰	2.5Y5/1黄灰					(8.4)	1.4	(5.1)	—	2/8	
252	SKj106	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 高台貼付後 回転ナデ	ハケ後ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					(14.6)	4.8	4.9	—	6/8	
253	SKj107	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6橙	10YR8/2灰白					(8.6)	1.4	(5.9)	—	2/8	
254	SKj108	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄 橙					13.7	3.7	8.5	—	8/8	
255	SKj108	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ	回転ナデ	2.5Y6/2灰黄	N4/灰					(15.2)	—	—	—	2/8	
256	SKj108	J4区		須恵器	甕	ヨコナデ 格子目 ヨコナデ タタキ	板ナデ ヨコナデ ナデ	N5/灰	N7/灰白					—	—	—	—	2/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (13)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				質量 (cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)
276	SKJ130	J4区		黒色土器	碗	ナデ 回転ヘラ切 り後板ナデ後板状 庄痕 高台貼付後 回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	25Y8/2 灰白	25Y3/1 黒褐					—	(5.1)	—	3/8	
277	STJ01	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ	25Y8/3 淡黄	25Y8/3 淡黄					中・少	8.7	1.6	8/8	
278	STJ01	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	7.5YR6/4 にぶい 橙	7.5YR6/6 橙					細・多	8.4	1.1	8/8	
279	STJ01	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	10YR7/3 にぶい 黄橙					細・少	4.3	1.3	8/8	
280	STJ01	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR7/4 にぶい 黄橙					中・多	8.3	1.4	7/8	
281	STJ01	J7区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・多	7.9	1.6	8/8	
282	STJ01	J7区		白磁	皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 露胎	回転ナデ後施釉 底ノ目軸削ぎ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y8/1 灰白					細・少	9.8	2.3	8/8	
302	STJ02	J7区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ後不定方 向ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR8/2 灰白					中・少	7.0	0.9	7/8	
303	STJ02	J7区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ (マメツ)	10YR3/1 黒褐	5YR6/6 橙					粗・少	(9.0)	1.6	(6.5)	1/8
304	STJ03	J2区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	2.5YR7/6 橙					中・少	(8.7)	1.3	(6.7)	1/8
305	STJ03	J2区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ後不定方 向ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR7/3 にぶい 黄橙					細・少	7.8	1.4	8/8	
306	STJ03	J2区	裏込 土	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	8.1	1.3	7/8	
307	STJ03	J2区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ後不定方 向ナデ	5YR8/4 淡橙	5YR8/4 淡橙					中・少	7.7	1.4	7/8	
308	STJ03	J2区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状庄痕	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	7.7	1.2	8/8	
311	SFJ02	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR7/3 にぶい 黄橙					細・少	7.9	1.4	6/8	
312	SFJ03	J2区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR6/4 にぶい 黄橙	7.5YR6/6 橙					中・少	(8.0)	1.3	(4.6)	2/8
313	SFJ03	J2区	炭層	土師器	小皿	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/3 にぶい 黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	(7.4)	—	—	1/8
314	SFJ03	J2区	炭層	須恵器	碗	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後高 台貼付後回転ナデ	ハケ後ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	—	—	(4.8)	2/8
315	SFJ04	J7区	中層	土師器	碗	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後高 台貼付後回転ナデ (マメツ)	マメツ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					細・少	—	—	(5.8)	4/8
316	SEJ02	J2区	下層	土師器	足釜	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ヨコナ デ 指オサエ後ナ デ	指オサエ後ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	5YR6/6 橙					細・多	(24.4)	—	—	3/8
318	SDJ01	J1区	上層	土師器	鍋	ヨコナデ 指オサ エ後ナデ	ヨコナデ 板ナデ	10YR3/1 黒 褐	10YR4/1 褐灰					中・並	—	—	—	破片

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(14)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			残存 率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)
319	SDj01	J1区 南庭 敷区	下層	瓦器	小皿	回転ナデ 指オサ エ	ナデ	N3/暗灰	N3/暗灰								1/8		
320	SDj01	J1区	上層	陶器	壺	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR5/3にぶ い褐	7.5YR6/3にぶ い褐								1/8	備前	
321	SDj08	J1区		磁器	皿	施釉	染付後施釉	釉:5GY8/1灰 白	胎土:7.5Y8/1 灰白								1/8		
322	SDj10・ SDj11・ SDj72合 流部	J3区		土師器	土鉢	ナデ	—	2.5Y7/2灰黄	—							幅1.3	厚さ 1.3	8/8	
323	SDj10	J3区		瓦器	小皿	ナデ	ナデ	2.5Y3/1黒褐	2.5Y3/1黒褐							1.4	(4.3)	1/8	
325	SDj11	J3区		青磁	碗	施釉	施釉	釉:7.5Y6/2灰 オリーブ	胎土:5Y8/1灰 白									1/8	
326	SDj11	J3区		白磁	碗	施釉	施釉	釉:5Y7/2灰白	胎土:5Y7/1灰 白									1/8	
328	SDj20	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR7/2にぶ い黄橙							1.2	(6.0)	3/8	
329	SDj20	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/3 浅黄橙							0.8	(4.9)	3/8	
330	SDj20	J3区		瓦器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	N4/灰	N4/灰								2/8		
331	SDj27	J6区	上層	弥生土器	把手 付片 口鉢	ナデ	ナデ	5YR4/8赤褐	2.5Y3/1黒褐	中・並	中・少							破片	
332	SDj27	J2区	上層	弥生土器	鉢	板ナデ	板ナデ	10YR6/6明黄褐	2.5Y4/1黄灰	中・多							(4.9)	1/8	
333	SDj27	J5区	上層	弥生土器	鉢	板ナデ(マメツ)	指オサエ後ナデ	10YR7/2にぶ い黄橙	10YR7/2にぶ い黄橙	細・並							2.6	6/8	
334	SDj27	J2区	上層	弥生土器	高杯	マメツ	ヘラ削り(マメツ)	10YR7/3にぶ い黄橙	10YR7/3にぶ い黄橙	中・並								2/8	二箇所 に穿孔有
335	SDj27	J2区	上層	須恵器	ハソ ウ	回転ナデ後波状文	回転ナデ	N6/灰	N5/灰									1/8	
337	SDj27	J6区	中層 下位	弥生土器	壺	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR6/3にぶ い黄橙	10YR6/3にぶ い黄橙	細・多								2/8	
338	SDj27	J5区	中層 上位	弥生土器	壺	ハケ	ナデ(マメツ)	5YR6/6橙	5YR6/6橙	中・多								6/8	
339	SDj27	J5区	中層 下位	弥生土器	甕	ヨコナデ 指オサ エ後ナデ ヘラ削 り	ヨコナデ 指オサ エ後ナデ ヘラ削 り	10YR5/4にぶ い黄褐	2.5Y7/3 浅黄	中・多								1/8	
340	SDj27	J2区	中層	弥生土器	甕	ハケ ヨコナデ	ヨコナデ ヘラ削 り	10YR6/4にぶ い黄橙	10YR6/4にぶ い黄橙	中・並								1/8	
341	SDj27	J2区	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ(マ メツ)	ヨコナデ マメツ	10YR6/3にぶ い黄橙	10YR6/2灰黄褐	細・多								2/8	
342	SDj27	J3区	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/6褐	10YR4/6褐	中・並	細・少							1/8	
343	SDj27	J5区	中層 上位	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ(マ メツ)	ヨコナデ ハケ	10YR7/3にぶ い黄橙	10YR7/3にぶ い黄橙	中・並	中・少							2/8	
344	SDj27	J2区	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ ヘラ削 り	10YR6/3にぶ い黄橙	10YR6/3にぶ い黄橙	中・多								1/8	
345	SDj27	J2区	中層	弥生土器	甕	板ナデ・マメツ	ヘラ削り(マメツ)	10YR7/6明黄褐	7.5YR7/8黄橙	中・並							3.0	8/8	

第3表 西末遺跡V出土土器観察表 (15)

第2分冊

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存 率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)
346	SDj27	J2区	中層	弥生土器	鉢	ヨコナデ エ後ナデ ナデ	指オサ エ後ナデ ハラ削 リ	ハケ	10YR6/4にぶい 黄橙	10YR6/4にぶい 黄橙	粗・並		小・並	(16.6)	—	—	1/8		
347	SDj27	J3区	中層	弥生土器	高杯	マメツ		マメツ	7.5YR5/6明褐	7.5YR5/6明褐	中・並		細・ 少	—	(16.0)	—	1/8		
348	SDj27	J6区	上層	弥生土器	高杯	ハケ ヨコナデ	指オサエ エ後ナデ	指オサエ エ後ナデ	7.5YR5/4にぶい 褐	7.5YR5/4にぶい 褐	中・並	中・少		—	(11.6)	—	2/8		
350	SDj27	J5区	下層	弥生土器	壺	ハケ 後ヨコナデ ハケ	指オサエ エ後ナデ ナデ	ヨコナデ 指オサエ エ後ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙	中・並	中・少		(15.5)	—	—	5/8		
351	SDj27	J3区	下層	弥生土器	壺	ヨコナデ 指オサエ	指オサエ エ後ナデ	ヨコナデ 指オサエ エ後ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/3にぶい 黄橙	細・並	細・並		—	—	—	2/8		
352	SDj27	J5区	中層 下位	弥生土器	壺	ハケ 後ナデ	ハケ	ハケ 板ナデ ハラ削り	10YR6/2灰黄褐	10YR6/3にぶい 黄橙	粗・多	粗・少		(17.0)	—	—	4/8		
353	SDj27	J5区	下層	弥生土器	壺	タタキ 後ハケ オサエ	指	ハケ 指オサエ	2.5Y5/3黄褐	2.5Y6/3にぶい 黄	粗・並	粗・少		—	4.6	—	5/8		
354	SDj27	J3区	中層	弥生土器	壺	ハケ ナデ	ナデ	ハラ削り	7.5YR8/4浅黄褐	5YR6/6橙	中・並	中・少		—	(6.9)	—	3/8		
355	SDj27	J2区	下層	弥生土器	甕	ナデ	ナデ	板ナデ	10YR5/3にぶい 黄褐	10YR5/2灰黄褐	中・並	中・少		(13.4)	—	—	1/8		
356	SDj27	J5区	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ	ナデ	ヨコナデ ハラ削り	10YR6/3にぶい 黄橙	2.5Y6/1黄灰	細・少	細・少		(17.0)	—	—	1/8		
357	SDj27	J6区	下層	弥生土器	甕	ハケ	ハラ削り	ハケ ハラ削り	10YR5/2灰黄褐	10YR5/4にぶい 黄橙	中・並	中・少		(12.4)	—	—	2/8		
358	SDj27	J2区	下層	弥生土器	甕	ナデ	(マメツ)	指オサエ 後ナデ (マメツ)	7.5YR7/6橙	5YR6/6橙	中・並			(12.4)	—	—	1/8		
359	SDj27	J3区	下層	弥生土器	甕	指オサエ 後ナデ	指オサエ 後ナデ	ハケ 後ハラミガキ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR8/2灰白	中・並	細・少	細・少	—	—	3.3	—	8/8	外面底部と体部の 境に穿孔?有 砂粒の抜けな 痕の可能性も 有。
360	SDj27	J2区	下層	弥生土器	甕	板ナデ		ハラ削り	10YR3/1黒褐	7.5YR5/8明褐	中・多		粗・多	—	4.0	—	8/8		
361	SDj27	J3区	下層	弥生土器	鉢	ヨコナデ エ後ナデ	指オサ エ後ナデ	指オサエ 後板ナデ	10YR6/4にぶい 黄橙	10YR3/2黒褐	細・多		細・多	(19.8)	—	—	1/8		
362	SDj27	J3区	下層	弥生土器	鉢	ナデ (マメツ)		ハケ	10YR7/3にぶい 黄橙	2.5Y3/1黒褐	中・並		細・ 並	(14.1)	—	—	2/8		
363	SDj27	J3区	下層	弥生土器	鉢	タタキ 後ナデ	ナデ	指オサエ 後ハケ	10YR6/4にぶい 黄橙	7.5YR5/4にぶい 褐	中・並		細・ 並	8.8	6.1	1.4	7/8		
364	SDj27	J3区	下層	土師器	甕	ヨコナデ	マメツ	ヨコナデ マメツ	10YR7/3にぶい 黄橙	2.5Y7/3浅黄			中・少	(39.7)	—	—	破片		
373	SDj28	J2区	上層	土師器	小皿	回転ナデ (マメツ)	回転ナデ (マメツ)	回転ナデ (マメツ)	2.5Y8/2灰白	2.5Y8/2灰白			細・多	(7.6)	1.4	(5.0)	1/8		
374	SDj28	J2区	下層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ナデ 後板ナデ 後板ナデ 後板ナデ 後板ナデ	回転ナデ 回転ナデ 後板ナデ 後板ナデ	回転ナデ 回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙			細・多	(8.4)	1.4	(5.9)	2/8		
375	SDj28	J2区	上層	土師器	碗	回転ナデ 後板ナデ 高台 付後回転ナ デ	回転ナデ 後板ナデ 高台 付後回転ナ デ	回転ナデ 後板ナデ 高台 付後回転ナ デ	2.5YR6/6橙	5YR8/4淡橙			中・並	—	(6.1)	—	4/8		
376	SDj28	J2区	下層	土師器	足盆	指ナデ		板ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR7/2にぶい 黄橙			中・多	長さ 15.0	—	—	—	大さ 4.0	

第3表 西末遺跡V出土土器観察表 (16)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
377	SDj28	J2区	下層	須恵器	碗	回転ナデ後ヘラミ ガキ (マメツ)	ナデ (マメツ)	25Y8/1 灰白	25Y8/2 灰白						—	—	1/8		
378	SDj28	J2区	上面	須恵器	碗	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ハケ目後ナデ	N5/ 灰	N4/ 灰						—	(6.0)	5/8		
379	SDj28	J2区	下層	須恵器	碗	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ヘラ切 り後高台貼付後回 転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白						—	(5.2)	6/8		
380	SDj28	J2区	下層	須恵器	甕	ヨコナデ	ヨコナデ	N6/ 灰	N6/ 灰						—	—	2/8		
381	SDj28	J2区	上層	白磁	皿	施釉	施釉	釉: 10Y7/1 灰白	胎土: 7.5Y8/1 灰白						—	(11.6)	—	破片	
382	SDj28	J2区	上層	白磁	碗	施釉	施釉	釉: 7.5Y7/1 灰 白	胎土: 5Y8/1 灰 白						—	(13.9)	—	1/8	
384	SDj30	J1区 南拡 張区	上層	土師器	焙烙	指オサエ後ナデ ヘラ削り後ナデ	ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR4/1 褐灰						—	(36.0)	—	1/8	
385	SDj30	J1区 南拡 張区	下層	土師器	足盆	ヨコナデ後ヘラミ ガキ ヨコナデ	指オサ エ後ハケ	2.5Y4/2 暗灰黄	2.5Y5/2 暗灰黄						—	(21.0)	—	1/8	
386	SDj30	J1区 南拡 張区	下層	施釉陶器	鉢	回転ナデ後施釉 回転ヘラ削り後ナ デ	回転ナデ	釉: 10YR3/2 黒 褐	胎土: 5YR6/6 橙						8.1	(8.8)	—	4/8	
387	SDj30	J1区 南拡 張区	上層	磁器	皿	施釉 高台豊付釉 剥ぎ 離れ砂付着	染付後施釉 蛇ノ 目軸剥ぎ	釉: 10Y8/1 灰白	胎土: 5Y8/1 灰 白						3.6	(12.6)	—	5/8	
389	SDj32	J2区	下層	黒色土器	碗	ナデ	ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y3/1 黒褐						—	(15.8)	—	破片	
390	SDj32	J2区	上層	青磁	碗	施釉	施釉	釉: 7.5Y5/2 灰 白	胎土: 10Y8/1 灰白						—	(12.8)	—	破片	
392	SDj33	J5区	0	須恵器	ハソ ウ	回転ナデ	回転ナデ	N6/ 灰	N5/ 灰						—	(9.8)	—	1/8	
401	SDj54	J6区	下層	弥生土器	壺	凹線文? 条 ヨコ ナデ後飾描き刺突 文	ヨコナデ (マメツ)	5YR5/6 明赤褐	10YR6/4 にぶい 黄橙						—	(14.0)	—	1/8	
402	SDj54	J6区	中層	弥生土器	壺	マメツ	ハケ後ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙						—	(11.4)	—	1/8	
403	SDj54	J7区	下層	弥生土器	甕	ナデ	指オサエ後ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白						—	(9.0)	—	4/8	
404	SDj54	J6区	下層	弥生土器	甕	板ナデ ヘラミガ キ	指オサエ後ヘラ削 り	10YR6/3 にぶい 黄橙	2.5Y5/2 暗灰黄						—	5.4	—	6/8	
405	SDj54	J7区	上層	弥生土器	鉢	凹線文3条	マメツ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/6 黄褐						—	(37.8)	—	破片	
406	SDj54	J7区	中層	弥生土器	鉢	ヨコナデ 凹線文3 条	ヨコナデ	10YR6/3 にぶい 黄橙	10YR6/4 にぶい 黄橙						—	—	—	破片	
407	SDj54	J7区	中層	弥生土器	不明 土製品	ナデ	指オサエ	5YR6/6 橙	10YR4/1 褐灰						—	—	—	7/8	
419	SDj51	J2区		土師器	挿鉢	ヨコナデ (体部マ メツ)	ヨコナデ後オロシ 目 (マメツ)	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙						—	—	—	—	破片
420	SDj57	J3区		須恵器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ハケ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y6/1 黄灰						—	—	—	1/8	
421	SDj58	J3区		土師器	杯	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y6/3 にぶい 黄	2.5Y4/1 黄灰						3.4	13.3	—	7/8	
422	SDj58	J3区		土師器	銅	ヨコナデ	ヨコナデ	10YR4/2 灰黄褐	2.5Y8/2 灰白						—	(39.9)	—	—	破片

第3表 西末遺跡V出土土器観察表(17)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
423	SDj64	J7区		青磁	碗	施釉	施釉	釉:10Y6/2オ リーブ灰	胎土:10Y8/1 灰白						細・少	(13.5)	—	—	破片
424	SDj66	J7区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR8/3浅黄橙						中・少	(8.0)	1.2	(5.2)	1/8
425	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4にぶい 橙	7.5YR7/3にぶ い橙						小・少	8.3	1.3	6.2	8/8
426	SDj74	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/3浅黄橙						小・少	8.3	1.9	6.0	7/8
427	SDj74	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	10YR8/2灰白						中・少	8.2	1.3	6.0	7/8
428	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ後板 状圧痕	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	7.5YR7/6橙						小・少	8.1	1.2	6.8	7/8
429	SDj74	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	7.5YR8/6浅黄 橙						中・並	8.3	1.7	6.6	7/8
430	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/6浅黄 橙						小・並	8.2	1.5	6.1	8/8
431	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ後板 状圧痕	回転ナデ	10YR8/2灰白	10YR8/2灰白						小・並	8.0	1.6	6.3	8/8
432	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙						小・少	7.9	2.0	5.2	8/8
433	SDj74	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	5YR7/6橙	10YR7/3にぶい 黄橙						中・少	(7.7)	1.1	5.8	7/8
434	SDj74	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						中・少	8.3	1.5	5.2	6/8
435	SDj74	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙						中・少	7.5	0.9	5.6	8/8
436	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/4浅黄橙	10YR8/4浅黄橙						中・少	7.8	1.2	6.6	7/8
437	SDj74	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4浅黄橙	7.5YR8/4浅黄 橙						中・少	(7.5)	1.2	6.2	2/8
438	SDj74	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ後板 状圧痕	回転ナデ	2.5Y8/2灰白	7.5YR8/4浅黄 橙						中・少	(7.6)	1.5	(5.2)	3/8
439	SDj74	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ後板 状圧痕	回転ナデ	7.5YR7/4にぶい 橙	7.5YR6/1褐灰						中・並	(14.9)	3.6	9.2	5/8
440	SDj74	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	5YR7/6橙						中・並	(14.4)	4.2	(9.0)	2/8
441	SDj74	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/2にぶい 黄橙	7.5YR8/4浅黄 橙						細・少	(14.0)	—	(8.4)	2/8
442	SDj74	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR8/4淡橙	10YR6/1褐灰						中・少	13.5	3.0	9.1	5/8
443	SDj74	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/2灰白						中・少	(13.7)	4.0	9.4	4/8
444	SDj74	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3浅黄橙	10YR8/3浅黄橙						中・並	(13.1)	3.2	(7.8)	2/8
445	SDj74	J4区		土師器	碗	回転ナデ(マメツ) 高台貼付後ナデ	マメツ(ハラミガ キカ)	5YR8/4淡橙	10YR8/3浅黄橙						中・並	—	—	(6.0)	3/8

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(18)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存 率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)
446	SDJ74	J4区	下層	土師器	鍋	ヨコナデ タタキ後ナ デ	板ナデ (マメツ)	10YR7/3にぶい 黄橙	10YR5/2 灰黄褐					198	380	—	—	4/8	
447	SDJ74	J4区	下層	土師器	鍋	ナデ タタキ後ナ デ	板ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR8/4 浅黄橙					—	368	—	—	1/8	
448	SDJ74	J4区		土師器	足釜	ヨコナデ 格子目タタ キ後ナ デ	ハケ ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR7/2にぶい 黄橙					—	279	—	—	1/8	
449	SDJ74	J4区	上層	須恵器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナ デ	回転ナデ	N6/ 灰	N7/ 灰白					2.0	86	6.0	—	1/8	
450	SDJ74	J4区		須恵器	椀	ナデ (マメツ) 転ヘラ削り (マメツ) 高台貼付後 ナデ	回 ナデ後ヘラ ミガキ (マメツ)	7.5Y8/1 灰白	2.5Y7/2 灰黄					4.8	15.4	5.2	—	2/8	内面全般と体部 上半 受熱に伴 うと見られる微 細なハシゲ痕に よる剥落
451	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼付 後回 転ナデ	ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					5.0	15.3	5.1	—	4/8	
452	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付 後回 転ナデ	ナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					4.8	14.8	5.8	—	5/8	
453	SDJ74	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	回 転ナデ後ヘ ラミガ キ (マメツ)	2.5Y8/1 灰白	N5/ 灰					—	15.0	—	—	1/8	
454	SDJ74	J4区	上層	須恵器	椀	回転ナデ後 二段の ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ハ ケ後暗文 状ヘラ ミガキ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					—	16.0	—	—	1/8	
455	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付 後回 転ナデ	回 転ナデ	N8/ 灰白	N8/ 灰白					5.4	14.8	5.6	—	3/8	
456	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ナ デ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					5.1	14.7	4.5	—	2/8	
457	SDJ74	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ナ デ後ヘラ ミガキ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					5.0	14.6	5.4	—	2/8	
458	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ナ デ	N6/ 灰	N6/ 灰					5.2	14.7	5.4	—	4/8	
459	SDJ74	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	回 転ナデ後分 割ヘ ラミガ キ	N8/ 灰白	N5/ 灰					4.7	15.5	6.4	—	2/8	
460	SDJ74	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ナ デ	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白					5.0	14.7	5.6	—	3/8	
461	SDJ74	J4区		須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後回 転ナデ	ナ デ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白					5.4	14.5	5.1	—	2/8	
462	SDJ74	J4区	上層	須恵器	椀	回転ナデ後 ヘラ削り 後高台貼 付後ナ デ	ナ デ後分割 ヘラミ ガキ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					—	—	4.8	—	2/8	

第3表 西末遺跡V出土土器観察表(19)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)
463	SDJ74	J4区	下層	須恵器	捏鉢	回転ナデ 向ナデ	回転ナデ 不定方	N5/灰	5Y7/1 灰白					7.1	(14.8)	—	2/8	
464	SDJ74	J4区	下層	須恵器	甕	格子目タタキ ナデ後指オサエ	指オサエ後ナデ ナデ後指オサエ	5Y7/1 灰白	N7/ 灰白					—	—	—	破片	
465	SDJ74	J4区	上層	瓦質土器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ	ヘラミガキ (マメ ツ)	N6/ 灰	N5/ 灰					—	—	—	1/8	
466	SDJ74	J4区	上層	瓦質土器	椀	ナデ後ヘラミガキ 回転ナデ後高台貼付後 回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ ハケ	5Y6/1 灰	5Y6/1 灰					—	(6.5)	—	4/8	
467	SDJ74	J4区		黒色土器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ	ナデ	N3/ 暗灰	2.5Y7/2 灰黄					5.0	5.3	—	4/8	
468	SDJ74	J4区		黒色土器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ	回転ナデ後ハケ後 ナデ	10YR8/3 浅黄橙	5YR7/6 橙					5.2	6.6	—	7/8	
469	SDJ74	J4区	下層	灰釉陶器	小杯	施釉 高台削り出し 高台内面 露胎	施釉	釉: 7.5Y7/2 灰 白	胎土: 10Y8/1 灰白					2.0	2.4	—	5/8	
470	SDJ74	J4区	上層	青磁	椀	施釉	施釉	釉: 5Y5/3 灰オ リーブ	胎土: 7.5Y8/1 灰白					—	—	—	破片	
471	SDJ74	J4区	上層	白磁	皿	施釉 露胎	施釉	釉: 5Y7/2 灰白	胎土: 5Y7/1 灰 白					—	(3.6)	—	3/8	
472	SDJ74	J4区		白磁	椀	施釉	施釉	釉: 5Y7/2 灰白	胎土: 7.5Y8/1 灰白					—	—	—	3/8	
477	SDJ75	J4区		白磁	椀	施釉 回転ナデ後高台 削り出し 高台削り 出し	施釉 底部と体部の 境に1条の沈線 始点と終点の位 置がずれる	釉: 7.5Y8/1 灰 白	胎土: 7.5Y8/1 灰白					—	6.9	—	5/8	
478	SDJ76	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ナ デ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					1.3	(6.5)	—	2/8	
479	SDJ76	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ 回転ナ デ	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					3.5	5.8	—	7/8	
480	SDJ76	J4区	上層	土師器	羽釜	ヨコナデ 指オサ エ後ヨコナデ	横位のハケ	10YR5/3 にぶい 黄褐	10YR7/3 にぶい 黄橙					—	—	—	1/8	
481	SDJ76	J4区	上層	土師器	足釜	指オサエ後接合部 ナデ	—	10YR5/1 褐灰	10YR7/1 灰白					長さ 164 高さ 2.6	—	—	—	外側から脚をつ かみ、握ること で粗い整形をし 外面のみナデ
482	SDJ76	J4区	下層・ 上層 が混 じる	須恵器	鉢	回転ナデ	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					—	—	—	1/8	内面底部敲打痕 (使用痕?)
483	SDJ76	J4区	上層	須恵器	甕	平行タタキ	板ナデ	N5/ 灰	5Y7/1 灰白					—	—	—	破片	
484	SDJ76	J4区	上層	須恵器	甕	格子目タタキ	指オサエ後ヨコナ デ	N4/ 灰	5Y8/1 灰白					—	—	—	破片	

第3表 西末遺跡V出土土器観察表 (20)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)
485	SDJ76	J4区	上層	須恵器	壺	ヨコナデ	タテのナデ後ヨコ ナデ	N5/灰	N4/灰								1/8	
486	SDJ76	J4区	上層	黒色土器	椀	指オサエ後高台貼 付後ナデ	施釉	10YR7/2にぶい 黄橙	10YR4/1 褐灰	中・少						5.3		8/8
487	SDJ76	J4区	上層	青磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y5/3 灰オ リーブ	胎土：5Y7/2 灰 白								1/8	
488	SDJ76	J4区	上層	青磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y6/2 灰オ リーブ	胎土：5Y6/1 灰 白								2/8	
489	SDJ76	J4区	上層	青磁	椀	高台削り出し後施 釉 高台内削一部 露胎する他豊付の 釉を一部削る	施釉	釉：5Y6/2 灰オ リーブ	胎土：2.5Y7/2 灰黄							(6.4)		3/8
490	SDJ76	J4区	上層	青白磁	合子	施釉	回転ナデ 天井部 のみ施釉 露胎	釉：7.5GY7/1 明 緑灰	胎土：7.5Y7/1 灰白								1/8	
491	SDJ76	J4区	上層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y7/2 灰白	釉：2.5GY8/1 灰白 胎土： 5Y8/1 灰白								1/8	
492	SDJ76	J4区	上層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：2.5GY8/1 灰 白	釉：2.5GY8/1 灰白								1/8	
493	SDJ76	J4区	上層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：2.5Y7/3 浅 黄	胎土：2.5Y8/1 灰白							5.2		6/8
494	SDJ76	J4区	下層 層・ 上層 が混 じる	白磁	椀	高台削り出し 施 釉 露胎	施釉	釉：5Y7/1 灰白	胎土：5Y7/1 灰 白							6.1		5/8
498	SDJ77	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR6/6 橙	10YR7/3にぶい 黄橙							1.3		6/8
499	SDJ77	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR6/3にぶい 黄橙							4.0		7/8
500	SDJ77	J4区	下層	土師器	椀	回転へラ切り後高 台貼付後回転ナデ	ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白							6.2		8/8
501	SDJ77	J4区	下層	土師器	鍋	ハケ後ヨコナデ	ハケ後ヨコナデ ナデ	7.5YR6/2 灰褐	10YR7/2にぶい 黄橙								1/8	
502	SDJ77	J4区	下層	須恵器	甕	平行タタキ	青海波文後ナデ	2.5Y6/2 灰黄	7.5YR7/4にぶ い橙								破片	
503	SDJ77	J4区	下層	瓦器	椀	ナデ (マメツ) 指 オサエ 高台貼付 後ナデ (マメツ)	ナデ (マメツ)	N4/灰	N4/灰							3.9	(5.0)	5/8
504	SDJ77	J4区	下層	瓦器	椀	回転ナデ 指オサ エ	ナデ後へラミガキ	5Y8/1 灰白	2.5Y6/2 灰黄								1/8	
505	SDJ77	J4区	下層	瓦器	椀	ナデ後へラミガキ (マメツ) 指オサ エ	ナデ後へラミガキ	7.5Y5/1 灰	7.5Y5/1 灰								2/8	
506	SDJ77	J4区	下層	青磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y6/3 オリー ブ黄	胎土：2.5Y8/1 灰白								2/8	
507	SDJ77	J4区	下層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y7/2 灰白	胎土：5Y8/1 灰 白								1/8	
508	SDJ81	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	指オサエ後回転ナ デ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/3 浅黄							1.2	6.1	5/8

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (21)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
509	SDj81	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	25YR7/6 橙	25YR7/6 橙					7.9	1.1	6.3	—	5/8	
510	SDj81	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					8.0	1.3	5.1	—	6/8	
511	SDj81	J4区	上層	土師器	鍋	ヨコナデ 工後ナデ	指オサ ハケ	10YR5/3 にぶい 黄褐	10YR5/2 灰黄褐					(37.1)	—	—	—	破片	
512	SDj81	J4区	上層	瓦器	小皿	回転ナデ	ナデ後ハラミガキ	N3/暗灰	N3/暗灰					(9.0)	1.7	(4.2)	—	3/8	
513	SDj81	J4区	上層	瓦器	碗	高台貼付後 回転ナデ	ナデ後ハラミガキ	2.5Y8/3 淡黄	2.5Y8/1 灰白					—	—	(5.8)	—	3/8	
514	SDj81	J4区	上層	黑色土器	碗	ナデ後ハラミガキ (マメツ) 高台貼 付後ナデ	ナデ後ハラミガキ	10YR8/2 灰白	5Y2/1 黒					(14.6)	5.0	(6.0)	—	4/8	
515	SDj81	J4区	上層	黑色土器	碗	ナデ後ハラミガキ (マメツ) 回転ハ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ナデ後ハラミガキ	2.5Y8/2 灰白	N2/ 黒					(15.5)	5.0	(6.6)	—	4/8	
516	SDj81	J4区	上層	灰軸陶器	皿	回転ハラ削り	回転ナデ後施釉	釉：2.5Y6/3 に ぶい黄	胎土：5Y7/1 灰 白					—	—	(4.0)	—	2/8	白磁か青磁の受 熱したもので釉 が剥離した可能 性もある
517	SDj81	J4区	上層	白磁	碗	施釉	施釉	釉：5Y7/2 灰白	胎土：5Y8/2 灰 白					—	—	—	—	破片	
518	SDj81	J4区	上層	白磁	碗	高台削り出し 施釉	施釉	釉：2.5Y7/2 灰 黄	胎土：2.5Y8/1 灰白					—	—	(4.7)	—	2/8	
519	SDj81	J4区	上層	白磁	碗	高台削り出し 胎	施釉	釉：2.5Y7/2 灰 黄	胎土：2.5Y8/2 灰白					—	—	5.7	—	4/8	
521	SDj81	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR8/3 浅黄橙					(8.2)	1.9	(3.5)	—	2/8	
522	SDj81	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後不定方向 ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					(8.3)	1.5	(6.4)	—	3/8	
523	SDj81	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後不定方向 ナデ	回転ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白					4.2	1.4	6.7	—	6/8	
524	SDj81	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR7/4 にぶい 橙	5YR7/4 にぶい 橙					(7.8)	1.4	(5.7)	—	3/8	
525	SDj81	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	指オサ工後回転ナ デ後不定方向ナデ	2.5Y7/2 灰黄	10YR5/2 灰黄褐					7.6	1.5	6.3	—	7/8	
526	SDj81	J4区	下層	土師器	高台付皿	高台貼付後回転 ナデ	回転ナデ後見込中 尖付近に外面へ向 け穿孔	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					—	—	(10.0)	—	3/8	燭台か
527	SDj81	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y8/2 灰白					(15.8)	—	(9.9)	—	2/8	
528	SDj81	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR7/3 にぶい 黄橙					(15.1)	3.0	(7.3)	—	2/8	
529	SDj81	J4区	下層	土師器	鍋	ナデ	指オサ工後ナデ 板ナデ	10YR3/1 黒褐	10YR6/4 にぶい 黄橙					(34.8)	—	—	—	破片	
530	SDj81	J4区	下層	黑色土器	碗	回転ナデ後ハラミ ガキ 高台貼付後 回転ナデ	ナデ後ハラミガキ	10YR8/2 灰白	N2/ 黒					(16.0)	5.7	(6.6)	—	2/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (23)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				質量 (cm)			備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)	残存 率
554	SDj88	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	5YR6/6 橙	5YR7/8 橙					中・少	(78)	1.4	(5.5)	—	4/8	
555	SDj88	J4区		土師器	台付 小皿	回転ナデ ヘラ削 成形後身込 み中央部に拳孔	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・少	—	—	—	—	6/8	燭台か?
556	SDj88	J4区		土師器	台付 小皿	回転ナデ 付後回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					細・少	(78)	—	—	—	4/8	
557	SDj88	J4区		土師器	羽釜 ミニ ニエ テ	回転ナデ	回転ナデ	10YR7/2 にぶい 黄橙	2.5Y6/1 黄灰					細・少	—	—	—	—	2/8	
559	SDj89	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/2 灰白					細・少	88	1.7	6.0	—	6/8	
560	SDj89	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後板ナデ	回転ナデ	10YR7/2 にぶい 黄橙	10YR3/1 黒褐					細・少	(88)	1.2	(7.4)	—	2/8	
561	SDj89	J4区		土師器	小皿	回転ナデ (マメツ) 回転ナデ ラ切り後	回転ナデ (マメツ) 回転ナデ	7.5YR6/6 橙	7.5YR6/6 橙					中・少	7.9	1.0	5.6	—	6/8	
562	SDj89A	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR7/3 にぶ い橙					中・少	7.8	1.3	6.2	—	8/8	
563	SDj89C	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白					細・少	(78)	1.5	(6.9)	—	3/8	
564	SDj89C	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	7.4	1.3	5.6	—	6/8	
565	SDj89C	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	(129)	3.2	(5.9)	—	3/8	
566	SDj89C	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰					細・少	(58)	4.5	(5.9)	—	4/8	
567	SDj89C	J4区	下層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR8/3 浅黄橙					細・少	(121)	3.2	(7.6)	—	3/8	
568	SDj89C	J4区	下層	土師器	足釜	指オサエ後ナデ	—	10YR4/2 灰黄褐	—					中・少	長さ 20.2	2.9	—	—	—	
569	SDj89A	J4区		須恵器	碗	回転ナデ	ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白					中・少	(144)	—	—	—	1/8	
570	SDj89	J4区		須恵器	碗	回転ナデ 付後回転ナデ	ナデ	10YR8/1 灰白	10YR8/1 灰白					中・少	—	—	(4.1)	—	3/8	
571	SDj89	J4区		須恵器	甕	格子目タタキ	板ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰					中・少	—	—	—	—	破片	
572	SDj89	J4区	下層	須恵器	甕	格子目タタキ後頸 部に強いヨコナデ	ヨコナデ ナデ	N7/ 灰白	N7/ 灰白					中・少	(298)	—	—	—	1/8	
573	SDj89	J4区		瓦質土器	鉢	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ後ヘラミ カキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	—	—	(10.4)	—	2/8	
574	SDj89	J4区		瓦質土器	鉢	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	5Y5/1 灰	5Y5/1 灰					中・少	—	—	(8.7)	—	2/8	
575	SDj89	J4区		青磁	碗	施釉	施釉	釉：7.5Y7/2 灰 白	胎土：5Y8/1 灰 白					無	(180)	—	—	—	2/8	
576	SDj89	J4区		青磁	碗	施釉	施釉	釉：5Y5/3 灰オ リーブ	胎土：5Y7/1 灰 白					無	(168)	—	—	—	1/8	
577	SDj89	J4区		白磁	皿	施釉	施釉	釉：7.5Y8/1 灰 白	胎土：7.5Y8/1 灰白					細・少	(180)	—	—	—	破片	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (24)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)
580	SDj91	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	10YR8/2 灰白					細・少	(88)	1.5	(6.6)	—	2/8
581	SDj91	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶ い橙	7.5YR7/4 にぶ い橙					細・少	(82)	—	(6.6)	—	2/8
582	SDj91	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y6/1 黄灰	2.5Y5/1 黄灰					中・少	(82)	—	(5.3)	—	2/8
583	SDj91	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ ラ切り後ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/2 灰白					中・少	(138)	3.5	(6.1)	—	2/8
584	SDj91	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR8/2 灰白					細・多	(154)	—	—	—	1/8
585	SDj91	J4区		須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付後回転ナデ	板ナデ	N6/灰	N6/灰					細・少	—	—	(5.5)	—	4/8
586	SDj91	J4区	上層	須恵器	甕	平行タタキ	青海波文後ナデ	2.5Y6/2 灰黄	2.5Y7/3 浅黄					中・少	—	—	—	—	破片
587	SDj91	J4区	上層	瓦器	椀	ヨコナデ 指オサ エ	ナデ後ヘラミガキ	N4/灰	N4/灰					細・少	(154)	—	—	—	1/8
588	SDj91	J4区		黑色土器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付後回転ナデ	ハケ後ヘラミガキ	2.5Y8/2 灰白	N2/黒					中・少	—	—	4.6	—	8/8
589	SDj92	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					細・少	(72)	2.7	(4.6)	—	2/8
590	SDj92	J4区	上層	須恵器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	(84)	—	(6.2)	—	1/8
591	SDj92	J4区	上層	須恵器	椀	回転ナデ ラ切り	ナデ後ヘラミガキ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	(158)	—	—	—	1/8
592	SDj92	J4区	上層	須恵器	椀	ナデ後ヘラミガキ (マメツ)	ナデ (マメツ)	N4/灰	2.5Y8/1 灰白					細・少	(156)	—	—	—	1/8
593	SDj92	J4区	下層	須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付 後回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ (マメツ)	N7/灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	—	—	5.6	—	5/8
594	SDj92	J4区		須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付 後回転ナデ	ナデ	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白					細・少	—	—	(4.6)	—	4/8
595	SDj92	J4区	上層	須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高 台貼付後回転ナデ	板ナデ後ヘラミガ キ (マメツ)	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白					細・少	—	—	5.2	—	8/8
596	SDj92	J4区	下層	須恵器	甕	格子目タタキ	板ナデ	N5/灰	5Y6/1 灰					細・少	—	—	—	—	破片
597	SDj92	J4区	上層	瓦器	椀	指オサエ 付後回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	N5/灰	5Y7/1 灰白					細・少	—	—	(6.0)	—	1/8
598	SDj96	J4区		土師器	杯	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR6/1 褐灰					中・少	(140)	4.5	(7.8)	—	破片
599	SDj96	J4区		土師器	杯	回転ナデ 糸切り	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	10YR7/4 にぶ い黄橙					細・少	—	—	8.5	—	8/8
600	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・並	8.6	1.3	6.9	—	5/8
601	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	7.5YR7/4 にぶ い橙				細・少	(82)	1.6	(7.0)	—	3/8	
602	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ヘラ ラ削り	回転ナデ	10YR6/6 明黄褐	10YR7/3 にぶ い黄橙					細・多	(80)	1.3	(5.9)	—	3/8
603	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶ い黄橙	10YR7/3 にぶ い黄橙					細・少	7.9	1.2	6.6	—	4/8
604	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					細・少	(38)	1.0	(7.0)	—	2/8

高台はやや形骸
化し全周しない

第3表 西末則遺跡V出土器観察表 (25)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存 率	備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)
605	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR8/4 浅黄橙	10YR8/4 浅黄橙					7.6	1.4	5.4	—	7/8	
606	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転へラ切り後板 ナデ後板状圧痕	回転ナデ	7.5YR8/4 浅黄橙	7.5YR8/4 浅黄 橙					(7.3)	1.3	(5.2)	—	4/8	
607	SDj100	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y7/2 灰黄					(7.2)	1.4	(4.1)	—	5/8	
608	SDj100	J4区		土師器	台付 小皿	回転へラ切り後回 転ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR7/4 にぶい 黄橙	10YR6/4 にぶい 黄橙					—	—	—	—	8/8	
609	SDj100	J4区		土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り後不定方向 ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	10YR6/4 にぶい 黄橙	10YR7/4 にぶい 黄橙					13.4	3.6	7.7	—	7/8	
610	SDj100	J4区		土師器	杯	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい い橙	7.5YR7/4 にぶ い橙					(14.2)	3.3	(8.4)	—	2/8	
611	SDj100	J4区		土師器	碗 ガキ	回転ナデ後へラミ ナデ	ナデ (マメツ)	N8/ 灰白	7.5YR8/1 灰白					(14.6)	—	—	—	2/8	
612	SDj100	J4区		須恵器	碗	回転ナデ 回転へ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ナデ	2.5Y8/1 灰白	2.5Y8/1 灰白					(14.2)	4.8	(5.4)	—	3/8	
613	SDj100	J4区		須恵器	碗	回転ナデ後へラミ ナデ (マメツ)	ナデ後へラミガキ (マメツ)	N5/ 灰	N5/ 灰					(14.8)	—	—	—	1/8	
614	SDj100	J4区		須恵器	甕	格子目タタキ	ナデ	5Y6/1 灰	5Y7/1 灰白					—	—	—	—	破片	
616	SDj1812	J8区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り	回転ナデ	2.5Y8/2 灰白	2.5Y7/2 灰黄					(8.2)	1.5	6.1	—	5/8	
617	SDj1812	J8区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	2.5Y7/2 灰黄					(7.9)	1.8	(5.4)	—	3/8	
618	SDj1812	J8区		土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り	回転ナデ	5 Y R 7/6 橙	5 Y R 7/6 橙					(13.8)	4.6	(4.6)	—	3/8	
619	SDj1812	J8区		土師器	杯	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					—	—	(5.4)	—	2/8	
620	SDj1812	J8区		瓦器	碗	ヨコナデ 指オサ エ後へラミガキ 指オサエ	ナデ後へラミガキ	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					(14.6)	—	—	—	2/8	
621	SDj1884	J8区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					8.8	1.9	6.5	—	7/8	
622	SRj01	J8区		縄文土器	深鉢	浅い刻み目 貼付 突帯後刻み目	ナデ (マメツ)	7.5Y2/1 黒	7.5Y3/1 オリー フ黒					—	—	—	—	破片	
629	SXj06	J3区		土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					7.3	1.3	5.1	—	6/8	
630	SXj06	J3区		土師器	鍋	ヨコナデ 指オサ エ	ヨコナデ 板ナデ	10YR3/2 黒褐	2.5Y8/2 灰白					(29.6)	—	—	—	破片	
631	SXj06	J3区		須恵器	鉢	ナデ	指オサエ後ナデ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					(33.1)	—	—	—	破片	
632	SXj07	J3区		土師器	足釜	ヨコナデ ナデ	指オサエ後板ナデ	10YR4/1 褐灰	10YR5/2 灰黄褐					—	—	—	—	2/8	
633	SXj07	J3区		土師器	足釜	指オサエ後ナデ	—	10YR4/2 灰黄褐	—					長さ 22.9	—	—	—	—	太さ 3.1
634	SXj08	J3区		土師器	鉢	ヨコナデ	ヨコナデ 板ナデ	2.5Y8/1 灰白	10YR7/2 にぶい 黄橙					(32.2)	—	—	—	1/8	
635	SXj15	J4区	下層	土師器	小皿	回転ナデ 回転へ ラ切り後ナデ	回転ナデ後不定方 向ナデ	2.5Y8/2 灰白	10YR8/3 浅黄橙					8.8	1.4	6.9	—	7/8	遺構位置不明
636	SXj15	J4区	上層	土師器	鍋	ハケ目後格子目タ タキ	板ナデ	7.5YR3/2 黒褐	10YR5/2 灰黄褐					—	—	—	—	破片	遺構位置不明

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (26)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考			
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)	その他 (cm)	残存 率
637	SXJ23	J3区	0	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り	回転ナデ	7.5YR8/2 灰白	7.5YR8/4 浅黄 橙					細・少	6.8	1.1	5.6	—	7/8	
638	SXJ24	J3区	上層	土師器	小皿	回転ナデ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	10YR8/2 灰白					細・少	9.3	1.9	4.9	—	3/8	
639	SXJ24	J3区	上層	土師器	皿	回転ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	7.5YR7/3 にぶ い橙					細・少	5.8	2.4	6.6	—	1/8	
640	SXJ24	J3区	上層	青磁	小皿	回転ナデ 施釉 に施釉有	回転ナデ 口縁部	釉：7.5Y6/3 オ リーブ黄	胎土：2.5Y8/1 灰白					細・少	11.6	—	—	—	1/8	
642	SXJ30	J4区		土師器	鍋	指オサエ後板ナデ ハケ後	回転ナデ ヨコナデ	10YR3/2 黒褐	10YR7/3 にぶい 黄橙					中・多	32.0	—	—	—	破片	
643	SXJ36	J4区		土師器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ヘラ切 り後高台貼付後回 転ナデ後板状圧痕	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	10YR6/2 灰黄褐					中・少	15.3	5.2	6.1	—	5/8	
644	包含層	J4区	上層	土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/3 浅黄橙	10YR8/3 浅黄橙					中・少	8.1	1.6	4.7	—	7/8	
645	包含層	J4区	上層	土師器	杯	回転ナデ 回転ヘ ラ切り	回転ナデ	7.5YR8/3 浅黄橙	7.5YR8/3 浅黄 橙					中・並	14.5	4.0	8.2	—	2/8	
646	包含層	J4区	上層	土師器	鍋	ヨコナデ 指オサ エ後ナデ	板ナデ	10YR4/2 灰黄褐	10YR7/2 にぶい 黄橙					細・少	37.5	—	—	—	破片	
647	包含層	J4区	上層	須恵器	甕	指オサエ 高台貼 付後回転ナデ	ヨコナデ	N6/ 灰	N6/ 灰					細・少	35.4	—	—	—	1/8	
648	包含層	J4区	上層	瓦器	椀	指オサエ 高台貼 付後回転ナデ	ヘラミガキ	N4/ 灰	N4/ 灰					細・少	—	—	5.0	—	2/8	
649	包含層	J4区	上層	瓦器	椀	高台貼付後回転ナ デ	ヘラミガキ (マメ ツ)	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰					細・少	—	—	4.4	—	3/8	
650	包含層	J4区	上層	青磁	椀	施釉 高台削り出 し	施釉	釉：5Y6/2 灰オ リーブ	胎土：2.5Y8/2 灰白					中・少	—	—	5.6	—	4/8	
651	包含層	J4区	上層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y7/1 灰白	胎土：2.5Y8/2 灰白					無	18.0	—	—	—	破片	
652	包含層	J4区	上層	白磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y8/1 灰白	胎土：5Y8/1 灰 白					細・少	—	—	—	—	破片	
654	SXJ801	J8区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	10YR7/2 にぶい 黄橙	10YR7/2 にぶい 黄橙					細・少	7.8	1.4	6.2	—	3/8	
655	SXJ41	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR7/3 にぶい 黄橙					細・少	8.1	1.2	5.2	—	3/8	遺構位置不明
656	包含層	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					細・少	8.3	1.2	6.4	—	7/8	
657	包含層	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/4 にぶい 橙	10YR7/4 にぶい 黄橙					細・少	8.1	1.3	6.1	—	7/8	
658	包含層	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	10YR8/2 灰白	10YR8/2 灰白					中・並	8.0	1.2	5.5	—	3/8	
659	包含層	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後板ナデ後 板状圧痕	回転ナデ	5YR6/6 橙	5YR6/6 橙					細・少	7.9	1.1	6.6	—	3/8	
660	包含層	J4区		土師器	小皿	回転ナデ 回転ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	7.5YR7/6 橙	7.5YR7/6 橙					中・少	8.2	1.6	6.2	—	3/8	
661	第2面包 含層	J5区		須恵器	高台 付杯	回転ナデ	回転ナデ	N5/ 灰	N6/ 灰					細・少	—	—	—	—	破片	見込みに刻印

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (27)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)
662	包含層	J8区		須恵器	椀	回転ナデ ラ切り後高台貼付 後回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	10 Y R 7/2 にぶ い黄橙	10 Y R 7/2 に ぶい黄橙					—	—	—	2/8	
663	包含層	J区		須恵器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ	ナデ後ヘラミガキ	5Y8/1 灰白	5Y8/1 灰白					—	4.8	—	8/8	
664	包含層	J8区		須恵器	椀	回転ナデ後ヘラミ ガキ 回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ	ヘラミガキ	5 Y 7/1 灰白	2.5 Y 7/2 灰黄					—	—	(7.0)	5/8	
665	包含層	J4区		瓦器	小皿	回転ナデ 指オサ エ後ナデ	回転ナデ	N4/ 灰	N4/ 灰					—	—	—	2/8	
666	包含層	J8区		瓦質土器	羽釜 (外 耳)	ヨコナデ ナデ ナデ	ナデ	N 2/ 黒	N 2/ 黒					—	—	—	1/8	
667	包含層	J4区		黒色土器	椀	回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ	ヘラミガキ	10YR7/3 にぶい 黄橙	10 Y R 7/2 にぶ い黄橙					—	—	5.3	8/8	
668	包含層	J2区		白磁	皿	施釉	施釉	釉：7.5Y7/2 灰 白	胎土：7.5Y8/1 灰白					—	—	—	1/8	
669	包含層	J4区		白磁	椀	施釉	施釉	釉：7.5Y7/1 灰 白	胎土：N8/ 灰白					—	—	—	破片	
670	包含層	J4区		白磁	椀	施釉	施釉	釉：5Y7/2 灰白	胎土：5Y8/1 灰 白					—	—	(5.6)	4/8	
671	包含層	J8区		白磁	椀	回転ナデ後高台 貼付後回転ナデ スレ有り	体部と底部の境付 近に一条沈線後施 釉	10Y8/1 灰白	7.5Y7/1 灰白					—	—	(5.6)	5/8	
672	包含層	J2区		弥生土器	台付 鉢	指オサエ後ナデ	指オサエ	7.5YR6/6 橙	7.5YR7/4 にぶ い橙					—	—	3.4	6/8	
678	SDr01	R32 ①	上層	縄文土器	深鉢	刻み目 二枚貝条 痕	ナデ	2.5Y7/1 灰白	2.5Y5/2 暗灰黄	中・多				—	—	—	破片	
679	SDr01	R32 ①	下層	縄文土器	深鉢	刻み目 ヨコナデ 突帯貼付後刻み 目 ナデ	刻み目 ヨコナデ 突帯貼付後刻み 目 ナデ	10YR5/3 にぶい 黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並				—	—	—	1/8	
680	SDr01	R32 ①	下層	縄文土器	深鉢	二枚貝条真後半載 竹管文	ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	粗・多				—	—	—	破片	
681	SDr01	R32 ①	下層	縄文土器	浅鉢	ヘラ削り ナデ	ヘラミガキ	10YR7/2 にぶい 黄橙	10YR5/2 灰黄褐	細・少				—	—	2.8	8/8	
684	SDr01	R32 ①	上層	縄文土器	深鉢	ナデ ヘラ削り	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並	中・少			—	—	—	破片	
685	SDr01	R32 ①	下層	縄文土器	深鉢	刻み目 ナデ後突 帯貼付後刻み目	ナデ	10YR8/3 浅黄橙	2.5Y4/1 黄灰	細・並	細・少			—	—	—	破片	
688	SRr02	R32 ③	下層	縄文土器	深鉢	ナデ後爪形文 ヘ ラ削り	ナデ	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y3/2 黒褐	中・多				—	—	—	破片	
689	SRr02	R32 ③	中層	縄文土器	浅鉢	ナデ ヘラミガキ	ヘラミガキ	2.5Y4/1 黄灰	2.5Y4/1 黄灰	中・多				—	—	—	破片	
690	SRr02	R32 ③	上層	弥生土器	壺	凹線文4条 原体 圧痕文	指オサエ後ヨコナ デ	2.5Y6/3 にぶい 黄	10YR4/4 褐	粗・多				—	—	—	2/8	
691	SRr02	R32 ③	中層	弥生土器	甕	ヨコナデ後4条の 凹線文	ヨコナデ ハケ後 ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・少			—	—	—	3/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (28)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存 率	備考
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		
692	SR+02	R32 ③	上層	弥生土器	甕	ナデ ハケ(マメツ)	板ナデ(マメツ)	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・多	中・少			-24.2	—	—	破片	
693	SR+02	R32 ③	上層	弥生土器	甕	ナデ	ハケ後ヘラ削り ヘラ削り後指オサ エ	10YR6/3 にぶい 黄橙	10YR6/3 にぶい 黄橙	中・並				—	(3.0)	—	1/8	
704	SR+03	R32 ③	下層 (砂 層)	縄文土器	深鉢	ナデ後爪形文	ナデ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	細・多				-40.2	—	—	破片	
705	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	深鉢	2条の凹線 (マメツ)	ナデ	25Y6/2 灰黄	25Y4/1 黄灰	中・多				-29.6	—	—	破片	
706	SR+03	R32 ③	下層 (砂 層)	縄文土器	深鉢	ナデ後爪形文 ヘ ラ削り	ナデ	10YR6/2 灰黄褐	10YR5/1 褐灰	中・多	中・少			—	—	—	破片	
707	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	深鉢	刻み目 ナデ	ナデ	25Y5/2 暗灰黄	25Y8/2 灰白	細・並				-18.5	—	—	破片	
708	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	深鉢	刻み目 ナデ後突 帯貼付後刻み目	ナデ	7.5YR5/4 にぶい 褐	7.5YR4/1 褐灰	中・多				—	—	—	破片	
709	SR+03	R32 ③	下層 (1 流)	縄文土器	深鉢	ナデ後押引文 ヘ ラ削り	ナデ	10YR6/3 にぶい 黄橙	25Y4/1 黄灰	中・多				—	—	—	破片	
710	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	深鉢	ナデ後刺突文 ヘ ラ削り	ナデ	25Y6/2 灰黄	N3/暗灰	粗・多				—	—	—	破片	
711	SR+03	R32 ③	下層 (2 流)	縄文土器	深鉢	ナデ後爪形文 ヘ ラ削り	ナデ	25Y7/2 灰黄	25Y4/1 黄灰	中・並				—	—	—	破片	
712	SR+03	R32 ③	下層 (2 流)	縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR3/1 黒褐	10YR3/1 黒褐	細・多				-33.2	—	—	破片	
713	SR+03	R32 ③	下層 (砂 層)	縄文土器	浅鉢	ミガキ (マメツ)	ミガキ (マメツ)	25Y6/2 灰黄	25Y5/1 黄灰	細・多				-32	—	—	破片	補修直有
714	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR4/2 灰黄褐	10YR4/2 灰黄褐	中・並				-29.2	—	—	破片	
715	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	浅鉢	刻み目 二枚貝条 裏後ヨコナデ 引文	板ナデ	25Y6/2 灰黄	25Y6/2 灰黄	細・並				-12.5	—	—	1/8	
716	SR+03	R32 ③	下層	縄文土器	浅鉢	ヨコナデ ヘラミ ガキ (マメツ)	ヨコナデ ヘラミ ガキ	25Y5/1 黄灰	25Y3/1 黒褐	細・多				—	—	—	破片	
717	SR+03	R32 ③	中層	縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	25Y4/1 黄灰	25Y3/2 黒褐	中・多				—	—	—	破片	
718	SR+03	R32 ③	下層 (2 流)	縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	10YR4/1 褐灰	10YR4/1 褐灰	細・少				—	—	—	破片	
719	SR+03	R32 ③	下層 (2 流)	縄文土器	浅鉢	ヘラミガキ	ヘラミガキ	25Y5/2 暗灰黄	25Y3/1 黒褐	中・多				—	—	—	破片	
726	SX+01	R32 ①	下層	縄文土器	深鉢	ヨコナデ後細文 一条の凹線 ナデ	板ナデ	25Y7/1 灰白	25Y7/2 灰黄	中・多				—	—	—	破片	
727	SX+01	R32 ①	上層	縄文土器	深鉢	板ナデ	板ナデ後沈線一条	10YR6/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	中・並	中・少			—	—	—	破片	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表(29)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量(cm)			備考	
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)		底径 (cm)
728	SX+02	R32 ③	下層 (砂 層)	弥生土器	壺	ヨコナデ ハケ	ハケ後ヨコナデ 指オサエ	10YR6/3にぶい 黄橙	25Y6/3にぶい 黄	粗・並			細・少	-16	—	—	1/8	
729	SX+02	R32 ③	最下 層 (砂 礫)	弥生土器	壺	板ナデ ナデ	板ナデ	25Y7/3浅黄	10YR7/3にぶい 黄橙	中・多 細・少			細・少	—	(7.6)	—	4/8	
730	SX+02	R32 ③	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	指オサ エ	10YR6/3にぶい 黄橙	10YR6/3にぶい 黄橙	細・少			細・多	-15.8	—	—	2/8	
731	SX+02	R32 ③	上層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	指オサ エ	10YR5/2 灰黄褐	7.5YR6/3にぶ い褐	中・並 中・少			細・少	-13.6	—	—	1/8	
732	SX+02	R32 ③	上層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ナデ	10YR5/2 灰黄褐	10YR6/2 灰黄褐	細・少			細・少	-15	—	—	2/8	
733	SX+02	R32 ③	下位 層	弥生土器	甕	ヨコナデ	指オサ エ	10YR3/1 黒褐	10YR5/2 灰黄褐	中・並			細・少	-14.5	—	—	1/8	
734	SX+02	R32 ③	最下 層 砂 礫	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	指オサ エ	10YR5/6 黄褐	25Y4/2 暗灰黄	中・並 細・少			細・多	(14.8)	—	—	2/8	
735	SX+02	R32 ③	下位 層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	指オサ エ	10YR3/3 暗褐	10YR5/3にぶい 黄褐	中・並 中・少			細・多	-13.4	—	—	2/8	
736	SX+02	R32 ③	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	指オサ エ	25Y6/3にぶい 黄	25Y6/3にぶい 黄	粗・並			細・並	-13	—	—	1/8	
737	SX+02	R32 ③	最下 層 砂 礫	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	板ナデ	10YR7/3にぶい 黄橙	25Y7/3 浅黄	細・少			細・少	(15.0)	—	—	2/8	
738	SX+02	R32 ③	下層	弥生土器	甕	ヨコナデ ハケ	ヨコナデ ヘラ削り	25Y7/2 灰黄	25Y8/2 灰白	細・並			細・並	(17.0)	—	—	2/8	
739	SX+02	R32 ③	最下 層 (砂 礫)	弥生土器	甕	ハケ	ヘラ削り	10YR5/4にぶい 黄褐	25Y5/3 黄褐	粗・多			中・並	—	5.4	—	4/8	
740	SX+02	R32 ③	下位 層	弥生土器	甕	ヘラミガキ (マメ ツ)	ヘラ削り (マメツ)	25Y5/2 暗灰黄	10YR5/3にぶい 黄褐	中・少			細・並	—	4.8	—	8/8	
741	SX+02	R32 ③		弥生土器	甕	ヘラミガキ	指オサ エ	25Y6/3にぶい 黄	25Y7/3 浅黄	粗・多 中・並			細・多	—	5.2	—	8/8	
742	SX+02	R32 ③	下層	弥生土器	甕	ハケ ナデ	ヘラ削り	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・多			中・多	—	4.4	—	8/8	
743	SX+02	R32 ③	下層	弥生土器	甕	ヘラミガキ	指オサ エ	25Y5/2 暗灰黄	10YR5/3にぶい 黄褐	粗・並 中・少			中・並	—	5.4	—	5/8	
744	SX+02	R32 ③	上層	弥生土器	甕	ヘラミガキ	指オサ エ	10YR3/1 黒褐	10YR6/2 灰黄褐	細・少			細・並	—	5.6	—	8/8	
748	SX+09	R32 ③	上位 層	弥生土器	壺	ハケ ナデ	ハケ	7.5YR7/6 橙	7.5YR2/1 黒	中・並			細・少	—	5.0	—	8/8	
749	SX+09	R32 ③		弥生土器	甕	ヨコナデ 後ハケ ナデ	指オサ エ	10YR7/4にぶい 黄橙	7.5YR7/8 黄橙	中・並 細・少			細・少	(15.0)	23.7	4.0	5/8	
750	SX+09	R32 ③		弥生土器	甕	ヨコナデ 後ハケ ナデ	指オサ エ	10YR7/3にぶい 黄橙	25Y7/3 浅黄	中・並			細・並	—	(4.2)	—	5/8	
751	SX+05	R32 ③		弥生土器	鉢	ヨコナデ ハケ	ハケ	25Y7/2 灰黄	25Y7/2 灰黄	中・並 中・少			細・少	-28	—	—	1/8	

第3表 西末則遺跡V出土土器観察表 (31)

報文 番号	報告遺構 名	地区 名	層位	種類	器種	調整		色調		胎土				法量 (cm)			残存 率	備考		
						外面	内面	外部	内部	石英・ 長石	赤色粒	角閃 石	雲母	砂粒	口径 (cm)	器高 (cm)			底径 (cm)	その他 (cm)
781	SDr04	R32 ①	上層	陶器	碗	回転ナデ後施釉 回転ヘラ削り 高 台削り出し 疊付 内側離れ石癒着	施釉	釉：N2/黒	胎土：2.5YR3/2 暗赤褐							3.9	—	8/8	備前	
782	SDr04	R32 ①	下層	陶器	皿	回転ナデ後施釉 高台削り出し	施釉	釉：10YR6/4に ぶい黄橙	胎土：10YR6/1 褐灰							—	—	4/8		
783	SDr04	R32 ①	中層	陶器	皿	回転ナデ後施釉 高台削り出し	回転ナデ後施釉 砂目積	釉：7.5Y6/2灰オリー ア	7.5Y6/2灰オ リーア							3.8	4.1	6/8		
784	SDr04	R32 ①	中層	陶器	皿	回転ナデ後施釉 高台削り出し	回転ナデ後施釉 砂目積	釉：10YR7/2にぶい 黄橙	10YR7/2にぶい 黄橙							3.4	5.7	6/8		
785	SDr04	R32 ②	上層	陶器	碗	施釉 回転ヘラ削 り 高台削り出し	施釉	釉：7.5YR4/3褐	胎土：2.5Y8/2 灰白							—	4.7	8/8		
786	SDr04	R32 ①	上層	陶器	皿	回転ナデ後施釉 回転ヘラ削り 高 台削り出し	施釉後蛇ノ目釉剥 ぎ	釉：5Y6/2灰オ リーア	胎土：10YR7/3 にぶい黄橙								3.9	—	7/8	
787	SDr04	R32 ①	上層	磁器	皿	染付後施釉	染付 施釉	釉：10Y8/1灰白	胎土：10Y8/1 灰白							—	—	1/8		
788	SDr04	R32 ①	上層	磁器	碗	染付後施釉	施釉	釉：10Y8/1灰白	胎土：10Y8/1 灰白							—	4.3	3/8		
797	東御津谷 部砂層	R32 ①		土師器	灯明 皿	回転ナデ	回転ナデ	10YR8/2灰白	7.5YR8/3浅黄 橙							—	—	1/8		
798	西御津床 土層	R32 ①		白磁	碗	施釉	施釉	釉：5Y7/2灰白	胎土：5Y8/1灰 白							—	—	—	破片	

第4表 西末則遺跡V出土石器観察表(1)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
49	SBj27	J3区		打製石斧	57.0	54.0	16.0	44.0	サヌカイト	
51	SBj28	J3区		砥石	52.0	35.0	22.0	66.15	流紋岩	
120	SP1158	J3区		楔形石器	34.5	54.0	11.0	27.42	サヌカイト	
142	SP1406	J4区		砥石	86.0	62.0	27.0	142.03	流紋岩	
184	SP1784	J4区		砥石	79.0	37.0	18.0	91.78	流紋岩	
219	SP2188	J4区		石錫	—	—	底径 138	152.54	滑石	
327	SDj16	J3区		碁石	17.0	17.0	8.0	3.59	黒色チャート	
336	SDj27	J5区	上層	楔状石核	51.0	102.0	9.0	60.87	サヌカイト	
349	SBj10	J1区		流紋岩	50.0	32.0	20.0	44.78	サヌカイト	
365	SDj27	J5区	下層	石鏃	17.0	12.0	3.0	0.46	サヌカイト	
366	SDj27	J5区	下層	石鏃	36.0	18.0	4.5	2.25	サヌカイト	
367	SDj27	J5区	下層	石鏃	32.5	19.0	6.5	3.15	サヌカイト	
368	SDj27	J5区	下層	打製石斧	60.0	52.5	10.0	33.8	サヌカイト	
369	SDj27	J5区	下層	楔形石器	41.0	65.0	9.3	32.05	サヌカイト	
370	SDj27	J5区	下層	楔形石器	34.0	50.0	9.0	24.23	サヌカイト	
371	SDj27	J2区	最下層	石鏃	18.0	13.5	2.5	0.39	サヌカイト	
372	SDj27	J2区	最下層	石鏃	30.5	13.5	3.0	1.01	サヌカイト	
383	SP1466	J4区		石帯巡方	21.0	14.0	7.0	3.39	粘板岩	
388	SDj31	J1区		石鏃	33.0	14.0	4.0	2.15	サヌカイト	
391	SDj32	J2区	上層	砥石	64.5	33.0	10.1	32.14	流紋岩	
393	SDj36	J6区	中層	石槍	130.5	35.0	9.5	49.89	サヌカイト	
394	SDj36	J6区	中層	石鏃	43.5	23.0	4.0	3.37	サヌカイト	
395	SDj36	J5区	下層	石鏃	29.0	18.0	3.0	1.36	サヌカイト	
396	SDj36	J7区	下層	石匙	26.4	58.0	5.0	8.75	サヌカイト	
397	SDj36	J6区	下層	楔形石器	63.0	68.0	21.0	112.64	サヌカイト	
398	SDj36	J6区	中層	剥片	31.0	43.0	10.0	11.01	サヌカイト	
399	SDj36	J6区	下層	楔形石器	63.0	68.0	21.0	123.65	サヌカイト	397+398
400	SDj36	J5区	下層	磨製石包丁	39.0	47.0	5.0	12.41	流紋岩	
408	SDj54	J7区	下層	石槍	79.5	38.0	10.0	32.98	サヌカイト	
409	SDj54	J7区	中層	石鏃	25.0	14.0	4.0	0.89	サヌカイト	
410	SDj54	J7区	下層	石鏃	24.5	11.5	2.3	0.83	サヌカイト	
411	SDj54	J7区	下層	石鏃	18.0	15.0	3.0	0.58	サヌカイト	
412	SDj54	J7区	下層	石鏃	22.0	12.5	3.0	0.70	サヌカイト	
413	SDj54	J6区	中層	石鏃	23.5	13.5	4.0	0.74	サヌカイト	
414	SDj54	J7区	下層	石鏃	24.0	14.0	2.6	0.48	サヌカイト	
415	SDj54	J7区	上層	石鏃	32.0	13.0	4.0	1.57	サヌカイト	
416	SDj54	J6区	下層	石鏃	45.0	17.0	7.0	3.35	サヌカイト	
417	SDj54	J7区	下層	打製石斧	119.0	66.0	18.0	174.5	流紋岩	
418	SDj54	J7区	下層	蛤刃石斧	93.0	60.0	38.0	329.05	輝緑岩	
476	SDj74	J4区		砥石	58.0	42.5	15.0	38.79	流紋岩	
588	SDj88	J4区		石錫	—	—	—	54.07	滑石	
615	SDj107	J4区		石鏃	17.0	15.0	3.0	0.49	サヌカイト	
623	SR01	J7区	上層	石鏃	15.5	9.5	2.0	0.28	サヌカイト	

第4表 西末則遺跡V出土石器観察表(2)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量				材質	備考
					長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)		
624	SR01	J6区	下層	石鏃	25.0	19.5	2.5	0.81	サヌカイト	
625	SR01	J7区	下層	石鏃	21.0	13.5	2.8	0.70	サヌカイト	
626	SR01	J6区	下層	石鏃	18.0	16.0	3.0	0.73	サヌカイト	
627	SR01	J5区	上層	石鏃	27.0	12.5	4.0	0.77	サヌカイト	
628	SR01(第3面包含層)	J6区	上層?	石釧丁	40.0	93.0	7.0	29.28	サヌカイト	
641	SXJ28	J3区		石鏃	28.5	21.0	4.5	2.32	サヌカイト	
673	包含層	J1区西拡張区		石鏃	26.0	17.0	2.5	0.61	サヌカイト	
674	包含層	J5区		石鏃	40.0	14.0	5.5	2.77	サヌカイト	
675	包含層	J3区		石鏃	20.3	6.7	2.0	0.41	サヌカイト	
676	包含層	J6区		石匙	38.0	37.0	7.0	9.48	サヌカイト	
677	包含層	J5区		石核	4.0	5.7	1.0	22.49	サヌカイト	
682	SDr01	R32①	上層	石鏃	31.0	17.5	4.0	2.53	サヌカイト	
683	SDr01	R32①	上層	石鏃	27.0	17.3	3.5	1.07	サヌカイト	
686	SDr02	R32①	上層(粘土)	石鏃	37.0	19.0	5.0	2.72	サヌカイト	
687	SDr02	R32①	下層(砂層)	打製石斧	73.0	68.0	18.0	83.32	サヌカイト	
694	SRr02	R32③	上層(北側・トレンチ 上から10cm)	石鏃	38.0	23.0	4.0	3.66	サヌカイト	
695	SRr02	R32③	上層	石鏃	31.0	16.5	4.0	1.84	サヌカイト	
696	SRr02	R32③	上層	石鏃未製品	24.0	16.5	3.5	1.12	サヌカイト	
697	SRr02	R32③	上層	石鏃	33.5	18.0	4.5	1.92	サヌカイト	
698	SRr02	R32③	上層	石鏃	29.0	18.0	3.7	1.79	サヌカイト	
699	SRr02	R32③	上層	石鏃	23.0	12.4	2.0	0.56	サヌカイト	
700	SRr02	R32③	最上層	石鏃	12.2	12.5	2.4	0.29	サヌカイト	
701	SRr02	R32③	上層	石釧丁	43.0	59.5	8.0	29.9	サヌカイト	
702	SRr02	R32③	下層	楔形石器	32.0	37.0	8.0	13.38	サヌカイト	
703	SRr02	R32③	上層	楔形石器	37.0	33.0	11.8	20.79	サヌカイト	打製石斧転用
720	SRr03	R32③	下層(2流)	石鏃	24.0	18.8	2.6	0.87	サヌカイト	
721	SRr03	R32③	下層	石鏃	20.2	20.0	3.8	0.97	サヌカイト	
722	SRr03	R32③	下層	石鏃	28.0	13.0	3.5	0.85	サヌカイト	
723	SRr03	R32③	下層	石鏃	22.0	17.0	4.0	0.94	サヌカイト	
724	SRr03	R32③	中層	石匙	62.0	37.5	5.0	12.76	サヌカイト	
725	SRr03	R32③	下層(1流)	異形石器	24.0	17.0	4.0	1.54	サヌカイト	
745	SXr02	R32③	0	石鏃	19.5	15.0	2.0	0.41	サヌカイト	
746	SXr02	R32③	上層	石鏃	31.3	21.0	3.0	1.87	サヌカイト	
747	SXr02	R32③	最下層砂礫	石鏃	42.0	16.0	4.0	2.71	サヌカイト	
752	SXr05	R32③	0	石鏃	39.0	17.5	3.5	2.34	サヌカイト	
754	SXr06	R32③	0	石鏃	38.0	18.5	5.0	3.47	サヌカイト	
755	SXr07	R32③	0	石鏃	41.5	22.5	5.5	3.66	サヌカイト	
756	SXr07	R32③	0	石鏃	35.5	15.0	4.0	2.10	サヌカイト	
757	SXr07	R32③	0	石鏃	30.0	19.0	4.5	1.71	サヌカイト	
758	SXr07	R32③	0	石鏃	25.0	20.2	4.0	1.27	サヌカイト	
762	SXr14	R32②	最上層	石鏃	38.0	14.0	3.5	1.90	サヌカイト	
763	SXr14	R32②	最上層	石鏃	29.5	13.0	3.5	1.47	サヌカイト	
773	SXr11	R32②	0	石鏃	22.5	16.0	3.0	0.76	サヌカイト	

第4表 西末則遺跡V出土石器観察表 (3)

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
774	SXr11	R32 ②	0	石鏃	20.5	14.0	3.0	0.53	サヌカイト
789	SDr04	R32 ③	上層②	石鏃	29.2	21.0	3.0	1.40	サヌカイト
790	SDr04	R32 ③	下層	石鏃	27.0	16.0	3.0	1.25	サヌカイト
791	SDr08・SDr04合流部	R32 ③	0	石鏃	36.9	19.3	3.5	2.73	サヌカイト
792	SDr04	R32 ③	上層②	石鏃	40.5	15.5	4.5	3.0	サヌカイト
793	SDr04	R32 ③	下層	石匙	42.0	59.0	7.0	12.60	サヌカイト
794	SDr04	R32 ①	下層	削器	33.5	76.0	8.5	22.5	サヌカイト
795	SDr04	R32 ②	上層③	削器	33.0	79.0	10.0	26.8	サヌカイト
796	SDr04	R32 ③	上層②	火打石	35.0	52.0	19.5	49.68	サヌカイト
799	SKr14	R32 ①	上層	打製斧	65.0	30.5	10.0	33.48	蛇紋岩?

第2分冊

第5表 西末則遺跡V出土鉄器観察表

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	法量			材質	
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
42	SBj19	J3区 I-1		鉄鏃	61.0	11.0	6.0	10.43	鉄
301	STj01	J7区 H15		刀	311.0	32.0	7.0	97.58	鉄
309	STj03	J2区 J13		不明	134.0	20.0	—	96.42	鉄
310	STj03	J2区 J13		刀	293.0	43.0	10.0	274.82	鉄

第2分冊

第6表 西末則遺跡V出土玉観察表

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	種類・機種	法量			材質	備考
					長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)		
283	ST01	J7区 H15		玉	3.2	5.0	1.8	0.15	ガラス
284	ST01	J7区 H15		玉	4.0	5.0	1.8	0.18	ガラス
285	ST01	J7区 H15		玉	3.0	5.2	1.5	0.14	ガラス
286	ST01	J7区 H15		玉	3.8	5.0	1.5	0.13	ガラス
287	ST01	J7区 H15		玉	3.1	5.2	1.9	0.11	ガラス
288	ST01	J7区 H15		玉	6.5	5.3	1.5	0.22	ガラス
289	ST01	J7区 H15		玉	4.0	6.0	2.0	0.12	ガラス
290	ST01	J7区 H15		玉	4.0	6.5	2.0	0.23	ガラス
291	ST01	J7区 H15		玉	5.0	6.0	1.5	0.15	ガラス
292	ST01	J7区 H15		玉	4.0	6.0	1.5	0.22	ガラス
293	ST01	J7区 H15		玉	4.0	6.5	2.0	0.23	ガラス
294	ST01	J7区 H15		玉	(6.0)	-	(1.2)	0.05	ガラス
295	ST01	J7区 H15		玉	5.0	4.2	1.2	0.16	ガラス
296	ST01	J7区 H15		玉	4.0	5.5	1.8	0.20	ガラス
297	ST01	J7区 H15		玉	4.0	5.5	2.0	0.20	ガラス
298	ST01	J7区 H15		玉	7.0	7.0	2.0	0.27	ガラス
299	ST01	J7区 H15		玉	5.5	6.0	2.0	0.30	ガラス
300	ST01	J7区 H15		玉	4.0	4.5	1.5	0.15	ガラス

第2分冊

第7表 西末則遺跡V出土瓦観察表

報文番号	報告遺構名	地区名	層位	器種	調整		色調		胎土			法量 (cm)				残存率	備考
					凸面	凹面	その他	凸面	凹面	白色砂粒	黒色砂粒	灰色砂粒	全長 (残存長)	狭端幅 (残存幅)	狭端幅 (残存幅)		
16	SEj08	J1区		丸瓦	板ナデ後ナデア	布目圧痕 (糸目10本/cm程度)	端面：ヘラ切り	5Y7/1 灰白	5Y7/1 灰白	細・少	細・少		(23.1)	(10.2)	(10.2)	1.7	破片
149	SP1466	J4区		軒平瓦	—	—	—	N5/ 灰	N5/ 灰	中・多			(2.4)	(5.1)	(5.1)	5.2	破片
189	SP1842	J4区		軒平瓦	板ナデタタキ目	布目	—	2.5Y8/2 灰白	5Y8/1 灰白	中・並			(5.3)	(6.4)	(6.4)	4.2	破片
317	SEj02	J2区	下層	平瓦	太さ4mm程度の繩による繩巻原体によるタタキ目	布目	—	7.5Y7/1 灰白	7.5Y7/1 灰白	細・少			(8.1)	(9.6)	(9.6)	1.5	破片
324	SDj10A	J3区		平瓦	繩巻原体によるタタキ目	布目圧痕	端面：ヘラ切り	N6/ 灰	N4/ 灰	中・少			(7.2)	(7.7)	(7.7)	2	破片
473	SDj74	J4区	上層	平瓦	太さ5mm程度の繩巻原体によるタタキ目	12本/cmの糸目	端面及び側面：板ナデ	N7/ 灰白	N6/ 灰	中・少			(8.9)	(9.8)	(9.8)	2.1	破片
474	SDj74	J4区	上層	平瓦	太さ5mm程度の繩巻原体によるタタキ目	10本/cmの糸目	側面：ヘラ切り 後板ナデ、凹面との境：ヘラ削り	10Y6/1 灰	10Y6/1 灰	中・少			(7.3)	(9.4)	(9.4)	3.1	破片
475	SDj74	J4区	上層	平瓦	太さ5mm程度の繩巻原体によるタタキ目	10本/cmの糸目 側面との境 界：ヘラ削り	側面：ヘラ切り	N7/ 灰白	10Y7/1 灰白	中・少			(6.2)	(8.2)	(8.2)	2.6	破片
495	SDj76	J4区	上層	軒平瓦	繩巻原体によるタタキ目	布目	瓦当：施文不明 (唐草か?)	N5/ 灰	N6/ 灰	中・少			(4.9)	(9.4)	(9.4)	3.3	破片
496	SDj76	J4区	上層	軒平瓦	—	布目	瓦当：巴文	N7/ 灰白	—	細・無			(3.3)	(4.8)	(4.8)	3.2	破片
497	SDj76	J4区	上層	平瓦	繩巻原体によるタタキ目	布目 (6本/cm)	—	N4/ 灰	N4/ 灰	中・少			(11.9)	(6.4)	(6.4)	1.9	破片
520	SDj81	J4区	上層	平瓦	繩巻原体によるタタキ目 全体マメツ進行	布目圧痕 全体マメツ進行	端部：ヘラ切り 全体 後未調整 マメツ進行	2.5Y7/3 浅黄	2.5Y7/2 灰黄	中・少			(8.9)	(7.1)	(7.1)	3.1	破片
535	SDj81	J4区	下層	平瓦	繩巻原体によるタタキ目	布目圧痕	端部：ヘラ切り	N7/ 灰白	N7/ 灰白	細・少			(11.2)	(6.2)	(6.2)	2.7	破片
550	SDj87	J4区		軒平瓦	タタキ目	布目	—	7.5Y6/1 灰	7.5Y6/1 灰	細・少			(5.4)	(7.2)	(7.2)	3.7	破片
578	SDj89	J4区		丸瓦	板ナデ	布目圧痕	端面：ヘラ切り	N3/ 暗灰	N3/ 暗灰	細・少			(10.9)	(6.6)	(6.6)	1.3	破片
579	SDj89	J4区		平瓦	繩巻原体によるタタキ目	布目圧痕	側端：ヘラ切り	N6/ 灰	7.5Y6/1 灰	中・多			(15.4)	(11.6)	(11.6)	2.6	破片
653	包含層	J4区	上層	軒平瓦	—	布目、ヘラ削り	—	N6/ 灰	—	細・少			(4.5)	(6.8)	(6.8)	—	破片



J2区全景 南から



J3区・J7区全景 南から



J3区・J7区全景 西から



J3区・J7区全景 西から



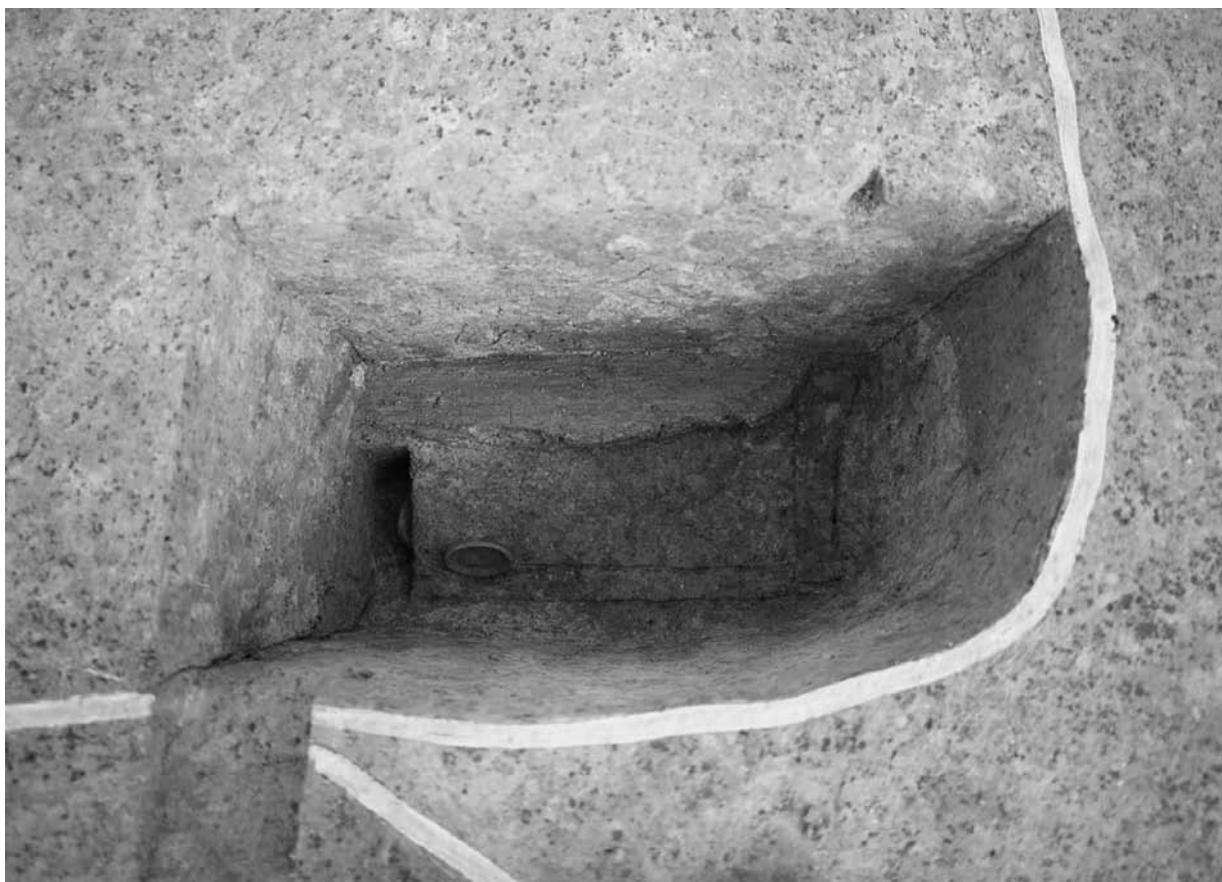
J4区全景 南から



J7区 STj01 南東部土層 東から



J7区 STj01 南東部北壁土層 南から



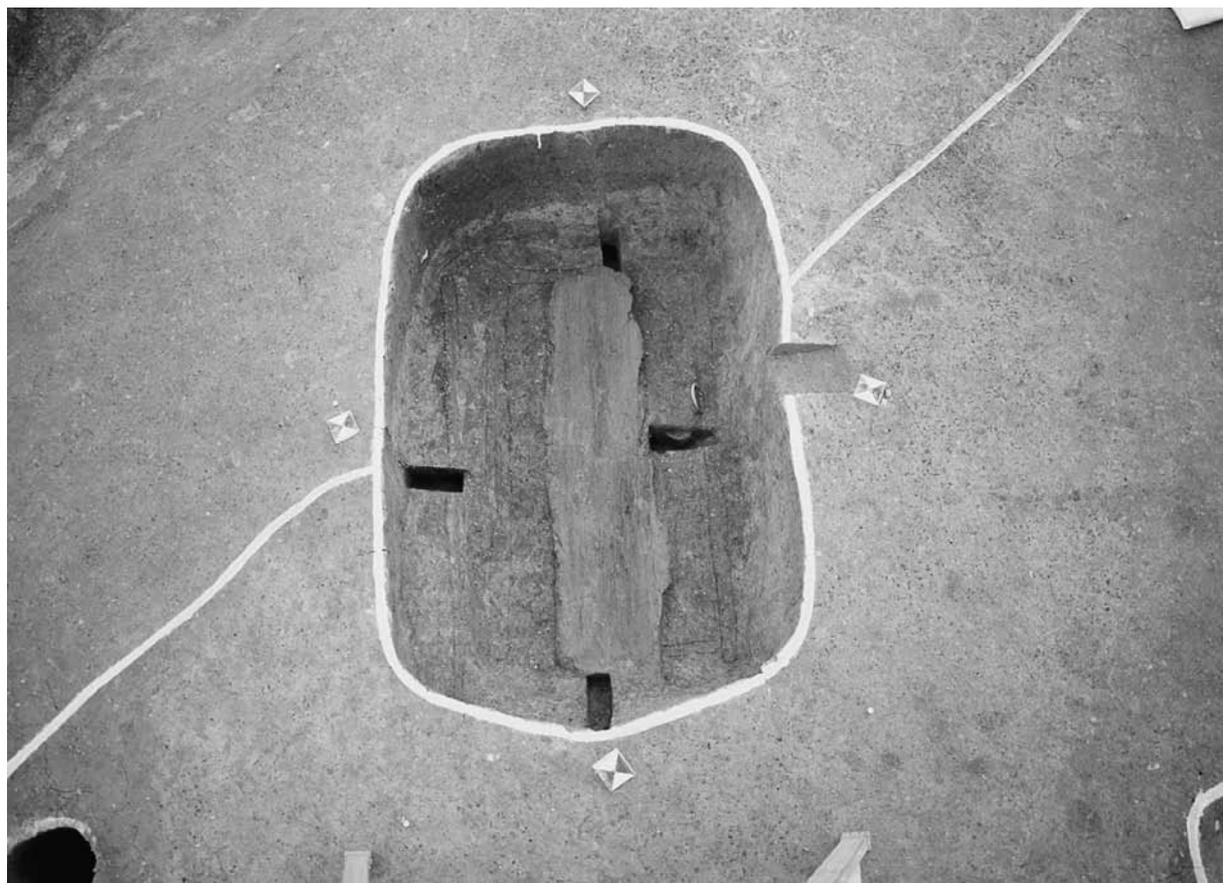
J7区 STj01 南東部北壁土層 南から



J7区 STj01 北西部東壁土層 西から



J7区 STj01 北西部南壁土層 北から



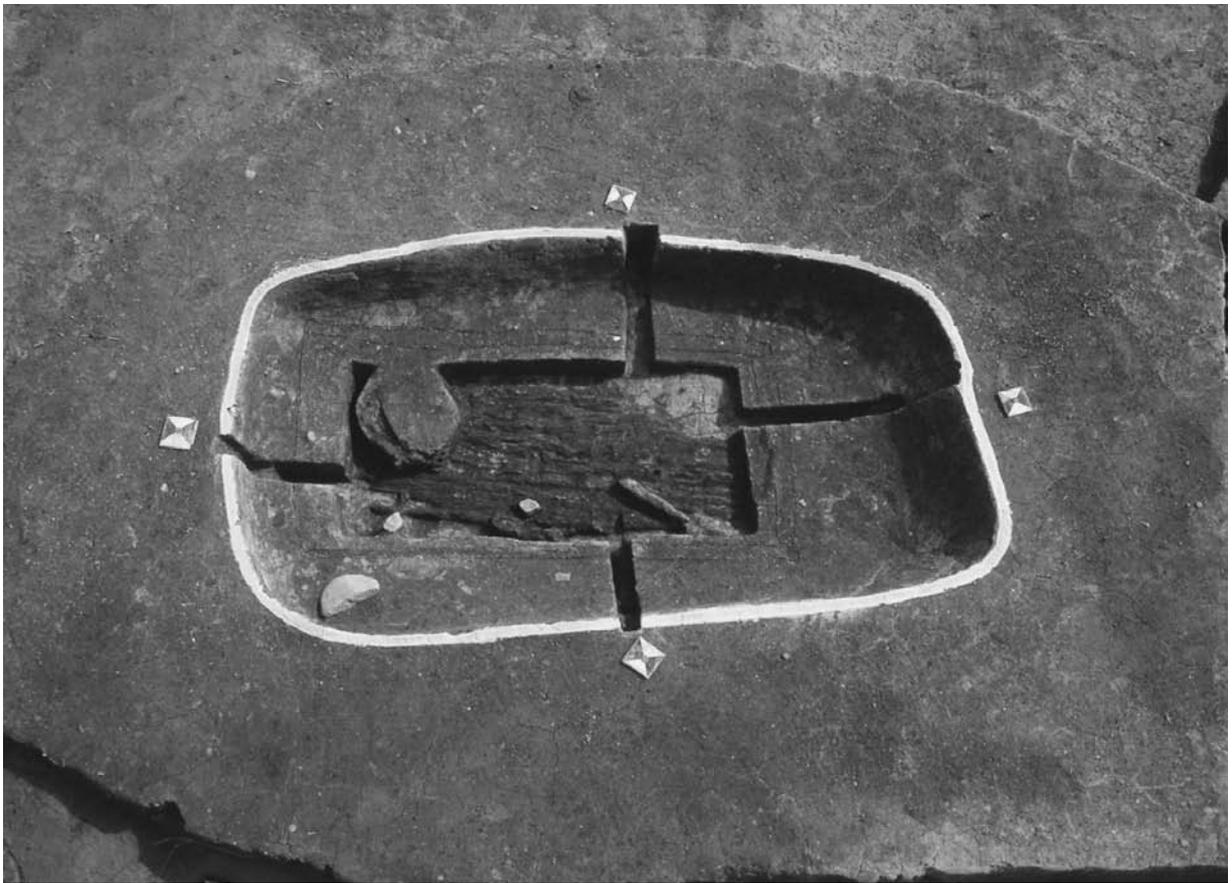
J7区 STj01 木棺検出状況 西から



J7区 STj01 人骨出土状況 南から



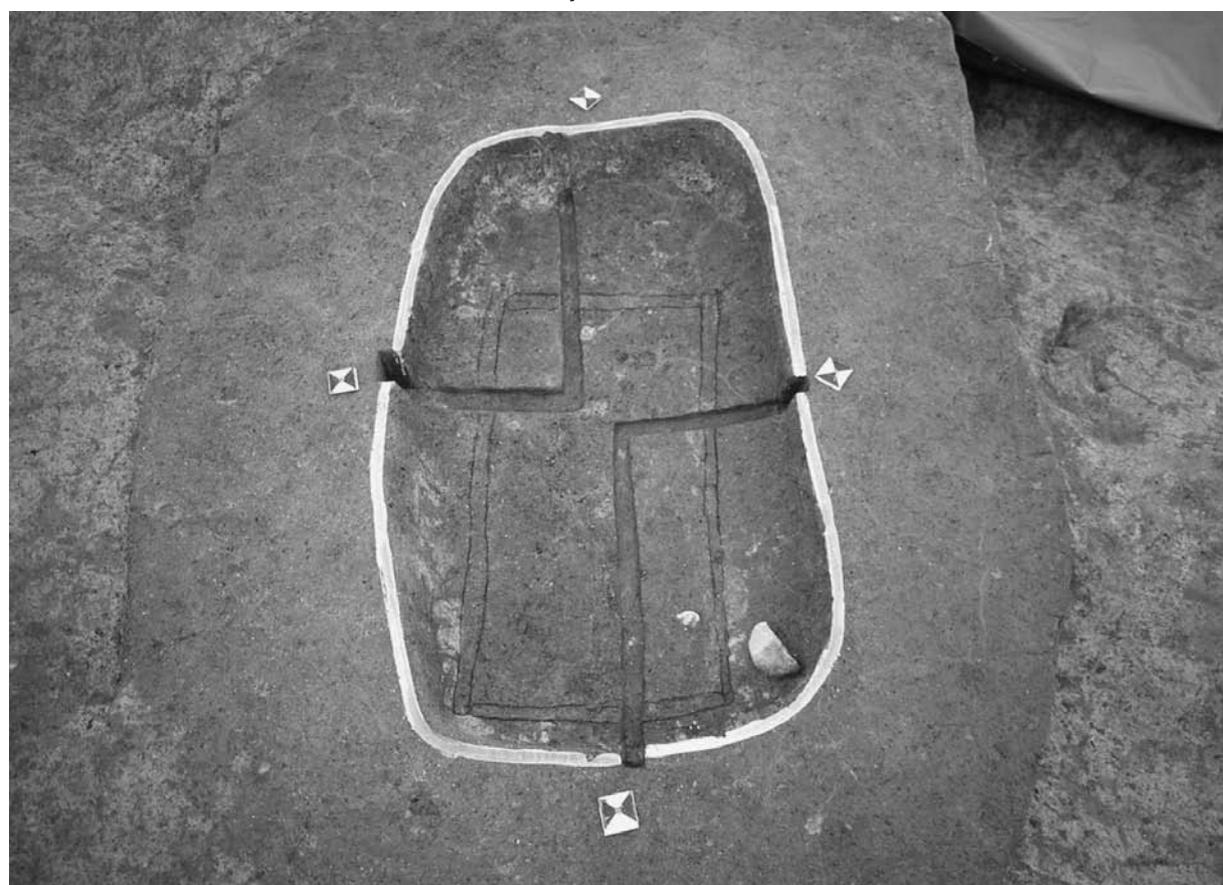
J7区 STj01 棺内完掘状況 南から



J7区 STj02 全景 西から



J7区 STj02 全景 東から



J7区 STj02 木棺検出状況 北から



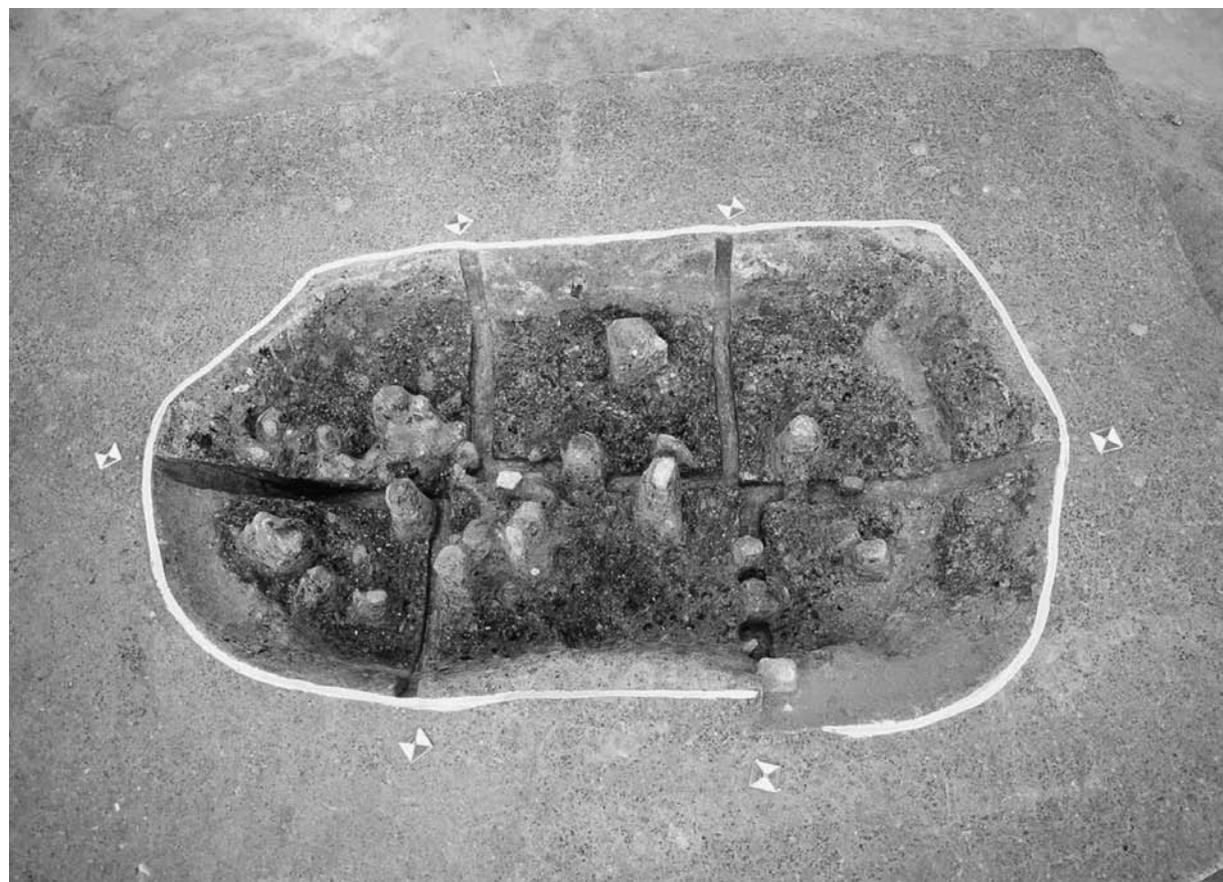
J7区 STj02 棺内完掘状況 北から



J2区 STj03 副葬品出土状況全景 西から



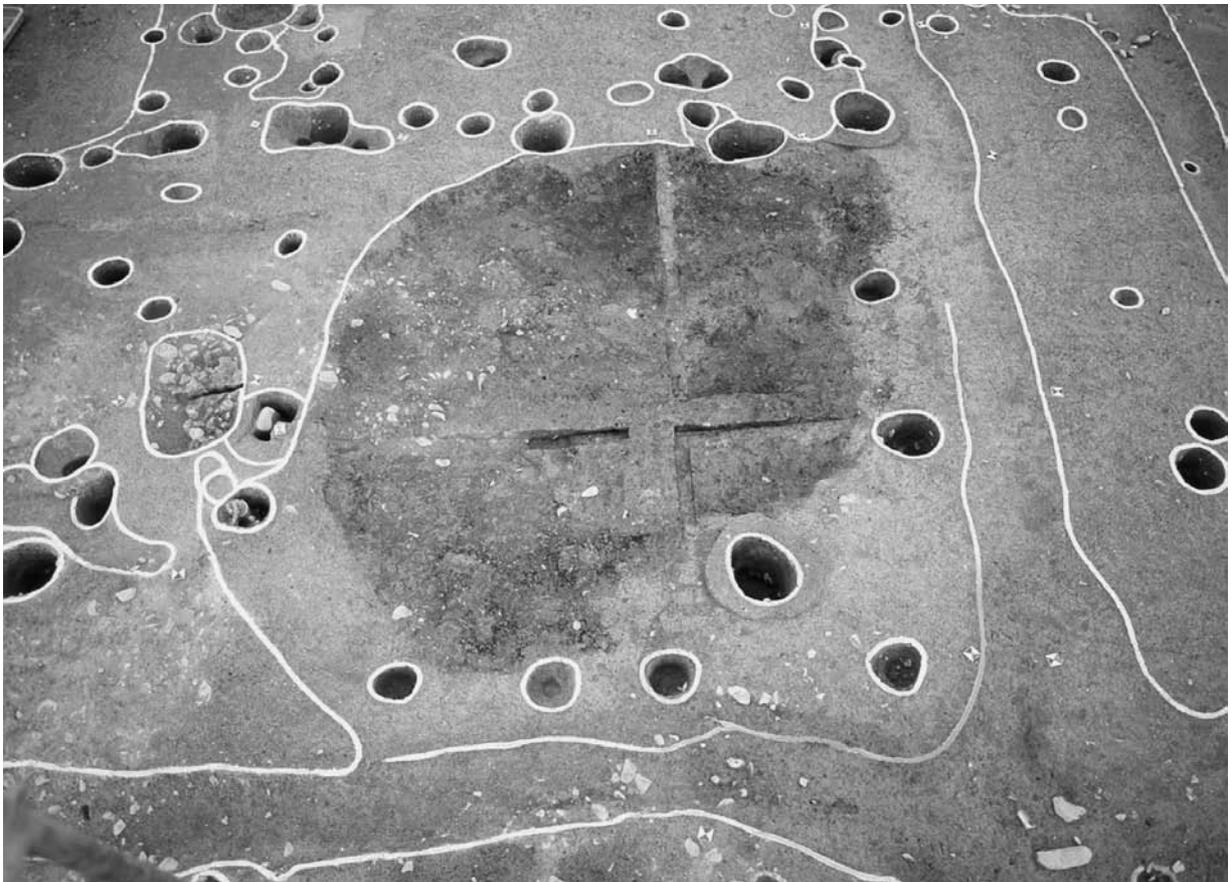
J7区 SFj04A ブロック西壁土層 東から



J7区 SFj04 中層遺物出土状況 南から



J7区 SFj04 下層炭層検出状況 南から



J3区 SXj24 下層(炭層) 上面全景 南から













236



236



237



237



252



252



254



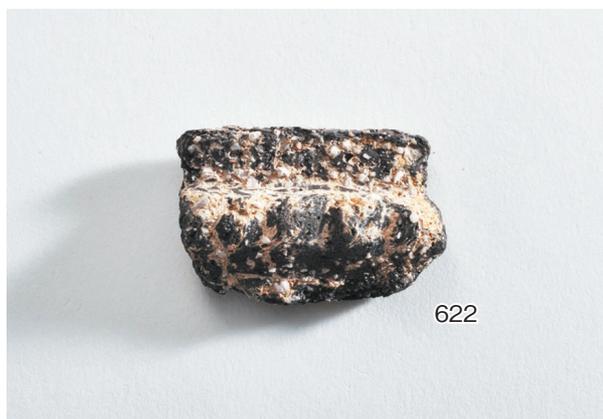
257

















調査区東壁土層 SRr02 部分 西から



調査区東壁北半土層 北西から



SDr04 A-A' 断面 東から



SDr04 B-B' 断面 東から



SKr01 断面 北西から



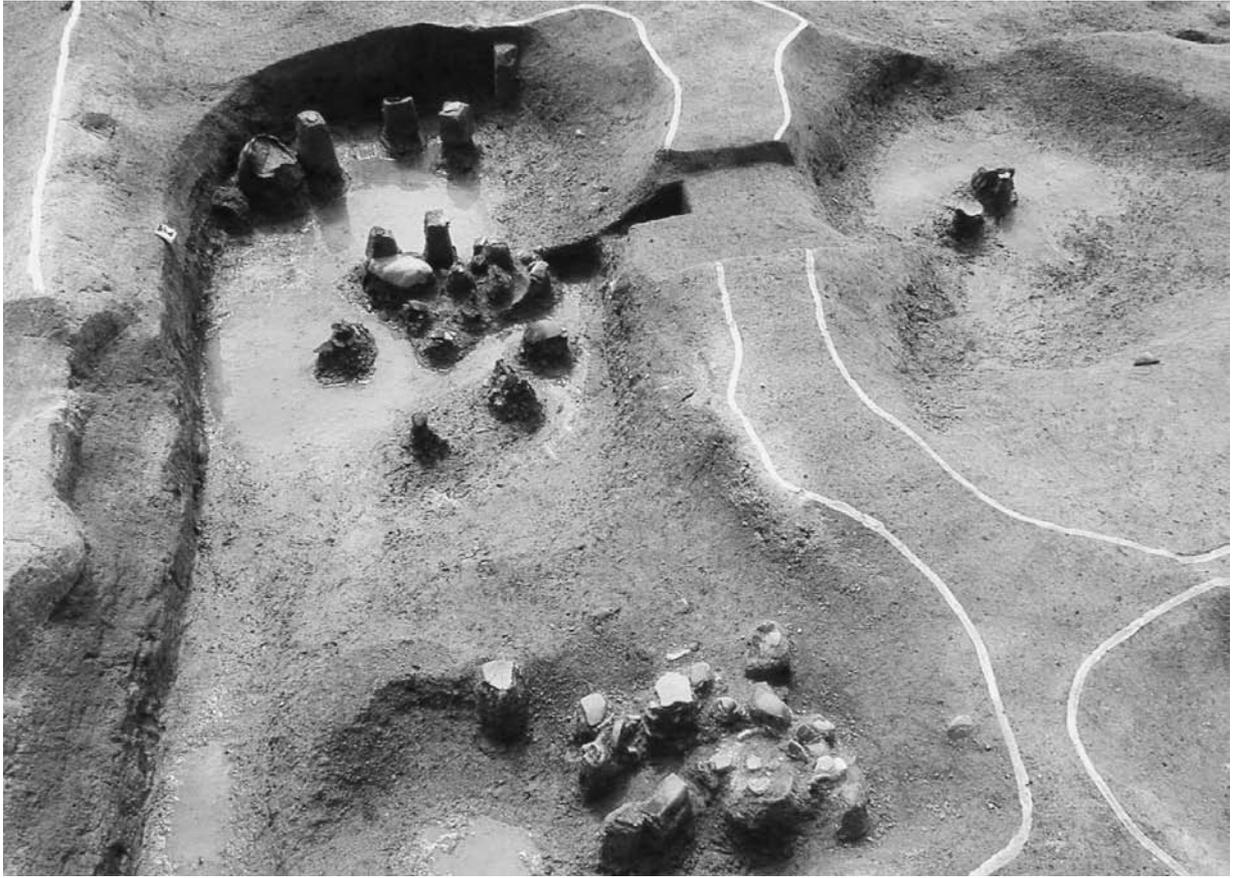
SKr01 断面 東から



調査区西壁土層 SRr03 部分 東から



SXr05 遺物出土状況 西から



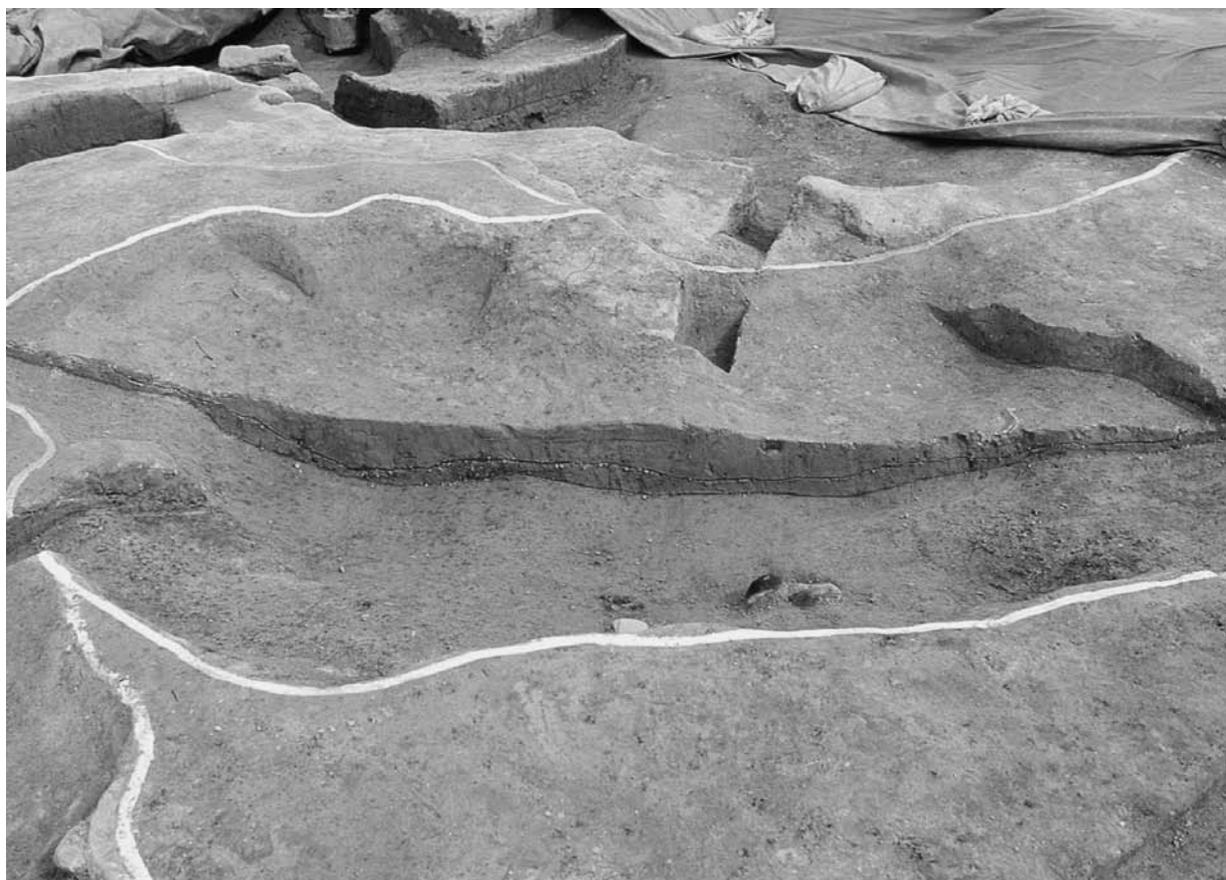
SXr05 遺物出土状況 南から



SXr06 遺物出土状況 南から



SXr07 断面 西から



SXr08 断面 南から



SXr10 東西断面 南から



SXr02 B断面 東から



SXr13 断面 東から



SKr05 断面 東から



SXr22 断面 東から



SDr02 C 断面 南西から



SDr02 D 断面 北東から



34U・34T・33U グリッド全景 南西から



調査区南部全景 北西から



調査区南部全景 南東から



調査区北部全景 南東から



調査区南部全景 北東から



調査区西壁土層 SDr01 部分 東から







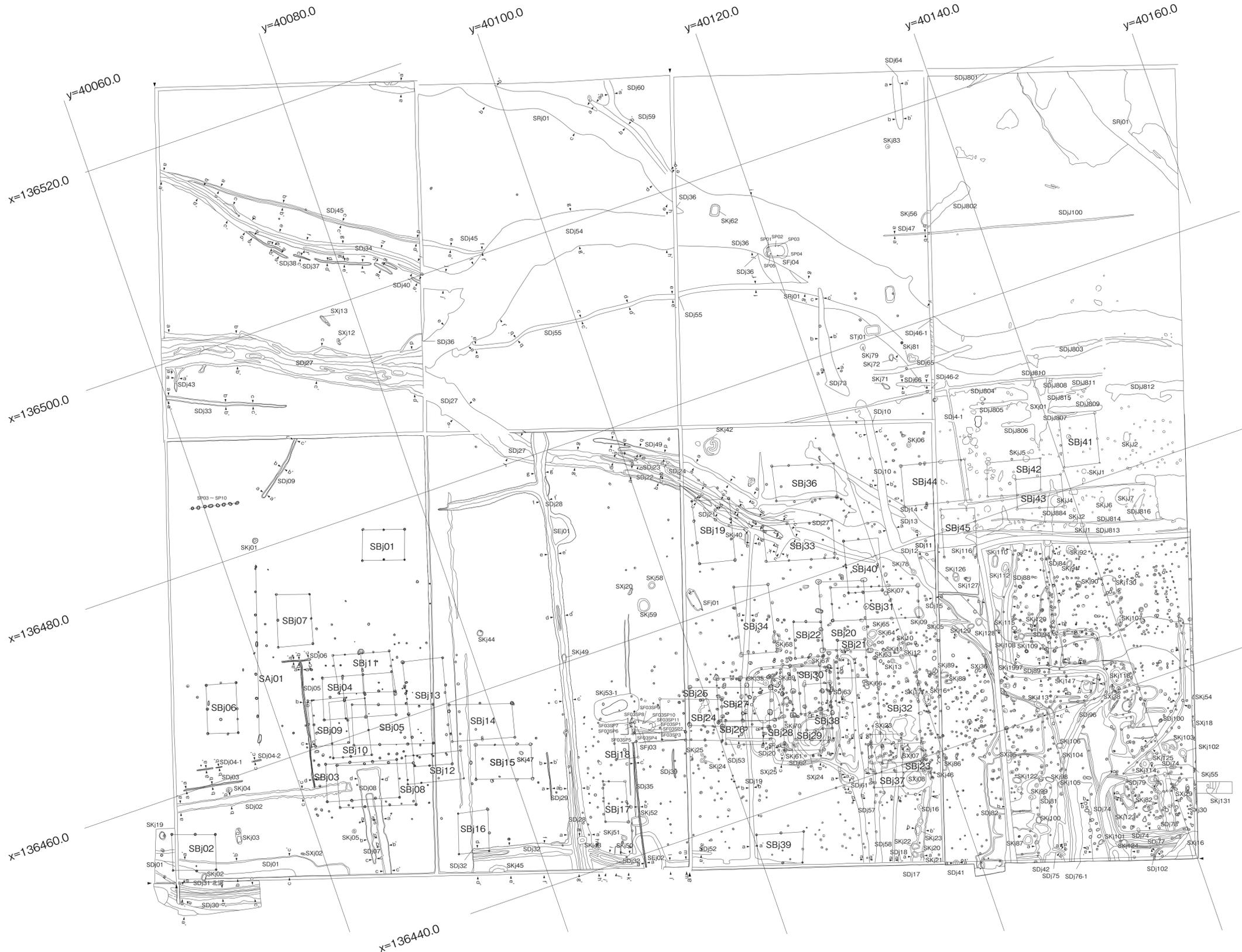
報告書抄録

ふりがな	にしすえのりいせきⅤ だい2ぶんさつ							
書名	西末則遺跡Ⅴ 第2分冊							
副書名	香川県農業試験場移転事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告							
巻次	第5冊							
シリーズ名								
シリーズ番号								
編著者名	森格也（編） 小野秀幸 西村尋文 木下晴一 柏徹哉							
編集機関	香川県埋蔵文化財センター							
所在地	〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001-4 Tel 0877-48-2191 Fax 0877-48-3249							
発行機関名	香川県教育委員会							
発行年月日	西暦2015年3月20日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 。 ”	東経 。 ”	発掘期間	発掘面積 (㎡)	調査原因
にしすえのりいせき 西末則遺跡	かがわけんあやうたくんあやがわちよう 香川県綾歌郡綾川町 きた・やまだしも 北・山田下	市町	遺跡 番号	34° 13' 35"	133° 56' 15"	2002040 ～ 20030331	11,186	香川県農 業試験場 移転
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
西末則遺跡	集落跡	縄文時代 弥生時代 古代時代 古代～中世	溝・自然河川 溝 溝 掘立柱建物・柱穴・ 土坑・木棺墓	土器・石器 土器・石器 須恵器・土師器・石製品 須恵器・土師器・石製巡 方・鉄刀・ガラス小玉				
要約	<p>縄文時代晩期の溝と自然河川を検出し、当該期の土器・石器が出土した。弥生時代では灌漑水路群を検出し、当時の低地部分の開発状況が窺えるものとなった。中世では多数の掘立柱建物跡とそれにより構成される複数の屋敷地や大規模灌漑用水路の検出など、中世集落の景観を復元できる良好な資料となった。併せて中世の木棺墓の検出は当時の葬制を考えるうえで重要な資料となる。</p>							

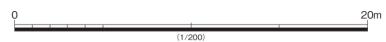
香川県農業試験場移転事業に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告
第5冊
西末則遺跡Ⅴ
第2分冊

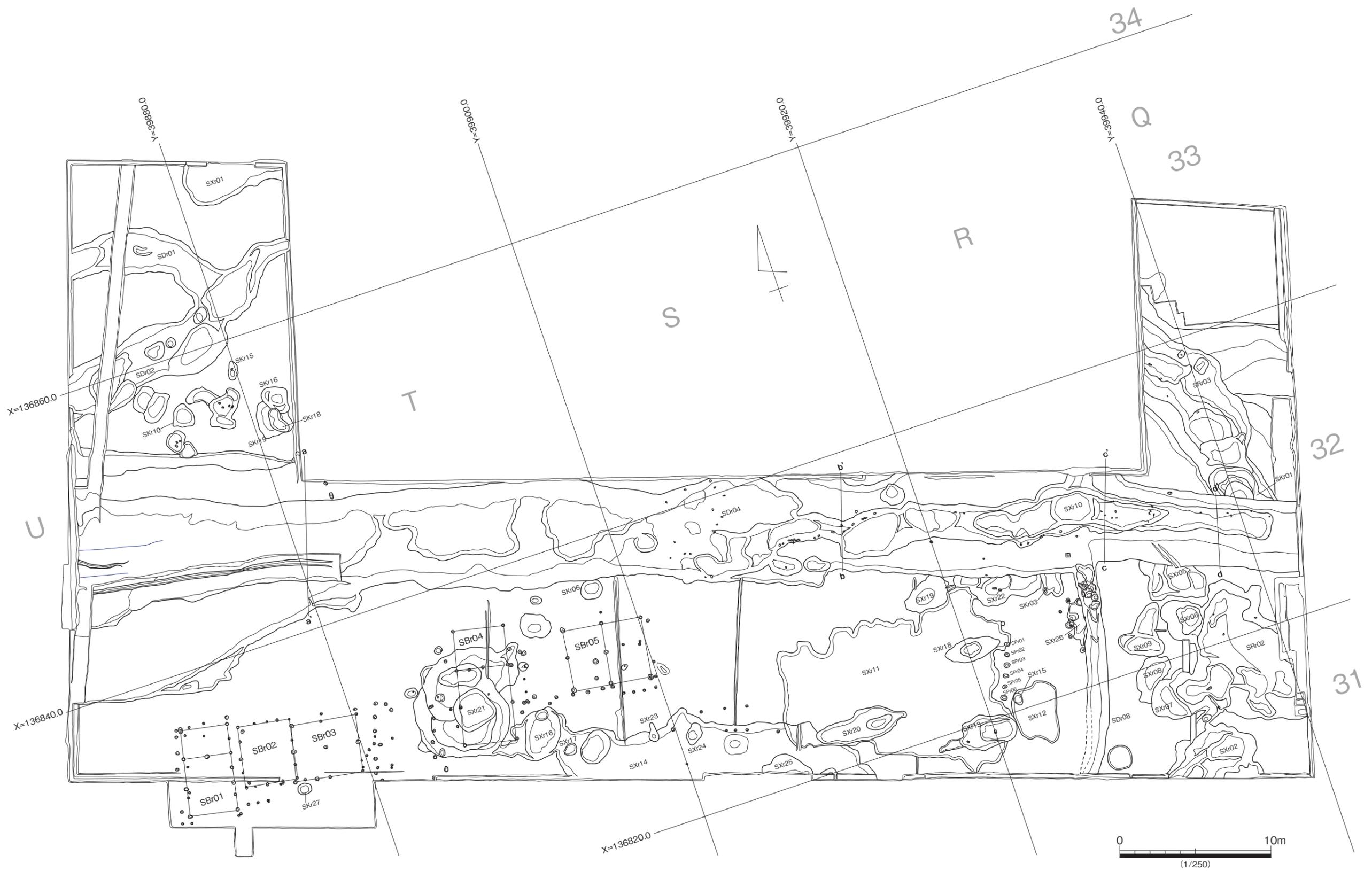
2015年3月20日

編集 香川県埋蔵文化財センター
〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷 5001-4
Tel 0877-48-2192 Fax 0877-48-3249
発行 香川県教育委員会
印刷 株式会社 中央印刷所



第2分冊 付図1 西末則遺跡V遺構配置図





第2分冊 付図2 西末則遺跡V遺構配置図 (R32区)